(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告書第78集

居徳遺跡群Ⅳ

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003．3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

居 徳 遺 跡 群 Ⅳ

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003．3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2A区・3A区・3B区完掘状態 (北東より)

同　　上　（南西より）

巻頭図版２

２Ａ区・３Ａ区・３B区完掘状態 (南より)

２Ａ区完掘状態 (北より)

２Ａ区・３B区完掘状態（北西より）

３Ｂ区完掘状態（南より）

巻頭図版４

３B区完掘状態（南西より）

同　　上　（東より）

４Ａ区・４B区・４C区東半完掘状態（東より）

同　　上　（北西より）

巻頭図版６

４C区西半・４D区完掘状態（北より）

同　　上　（北西より）

木胎漆器

木胎漆器

鍬

鍬

縄文晩期土器

縄文晩期土器

巻頭図版10

縄文晩期土器

縄文晩期土器

縄文晩期土器

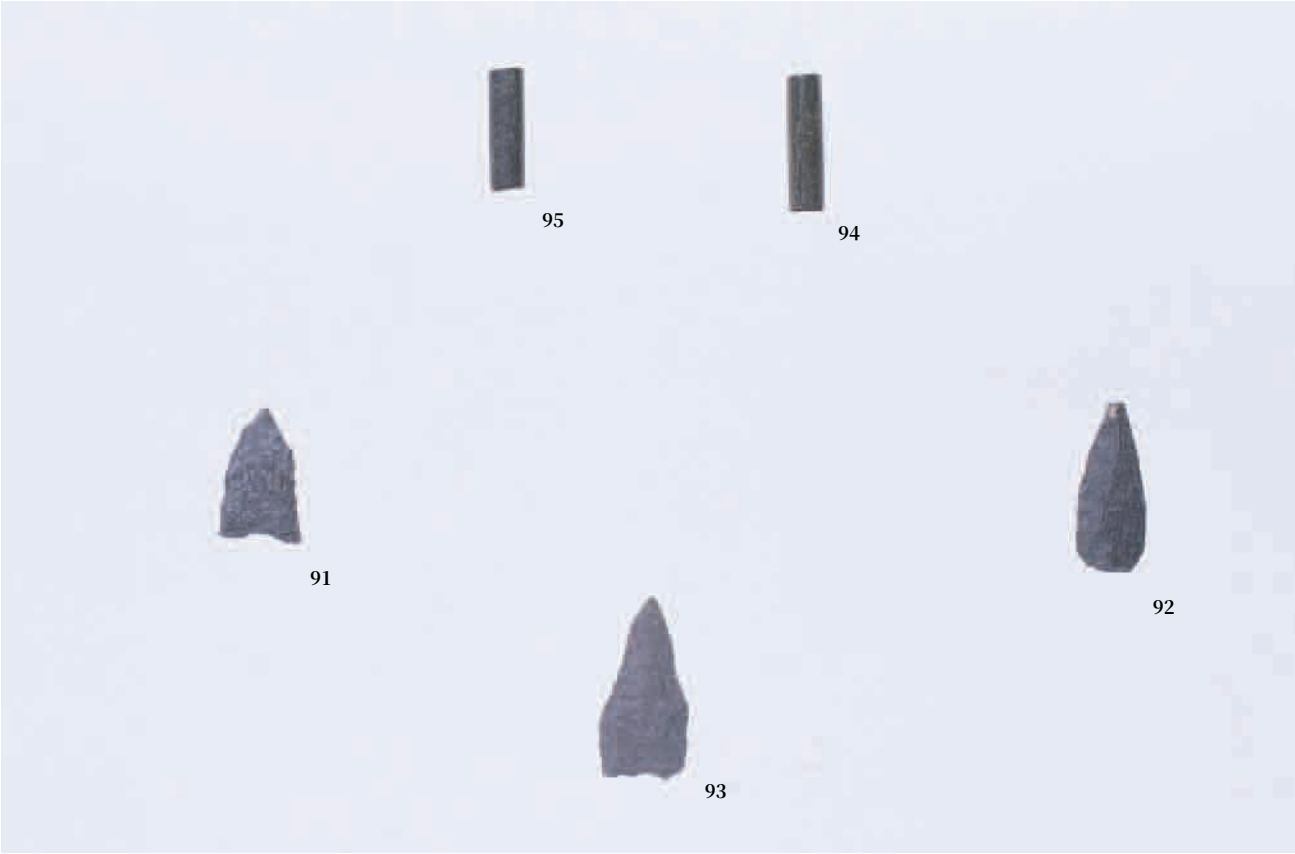
縄文晩期土器

巻頭図版12

縄文晩期土器

縄文晩期土器

2A区出土遺物（木器・木製品）



2A区出土遺物（石器・石製品）

同　　上

例　　言

1．本書は四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う，居徳遺跡群の発掘調査報告書第４集である。本書には確認調査⑵，確認調査⑶，１Ｅ区，２Ａ区，３Ｂ区，４Ｃ区の調査成果，ならびに関連の付編を所収する。

2．居徳遺跡群の所在地は，高知県土佐市高岡町乙居徳ほかである。

3．調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

	（調査期間）	（発掘調査面積）
確認調査⑵	平成８年６月５日～平成８年８月６日	６５０㎡
確認調査⑶	平成８年11月14日～平成８年12月12日	４６４㎡
１Ｅ区	平成９年11月14日～平成10年３月31日	１，２０３㎡
２Ａ区	平成10年９月18日～平成11年３月31日	４，０７８㎡
３Ｂ区	平成10年10月29日～平成11年３月31日	２，１１２㎡
４Ｃ区	平成10年７月６日～平成10年12月28日	２，４１７㎡

4．発掘調査及び整理作業は，高知県教育委員会が日本道路公団四国支社と委託契約を締結し，財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査総括	古谷碩志	（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター	・所長）
同	津野州夫	（同　上	・次長兼総務課長）
同	西川　裕	（同　上	・調査課長）
同	山本哲也	（同　上	・調査第１班長）
同	出原恵三	（同　上	・調査第３班長）
調査事務	吉岡利一	（同　上	・総務課主幹）
同	大原裕幸	（同　上	・総務課主幹）
同	石川　馨	（同　上	・総務課主幹）
調査員	田坂京子	（同　上	・専門調査員）
同	大野佳代子	（同　上	・専門調査員）
同	佐竹　寛	（同　上	・専門調査員）
同	藤方正治	（同　上	・調査員）
同	曽我貴行	（同　上	・調査員）
同	下村　裕	（同　上	・調査員）
技術補助員	小倉　功		
測量補助員	土居寿美子		
同	中岡きよ		
同	岩原明美		

5．本書の執筆・編集は佐竹，藤方，下村，曽我が分担・協議しておこなった。執筆分担は，本

文目次に示すとおりである。

6．遺構等の名称については，ＴＰ（試掘坑），ＳＲ（自然流路），ＳＸ（性格不明遺構），Ｐ（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用した箇所がある。それぞれの番号は各調査区における通し番号である。

7．遺物実測図の縮尺は，土器が1/3，土製品・石器類が1/1～1/3，木製品が1/2～1/6である。実測図の番号は各調査区における通し番号であり，挿図及び写真図版中の番号は実測図の番号と一致している。

8．土層ならびに出土遺物の色調については，『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。

9．遺跡の測量は，国土座標第Ⅳ系に則っておこなった。挿図中の北は原則として座標北である。また挿図中のレベル高は海抜高を示す。

10. 巻末の報告書抄録における遺跡位置の北緯・東経は，世界標準座標で表記している。

11. 発掘調査に際しては，地元高岡町清滝・東灘・西灘地区をはじめ，地域にお住まいの方々の全面的な御理解と御協力，ならびに温かい御支援を賜り，調査を円滑に遂行することができた。記して衷心より謝意を表す。

12. 発掘調査及び報告書作成に際しては，多くの方々から貴重な御助言・御教示を賜った。御芳名を記して衷心より謝意を表す。（五十音順，敬称略）

今村峯雄　江坂輝彌　氏家敏之　大塚達朗　岡本桂典　岡本健児　工楽善通
小林青樹　坂本　稔　佐原　真　須藤　隆　高島芳弘　高橋　学　永嶋正春
春成秀爾　藤原宏志　光谷拓実　宮崎哲治　山口譲治　山田昌久

13. 発掘調査に際しては，土佐市都市計画課，高知県土木部高速道推進課の御協力を得た。また発掘調査及び報告書作成に際しては，国立歴史民俗博物館，奈良文化財研究所，高知県立歴史民俗資料館，高知県教育委員会，財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。

14. 発掘調査にかかる掘削作業は工事請負方式とし，大豊建設株式会社（平成９年度）・不動建設株式会社（平成10年度）と委託契約を締結して実施し，工事の施工管理は社団法人高知県建設技術公社に委託した。工事に従事してくださった多くの方々の御尽力により，調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表す。

15. 発掘調査に伴う測量基準点設置，航空写真撮影ならびに航空写真測量は，アジア航測株式会社に委託して実施した。

16. 木製品の保存処理及び樹種同定は，株式会社吉田生物研究所・株式会社東都文化財保存研究所に委託して実施した。

17. 木胎漆器，木製鍬の保存処理は，株式会社東都文化財保存研究所に委託して実施した。

18. 植物種子の分析と同定及び土器内容物の安定同位体分析は，株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

19. 整理作業に際しては，次の方々に御尽力いただいた。御芳名を記して衷心より謝意を表す。

矢野　雅　宮本幸子　中西純子　小松経子　岩貞泰代　楠瀬憲子　前田玲子

高橋千代　　久万公子　　川井由香　　内村富紀　　元吉ゆみ子　　岸ゆかり　　岡宗真紀
入野三千子　　橋田美紀　　土居江里子

20．遺跡の略号は下記のとおりとし，出土遺物の注記等にはこれを使用した。

確認調査⑵・・・「96－14ＩＴ」

確認調査⑶・・・「96－29ＩＴ」

１Ｅ区・・・・・「97－８ＩＴ　１Ｅ」

２Ａ区・・・・・「98－８ＩＴ　２Ａ」

３Ｂ区・・・・・「98－８ＩＴ　３Ｂ」

４Ｃ区・・・・・「98－８ＩＴ　４Ｃ」

21．出土遺物等は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター及び高知県立歴史民俗資料館で保管している。

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

居徳遺跡群　通巻目次

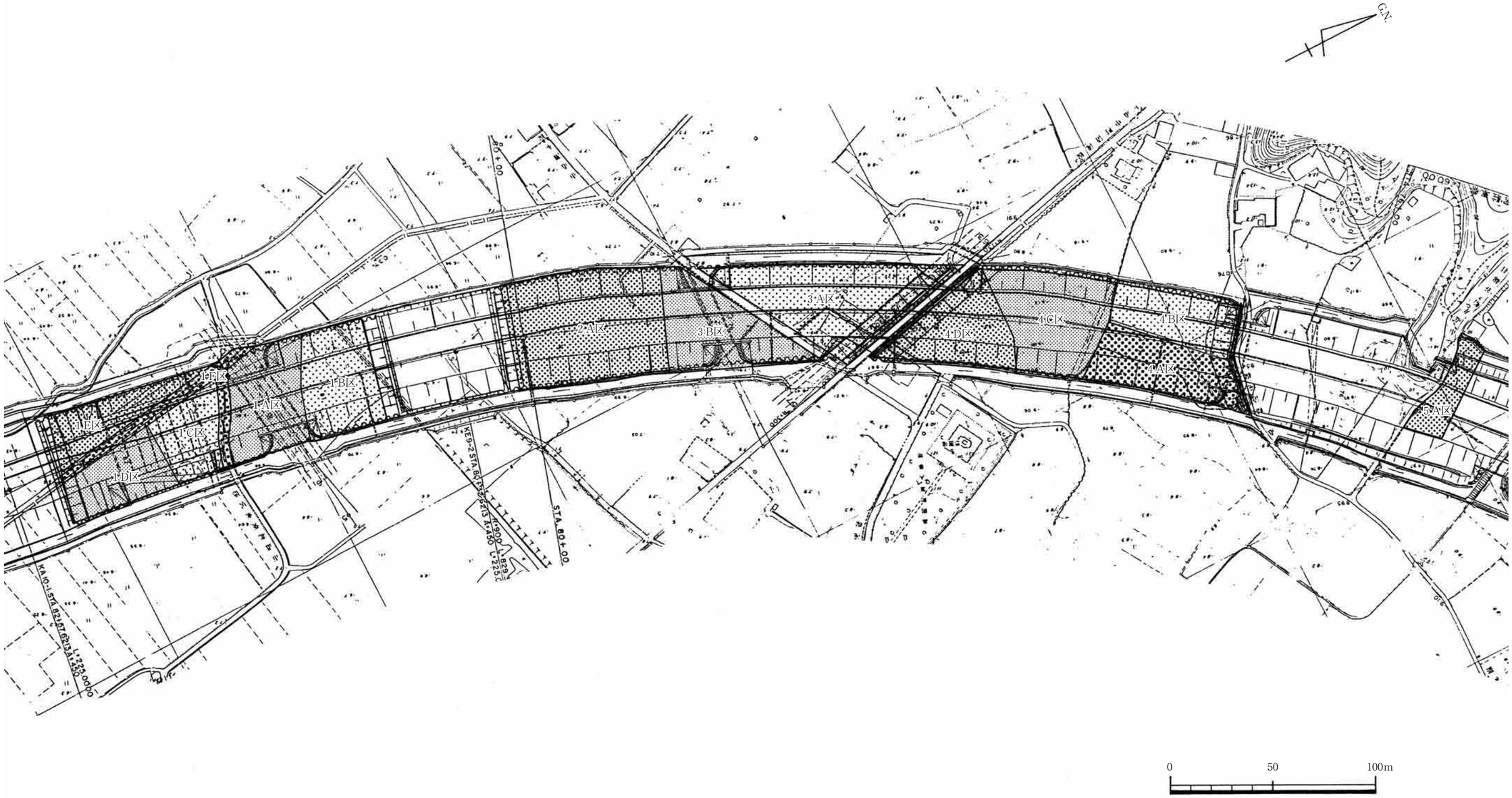


Fig.1　居徳遺跡群調査区配置図（S：1/2,000）

第Ⅰ章　調査の成果

⑴　確認調査⑵

本編は確認調査の成果⑵とし，２～４区関連の成果（ＴＰ－17～ＴＰ－26）について報告する。[1]本節は，『居徳遺跡群Ⅲ』における「第Ⅰ章（１）確認調査⑴」[2]の続編である。

１．調査の概要

四国横断自動車道建設工事に伴い，土佐市居徳地区の工事予定地に存在する遺跡について事前に埋蔵文化財の発掘調査を実施し，遺跡の範囲・内容等の確認をおこなうことを目的として，本次調査を実施した。調査期間は平成８年６月５日～８月６日，調査面積は650㎡である。

２．調査の方法

５×５ｍの試掘坑（テストピット＝ＴＰ）を26箇所設定し，重機（バックホー）及び人力により掘り下げ，遺構・遺物の検出作業をおこなった。検出遺構・遺物出土状況・土層堆積状況等は測量・写真撮影によって記録した。

３．調査の成果

⑴各調査区の概要

ＴＰ-17（Fig. ３）

現地表下3.0ｍまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

ＴＰ-18（Fig. ３）

現地表下2.7ｍまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

ＴＰ-19（Fig. ３）

現地表下2.9ｍまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

ＴＰ-20

暗渠埋設部分であったため，調査不能となり中止した。

ＴＰ-21（Fig. ３）

現地表下3.3ｍまで調査を実施した。

古墳時代の遺物包含層（第Ⅳ層）を確認した。第Ⅳ層からは土師器等が出土しており，土師器１点（Fig.12－１）を図示した。

ＴＰ-22（Fig. ４）

現地表下3.0ｍまで調査を実施した。

古墳時代の遺物包含層（第Ⅷ層・第Ⅸ層）を確認し，土師器・植物遺存体等が出土した。

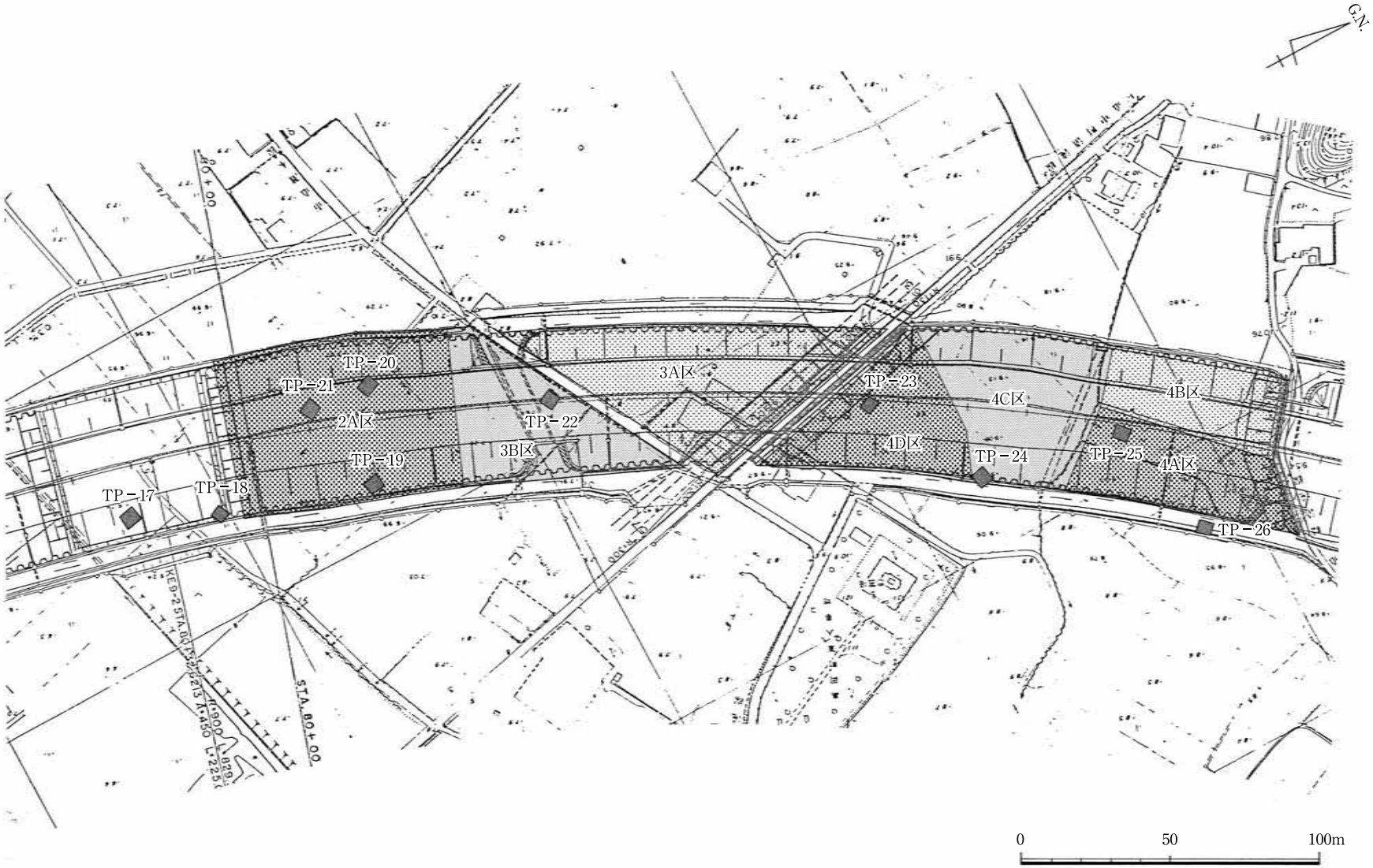


Fig.60　2A区東壁セクション図(S:1/40)

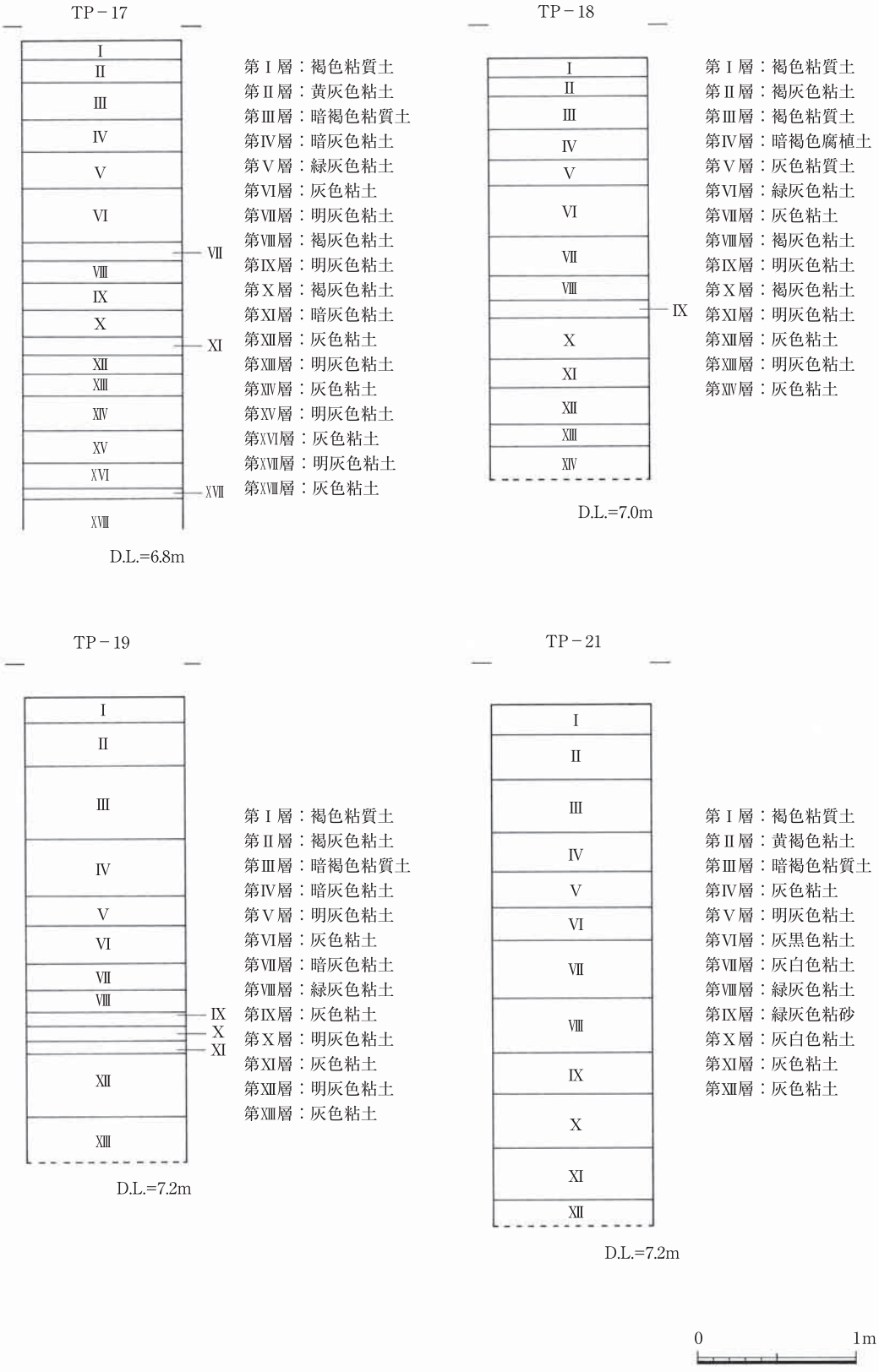


Fig.3　TP-17～TP-19・TP-21堆積土層断面柱状模式図（S：1/40）

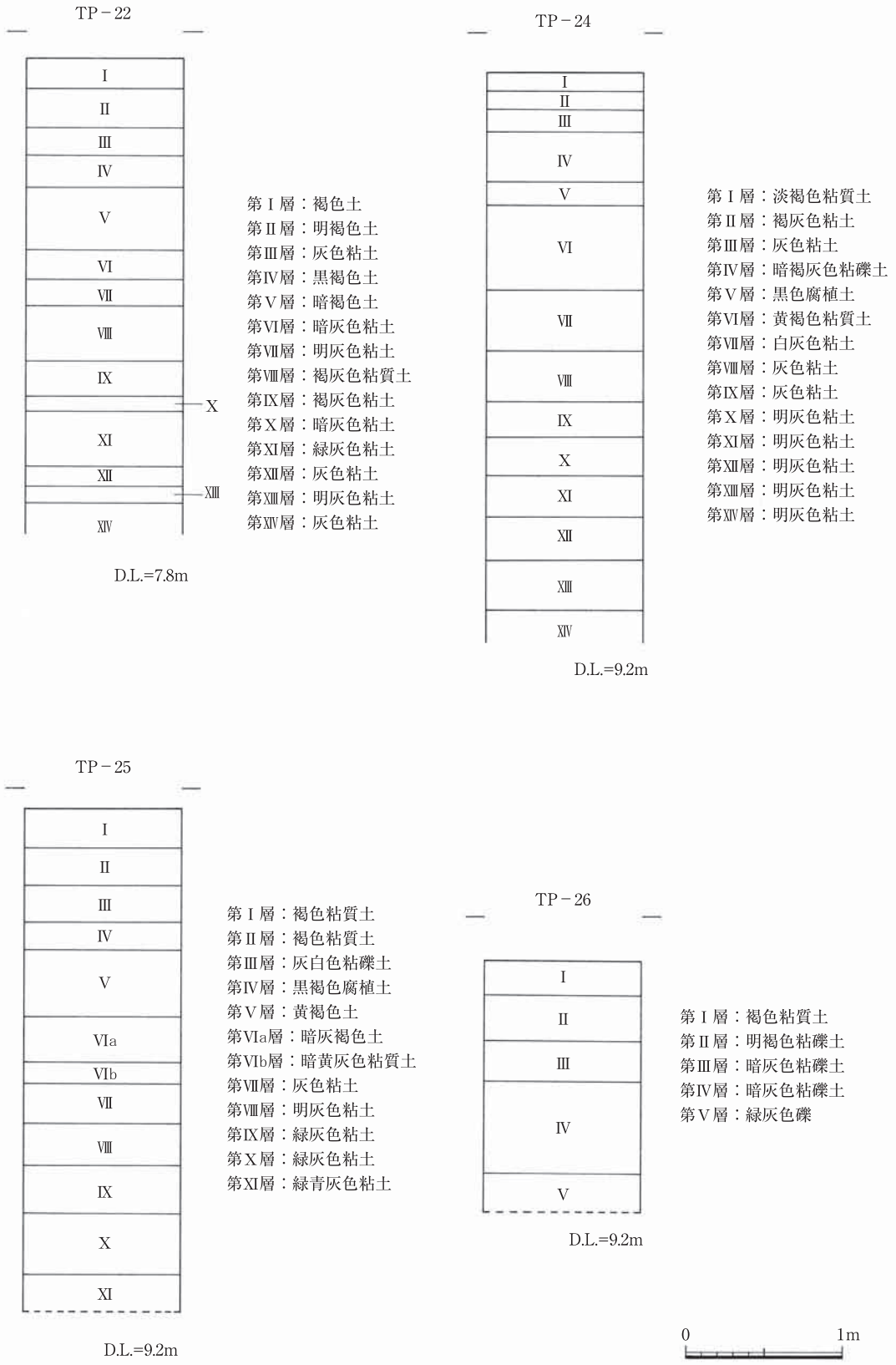


Fig.4　TP-22・TP-24～TP-26堆積土層断面柱状模式図（S：1/40）

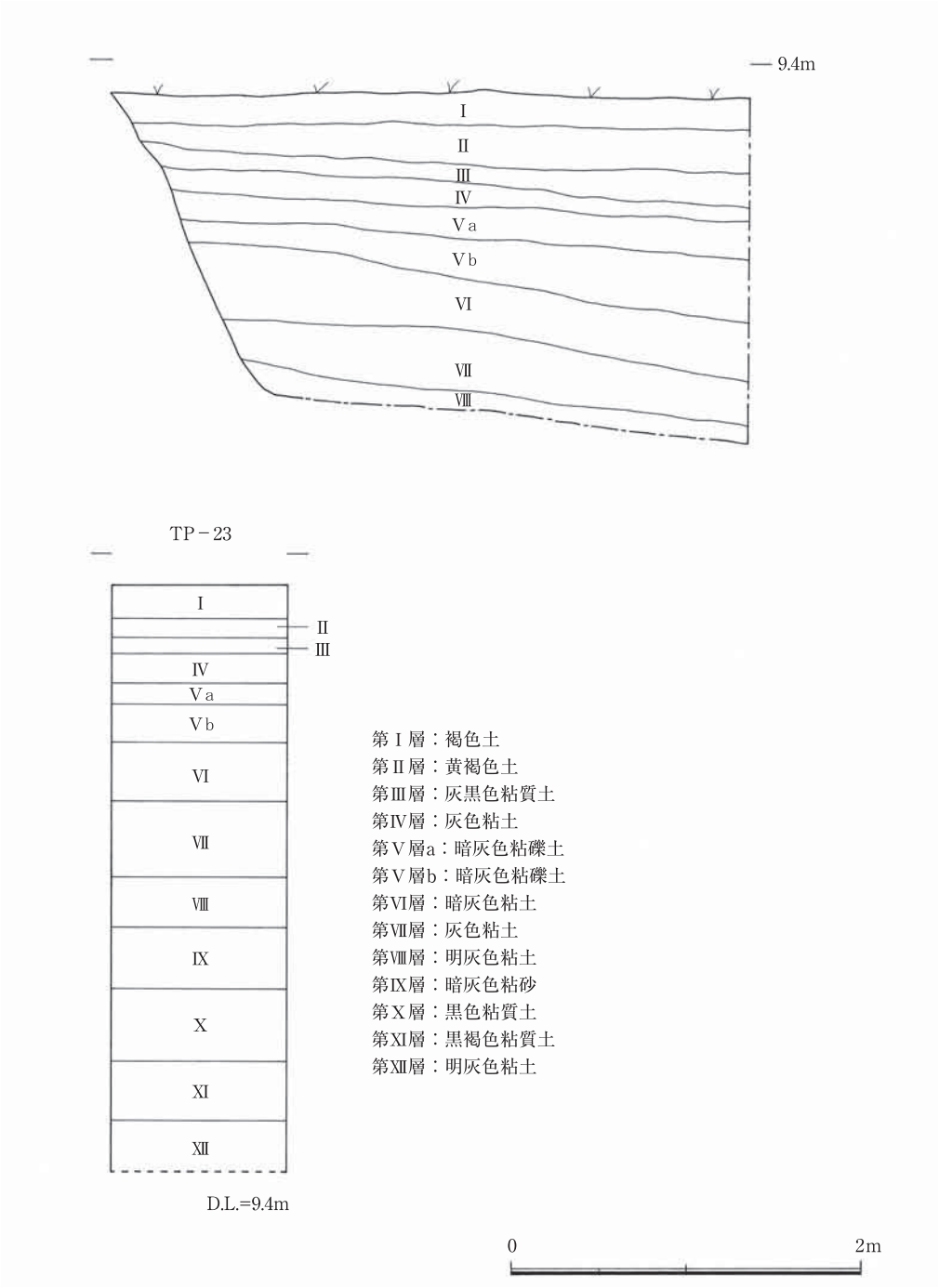


Fig.5　TP-23北壁堆積土層断面図・同堆積土層断面柱状模式図（S：1/40）

ＴＰ-23（Fig. ５～７）

現地表下3.4mまで調査を実施した。調査地点は西から東へと下る斜面地形に位置しており，第Ⅴ層以下の堆積においては，その傾斜が明瞭にあらわれている。

古墳時代の祭祀遺構とみられる遺物集中出土地点１（第Ⅴ層・第Ⅵ層中：２面），及び縄文時代後期～古墳時代中期の層厚2.9mにわたる遺物包含層（第Ⅱ層～第Ⅺ層）を確認した。遺物の遺存状態は各層とも良好である。

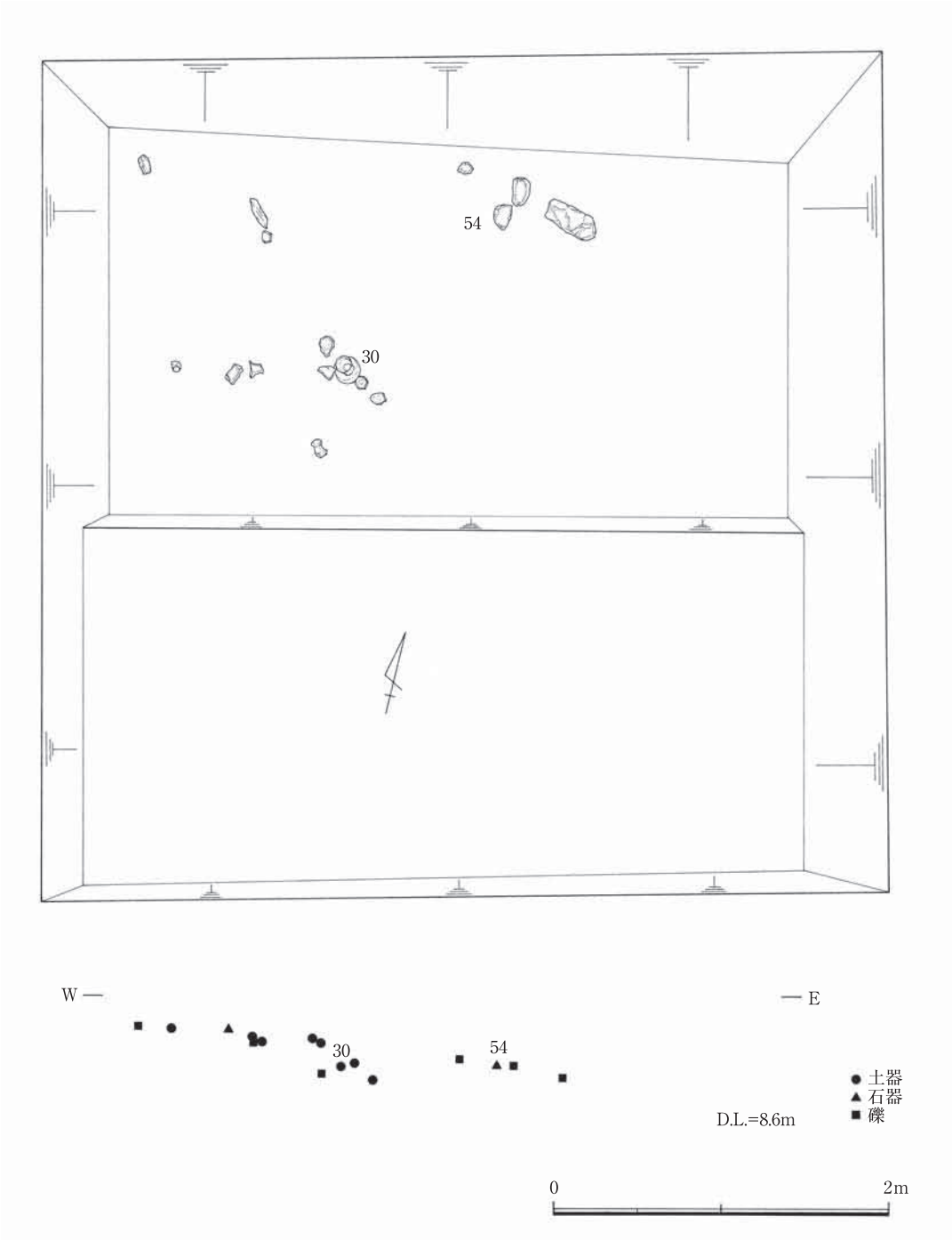


Fig.6　TP-23第Ⅴ層遺物出土状態平面図・鉛直分布図（S：1/40）

第Ⅱ層・第Ⅲ層は客土とみられるが，土器細片等を多く含んでおり，付近の遺物包含層に由来する反転層と考えられる。

第Ⅴ層・第Ⅵ層においては，完形の土師器壷１点を含む多くの遺物が認められた。土器の破損状況や集中度から，何らかの祭祀行為に伴って当地に残されたものと考えられる。

第Ⅺ層は炭化物を多く含む泥炭層状の土壌で，縄文時代後期・晩期の土器や獣骨・獣歯牙等が多量に，かつきわめて良好な状態で包蔵されている。

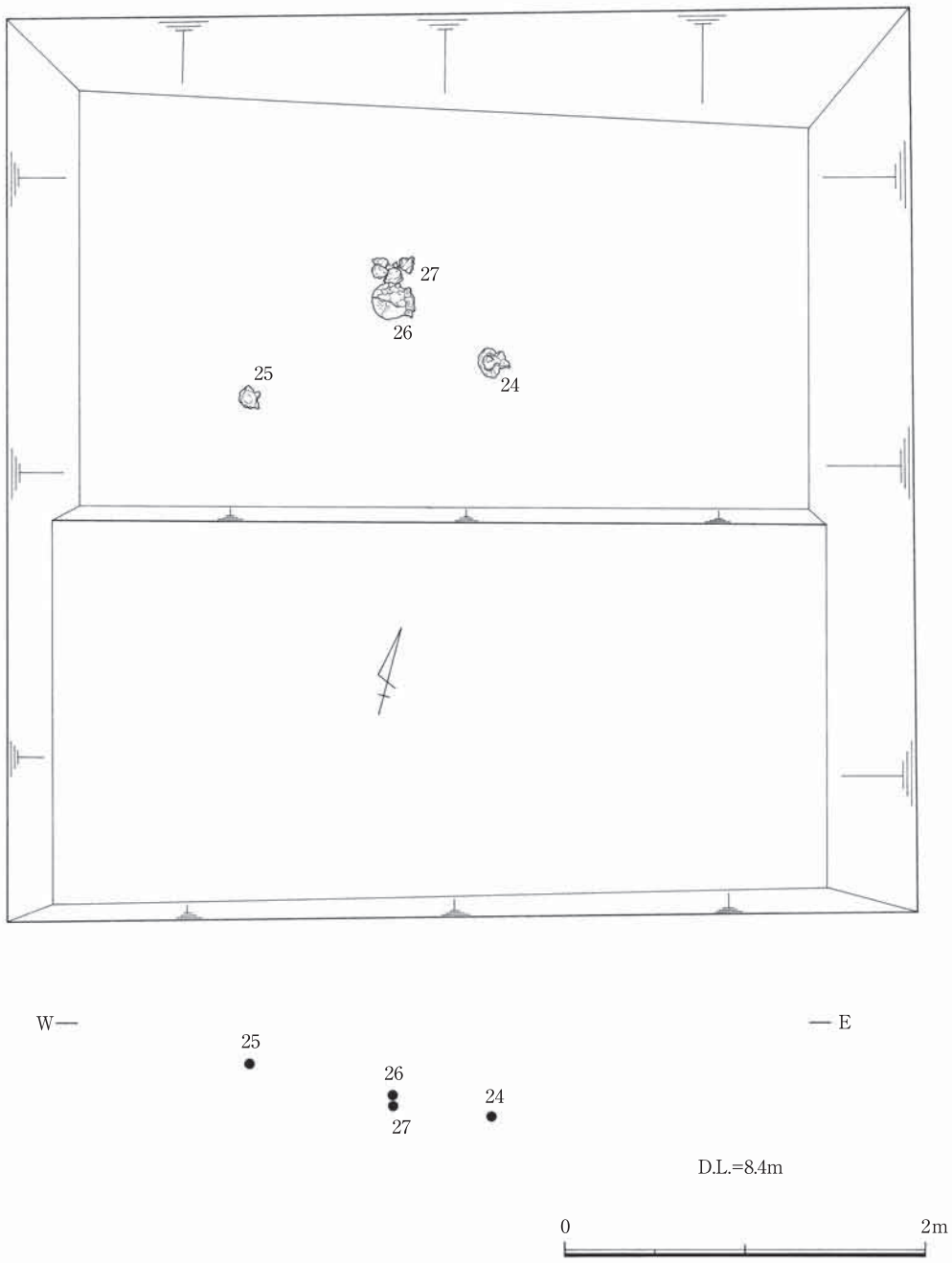


Fig.7　TP-23第Ⅵ層遺物出土状態平面図・鉛直分布図（S：1/40）

遺物は，縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・獣骨等が出土し，縄文土器10点，弥生土器９点，土師器16点，須恵器４点，擂鉢１点，磨石１点，石皿１点を図示（Fig.12～17・19）した。

ＴＰ-24（Fig. ４・８）

現地表下3.5mまで調査を実施した。

縄文時代のピット状遺構２（第XI層上面），及び遺物包含層（第Ⅶ層～第Ｘ層・第XIII層）を確

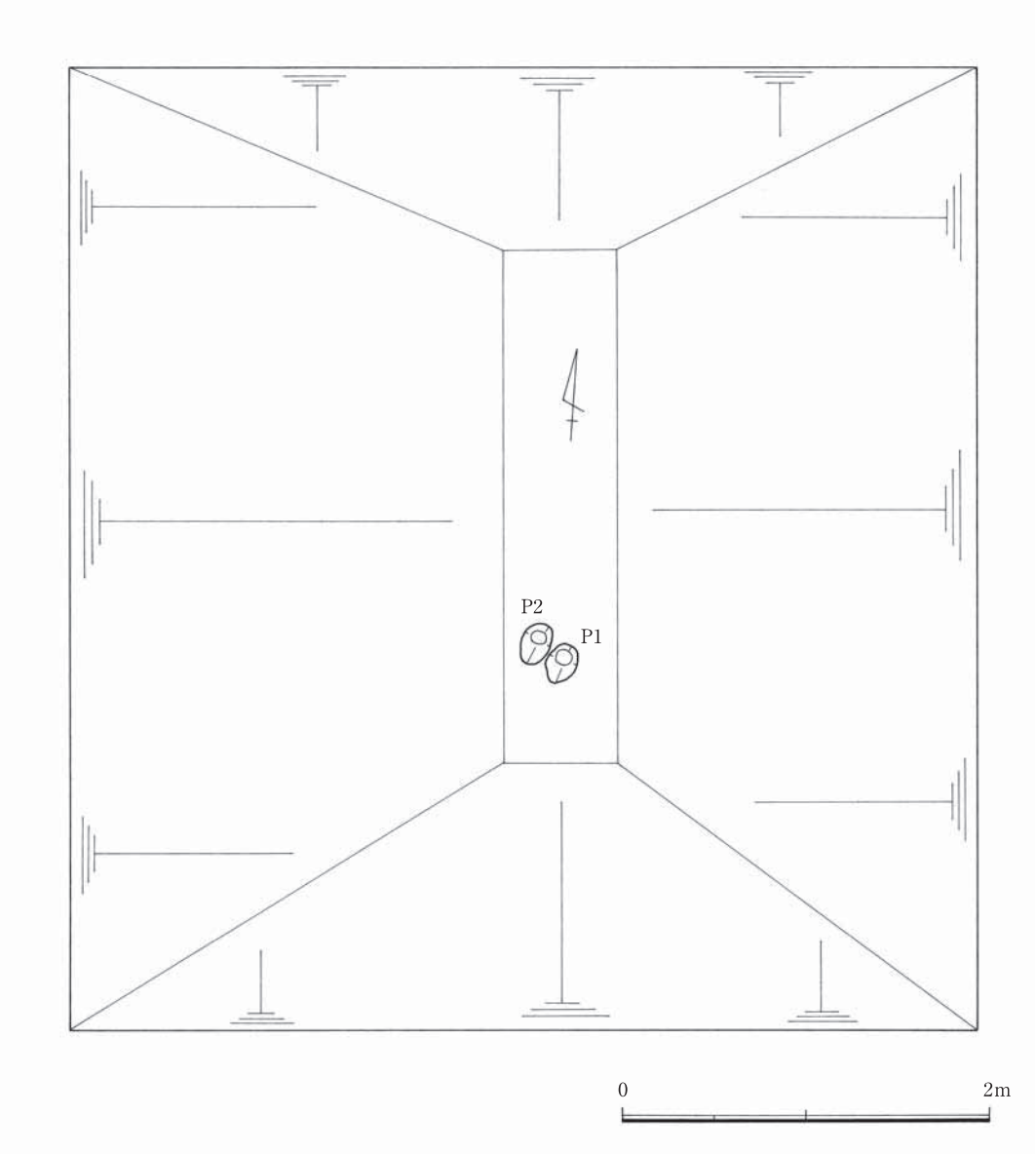


Fig.8　TP-24第Ⅸ層上面遺構平面図（S：1/40）

認した。遺物は縄文土器等が出土した。

ＴＰ-25（Fig. ４）

現地表下3.2mまで調査を実施した。

縄文時代の遺物包含層（第Ⅵａ層～第Ⅷ層）を確認した。遺物は縄文土器・土師器等が出土し，第Ⅴ層出土の土師器１点（Fig.17－42）を図示した。

ＴＰ-26（Fig. ４・９・10）

現地表下1.6mまで調査を実施した。調査地点は北から南へと下る斜面地形に位置しており，第Ⅲ層以下の堆積においては，その傾斜が顕著にあらわれてくる。

第Ⅱ層～第Ⅳ層において古墳時代の祭祀遺構とみられる遺物集中地点１，及び遺物包含層を確認した。第Ⅲ層～第Ⅳ層中に祭祀行為を営んだ旧地表面が存在するものとみられる。第Ⅴ層は基

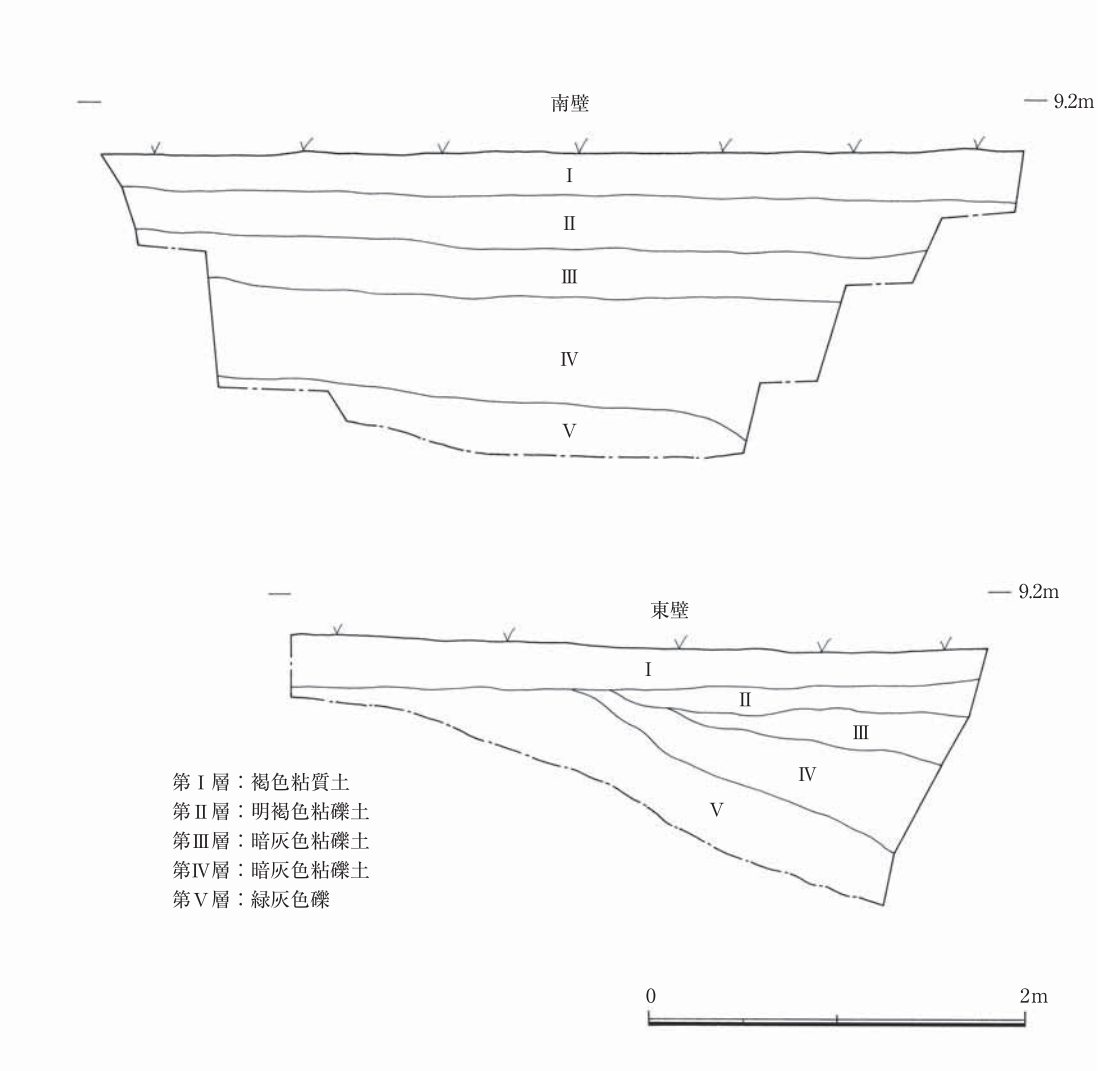


Fig.9　TP-26堆積土層断面図（S：1/40）

底礫層の上部である。

遺物は土師器・石器等が出土し，土師器10点，石皿１点，叩石１点を図示（Fig.18～20）した。

⑵遺構（Fig.11）

検出遺構はピット状遺構２基である。

①ピット状遺構（Fig.11）

ＴＰ-24－Ｐ１

平面形は不整楕円形で，長径22㎝，短径16㎝，検出面からの深さは20㎝である。埋土は灰色粘土である。遺物は出土していない。遺構は縄文時代晩期の所産と考えられる。

ＴＰ-24－Ｐ２

平面形は不整楕円形で，長径24㎝，短径17㎝，検出面からの深さは17㎝である。埋土は灰色粘土である。遺物は出土していない。遺構は縄文時代晩期の所産と考えられる。

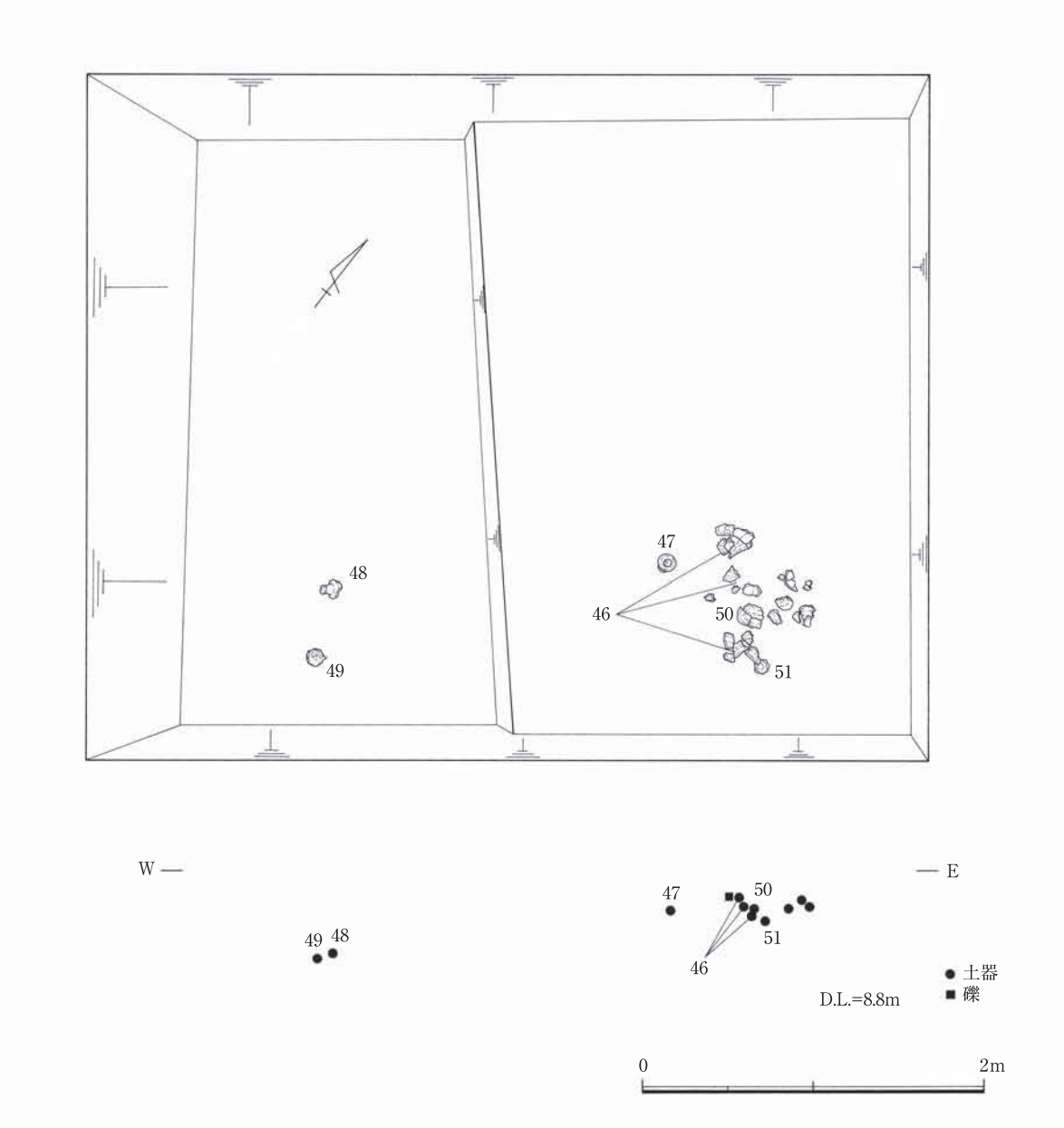


Fig.10　TP-26第Ⅱ～Ⅲ層遺物出土状態平面図・鉛直分布図（S：1/40）

⑶遺物[3]

①土器（Fig.12～18）

ＴＰ－21出土土器１点，ＴＰ－23出土土器40点，ＴＰ－25出土土器１点，ＴＰ－26出土土器10点，合計52点を図示した。

ＴＰ-21出土土器（Fig.12）

１は第Ⅳ層出土の土師器・坏である。底部は平底で，外面には直線状の圧痕がみられる。

ＴＰ-23出土土器（Fig.12～17）

２～41はＴＰ－23出土土器である。

２～４は第Ｘ層出土の縄文土器である。２は有文深鉢・胴部片で，外面にはＬＲの縄文地に沈

線文，刺突文を施す。縄文後期，伊吹町式土器か。３は深鉢・口縁部片である。波状口縁を呈し，波頂部内面に円形刺突１を施す。４は浅鉢で，底部を欠く。屈曲部及び胴部最大径部直上の外面に沈線各１条を描く。胴部最大径部には擬口縁が観察される。黒色磨研土器である。３・４は縄文晩期土器である。

５～７は第Ⅸ層～第Ⅹ層の掘削排土中から採集できた縄文土器である。５は胴部片で，器種は浅鉢か。外面に沈線２条，刻目文１段を施し，上位の沈線以上部分には，ＬＲの縄文地に円形刺突文を施文する。縄文後期土器か。６は深鉢・胴部片である。外面には刻目突帯１条を貼付する。縄文晩期，突帯文土器である。７は浅鉢・胴部片である。段部の内外面は沈線状を呈する。段部以下の外面調整はケズリ，もしくは条痕か。縄文晩期，黒色磨研土器である。

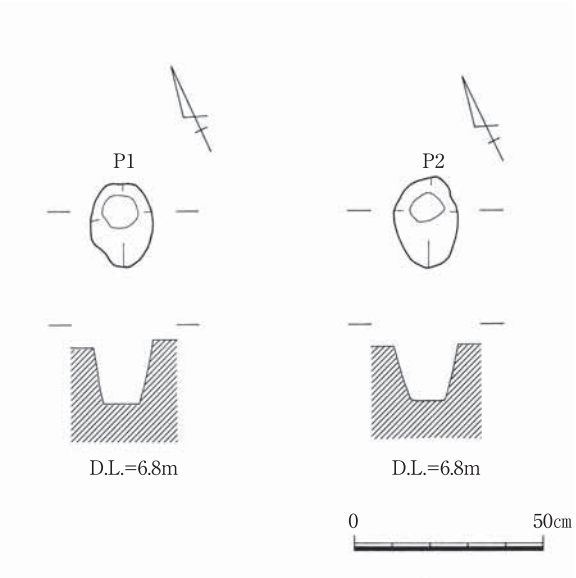


Fig.11　TP-24第Ⅸ層上面検出遺構（S：1/20）

８は第Ⅸ層出土の土師器・壷・口縁部片である。端面に列点状の刺突文を施す。ハケ原体の小口部によるものか。

９～13は第Ⅷ層出土である。９は縄文土器・深鉢・口縁部片である。外面に刻目突帯１条を貼付し，突帯上側に沈線１条を描く。口縁端部にも刻目を施す。縄文晩期，突帯文土器である。10・11・13は弥生土器である。10は甕・口縁部片である。外面に幅広の隆帯１を貼付し，刻目突帯２条を形成する。弥生前期土器と考えられる。11は壷・口縁部片である。端部外面に粘土帯を貼付し，縦位沈線を施文する。弥生中期土器である。13はわずかに平底を呈する底部片である。外面はタタキ調整で，弥生後期終末の所産と考えられる。12は土師器・壷・口縁～頸部片で，二重口縁を呈する。搬入品の東阿波型土器⑷と考えられる。

14～23は第Ⅶ層出土である。14は縄文土器・深鉢・胴部片である。外面に沈線１条，縄文ＬＲを施す。縄文後期，片粕式土器か。15～19は弥生土器である。15は壷・頸部片で，外面に楕円形浮文，斜位の沈線文を施す。16は壷・胴部片で，外面に斜位の沈線文を描く。17～19は甕である。17は胴部下半以下を欠く。15～17は弥生中期土器と考えられる。18は口縁部片で，外面に隆帯１条を貼付し，斜位の沈線文を施文する。19は口縁～胴部片で，端部外端に刻目を施す。20～23は土師器である。20は壷・頸部片である。屈曲部外面に隆帯１を貼付し，２段の刺突文を施す。21は甕で胴部下半以下を欠く。外面にはハケ調整を施す。22は甑である。底部には焼成前に円孔１を穿つ。23は高杯・坏部片である。体部は１段をなし，下端部には擬口縁が露出する。

24～28は第Ⅵ層出土の土師器である。24は偏球形の胴部をもつ丸底壷である。25は丸底の壷である。26・27は甕で，内面調整にはケズリがみとめられる。28は高杯・脚部片である。上端部には坏部との接合にかかわる擬口縁が露出する。その接合面には，ヘラ状工具による刺突を放射状に配する。

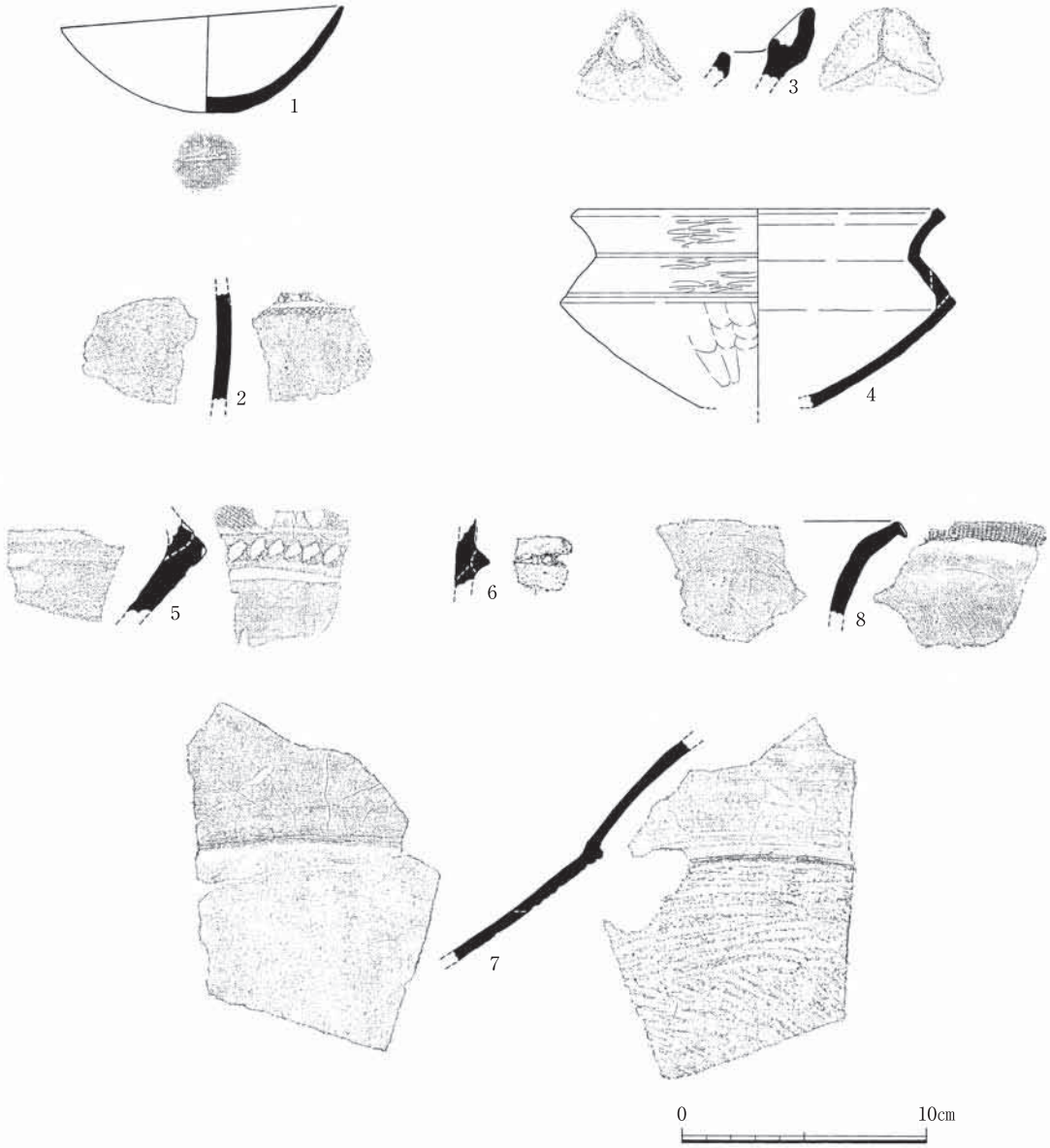


Fig.12　確認調査（2）出土土器1（S：1/3）

29～34は第Ⅴ層出土である。29は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。外面の口縁部文様帯に，縄文ＬＲ，沈線３条を施す。縄文後期，広瀬上層式土器か。30～33は土師器である。30はほぼ完形で出土した丸底壷で，24と同類のものである。底部外面には直線状の圧痕がみとめられる。31は平底の壷である。32は高杯・坏部片で，体部は１段をなす。33は高杯・脚部片である。34は須恵器・口縁部片である。外面に突帯２条を形成し，縄蓆状の圧痕文を施す。内外面に自然釉がみとめられる。

35～38は第Ⅲ層出土である。35～37は須恵器である。35・36は口縁部片である。35は外面に突帯１条を形成する。36は外面に櫛描波状文を描き，内面には自然釉がみとめられる。37は胴部片

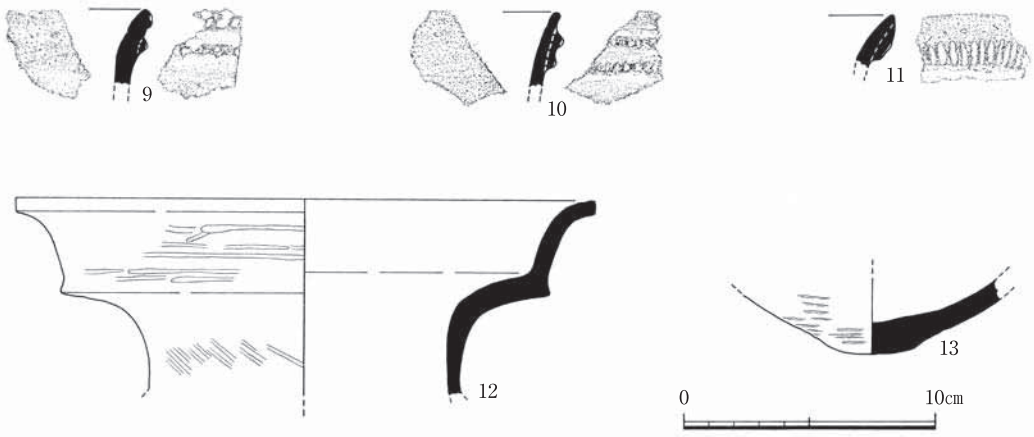


Fig.13　確認調査(2)出土土器2（S：1/3）

で，外面に櫛描波状文，沈線？４条を施文する。38は擂鉢・口縁部片で，内面には擂目１条がみとめられる。

39～41は掘削排土中から採集された土器で，層位は不明である。39は縄文土器・深鉢・胴部片である。外面には磨消縄文ＲＬ，沈線文を施す。縄文後期，宿毛式土器か。40は弥生土器・壷・口縁部片である。端部には凹線２を施す。41は土師器・高杯・脚部片である。

ＴＰ-25出土土器（Fig.17）

42は第Ⅴ層出土の土師器・甕・口縁部片である。内外面にはハケ調整を施し，端面は凹線状を呈する。

ＴＰ-26出土土器（Fig.18）

43～52はＴＰ－26出土土器である。

43～45は第Ⅳ層出土の土師器である。43は壷・口縁～胴部片で，内外面にはハケ調整を施す。44・45は甕である。44は底部を欠く。外面にはタタキ調整を施し，内面調整にはケズリがみとめられる。45は胴部下半以下を欠く。外面にはタタキ調整を施す。

48・49は第Ⅲ層出土の土師器・高杯・脚部片である。48の上端部面は坏部内面に相当し，上端部外周には坏部との接合にかかわる擬口縁が露出する。49の上端部にも擬口縁が露出する。

46・47・50～52は第Ⅱ層出土の土師器である。46・47は壷である。46は底部を欠き，内面にはヘラナデ痕がみとめられる。47は小型丸底土器である。50・52は坏である。52は内外面に指頭押圧痕が顕著にみとめられる。51は手捏ね土器で，坏形を呈する。

②石器（Fig.19・20）

ＴＰ－23出土石器２点，ＴＰ－26出土石器２点，合計４点を図示した。

ＴＰ－23出土石器（Fig.19）

53・54はＴＰ－23出土石器である。

53は第Ⅶ層出土の磨石で，花崗岩製である。54は第Ⅴ層出土の石皿で，砂岩製である。

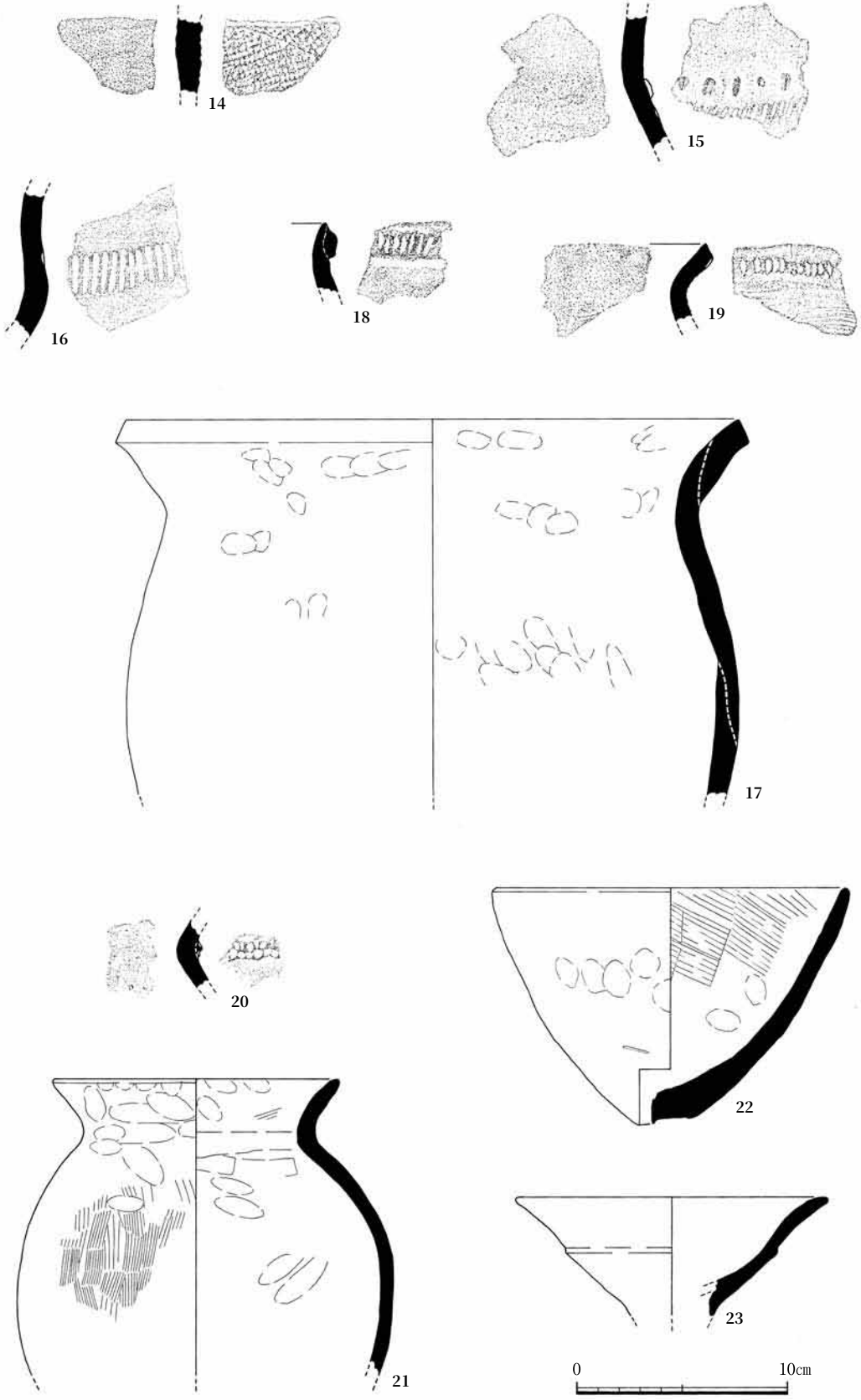


Fig.14 確認調査 (2) 出土土器3 (S:1/3)

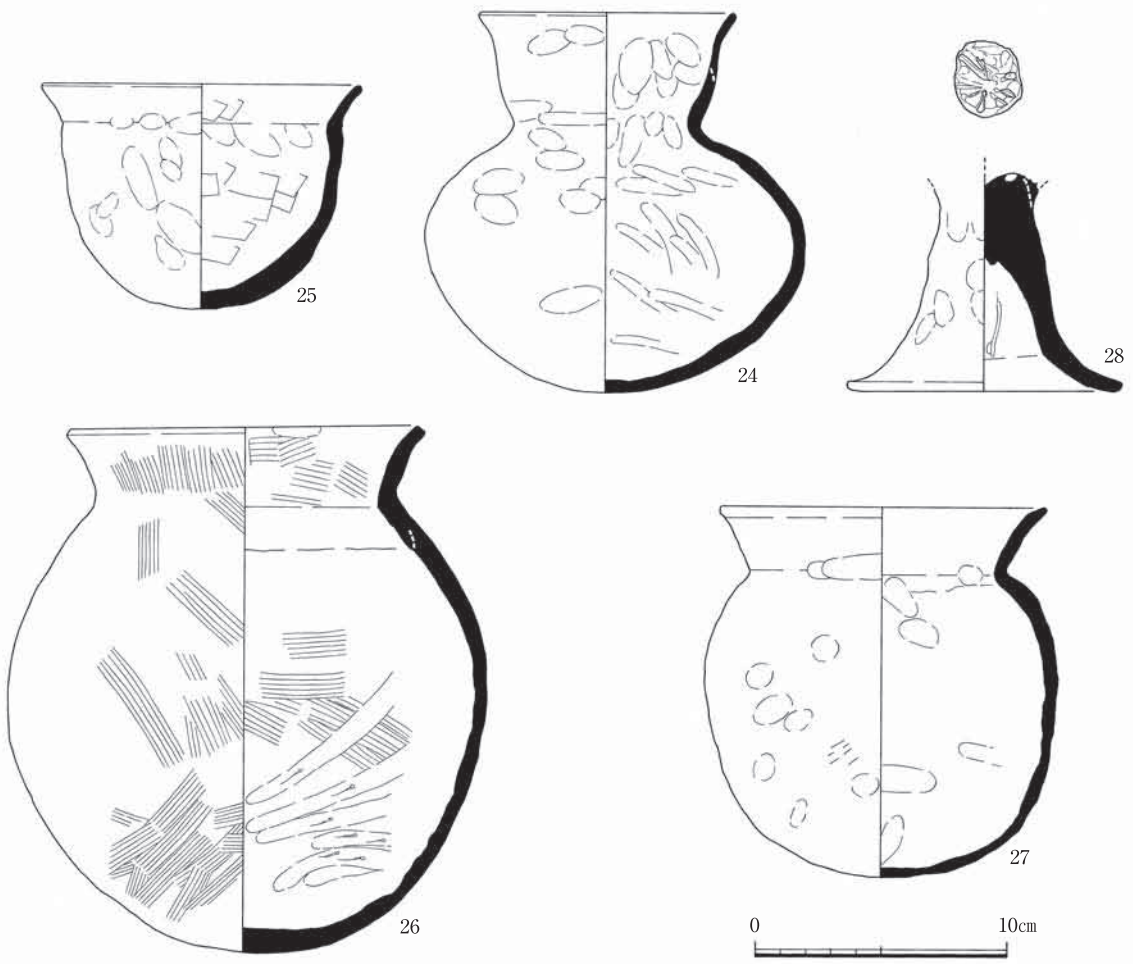


Fig.15　確認調査(2)出土土器4（S：1/3）

ＴＰ-26出土石器（Fig.19・20）

55・56はＴＰ－26出土石器である。

55は第Ⅳ層出土の石皿で，砂岩製か。56は第Ⅲ層出土の叩石で，砂岩製か。

４．総括

ＴＰ－17～ＴＰ－26の調査対象範囲において，遺構・遺物の存在が確認されたのは，ＴＰ－19～ＴＰ－22の区間，及びＴＰ－23～ＴＰ－26の区間であった。

ＴＰ－19～ＴＰ－22の区間については，古墳時代前期の遺物包含層の存在から，当該期の集落周辺部もしくは水田跡等に相当する可能性があるものと考えられた。植物遺存体（木片等）の保存状態は良好であり，木製品類の出土も予想された。

ＴＰ－23～ＴＰ－26の区間については，縄文時代後期～古墳時代中期の遺構及び遺物包含層が濃密に分布しており，古墳時代の祭祀遺跡等が存在するものと考えられた。その中でも，ＴＰ－23周辺では縄文時代後期～古墳時代中期の遺物がきわめて多量に出土し，古墳時代の祭祀遺構も

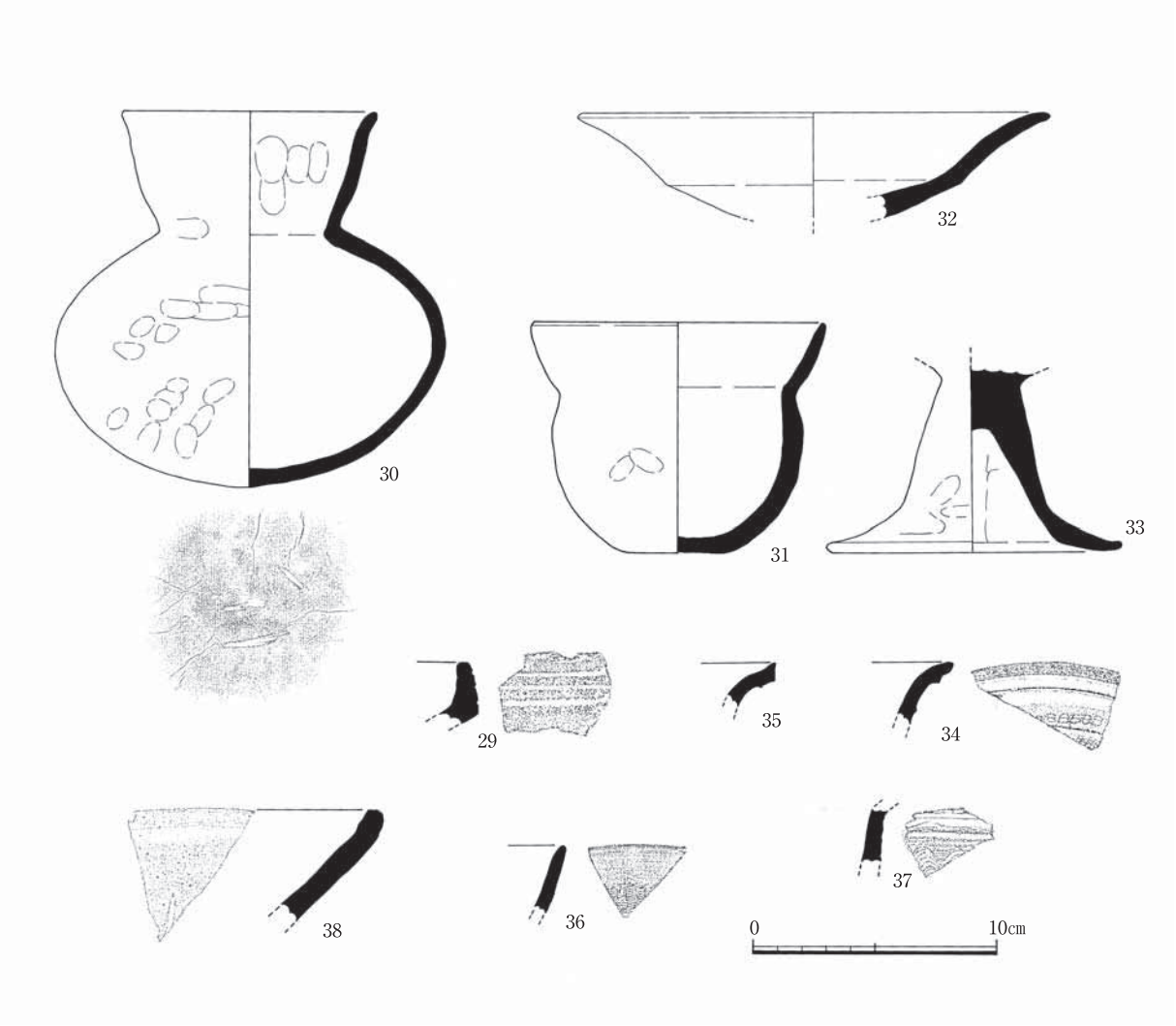


Fig.16　確認調査(2)出土土器5（S：1/3）

しくは溝状遺構等の存在が想定された。縄文時代後期～晩期の遺物包含層は，黒色の泥炭層状を呈し，獣骨等の動物遺存体の保存状態も良好であり，共に出土する土器等と併せて，きわめて重要かつ稀少な資料を提供するものと考えられた。一方，ＴＰ－23～ＴＰ－25にみられるように，縄文時代晩期の遺物包含層は広範囲に分布しており，ＴＰ－24検出の遺構面も同様に存在するものと考えられた。またＴＰ－26周辺にも，古墳時代の祭祀等に伴う遺物集中出土地点が存在するものと考えられた。

以上の成果ならびに確認調査⑶の成果に基づき，居徳遺跡群２～４区の調査実施範囲を決定した。試掘坑と発掘調査区との対応関係は以下のとおりである。

ＴＰ－19～21・・・・・２Ａ区
ＴＰ－22・・・・・・・３Ｂ区
ＴＰ－23・・・・・・・４Ｄ区
ＴＰ－24・・・・・・・４Ｃ区
ＴＰ－25（・26）・・・４Ａ区

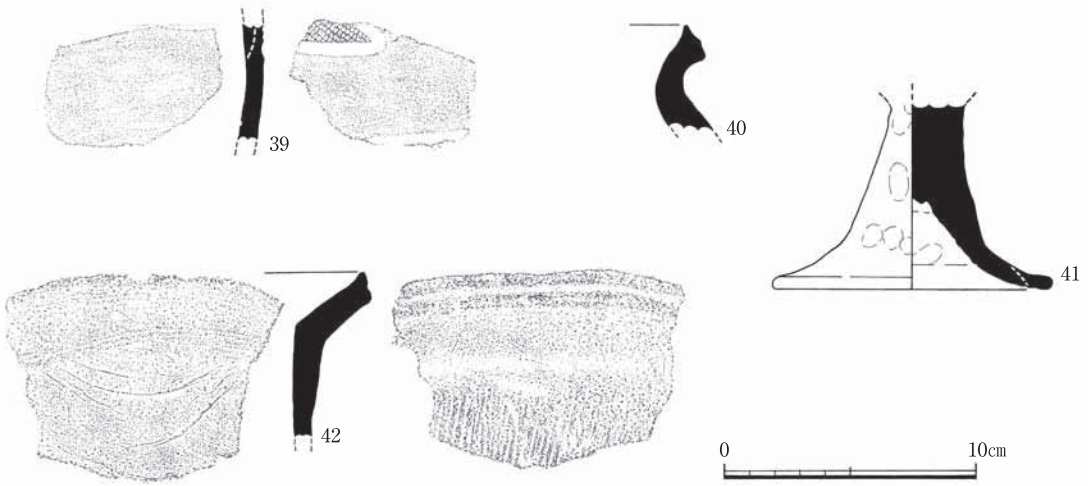


Fig.17　確認調査（2）出土土器6（S：1/3）

註

⑴　本節におけるFig. 2 以外の挿図中の北は，すべて磁北である。

⑵　曽我貴行「第Ⅰ章　調査の成果　⑴確認調査⑴」『居徳遺跡群Ⅲ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　2002年

⑶　表１～３の土器観察表ならびに石器計測表中では，層名の「第」を省略した。

⑷　東阿波型土器については出原恵三氏の御教示を得た。

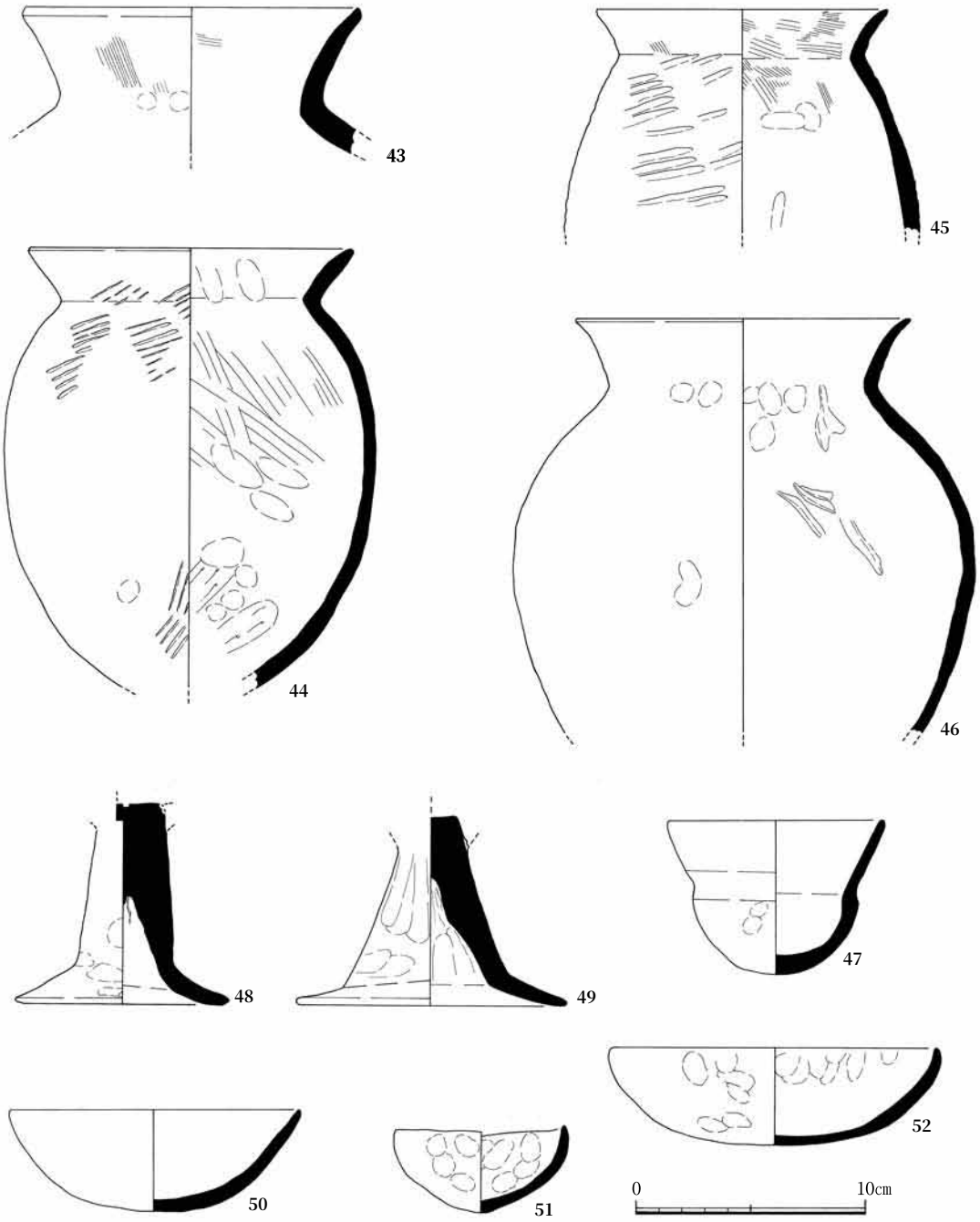


Fig.18 確認調査 (2) 出土土器7 (S:1/3)

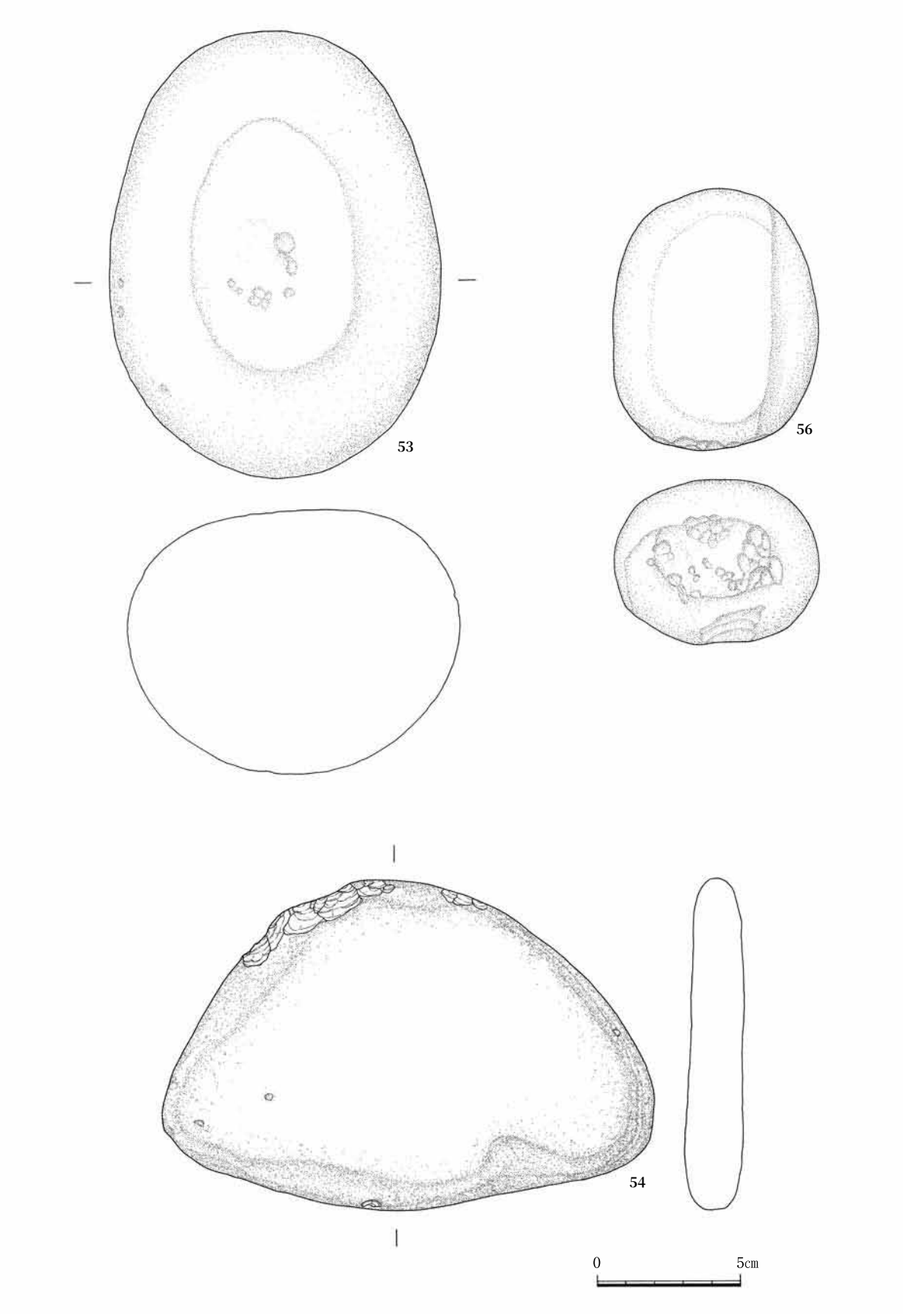


Fig.19 確認調査 (2) 出土石器1 (S:1/2)

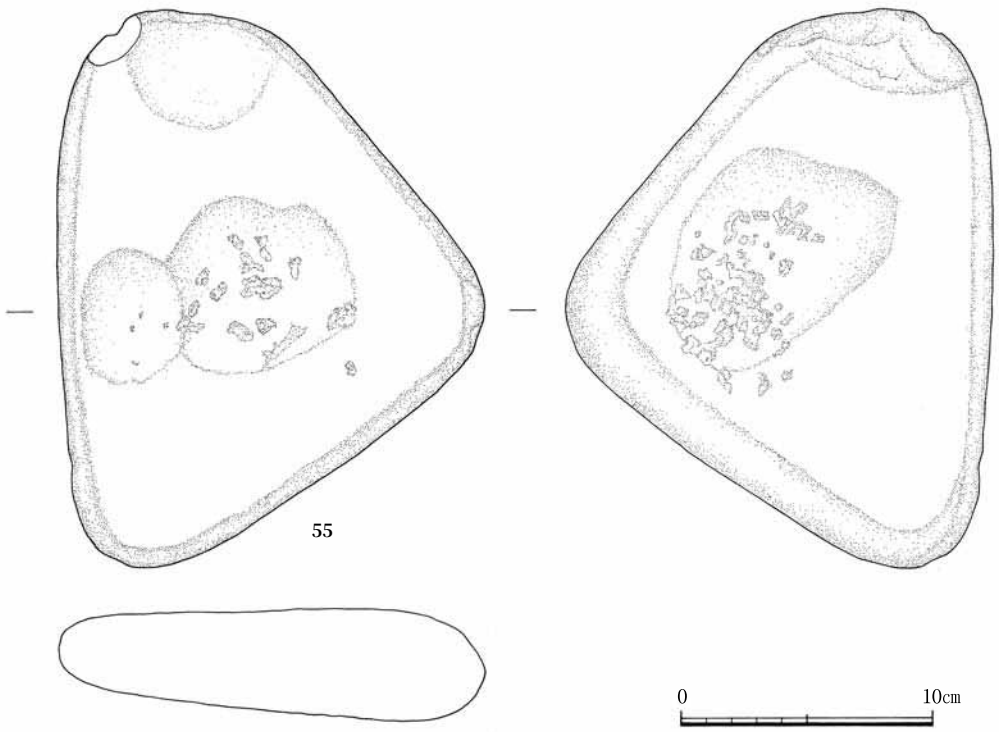


Fig.20 確認調査 (2) 出土石器2 (S:1/3)

表１　確認調査(2)出土土器観察表１

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量（cm）	文様・調整　外面 内面 その他の部位	色調　内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.12－1	ＴＰ－21 Ⅳ層	土師器 坏	口径　11.40 器高　4.50 底径　2.00	ナデ（磨滅） ナデ（磨滅） 底面：直線状圧痕（繊維？），ナデ	橙　7.5YR　7／6 にぶい橙　5YR　7／4	赤色砂粒，石英 チャート	平底 底部外面：黒斑
Fig.12－2	ＴＰ－23 Ⅹ層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高　4.40	沈線１，斜位刺突文１段，縄文ＬＲ，ナデ（丁寧） ナデ	明赤褐　5YR　5／6 にぶい赤褐　〃　5／3	長石，石英	縄文後期 伊吹町式？
Fig.12－3	ＴＰ－23 Ⅹ層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高　3.00	ナデ，押圧 円形刺突１，ナデ	褐灰　10YR　6／1 〃　〃　4／1	長石，チャート 石英	波状口縁 縄文晩期
Fig.12－4	ＴＰ－23 Ⅹ層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	口径　14.70 残高　8.05 胴径　16.20	沈線２，ミガキ，ケズリ，押圧，ナデ ミガキ（暗文状），ヘラナデ	黒褐　2.5Y　3／1 〃　〃　〃	長石，石英，雲母	胴部屈曲部：擬口縁露出 縄文晩期
Fig.12－5	ＴＰ－23 Ⅸ～Ⅹ層排土	縄文土器 浅鉢？ 胴部片	残高　3.80	沈線２，刻目１段，縄文ＬＲ，ミガキ ナデ	暗灰黄　2.5Y　5／2 〃　〃　〃	雲母，長石，石英	縄文後期？
Fig.12－6	ＴＰ－23 Ⅸ～Ⅹ層排土	縄文土器 深鉢 胴部片	残高　2.80	刻目突帯貼付１，ナデ ナデ	にぶい黄橙　10YR　6／3 〃　〃　7／3	長石，石英 チャート	縄文晩期
Fig.12－7	ＴＰ－23 Ⅸ～Ⅹ層排土	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高　9.10	段部：沈線状，ミガキ，ケズリ，条痕？ 段部：沈線状，ミガキ	褐灰　10YR　4／1 黒褐　〃　3／1	長石，石英 チャート，雲母	縄文晩期
Fig.12－8	ＴＰ－23 Ⅸ層	土師器 壺 口縁部片	残高　3.90	ハケ，押圧 ハケ，ナデ 端部：下方に拡張 端面：列点状刺突（ハケ原体？）	にぶい黄橙　10YR　7／3 〃　〃　7／2	赤色砂粒，石英 長石	
Fig.13－9	ＴＰ－23 Ⅷ層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高　3.00	刻目突帯貼付１，沈線１，ナデ？ ナデ 端部：刻目	灰黄　2.5YR　7／2 灰白　10YR　8／2	石英，長石 チャート	縄文晩期
Fig.13－10	ＴＰ－23 Ⅷ層	弥生土器 甕 口縁部片	残高　3.00	隆帯貼付１＋刻目２段，ハケ，ナデ ハケ，ナデ	褐灰　10YR　4／1 〃　〃　〃	長石，チャート	弥生前期
Fig.13－11	ＴＰ－23 Ⅷ層	弥生土器 壺 口縁部片	残高　2.10	粘土帯貼付＋縦位沈線，不明（磨滅） 不明（磨滅）	灰　N　5／0 〃　〃　〃	長石，石英	弥生中期
Fig.13－12	ＴＰ－23 Ⅷ層	土師器 壺 口縁～頸部片	口径　22.80 残高　7.70	ミガキ，ナデ，ハケ ミガキ，ナデ	にぶい黄橙　10YR　6／3 灰黄褐　〃　6／2	赤色砂粒，長石 雲母，石英	古墳前期 東阿波型土器
Fig.13－13	ＴＰ－23 Ⅷ層	弥生土器 底部片	残高　3.10	タタキ ナデ，押圧 底面：ナデ	浅黄橙　7.5YR　8／4 にぶい橙　5YR　7／3	長石，チャート	わずかに平底 弥生後期終末
Fig.14－14	ＴＰ－23 Ⅶ層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高　3.65	沈線１，縄文ＬＲ ミガキ～ナデ（丁寧）	にぶい褐　7.5YR　5／4 黒褐　〃　7／1	石英，長石，雲母	縄文後期 片粕式？
Fig.14－15	ＴＰ－23 Ⅶ層	弥生土器 壺 頸部片	残高　6.20	楕円形浮文，斜位沈線文，ナデ（丁寧） ナデ	黄灰　2.5Y　7／1 灰白　〃　〃	石英，チャート 長石	弥生中期
Fig.14－16	ＴＰ－23 Ⅶ層	弥生土器 壺 胴部片	残高　6.80	縦位沈線文，ナデ（丁寧），ナデ ナデ	黄灰　2.5Y　5／1 〃　〃　4／1	長石，石英 チャート	弥生中期
Fig.14－17	ＴＰ－23 Ⅶ層	弥生土器 甕 口縁～胴部片	口径　29.00 残高　17.70 胴径　29.00	ナデ，押圧 ナデ，押圧 端面：ナデ	黄灰　2.5Y　5／1 にぶい黄橙　10YR　7／2	チャート，石英 赤色砂粒	外傾接合 弥生中期
Fig.14－18	ＴＰ－23 Ⅶ層	弥生土器 甕 口縁部片	残高　3.30	隆帯貼付＋斜位沈線，ナデ ナデ	にぶい褐　7.5YR　5／4 〃　〃　〃	長石，石英 チャート	
Fig.14－19	ＴＰ－23 Ⅶ層	弥生土器 甕 口縁～胴部片	残高　3.70	ハケ，ナデ ナデ，押圧 端部：外端刻目	黄灰　2.5Y　5／1 灰黄褐　10YR　〃	長石，石英 チャート	
Fig.14－20	ＴＰ－23 Ⅶ層	土師器 壺 頸部片	残高　3.20	隆帯貼付＋刺突２段，ハケ ハケ，ナデ	にぶい黄橙　10YR　7／2 灰黄　2.5Y　〃	長石，チャート 石英	
Fig.14－21	ＴＰ－23 Ⅶ層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径　13.40 残高　14.00 胴径　18.60	ハケ，ナデ，押圧 板ナデ，ナデ，押圧，ハケ？	黄灰　2.5Y　5／1 〃　〃　〃	長石	外面：スス
Fig.14－22	ＴＰ－23 Ⅶ層	土師器 甑	口径　16.50 残高　11.20	ナデ，押圧，ヘラナデ？ ハケ，ナデ，押圧 底面：内側から焼成前穿孔１	にぶい黄橙　10YR　6／3 にぶい黄　2.5Y　〃	長石，赤色砂粒 チャート	外面：黒斑
Fig.14－23	ＴＰ－23 Ⅶ層	土師器 高杯 坏部片	口径　14.40 残高　5.60	段１，ナデ，回転ナデ 回転ナデ 擬口縁部：ナデ	橙　7.5YR　7／6 にぶい橙　5YR　7／4	石英，チャート 赤色砂粒	下端：擬口縁露出
Fig.15－24	ＴＰ－23 Ⅵ層	土師器 壺	口径　9.90 器高　15.00 胴径　15.00	ナデ，押圧，ミガキ～ヘラナデ ナデ，押圧	にぶい黄橙　10YR　6／4 〃　〃　〃	チャート，長石 石英	丸底 底面：黒斑
Fig.15－25	ＴＰ－23 Ⅵ層	土師器 壺	口径　12.50 器高　8.80 胴径　11.20	ナデ，押圧 板ナデ，ナデ，押圧	にぶい黄橙　10YR　6／3 〃　〃　6／4	チャート，長石	丸底 外面：スス 底部外面：黒斑
Fig.15－26	ＴＰ－23 Ⅵ層	土師器 甕	口径　13.65 器高　20.80 胴径　18.85	ハケ，ナデ，押圧 ハケ，ケズリ，ナデ，押圧 底面：ハケ	灰黄褐　10YR　6／2 にぶい黄橙　〃　6／3	赤色砂粒，長石 チャート，石英	丸底 外面：黒斑
Fig.15－27	ＴＰ－23 Ⅵ層	土師器 甕	口径　12.80 器高　14.60 胴径　13.90	押圧，ナデ，ハケ？ ケズリ，ナデ，押圧	にぶい黄褐　10YR　5／3 灰黄褐　〃　6／2	長石，石英	丸底 外面：スス，黒斑

表２　確認調査(2)出土土器観察表２

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量（cm）	文様・調整　外面 内面 その他の部位	色調　内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.15－28	ＴＰ－23 Ⅵ層	土師器 高杯 脚部片	残高　8.90 底径　9.85	ナデ，押圧 板ナデ，ナデ 上端面：放射状刺突	にぶい黄橙　10YR　7／2 浅黄橙　〃　8／3	石英，チャート 赤色砂粒	上端部：擬口縁露出
Fig.16－29	ＴＰ－23 Ⅴ層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高　2.50	沈線３，縄文ＬＲ，ナデ？（磨滅），押圧 ナデ？（磨滅）	褐灰　10YR　4／1 〃　〃　〃	石英，長石，雲母	縄文後期 広瀬上層式？
Fig.16－30	ＴＰ－23 Ⅴ層	土師器 壷	口径　10.20 器高　15.35 胴径　15.90	ナデ，押圧 ナデ，押圧 底面：直線状圧痕（織維？）	浅黄橙　7.5YR　8／4 〃　〃　〃	長石，石英 赤色砂粒 チャート	丸底 底部外面：黒斑
Fig.16－31	ＴＰ－23 Ⅴ層	土師器 壷	口径　11.80 器高　9.40 胴径　10.20 底径　4.00	ナデ，押圧 ナデ，押圧 底面：ナデ	にぶい黄褐　10YR　5／3 〃　〃　〃	チャート	平底 外面・底部外面：黒斑
Fig.16－32	ＴＰ－23 Ⅴ層	土師器 高杯 杯部片	口径　18.90 残高　4.30	ナデ，押圧，ハケ？ ナデ	にぶい黄橙　10YR　7／2 〃　〃　〃	チャート，石英 長石	外面：黒斑
Fig.16－33	ＴＰ－23 Ⅴ層	土師器 高杯 脚部片	残高　7.60 胴径　3.20 底径　11.30	ナデ，回転ナデ，押圧 ケズリ，回転ナデ	にぶい橙　5YR　6／4 〃　7.5YR　7／4	長石，石英 チャート	外面：タール，黒変 内面：タール？，黒変
Fig.16－34	ＴＰ－23 Ⅴ層	須恵器 口縁部片	残高　2.60	突帯２，縄蕨圧痕文２段，回転ナデ 回転ナデ？	暗オリーブ灰　2.5GY　3／1 灰　N　6／ 赤灰　2.5YR　6／1	砂粒殆どなし	外面：上段突帯下面に自然釉 内面：全面に自然釉
Fig.16－35	ＴＰ－23 Ⅲ層	須恵器 口縁部片	残高　1.80	突帯１，回転ナデ 回転ナデ	灰　N　6／ 〃　〃　〃 赤灰　10R　6／1	石英，長石	
Fig.16－36	ＴＰ－23 Ⅲ層	須恵器 口縁部片	残高　2.70	櫛描波状文，回転ナデ 回転ナデ？	灰赤　2.5Y　5／2 〃　〃　〃 〃　10R　5／2	砂粒殆どなし	内面：自然釉
Fig.16－37	ＴＰ－23 Ⅲ層	須恵器 胴部片	残高　2.20	沈線？４，櫛描波状文，回転ナデ？ 回転ナデ？	灰　N　6／ 〃　〃　〃 〃　〃　〃	石英，長石	
Fig.16－38	ＴＰ－23 Ⅲ層	擂鉢 口縁部片	残高　4.50	回転ナデ 回転ナデ，ナデ，擂目１	灰褐　7.5YR　4／2 黄灰　2.5Y　6／1 灰黄　〃　7／2	長石，石英	
Fig.17－39	ＴＰ－23 排土	縄文土器 深鉢 胴部片	残高　4.60	磨消縄文ＲＬ，沈線文，ミガキ ミガキ	灰褐　7.5YR　6／2 橙　2.5YR　6／6	雲母，長石，石英	縄文後期 宿毛式？
Fig.17－40	ＴＰ－23 排土	弥生土器 壷 口縁部片	残高　4.20	ナデ（磨滅） ナデ？（磨滅） 端面：凹線２	橙　5YR　7／8 にぶい橙　〃　7／4	チャート 赤色砂粒	
Fig.17－41	ＴＰ－23 排土	土師器 高杯 脚部片	残高　7.90 底径　10.70	ナデ，押圧 ケズリ，ナデ，押圧	にぶい黄橙　10YR　7／2 〃　〃　7／3	チャート，長石 石英	
Fig.17－42	ＴＰ－25 Ⅴ層	土師器 甕 口縁部片	残高　6.50	ハケ，ナデ ハケ，ナデ 端部：内方に拡張 端面：凹線状１	にぶい黄褐　10YR　5／3 灰黄褐　〃　4／2	石英，長石，雲母	
Fig.18－43	ＴＰ－26 Ⅳ層	土師器 壷 口縁～胴部片	口径　14.50 残高　6.30	ハケ，ナデ，押圧 ハケ，ナデ？（磨滅）	にぶい褐　7.5YR　6／4 〃　〃　〃	チャート 赤色砂粒 石英，長石	内外面：スス，黒変
Fig.18－44	ＴＰ－26 Ⅳ層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径　13.80 残高　19.00 胴径　16.10	タタキ，ナデ，押圧 ハケ，ナデ，ケズリ，押圧	オリーブ黒　5Y　3／1 橙　7.5YR　6／6	長石，チャート 石英，赤色砂粒	外面：黒色付着物
Fig.18－45	ＴＰ－26 Ⅳ層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径　12.50 残高　9.70 胴径　15.35	タタキ，ハケ，ナデ ハケ，ナデ，押圧，ヘラナデ？	橙　5YR　7／6 〃　7.5YR　6／6	長石，赤色砂粒	外面：黒斑
Fig.18－46	ＴＰ－26 Ⅱ層	土師器 壷 口縁～胴部片	口径　14.20 残高　18.90 胴径　20.00	ナデ，押圧 押圧，ナデ，ヘラナデ	灰　N　5／ 〃　〃　〃	石英，長石 赤色砂粒 チャート	外面：黒斑
Fig.18－47	ＴＰ－26 Ⅱ層	土師器 壷	口径　9.10 器高　6.70 胴径　7.20	ナデ，押圧 ナデ，押圧	橙　7.5YR　7／6 にぶい橙　〃　7／4	石英，長石 赤色砂粒 チャート	小型丸底土器 底部外面：黒斑
Fig.18－48	ＴＰ－26 Ⅲ層	土師器 高杯 脚部片	残高　8.80 底径　8.50	ナデ，押圧 絞り目，ナデ，押圧	明赤褐　2.5YR　5／8 橙　5YR　6／6	長石，チャート	上端面：杯部内面 上端部外周：擬口縁露出
Fig.18－49	ＴＰ－26 Ⅲ層	土師器 高杯 脚部片	残高　8.20 底径　11.40	ナデ 絞り目，ナデ，	にぶい橙　7.5YR　7／3 にぶい黄橙　10YR　7／2	長石，チャート	上端部：擬口縁露出
Fig.18－50	ＴＰ－26 Ⅱ層	土師器 坏	口径　12.50 器高　4.45	ナデ？（磨滅） ナデ（磨滅）	橙　5YR　6／6 オリーブ黒　5Y　3／1	長石，石英	丸底
Fig.18－51	ＴＰ－26 Ⅱ層	土師器 手捏ね土器	口径　7.30 器高　3.85	押圧，ナデ 押圧，ナデ	灰黄褐　10YR　6／2 灰　5Y　4／1	石英，長石	杯形
Fig.18－52	ＴＰ－26 Ⅱ層	土師器 坏	口径　14.00 器高　4.20	押圧，ナデ ナデ，押圧	橙　5YR　6／6 〃　〃　7／8	石英，長石 チャート 赤色砂粒	丸底

表３　確認調査(2)出土石器計測表

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量（cm，g）	調整等	石材	備考
Fig.19－53	ＴＰ－23 Ⅶ層	磨石	全長　15.50 全幅　11.60 全厚　9.10 重量　2000.00	Ａ面：敲打痕，滑面，使用部位 Ｂ面：自然面 周縁部：自然面？	花崗岩	完存
Fig.19－54	ＴＰ－23 Ⅴ層	石皿	全長　17.10 全幅　11.55 全厚　2.10 重量　546.60	Ａ面：中央部凹み，滑面，使用部位 Ｂ面：自然面 周縁部：上部に剥離	砂岩	完存
Fig.20－55	ＴＰ－26 Ⅳ層	石皿	全長　21.95 全幅　16.85 全厚　4.50 重量　2010.00	Ａ面：中央部凹部２，敲打痕，使用部位 Ｂ面：中央部凹部１，敲打痕，使用部位 周縁部：滑面～自然面	砂岩？	ほぼ完存 Ｂ面：スス，黒変 周縁部：スス，黒変
Fig.19－56	ＴＰ－26 Ⅲ層	叩石	全長　9.15 全幅　7.20 全厚　5.75 重量　521.70	Ａ面：自然面 Ｂ面：中央部に剥離，敲打痕？ 下端面：敲打痕，滑面，使用部位 周縁部：自然面	砂岩？	完存 磨石用途あり

（２）　確認調査（3）

1.　調査の概要

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設工事に伴い、工事予定地に存在する遺跡について事前に埋蔵文化財の発掘調査を実施し、遺跡の範囲・内容等の確認を行うことを目的として、本次調査を実施した。調査対象地の地目は水田とビニールハウスであり、全体に低湿地である。調査期間は平成8年11月14日～12月12日であり、調査面積は対象面積35,000㎡のうちの464㎡である。

2.　調査の方法

調査対象地に4×4mの試掘坑（トレンチ＝TR）を任意に34箇所設定し、地権者の同意が得られなかった5箇所を除く29箇所で調査を実施した。確認調査は、機械及び人力によって耕作土から順次掘り下げ、地層層準の変化を確認しながら遺物包含の有無や時期確認等を行い、遺構・遺物の分布密度や深度・性格等について把握する。基本層準については、1/20縮尺で柱状図を作成し、土層堆積状況･遺物出土状況等は測量･写真撮影等によって記録した。完掘･確認後に埋め戻しを行う。

3.　調査の成果

（1）各トレンチの概要

TR1

地表下0.8mで湧水が激しくなり、中止する。遺構・遺物は確認されない。

TR2（Fig.22）

地表下1.4mまで調査を実施した。客土直下に古代・中世の遺物包含層を確認し、第Ⅳ層においては15世紀代の土器が多く出土した。第Ⅴ層においては古式土師器を含む土師器・須恵器等が集中する遺物包含層を確認した。5世紀前半の祭祀に関連するものと考えられる。遺構は確認されない。

TR3（Fig.22）

地表下2.1mの地山まで調査を実施した。第Ⅳ層において、土師器・須恵器・木片等が出土した。遺構は確認されない。

TR4

地表下2.3mで古墳時代の土師器が数点出土する。TR2の祭祀との関連が指摘できる。遺構は確認されない。

TR5（Fig.22）

地表下2.4mまで調査を実施した。第Ⅵ層において、炭化した木片が出土するが、遺構・遺物は確認されない。

TR6（Fig.22）

地表下2.4mまで調査を実施した。第Ⅶ層において古式土師器、第Ⅷ層において弥生土器が出土した。遺構は確認されない。

TR7（Fig.22）

地表下3.2mまで調査を実施した。第Ⅶ～Ⅸ層において古式土師器を含む土師器、Ⅹ～Ⅻ層において縄文時代後期～晩期の土器が集中して出土した。包含層のみの確認で基盤層は確認できない。

TR8（Fig.22）

地表下3.2mまで調査を実施した。遺構・遺物は確認されない。

TR9（Fig.23）

地表下4mまで調査を実施した。遺構・遺物は確認されない。

TR10（Fig.23）

地表下3.2mまで調査を実施した。遺構・遺物は確認されない。

TR11（Fig.23）

地表下3.8mまで調査を実施した。第Ⅴ層において中世土器細片を含む遺物包含層を確認した。第Ⅷ層において古墳時代前期の包含層を確認し、第Ⅹ層にかけて土師器が多量に出土した。第Ⅻ層においては弥生時代後期の遺物包含層を確認し、第ⅩⅣ層において弥生時代前期の土器が少量出土する。遺構は確認されない。

TR12（Fig.23）

地表下3.2mまで調査を実施した。第Ⅶ層～Ⅹ層にかけて古墳時代前期の土師器が断続的に出土する。

TR14（Fig.24）

地表下3.3mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR15（Fig.24）

地表下2.9mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR17（Fig.24）

地表下3.1mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR18（Fig.24）

地表下2.8mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR19（Fig.25）

地表下2.6mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR20（Fig.25）

地表下2.5mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR21（Fig.25）

地表下2.8mまで調査を実施する。第Ⅲ層において弥生時代中期の土器が出土する。遺構は確認されない。

TR22（Fig.25）

地表下3.2mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR23（Fig.26）

地表下3mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR24（Fig.26）

地表下3.1mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR25（Fig.26）

地表下1.8mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR26（Fig.26）

地表下3mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR30（Fig.27）

地表下0.7mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR33（Fig.27）

地表下3mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

TR34（Fig.27）

地表下2.7mまで調査を実施する。遺構・遺物は確認されない。

以上の結果、TR2～4・7、TR11～13・21・25・30の範囲を遺物集中出土範囲として把握し、本調査の必要性を認めるに至った。

（2）遺物

①土器（Fig.28～35）

TR2出土土器（Fig.28～32）

1～56は第Ⅴ層出土土器であり、1～13は弥生土器である。1・2は鉢であり、内外面ナデ調整を施す。2は口唇部に凹線文を施すが、摩耗する。3～6は壺である。3は内面ナデ調整、頚部外面ハケ調整を施すが摩耗が激しい。口唇部は面を成し、櫛描波状文が残る。7～13は甕であり、9・10は底部である。14～49は土師器である。14～16は鉢である。14は内外面ナデ調整である。15は内面は荒い原体のハケ調整、外面はナデ調整である。16の底部は平底を呈する。17・18は椀である。17は内外面丁寧なナデ調整を施す。18は内面ナデ、外面ヘラナデ調整を施す。19～28は壺であり、19・20は小型丸底壺である。内外面ナデ調整を施し、内面には成形痕が顕著に残る。21～28は壺である。21は球胴状を呈し、内外面ナデ調整を施す。内面には指頭圧痕が顕著に残る。22・23は複合口縁を有し、内外面ナデ調整を施す。24は直口壺であり、内外面ナデ調整を施す。25は頚部～胴部外面にハケ調整を施し、ヘラ状原体による描画が施される。内面はナデ及び荒い原体のハケ調整を施す。26・27は球胴状を呈し、内外面ナデ調整を施す。28は内面ハケ、外面タタキ後ハケ調整を施す。29～38は甕である。29は内外面ナデ調整を施す。30は口縁部が直立する。外面には不明瞭ながらハケ調整痕が残り、その後に斜位のナデ調整を行う。31～33は内外面ナデ調整を施す。34は内面ヘラケズリ、外面ナデ及びハケ調整を施す。35は内外面ハケ調整を施し、頚部外面直下に等間隔で斜位の工具痕（？）を施す。36は胴部内面ナデ調整、外面及び口縁内面はハケ調整を施す。37は口縁内外面はハケ調整、胴部内面はナデ調整を施す。胴部外面はタタキ後ハケ調整を施す。38は内面に指頭圧痕及びナデ調整が認められ、外面は部分的なタタキ後ハケ調整を施す。39～

49は高杯であり、39～41は杯部である。内面ヘラナデ、外面ナデ調整を施す。40は内外面ナデ調整を施す。41は明瞭な稜を持つ。内面ナデ調整、外面ハケ調整を施す。42は杯部内面には不明瞭ながらハケ調整が残り、杯部外面は指頭圧痕が残る。脚部内外面はナデ調整を施す。43は内外面ナデ調整を施す。44～49は脚部である。45は内面ナデ調整、外面ハケ調整を施す。46・47・49は内外面ナデ調整である。48はハケ後ヘラナデか。50～52は須恵器である。50は甕である。内外面ナデ調整であり、口縁端部外面に1条の凸帯を巡らせる。51は杯であり、内面回転ナデ、外面は回転ヘラケズリ及び回転ナデ調整を施す。52は内外面回転ナデ調整を施し、天井部外面には自然釉が付着する。53～55は手捏ね土器であり、指押しによる成形痕が顕著に残る。56は土製品の人形である。顔は作らず、両手は摘み取り付ける。57～67は第Ⅳ層出土土器である。57・58は皿であり、内面は回転ナデ調整を施し、底部外面は回転糸切り痕が顕著に残る。59～61は杯であり、底部外面には回転糸切り痕が残る。62は摂津型の羽釜であり、水平に鍔が付く。63～66は瓦器椀である。63は内面に僅に暗文を施す。64・65は焼成が不良である。66は底部であり、断面台形の高台を貼り付ける。67は土師質土器椀であり、内外面とも丁寧なナデ調整を施す。

TR3出土土器(Fig.33)

69は土師器椀であり、底部外面には回転糸切り痕が残る。

TR4出土遺物(Fig.33)

70は土師器の高杯脚部である。内外面ナデ調整を施す。

TR7出土土器(Fig.33・34)

71～102は縄文土器である。71は第Ⅻ層出土の深鉢であり、口唇及び端部に縄文を施す。72～102は第Ⅹ～Ⅻ層出土である。72～75は深鉢口縁部であり、縄文及び磨消縄文を施す。76～78は鉢である。76は平城式であり、内面ナデ調整を施す。77は片粕式に、78は彦崎KⅡ式にそれぞれ併行するものとみられる。79は浅鉢であり、外面に2条沈線及び縄文を施す。80～96は深鉢である。83～88は内面はナデ調整、外面は条痕調整を施す。89は内外面ナデ調整を施し、口縁内面に1条の沈線を施す。90は内外面ナデ調整を施し、内面斜上方向よりの穿孔痕が残る。91・92は口唇に刻みを施す。93・95は内外面ナデ調整を施す。94は口唇及び端部に刻みを施す。96は口唇部に細かい刻みを施す。97～101は黒色磨研の浅鉢である。102は土製円盤である。103～106は第Ⅸ層出土の土師器である。103～105は高杯であり、106は壺である。

②石器(Fig.32・34・35)

TR2出土石器(Fig.32)

68は頁岩製スクレーパである。

TR7出土石器(Fig.34)

107は蛇紋岩製磨製石斧であり、擦痕が顕著に残る。

TR11出土石器(Fig.35)

123は結晶片岩製打製石斧であり、124は結晶片岩製（？）磨製石包丁である。

Fig.21　確認調査（3）試掘トレンチ位置図

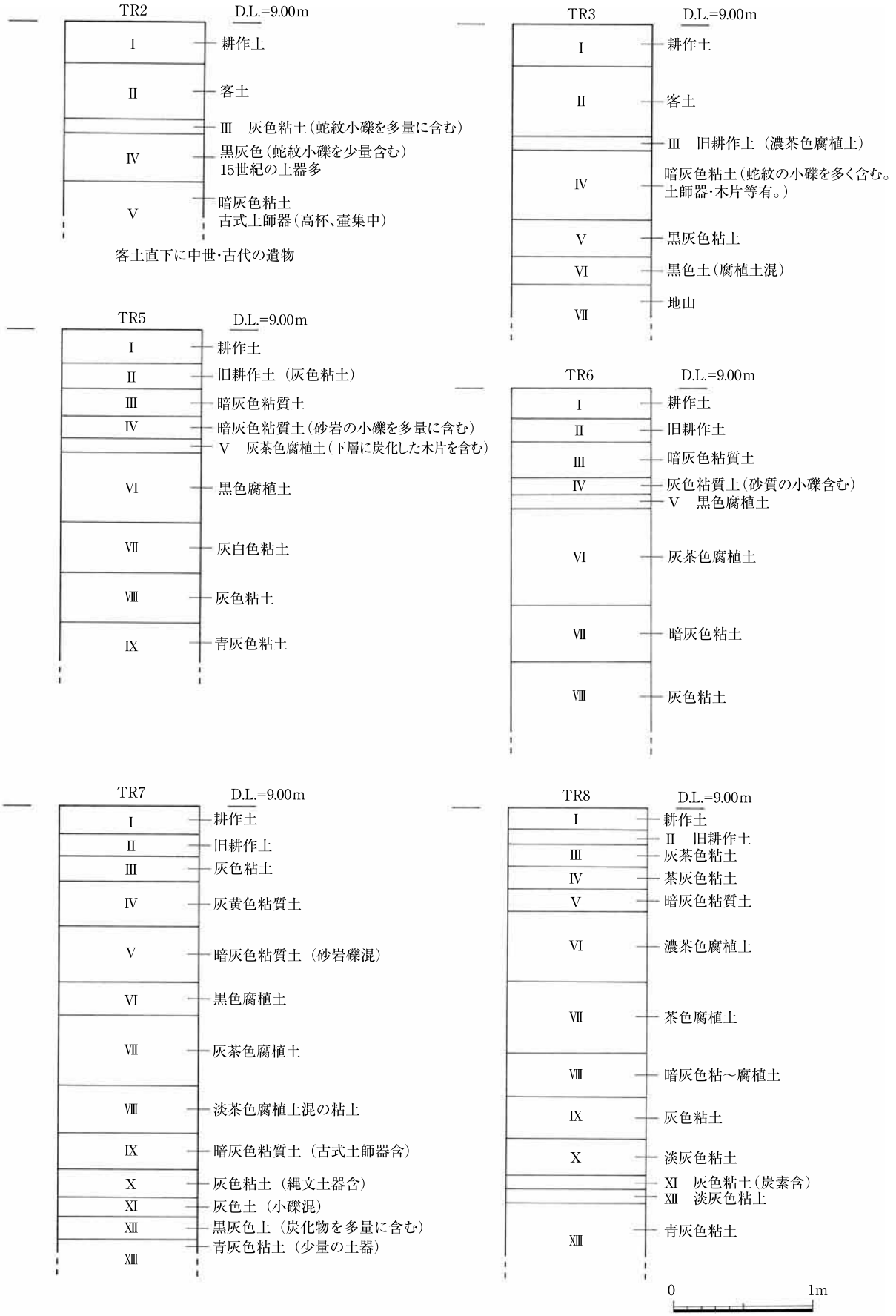


Fig.22　確認調査（3）TR2・TR3・TR5・TR6・TR7・TR8柱状図

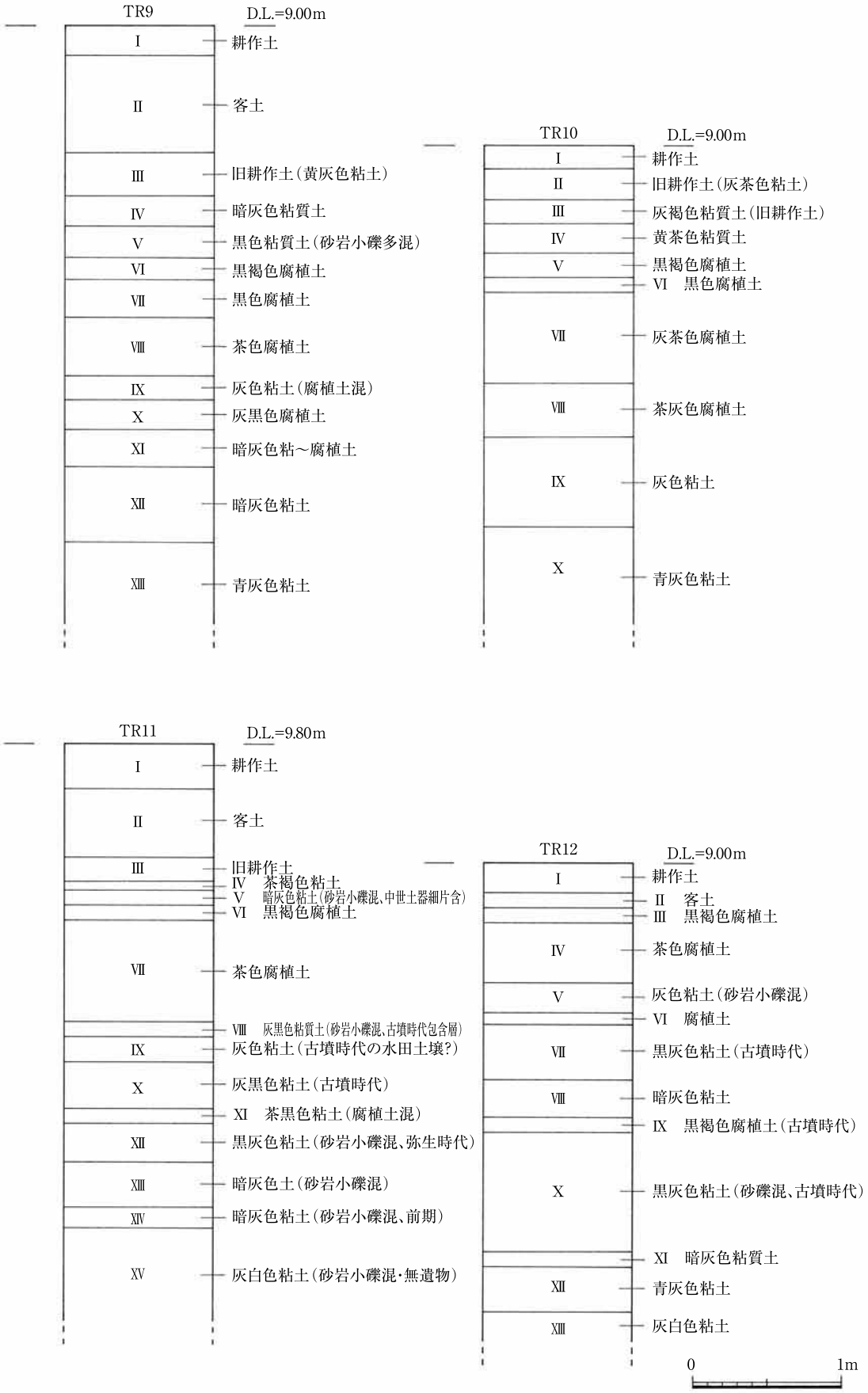


Fig.23　確認調査（3）TR9・TR10・TR11・TR12柱状図

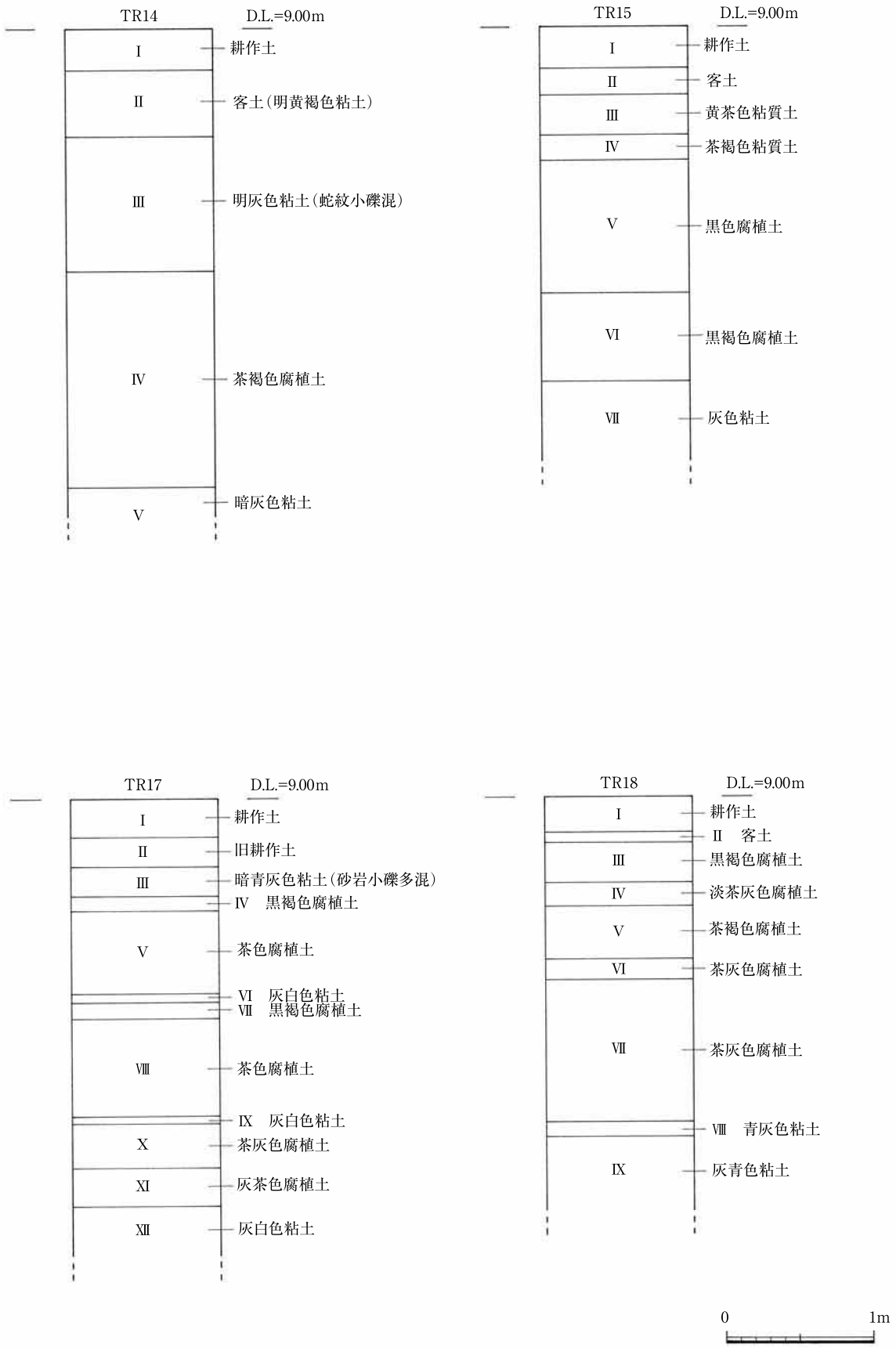


Fig.24　確認調査（3）TR14・TR15・TR17・TR18柱状図

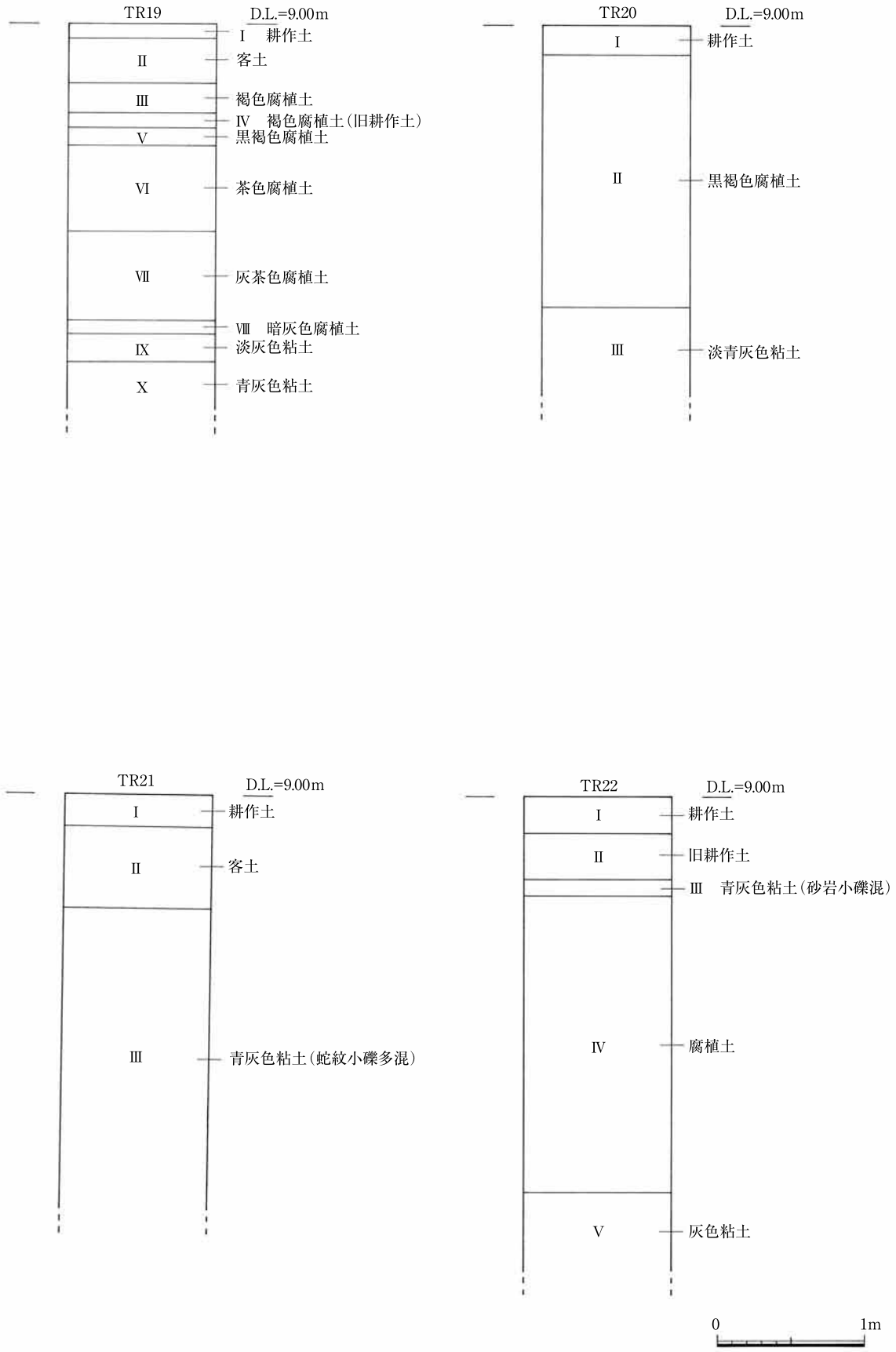


Fig.25　確認調査（3）TR19・TR20・TR21・TR22柱状図

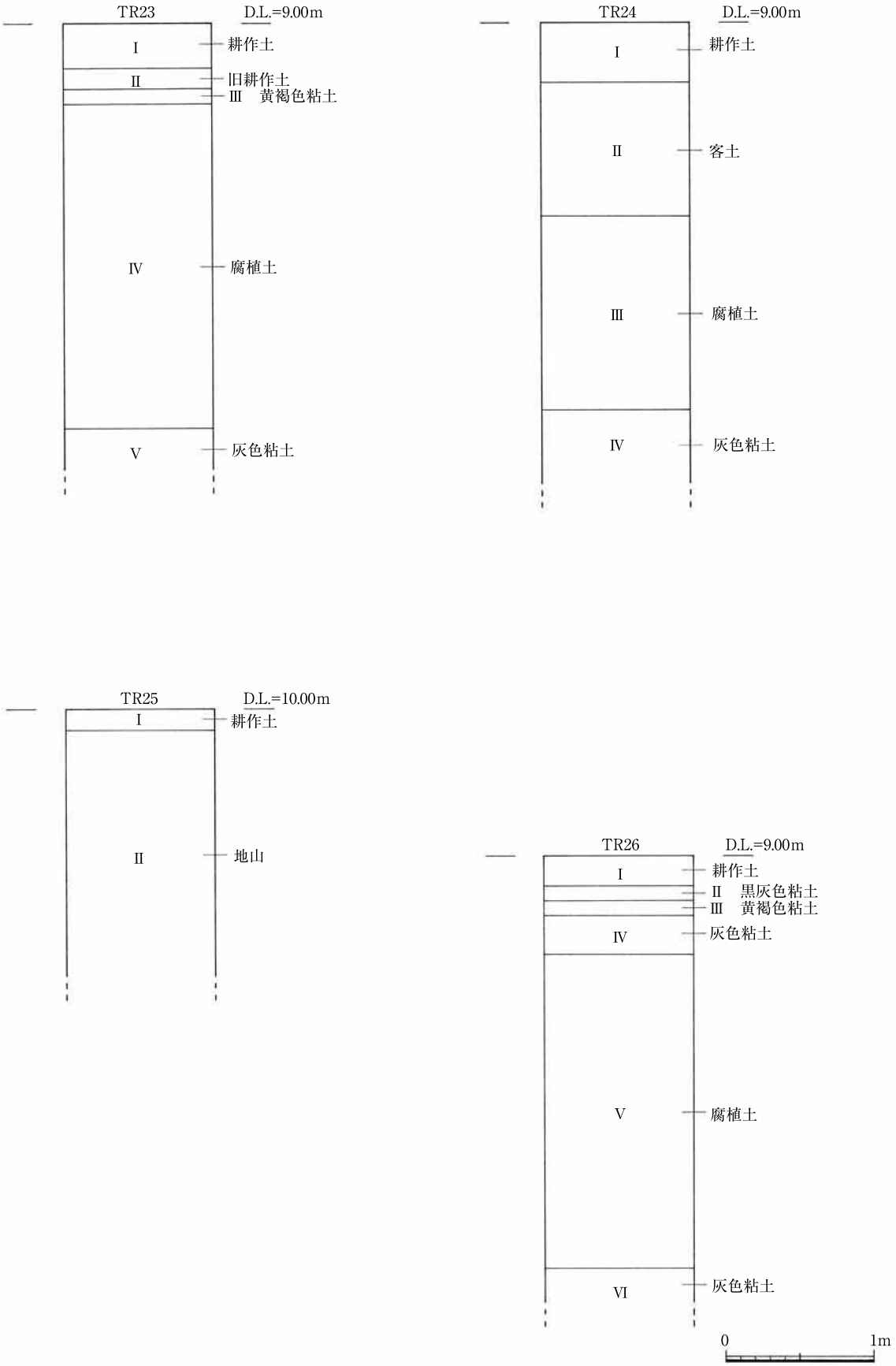


Fig.26　確認調査（3）TR23・TR24・TR25・TR26柱状図

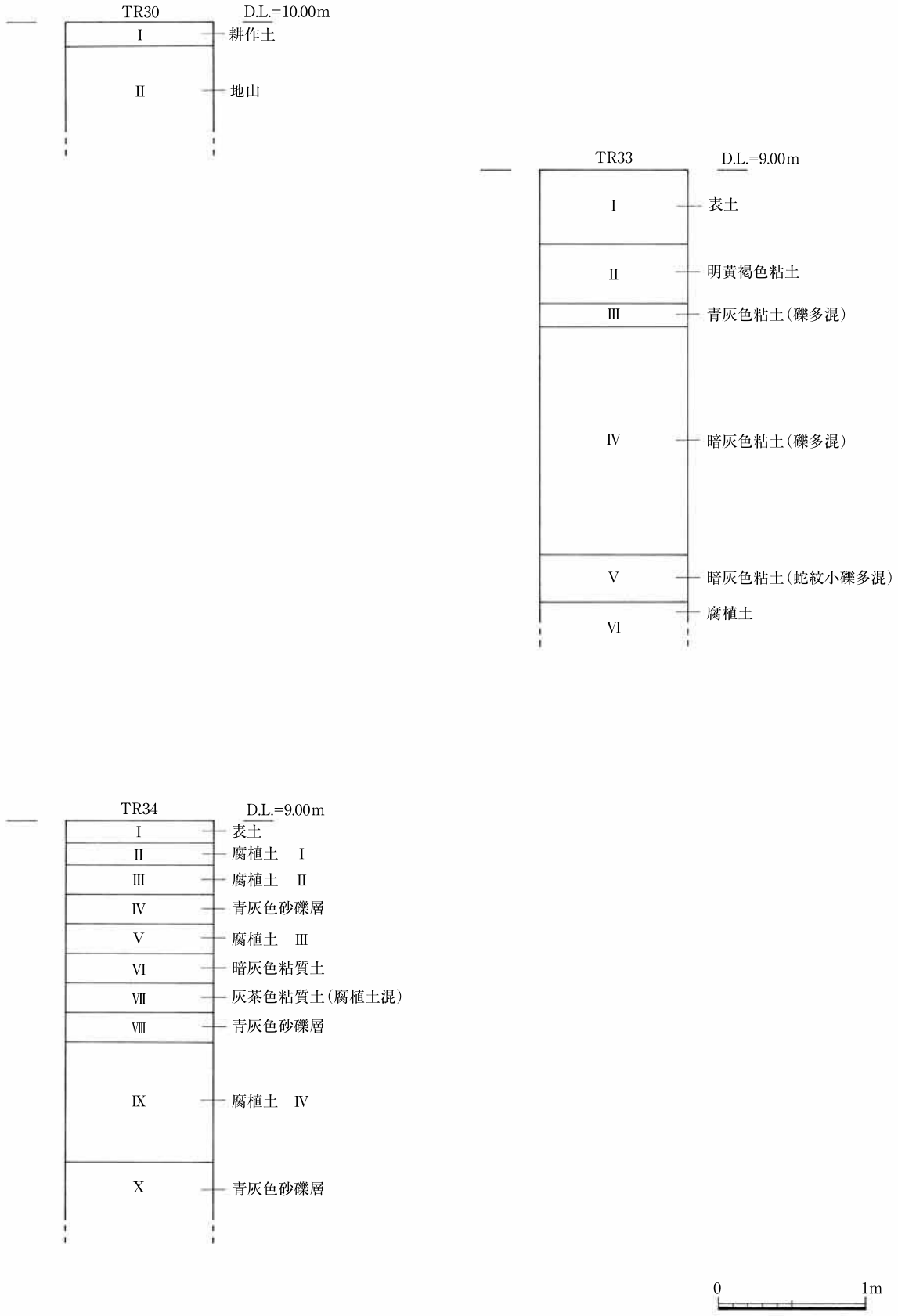


Fig.27　確認調査（3）TR30・TR33・TR34柱状図

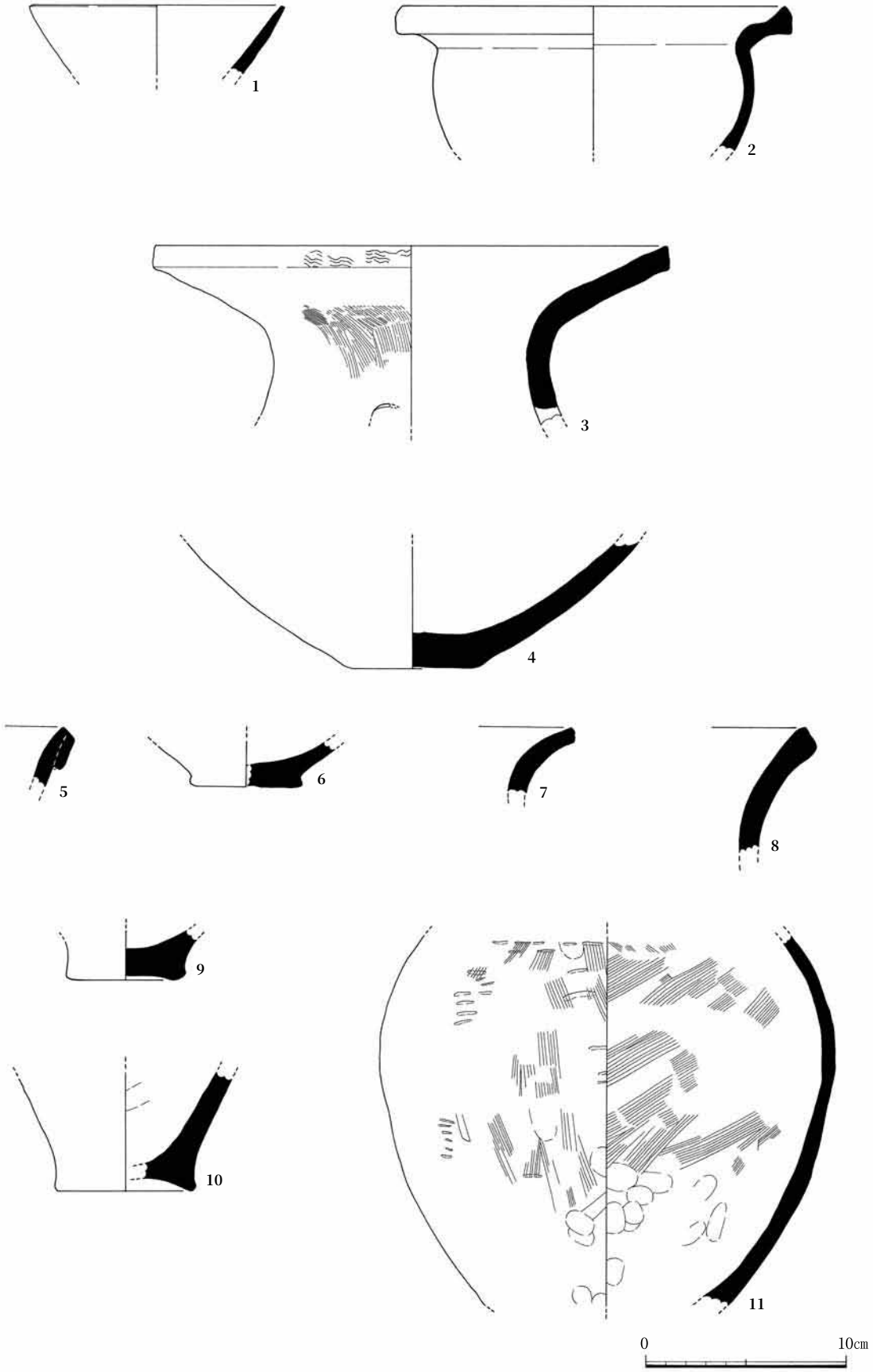


Fig.28 確認調査（3）TR2出土遺物（土器）

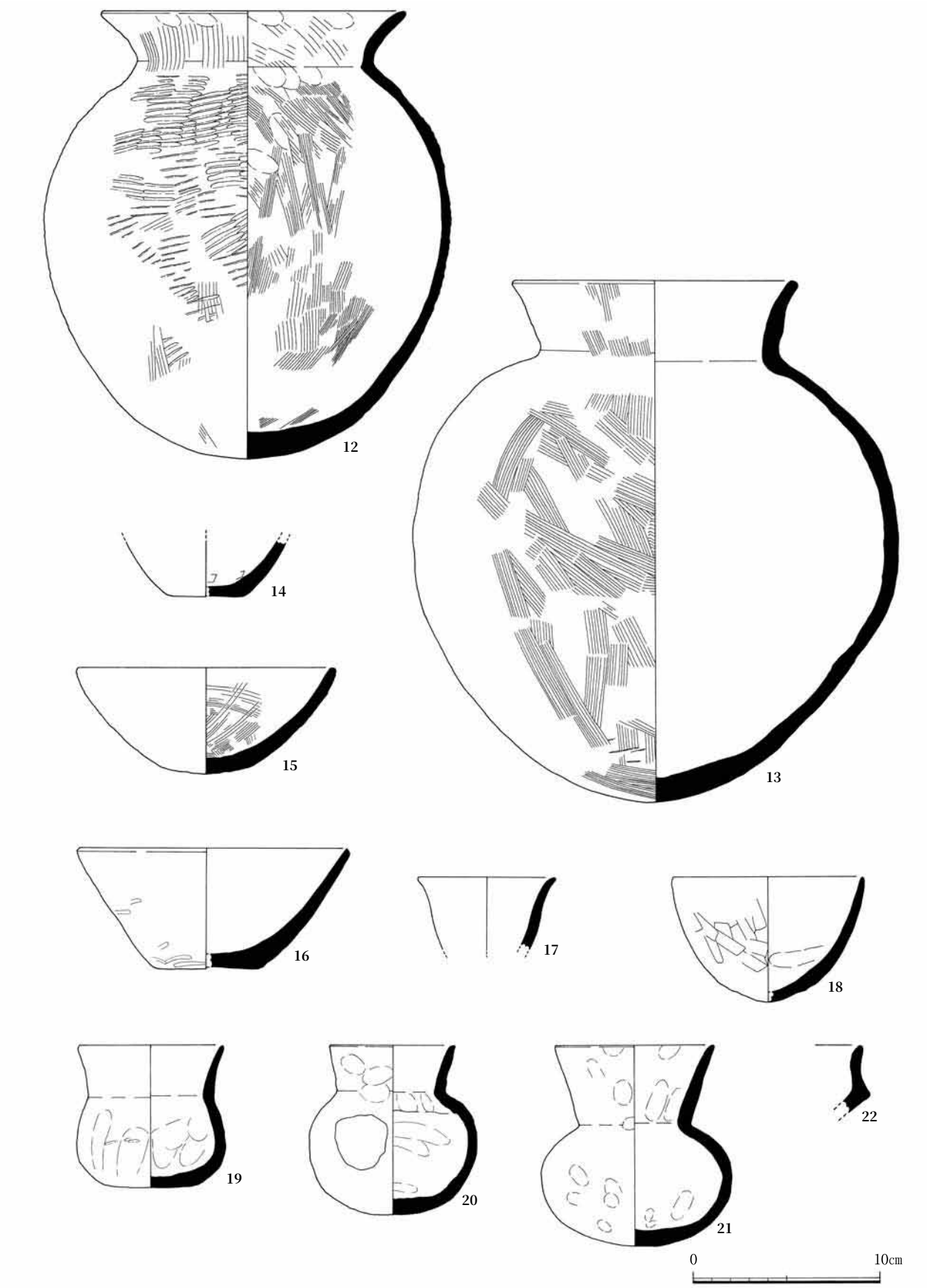


Fig.29 確認調査（3）TR2出土遺物（土器）

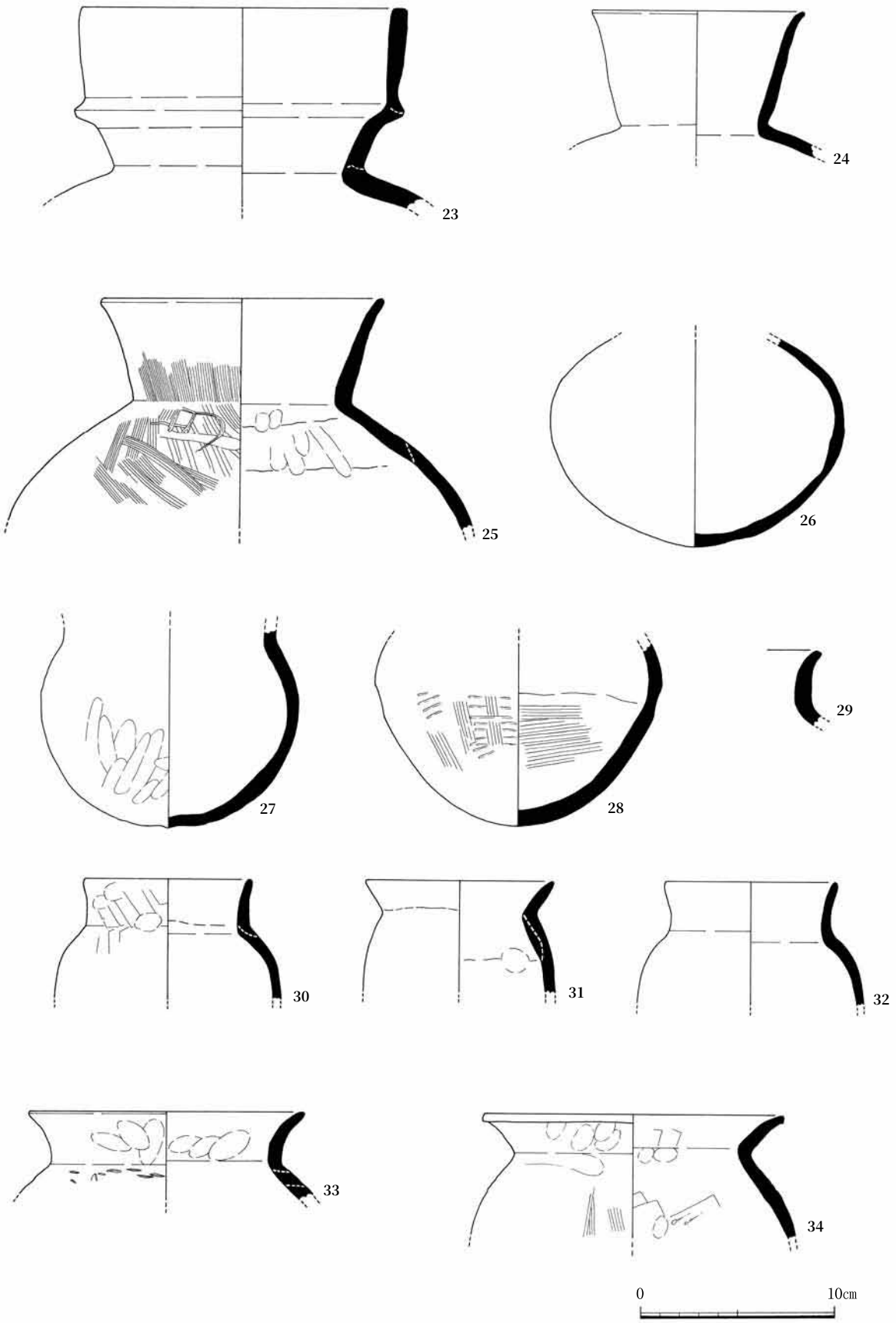


Fig.30 確認調査（3）TR2出土遺物 （土器）

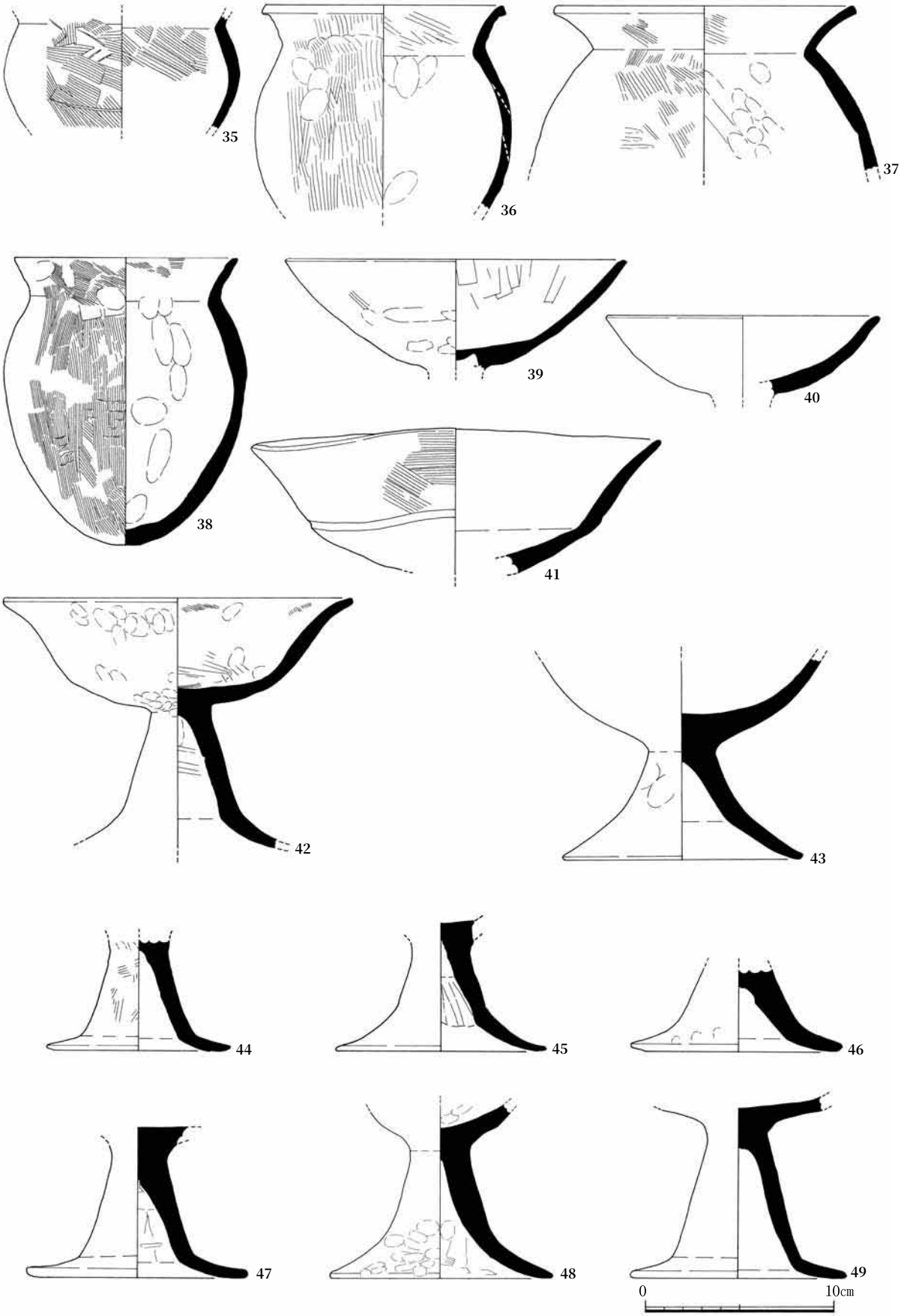


Fig.31　確認調査（3）TR2出土遺物 (土器)

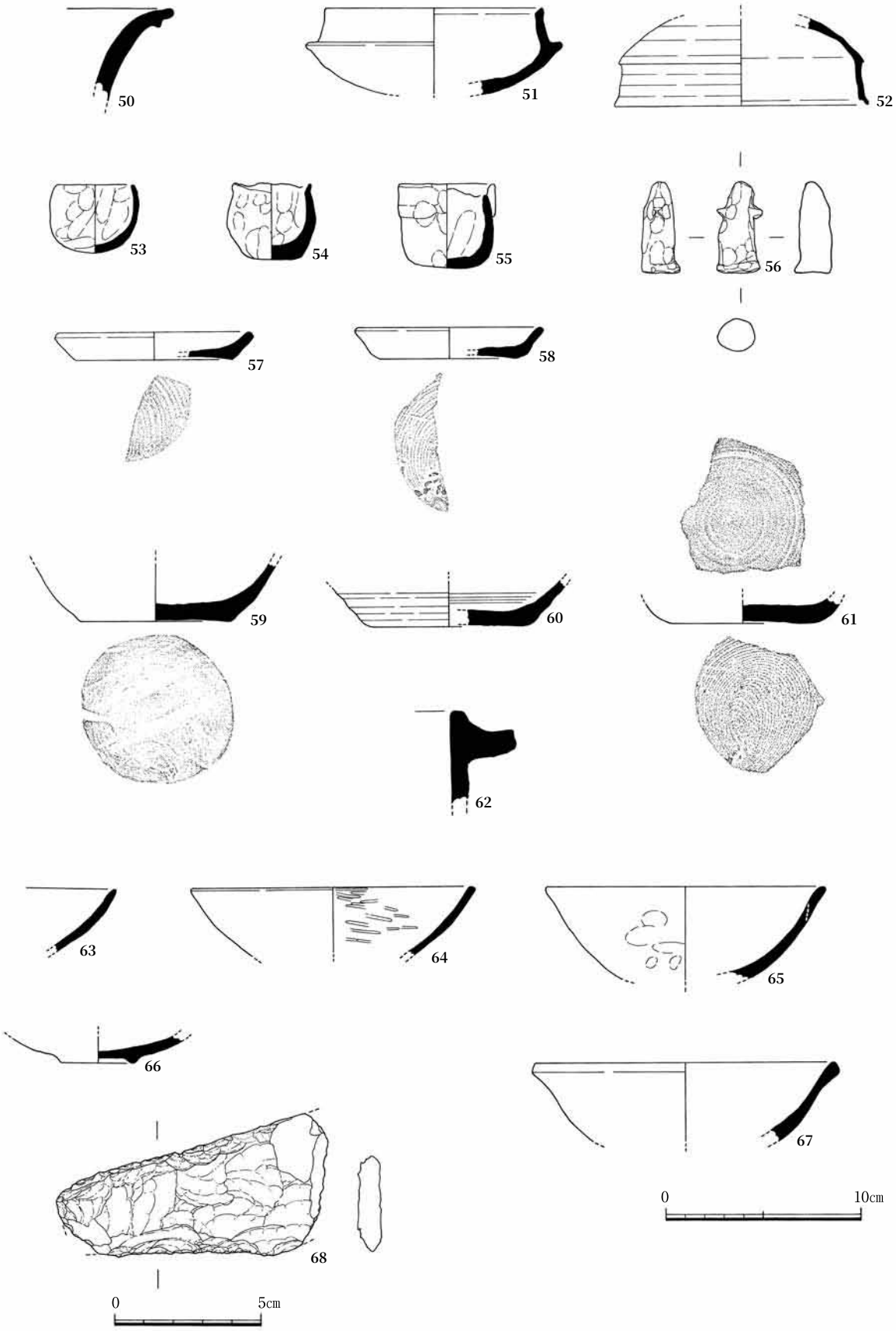


Fig.32　確認調査（3）TR2出土遺物(土器・石器)

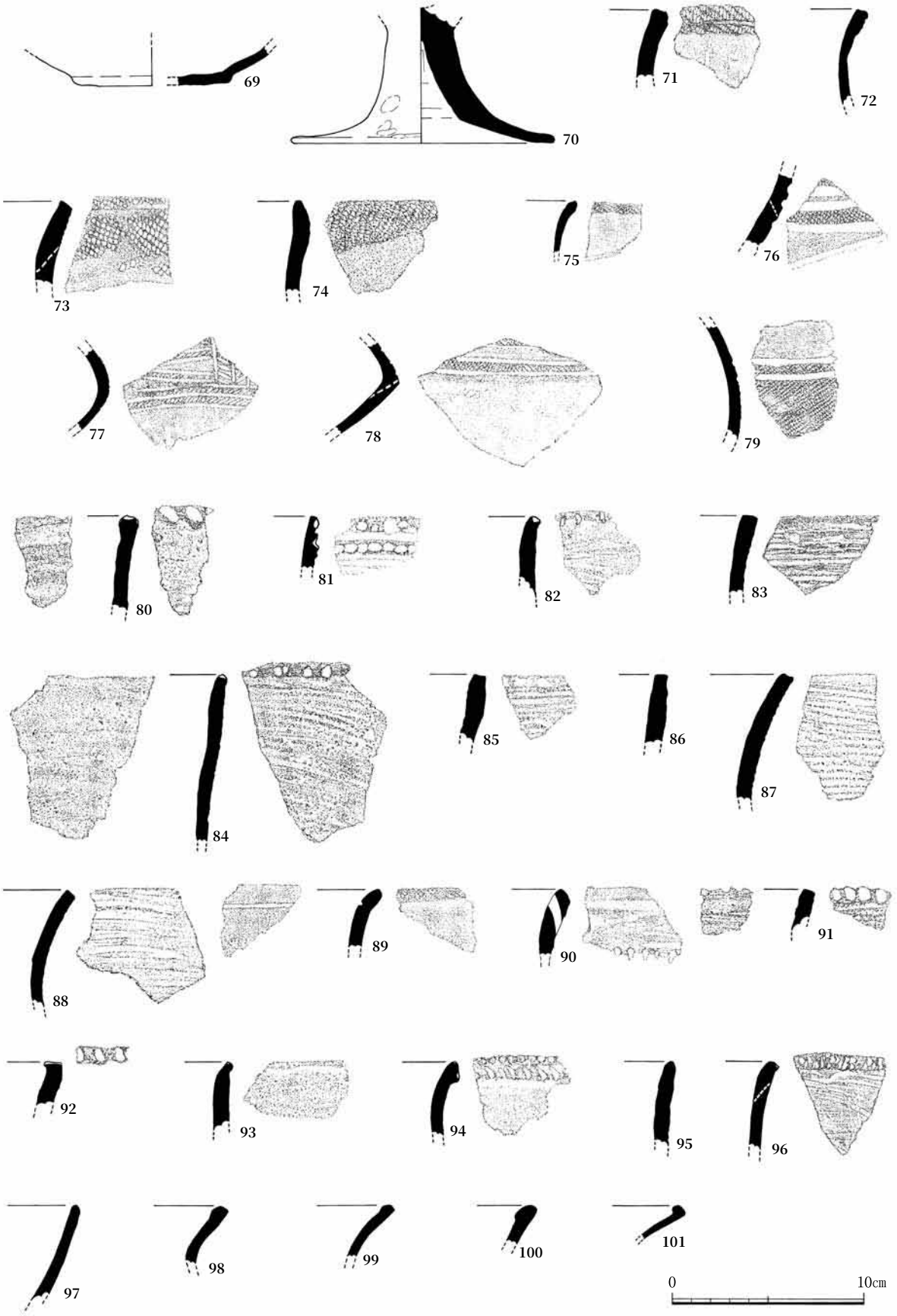


Fig.33　確認調査（3）TR3・TR4・TR7出土遺物(土器)

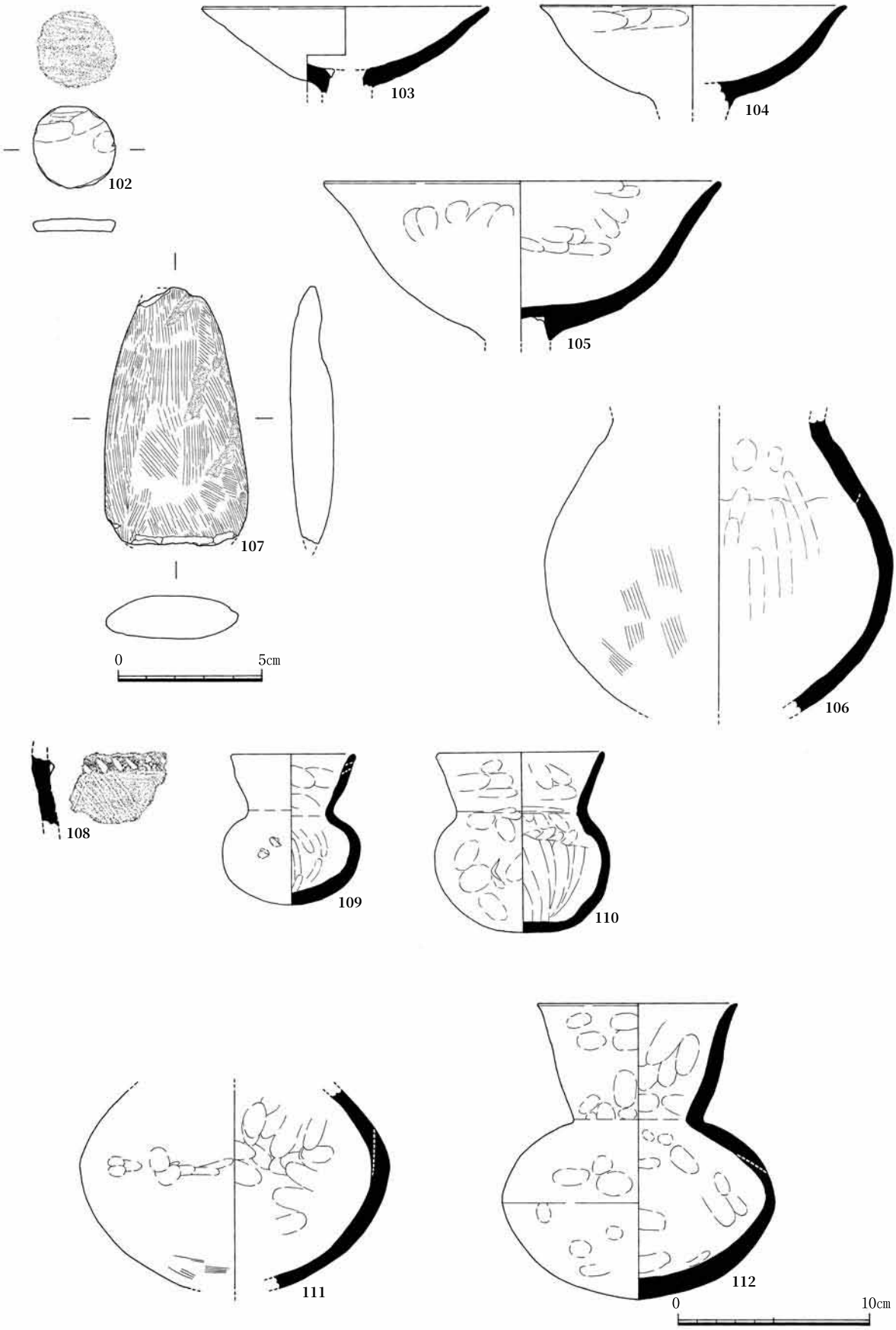


Fig.34　確認調査（3）TR7・TR11出土遺物（土器・石器）

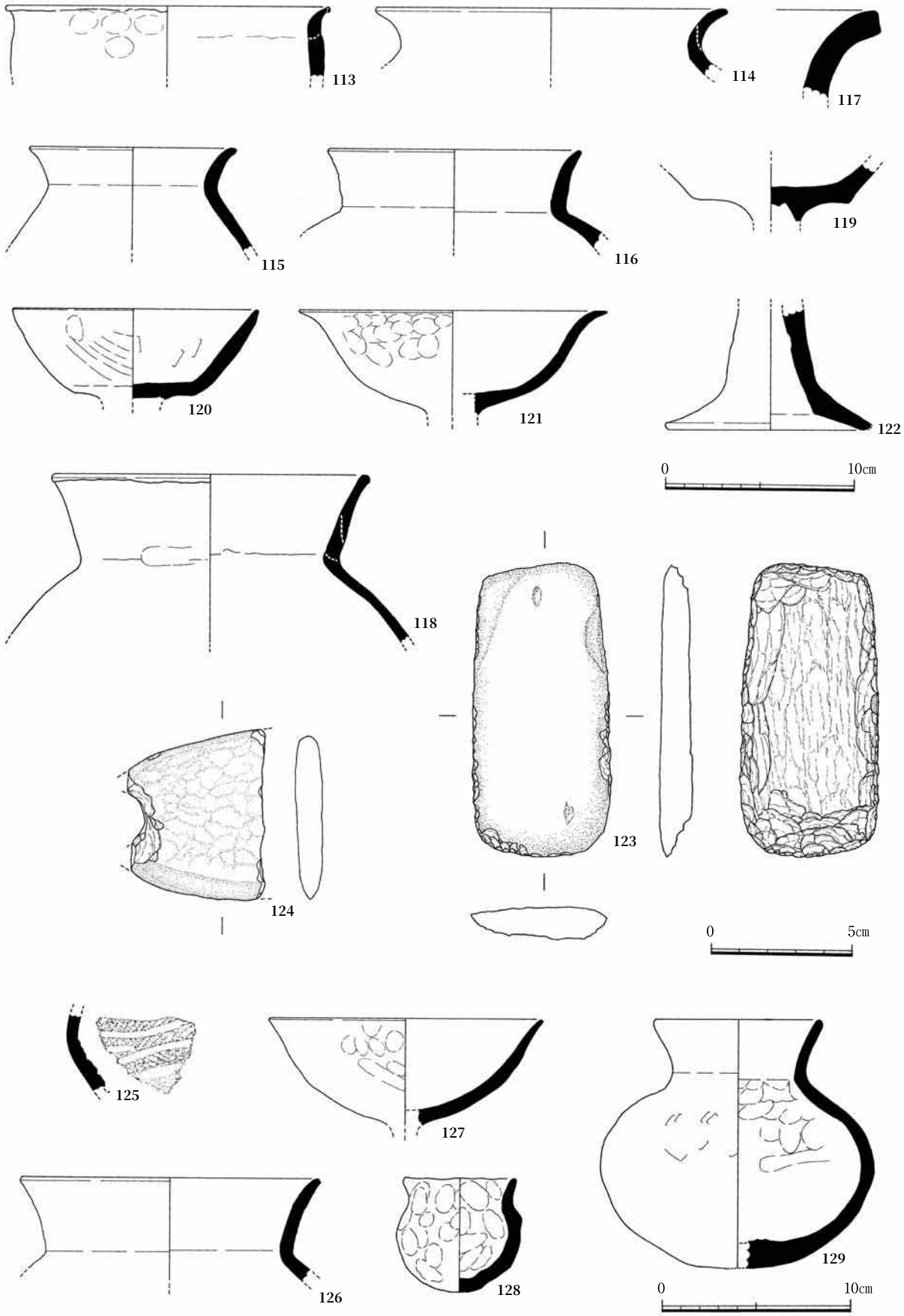


Fig.35　確認調査（3）TR11・TR12出土遺物(土器・石器)

表4　確認調査（3）出土遺物観察表（土器1）

挿図番号	挿図番号 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.28-1	TR2 V層	弥生土器	鉢	12.4	(3.4)			粗粒砂を含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.28-2	TR2 V層	弥生土器	鉢	19.15	(7.2)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。口唇部に凹線文を施すが、摩耗する。
Fig.28-3	TR2 V層	弥生土器	壺	25.4	(9.0)			小礫を多く含む。内面ナデ、頸部外面ハケ調整を施す。口唇部は面を成し、櫛描波状文を施す。摩耗が激しい。頸部に穿孔痕。
Fig.28-4	TR2 V層	弥生土器	壺		(5.8)			粗粒砂を多く含む。内面ナデ、外面ハケ・ナデ調整を施す。
Fig.28-5	TR2 V層	弥生土器	壺		(3.0)			粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.28-6	TR2 V層	弥生土器	壺		(2.25)		(4.9)	粗粒砂を含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.28-7	TR2 V層	弥生土器	甕		(3.3)			粗粒砂を多く含む。内外面ハケ調整を施す。
Fig.28-8	TR2 V層	弥生土器	甕		(5.4)			粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.28-9	TR2 V層	弥生土器	甕		(2.5)		6.0	粗粒砂を多く含む。ナデ調整とみられるが、摩耗する。
Fig.28-10	TR2 V層	弥生土器	甕		(5.9)		(6.8)	微～細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.28-11	TR2 V層	弥生土器	甕		(18.2)	22.8		微～細粒砂を含む。内面ハケ、外面タタキ・ハケ調整を施す。
Fig.29-12	TR2 V層	弥生土器	甕	15.9	24.0	21.7		内面ハケ調整を施す。外面口縁部はハケ調整を施し、胴部はタタキ成形後、部分的にハケ調整を施す。
Fig.29-13	TR2 V層	弥生土器	甕	14.7	22.9	25.9		細～粗粒砂を多く含む。内面ナデ、外面ハケ調整を施す。
Fig.29-14	TR2 V層	土師器	鉢		(3.0)		(4.2)	粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.29-15	TR2 V層	土師器	鉢	13.6	5.65			粗粒砂を含む。内面は荒い原体のハケ、外面はナデ調整を施す。
Fig.29-16	TR2 V層	土師器	鉢	14.3	6.5		(5.4)	粗粒砂を含む。底部は平底。
Fig.29-17	TR2 V層	土師器	椀	7.2	(3.9)			細粒砂を含む。内外面丁寧なナデ調整を施す。
Fig.29-18	TR2 V層	土師器	椀	10.2	6.7			粗粒砂を含む。内面はナデ、外面はヘラナデ調整を施す。下半部に黒斑。
Fig.29-19	TR2 V層	土師器	小型 丸底壺	7.7	7.6	8.0		細粒砂を多く含む。底部は平底。内外面はナデ調整を施す。胴部～底部内面は、指押しによる成形痕が顕著に残る。
Fig.29-20	TR2 V層	土師器	小型 丸底壺	6.7	9.0	9.0		細粒砂を多く含む。内外面ナデ。胴部内面は、成形痕顕著。胴部外面中央部は不整円形に剥離する。外面一部に黒斑有り。
Fig.29-21	TR2 V層	土師器	壺	8.5	10.7	10.2		微～細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.29-22	TR2 V層	土師器	壺		(4.55)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。複合口縁。
Fig.30-23	TR2 V層	土師器	壺	16.65	(10.2)			粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。複合口縁。
Fig.30-24	TR2 V層	土師器	壺	10.9	(7.5)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.30-25	TR2 V層	土師器	壺	14.4	(12.0)			細～粗粒砂を多く含む。頸部～胴部外面ハケ、内面はナデ及び荒い原体のハケ調整を施す。外面煤付着。
Fig.30-26	TR2 V層	土師器	壺		(10.65)	15.2		粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.30-27	TR2 V層	土師器	壺		(10.15)	13.35		細～粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。外面黒斑有り。
Fig.30-28	TR2 V層	土師器	壺		(9.4)	14.85		細粒砂・小礫を含む。内面ハケ、外面タタキ後ハケ調整を施す。
Fig.30-29	TR2 V層	土師器	甕		(3.9)			細粒砂を含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.30-30	TR2 V層	土師器	甕	8.6	(6.2)			粗粒砂を含む。内面ナデ、口縁外面～頸部ヘラナデ調整を施す。 外面の一部に煤付着。
Fig.30-31	TR2 V層	土師器	甕	9.6	(5.7)	10.0		細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.30-32	TR2 V層	土師器	甕	8.75	(6.3)	11.8		粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.30-33	TR2 V層	土師器	甕	14.2	(4.5)			砂粒を含む。内外面ナデ調整を施す。

表5　確認調査（3）出土遺物観察表（土器2）

挿図番号	出土地点 層位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.30-34	TR2 V層	土師器	甕	15.4	(6.4)			砂粒を含む。内面ヘラケズリ。外面ナデ・ハケ。
Fig.31-35	TR2 V層	土師器	甕		(6.0)	12.6		細粒砂を含む。内外面ハケ調整を施す。胴部下半に一条沈線を巡らせる。一部煤付着。
Fig.31-36	TR2 V層	土師器	甕	12.6	(10.7)	13.6		細粒砂を多く含む。胴部内面はナデ、外面及び口縁内面はハケ調整を施す。
Fig.31-37	TR2 V層	土師器	甕	15.6	(8.7)			粗粒砂を多く含む。口縁内外面ハケ、胴部内面ナデ、胴部外面はタタキ後ハケ調整を施す。
Fig.31-38	TR2 V層	土師器	甕	11.8	15.1	12.95		細粒砂を含む。内面指頭及びナデ、外面は部分的なタタキ後ハケ調整を施す。胴部内面一部焼成不良。底部外面黒斑有り。
Fig.31-39	TR2 V層	土師器	高杯	17.8	(5.9)			細粒砂を少量含む。内面ヘラナデ、外面ナデ調整を施す。
Fig.31-40	TR2 V層	土師器	高杯	14.2	(4.3)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.31-41	TR2 V層	土師器	高杯	21.5	(7.7)			細粒砂を多く含む。内面ナデ、外面ハケ調整を施し、明瞭な稜をもつ。内外面の一部に黒斑有り。
Fig.31-42	TR2 V層	土師器	高杯	18.5	(13.2)			細粒砂を含む。杯部内面はハケ・ナデ、外面はナデ、指頭圧痕が残り、部分的に黒斑。脚部内外面ナデ。
Fig.31-43	TR2 V層	土師器	高杯		(10.5)		12.6	細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.31-44	TR2 V層	土師器	高杯		(5.9)		7.4	細粒砂を多く含む。内面ナデ。外面ナデ・ハケ。
Fig.31-45	TR2 V層	土師器	高杯		(6.9)		11.2	粗粒砂を多く含む。内面ナデ、外面ハケ調整を施す。
Fig.49-46	TR2 V層	土師器	高杯		(4.4)		10.2	細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.31-47	TR2 V層	土師器	高杯		(7.9)		11.7	粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.31-48	TR2 V層	土師器	高杯		(9.2)		11.6	粗粒砂を多く含む。脚部内面ハケ後ヘラナデ？
Fig.31-49	TR2 V層	土師器	高杯		(9.5)		11.1	細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.32-50	TR2 V層	須恵器	甕		(4.7)			口縁端部外面に一条の凸帯を巡らせる。内外面ナデ調整を施す。 自然釉付着。
Fig.32-51	TR2 V層	須恵器	杯	11.1	(4.4)			内面回転ナデ。外面回転ヘラケズリ・回転ナデ調整を施す。
Fig.32-52	TR2 V層	須恵器	蓋	13.0	(4.4)			内外面回転ナデ調整を施す。天井部外面に自然釉付着。
Fig.32-53	TR2 V層	手捏ね 土器		3.9	3.5	4.6		微粒砂を含む。指押しによる成形痕が顕著に残る。
Fig.32-54	TR2 V層	手捏ね 土器		3.9	3.9	4.6		細粒砂を含む。指押しによる成形痕が顕著に残る。
Fig.32-55	TR2 V層	手捏ね 土器		4.9	4.3	5.0		微粒砂を含む。指押しによる成形痕が顕著に残る。
				全長	全幅	全厚	重量	
Fig.32-56	TR2 V層	土製品	人形	4.6	2.4	1.9	15.8g	微粒砂を僅に含む。顔は作らず、両手部は摘み取り付ける。
Fig.32-57	TR2 Ⅳ層	土師器	皿	9.8	1.4		(8.0)	内外面回転ナデ調整を施す。底部外面は回転糸切り痕。
Fig.32-58	TR2 Ⅳ層	土師器	皿	9.2	1.6		(7.0)	内外面回転ナデ調整を施す。底部外面は回転糸切り痕。
Fig.32-59	TR2 Ⅳ層	土師器	杯		(2.9)		7.9	内外面回転ナデ調整を施す。底部外面回転糸切り痕・板状圧痕が残る。
Fig.32-60	TR2 Ⅳ層	土師器	杯		(2.35)		(7.3)	内外面回転ナデ調整を施す。底部外面は回転糸切り痕。
Fig.32-61	TR2 Ⅳ層	土師器	杯		(1.2)		7.4	内面は成形痕、底部外面は回転糸切り痕が顕著に残る。
Fig.32-62	TR2 Ⅳ層	土師器	羽釜		(4.65)			口縁端部外面に水平の鍔が付く。摂津型。
Fig.32-63	TR2 Ⅳ層	瓦器	椀		(3.2)			内外面ナデ調整を施す。内面僅かに暗文。
Fig.32-64	TR2 Ⅳ層	瓦器	椀	14.6	(3.3)			内面に暗文を施すが、全体的に焼成不良。
Fig.32-65	TR2 Ⅳ層	瓦器	椀	12.2	(4.7)			全体的に焼成不良。
Fig.32-66	TR2 Ⅳ層	瓦器	椀		(1.4)		3.8	断面台形の高台を貼り付ける。
Fig.32-67	TR2 Ⅳ層	土師質	椀	15.4	(4.0)			内外面とも丁寧なナデ調整を施す。

表6　確認調査（3）出土遺物観察表（土器3）

挿図番号	出土地点 層位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.33-69	TR3 Ⅳ層	土師器	椀		(2.0)		(8.0)	微粒砂を多く含む。底部外面は回転糸切り痕が残る。
Fig.33-70	TR4 Ⅶ～Ⅷ層	土師器	高杯		(7.0)		(13.9)	細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。脚部内面にヘラ状工具痕が顕著に残る。
Fig.33-71	TR7 Ⅲ層	縄文土器	深鉢		(3.5)			細粒砂を多く含む。口唇部及び口縁端部に縄文を施す。他はナデ調整を施す。
Fig.33-72	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.9)			微粒砂を多く含む。内外面ヘラミガキ、口唇部～口縁端部に縄文を施す。
Fig.33-73	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.3)			細粒砂を多く含む。内面ナデ、口唇部～外面に縄文を施すが、部分的に磨り消す。
Fig.33-74	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.7)			粗粒砂を多く含む。内面ナデ調整、外面端部は縄文を施す。他はナデ調整を施す。
Fig.33-75	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(2.7)			砂粒を多く含む。内外面ヘラミガキ、端部外面は磨消縄文を施す。
Fig.33-76	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	鉢		(4.0)			微粒砂を多く含む。内面ナデ調整を施す。平城式。
Fig.33-77	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	鉢		(4.2)			三本単位の沈線刻みで擬縄文を表わす。片粕式に併行か。
Fig.33-78	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	鉢		(4.7)			口縁に文様帯が残る。他は無文。彦崎KⅡ式併行。
Fig.33-79	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	浅鉢		(5.85)			砂粒を多く含む。内面ナデ調整。外面2条沈線後縄文を施文する。
Fig.33-80	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.9)			細粒砂を多く含む。内面ナデ調整を施す。外面は、摩耗のため不明。口唇に太く斜方向の刻み。
Fig.33-81	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(2.6)			砂粒を多く含む。内面ナデ調整を施す。外面は刺突状刻み。
Fig.33-82	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.2)			細粒砂を多く含む。内面ナデ調整を施す。外面は条痕後ナデ調整を施す。口唇部に刻目有り。
Fig.33-83	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.0)			細粒砂を多く含む。内面ナデ、外面は条痕調整を施す。
Fig.33-84	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(8.6)			細粒砂～砂礫を多く含む。内面ナデ、外面は条痕調整を施す。
Fig.33-85	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.5)			微粒砂～小礫を含む。内面ナデ、外面は条痕調整を施す。
Fig.33-86	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.55)			粗粒砂を多く含む。内面ナデ、外面は条痕調整を施す。
Fig.33-87	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(6.55)			粗粒砂を含む。内面ナデ、外面は条痕調整を施す。
Fig.33-88	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(6.05)			粗粒砂を含む。内面ナデ、外面は条痕調整を施す。
Fig.33-89	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.0)			細粒砂～砂礫を含む。内外面ナデ調整を施す。口縁部内面に一条沈線を施す。
Fig.33-90	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.4)			微粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施し、端部外面に強い横ナデを施す。内面斜上方向よりの穿孔痕有り。
Fig.33-91	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(2.15)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。口唇部刻み有り。
Fig.33-92	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(2.25)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。口唇部に刻み有り。
Fig.33-93	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.45)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.33-94	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.9)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。口唇及び端部外面刻み有り。
Fig.33-95	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.35)			微～粗粒砂を含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.33-96	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.55)			細粒砂を多く含む。内面丁寧なナデ、外面は荒目のナデ調整を施す。口唇部に細かい刻み有り。
Fig.33-97	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	浅鉢		(4.95)			砂粒をほとんど含まない。内外面ヘラミガキ、端部内外面には沈線を施す。黒色磨研。
Fig.33-98	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	浅鉢		(3.0)			精選された胎土。内外面ヘラミガキ調整を施す。 黒色磨研。
Fig.33-99	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	浅鉢		(2.65)			微粒砂を含む。内外面摩耗のため不明。 黒色磨研。
Fig.33-100	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	浅鉢		(2.0)			微粒砂を含む。内外面摩耗のため不明。 黒色磨研。
Fig.33-101	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	浅鉢		(1.7)			精選された胎土。内外面ヘラミガキ調整を施す。 黒色磨研。

表7　確認調査（3）出土遺物観察表（土器4）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.34-102	TR7 Ⅹ～Ⅻ層	縄文土器	土製円盤	全　長 4.2	全　幅 4.3	全　厚 0.6	重　量 13.4g	細粒砂を多く含む。
Fig.34-103	TR7 Ⅸ層	土師器	高杯	14.9	(4.4)			粗粒砂を含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.34-104	TR7 Ⅸ層	土師器	高杯	15.8	(5.4)			微～細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.34-105	TR7 Ⅸ層	土師器	高杯	20.6	(8.2)			粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.34-106	TR7 Ⅸ層	土師器	壺		(15.1)	18.2		粗粒砂を含む。内面ナデ、外面下半ハケ調整を施す。
Fig.34-108	TR11 ⅩⅣ層	縄文土器	深鉢		(3.75)			粗粒砂を含む。内面ナデ調整、刻目直下に斜行文を施す。
Fig.34-109	TR11 Ⅹ層	土師器	壺	6.4	7.8	7.2		細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施し、胴部内面は、特に強いナデ調整を施す。
Fig.34-110	TR11 Ⅹ層	土師器	壺	8.6	9.4	9.2		砂粒をほとんど含まない。内外面に指頭圧痕、内面下半部は強い指ナデ痕が顕著に残る。外面下半部に黒斑有り。
Fig.34-111	TR11 Ⅺ層	土師器	壺		(10.3)	16.2		細粒砂を若干含む。内面に指頭圧痕顕著に残る。外面ハケ後ナデ調整を施す。外面一部に黒斑有り。張りのある球胴状。
Fig.34-112	TR11 Ⅹ層	土師器	壺	10.4	15.3	14.3		細粒砂を多く含む。内外面指頭及びナデ調整を施す。胴部内面一帯は焼成不良。底部外面一部に黒斑有り。
Fig.35-113	TR11 Ⅹ層	土師器	甕	17.25	(3.7)			細粒砂を多く含む。内面ナデ、外面ハケ・ナデ調整を施す。
Fig.35-114	TR11 Ⅹ層	土師器	甕	18.5	(3.5)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.35-115	TR11 Ⅹ層	土師器	甕	11.05	(5.4)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.35-116	TR11 Ⅹ層	土師器	甕	13.2	(5.15)			粗粒砂を含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.35-117	TR11 Ⅹ層	土師器	甕		(4.6)			小礫を多く含む。内面ナデ、外面ナデ・ハケ調整を施す。
Fig.35-118	TR11 Ⅹ層	土師器	甕	16.6	(8.8)			粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.35-119	TR11 Ⅹ層	土師器	高杯		(3.0)			粗粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.35-120	TR11 Ⅹ層	土師器	高杯	12.8	(4.8)			粗粒砂を含む。内外面ナデ・ヘラ状ナデ調整を施す。
Fig.35-121	TR11 Ⅹ層	土師器	高杯	16.4	(5.5)		10.3	細粒砂を含む。内面ナデ・ハケ、外面指頭圧痕及びハケ調整を施す。
Fig.35-122	TR11 Ⅹ層	土師器	高杯		(6.4)			粗粒砂を含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.35-125	TR12 Ⅷ層	縄文土器	鉢		(4.05)			細粒砂を多く含む。
Fig.35-126	TR12 Ⅵ層	土師器	甕	15.6	(5.4)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。外面には煤が厚く付着する。
Fig.35-127	TR12 Ⅵ層	土師器	高杯	14.3	(5.6)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ調整を施す。
Fig.35-128	TR12 Ⅵ層	手捏ね 土器		5.9	6.0			細粒砂を多く含む。内外面は指押しによる成形痕が顕著に残る。
Fig.35-129	TR12 Ⅵ層	土師器	壺	8.7	13.0	14.55		砂粒をほとんど含まない。頚部内面に強い指押し接合痕が顕著に残る。外面ナデ・ヘラナデ。

表8　確認調査（3）遺物観察表（石器）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	法　量 全長（cm）	全幅（cm）	全厚（cm）	重量（g）	特　　徴
Fig.32-68	TR2 Ⅳ層	スクレーパ	925	4.85	0.8	41.8	刃部の中位程が僅に欠損する。背部側に磨製、光沢部を確認できる。手擦れか。頁岩製。
Fig.34-107	TR7 Ⅵ層	両刃 磨製石斧	9.05	5	1.55	111.8	刃部・基部は部分的に欠損する。両面に研磨を施し、擦痕が顕著に残る。蛇紋岩製。
Fig.35-123	TR11	打製石斧	10.4	4.9	1.2	101.6	完存する。片刃であり、主に打割面側に調整を施す。打割面は風化（?）する。片面は礫皮面を残す。結晶片岩製。
Fig.35-124	TR11 Ⅺ層	磨製石包丁	4.85	6.1	1	44.1	1／2以上が欠損する。有抉石器。刃部は両刃を研磨する。抉部は紐擦れ（?）により滑面化する。背部は手擦れにより、一部滑面化する。結晶片岩？

（3） 1Ｅ区

1. 調査区の概要

本調査区は居徳遺跡群第1調査地区の南西に位置する調査区で，調査前の状態は水田であった。本調査区の北側には埋没小丘陵が存在している。調査区全体の地勢は南に向かって傾斜しており，調査区北部と南部では土層の堆積状況が大きく異なる。古墳時代の遺物包含層は南部でのみ確認され，弥生時代の遺物包含層は調査区の北部でのみ確認されている。遺構検出面は2面確認されており，調査区北部では縄文時代晩期～弥生時代前期の遺構が確認され，調査区南部では古墳時代とみられる自然流路が1条検出された。

2. 調査の方法

本調査区は遺構検出面が2面存在しており，第1遺構検出面，第2遺構検出面とも耕作土及び遺物包含層の上層まで重機掘削を行った。その後，公共座標に乗った4m四方のグリッドを設定し，遺物包含層の人力掘削を行った。検出された遺構は人力で掘削し，状況に応じて断面図，平面図を作成した。

3. 層序

1Ｅ区で認められた層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　耕作土層

第Ⅱ層　褐灰色（10YR4/1）シルト層

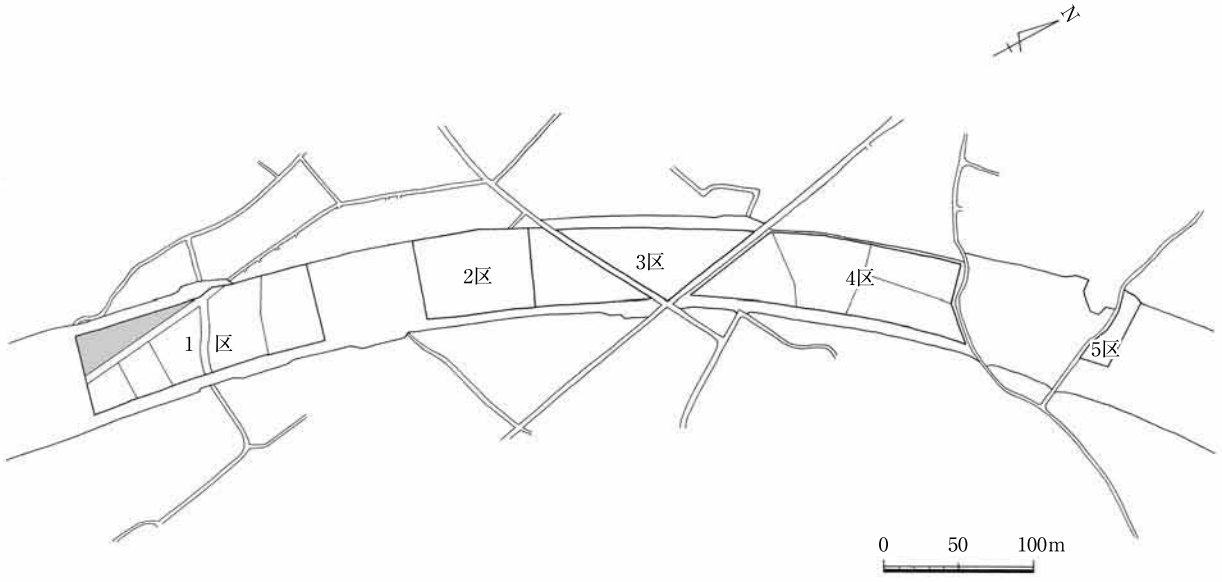


Fig.36　1E区の位置（S:1/5,000）

第Ⅲ層　黒褐色(10YR3/1)シルト層

第Ⅳ層　灰色(7.5Y5/1)シルト層

第Ⅴ層　灰色(7.5Y4/1)粘土質シルト層

第Ⅵ層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト層

第Ⅶ層　灰黄褐色(10YR4/2)シルト層

第Ⅷ層　黄灰色(2.5Y4/1)シルト層

第Ⅸ層　黒色(5Y2/1)粘土質シルト層

第Ⅹ層　灰色(5Y4/1)粘土質シルト層

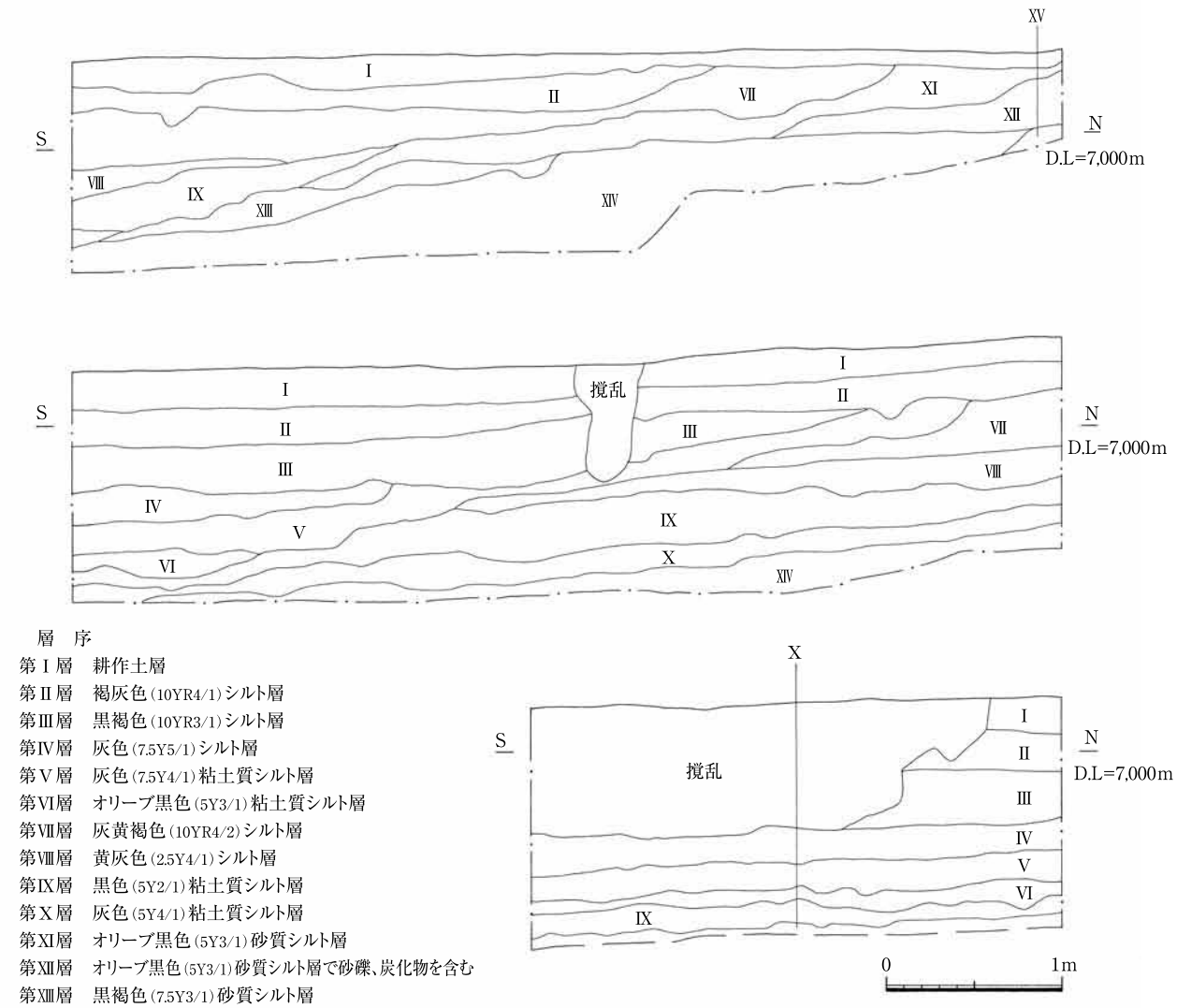
第Ⅺ層　オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト層

第Ⅻ層　オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト層で砂礫，炭化物を含む

第XIII層　黒褐色(7.5Y3/1)砂質シルト層

第XIV層　黒色(5Y2/1)砂質シルト層

第XV層　オリーブ黒色(5Y3/2)砂層



層　序

第Ⅰ層　耕作土層

第Ⅱ層　褐灰色(10YR4/1)シルト層

第Ⅲ層　黒褐色(10YR3/1)シルト層

第Ⅳ層　灰色(7.5Y5/1)シルト層

第Ⅴ層　灰色(7.5Y4/1)粘土質シルト層

第Ⅵ層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト層

第Ⅶ層　灰黄褐色(10YR4/2)シルト層

第Ⅷ層　黄灰色(2.5Y4/1)シルト層

第Ⅸ層　黒色(5Y2/1)粘土質シルト層

第Ⅹ層　灰色(5Y4/1)粘土質シルト層

第Ⅺ層　オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト層

第Ⅻ層　オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト層で砂礫、炭化物を含む

第XIII層　黒褐色(7.5Y3/1)砂質シルト層

第XIV層　黒色(5Y2/1)砂質シルト層

第XV層　オリーブ黒色(5Y3/2)砂層

Fig.37　1E区西壁セクション図

層位中，遺物包含層は第Ⅵ層，第Ⅺ層，第Ⅻ層で，遺構が検出されたのは第Ⅸ層及び第ⅩⅣ～ⅩⅤ層上面であった。

第Ⅰ層の表土層は現在の耕作土である。厚さ20～30㎝を測り，層位の下部ではマンガンの沈着がみられた部分もある。現況は水田である。

第Ⅱ層から第Ⅴ層までは自然堆積層である。下層にいくにしたがって粘土化が著しく，湿地の様相を呈していたと考えられる。

第Ⅵ層は古墳時代の遺物包含層で，第Ⅸ層上面では古墳時代の自然流路を検出した。

第Ⅺ層・第Ⅻ層は弥生の遺物包含層であり，調査区の北部でのみ確認された。地勢に沿って，

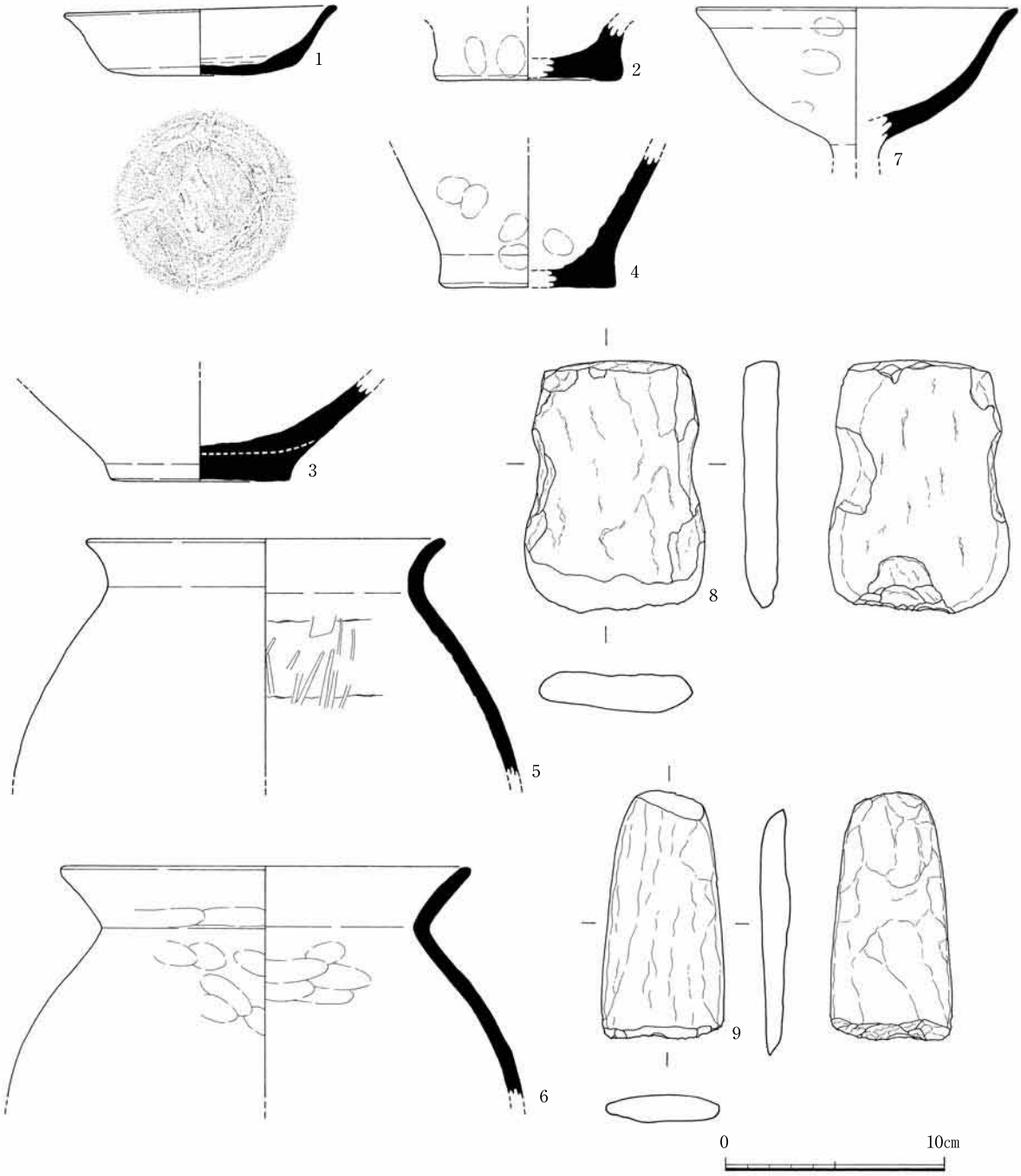


Fig.38　1E区第Ⅴ・Ⅵ層出土遺物（縄文土器・弥生土器・土師器ほか　8・9=1/2）

南方向にむけて傾斜している。

第XIII層から第XV層は自然堆積層である。調査区北部でのみ確認された第XV層は粘土化しておらず，比較的乾燥した状況であったと考えられる。

4. 堆積層出土遺物

第Ⅴ層出土遺物

土師質土器(Fig.38-1)

1は杯である。体部は斜め上方に直線的に立ち上がり，口縁部をやや外反させ，口縁端部は丸く仕上げる。

第VI層出土遺物

縄文土器(Fig.38-2)

2は深鉢の底部破片で，胴部は殆ど残存しない。全体的に摩耗が著しいが外面には指頭圧痕が残る。

弥生土器(Fig.38-3・4)

3は壺の底部破片で，胴部が大きく開いて立ち上がる。

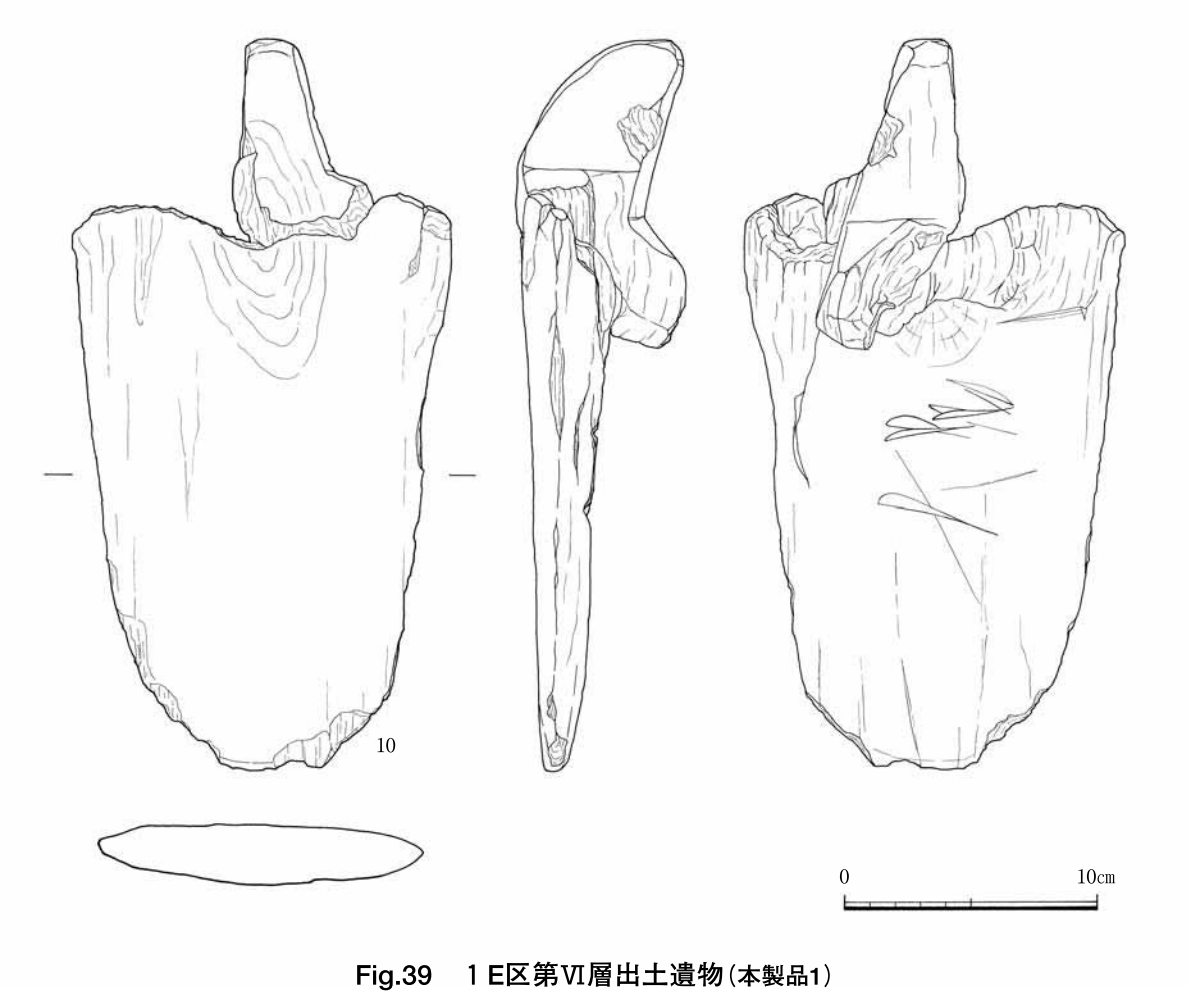


Fig.39　1E区第VI層出土遺物(本製品1)

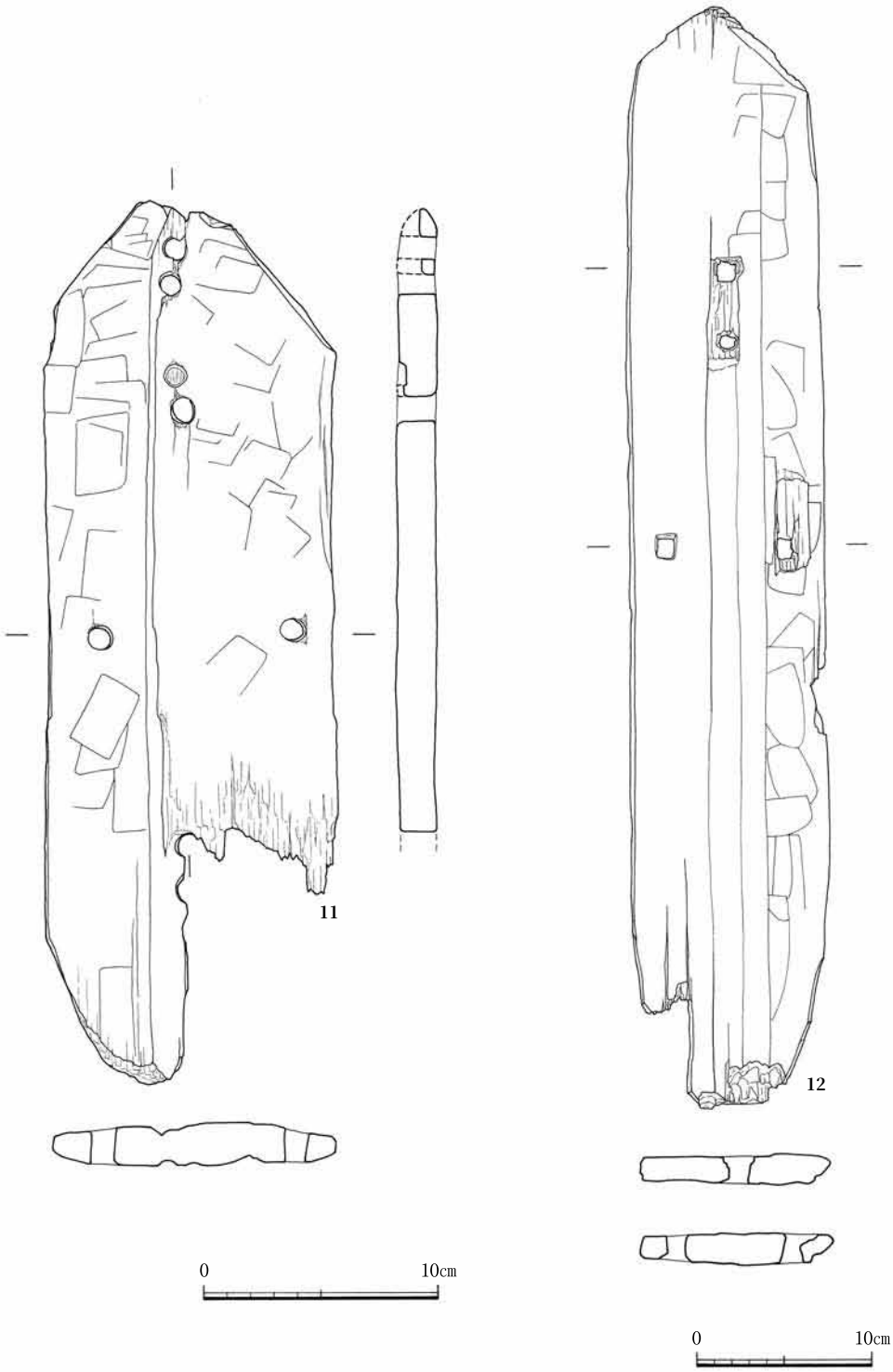


Fig.40　1E区第VI層出土遺物（木製品2）

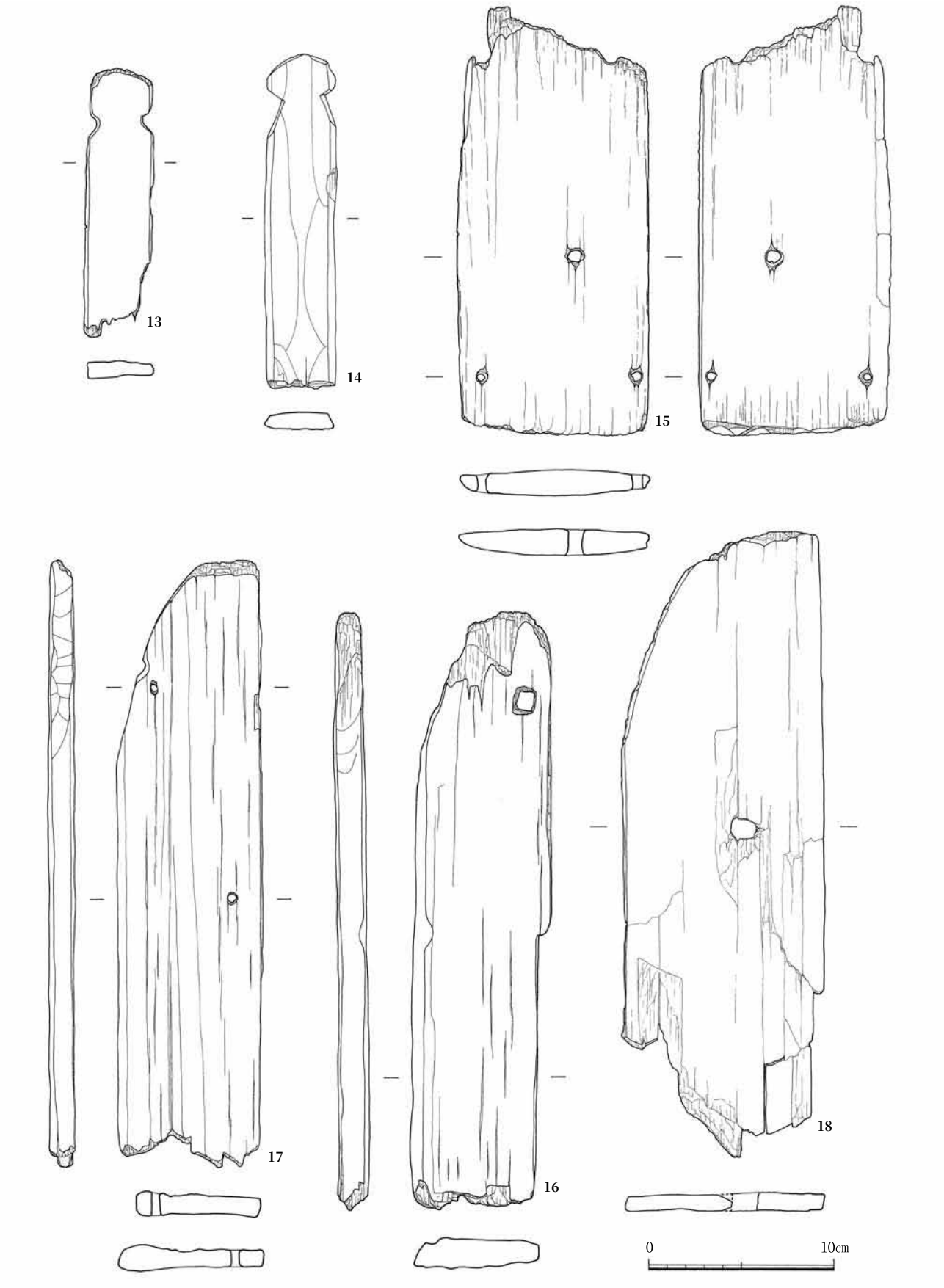


Fig.41　1E区第VI層出土遺物 （木製品3）

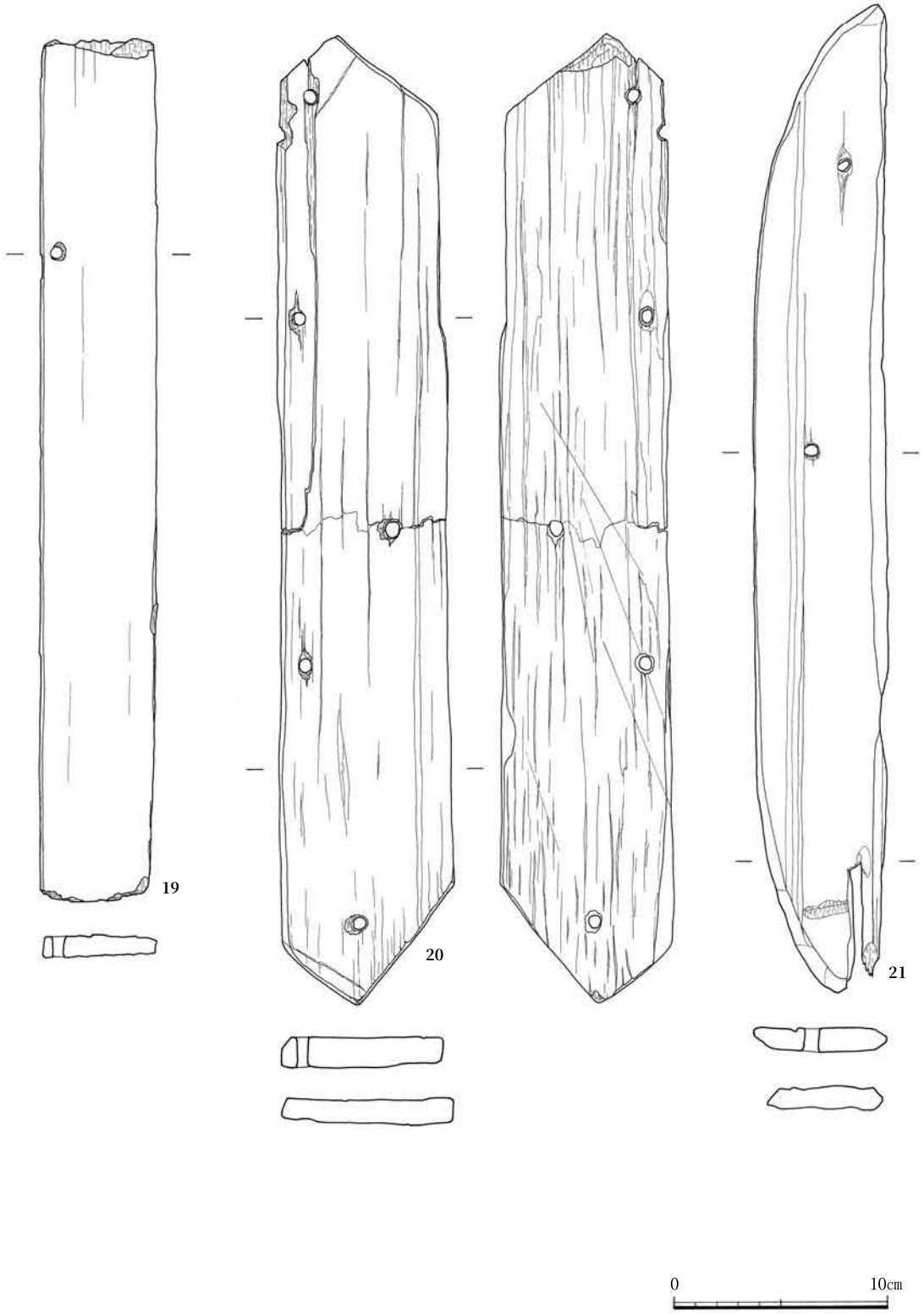


Fig.42　1E区第VI層出土遺物（木製品4）

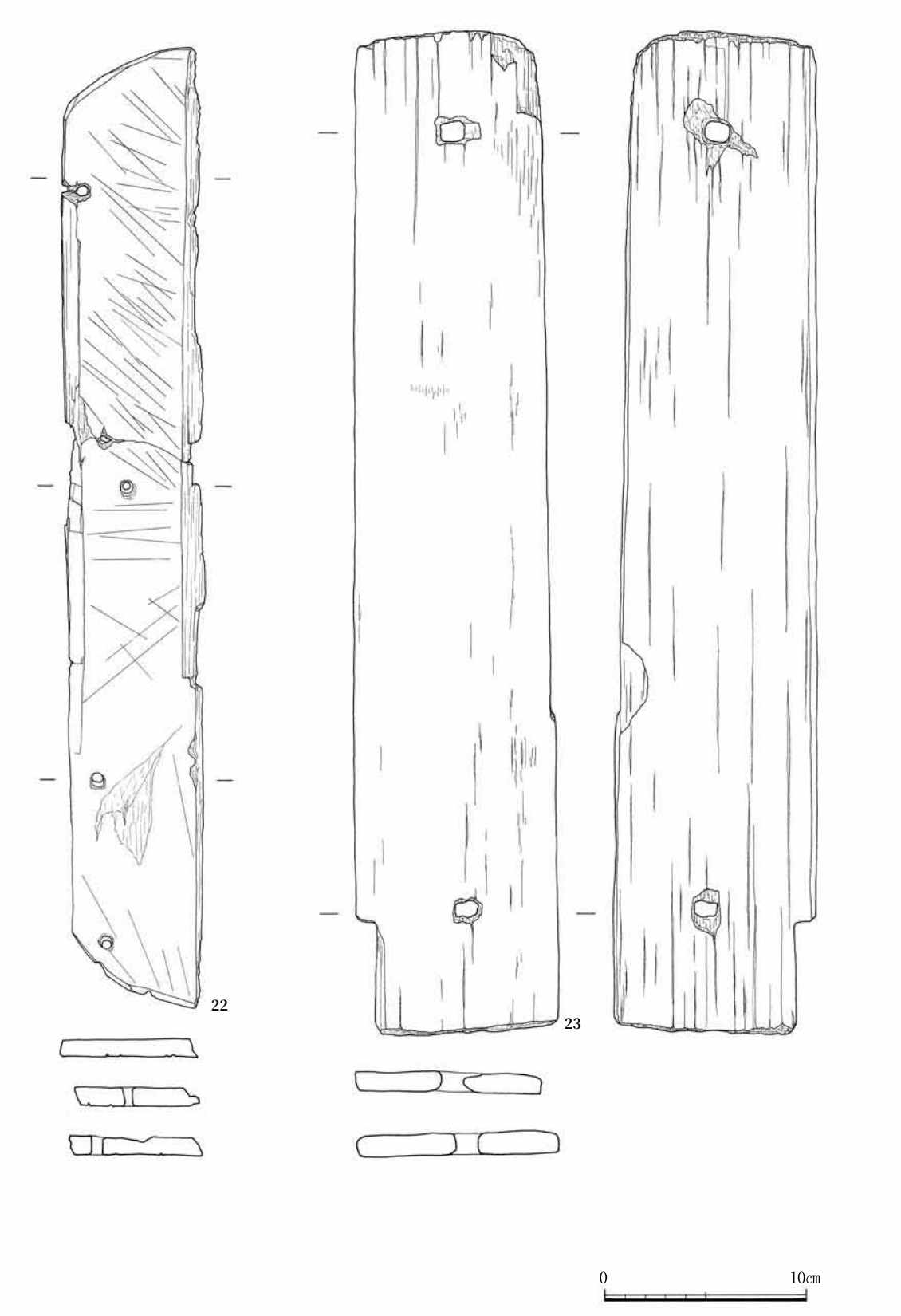


Fig.43　1E区第VI層出土遺物 （木製品5）

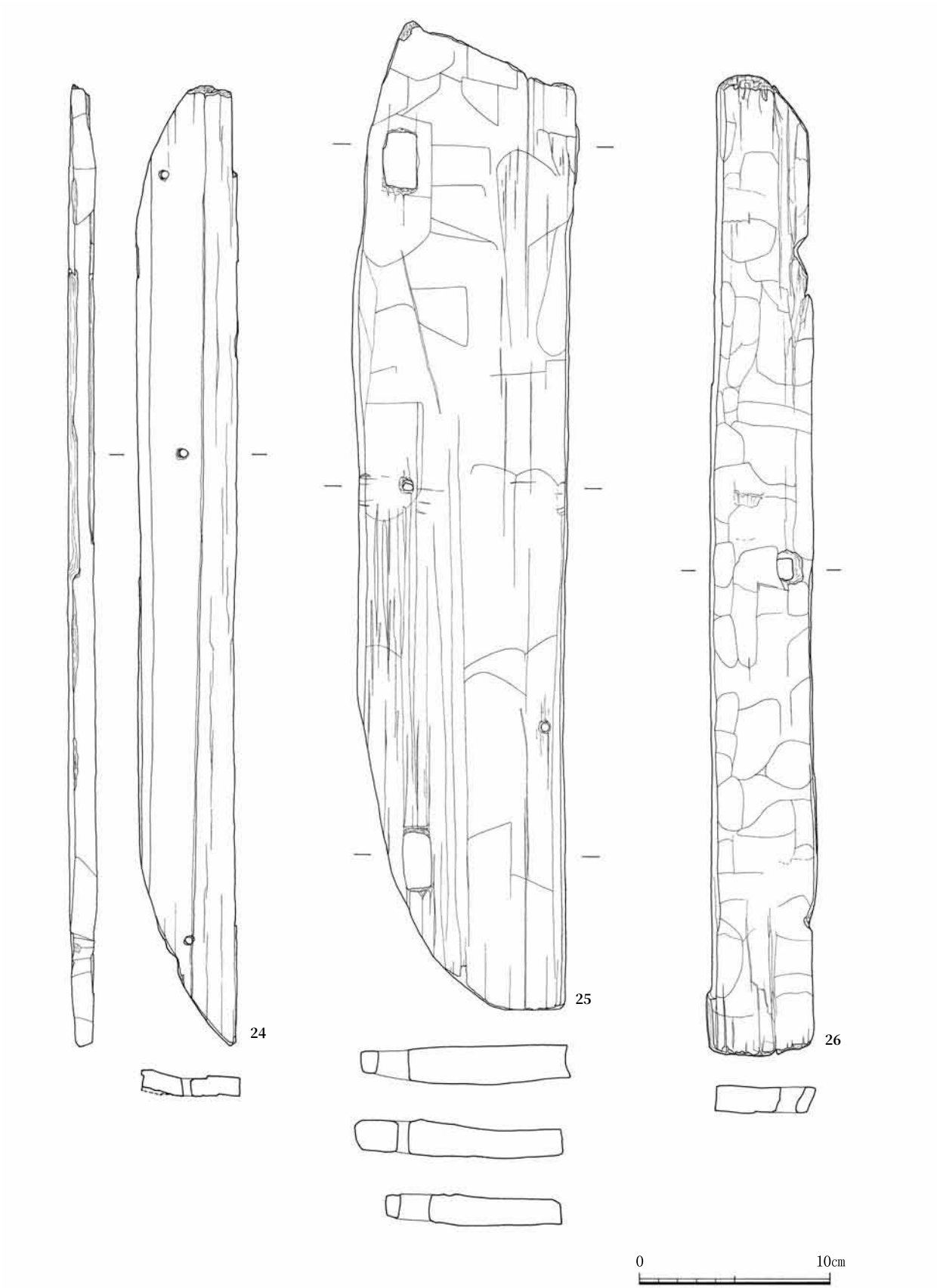


Fig.44　1E区第VI層出土遺物　(木製品6)

4は甕の底部破片で，胴部は斜め上方に直線的に立ち上がる。

土師器（Fig.38-5～7）

5・6は甕である。5は口縁部が緩やかに外反し，口縁端部を丸く仕上げる。6は口縁部が「く」字状に外反し，端部を丸く仕上げる。

7は高杯の杯部破片で，内湾しながら立ち上がり，口縁端部はやや外反する。

石製品（Fig.38-8・9）

8・9は磨製石斧である。8は基部の両側を凹ませており，刃部は使用により欠損している。9は基部のみ残存する。

木製品（Fig.39～45-10～28）

10は鍬と考えられるもので，肩の一部を欠損する。着柄軸は断面「く」字状を呈しており，柄に差し込み使用されたものとみられる。刃部は使用に伴い，欠損・摩滅しており，断面形は楕円形を呈する。

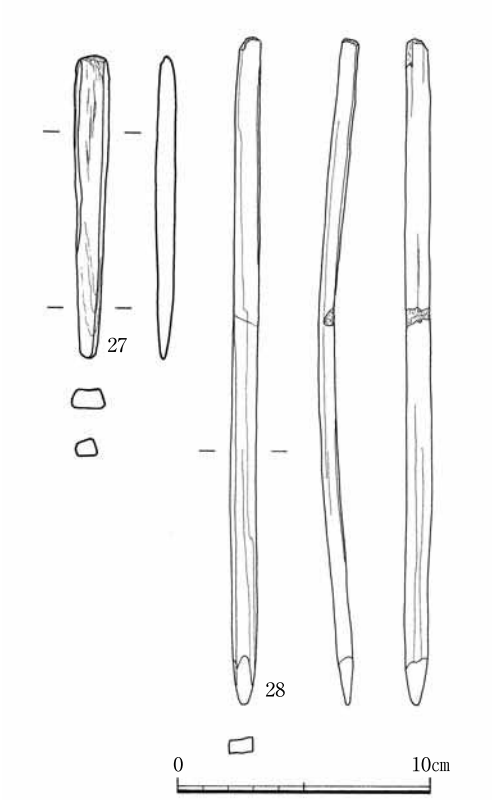


Fig.45　1E区第Ⅵ層出土遺物（本製品7）

11・12は田下駄である。11は一部を欠損する3孔式の紐結合型田下駄で，緒孔は3孔穿たれており，両端部には他の部材を取り付ける孔を計5孔穿つ。両面には明瞭な加工痕が残る。12は端部の一部を欠損する3孔式の単独型田下駄で，他の部材を取り付けた痕跡はなく，片面には加工痕が残る。

13～26は板状木製品である。13・14は祭祀具の可能性が考えられるもので，13・14とも下端を欠損し，側縁には抉りを施す。15～19は両端を欠損しており，15は径0.6～0.8㎝の円形を呈する小孔を3孔穿ち，16は側辺部に一辺約1.5㎝の方形孔を1孔穿つ。17は径約0.5㎝の小孔を2孔穿ち，側縁部には加工痕が明瞭に残る。18は中央部に径約1.5㎝の孔を1孔，19は側辺部に径約0.7㎝の小孔を1孔穿つ。20は完存し，両端を平面三角形状に加工する。中央部に径約0.7㎝の小孔，側辺部には約径0.7㎝の小孔を4孔穿つ。21はほぼ完存し，片方の側縁部を丸く加工する。中央部に径約0.8㎝の小孔を1孔，側辺部に径約0.6㎝の小孔を1孔穿つ。22は完存し，片方の側縁部を丸く仕上げ，中央部に径約0.4㎝の小孔を1孔，側辺部に径0.4～0.6㎝の小孔を3孔穿つ。23はほぼ完存する長方形を呈するもので，端部の側辺を方形に削り，両端部に一辺0.8～1.5㎝の長方形を呈する方形孔を2孔穿つ。24は端部の一部を欠損するもので，ほぼ完存する。片方の側縁部を丸く仕上げ，中央部に径約0.4㎝の小孔を1孔，側辺部に径約0.3㎝の小孔を2孔穿つ。25は端部を欠損するもので，片方の側縁部を丸く仕上げ，片面には加工痕が残る。中央部，側辺部には径約0.5㎝の小孔，両端部には約3×1.5㎝の長方形を呈する方形孔を2孔穿つ。26は片側を欠損する。両面には加工痕が明瞭に残り，中央部に約1.5×1㎝の長方形を呈する方形孔を1孔穿つ。

27・28は棒状木製品で，27は両端部を欠損し，断面方形を呈する。28は片方の端部を杭先状に

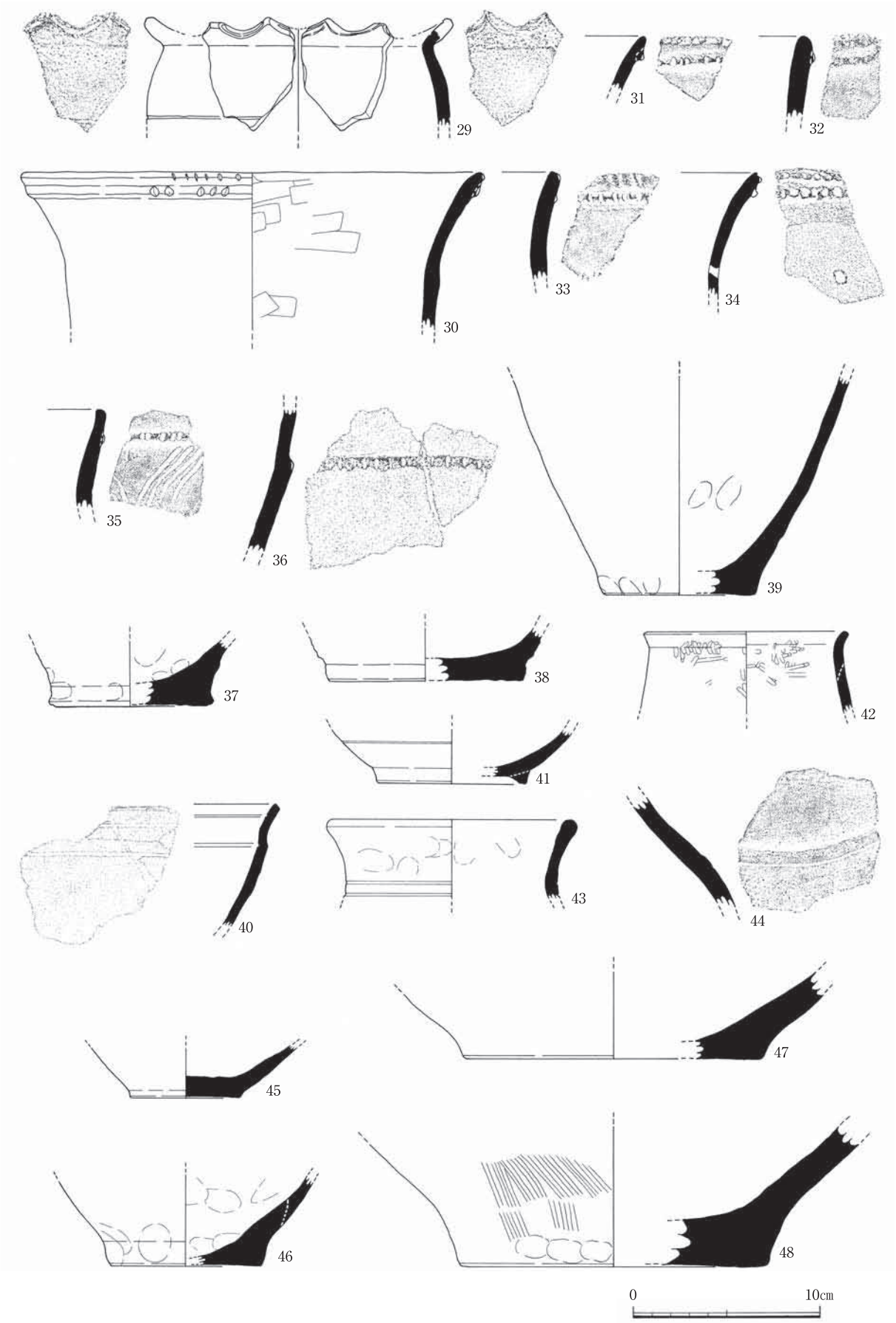


Fig.46　1 E区第Ⅺ層出土遺物1（縄文土器・弥生土器）

加工しており，断面方形を呈する。

第XI層出土遺物

縄文土器(Fig.46-29～42)

29～39は深鉢である。29は大洞模倣土器とみられ，口縁部は波状口縁を呈し，口縁部端面と口縁端部内面には沈線を施す。また，胴部外面にも１条の沈線を配す。30は胴部から口縁部にかけて緩やかに外反して立ち上がり，口縁端部外面に刻目，その直下に刻目突帯を貼付する。31～35は口縁部破片である。31・32は口縁端部下に刻目突帯を貼付する。33は口縁端部外面，口縁端部下約1.4㎝に雑な刻目を施す。34は口縁部が緩やかに外反して立ち上がり，口縁端部外面に刻目，口縁端部下約1.1㎝に刻目突帯を貼付する。また，口縁部下端には孔を穿つ。35は口縁端部下約1.7㎝に刻目突帯を貼付し，その直下には４条を単位とする複線山形文をヘラ描きする。36は胴部破片である。外面には段を有し，段部には刻目を施す。37～39は底部破片で，37・38は胴部が殆ど残存しない。39は胴部から底部にかけての破片である。胴部は斜め上方に直線的に立ち上がる。

40・41は浅鉢である。40は口縁部破片で，内面に2条の沈線を施す。41は底部破片で形態は椀状を呈し，胴部外面には1条の沈線を施す。

42は壺である。口縁部は短く外反して立ち上がり，端部は内傾する面をなす。

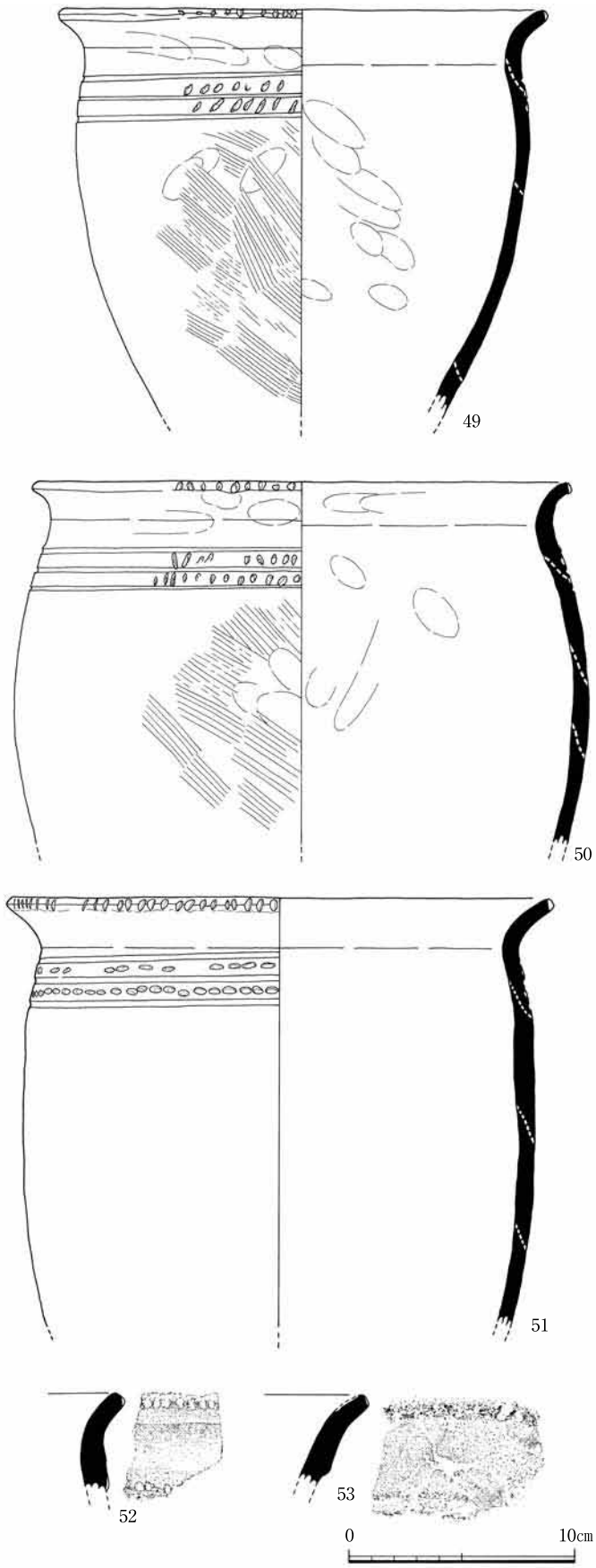


Fig.47　1E区第XI層出土遺物2(弥生土器)

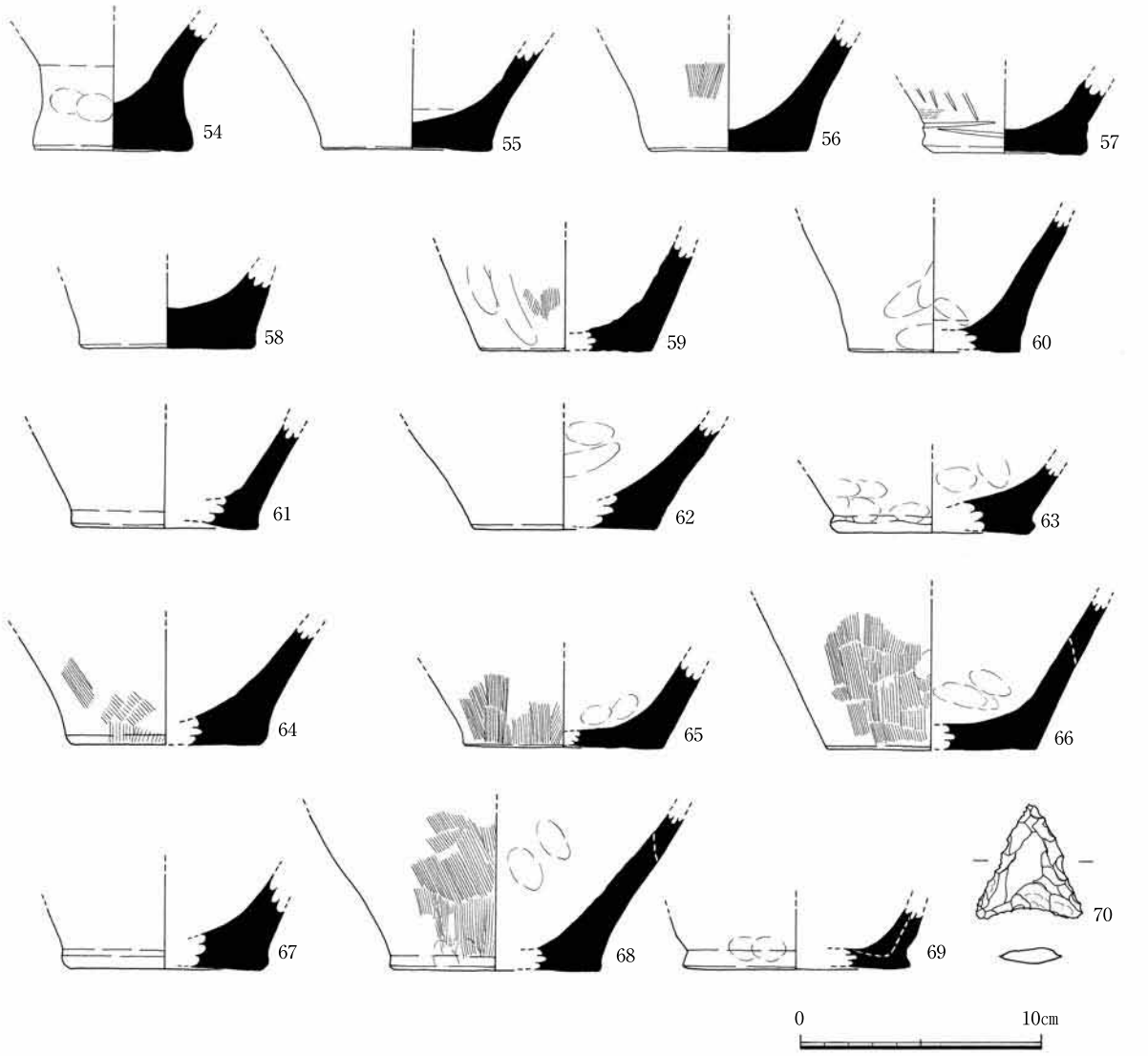


Fig.48　1E区第Ⅺ層出土遺物3（弥生土器・石製品　70=1/1）

弥生土器（Fig.46～48-43～69）

43～48は壺である。43は口縁部破片で，口縁部は外反して立ち上がる。端部は肥厚し丸く仕上げ，頸部外面には2条の沈線を施す。44は胴部破片で，外面に1条の沈線を施す。45～48は底部破片である。45は胴部が大きく開いて立ち上がる。46も胴部が大きく開いて立ち上がり，内外面には指頭圧痕が残る。47は比較的大型の壺とみられ，胴部は大きく開いて立ち上がる。48も比較的大型の壺とみられる。胴部は大きく開いて立ち上がり，全体的に摩耗が著しい。

49～69は甕である。49～52は如意状口縁を呈するもので，49～51は口縁端部に刻目を施し，上胴部外面には3条の沈線を巡らし沈線間には刺突文を配している。52・53は口縁部破片で，52は口縁端部に刻目を施す。53は口縁部が緩やかに外反して立ち上がり，口縁端部に刻目を施す。54～69は底部破片である。54は厚底の底部のみ残存するもので，調整は摩耗が著しく不明である。55は外底面がやや凹み，調整は摩耗が著しく不明である。56は調整が全体的に摩耗が著しく不明瞭である。57は胴部外面に縦方向の沈線，胴部と底部の境に1条の沈線を施す。58は胴部が殆ど

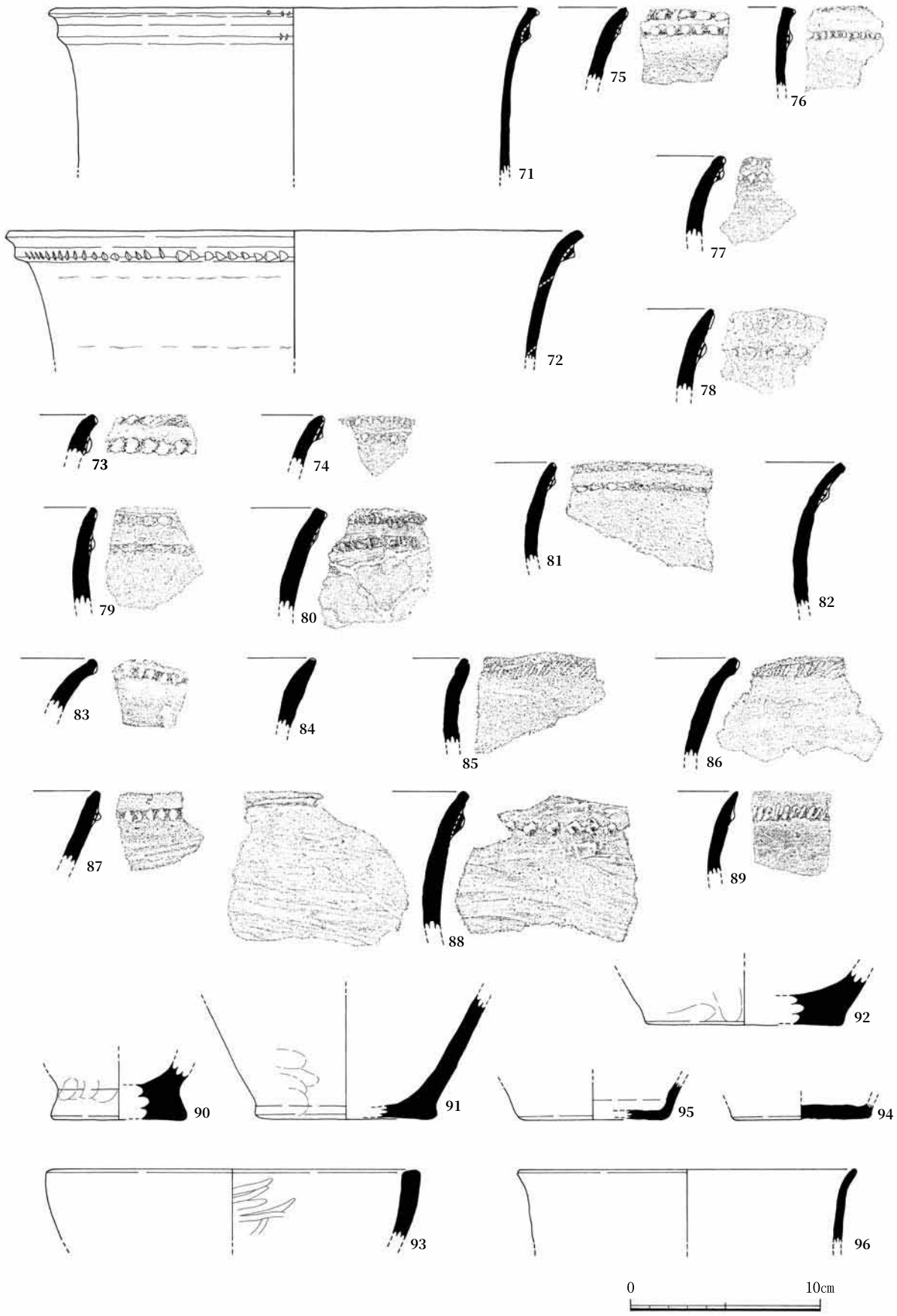


Fig.49　1E区第XII層出土遺物（縄文土器）

残存せず，調整も摩耗が著しく不明である。59は全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭である。60は全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭であるが，外面に指頭圧痕が残る。61は外底面が大きく凹む。62は調整が全体的に摩耗が著しく不明であるが，内面の一部には指頭圧痕が残る。63は外底面がやや凹む。64は全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭である。65は外底面がやや凹み，内面には指頭圧痕が残る。66は全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭であるが，内外面に指頭圧痕が残る。67は外底面がやや凹み，摩耗が著しく調整は不明である。68は内面が摩耗しており調整は不明である。69は胴部が殆ど残存せず，調整は全体的に摩耗が著しく不明である。

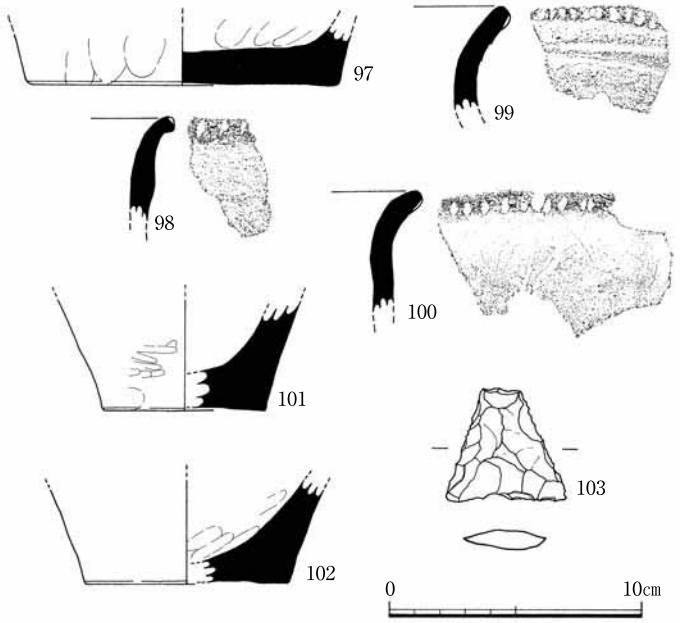


Fig.50　1E区第Ⅻ層出土遺物（弥生土器・石製品　103=1/1）

石製品（Fig.48-70）

凹基式の打製石鏃で完存する。刃部は丁寧に作り出されている。

第Ⅻ層出土遺物

縄文土器（Fig.49-71～96）

71～92は深鉢である。71は直立気味の胴部から口縁部が外反しながら立ち上がる。口縁端部は外側に摘み出して刻目を施し，端部下には刻目突帯を巡らす。72は口縁部が外反しながら立ち上がり，口縁端部下約1.4㎝に刻目突帯を貼付する。73～89は口縁部破片で，73～82は口縁端部外面に刻目，口縁端部下に刻目突帯を施すものである。73は口縁端部下約1.6㎝に雑な刻目突帯を貼付する。74は口縁端部下約1㎝に刻目突帯を貼付する。75は口縁端部下約1.3㎝に雑な刻目突帯を貼付する。76は口縁端部を外側に摘み出して刻目を施し，口縁端部下約1.6㎝に刻目突帯を貼付する。77は口縁端部下約1㎝に刻目突帯を貼付する。78は口縁端部に雑な刻目を施し，口縁端部下約2.2㎝に刻目突帯を貼付する。79は口縁端部に雑な刻目を施し，口縁端部下約1.5㎝に刻目突帯を貼付する。80は口縁部端面が内傾する面をなし，端部外面には刻目を施す。口縁端部下約1.6㎝には雑な刻目突帯を貼付し，調整は摩耗が著しく不明である。81は口縁端部下約1.1㎝に刻目突帯を貼付し，調整は摩耗が著しく不明である。82は口縁部が外反しながら立ち上がり，口縁端部下約1.7㎝に刻目突帯を貼付する。83～86は口縁端部外面に刻目を施し，刻目突帯を貼付しないものである。83は口縁端部を肥厚させ，刻目を施す。84は口縁部端面に刻目を施し，調整は摩耗が著しく不明である。外面には煤が付着する。85は口縁端部外面に雑な刻目を施し，調整は

摩耗が著しく不明である。86は口縁端部を肥厚させ，外面に刻目を施す。87～89は口縁端部下に刻目突帯を貼付し，口縁端部に刻目を施さないものである。87は口縁端部下約1.4㎝に刻目突帯を貼付し，調整は摩耗が著しく不明瞭である。88は口縁部が外反しながら立ち上がり，口縁端部下約1.7㎝に刻目突帯を貼付する。89は口縁端部下約1.4㎝に刻目を施すもので，調整は内面が摩耗が著しく不明である。90～92は底部破片である。90は胴部が殆ど残存しておらず，調整は全体的に摩耗が著しい。91は外底面がやや凹み，調整は摩耗が著しく不明である。92も胴部は殆ど残存しておらず，調整も摩耗が著しく不明である。

93～95は浅鉢である。93は口縁部破片で，口縁端部は内傾する面をなす。94・95は底部破片で，94は胴部が残存しない。底部は平底を呈し，内底面にはおこげが付着している。95も胴部が殆ど残存せず，底部は平底を呈し，調整は摩耗が著しく不明である。

96は鉢とみられる口縁部破片である。口縁部は直立気味に立ち上がり，端部が外反する。

弥生土器（Fig.50−97～102）

97は壺の底部破片と考えられ，胴部は残存していない。調整は摩耗が著しく不明である。

98～102は甕である。98～100は口縁部破片で，98は口縁部端面に刻目を施し，調整は摩耗が著しく不明である。99は口縁端部外面に刻目を施し，調整は摩耗が著しく不明である。100も口縁端部外面に刻目を施し，内面は摩耗が著しく調整不明である。101・102は底部破片で，101は胴部が殆ど残存しない。102も胴部が殆ど残存せず，外底面はやや凹む。

石製品（Fig.50−103）

103は平基式の打製石鏃で，先端部を欠損する。刃部を丁寧に作り出している。

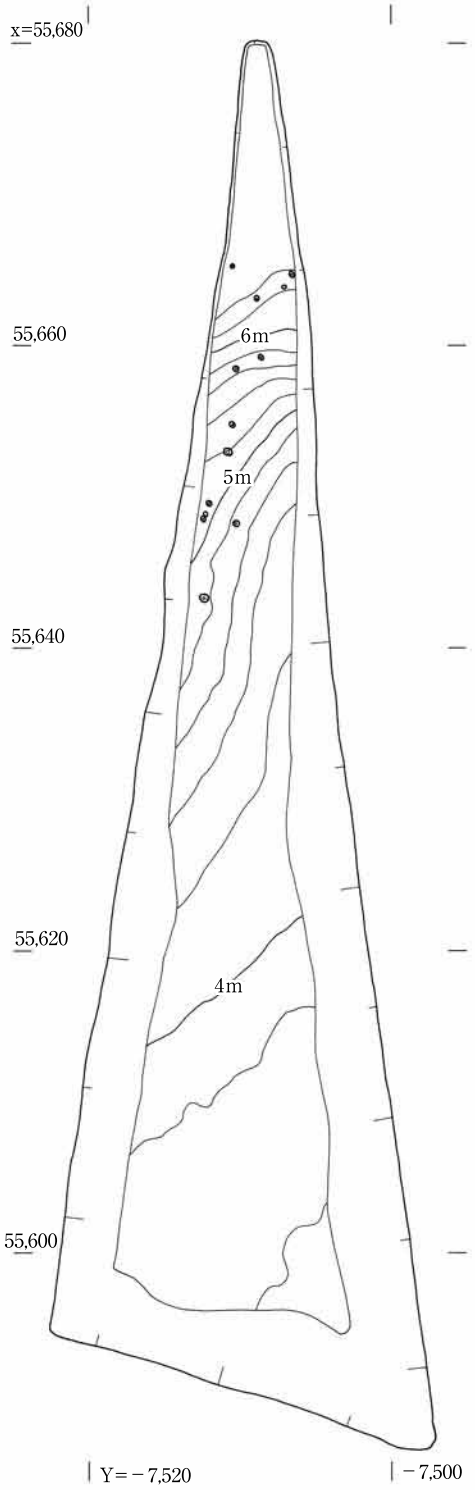


Fig.51　1E区縄文時代遺構平面図（S:1/500）

5. 遺構と遺物

遺構は，第Ⅸ層上面（古墳時代），第XIV層上面（縄文時代晩期～弥生時代前期）の2面で検出された。

⑴縄文時代～弥生時代前期

①ピット（Fig.51）

調査区北部の第XIV～XV層上面で13個のピットを検出した。これらのピットは径22～51㎝，深さ10～21㎝を測り，埋土はオリーブ黒色砂質シルトで，出土遺物はみられなかった。

⑵古墳時代

①自然流路

SR－1（Fig.52）

調査区南部の第Ⅸ層上面で検出した自然流路である。幅2.37～3.75m，深さは0.9m前後を測り，延長約19.3mを検出した。断面は舟底状を呈し，埋土は1層は黒褐色（10YR3/1）粘土質シルト，2層は褐灰色（10YR4/1）粘土質シルト，3層は黄灰色（2.5Y4/1）粘土質シルト，4層は灰色（5Y4/1）粘土質シルト，5層はオリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト，6層は灰色（7.5Y4/1）粘土質シルト，7層は灰色（10Y4/1）粘土質シルト，8層は褐灰色（10YR4/1）粘土質シルト，9層は灰色（5Y4/1）粘土質シルト，10層は黄灰色（2.5Y4/1）粘土質シルト，11層はオリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト，12層は灰色（5Y4/1）粘土質シルト，13層は灰色（7.5Y2/1）粘土質シルト，14層はオリーブ黒色（5Y3/2）粘土質シルト，15層は黒褐色（2.5Y3/1）粘土質シルト，16層は緑灰色（5G6/1）砂質シルトであった。出土遺物は土師器・木製品がみられ，土師器1点（104），木製品3点（105～106）が復元図示できた。

出土遺物

土師器（Fig.54-104）

甕で，底部は欠損する。口縁部は「く」字状に外反しており，調整は全体的に摩耗が著しいが内面には指ナデが残る。

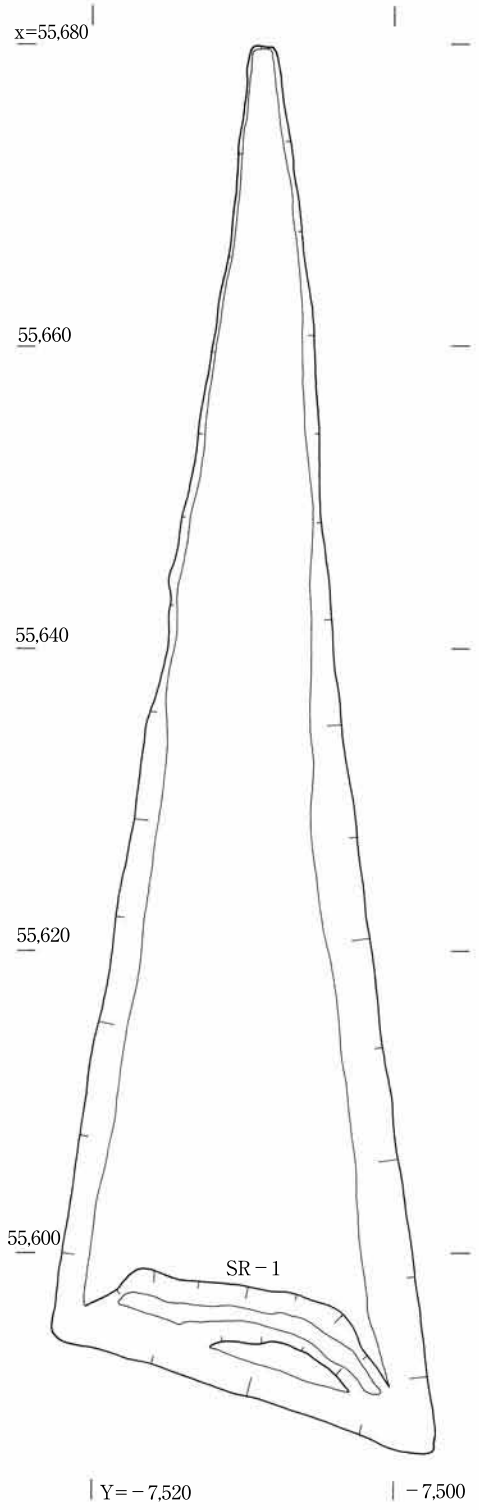
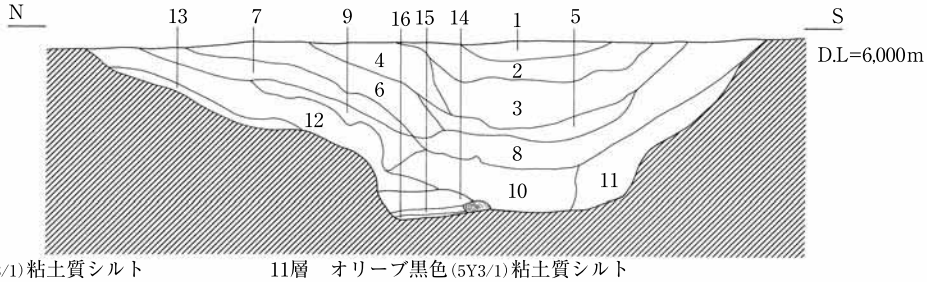


Fig.52　1E区古墳時代遺構平面図（S:1/500）



1層　黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト
2層　灰褐色(10YR4/1)粘土質シルト
3層　黄灰色(2.5Y4/1)粘土質シルト
4層　灰色(5Y4/1)粘土質シルト
5層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト
6層　灰色(7.5Y4/1)粘土質シルト
7層　灰色(10Y4/1)粘土質シルト
8層　褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト
9層　灰色(5Y4/1)粘土質シルト
10層　黄灰色(2.5Y4/1)粘土質シルト
11層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト
12層　灰色(5Y4/1)粘土質シルト
13層　灰色(7.5Y2/1)粘土質シルト
14層　オリーブ黒色(5Y3/2)粘土質シルト
15層　黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルト
16層　緑灰色(5G6/1)砂質シルト

0　1m

Fig.53　1E区SR－1

木製品(Fig.54・55－105～107)

105～107は板状木製品である。105は片側を欠損し，端部の片方を丸く仕上げ，両面ともに加工痕が残る。106は端部の片方を削り平面三角形状に仕上げ，両面には加工痕が残る。107は完存するもので，両端部に不整形孔を2孔穿ち，両面ともに加工痕が残る。

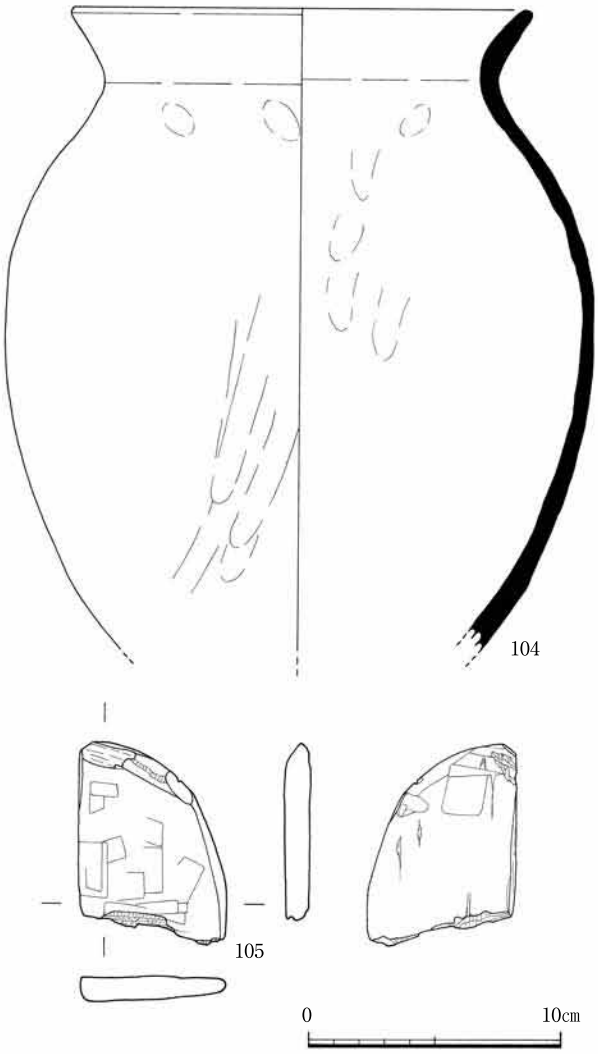


Fig.54　1E区SR－1出土遺物(土師器・木製品)

Fig.55　1E区SR-1出土遺物(木製品)

土器観察表1

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
38	1	V層	土師質土器	杯	12.3	3.2		8.6	内外面とも回転ナデ調整。底部切り離しは回転ヘラ切り。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	粘土紐巻き上げ成形
38	2	VI層	縄文土器	深鉢		(2.6)		8.3	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
38	3	VI層	弥生土器	壺		(4.6)		8.2	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
38	4	VI層	弥生土器	甕		(6.1)		8.1	内外面ともナデ調整。	にぶい黄橙色	褐灰色	
38	5	VI層	土師器	甕	16.1	(10.6)			全体的に摩耗が著しいが、胴部内面に細い原体によるヘラ状工具の痕が残る。	にぶい黄橙色	にぶい褐色	
38	6	VI層	土師器	甕	18.4	(10.5)			口縁部内外面は横ナデ調整。胴部内外面はナデ調整。	黄灰色	暗灰黄色	
38	7	VI層	土師器	高杯	14.6	(6.9)			全体的に摩耗が著しいが、外面にはナデ調整が残る。	橙色	橙色	
46	29	XI層	縄文土器	深鉢	16.0	(5.7)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	にぶい褐色	
46	30	XI層	縄文土器	深鉢	24.4	(8.4)			内面は板ナデ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	にぶい赤褐色	褐色	
46	31	XI層	縄文土器	深鉢		(2.9)			外面はナデ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	灰黄褐色	褐灰色	
46	32	XI層	縄文土器	深鉢		(4.3)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
46	33	XI層	縄文土器	深鉢		(5.7)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
46	34	XI層	縄文土器	深鉢		(6.8)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい褐色	灰褐色	穿孔
46	35	XI層	縄文土器	深鉢		(5.3)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	にぶい褐色	
46	36	XI層	縄文土器	深鉢		(7.6)			外面はハケ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	にぶい橙色	灰褐色	
46	37	XI層	縄文土器	深鉢		(3.5)		8.7	摩耗が著しく調整は不明。	褐灰色	灰黄褐色	
46	38	XI層	縄文土器	深鉢		(2.8)		10.3	摩耗が著しく調整は不明。	褐色	褐色	

土器観察表2

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
46	39	XI層	縄文土器	深鉢		(11.6)		8.1	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄褐色	灰色	
46	40	XI層	縄文土器	浅鉢		(6.6)			摩耗が著しく調整は不明。	黒褐色	黒褐色	
46	41	XI層	縄文土器	浅鉢		(2.9)		8.0	摩耗が著しく調整は不明。	黒褐色	黒色	
46	42	XI層	縄文土器	鉢	10.6	(4.4)			内外面とも横方向のヘラ磨き調整。	褐灰色	褐灰色	
46	43	XI層	弥生土器	壺	12.8	(4.2)			内外面とも横ナデ調整。	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
46	44	XI層	弥生土器	壺		(5.7)			摩耗が著しく調整は不明。	灰白色	灰白色	
46	45	XI層	弥生土器	壺		(2.8)		5.9	摩耗が著しく調整は不明。	灰白色	灰白色	
46	46	XI層	弥生土器	壺		(4.9)		8.0	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	にぶい橙色	
46	47	XI層	弥生土器	壺		(4.7)		16.0	摩耗が著しく調整は不明。	橙色	橙色	
46	48	XI層	弥生土器	壺		(7.5)		16.5	外面はハケ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	橙色	橙色	
47	49	XI層	弥生土器	甕	21.2	(18.0)			口縁部内外面は横ナデ調整。胴部内面はナデ調整で、外面はハケ調整。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
47	50	XI層	弥生土器	甕	23.4	(16.0)			口縁部内外面は横ナデ調整。胴部内面はナデ調整で、外面はハケ調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
47	51	XI層	弥生土器	甕	23.6	(4.0)			摩耗が著しく調整は不明。	橙色	橙色	
47	52	XI層	弥生土器	甕		(4.4)			内外面ともナデ調整。	にぶい褐色	にぶい橙色	
47	53	XI層	弥生土器	甕		(19.0)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
48	54	XI層	弥生土器	甕		(5.3)		6.4	摩耗が著しく調整は不明。	橙色	にぶい橙色	
48	55	XI層	弥生土器	甕		(4.3)		6.5	摩耗が著しく調整は不明。	灰黄褐色	にぶい橙色	

土器観察表3

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
48	56	XI層	弥生土器	甕		(4.9)		6.6	全体的に摩耗が著しいが、外面の一部にはハケ調整が残る。	橙色	橙色	
48	57	XI層	弥生土器	甕		(3.1)		6.8	内面は摩耗が著しいが、外面には横方向のハケ調整が残る。	にぶい橙色	にぶい褐色	
48	58	XI層	弥生土器	甕		(3.2)		7.0	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
48	59	XI層	弥生土器	甕		(4.6)		7.0	全体的に摩耗が著しいが、外面の一部にはハケ調整が残る。	橙色	明赤褐色	
48	60	XI層	弥生土器	甕		(5.6)		7.0	摩耗が著しく調整は不明。	赤色	橙色	
48	61	XI層	弥生土器	甕		(4.4)		7.1	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい褐色	
48	62	XI層	弥生土器	甕		(4.4)		7.4	摩耗が著しく調整は不明。	灰黄褐色	にぶい橙色	
48	63	XI層	弥生土器	甕		(2.9)		7.8	全体的に摩耗が著しいが、外面にはナデ調整が残る。	にぶい赤褐色	明赤褐色	
48	64	XI層	弥生土器	甕		(4.9)		7.6	全体的に摩耗が著しいが、外面には不定方向のハケ調整が残る。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
48	65	XI層	弥生土器	甕		(3.6)		8.3	外面はハケ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
48	66	XI層	弥生土器	甕		(6.2)		8.3	外面はハケ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	灰黄褐色	黄灰色	
48	67	XI層	弥生土器	甕		(4.0)		8.4	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
48	68	XI層	弥生土器	甕		(6.6)		8.8	外面はハケ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	灰黄褐色	灰黄色	
48	69	XI層	弥生土器	甕		(2.6)		9.4	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい褐色	
48	71	XII層	縄文土器	深鉢	24.6	(8.8)			内面はナデ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	黒褐色	灰黄色	
49	72	XII層	縄文土器	深鉢	30.0	(6.7)			摩耗が著しく調整は不明。	橙色	にぶい橙色	
49	73	XII層	縄文土器	深鉢		(2.2)			摩耗が著しく調整は不明。	灰黄色	灰黄色	

土器観察表4

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
49	74	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(2.7)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
49	75	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.8)			内外面とも条痕調整。	灰色	灰白色	
49	76	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.1)			内面には丁寧なナデを施し、外面には粗いナデを施す。	暗灰色	灰黄褐色	
49	77	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.3)			摩耗が著しく調整は不明。	灰黄褐色	褐灰色	
49	78	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.3)			内外面ともナデ調整。	黄灰色	黒褐色	
49	79	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(5.0)			全体的に摩耗が著しいが、内面の一部にはナデ調整が残る。	黄灰色	褐灰色	
49	80	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(5.1)			摩耗が著しく調整は不明。	灰褐色	にぶい褐色	
49	81	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(5.3)			摩耗が著しく調整は不明。	橙色	橙色	
49	82	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(7.6)			全体的に摩耗が著しいが、内面の一部にはナデ調整が残る。	黒褐色	黒褐色	
49	83	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(2.8)			外面はナデ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	灰色	にぶい赤褐色	
49	84	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.7)			摩耗が著しく調整は不明。	灰黄褐色	にぶい褐色	
49	85	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.5)			摩耗が著しく調整は不明。	灰色	灰色	
49	86	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(5.2)			内外面ともナデ調整。	オリーブ黒色	黄灰色	
49	87	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.9)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	オリーブ黒色	灰黄色	
49	88	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(7.3)			内外面ともナデ調整。	灰黄褐色	明褐灰色	
49	89	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(4.4)			外面はナデ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	黄灰色	褐灰色	
49	90	Ⅻ層	縄文土器	深鉢		(3.1)		7.1	外面はナデ調整で、内面は摩耗が著しく調整不明。	にぶい赤褐色	灰褐色	

土器観察表5

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
49	91	XII層	縄文土器	深鉢		(6.6)		9.4	摩耗が著しく調整は不明。	灰色	にぶい黄橙色	
49	92	XII層	縄文土器	深鉢		(2.9)		10.3	摩耗が著しく調整は不明。	黒褐色	褐灰色	
49	93	XII層	縄文土器	浅鉢	19.2	(3.7)			内面は横方向のヘラ磨き調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
49	94	XII層	縄文土器	浅鉢		(0.8)		7.3	摩耗が著しく調整は不明。	黒褐色	灰黄色	
49	95	XII層	縄文土器	浅鉢		(2.0)		7.8	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい褐色	にぶい黄褐色	
49	96	XII層	縄文土器	鉢	17.6	(3.8)			摩耗が著しく調整は不明。	褐灰色	黒褐色	
50	97	XII層	弥生土器	壺		(2.3)		12.2	摩耗が著しく調整は不明。	浅黄色	にぶい黄橙色	
50	98	XII層	弥生土器	甕		(4.1)			摩耗が著しく調整は不明。	灰褐色	灰褐色	
50	99	XII層	弥生土器	甕		(4.1)			摩耗が著しく調整は不明。	黄灰色	にぶい橙色	
50	100	XII層	弥生土器	甕		(4.8)			全体的に摩耗が著しいが、外面の一部にはナデ調整が残る。	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
50	101	XII層	弥生土器	甕		(4.4)		6.4	内面は摩耗が著しいが、外面には横方向のヘラ磨き調整が残る。	灰黄色	灰黄色	
50	102	XII層	弥生土器	甕		(4.1)		8.0	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
54	104	SR-1	土師器	甕	17.8	(25.4)	23.3		口縁部内外面は横ナデ調整で、胴部内外面はナデ調整。	にぶい黄褐色	黄灰色	

石製品計測表

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	法量（cm）				石材	備考
				全長	全幅	全厚	重量(g)		
38	8	Ⅵ層	磨製石斧	7.6	5.5	1.2	90.3	蛇紋岩	
38	9	Ⅵ層	磨製石斧	(7.6)	(3.7)	(1.0)	38.9	蛇紋岩	
48	70	Ⅺ層	打製石鏃	1.6	1.5	0.3	0.3	蛇紋岩	
50	103	Ⅻ層	打製石鏃	(1.5)	1.6	0.3	0.5	蛇紋岩	

木製品計測表1

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	法量（cm）			樹種	備考
				全長	全幅	全厚		
39	10	Ⅵ層	鍬	28.8	15.0	6.7	ハイノキ属ハイノキ節	
40	11	Ⅵ層	田下駄	(37.4)	12.4	1.8	ヒノキ	
40	12	Ⅵ層	田下駄	(62.6)	11.3	1.8	ヒノキ	
41	13	Ⅵ層	板状木製品	(14.4)	3.7	0.9	ヒノキ	
41	14	Ⅵ層	板状木製品	(18.0)	3.8	1.0	ヒノキ	
41	15	Ⅵ層	板状木製品	(23.1)	10.3	1.4	モミ属	
41	16	Ⅵ層	板状木製品	(32.1)	7.3	1.7	ヒノキ	
41	17	Ⅵ層	板状木製品	(32.7)	7.8	1.4	ヒノキ	

木製品計測表2

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	器種	法量（cm）			樹種	備考
				全長	全幅	全厚		
41	18	VI層	板状木製品	(33.7)	10.8	1.1	ヒノキ	
42	19	VI層	板状木製品	(40.2)	5.5	1.0	ヒノキ	
42	20	VI層	板状木製品	45.2	8.0	14.5	ヒノキ	
42	21	VI層	板状木製品	(46.2)	6.2	1.4	ヒノキ	
43	22	VI層	板状木製品	47.4	7.2	1.0	ヒノキ	
43	23	VI層	板状木製品	49.6	10.1	1.2	ヒノキ	
44	24	VI層	板状木製品	50.2	5.2	1.4	ヒノキ	
44	25	VI層	板状木製品	(51.5)	11.3	2.0	ヒノキ	
44	26	VI層	板状木製品	68.6	7.5	2.0		
45	27	VI層	棒状木製品	12.0	1.4	0.8	ヒノキ	
45	28	VI層	棒状木製品	26.3	1.0	0.7	ヒノキ	
54	105	SR－1	板状木製品	(8.0)	5.8	0.6	コナラ属アカガシ亜属	
55	106	SR－1	板状木製品	68.1	8.0	2.5		
55	107	SR－1	板状木製品	88.9	15.0	1.9	ヒノキ	

（４） ２Ａ区

１．２Ａ区の概要

平成９年度から平成10年度に掛けて実施された全調査対象域の中央部南寄りに位置する。調査区の西側は清滝山系から連なる斜面が緩やかな丘陵を形成している。東側は南へ延びる幾つかの尾根が緩やかに標高を下げ沖積層下に没しており、ここでは既に仁淀川による直接乃至間接的な影響を受けている。本調査区は、平成９年度に調査が行われた１区（１Ａ区から１Ｆ区）で検出された尾根と北側の３区（３Ａ区・３Ｂ区）が存する尾根に挟まれた谷部に相当する。現在調査区を迂回して流れる清滝川はその源を北側の山系深く刻み込んだ谷に発し、清滝山系南斜面の豊富な湧水を集め南下する小河川である。嘗ての清滝川は現在の様に南の尾根を割って南下したとは考え難く、自ずと谷底部を通り、調査区の周辺を南東流したものと考えられる。

調査区内は粘土～シルトの厚い水成堆積層で構成されており、調査の結果この整然とした層位を乱す数条の水路や流路群が発見された。

調査は３Ｂ区と接する調査区の北東端から進められ、比較的浅い段階から植物遺体の出土を見たが遺構の存在は不明瞭であった。東壁から弧を描いて南西方向に向かう流路（SR１）と北壁中央から南下する流路（SR２）が先ず検出された。後者は後に数時期の重複する流路河道であることが判明するが、出土遺物には土師器の壺や甕、高坏などと共にミニチュア土器や管玉などが含まれていた。また、流路群の端には土手状に粘土が盛り上がった部分が発見され帯状に連続して存在していた。流路群から離れた調査区の南端部分では時期的に後出するであろう木製品の集積や細い杭を百数十本打ち込んだ痕も存在している。次にやや下層からはこれらの流路と向きをほぼ同じとする時期のやや古い水路跡（SR４）や流路跡（SR4－１・SR５）が検出された。出

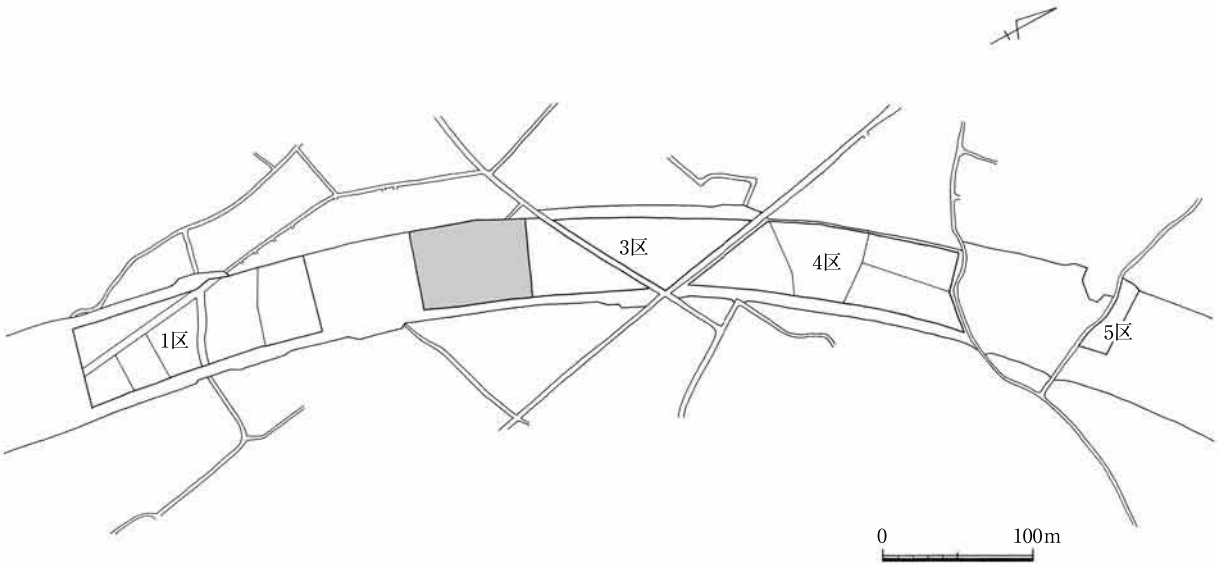


Fig.56　2A区の位置（S:1/5,000）

土遺物には縄文晩期末の浅鉢や弥生前期の壺や甕が多く含まれる。更に下層からは流向を違える2つの水路跡(SD1・SD2)が検出された。この遺構の主な埋積土は堆積環境が近似するであろう同一谷の南側に存在した1A区や1B区の縄文晩期から弥生前期遺物包含層と重なる。

2. 調査の方法

調査は平成10年9月18日から調査区内の表土機械掘削を先ず行い、同年10月12日から包含層機械掘削を開始し、10月19日からは人力による包含層掘削を開始した。本調査区は幅約50m、長さ60～80mに及ぶことから、便宜的に区域を北部、中央部、西部、南部の4ケ所に分け、包含層掘削、遺構検出、遺構内の調査の順に行った。調査区内の堆積状態は、掘削、調査の経過に合わせて西壁、北壁、東壁の各セクションで適宜記録し行った。遺物は原則として出土状態を写真と平面図に記録し、取上げは第Ⅳ系公共座標に則った4×4mグリッドまたは座標を記録することで行った。遺構の検出状態や半截状態、完掘状態の写真撮影や断面図化、平面図化は、先の4ケ所における調査過程で随時、及び終了時点で行った。尚、調査区全体を包括する航空測量及び写真撮影は平成11年3月17日に行った。

北部での調査は上層で大きく2条の流路跡を検出し、後にこれらの遺構周辺から発見された水路と流路跡の調査も含めて10月28日から11月13日まで行った。各遺構の埋積状態は北壁際と任意に設定したベルトまたは北部南端に設定した東西方向のセクションベルトで記録した。中央部の調査は比較的纏まった流れとなった水路と流路跡を検出し、遺構内調査を11月18日から12月4日まで行った。遺構群の埋積状態は東壁セクションで記録した。西部の調査は包含層機械掘削を12月4日から9日まで行い、引き続き人力による包含層掘削を12月17日まで行った。ここは調査区内でも比較的標高の高い地点で畦畔？に伴う溝状遺構を検出した。南部の調査は人力による包含層掘削を12月18日から25日まで行った。検出された小型の杭群位置を公共座標で記録し、木製品と植物遺体の集積は平面図化し取上げを行った。

下層についての調査はトレンチ状の部分的なものである。先ず、南部と中央部に調査区を東西に横断する幅1mのトレンチを設定した。その結果、水路跡の一部が確認でき、北部の流路跡壁に残された遺構に繋がるものと考えられた。次に、これを基準として水路跡(SD1・SD2)とその周辺に調査を限定し、包含層機械掘削は平成11年1月25日から28日まで行った。人力による包含層掘削と遺構検出、遺構内調査は1月29日まで行い、最後に水路跡の平面図作成と埋積状態ならびに下層の堆積状態の記録を水路跡(SD1)の東側壁面を利用して2月8日まで行った。

3. 層序

調査区内の堆積環境は先述した様に水成土層によるものが卓越する。その中で水路や流路などの遺構が検出された場面以降は現在に至るまで水田等の生産域として利用された可能性が高い。

Ⅴ層

調査区では恒常的に存在するものと考えられ、SD1検出面直上の暗褐色系堆積土層、SD1埋土、各流路遺構等の肩部壁面で確認される。1A区と1B区で検出された縄文晩期末から弥生前

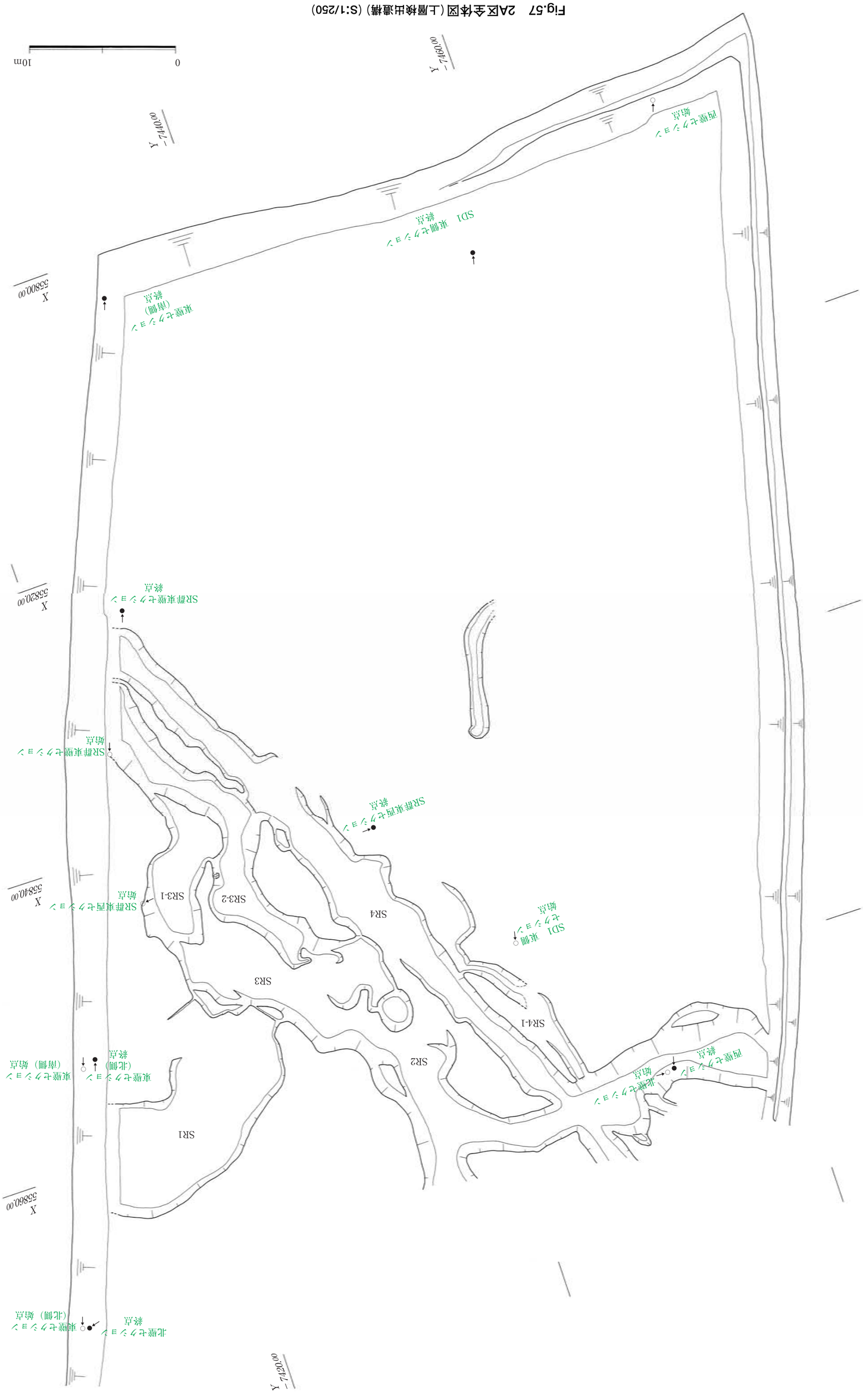


Fig.57　2A区全体図（上層検出遺構）（S:1/250）

期遺物包含層に対応するであろう。水成環境下、珪酸性植物が繁茂していたものと考えられる。

Ⅳ層群

SD１東側セクションで見られる多くは本層群に含まれる。弥生前期から古墳前期にかけての堆積層群で、幾つかの層に細分が可能である。同一谷の南側に当たる１A区と１B区で報告したⅢ層群はこの層群に対応するものと考えられる。全体に明色を呈した粘土質の土層であり、顕著な土壌化は認められない。SR４やSR４－１などの水路や流路がこの層群に設けられていることを考えれば、このうちの幾つかは耕作面として利用されていたものであろう。

Ⅲ層群

調査当初は調査区を広く覆う安定堆積層群と考えられたが、調査が進むに従い概ね西側で層厚が厚く東側ではやや薄くなる様相が判明した。

ⅢA層

概ね褐灰色を呈す。粘土質の主に水成堆積層で構成され、数層に分層が可能である。本層への積極的な改変も見受けられることから、水田耕作に係わる土層も含まれるであろう。SR３－２の初期埋積土は本層の派生したものと考えられる。各セクションで見る限り本層も西方からもたらされたものであり、調査区の西側に流路の存在を推定することができる。また、検出された流水路の河道東偏の一因を作っていいる。古墳時代前期から中期の遺物包含層である。流路と共に検出された低い土手状の高まり(畦畔)は下層の、層か本層を用いて形成されている。

ⅢB層

灰褐色を呈す。調査区の北部に見られる堆積層である。SR３－２の最終段階の埋積土層であり、この二次堆積土はSR２等の比較的新しい段階の流路埋積土となる。

ⅢC層

灰白色を呈す。調査区に恒常的に見られる堆積土層であり、本層かこの派生層がSR２の検出時点における最終埋積土となっていた。

ⅢD層

新しい段階の流路(SR2他)に覆い被さる様に堆積する水成土層であり、西側で厚く東に向かって徐々に層厚を下げる。小型から大型の植物遺体を含む。

Ⅱ層

南部の調査で出土した青磁や大足等の木製品と植物遺体の集積が含まれていたのは本層である。また、無数の打ち込まれた細い杭群は本層を取り除いた段階で検出されたものである。

４．遺構

水路跡

SD１(Fig.61)

調査区の北壁中央部から南壁中央部に至る溝である。確認延長は58m、幅は上位で60～100㎝低位で40㎝、検出面からの深さは28～32㎝を測る。遺構埋土は灰色粘土が埋積過程の初期段階に見られ、後に標準的な堆積層であるⅤ層が部分的に灰色粘土を混入して充填する。水路方向は北

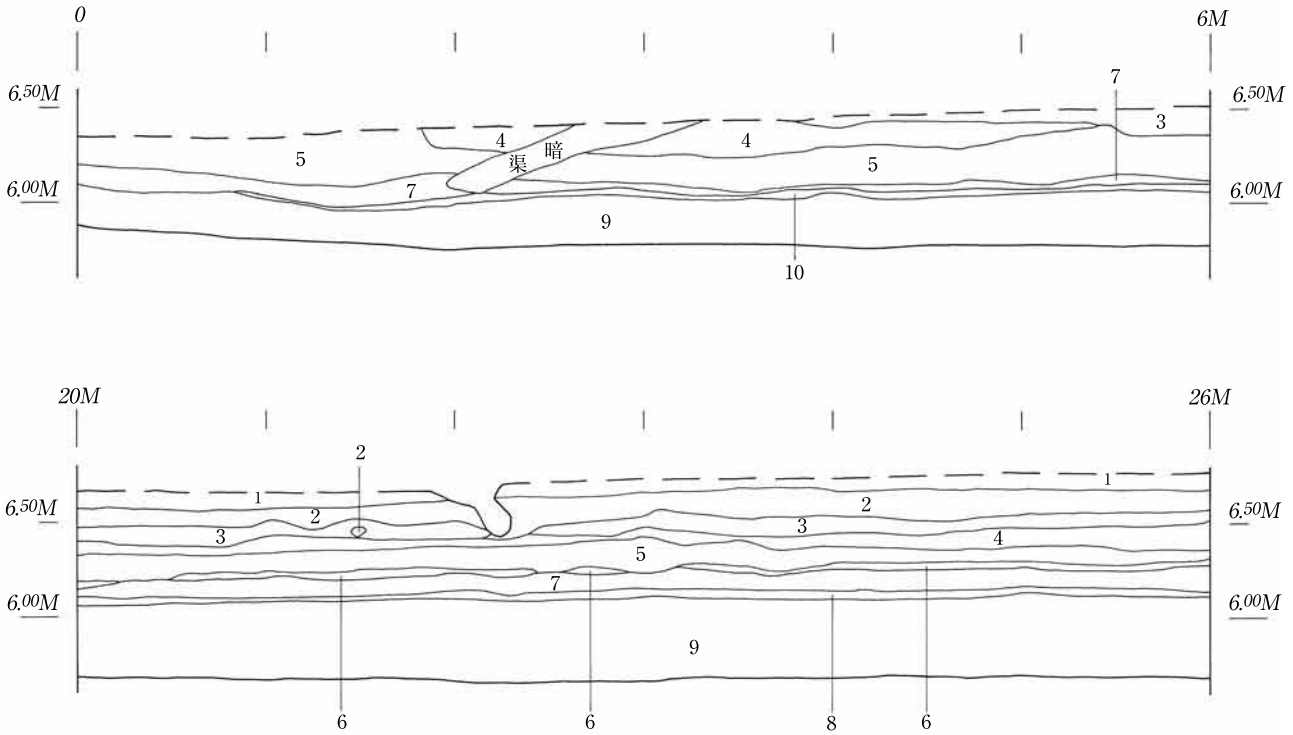
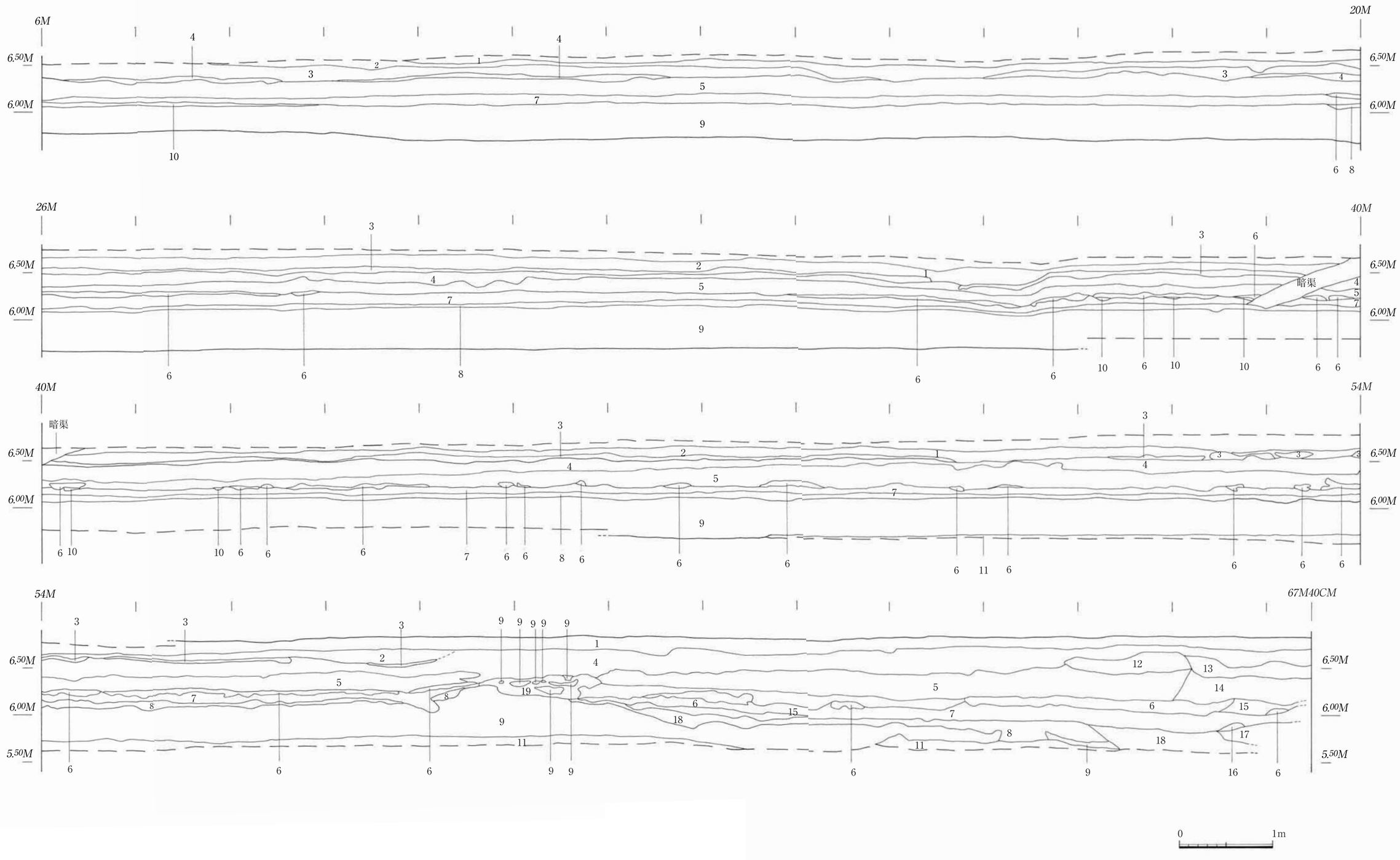


Fig.58　2A区西壁セクション図(S:1/40)

西壁セクション層序

層	内　　容	色	調	その他
1	褐色又は橙色(5YR6/8)の斑点を多く含む。粘性あり、締まりあり。	にぶい黄橙色	10YR6/3	旧耕作土
2	褐色の斑点を多く含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄褐色	10YR5/2	
3	腐植をやや含む。褐色の斑点を多く含む。南側では暗赤灰色(10Y4/1)を呈し、所々に小型、中型の植物遺体を含む。粘性あり、締まりあり。	黒褐色	7.5YR3/1	
4	褐色の斑点を多く含む。所々に小型の植物遺体を含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄褐色	10YR6/2	
5	褐色の斑点を多く含む。所々に小型、中型の植物遺体を含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄褐色	10YR4/2	
6	褐色の斑点と灰黄褐色(10YR5/2)土を多く含む。南側では褐色斑は少ない。鬼板状の含鉄物を含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y6/1	
7	褐色の斑点を多く含む。鬼板状の含鉄物を含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	5YR4/1	
8	褐色の斑点を多く含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	10YR5/1	Ⅲ A-0層
9	褐色の斑点は北に向かってやや密度を増して含まれる。層上位から下へ10～20㎝に幅20㎝の厚みを持った褐灰色(10YR4/1)の土層を恒常的に含み、ここでは南に向かって粘性を増す。粘土。締まりあり。	灰色	5Y6/1	Ⅳ層
10	褐色の斑点を少し含む。また褐灰色(5YR5/1)土、灰色(5Y6/1)粘土を含む。粘性あり、締まりあり。	極暗褐色	7.5YR2/3	
11	所々に青灰色(10BG6/1)の粘土を含む。粘土。締まりあり。	灰色	N4/1	
12	腐植を多く含む。炭化物を少し含む。粘性あり、締まりあり。	灰褐色	7.5YR4/2	
13	腐植を多く含む。粘性あり、締まりあり。	黒褐色	7.5YR3/2	
14	腐植を少し含む。褐色の斑点を少し含む。粘性あり、締まりあり。	黄褐色	2.5YR4/1	
15	褐色の斑点と灰色(7.5Y6/1)の粘土を所々含む。粘性あり、締まりあり。	灰色	5Y4/1	
16	粘土。締まりあり。	灰色	7.5Y6/1	
17	腐植を少し含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	7.5YR4/1	
18	炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	黄灰色	2.5Y5/1	
19	粘土。締まりあり。	灰色	N1/4	


6M
20M
26M
40M
54M
67M40CM
6.50M
6.00M
5.50M
暗渠
0
1m

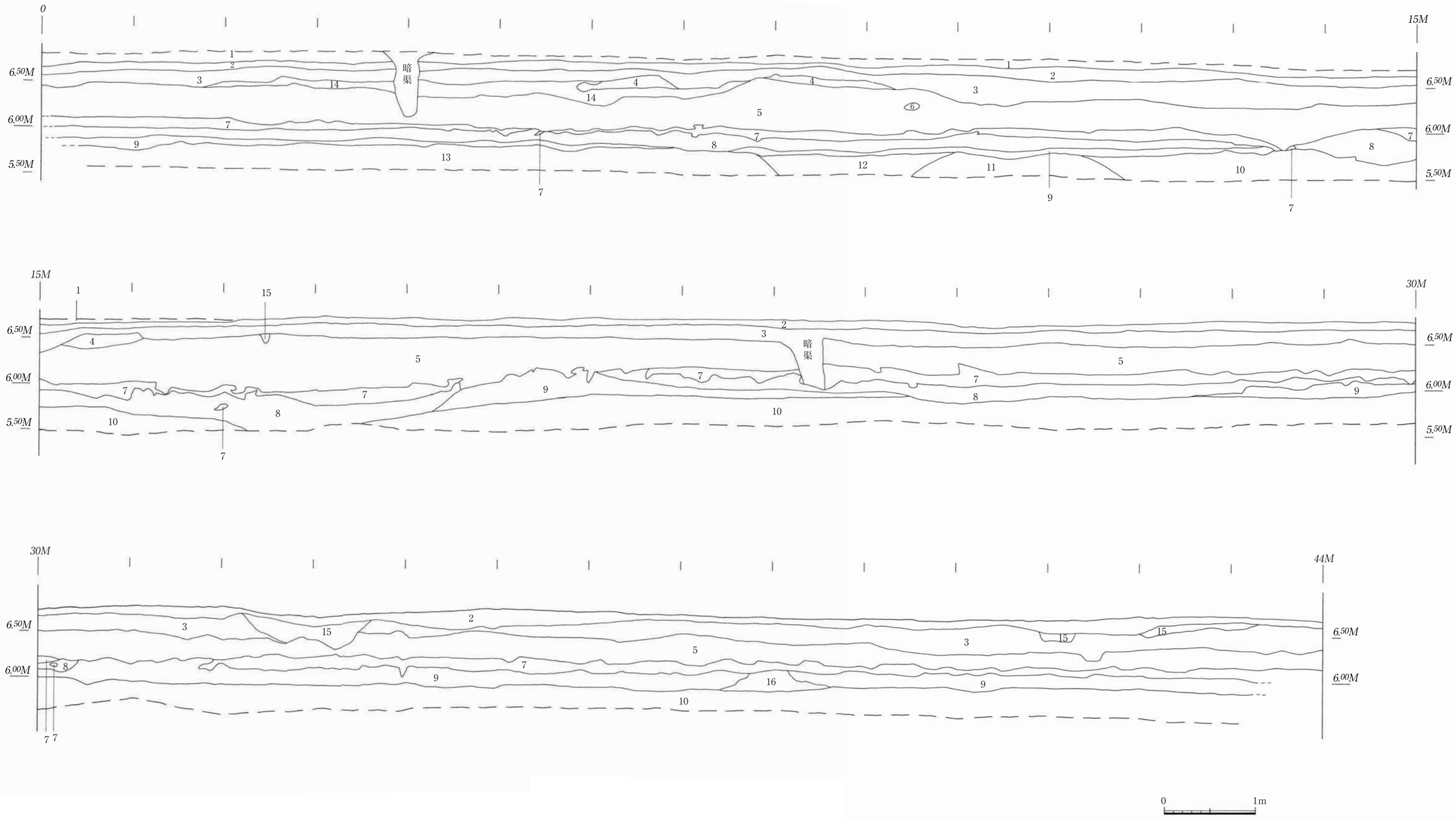


Fig.59　2A区北壁セクション図（S:1/40）

北壁セクション層序

層	内容	色調		その他
1	褐色の斑点を多く含む。粘性あり、締まりあり。	にぶい黄橙色	10YR6/3	旧耕作土
2	褐色の斑点を多く含む。東側では黒褐色(10YR3/2) を呈す。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y5/1	
3	腐植を多量に含む。小型の植物遺体を含む。東側では灰黄褐色 (10YR5/2)を呈す。粘性あり、締まりあり。	暗赤灰色	2.5YR3/1	
4	褐色の斑点を多く含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄褐色	10YR5/2	
5	褐色の斑点や腐植を多く含む。炭化物は少量で、所々に小型、中型の少量の植物遺体、また灰赤色粘土 (6層) を含む。東側では暗赤褐色 (5YR3/2)を呈す。粘性あり、締まりあり。	灰褐色	7.5YR4/2	ⅢD層
6	粘土。締まりあり。	灰赤色	10Y6/2	
7	褐色の斑点を多く含む。粘土。締まりあり。	黄灰色	2.5Y6/1	ⅢC層
8	腐植と褐色の斑点を多く含む。小型の植物遺体を極少量含む。灰色粘土を小ブロックで含む。炭化物を含む。東側では黒褐色 (10YR3/1)又は黒色 (10YR2/1) を呈す。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR5/1	ⅢB層
9	8層に近似し、灰色粘土が小ブロックで混入する。腐植を含む。	褐灰色	10YR5/1	ⅢA-0層
10	褐色の斑点を多く含む。炭化物と小型の植物遺体を少量含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR5/1	Ⅳ層
11	褐色の斑点を層上部に含む。粘土。締まりあり。	灰色	7.5Y6/1	
12	褐色の斑点を層上部に含む。炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR5/1	
13	褐色の斑点を層上部に多く含む。炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	灰色	7.5Y6/1	
14	腐植を多く含む。小型、中型の植物遺体を多く含む。粘性あり、締まりあり。	暗赤灰色	10Y3/1	
15	植物遺体を多く含む。粘性ややあり、締まりあり。	暗赤褐色	2.5YR3/1	暗渠？
16	青灰色粘土ブロックを含む。粘土。締まりあり。	黄灰色	7.5Y6/1	

東壁セクション（北側）層序

層	内容	色調		その他
1	粘性あり、締まりあり。	灰黄色	2.5Y7/2	耕作土
2	粘性あり、締まりあり。	灰白色	10YR7/1	
3	腐植を多く含む。粘性あり、締まりあり。	暗赤褐色	10R3/2	
4	腐植を少量含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄色	2.5Y6/2	
5	腐植を少量含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR4/1	
6	炭化物を少量含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR5/1	ⅢA層
7	粘土。締まりあり。	灰白色	2.5Y7/1	ⅢC層
7'	粘土。締まりあり。	灰白色	2.5Y7/1	
8	炭化物を含む。粘土。締まりあり。	黄灰色	2.5Y5/1	ⅢB層
9	粘土。締まりあり。	明緑灰色	7.5GY8/1	Ⅳ層
10	腐植と炭化物を含む。粘性あり、締まりあり。	黒褐色	2.5Y3/2	
11	炭化物を含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR4/1	

東壁セクション（南側）層序

層	内容	色調		その他
1	植物根跡を多く含み、赤褐色を帯びる。南端部では淡灰褐色を呈す。粒状の小穴が見られるが堅く締まる。粘性あり。	褐灰色	10YR4/1	
2	腐植や植物遺体を多く含み、赤褐色を帯びる。黒褐色の帯を形成する。ボソッと崩れ易い。南端部では灰褐色を呈す。粘性ややあり、締まりややあり。	黒褐色	10YR3/2	
3	粒状の小穴が見られ、植物根跡が残る。植物遺体は見られない。径1cm～細粒の褐色礫が少量入る。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR4/2	
4	混入物は2層に比べ少なく、粘性は強い。小穴が見られ、褐色を帯びる。褐色礫が少量含まれ、3層よりも褐色が強く濃色となる。粘性あり、締まりあり。シルト質。	黒褐色	10YR3/2	
5	小穴は存在するが上位層よりも少なく 褐色斑点は広がりを持ち、全体に褐色を帯びる。粘性、締まり共さらに強く、混入物は殆ど見られない。	灰色	5Y4/1	
6	小穴が少なく、褐色斑点の分布に斑が生じる。粘性は強く、堅く締まる。	灰色	5Y5/1	
7	植物遺体を含む。小穴が比較的多く見られ、植物根跡が残る。小ブロックで下層の灰色粘土が入る。南端部では黄褐色を帯びる。粘性あり、締まりややあり。シルト質。	褐灰色	10YR4/1	
8	小穴が見られ、植物根跡を残す。褐色を帯び、5mm大の褐色斑点を含む。粘性あり、締まりあり。	灰色	10Y5/1	
9	1層に近似するがより粘性が強い。多量の褐色斑点を含み、全体に暗褐色を帯びる。植物遺体を含み、酸化雰囲気。	褐灰色	10YR4/1	
10	植物根跡を残す。径1cm～数mm程度の褐色斑点が多数入り、全体に薄い紫色を帯びる。乳白色及び褐色の風化礫を含む。少量の植物遺体（径1.5cm）が存在する。南端部では暗青灰色を呈す。粘性あり、締まりあり。	灰色	5Y4/1	
11	腐植や小型の植物遺体を多量に含み、径4cm大の丸木も見られる。全体に暗褐色を帯びる。灰色シルトをブロックで含む。粘性、締まり共にやや弱い。	褐灰色	10YR4/1	
12	粘性強く、堅く締まる。	灰色	5Y5/1	
13	植物遺体を含む。全体に濃い灰色を帯びる。粘性あり、締まりはやや弱い。	黒褐色	2.5Y4/1	
14	小規模の灰色粘土（8層）ブロックを含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色土	—	
15	粘土。	灰白色	—	畦畔の痕跡？
16	灰色粘土をブロックで含む。	暗灰褐色土	—	

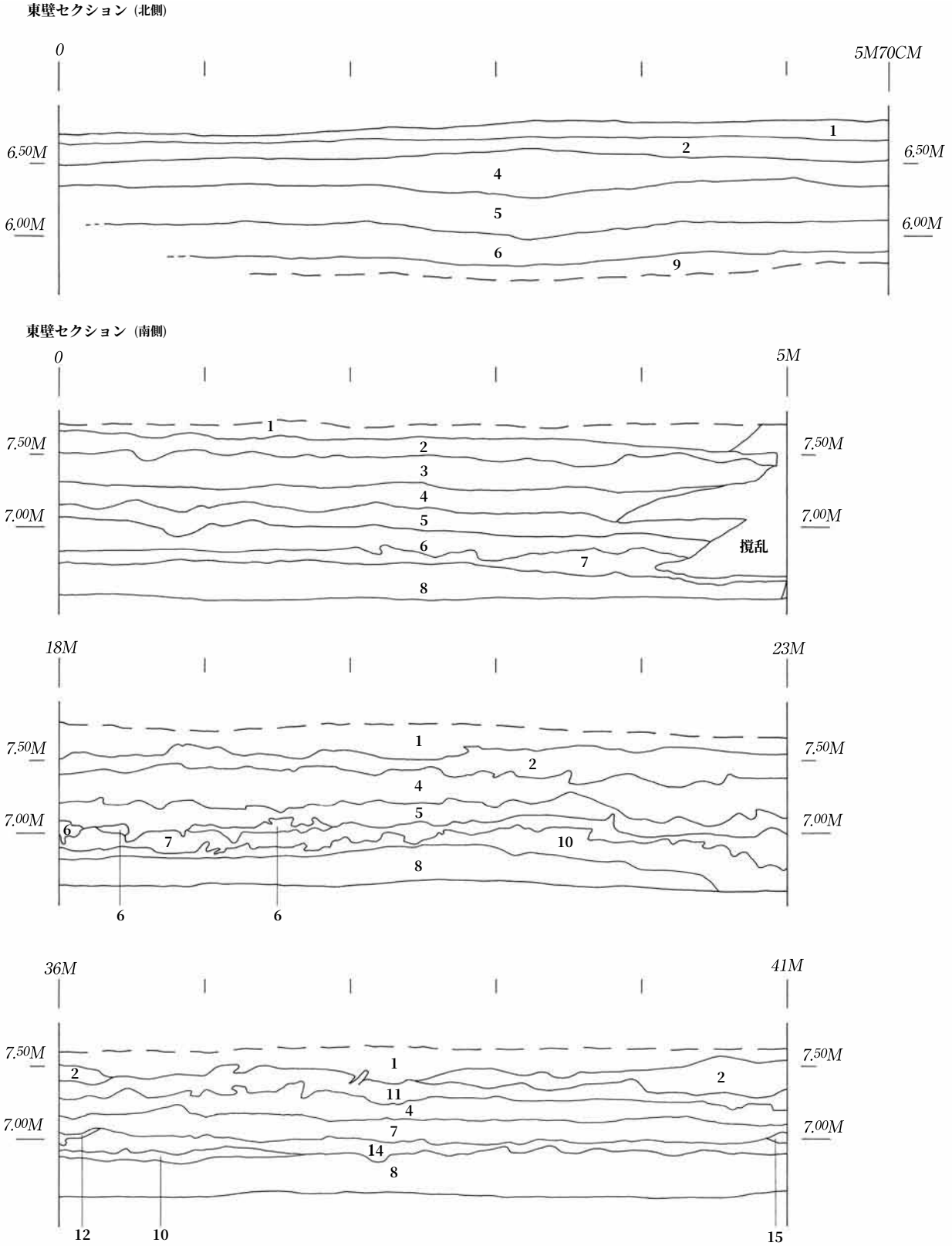
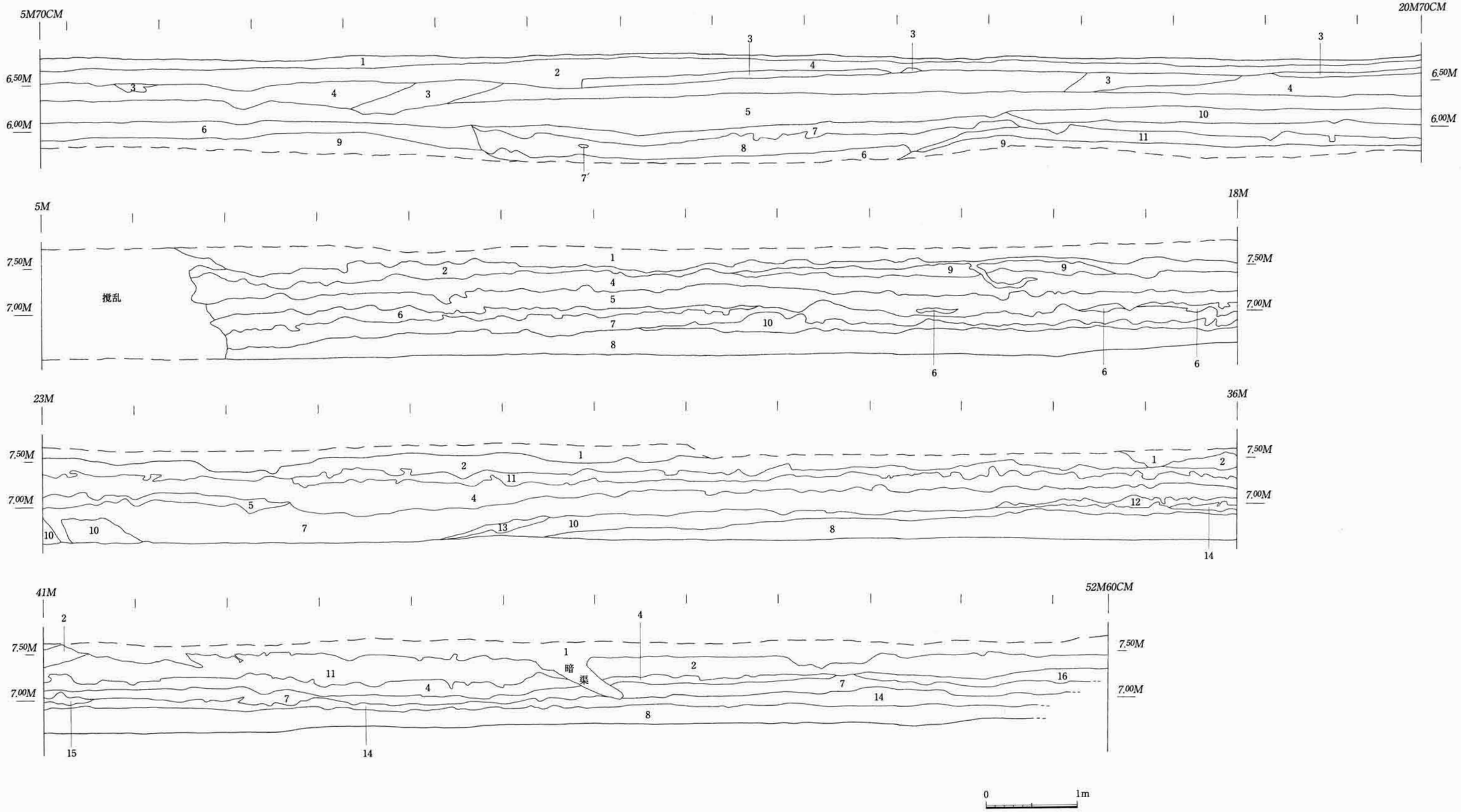


Fig.60　2A区東壁セクション図(S:1/40)


5M70CM
20M70CM
6.50M
6.00M
5M
18M
7.50M
7.00M
撹乱
23M
36M
41M
52M60CM
暗渠
0
1m

北東から南南西である。断面形は一貫して逆台形であり、底部は平らな面をなし、壁傾斜は急である。遺構は調査区の北端部分で流路群に切られているが、北隣の３B区で更に北方に延びる水路跡を確認している。直線的な方向性と形態から、計画的に上流部から導水し灌漑等を行う設備であろう。遺構壁に杭が打たれて発見されているが、水口等の付属施設は検出されていない。調査区北部では後出するSD２に切られる。

出土遺物は縄文土器深鉢が１点と弥生土器細片が１点が存在するが図示できるものはない。本調査区は南の調査１A区や１B区と同じ谷に存在しており、同一の堆積環境に置かれたものと考えられることから、SD１は縄文晩期から弥生前期の水路と考えられる。

SD２（Fig.61）

調査区の北西部から南東方向へ向かう。下層の調査が部分的なものであったことから全体の1/3程度を検出したものである。確認延長は20.5m、幅は上位で44～64㎝、低位で24～50㎝、検出面からの深さは15㎝である。遺構埋土は暗灰色土が低位に先行して存在し、後に黒灰色～灰色土が充填する。水路方向は北北西から南南東である。断面形は舟底形であり、SD１に比べると規模がやや小さく、規格性が乏しい。人為的な影響が薄くなったものか。検出面や遺構底部には小さな凹凸が見られた。調査区の北部でSD１を切っており、また後出するSR５に切られている。

出土遺物は無いが、埋積状態から推して弥生前期には機能を終えたものであろう。

水路・流路跡

SR４（Fig.57,66,69）

調査区の北西部から東壁中央部に至る。確認延長は45m、幅は上位で2.2m～３m、下位で1～1.8m、検出面からの深さは30～40㎝を測る。底面は概ね平らであり、断面形は横長のほぼ逆台形をなす。水路方向は北西から南東方向であり、直線的に延びる。遺構埋土は下位に褐灰色～暗灰褐色土であり、植物遺体を含み、腐植が多く見られる。最終段階の埋積土は褐色～褐灰色を呈すシルト質土層であり、SR４－1の下位埋土と近似する。調査区の北端部と中央部で各々SR２及びSR４－1に切られる。北隣の３B区では北西方向に繋がるであろう水路跡が検出されている。SD１の画一性とやや趣を異にするが平らな底面と直線的な水路方向は人為的な管理の基に設定されたものであろう。調査区の北部で肩部に打ち込まれた杭が纏まって検出されているが、付属施設の痕跡は認められない。

出土遺物は小型～中型の木器・木製品と石包丁や叩石などの石器・石製品、そして土器59点である。遺構底部からの出土は叩石１点と石錘？１点、縄文土器の浅鉢１点、深鉢１点、弥生前期土器の壺3点、甕3点である。上部の埋土及び包含層からは縄文土器の深鉢１点、浅鉢２点、弥生土器の壺13点、甕23点、鉢２点、土師器の高坏３点が見られた。

SD１・SD２の廃絶後の弥生前期の水路と考えられる。

SR 4 -1（Fig.57,66,68）

SR 4 と同様、調査区北西部から東壁中央部に至る。確認延長は43mであり、幅は上位で1.1～0.9m、下位で0.5m、検出面からの深さは24cmを測る。断面形は舟底形であり、遺構壁は緩やかな傾斜を持つ。底面には小さな凹凸が多く残る。流路方向は北北西から南南東であり、緩い蛇行を留める。初期段階の遺構埋土は黒褐色土であり、植物遺体と腐植を含む。調査区の北部でSR 4 を切り、北端部と中央部で新しい流路SR 2 に切られる。肩部を中心に数本の杭が打たれるが、規則性は認められない。

出土遺物は弥生土器の壺 2 点と甕14点、土師器の手捏ね土器 1 点である。

SR 4 以降の弥生期で人為的な拘束から離れた流路と考えられる。

SR 5

調査区の北部で下層検出のSD 2 に係る調査の際に発見された流路である。流路幅は約 2 m、検出面からの深さは約15cmを測る。流路方向は北西から南東方向である。遺構埋土はSR 4 －1と近似する暗灰褐色土であり、腐植を含む。底部でⅤ層を切って存在する。埋積土と流路方向から推してSR 4 以後SR 4 －1段階の流路河道の一つであろう。

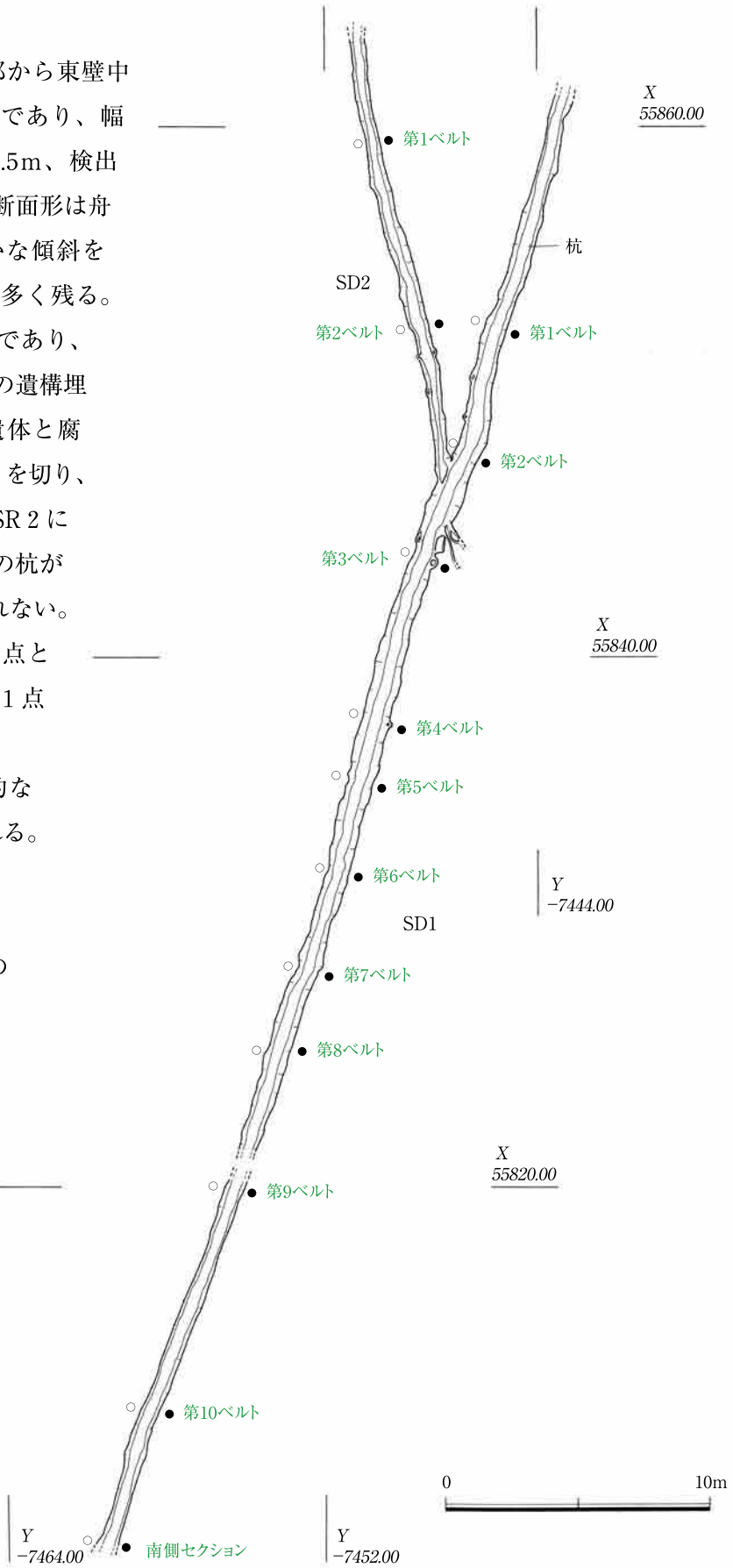


Fig.61　2A区SD1・SD2平面図（S:1/250）

SR 2 ・SR 3（Fig.57,67～69）

調査区の北部中央から東壁中央に向かって流れ、大小の蛇行を伴う。確認延長は40mであり、幅は上位で2.0～5.0m、下位で1.0～2.4m、検出面からの深さは約1mを測る。断面形は舟底形であり、壁の傾斜は緩やかである。底面には大きな凹凸が見られた。前述のSR 4 等に比べて規模が大きく、出土遺物の中に大型の木製品や自然木が見られることから運搬力も飛躍的に増大したことが窺える。この流路は調査区の中央で新旧 2 つの河道を残している。西側はやや先行する流路（SR3−2）であり、東側は新しく規模もやや大きい流路（SR3−1）である。東壁寄りで再びこの河道は一つになる。この流路群に伴う杭が遺構肩部と周辺に打たれている。北部ではSR 2 の蛇行する外側（攻撃面）に杭列が見られ、SR 4 の水路跡を斜めに横断する方向に杭が打たれていた。自然流路の性格が強く、巨視的には後述する畦畔に画された流路域内の河道の一つと考えられる。

出土遺物としては、小型～大型の植物遺体や獣骨などの自然遺物、多量の小円礫、小型～大型の木器・木製品、石鏃や叩石、石包丁、石鏃、管玉などの石器・石製品、そして弥生時代から古墳時代の土器・土製品595点である。このうち主にSR 3 − 2 から搬入品の土師器甕が出土している。

これらの流路群のうち古い河道（SR3−2）の時期は古墳時代初頭から前期であり、新しい河道（SR 3−1他）は古墳時代中期以降のものと考えられる。

SR 1（Fig.57）

調査区の北部でSR 2 から分かれ北側に大きく弧を描いて東壁に至る。確認延長は15.5mであり、

SD1東側セクション層序

層	内　　容	色　調		その他
1	所々に褐色の斑点を含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	10YR6/1	
2	所々に褐色の斑点や少量の炭化物を含む。所々鉄分の影響を受け褐色化する。北側では黄灰色（2.5Y5/1）を呈す。混入物は見られない。粘土。締まりあり。	灰黄色	2.5Y6/2	
3	所々に褐色の斑点を含む。所々鉄分の影響を受け褐色化する。粘土。締まりあり。	黄灰色	2.5Y6/1	
4	所々に褐色の斑点を含む。北へ向かって鉄分の影響受けての褐色化が顕著。粘性あり、締まりあり。	灰色	5Y6/1	
5	所々に褐色の斑点を含む。所々鉄分の影響を受け褐色化する。粘性あり、締まりあり。	灰色	5Y5/1	
6	部分的に土壌化が見られる。所々鉄分の影響を受け褐色化する。炭化物を少し含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄褐色	10YR5/2	
7	鉄分の影響を受け褐色化する。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y6/1	
8	所々に褐色の斑点を含む。小円礫を含む。下層との境は漸移的で、下位は黄灰色が強くなる。細かい乳白色の風化礫が混じる。北側では褐灰色（10YR5/1）を含む。粘性あり、締まりあり。	灰色	10Y6/1	
9	所々に褐色の斑点を含む。所々鉄分の影響を受け褐色化する。黄灰色粘土が小ブロックで混じる。少量の細かい炭化物が含まれ、小穴が多く開く。円礫を少量含む。北側では黄灰色（2.5Y4/1）を呈す。粘土。締まりあり。	灰色	7.5Y6/1	
10	土壌化が顕著で、全体にボソボソした感じ。褐色の斑点を多く含む。細かい植物遺体が多く、小穴も多く見られる。所々に炭化物を含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR4/1	
11	所々に炭化物を含む。北側では黒褐色（10YR3/1）粘土と灰白色（5Y7/1）粘土が混じる。黄灰色の風化礫や粘土ブロックが全体に混じる。植物遺体は見られない。粘土。締まりあり。	黒色	10YR2/1	
12	粘土。締まり強。	灰白色	5Y7/1	
13	灰白色（7.5Y7/2）粘土の細かいブロックが入る。炭化物を少し含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
14	所々に褐色の斑点を含む。全体的に褐色化が進む。下位には黒褐色の斑点が入る。混入物は見られない。粘性強、締まりあり。	灰色	5Y5/1	
15	土壌化が顕著で、全体にボソボソした感じ。薄黒紫色を帯びる。混入物は殆ど見られない。粘性あり、締まりあり。	にぶい黄褐色	10YR5/3	
16	ブロックで存在する。褐色の斑点が少量含まれる。粘性強、締まりややあり。	灰色	7.5Y4/1	
17	黄灰色（2.5Y4/1）粘土が斑点状に入る。植物遺体が混入。粘性ややあり、締まりややあり。	黒褐色	2.5Y3/1	
18	灰白色粘土が混じる。植物遺体を少量含む。粘性強、締まりややあり。	灰色	5Y4/1	
19	細かい褐色の斑点が見られ、褐色化が進む。薄黒紫色を帯びる。混入物は殆ど見られない。部分的に粘性強、締まりややあり。	灰色	5Y8/1	

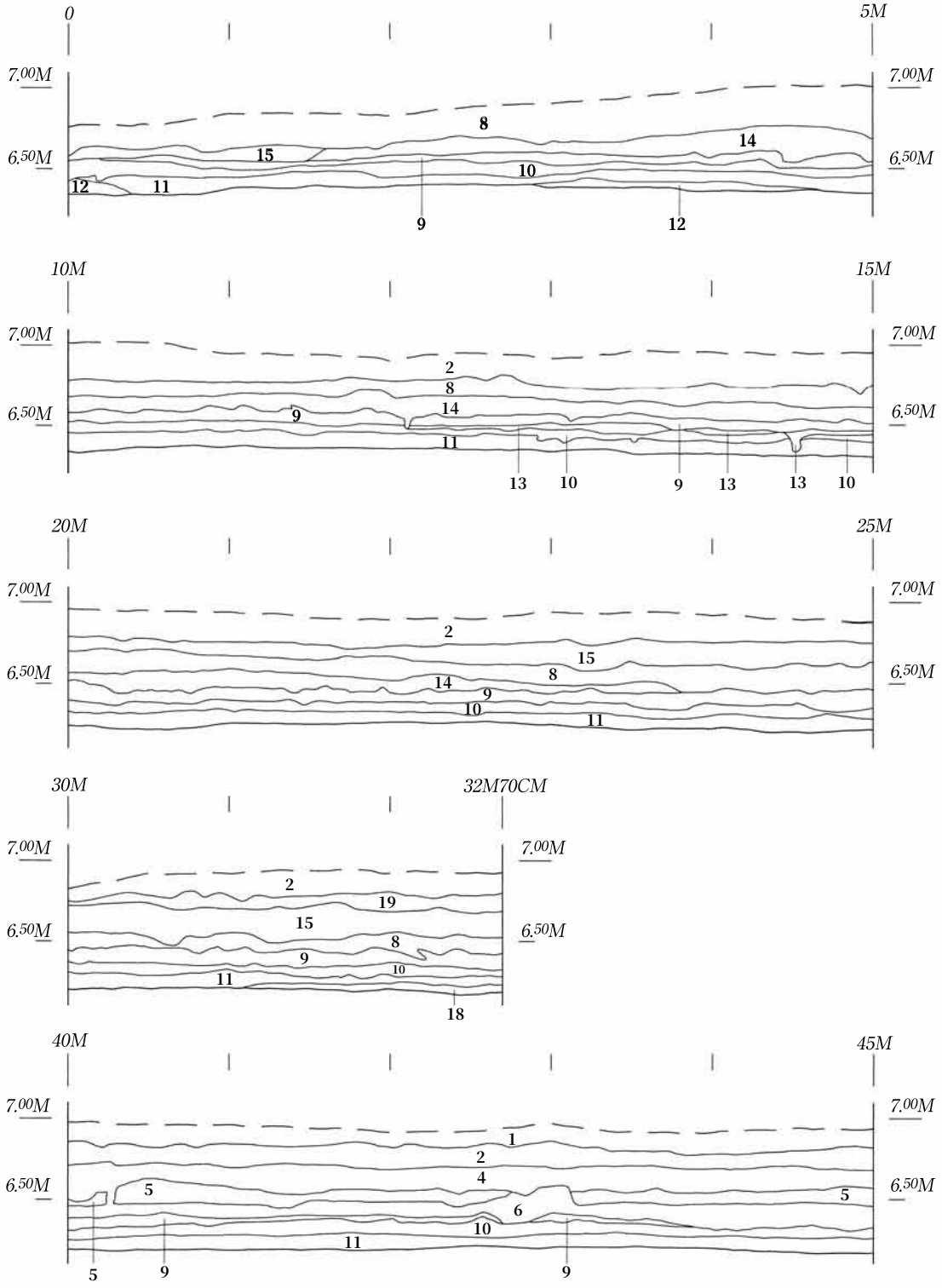
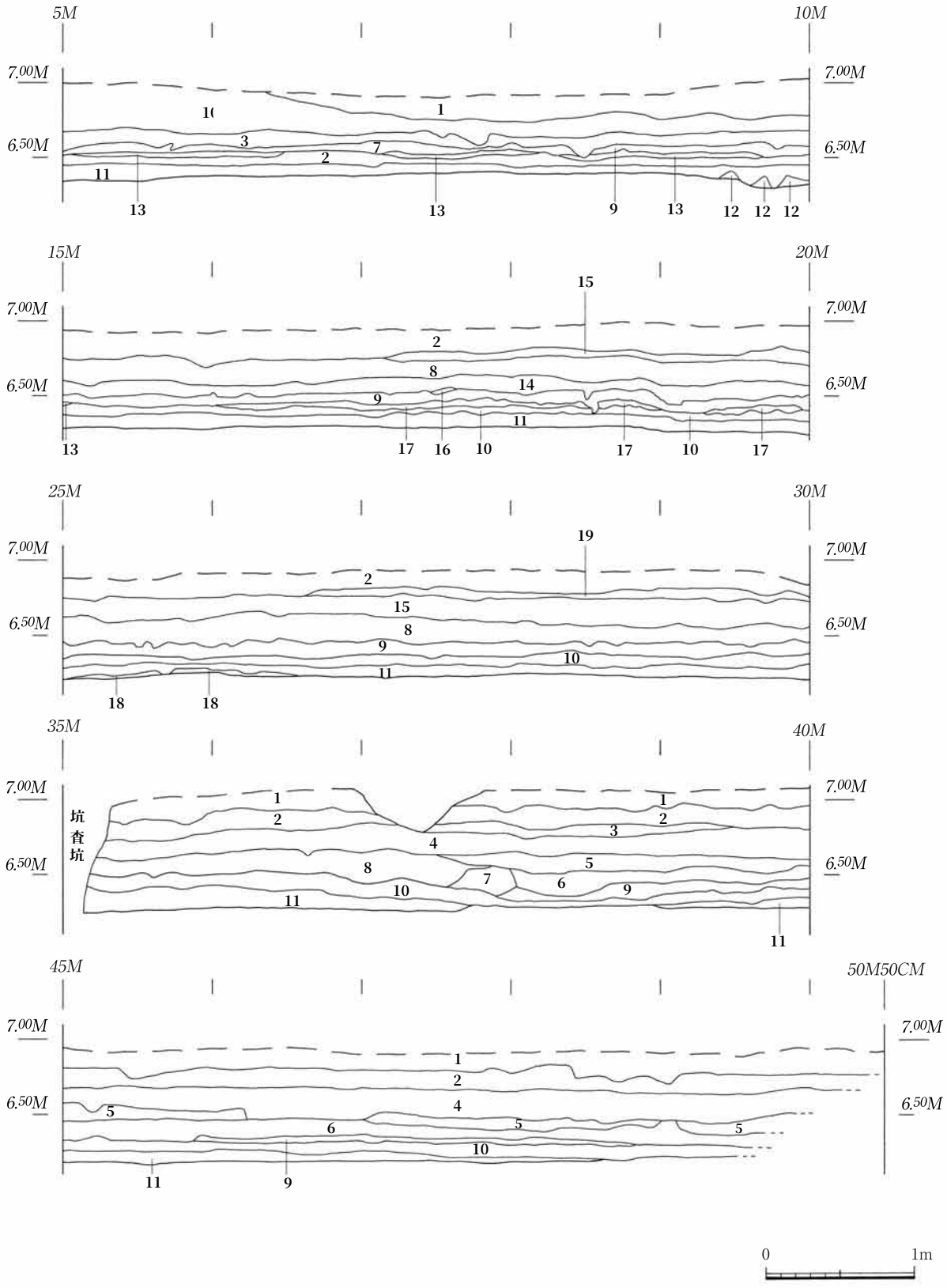


Fig.62　2A区SD1東側セクション図 (下層堆積状態) (S:1/40)


5M
10M
7.00M
6.50M
15M
20M
25M
30M
35M
40M
45M
50M50CM
坑
查
坑
0
1m

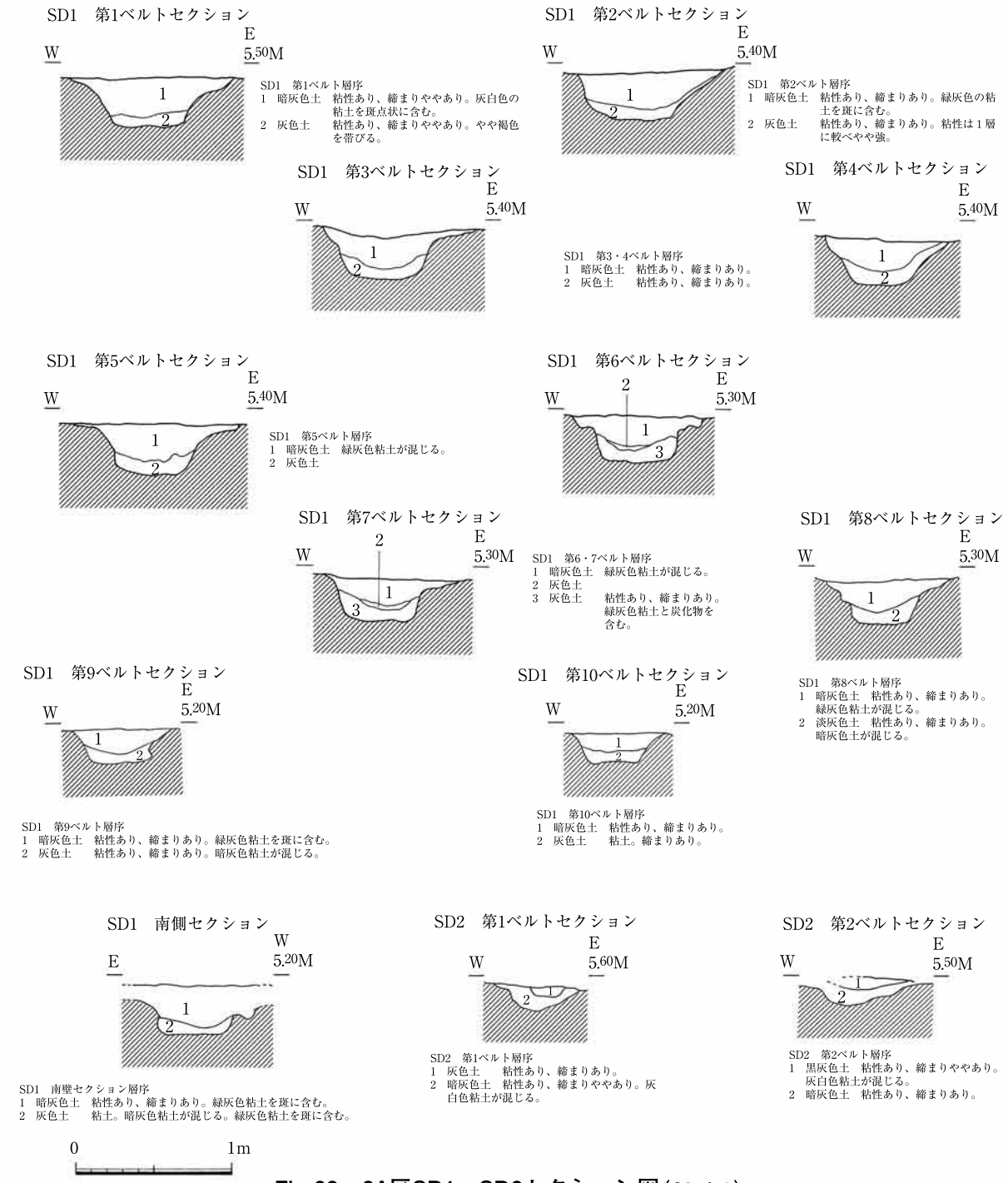


Fig.63　2A区SD1・SD2セクション図(S:1/40)

幅は上位で5.8～7.1m、下位で約5m、検出面からの深さは約35cmを測る。遺構埋土は下位にⅢA層の二次堆積である褐灰色土が存在し、上位に褐灰色～暗灰褐色土(ⅢB層)が存在する。最終的にはⅢC層(灰白色土)が充填したものと考えられるが、検出時には一部が残るのみであった。遺構の肩部北側には土手状の高まり(畦畔)が存在している。南側の遺構壁は緩やかに立ち上がるもののやや不明瞭である。窪み状の地形(場所)が流路的な性格を持ったものであろうか。常時河道として機能した形跡は薄い。

出土遺物は台石？などの石器・石製品と弥生土器8点、土師器6点である。

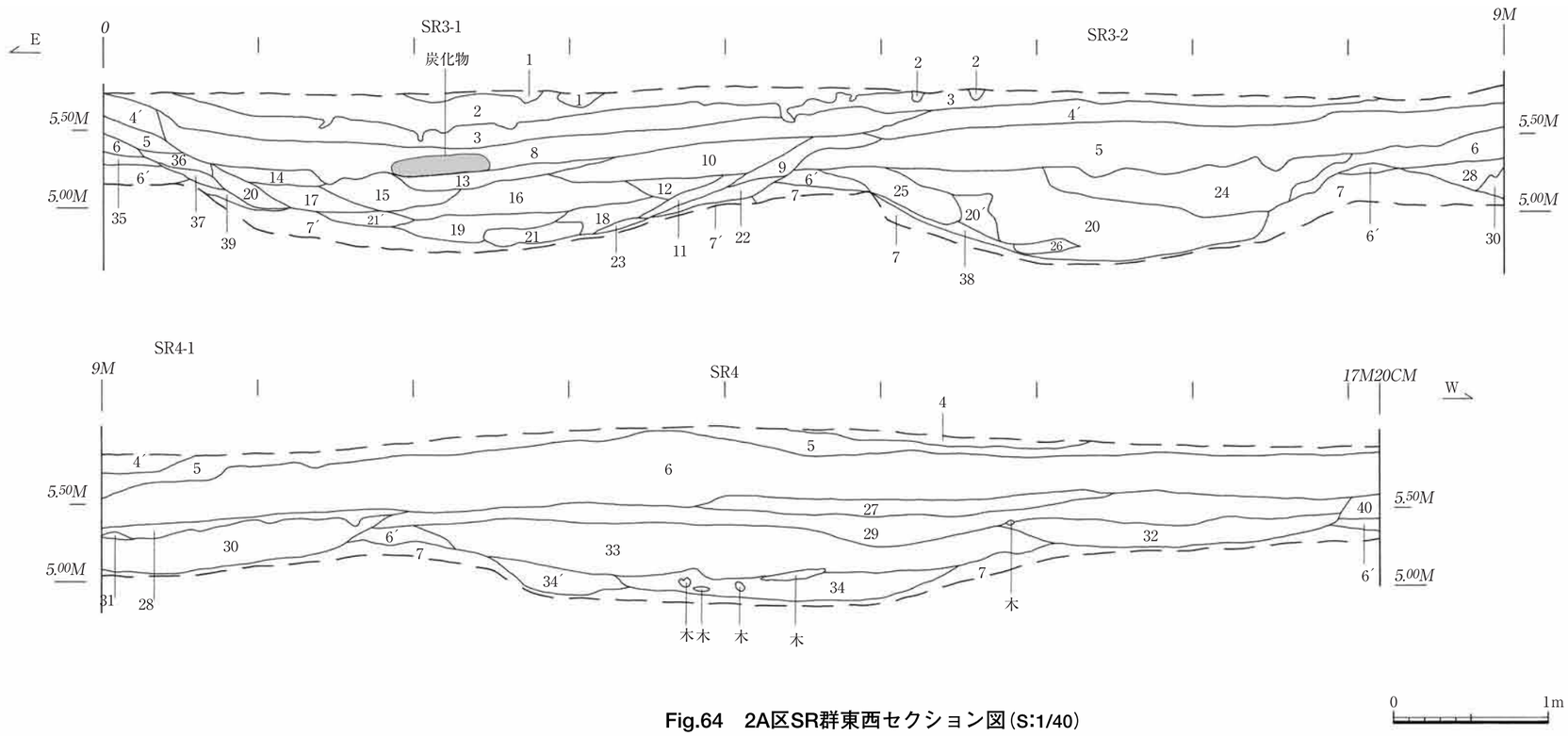


Fig.64　2A区SR群東西セクション図(S:1/40)

SR群東西セクション層序

層	内　　容	色　調		その他
1	腐植と少量の炭化物を含む。粘性あり、締まりあり。	灰褐色	5YR6/2	
2	粘土。締まりあり。	灰白色	2.5Y7/1	
3	所々に淡黄色（5Y8/4)土と炭化物を少し含む。腐植を多く含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR4/1	
4	所々に淡黄色（5Y8/4)土と炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	5YR4/1	
4′	所々に淡黄色（5Y8/4)土と炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	灰褐色	5YR5/2	
5	所々に淡黄色（5Y8/4)土と炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	灰色	N6/0	
6	炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	明青灰色	5B7/1	
6′	粘土。締まりあり。	灰色	N4/0	
7	浅黄色（2.5Y7/4)粘土を多量に含む。炭化物を少量含む。粘土。締まりあり。	灰色	N5/0	
7′	浅黄色（2.5Y7/4)粘土を少し含む。粘土。締まりあり。	灰色	N5/0	
8	淡黄色(5Y8/4)土を図中の網掛部分に多く含む。 腐植を多く含む。 炭化物を含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR6/1	
9	淡黄色（5Y8/4)土とにぶい赤橙色（10R6/4)粘土を少し含む。炭化物を含む。粘土。締まりあり。	灰白色	10YR7/1	
10	淡黄色（5Y8/4)土と明青灰色（5B7/1)粘土を少し含む。腐植と炭化物を少量含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR6/1	
11	淡黄色（5Y8/4)土と炭化物を極少量含む。粘土。締まりあり。	にぶい赤橙色	10R6/4	
12	にぶい赤橙色(10R6/4)粘土と少量の淡黄色(5Y8/4)土、極少量の明青灰色(5B7/1)粘土を含む。腐植を含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR6/1	
13	淡黄色(5Y8/2)土を極少量含む。腐植と炭化物を少量含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR5/1	
14	淡黄色(5Y8/4)土と灰色(N7/0)粘土を含む。小型の植物遺体と炭化物を少量含む。腐植を含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR7/1	
15	14層に近似する。腐植と少量の植物遺体及び炭化物を含む。粘性あり、締まりあり。	灰色	N7/0	
16	明青灰色(5B7/1)粘土と淡黄色(5Y8/4)土を極少量含む。植物遺体と炭化物、多量の腐植を含む。粘性あり、締まりあり。	明褐色	7.5YR7/1	
17	14層に近似する。にぶい赤橙色(10R6/4)粘土を含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR7/1	
18	淡黄色(5Y8/4)土を少し含む。小型・中型の植物遺体と炭化物を含む。腐植を多く含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	5YR5/1	
19	16層に近似する。緑灰色(10GY6/1)の細砂を含む。小型の植物遺体を極少量と炭化物を含む。粘性あり。	明褐色	7.5YR7/1	
20	淡黄色(5Y8/4)土と少量の明青灰色(5B7/1)粘土を含む。小型から大型の植物遺体と腐植を多く含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y6/1	
20′	20層の一部。明青灰色(5B7/1)粘土が多く、淡黄色(5Y8/4)土が見られない。中型の植物遺体を少し含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y6/1	
21	緑灰色(10GY6/1)細砂と腐植による明褐灰色(7.5YR7/1)土、明青灰色(5B7/1)粘土を少量含む。小型・中型の植物遺体を少し含む。粘性あり、締まりあり。	黄色	5Y8/6	
21′	21層ににぶい赤橙色(10R6/4)粘土を含む。	黄色	5Y8/6	
22	18層に似る。灰色(N5/0)粘土と浅黄色(2.5Y7/4)粘土を含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	5YR5/1	
23	21層に近似する。灰色(N5/0)を含む。粘性あり、締まりあり。	黄色	5Y8/6	
24	所々に灰色(N6/0)粘土の小ブロックや炭化物を少し含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄色	2.5Y6/2	
25	明青灰色(5B7/1)粘土と灰色(N5/0)粘土、浅黄色(2.5Y7/4)粘土が混じる。小型の植物遺体を極少量含む。粘土。締まりあり。	灰色	N6/0	
26	小型の植物遺体を極少量含む。粘土。締まりあり。	黄灰色	2.5Y5/1	
27	炭化物を少量含む。粘土。締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
28	6層に近似する。黒褐色(2.5Y3/2)の腐植土を多く含む。粘土。締まりあり。	明青灰色	5B7/1	
29	小型～大型の植物遺体を少量含む。腐植と炭化物を少量含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄色	2.5Y6/2	
30	明青灰色(5B7/1)粘土を少し含む。小型～大型の植物遺体を含む。腐植を多く含む。炭化物を少量含む。粘性あり、締まりあり。	黒褐色	2.5Y3/2	
31	28層の一部？青灰色(5BG6/1)の細砂を含む。粘性やや強、締まりあり。	明青灰色	5B7/1	
32	小型～大型の植物遺体と炭化物を少量含む。粘土。締まりあり。	灰褐色	7.5YR5/2	
33	所々に淡黄色(2.5Y8/4)土を少し含む。小型・中型の植物遺体を極少量含む。炭化物と腐植を少量含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR4/1	
34	所々に淡黄色(2.5Y8/4)土を少し含む。小型～大型の植物遺体を少量含む。炭化物と腐植を含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR5/1	
34′	33層に近似する。灰色(N4/0･N5/0)粘土、浅黄色(2.5Y7/4)粘土が混じる。炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR4/1	
35	6層に近似する。腐植を少し含む。粘土。締まりあり。	明青灰色	5B7/1	
36	5層に近似する。腐植を少し含む。粘土。締まりあり。	灰色	N6/0	
37	灰色(N5/0)粘土と浅黄色(2.5Y7/4)粘土が混じる。粘土。締まりあり。	灰色	N4/0	
38	浅黄色(2.5Y7/4)粘土と灰色(N4/0)粘土が混じる。粘土。締まりあり。	灰色	N5/0	
39	37層に比べて灰色(N5/0)粘土がやや多い。	灰色	N4/0	Ⅴ層の二次堆積？
40	粘土。締まりあり。	明青灰色	5B7/1	Ⅳ層？

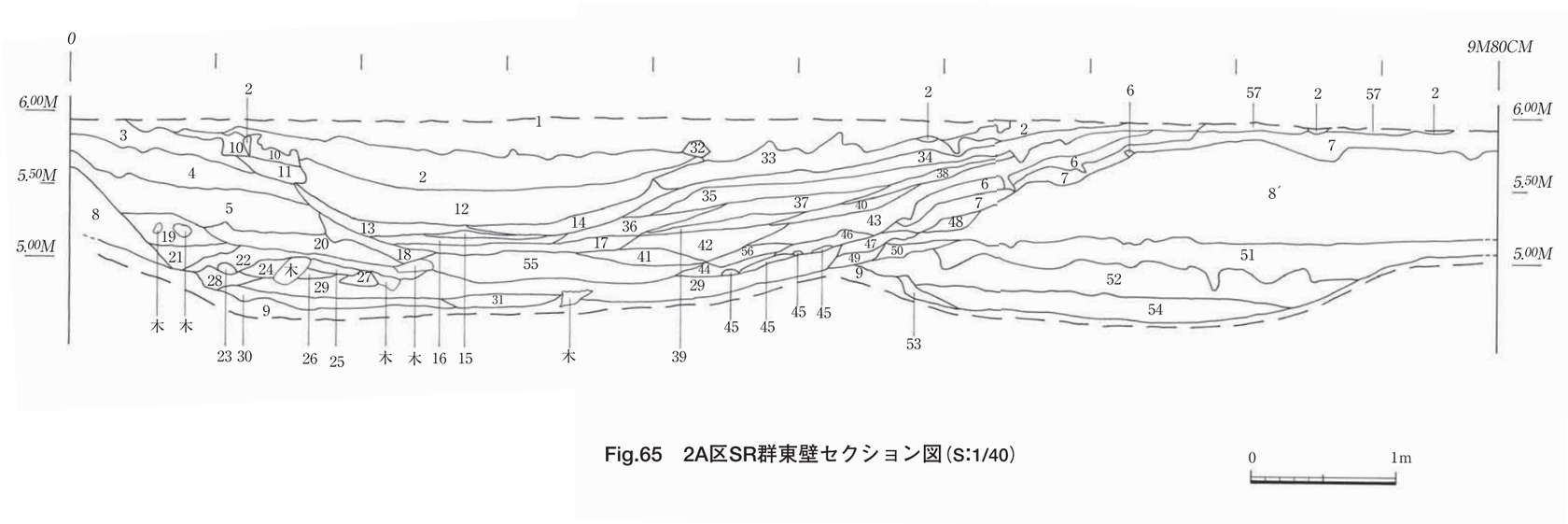


Fig.65　2A区SR群東壁セクション図（S:1/40）

SR群東壁セクション層序

層	内　　容	色　調		その他
1	所々に灰色(7.5Y6/1)粘土を含む。腐植を含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄褐色	10YR4/2	
2	粘土。締まりあり。	灰色	7.5Y6/1	
3	褐色の斑点を多く含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	7.5YR4/1	
4	層上部に褐色の斑点が顕著。粘土。締まりあり。	褐灰色	10YR5/1	
5	層上部に褐色の斑点を少し含む。粘土。締まりあり。	灰色	10Y6/1	
6	褐色の斑点を少し含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	10YR5/1	
7	褐色の斑点を含む。8	黄灰色	2.5Y6/1	
8	褐色の斑点を少し含む。層下部に小型・中型の植物遺体を少し含む。粘土。締まりあり。	明青灰色	5B7/1	
8'	所々に褐色の斑点をブロックで含む。粘土。締まりあり。	明青灰色	5B7/1	
9	にぶい黄色(10YR6/4)粘土と灰色(5Y5/1)粘土を含む。粘土。締まりあり。	暗灰色	N3/0	
10	にぶい黄橙色(10YR6/4)の腐植土をブロックで含む。炭化物を極少量含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	7.5YR4/1	
11	腐植を含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	7.5YR4/1	
12	所々に淡黄色(2.5Y8/4)土と灰白色(2.5Y8/2)土を含む。　腐植と小型の植物遺体を含む。　粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
13	所々に褐灰色(10YR5/1)粘土と灰色(10Y6/1)粘土を含む。腐植と小型の植物遺体、炭化物を極少量含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR4/1	
14	褐灰色（10YR5/1)粘土が混じる。小型の植物遺体を含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
15	にぶい黄色(2.5Y6/4)土が混じる。小型の植物遺体を含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
16	青灰色(5B6/1)粘土と褐灰色(10YR5/1)粘土の小ブロックを多量に含む。粘性強、締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
17	青灰色(5B6/1)粘土と褐灰色(10YR5/1)粘土の小ブロックと浅黄色(5Y7/4)土が混じる。小型の植物遺体と炭化物を少し含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
18	灰色(10Y6/1)粘土が混じる。小型の植物遺体や腐植を極少量含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y4/1	
19	明青灰色(5B7/1)粘土を多く含む。炭化物をやや多く含む。　中型・大型の植物遺体を含む。粘土。 締まりあり。	灰白色	10Y7/1	
20	灰色(2.5Y5/1)粘土を含む。腐植を含む。炭化物を少し含む。粘性あり、締まりあり。	黄灰色	2.5Y5/1	
21	明青灰色(5B7/1)粘土をやや多く含む。小型・中型の植物遺体と炭化物、少量の腐植を含む。粘性強、締まりあり。	灰色	5Y5/1	
22	黄灰色(2.5Y5/1)の腐植土が混じる。小型・大型の植物遺体を含む。炭化物を少し含む。粘性あり、締まりあり。	灰色	5Y5/1	
23	腐植を多く含む。中型の植物遺体を少し含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	7.5YR5/1	
24	小型・大型の植物遺体を含む。炭化物を極少量含む。粘性あり、締まりあり。	灰色	5Y6/1	
25	小型・中型の植物遺体を含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	10YR6/1	
26	褐灰色(10YR6/1)粘土を含む。小型の植物遺体と炭化物を極少量含む。粘性あり、締まりあり。	浅黄色	2.5Y7/3	
27	浅黄色(2.5Y7/3)土が混じる。小型の植物遺体を少量と炭化物を極少量含む。粘性あり、締まりあり。	褐灰色	10YR6/1	
28	明青灰色(10BG7/1)粘土を含む。小型の植物遺体を少量と炭化物を極少量含む。粘土。締まりあり。	褐灰色	5YR6/1	
29	所々に浅黄色(2.5Y7/3)土と明青灰色(10BG7/1)粘土を含む。小型・中型の植物遺体と炭化物を多く含む。粘性強、締まりあり。	灰白色	2.5Y7/1	
30	所々に浅黄色(2.5Y7/3)土を含む。小型・中型の植物遺体と炭化物をやや多く含む。粘性強、締まりあり。	灰白色	5Y7/1	
31	所々に浅黄色(2.5Y7/3)土を含む。小型・中型の植物遺体をやや多く含む。炭化物を少量含む。粘性強、締まりあり。	褐灰色	7.5YR6/1	
32	灰色(7.5Y6/1)粘土が混じる。粘性強、締まりあり。	灰黄褐色	10YR4/2	
33	灰黄褐色(10YR4/2)土を含む。小型の植物遺体を少量と炭化物を含む。	褐灰色	5YR5/1	
34	腐植を含む。小型の植物遺体を極少量と炭化物を少量含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄褐色	10YR5/2	
35	小型の植物遺体と炭化物を含む。粘性やや強、締まりあり。	灰黄褐色	10YR6/2	
36	小型・中型の植物遺体を含む。腐植を多く含み、炭化物は極少量含む。粘性あり、締まりあり。	灰黄色	2.5Y6/2	
37	所々に明黄褐色(2.5Y7/6)土、上部に明青灰色(5G7/1)粘土を含む。小型の植物遺体と炭化物を極少量含む。粘性あり、締まりあり。	暗灰黄色	2.5Y5/2	
38	所々に明青灰色(5G7/1)粘土を含む。小型の植物遺体と炭化物を少量含む。粘土。締まりあり。	赤灰色	10R5/1	
39	明黄褐色(2.5Y7/1)土と赤灰色(10R5/1)粘土が混じる。小型の植物遺体と炭化物を少し含む。粘土。締まりあり。	暗灰黄色	2.5Y5/2	
40	腐植を少量と炭化物を極少量含む。粘土。締まりあり。	赤灰色	2.5YR5/1	
41	明青灰色(5G7/1)粘土と灰色(7.5Y5/1)土が混じる。小型の植物遺体と炭化物を含む。	灰白色	2.5Y7/1	
42	所々に明青灰色(5G7/1)粘土を少し含む。腐植と小型の植物遺体を少量、炭化物を極少量含む。	灰色	7.5Y5/1	
43	所々に褐色の斑点を含む。炭化物を極少量含む。ⅢA層に近似する。粘土。締まりあり。	赤灰色	10R5/1	
44	赤灰色(7.5R6/1)粘土が混じる。	灰白色	2.5Y7/1	
45	粘土。締まりあり。	赤灰色	7.5R6/1	
46	赤灰色(7.5R6/1)粘土を含む。腐植を極少量含む。粘土。締まりあり。	明緑灰色	10G7/1	
47	赤灰色(7.5R6/1)粘土と明緑灰色(10G7/1)粘土を含む。小型・中型の植物遺体と炭化物を少量含む。粘土。締まりあり。	赤灰色	2.5YR4/1	
48	赤灰色(2.5YR4/1)粘土が混じる。炭化物と褐色の斑点を極少量含む。	明青灰色	5B7/1	
49	明緑灰色(10GY7/1)粘土が混じる。小型の植物遺体を少量、炭化物を極少量含む。	赤灰色	2.5YR4/1	
50	明緑灰色粘土(10GY7/1)が多く混じる。	赤灰色	2.5YR4/1	
51	褐灰色(10YR5/1)土が混じる。小型の植物遺体と炭化物を極少量含む。	明青灰色	5B7/1	
52	所々に浅黄色(2.5Y7/4)土を含む。小型・中型の植物遺体と腐植、炭化物を少量含む。粘性強、締まりあり。	褐灰色	10YR5/1	
53	灰黄色(2.5Y6/2)の腐植土が混じる。中型の植物遺体を極少量含む。	灰色	5Y5/1	
54	小型・中型の植物遺体と炭化物を多く含む。腐植を含む。粘性強、締まりあり。	灰黄色	2.5Y6/2	
55	浅黄色(2.5Y7/3・5Y7/4)土と明青灰色(10BG7/1)粘土が混じる。緑灰色(5G6/1)の細砂を含む。小型～大型の植物遺体をやや多く含む。炭化物を極少量含む。	黄灰色	2.5Y4/1	
56	所々に明青灰色(5G7/1)粘土と灰色(7.5Y5/1)土、赤灰色(10R5/1)粘土が混じる。	灰色	7.5Y5/1	
57	にぶい黄橙色(10YR6/4)の腐植土をブロックで含む。炭化物を極少量含む。	褐灰色	7.5YR4/1	

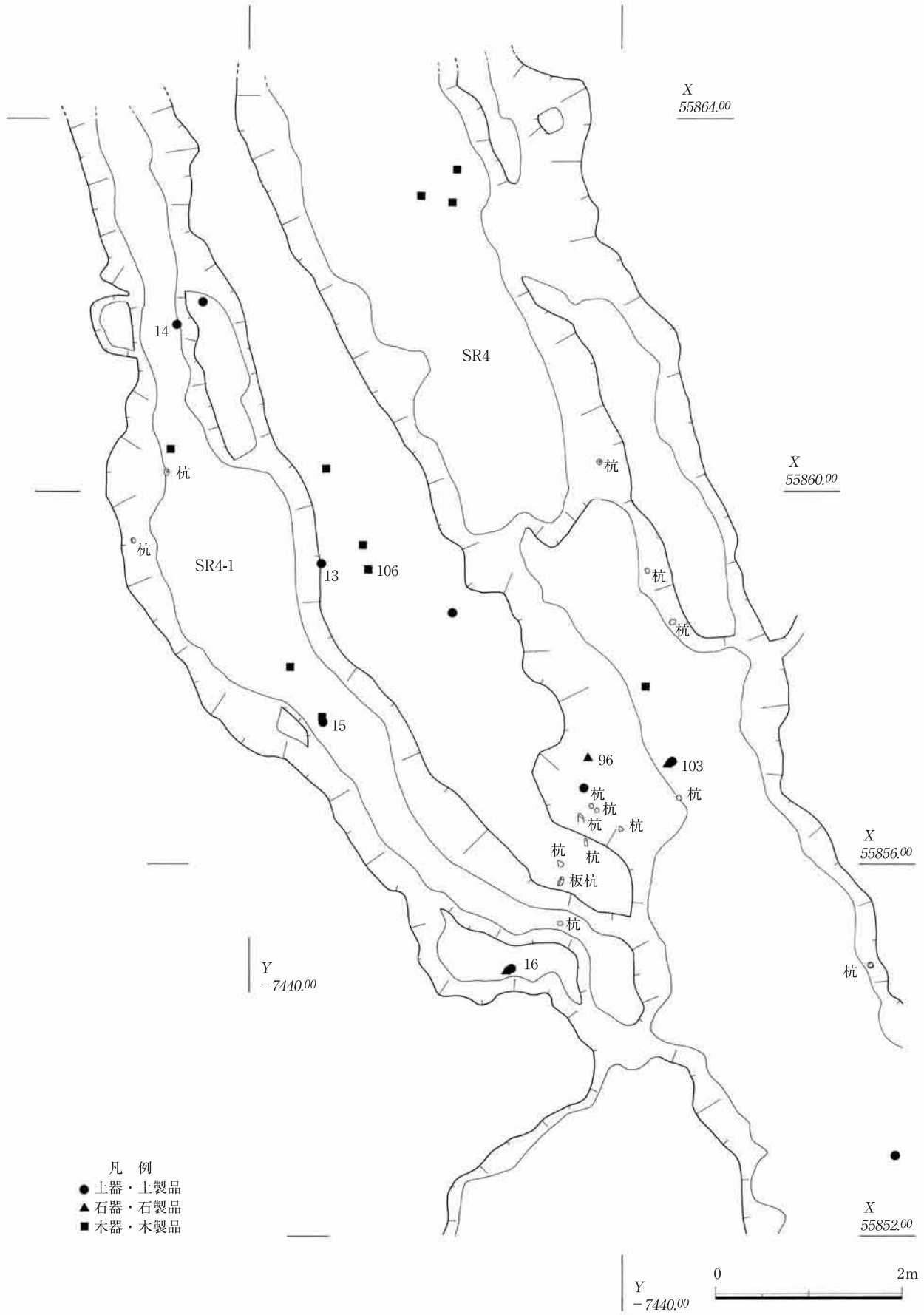


Fig.66　2A区SR群遺構平面図1(S:1/60)

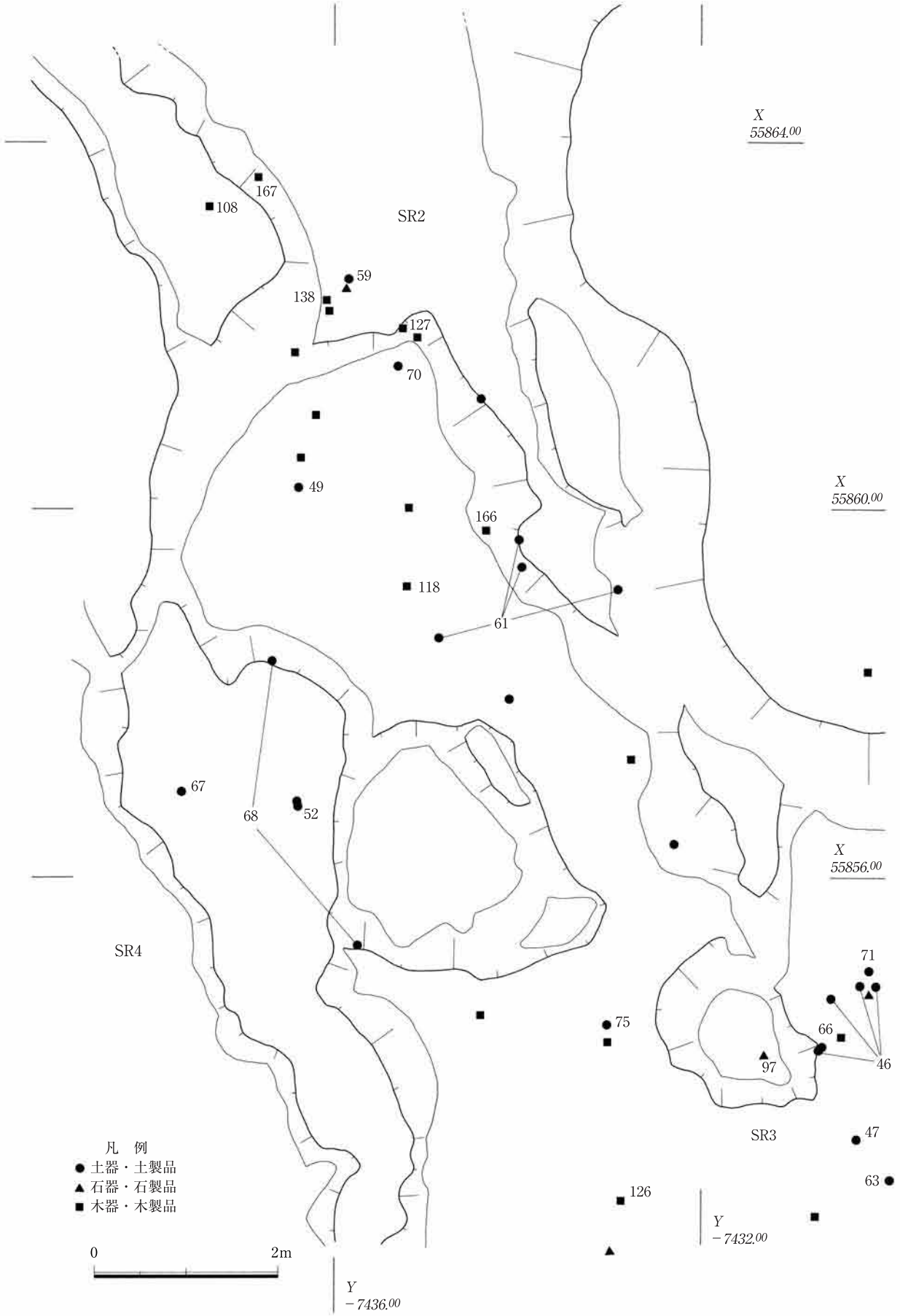


Fig.67　2A区SR群遺構平面図2(S:1/60)

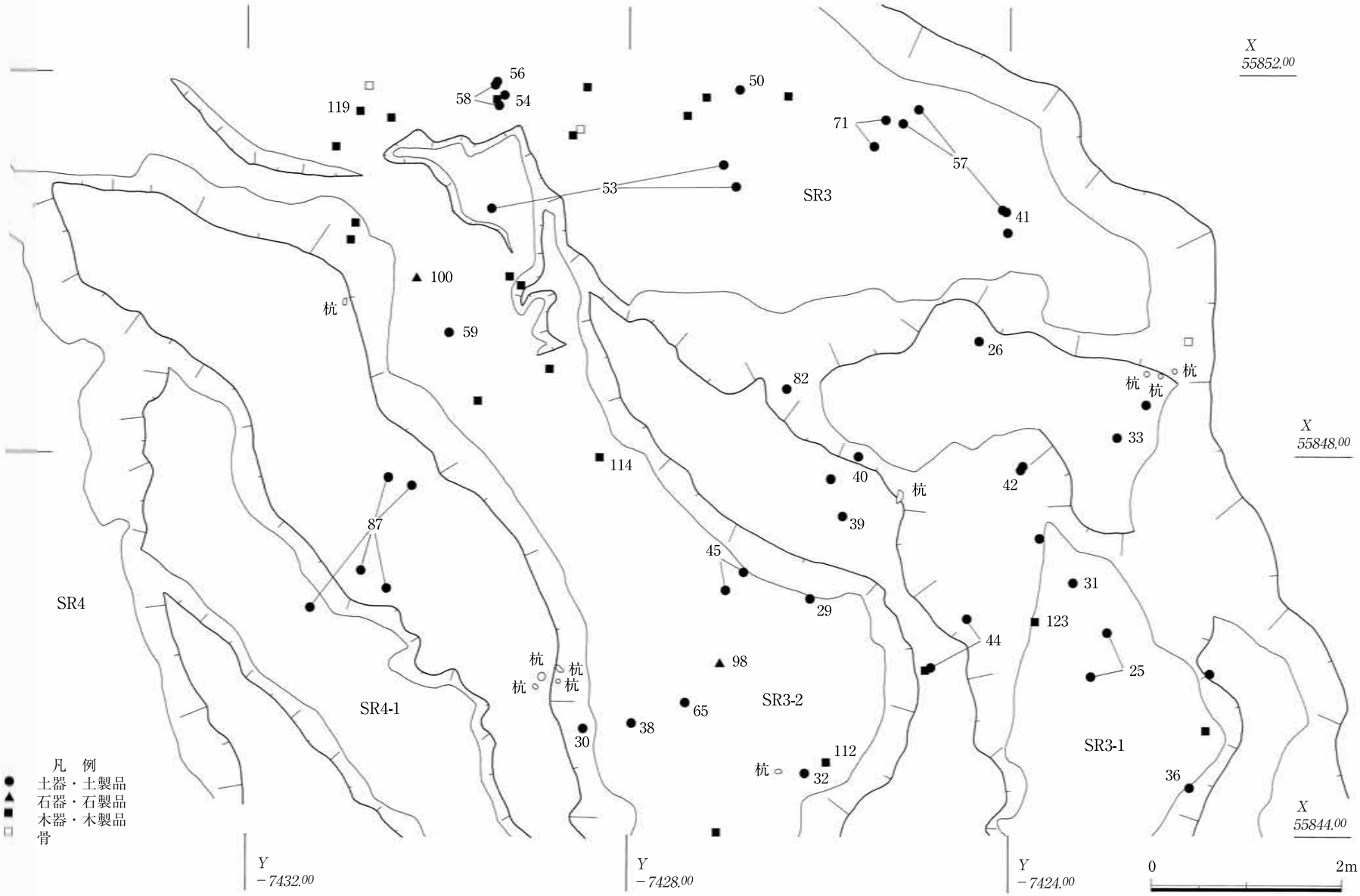


Fig.68　2A区SR群遺構平面図3(S:1/60)

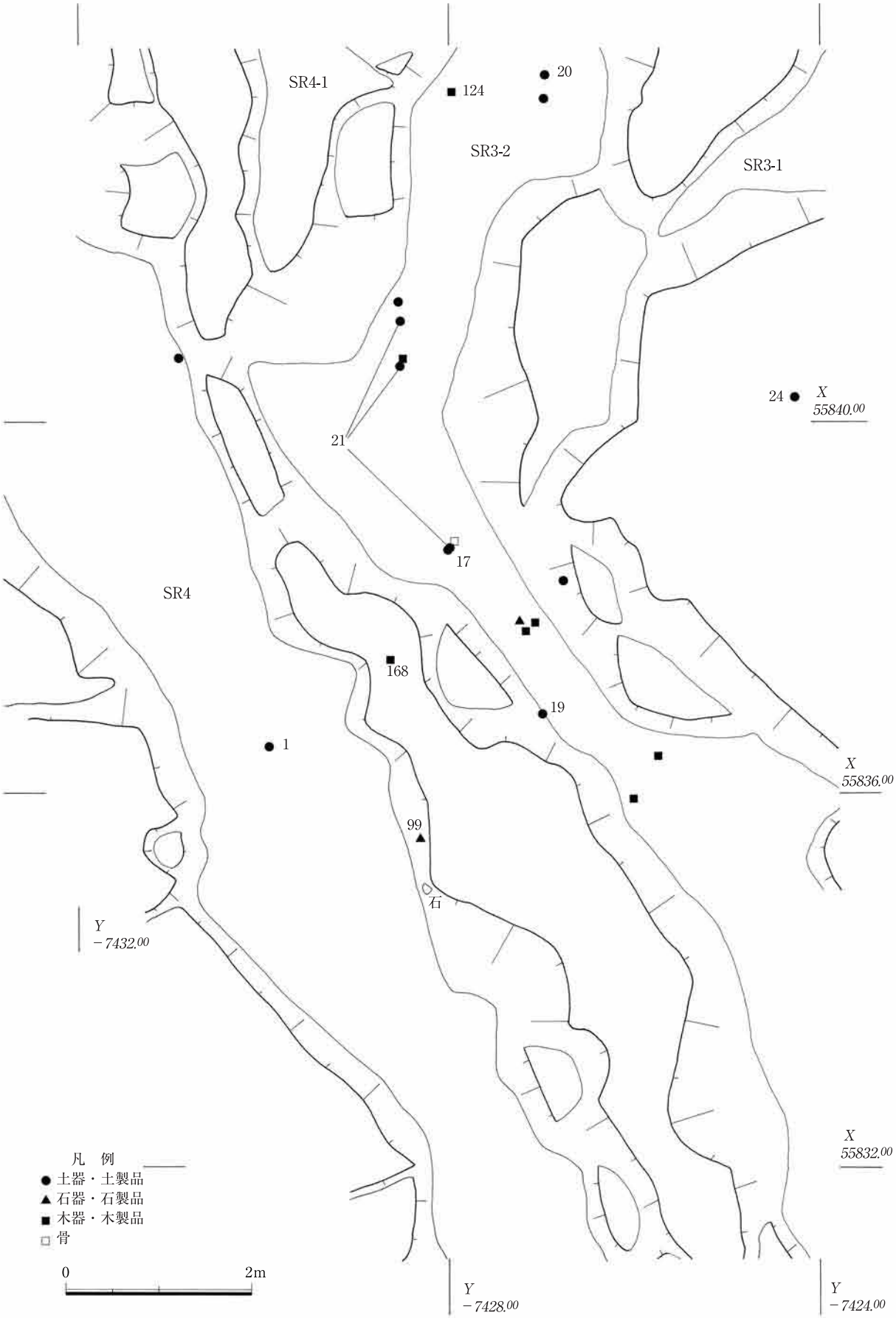


Fig.69　2A区SR群遺構平面図4(S:1/60)

SR 2 やSR 3 のやや新しい段階の流路と時期的には重なるであろう。

畦畔

調査区内の 3 ケ所で流路の肩部や流路域から離れて検出された土手状の低い高まりである。褐灰色または灰白色の粘質土で構成されており、特に突き固められたとか版築された様子は認められなかった。

・北壁中央から東壁の北側に至るもので、SR 1 の北側とSR 2 の東肩部で検出される。幅約 1 m、検出面からの高さは概ね20㎝を測る。

・東壁際の調査区中央部で西に向かって弧状に張出すもので、SR 1 の南側からSR3の東肩部に掛けて検出される。幅約50㎝、検出面からの高さは10～20㎝を測る。

・西壁北西端部から同じく西壁の南西端に至るもので、緩やかな弧を描いて東側に張出す。中央部分では東側に浅い溝状遺構を伴っているが連続するものではなかった。幅は1.0～1.5m、検出面からの高さは約20㎝であり、この遺構に囲まれるであろう調査区西部は平坦面をなしている。北東端部は水路・流路群の南端に当たり、ここから北の流路遺構内に向かって杭跡等が纏まって残されていることから、堰や橋などの構造物が存在した可能性がある。中央部検出の溝は確認延長9.5mであり、幅は約 1 m、検出面からの深さは約15㎝を測る。断面形は舟底形で、壁傾斜は緩やかである。

杭群

調査区の南部で百数十本の打ち込まれた杭を検出した。杭群は東西約 9 m、南北約 6 mの範囲に集中しており、大きく東西に分かれる。一群は西南西から中央で大きく南に曲り南南東へ向かうものであり、もう一群は北東から中央部で南に曲がるものである。何れも杭は規則的に並んで打たれたものではなく、0.5～1.0mの幅で杭が密集した状態で検出された。南に曲がった二つの杭群により、北北西から南南東の方向性を持った、幅1.0～1.2mの空白部分が形成される。巨視的には北側の地域を対象とした水の排水口か供給口であり、その周辺を補強する目的で打たれたものであろう。

5. 遺物

遺構からの遺物

SR 4（Fig.70,78,79,80）

土器・土製品は57点が出土しており、埋積土下位からは縄文土器の浅鉢 1 点、深鉢 1 点、弥生前期土器の壺 3 点、甕 3 点が出土している。埋土上位及び包含層からは縄文土器の浅鉢 4 点、深鉢 1 点、弥生土器の壺16点、甕13点、鉢 2 点、土師器の高坏 3 点である。図示したのは、浅鉢 3 点(1～3)、深鉢 1 点(4)、壺 4 点(5～7,11)、甕 1 点(12)、高坏 1 点(8)である。

石器・石製品は 5 点を図示した。埋積土下位から出土した101の石錘？102の叩石であり、上位から出土した96の石包丁、103・104の叩石である。

木器・木製品は３点を図示した。106は祭祀具？107は杓文字。108は加工痕を残す。部材？

SR４-1（Fig.70）

弥生土器の壺２点、甕14点、土師器の手捏ね土器１点が出土している。図示したのは、壺１点（16）、甕３点（13～15）、手捏ね土器（9）である。９は包含層からのものと考えられる。

SR３-2（Fig.71,78,81,83）

土器・土製品は188点が出土しており、弥生土器の甕71点、鉢１点、土師器の甕104点、鉢２点、高坏２点である。図示したのは、埋積土下位から出土した縄文土器の浅鉢１点（17）、土師器の甕５点（19～23）である。

石器・石製品は３点を図示した。埋積土の上位から出土した91・92の石鏃、98の石包丁である。

木器・木製品は４点を図示した。124は縦杵である。

SR１・SR２・SR３・SR３-1（Fig.71～76,78,81～84&付図）

土器・土製品は468点が出土している。弥生土器の壺１点、甕171点、鉢１点、土師器の壺５点、甕237点、鉢９点、高坏16点、台付鉢２点、手捏ね土器３点、須恵器の壺１点、甕２点である。図示したのは、埋積土の上位から出土した弥生土器の甕１点（70）、土師器の壺４点（29,59,60,61）、甕20点（40～42,44～58,71）、鉢３点（30,31,67）、高坏11点（32～39,63,64,72）、台付鉢（65,66）、手捏ね土器（25,26,62）、須恵器の甕（68）、瓶（69）であり、下位から出土した土師器の壺（27）、甕（43）である。

石器・石製品は５点を図示した。埋積土の上位から出土した94・95の管玉、97の石包丁、100の石斧であり、下位から出土した93の石鏃である。

木器・木製品は11点を図示した。113は木錐、114と123は縦杵、118は容器の注ぎ口、119は鍬である。

包含層からの遺物

Ⅳ層（Fig.76,78）

土器・土製品は93点が出土している。弥生土器の壺７点（74）、甕16点、土師器の甕65点（73）、鉢４点、椀１点である。

石器・石製品は１点を図示した。99の石包丁である。

ⅢA層（Fig.76,77,105,80,82,85）

土器・土製品は236点である。縄文土器の深鉢14点、弥生土器の壺２点、甕42点、土師器の甕148点（75～81）、鉢14点、高坏８点（82,83）、須恵器の鉢１点（84）、瓿１点（85）、壺１点（86）、坏身１点（87）である。

石器・石製品で図示したのは１点である。105の円礫を用いた叩石である。

木器・木製品で図示したのは６点である。122は擂り粉木？

ⅢB層（Fig.85～88）

土器・土製品は２点が出土している。土師器の甕１点、椀１点である。

木器・木製品で図示したのは７点である。131は組合せの蓋？132～134は大足である。

Ⅱ層（Fig.77,88～95）

土器・土製品は６点が出土している。土師器の甕２点、須恵器の坏１点、土師質土器１点、青

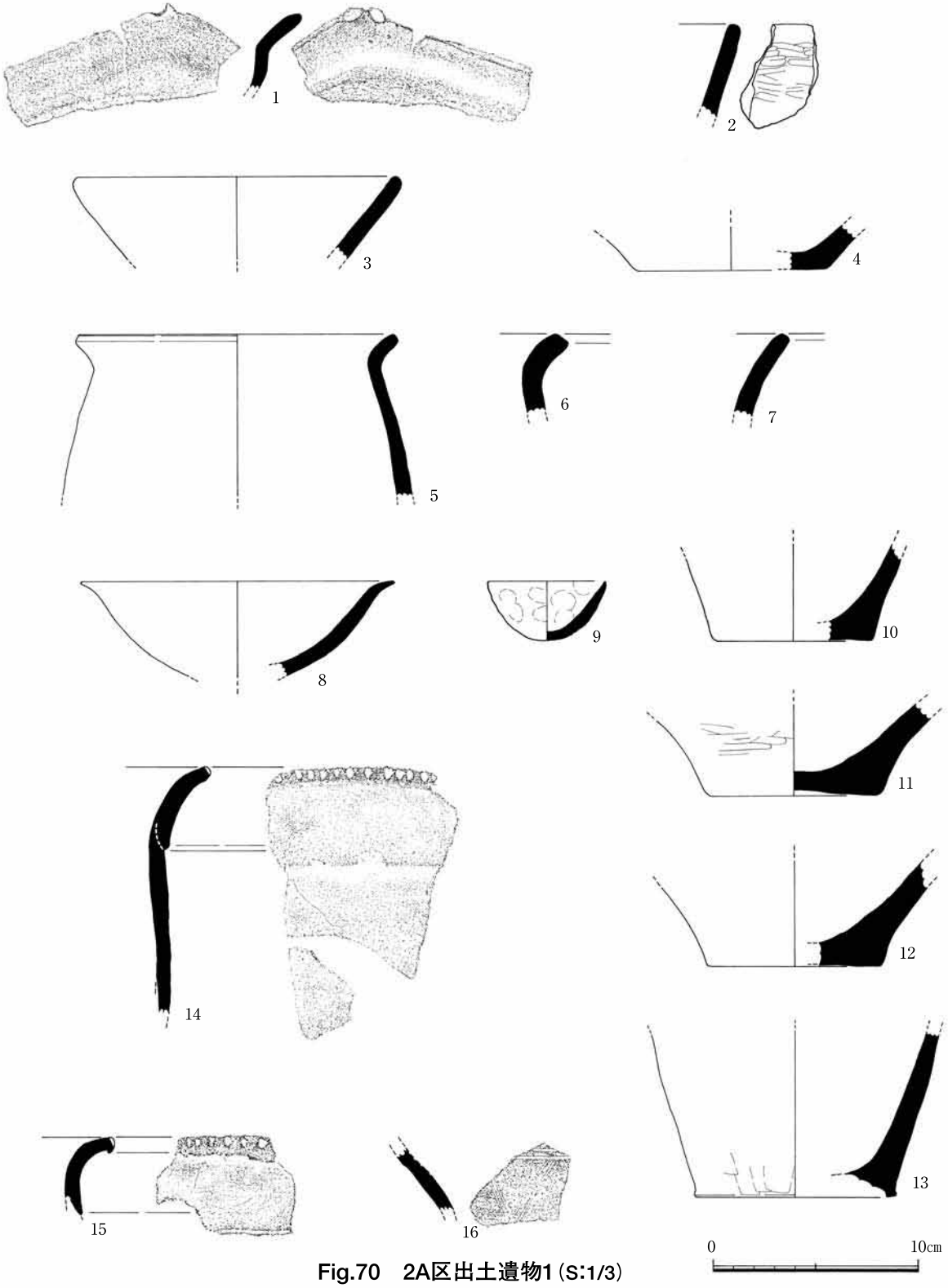


Fig.70　2A区出土遺物1（S:1/3）

磁の皿１点(88)、碗１点(89)である。

木器・木製品で図示したのは24点である。142～145,147,148,154～156は大足である。

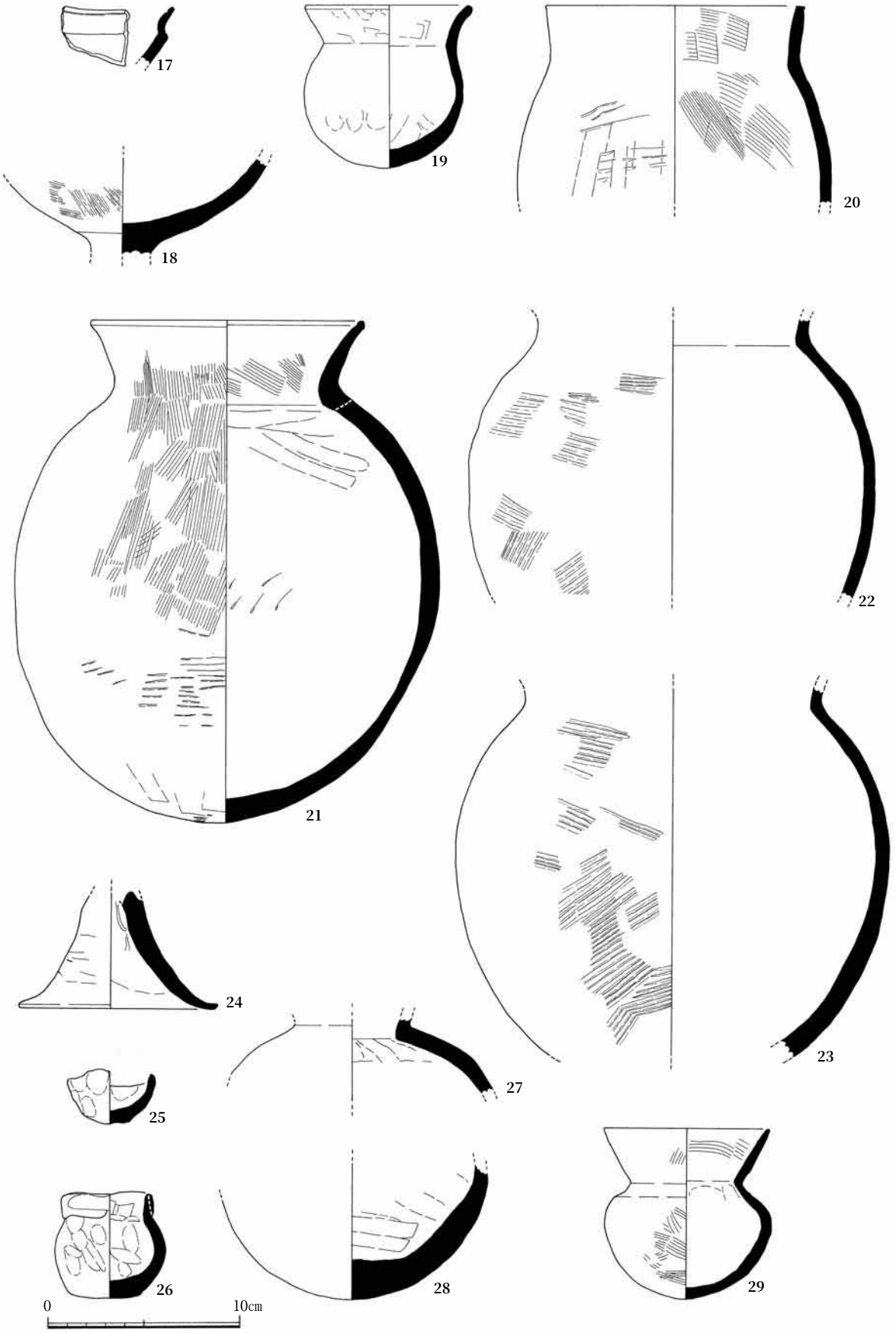


Fig.71　2A区出土遺物2 (S:1/3)

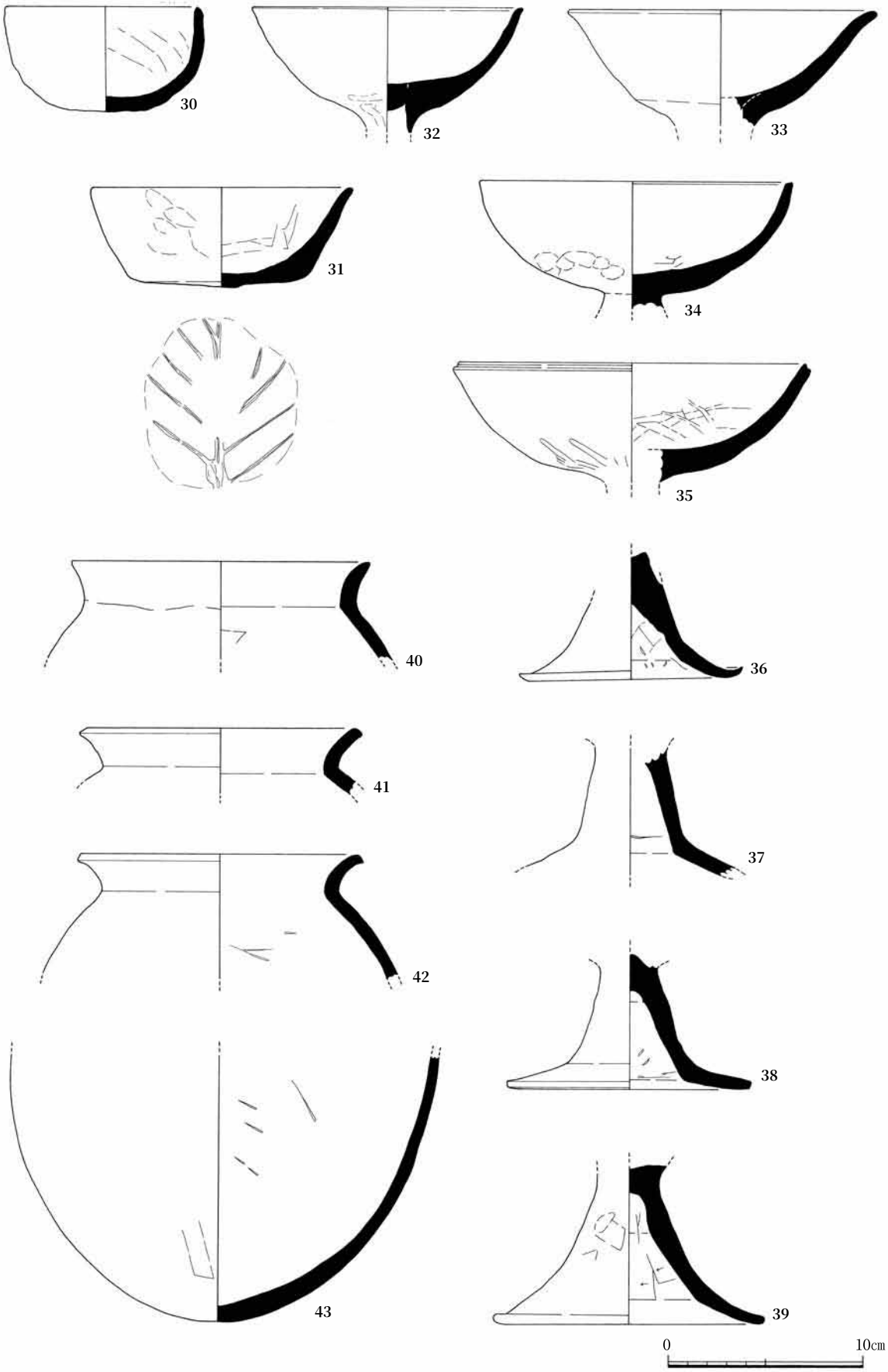


Fig.72　2A区出土遺物3 (S:1/3)

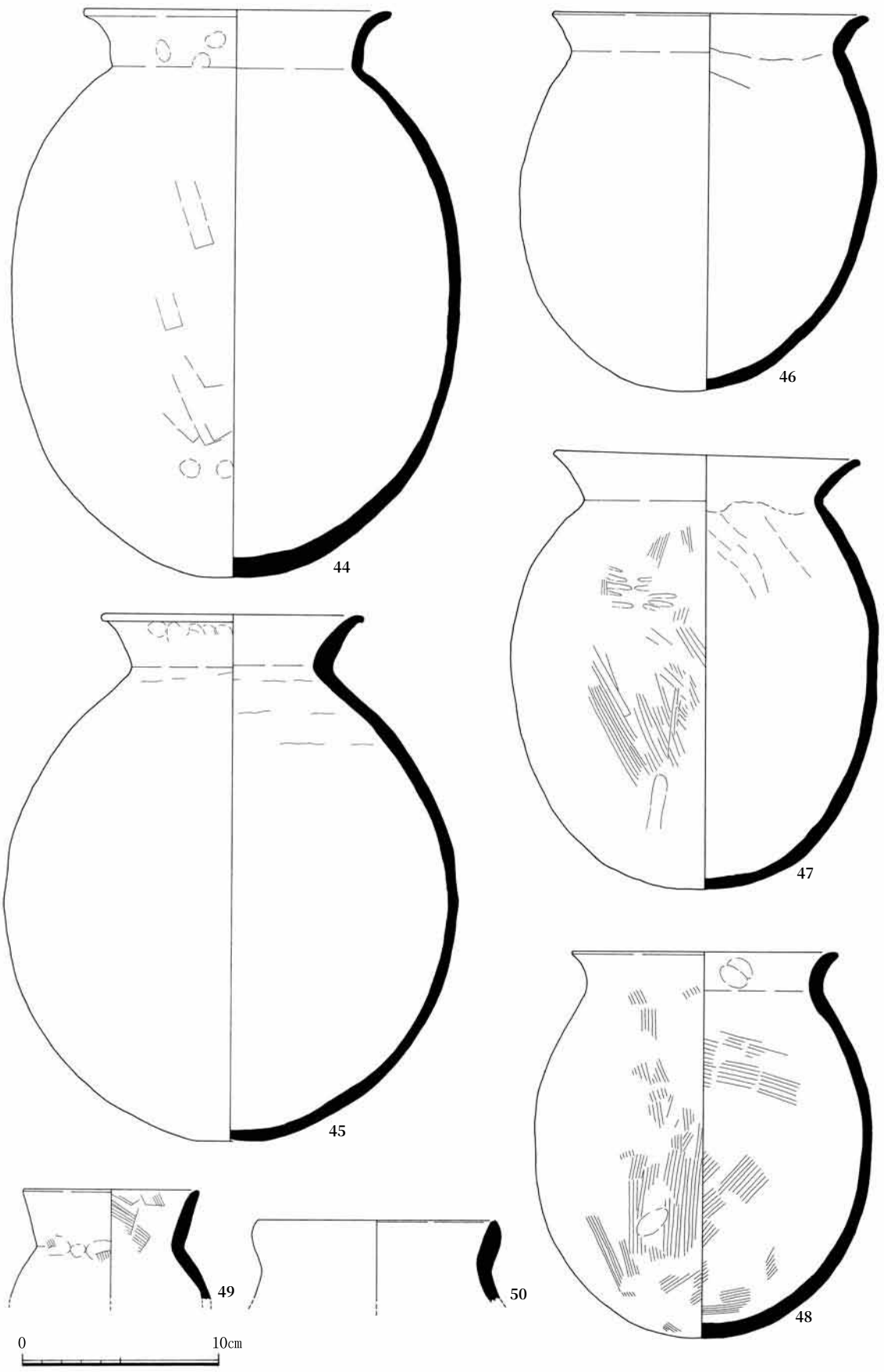


Fig.73　2A区出土遺物4 (S:1/3)

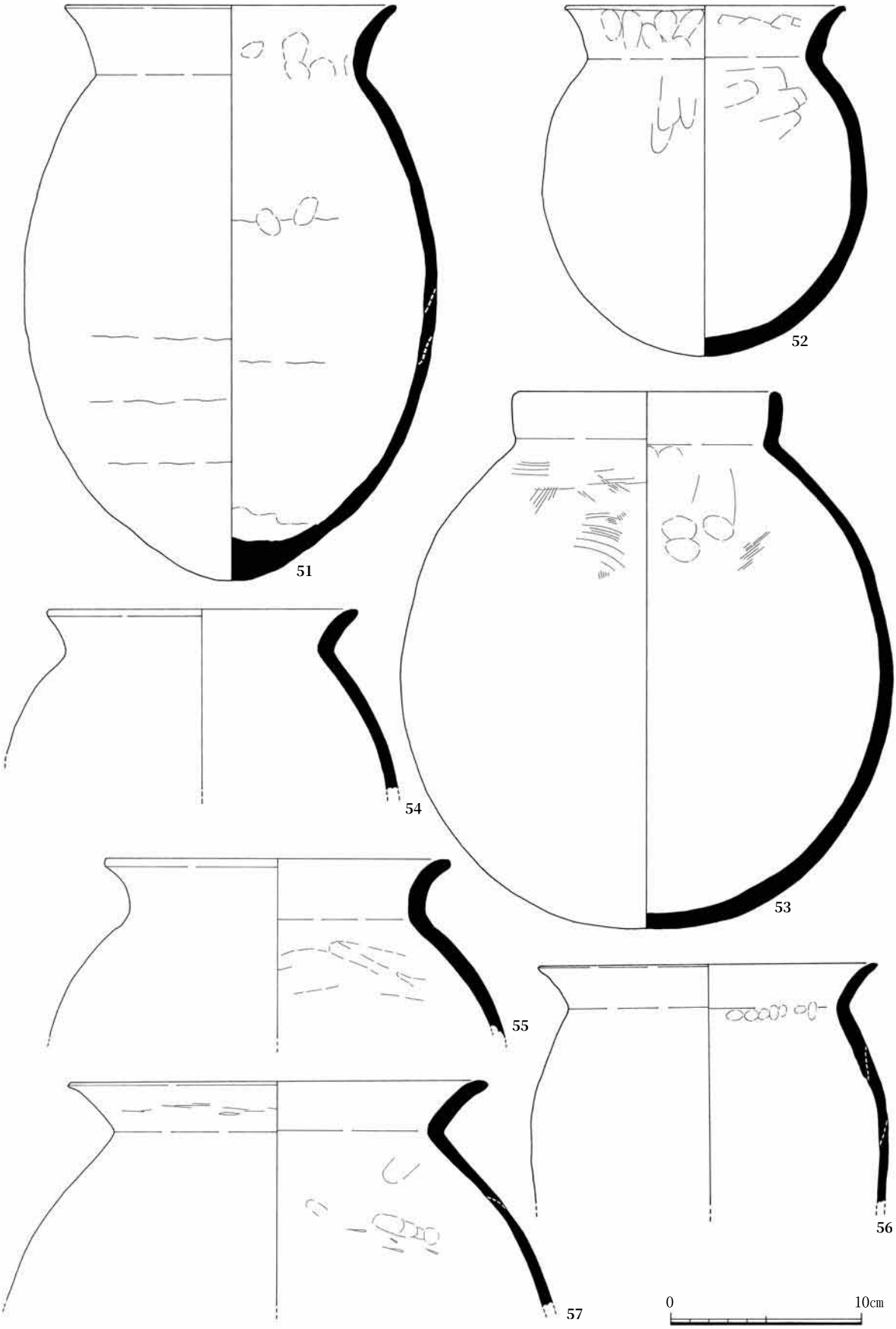


Fig.74　2A区出土遺物5 (S:1/3)

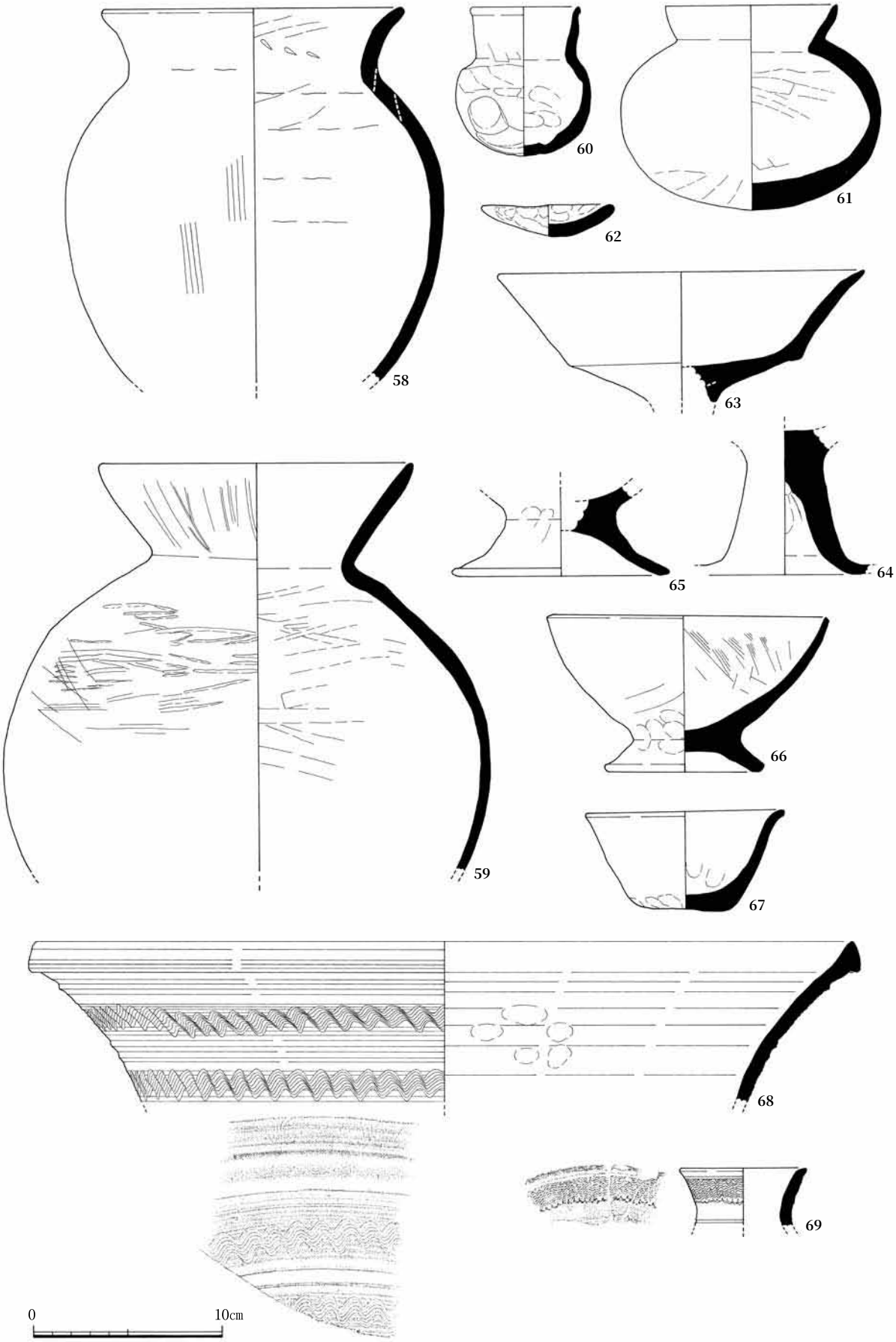


Fig.75　2A区出土遺物6 (S:1/3)

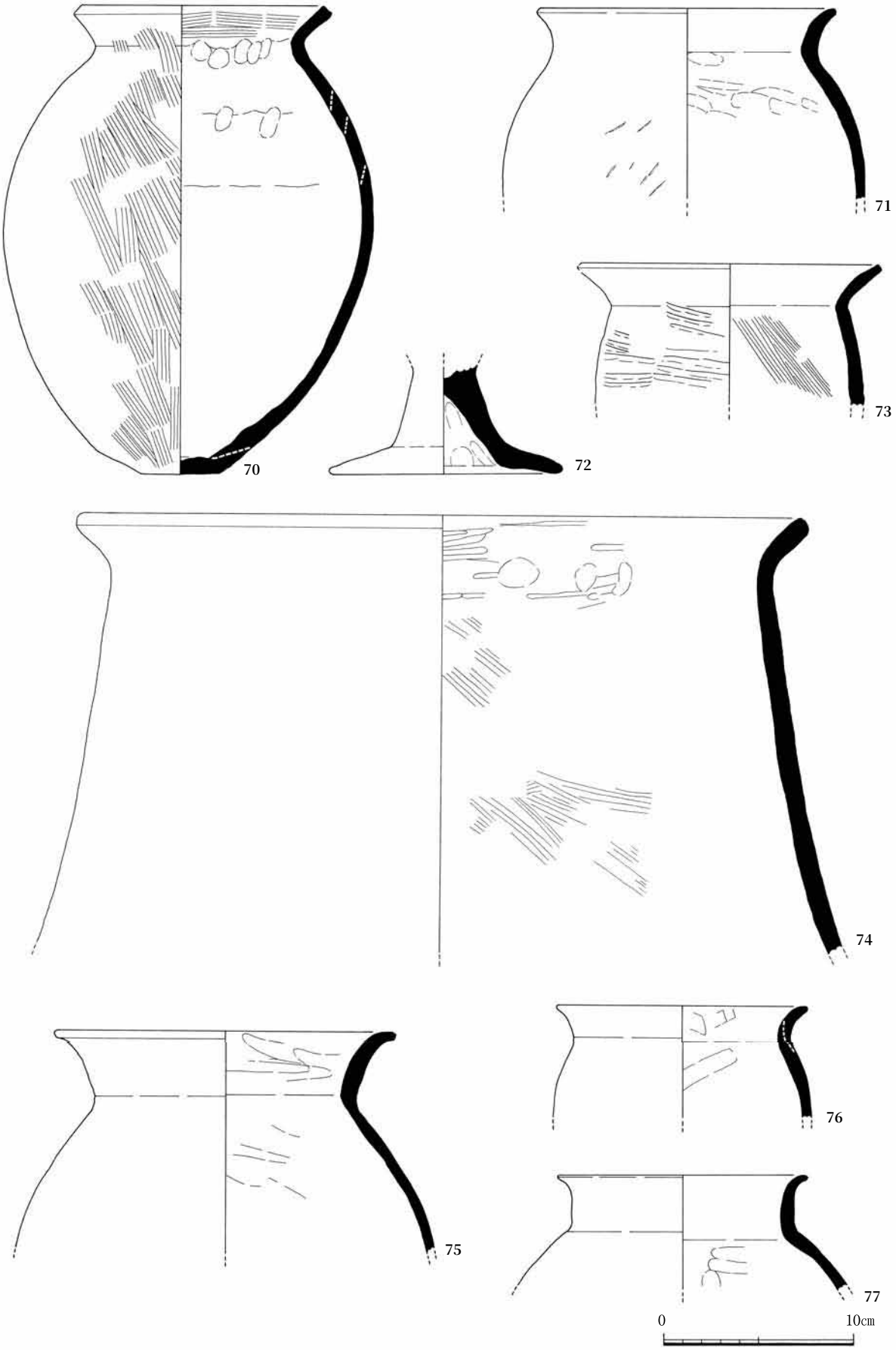


Fig.76　2A区出土遺物7 (S:1/3)

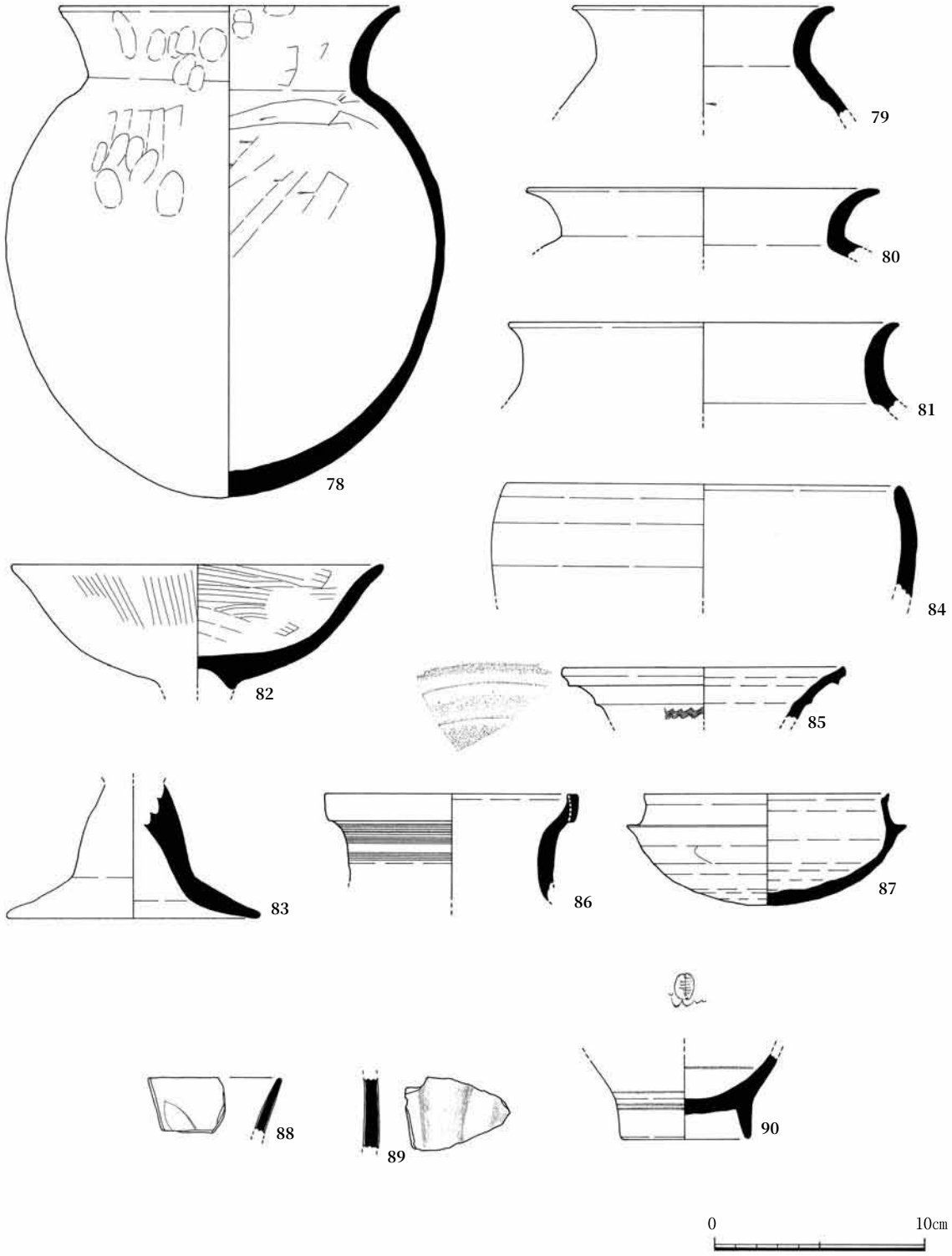


Fig.77　2A区出土遺物8 (S:1/3)

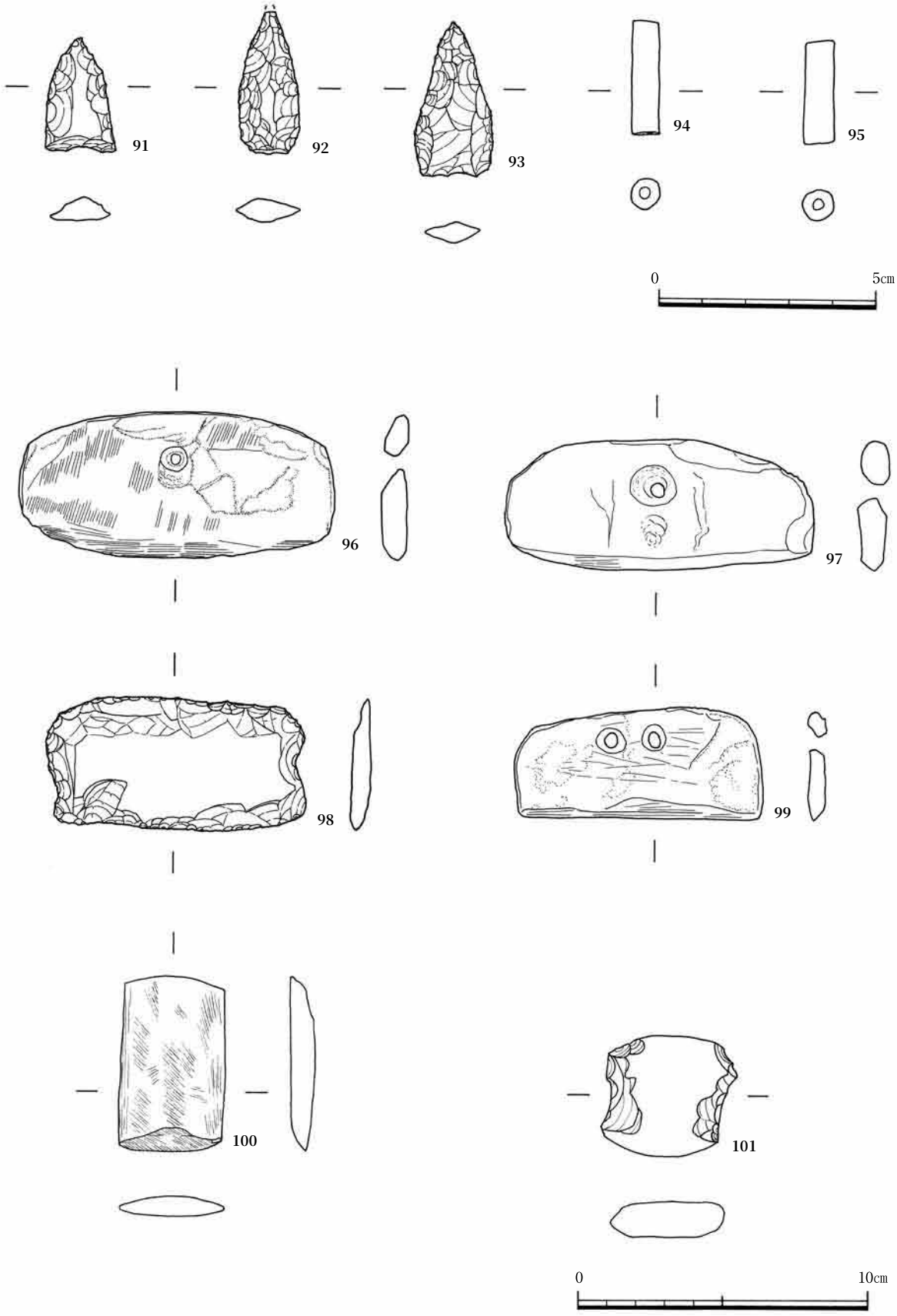


Fig.78　2A区出土遺物9 (S:3/4,1/2)

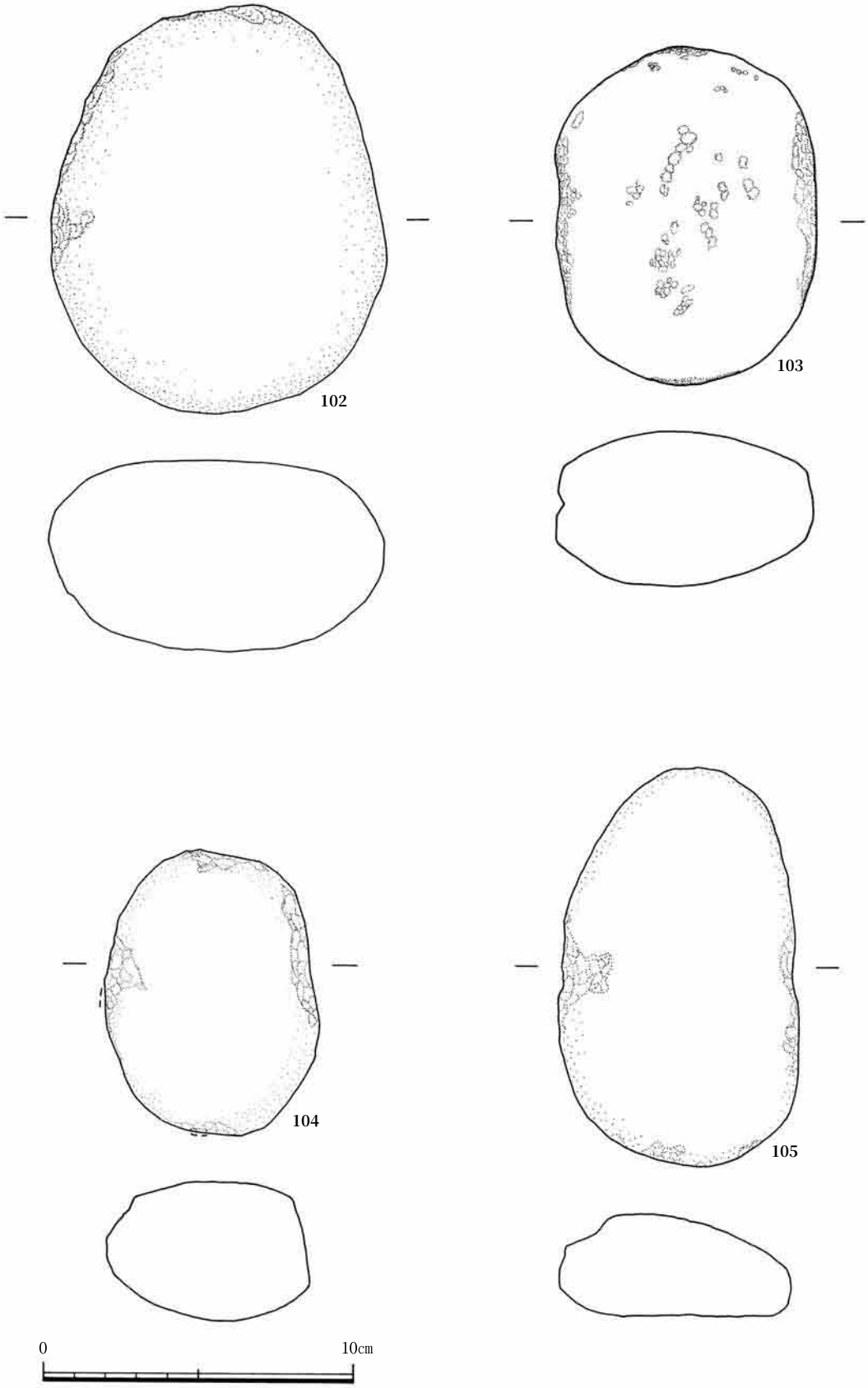


Fig.79　2A区出土遺物10(S:1/2)

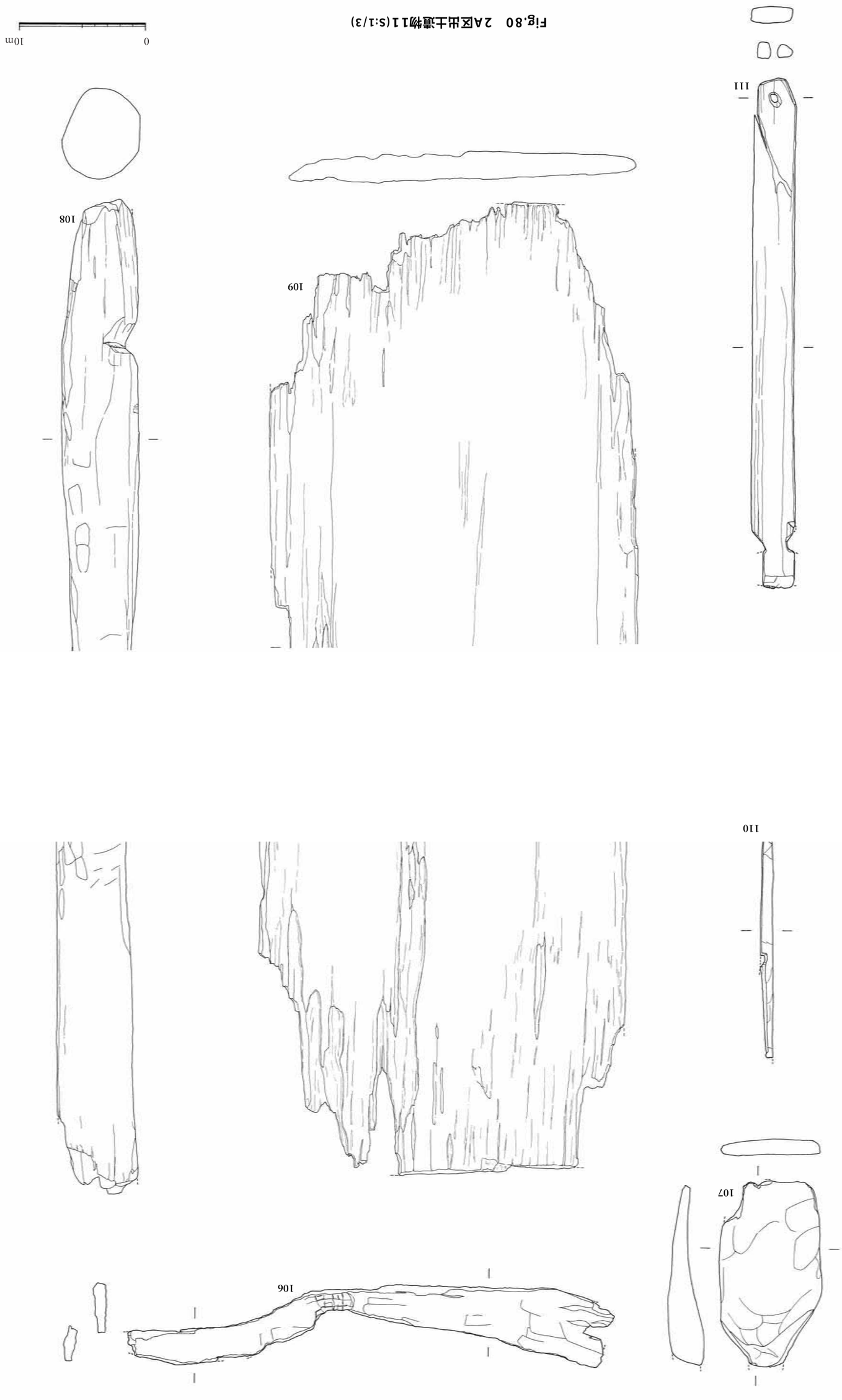


Fig.80　2A区出土遺物11(S:1/3)

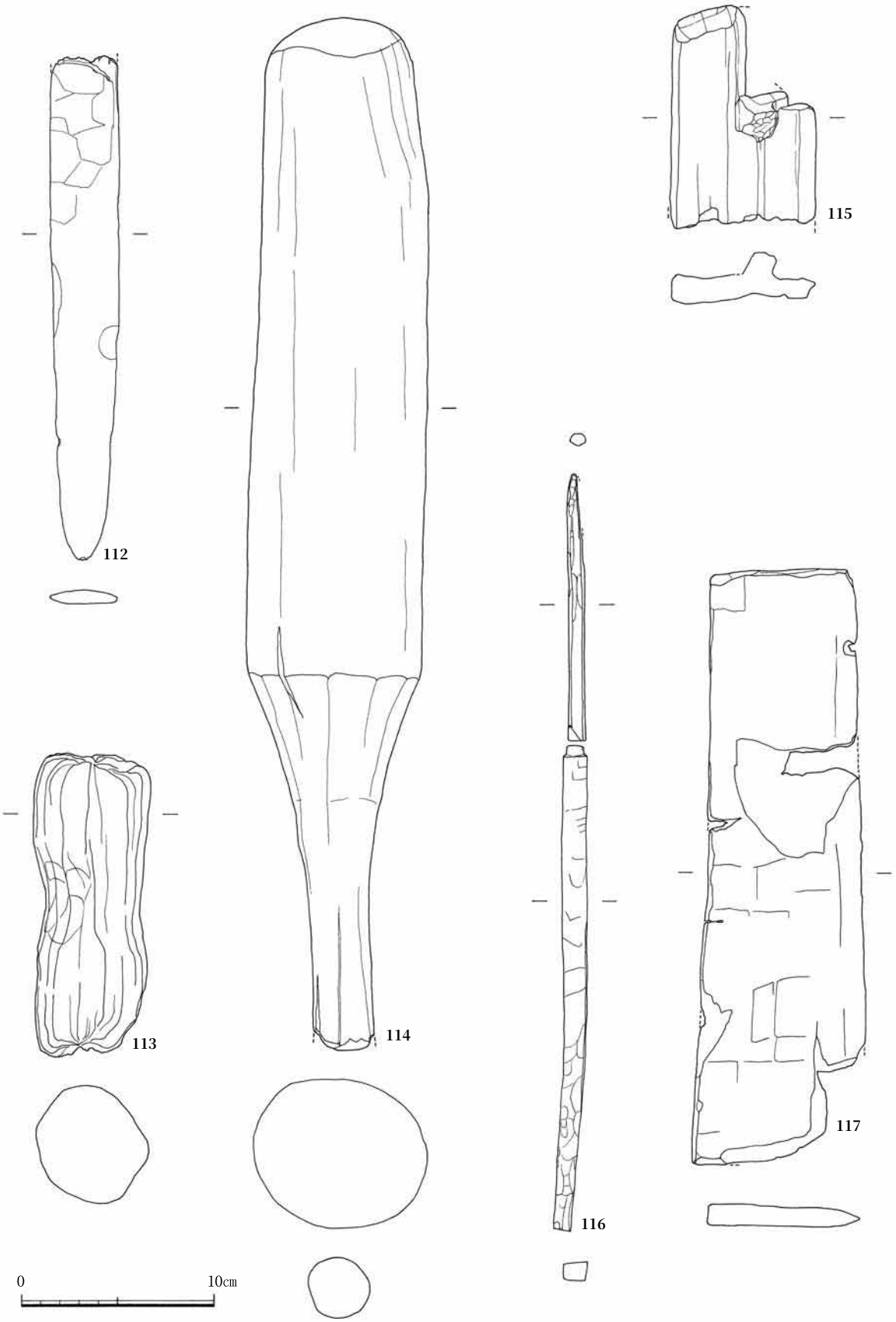


Fig.81　2A区出土遺物12(S:1/3)

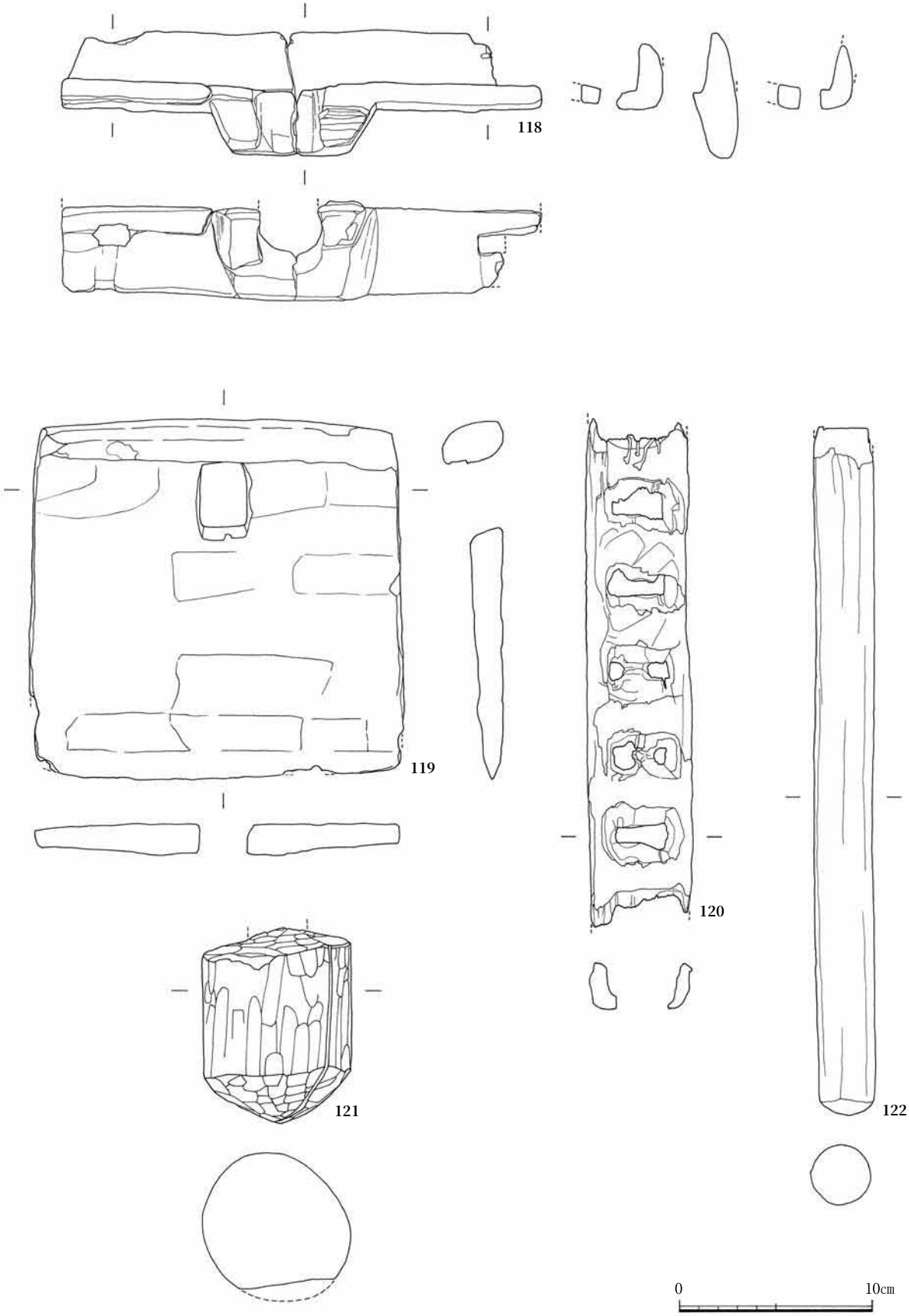


Fig.82　2A区出土遺物13 (S:1/3)

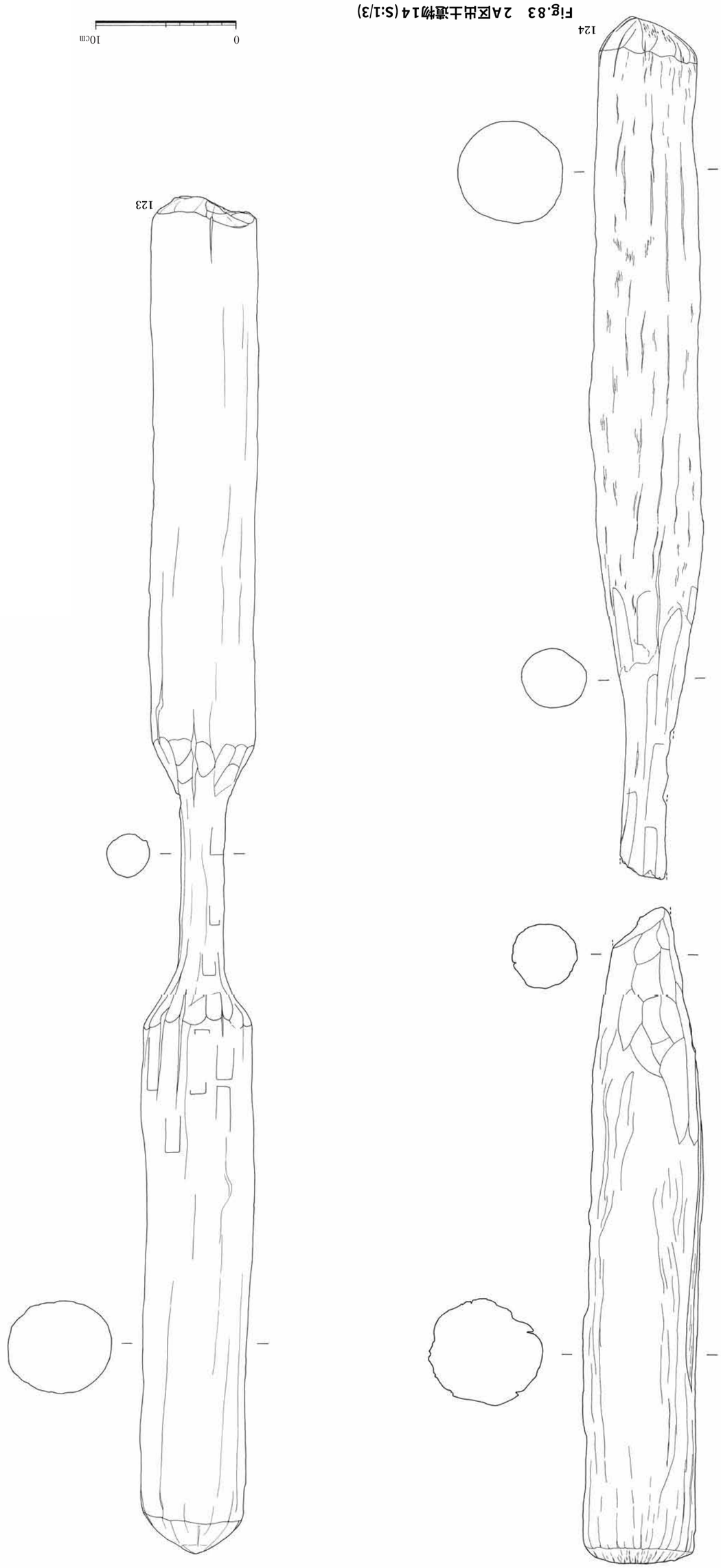


Fig.83　2A区出土遺物14(S:1/3)

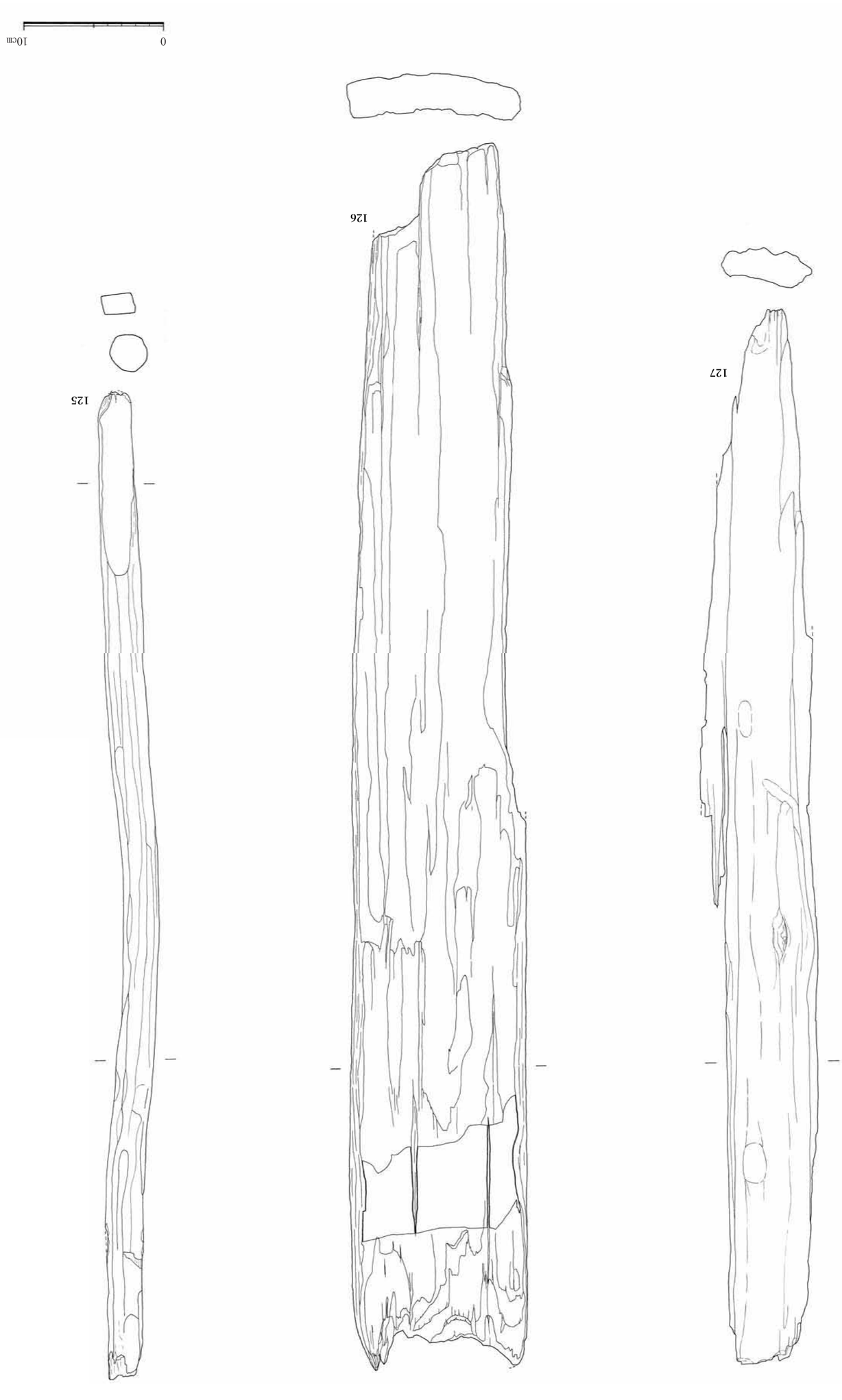


Fig.84　2A区出土遺物15 (S:1/3)

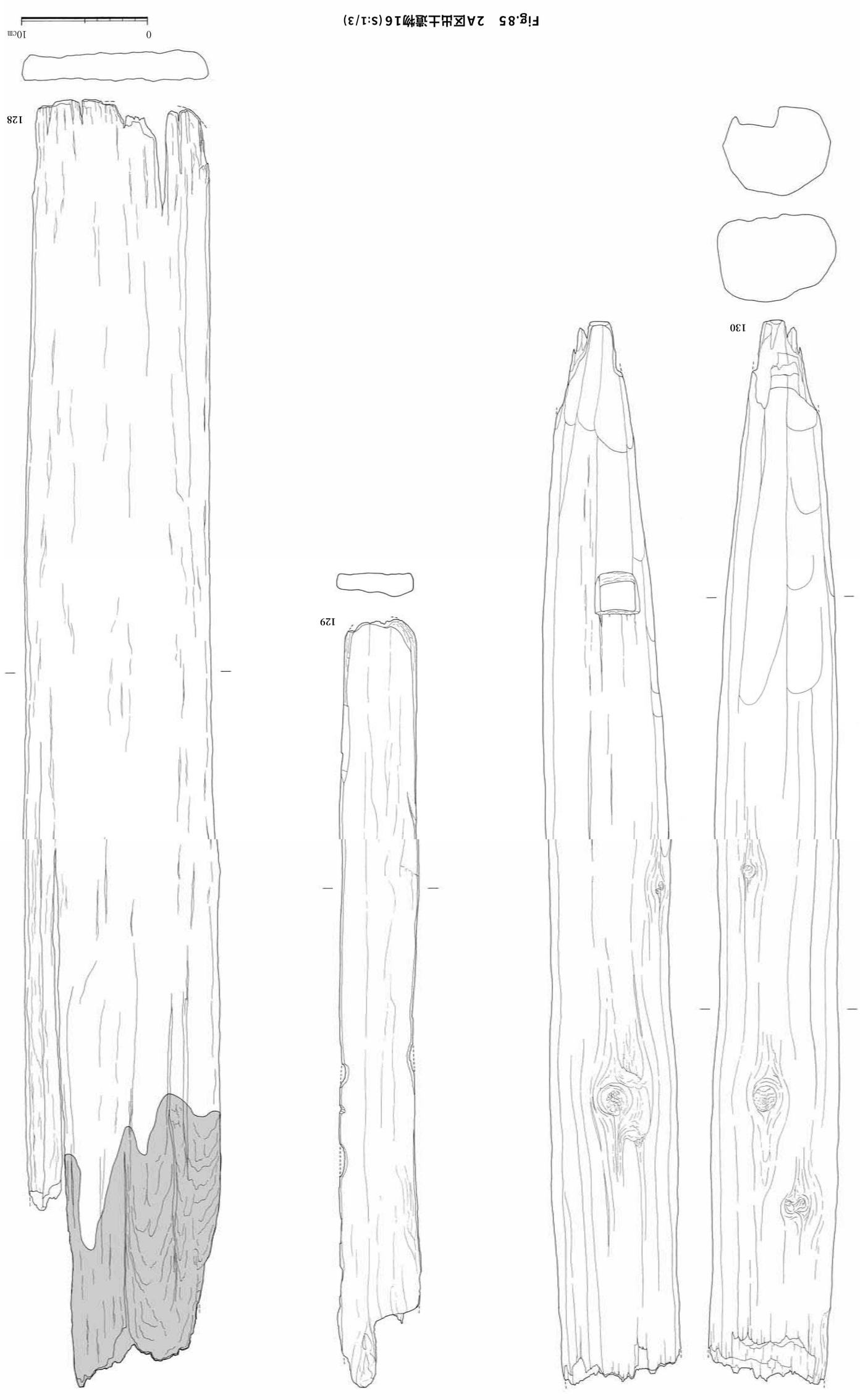


Fig.85　2A区出土遺物16(S:1/3)

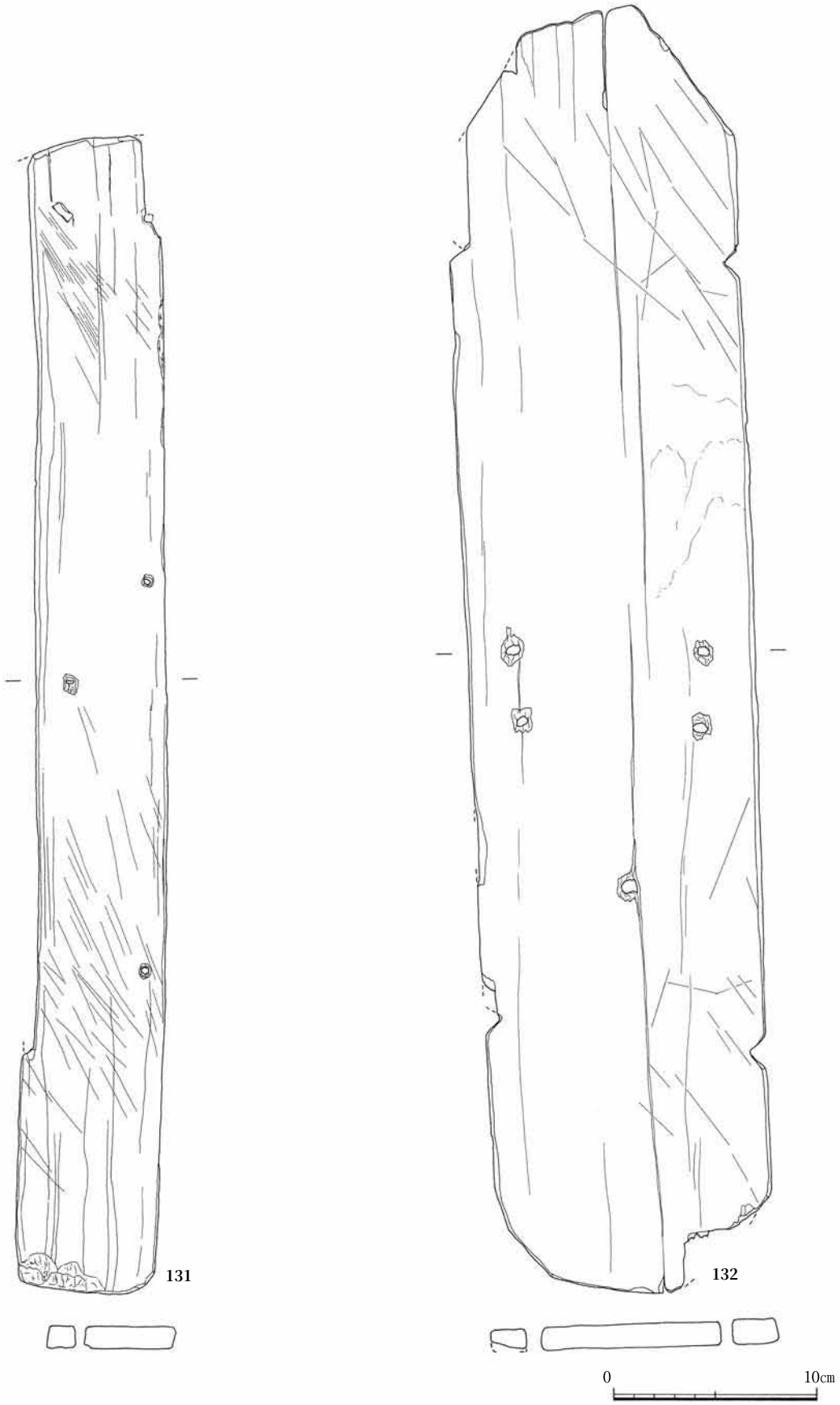


Fig.86　2A区出土遺物17 (S:1/3)

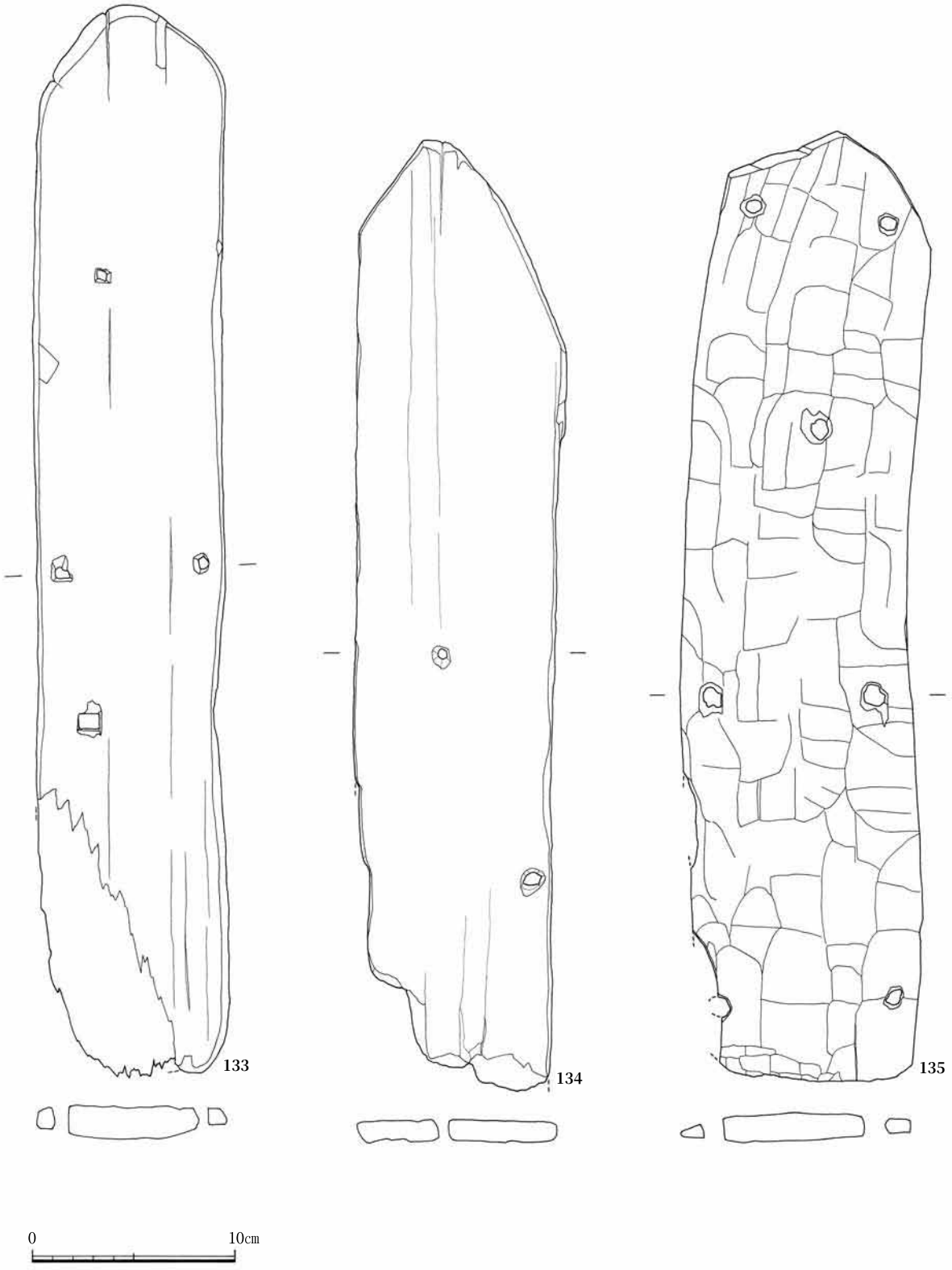


Fig.87　2A区出土遺物18(S:1/3)

Fig.88　2A区出土遺物19(S:1/3)

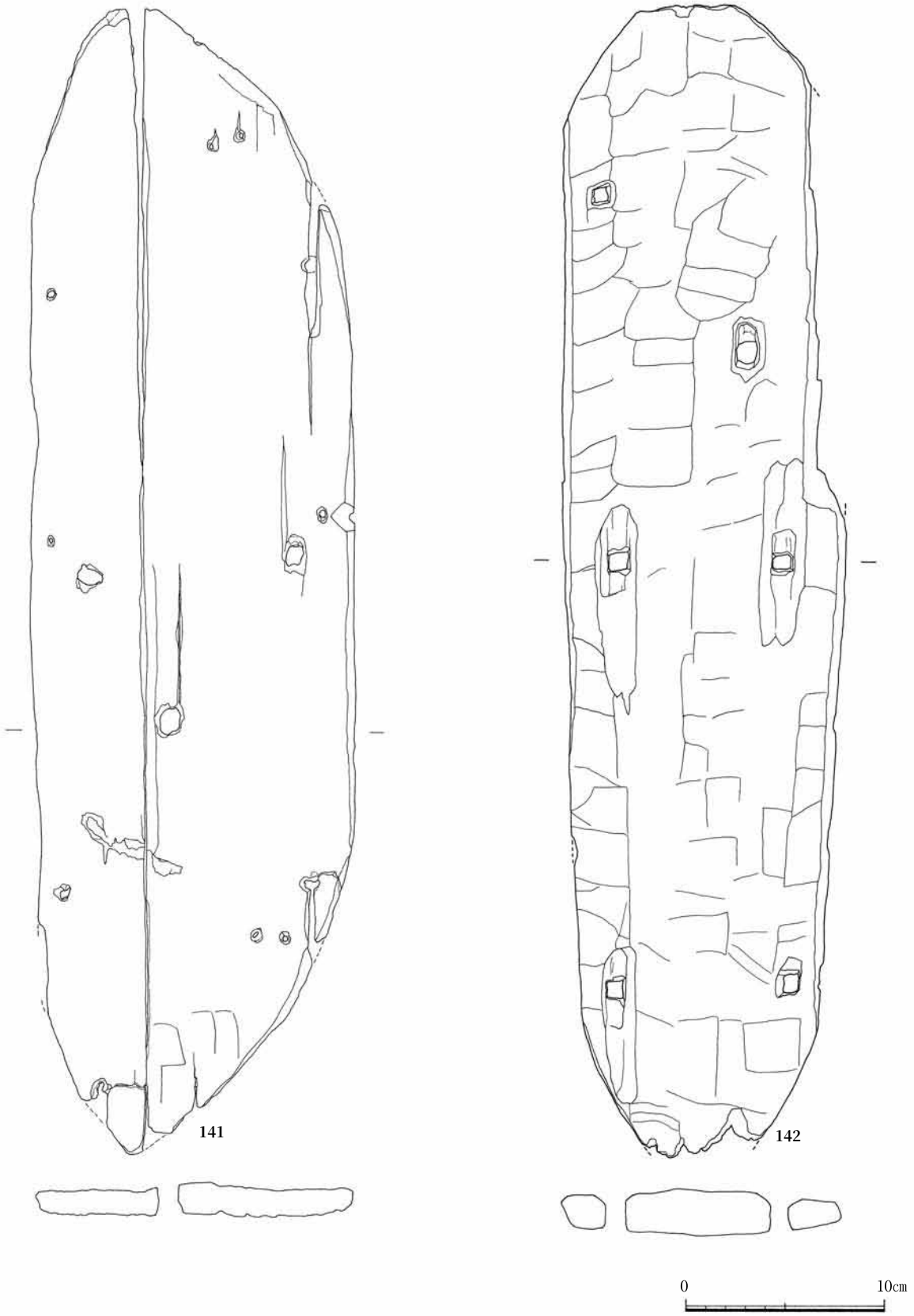


Fig.89　2A区出土遺物20(S:1/3)

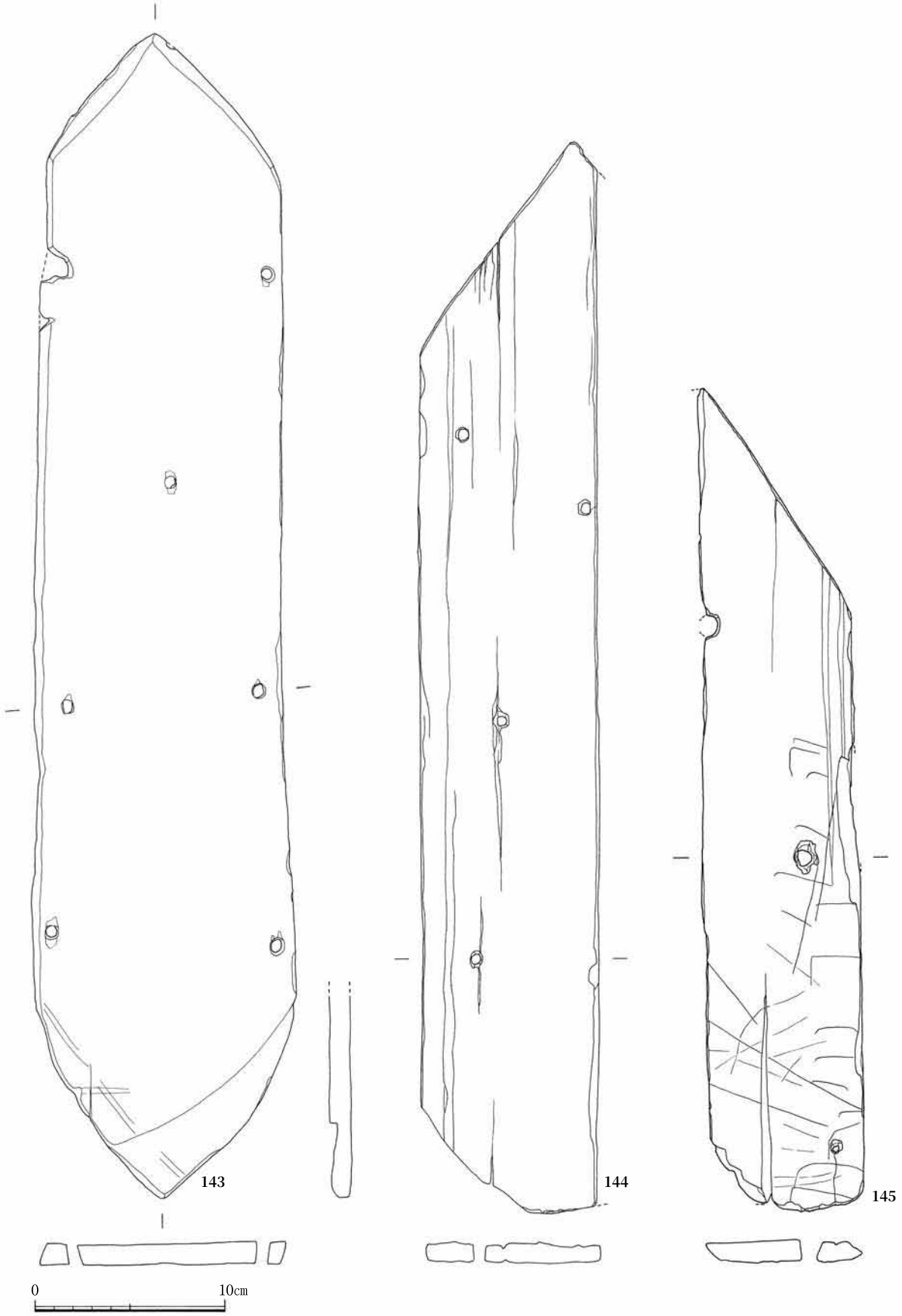


Fig.90　2A区出土遺物21(S:1/3)

Fig.91　2A区出土遺物22(S:1/3)

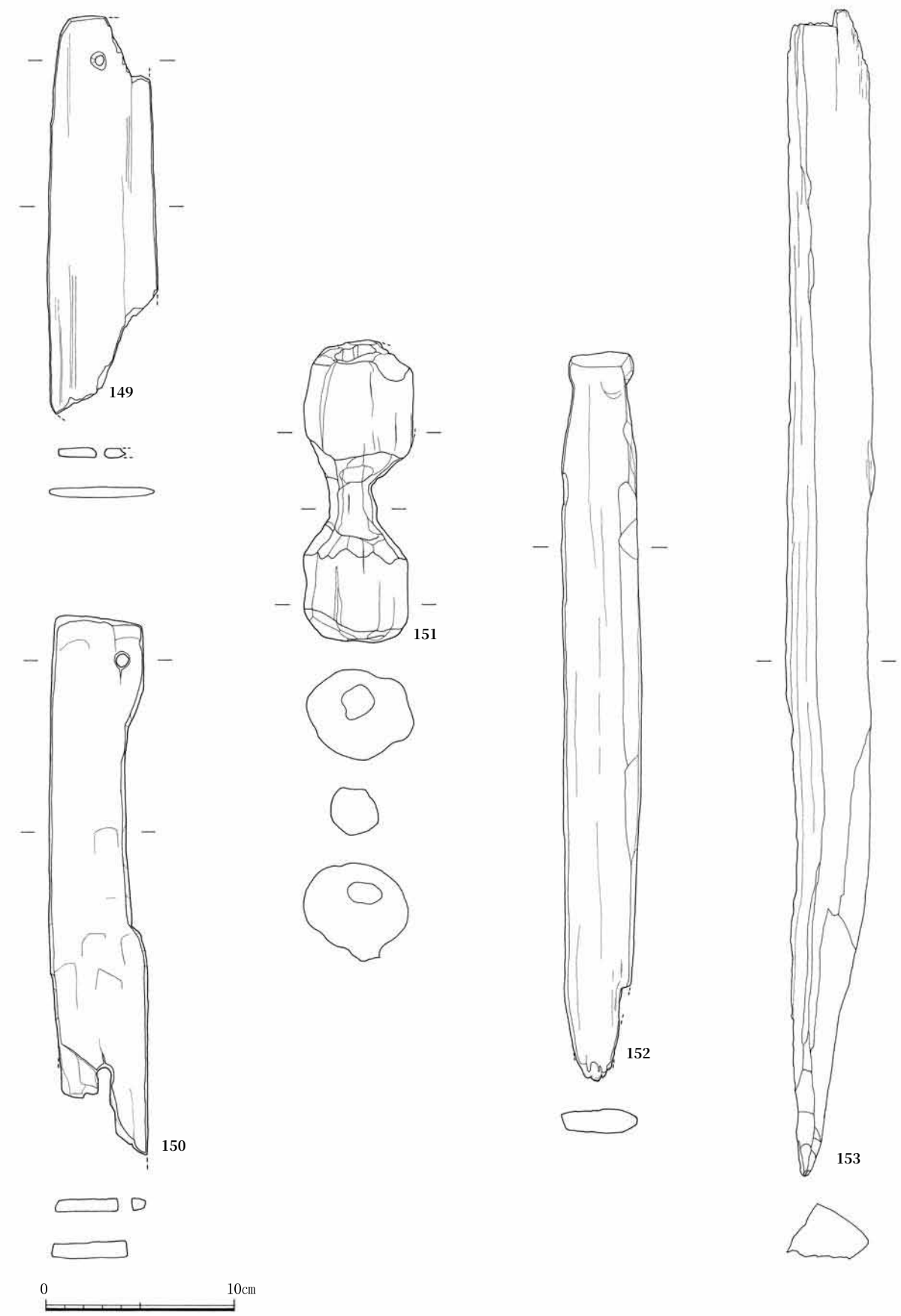


Fig.92　2A区出土遺物23(S:1/3)

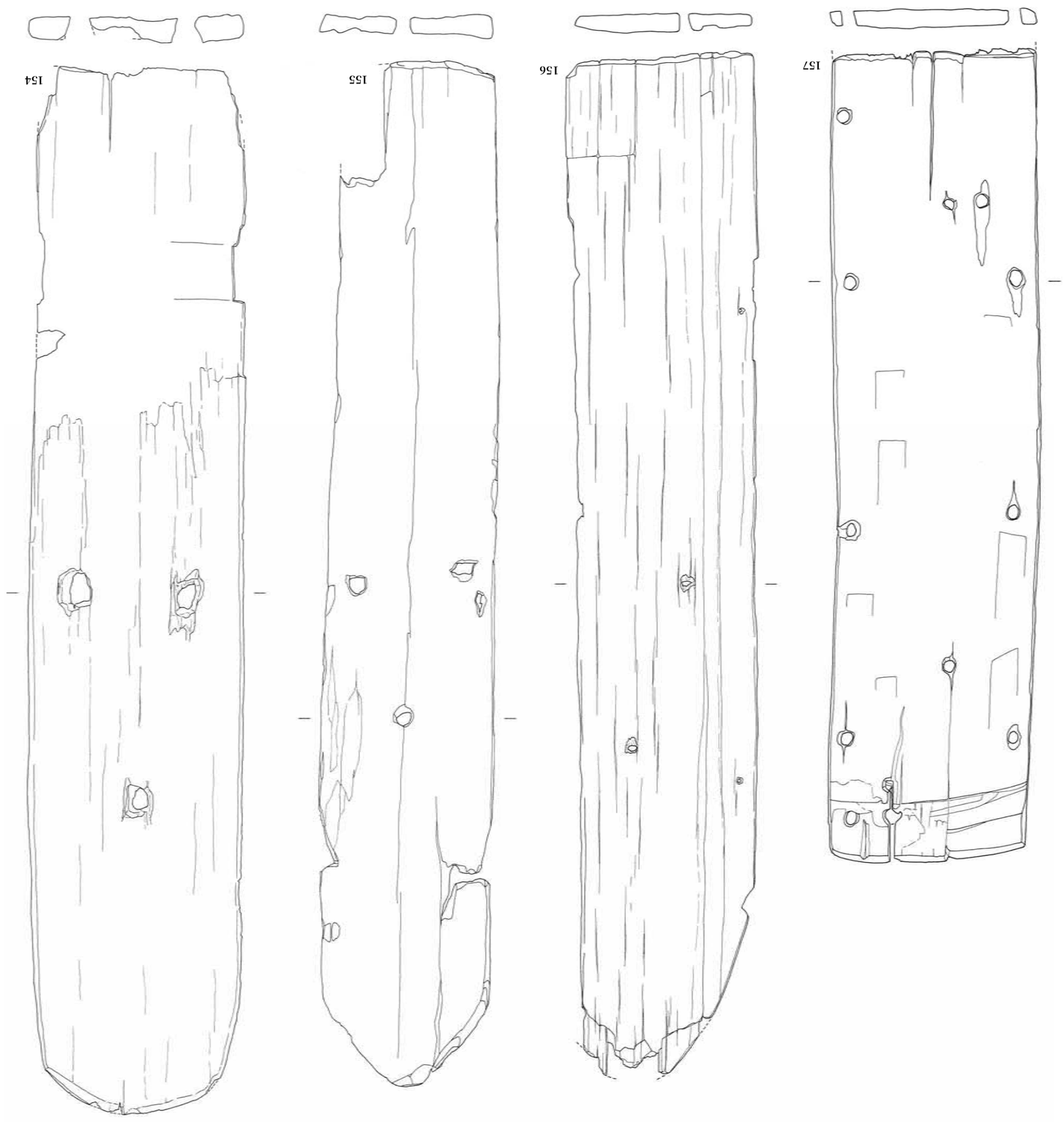


Fig.93 2A区出土遺物24 (S:1/3)

0 10cm

Fig.94　2A区出土遺物25(S:1/3,1/4)

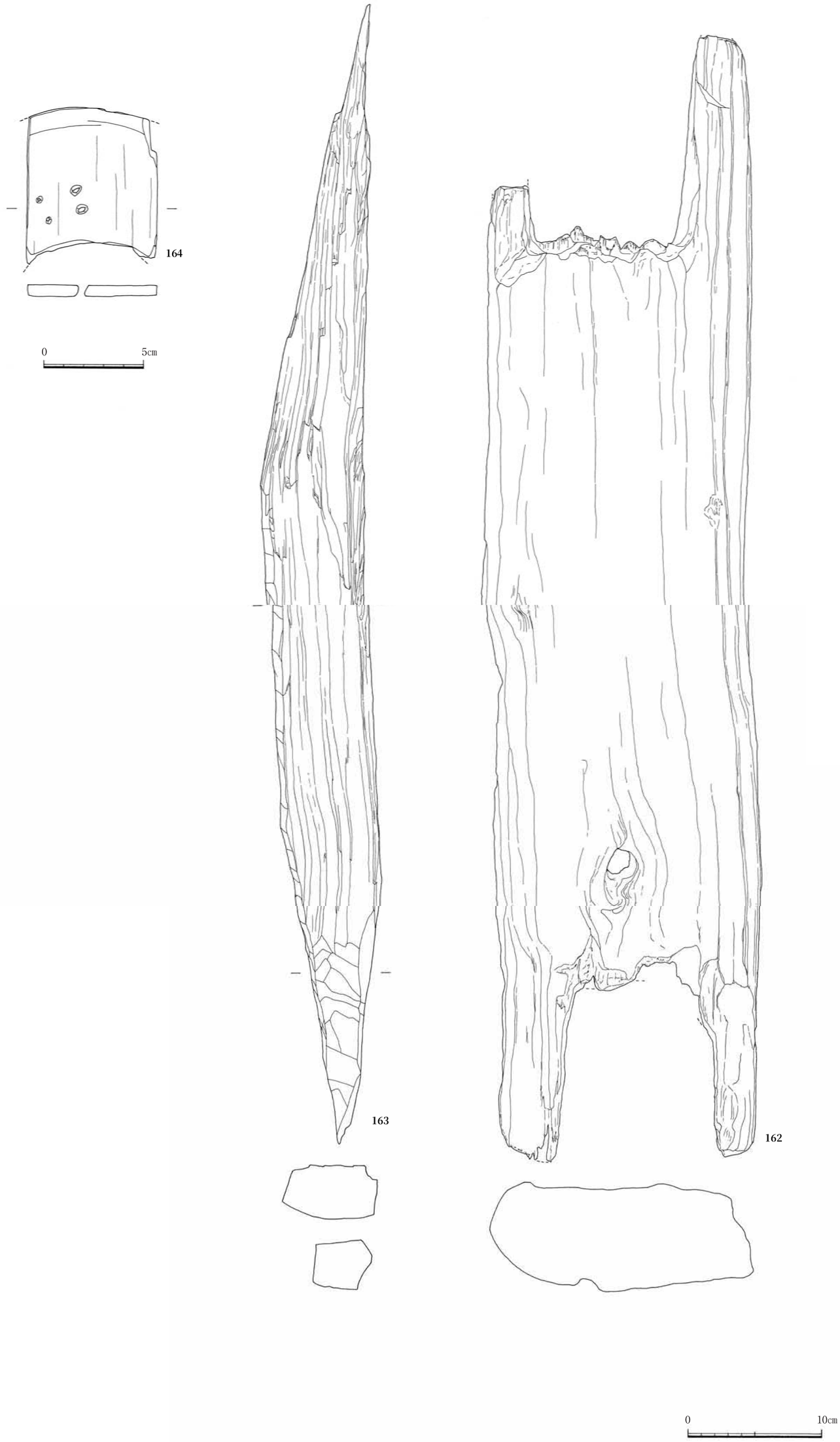


Fig.95　2A区出土遺物26 (S:1/2,1/3)

2A区出土遺物観察表1

《土器・土製品》

Fig.-遺物 No. No.	出土地点 遺構／層	器　種	器形	部位	法量（cm）				特　　徴	色調			備　考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
70－ 1	SR4/埋Ⅱ	縄文土器	浅鉢	口縁	－	(3.6)	－	－	内面(口)ミガキ、ナデ　外面(口)ナデ(体)擦過? 方形浅鉢。口縁は鍔状で緩く外反する。波頂部に2ケ所の押圧刻み。波底部にかけて口唇は平坦面をなす。内外面に煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	黒褐色 2.5Y3/1	
70－ 2	SR4/ⅢA	縄文土器	浅鉢	口縁	－	(4.5)	－	－	内面ナデ　外面ヘラミガキ 口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は面をなす。内傾接合。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR1.7/1	褐色 7.5YR4/3	
70－ 3	SR4/ⅢA	縄文土器	浅鉢	口縁	15.2	(3.9)	－	－	内面丁寧なナデ　外面ナデ 口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外面に煤付着。	黒褐色 7.5YR3/1	暗灰色 N3/0	灰黄褐色 10YR4/2	
70－ 4	SR4/埋Ⅱ	縄文土器	深鉢	底部	－	(2.2)	－	9.2	内面ナデ　外面擦過(底)ヘラナデ 平底。内傾接合。	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄褐色 10YR5/3	暗灰色 N3/0	
70－ 5	SR4/ⅢA	弥生土器	壷	口縁	15.3	(7.8)	－	－	内面ナデ　外面(口)ヨコナデ(頸)ナデ? 口縁は短く直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面をなす。頸部はやや内傾する。	にぶい 黄橙色 10YR6/3	褐灰色 10YR4/1	にぶい 黄褐色 10YR5/3	
70－ 6	SR4/ⅢA	弥生土器	壷	口縁	－	(3.8)	－	－	内面ナデ　外面ナデ 口縁は外反して短く外上方に立ち上がる。口唇は平坦面をなす。	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 橙色 7.5YR7/4	淡黄色 2.5Y8/3	
70－ 7	SR4/ⅢA	弥生土器	壷	口縁	－	(4.0)	－	－	内面ナデ　外面ナデ 口縁は緩く外反する。口唇は面をなす。	灰色 5Y4/1	オリーブ 黒色 5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	
70－ 8	SR4/ⅢA	土師器	高杯	杯部	15.0	(4.5)	－	－	内面(口)ヨコナデ(坏)ミガキ　外面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ 口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。坏体部は緩く内彎する。	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	
70－ 9	SR4-1/ⅢA	土師器	手捏ね		5.7	2.9	－	－	内面押圧痕　外面押圧痕 鉢形のミニチュア土器。体部から口縁は緩く内彎する。口唇は丸く修める。丸底。	橙色 5YR7/6	にぶい 橙色 5YR7/4	にぶい 褐色 7.5YR5/4	
70－10	SR4/ⅢA	弥生土器	甕	底部	－	(4.7)	－	7.8	内面ナデ 平底。	浅黄橙色 2.5Y7/3	にぶい 黄橙色 10YR6/3	褐灰色 7.5YR4/1	
70－11	SR4/埋Ⅱ	弥生土器	壷	底部	－	(4.5)	－	8.8	内面ナデ　外面ミガキ、ナデ? 中央が窪んだ平底。	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい 黄橙色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR5/2	
70－12	SR4/埋Ⅱ	弥生土器	甕	底部	－	(5.1)	－	8.4	内面ナデ　外面ナデ 中央がやや窪んだ平底。内面に煤付着。	黒褐色 2.5Y3/2	にぶい 黄橙色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y5/1	
70－13	SR4-1	弥生土器	甕	底部	－	(8.1)	－	9.8	内面ナデ　外面ナデ 平底。端部に粘土が盛り上がる。内面に煤付着。	褐灰色 10YR4/1	にぶい 黄橙色 10YR6/3	黒褐色 10YR3/1	
70－14	SR4-1	弥生土器	甕	口縁	－	(12.0)	－	－	内面(口)ナデ、押圧痕(胴)押圧痕 外面(口)ナデ(胴)ナデ 口縁は外反し、外斜上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面をなす。押圧風刻み。口縁下の接合部が段となる。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y6/2	
70－15	SR4-1	弥生土器	甕	口縁	－	(3.8)	－	－	内面(口)ナデ　外面(口)ナデ 口縁は外反する。口唇は丸味を持った面をなし、外側に垂下する。刻みは押圧による。口縁下接合部で段をなす。	にぶい 黄橙色 10YR7/3	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい 黄橙色 10YR7/2	
70－16	SR4-1	弥生土器	壷	胴部	－	(3.3)	－	－	内面(胴)ハケのちナデ　外面(胴)ヘラミガキ、区画沈線2条、複線山形紋 外面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	黒褐色 10YR3/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	
71－17	SR3-2/埋Ⅱ	縄文土器	浅鉢	口縁	－	(2.9)	－	－	内面ナデ　外面ナデ 波状口縁。口縁内面に沈線状段部1条。口縁下の接合部で屈曲する。外面に煤付着。	にぶい 黄褐色 10YR5/3	にぶい 黄褐色 10YR5/3	にぶい 黄褐色 10YR5/3	

2A区出土遺物観察表2

《土器・土製品》

Fig.－遺物 No. No.	出土地点 遺構／層	器　種	器形	部位	法量（cm）				特　　徴	色調			備　考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
71－18	SR3-2/埋Ⅱ	土師器	高杯	杯部	－	(5.0)	－	－	内面ナデ　外面細ハケ 坏部は緩く内彎する。坏低位でヘラによる段が形成される。	にぶい黄橙色 10YR6/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	
71－19	SR3-2/埋Ⅱ	土師器	甕		8.3	8.5	8.7	－	内面（口）横位ヘラナデ（胴）ナデ（底）指頭ナデ　外面（口）ヘラナデ、押圧痕（胴）ナデ、押圧痕 口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は概ねやや急。	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	明黄褐色 10YR6/6	小型丸底土器
71－20	SR3-2/埋Ⅱ	土師器	甕	口縁	13.4	(10.2)	－	－	内面（口）ハケ（胴）ハケ　外面（口）ナデ（胴）タタキのちナデ 口縁は直線的に上方に立ち上がる。口唇は平坦面をなす。頸部は極緩く曲がる。外面胴部に煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	ハケ状のナデであり目は不明瞭。
71－21	SR3-2/埋Ⅱ	土師器	甕		14.0	26.0	22.0	－	内面（口）ハケのちナデ　（胴）上位ナデ　下位ケズリ　外面（口）ハケのちナデ　（胴上）タタキのちハケ（胴中・下）タタキのちナデ 口縁は緩く外反する。口唇は外傾する面をなし、内側に小さな段を有す。胴部は球形指向。丸底。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰白色 N4/0	
71－22	SR3-2/埋Ⅱ	土師器	甕	胴部	－	(14.4)	20.8	－	内面（口）ヨコナデ（胴）ヘラナデ　外面（口）ヘラナデ（胴）タタキ 頸部は緩く曲がる。胴部は中位で膨らむ。	黄灰色 2.5Y5/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰色 N4/0	
71－23	SR3-2/埋Ⅱ	土師器	甕	胴部	－	(19.2)	22.2	－	内面（口）ヨコナデ（胴）ヘラナデ　外面（頸）ヨコナデ（胴）タタキ 頸部は緩く曲がる。胴部は球形指向で中位が膨らむ。外面胴部中位に煤付着。	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR4/1	
71－24	SR3-1/ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(6.1)	－	10.0	内面（脚）ヘラナデ　外面（脚）ヘラナデ 脚は裾部にかけて緩やかに広がる。端部は丸く修める。	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	灰色 5Y4/1	
71－25	SR3/ⅢA	土師器	手捏ね		4.3	2.8	－	－	内面ナデ、押圧痕　外面押圧痕 椀形のミニチュア土器。　口唇は丸く修める。　平底?	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄褐色 2.5Y5/3	オリーブ黒色 5Y3/1	
71－26	SR3/ⅢA	土師器	手捏ね		4.3	5.5	5.4	3.7	内面（口）ヘラナデ（胴）押圧痕　外面（口）押圧痕（胴）ナデ 口縁は直線的に上方に立ち上がり、外側に肥厚する。押し潰した平底。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黄褐色 2.5Y5/3	灰色 7.5Y4/1	
71－27	SR3/埋Ⅱ	土師器	壷	頸部	－	(3.9)	－	－	内面ナデ、押圧痕　外面丁寧なナデ 頸部屈曲は急。体部は球形。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 N4/0	
71－28	SR3-2/埋Ⅱ	土師器	壷	底部	－	(7.0)	－	－	内面指頭ナデ、ヘラナデ　外面ナデ 丸底。	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰色 N4/0	27の底部。
71－29	SR3/ⅢA	土師器	壷		8.6	8.9	8.7	－	内面（口）ヨコハケのちナデ（胴）ナデ、押圧痕　外面（口）ヨコナデ（胴）上位ヨコナデ、中位以下ハケ 口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部上位に最大径を持つ。尖底風。	灰白色 10YR8/1	灰白色 2.5Y8/2	浅黄橙色 7.5YR8/4	
72－30	SR3/ⅢA	土師器	鉢		9.7	5.4	－	3.2	内面指頭ナデ　外面ナデ 椀状の鉢。口縁は直線的に上方に立ち上がる。　口唇は尖り気味に丸く修める。底部は不明瞭な平底。	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	
72－31	SR3/ⅢA	土師器	鉢		13.2	5.1	－	8.0	内面ナデ　外面ナデ、押圧痕、（底）木の葉圧痕 椀状の鉢。底部端から口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。平底。底部外面に煤付着。	灰色 5Y4/1	橙色 5YR7/8	灰色 5Y5/1	
72－32	SR3/ⅢA	土師器	高杯	杯部	13.6	(6.4)	－	－	内面（坏）丁寧なナデ?　外面（口）ヨコナデ（坏）ヘラナデ、ミガキ? 坏体部から口縁は連続して内彎する。口唇は部分的に内傾する面をなす。外面に煤付着。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	暗灰色 N3/0	
72－33	SR3/ⅢA	土師器	高杯	杯部	15.5	(5.9)	－	－	内面（口）ヨコナデ（坏）ナデ　外面（坏）ヘラナデ 口縁は緩やかに外反する。口唇は丸く修める。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/8	橙色 5YR7/6	
72－34	SR3/ⅢA	土師器	高杯	杯部	15.8	(6.5)	－	－	内面（坏）ヘラナデ　外面（坏）ヘラナデ、押圧痕 坏部は連続的に内彎する。口唇は内傾する面をなす。	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄褐色 2.5Y5/3	黒褐色 2.5Y3/1	

2A区出土遺物観察表3

《土器・土製品》

Fig.－遺物 No. No.	出土地点 遺構／層	器　種	器形	部位	法量（cm）				特　　徴	色調			備　考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
72－35	SR3/ⅢA	土師器	高杯	杯部	17.6	(6.1)	－	－	内面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ　外面(口)ヨコナデ(坏)ヘラミガキ? 坏体部から口縁は連続して内彎し外上方に立ち上がる。口唇は中央が沈線状に窪んだ外傾する面をなす。	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	
72－36	SR3/ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(6.5)	－	11.4	内面(脚)ヘラナデ(裾)ナデ　外面(脚)ナデ 脚は弱く広がり、裾部で外反する。端部は反り、細く尖る。	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	
72－37	SR3/ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(6.5)	－	－	内面(脚)ケズリのちナデ(裾)ヨコナデ　外面ナデ 脚は直線的に弱く広がり、やや急な屈曲ののち裾部は直線的に開く。	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄色 2.5Y7/2	
72－38	SR3/ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(6.9)	－	12.5	内面(脚)ケズリのちナデ(裾)ヨコナデ　外面(脚)ナデ 脚は直線的に弱く広がり、やや急な屈曲ののち裾部は直線的に開く。端部は平らな面をなす。	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	暗灰色 N3/0	
72－39	SR3/ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(8.1)	－	13.8	内面(脚)ヘラケズリ?(裾)ナデ　外面ヘラナデ、押圧痕 脚は裾部にかけて連続的に大きく広がる。端部は丸く修める。	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	暗灰色 N3/0	
72－40	SR3/ⅢA	土師器	甕	口縁	15.2	(5.0)	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。	灰色 5Y5/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 5Y4/1	
72－41	SR3/ⅢA	土師器	甕	口縁	13.6	(3.4)	－	－	内面(口)ナデ(胴)ナデ?　外面(口)ナデ 口縁は外反して外上方へ立ち上がる。口唇は外傾する面をなす。頸部屈曲は急。	オリーブ黒色 5Y3/1	灰色 5Y4/1	灰色 7.5Y4/1	
72－42	SR3/ⅢA	土師器	甕	口縁	14.2	(6.4)	－	－	内面(口)ナデ(胴)ケズリ　外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 口縁は短く外反する。口唇は外傾する面をなす。頸部屈曲はやや急。	暗灰黄色 2.5Y5/2	にぶい橙色 7.5Y6/4	黄灰色 2.5Y4/1	
72－43	SR3/埋Ⅱ	土師器	甕	底部	－	(13.5)	－	－	内面(胴)中位ケズリのちナデ、下位ヘラナデ　外面(胴)ヘラナデ 丸底。内・外面胴部中位以下に煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 N5/0	
73－44	SR3/ⅢA	土師器	甕		15.5	28.7	22.6	－	内面(口)ナデ(胴)ケズリのちナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)ケズリのちナデ 口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は長胴。丸底。内面胴部下位以下、外面胴部中位に煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 5Y5/1	
73－45	SR3/ⅢA	土師器	甕		12.8	26.6	23.0	－	内面(口)ナデ(胴)ケズリのちナデ　外面(口)ナデ、押圧痕(胴)ヘラナデ 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修め、やや垂下する。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向する。丸底。器壁薄。内面胴部下位、外面胴部中位と口縁に煤付着。	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR4/2	灰色 5Y6/1	
73－46	SR2/ⅢA	土師器	甕		16.0	19.1	16.9	－	内面(口)ヨコナデ(胴)ケズリのちナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ　上位押圧痕 口縁はやや外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。 丸底。 外面胴部中位以上、内面胴部中位以下に煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒色 10YR2/1	灰色 N5/0	
73－47	SR2/ⅢA	土師器	甕		16.0	22.2	18.6	－	内面(口)ヨコナデ(胴)上位ヘラナデ　中位以下ナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのち粗ハケ 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。 胴部は長胴。 底部は押し潰した丸底。外面胴部中位に煤付着。	暗灰黄色 2.5YR5/2	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰白色 N8/0	
73－48	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	13.3	19.6	17.0	－	内面(口)ナデ(胴)ハケのちナデ　外面(口)ハケのちヨコナデ(胴)ハケのちナデ 口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩やかに曲がる。胴部はやや長胴。丸底。胴部中位以下煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/4	灰色 N5/0	
73－49	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	8.8	(5.5)	－	－	内面(口)ハケのちヨコナデ(頸)押圧痕(胴)ナデ　外面(口)ハケのちナデ(胴)ナデ 口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面煤付着。	にぶい橙色 7.5YR6/4	黒色 N2/0	灰色 7.5Y4/1	
73－50	SR2/ⅢA	土師器	甕		12.0	(4.2)	－	－	内面ヨコナデ　外面ヨコナデ 口縁は緩く内彎し、外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰色 N4/0	
74－51	SR3/ⅢA	土師器	甕		17.1	29.9	21.4	－	内面(口)押圧痕(胴)ナデ　外面(胴)ナデ(底)ヘラ圧痕 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は長胴。尖り気味の丸底。内面胴部下位以下、外面胴部中位に煤付着。	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	青灰色 5B6/1	

2A区出土遺物観察表4

《土器・土製品》

Fig.－遺物No. No.	出土地点遺構／層	器　種	器形	部位	法量（cm）				特　　徴	色調			備　考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
74－52	SR2/ⅢA	土師器	甕		14.4	18.2	16.9	－	内面（口）ヘラナデ（胴）上位ヘラナデ下位ナデ　外面（口）ナデ、押圧痕（胴）ナデ 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修め、端部は垂下する。頸部は緩やかに曲がる。丸底。内面胴部中位、外面胴部中位と口縁に煤付着。	褐灰色 10YR5/1	灰褐色 7.5YR5/2	灰色 5Y5/1	
74－53	SR2/ⅢA	土師器	甕		13.3	28.0	25.0	－	内面（口）ケズリのちナデ　（胴）ナデ、ヘラ圧痕、押圧痕　外面ナデ 口縁は内湾する。胴部は球形で中位で最大径を持つ。内面底部と胴部に煤付着。丸底。	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰色 N6/0	
74－54	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	15.8	(9.4)	－	－	内面（口）ヨコナデ（胴）ナデ　外面（口）ヨコナデ（胴）ナデ 口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。外面胴部と口縁に煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄色 2.5Y7/2	
74－55	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	17.8	(9.3)	－	－	内面（口）ヨコナデ（胴）ケズリのちナデ　外面（口）ヨコナデ（胴）ナデ 口縁は外反する。口唇は太く丸く修める。頸部は緩やかに曲がる。外面胴部中位と口縁に煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR5/1	灰色 5Y5/1	
74－56	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	17.5	(12.5)	18.6	－	内面（口）ナデ　（胴）上位ケズリのちナデ　中位ケズリ　外面（口）ヨコナデ（胴）ナデ 口縁は緩く外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	暗灰色 N3/0	
74－57	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	21.5	(11.8)	－	－	内面（口）ヨコナデ（胴）ケズリのちナデ、弱い押圧痕　外面（口）ヨコナデ、ヘラ圧痕（胴）ナデ 口縁は緩く外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部上位に煤付着。	にぶい黄橙色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 N4/0	
75－58	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	15.7	(19.7)	20.0	－	内面（口）ヘラナデ　（胴）ケズリのちナデ　外面（口）ヘラナデ　（胴）粗ハケのちナデ 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。胴部はやや肩が張る。内面胴部中位以下、外面口縁と胴部中位以下に煤付着。	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	青灰色 5B5/1	
75－59	SR2/ⅢA	土師器	壷	口縁	16.8	(21.5)	25.7	－	内面（口）ヨコナデ（胴）粗いヘラナデ　外面（口）縦位ハケのちヨコナデ（胴）タタキ 口縁は直線的に外上方へ開く。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形。細い筋状痕が残る。胴部中位に煤付着。	灰色 5Y5/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰白色 10YR8/2	
75－60	SR2/ⅢA	土師器	壷		5.6	7.9	7.2	－	内面（口）ヨコナデ（胴）指頭ナデ　外面（口）ヨコナデ（胴）押圧痕 口縁は直線的に上方へ立ち上がる。口唇はやや玉縁状をなす。胴部は球形。丸底。	黒色 10YR2/1	にぶい黄橙色 10YR6/3	黒色 10Y2/1	
75－61	SR2/ⅢA	土師器	壷		9.0	10.8	13.7	－	内面（口）ヨコナデ（胴）ナデ、ヘラ圧痕　外面（口）ヨコナデ（胴）ナデ、ヘラナデ、ヘラ圧痕 口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲は急。胴部は中位で大きく膨らむ。	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	
75－62	SR2/ⅢA	土師器	手捏ね		6.7	1.7	－	－	内・外面指頭押圧 浅い皿形。口唇は丸く修める。丸底。	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 5Y5/1	
75－63	SR2/ⅢA	土師器	高杯	杯部	19.8	(6.8)	－	－	内面（口）ヨコナデ（坏）ナデ　外面（口）ヨコナデ（坏）ヨコナデ 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。接合部で屈曲する。	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	
75－64	SR2/ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(7.6)	－	－	内面（脚）ナデ（裾）ヨコナデ　外面（脚）ナデ、ヘラ圧痕（裾）ヨコナデ 脚は外傾して小さく開き、裾は外反して広がる。	にぶい黄色 2.5Y6/4	にぶい黄色 2.5Y6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	
75－65	SR2/ⅢA	土師器	台付鉢	台部	－	(4.7)	－	10.2	内面（鉢）ナデ（台）ナデ　外面ナデ、押圧痕 台部は緩く外反する。端部は丸く修める。	灰色 5Y4/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 5Y5/1	
75－66	SR2/ⅢA	土師器	台付鉢		14.9	8.2	－	8.4	内面（鉢）粗ハケのちナデ　（台）ナデ、押圧痕　外面（鉢）ナデ　（台）ナデ、押圧痕 鉢部は茶椀形。口唇は外傾する面を成す。口縁は内彎気味に立ち上がる。台部は短く開き、端部は丸く修める。	浅黄橙色 7.5Y8/4	淡橙色 5YR8/4	灰色 N4/0	
75－67	SR2/ⅢA	土師器	鉢		10.2	5.4	－	4.5	内面（口）ヨコナデ　（体）上位ヨコナデ、下位押圧痕　外面（口）ヨコナデ　（体）ナデ、押圧痕 カップ状の小鉢で口縁は短く外反する。口唇は丸く修める。平底で端部に押圧痕が残る。	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	灰色 N3/0	
75－68	SR2/ⅢA	須恵器	甕	口縁	43.0	(8.5)	－	－	内面（口）回転ナデ、押圧痕　外面ナデ、（口頸）区画の断面三角形突帯、カキ目上に櫛描波状紋。 口縁は緩やかに外反して大きく開く。口唇は外側に肥厚する。	灰色 N4/0	灰色 N6/0	灰色 N4/0	

2A区出土遺物観察表5

《土器・土製品》

Fig.－遺物 No. No.	出土地点 遺構／層	器　種	器形	部位	法量（cm）				特　　徴	色調			備　考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
75－69	SR2/ⅢA	須恵器	瓶	口縁	6.6	(3.1)	－	－	内面(口)ヨコナデ(回転ナデ?)　外面(口)回転ナデ　区画沈線、櫛描波状紋。口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。	黒色 10YR1.7/1	黒色 10YR1.7/1	褐灰色 10YR4/1	焼成不良？
76－70	SR2/ⅢA	弥生土器	甕		12.7	24.5	19.3	4.0	内面(口)ヨコハケ、押圧痕(胴)ナデ 外面(口)ハケのちナデ(胴)ハケ 口縁は直線的に外上方へ短く立ち上がる。口唇は外傾する凹面をなす。頸部屈曲はやや急。胴部は砲弾形。狭い平底。外面胴部中位以上に煤付着。	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰色 5Y5/1	
76－71	SR2/ⅢA	土師器	甕	口縁	15.4	(9.9)	19.0	－	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのちナデ 口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩やかに曲がる。胴部中位、口縁に煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	橙色 5YR6/6	灰色 10YR6/1	
76－72	SR1/ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(5.7)	－	12.2	内面(脚)ナデ、押圧痕　(裾)ナデ 外面ナデ 脚は直線的に弱く広がり、屈曲し裾部で開く。端部は丸く修める。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	
76－73	Ⅳ	土師器	甕	口縁	15.5	(7.3)	－	－	内面(口)ナデ(胴)ハケのちナデ　外面(口)ナデ(胴)タタキ 口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面をなす。頸部屈曲は急。外面に煤付着。	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐色 7.5YR4/3	
76－74	Ⅳ	弥生土器	壷	口縁	37.4	22.7	－	－	内面(口)ヘラミガキ、押圧痕(頸)ハケ、押圧痕　外面(口頸)ヘラミガキ? 頸部は内傾する。　口縁はやや緩く屈曲したのち直線的に短く外上方に立ち上がる。　口唇は面をなす。	明赤褐色 5YR5/6	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/6	
76－75	ⅢA	土師器	甕	口縁	17.5	11.6	－	－	内面(口)ナデ(胴)ナデ　外面(口)縦位ヘラナデ(胴)ナデ 口縁は外反する。口唇は丸く修め垂下する。頸部屈曲はやや急。	灰黄褐色 10YR4/2	黄橙色 10YR7/8	灰色 N6/0	
76－76	ⅢA	土師器	甕	口縁	13.0	(5.9)	－	－	内面(口)ヘラナデ(胴)ケズリのちヘラナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。	黄灰色 2.5Y5/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰色 5Y6/1	
76－77	ⅢA	土師器	甕	口縁	12.9	(6.1)	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 口縁は上方へ立ち上がり、短く外反する。口縁は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面煤付着。	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄色 2.5Y6/3	灰色 7.5Y4/1	
77－78	ⅢA	土師器	甕		16.0	23.2	20.8	－	内面(口)ヘラナデ(胴)ヘラケズリのちヘラナデ　外面(口)押圧痕(胴)ヘラナデ 口縁は外反する。口唇は概ね丸く修め、一部では垂下する。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。 丸底。　内面胴部下位以下、外面胴部中位に煤付着。	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	黄灰色 2.5Y4/1	
77－79	ⅢA	土師器	甕	口縁	12.4	(5.2)	－	－	内面(口)ナデ(胴)ナデ　　外面(口)ナデ(胴)ナデ 口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部は緩やかに曲がる。	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	
77－80	ⅢA	土師器	甕	口縁	16.6	(3.2)	－	－	内面(口)ヨコナデ　外面(口)ヨコナデ 口縁は外反する。口唇は尖り丸く修める。頸部屈曲は急。外面口縁に煤付着。	暗灰黄色 2.5YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 7.5Y4/1	
77－81	ⅢA	土師器	甕	口縁	18.2	(4.3)	－	－	内面(口)ナデ　外面(口)ヨコナデ 口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。	暗灰黄色 2.5YR5/2	暗灰黄色 2.5YR5/2	灰色 5Y5/1	
77－82	ⅢA	土師器	高杯	杯部	17.4	(5.8)	－	－	内面(口)ハケのちナデ(坏)ヘラナデ 外面(口)縦ハケのちナデ(坏)ナデ 口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。坏部は緩く内彎する。	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	
77－83	ⅢA	土師器	高杯	脚部	－	(6.3)	－	12.0	内面(脚)ナデ　外面(脚)ナデ 脚は内彎気味に弱く広がり、やや急な屈曲ののち裾部は直線的に開く。端は丸く修める。	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR6/8	
77－84	ⅢA	須恵器	鉢	口縁	18.6	(5.3)	－	－	内面ナデ　外面回転ナデ 口縁は内彎して内上方に立ち上がる。口唇はやや内傾する面をなす。	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y6/1	
77－85	ⅢA	須恵器	甕	口縁	13.0	(2.5)	－	－	内面(口)回転ナデ　外面(口)回転ナデ、断面三角形突帯2条、7条単位の櫛描き波状紋 口縁は緩やかに外反する。	灰色 N5/0	灰色 N5/0	褐灰色 7.5YR5/1	

2A区出土遺物観察表6

《土器・土製品》

Fig.－遺物No. No.	出土地点遺構／層	器　種	器形	部位	法量（cm）				特　　徴	色調			備　考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
77－86	ⅢA	須恵器	壺	口縁	12.0	(5.0)	－	－	内面(口)回転ナデ　外面(口)回転ナデ、カキ目 口縁は緩く外反したのち短く立ち上がる。外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は平担面をなす。	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 7.5YR8/1	
77－87	ⅢA	須恵器	杯身		11.6	5.3	受け部径 13.2	立ち上がり 1.5	内面(口)回転ナデ(体)回転ナデ、ロクロ目　外面(口)回転ナデ(体)中位以下回転ヘラケズリ 口縁はやや内傾する。口唇は内傾する面をなす。受け部は水平。	灰色 N6/0	灰色 N6/0	黄灰色 2.5Y6/1	
77－88	Ⅱ	青磁	皿	口縁	－	(2.6)	－	－	内面片切り彫りによる蓮弁紋 口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	オリーブ 灰色 10YR6/2	灰色 10Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	龍泉窯
77－89	Ⅱ	青磁	碗	体部	－	(3.2)	－	－	外面片切り蓮弁紋(単位の大きな葉で、中央が大きく盛り上がる。)	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 N8/	龍泉窯
77－90	Ⅰ	磁器	広東碗	底部	－	(3.0)	－	5.9	内面(見込)扇、一重圏線　外面(底)一重圏線、“サ”銘(高台)二重圏線 染付、畳付釉剥ぎ、内外面に貫入が入る。	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	－ －	能茶山

《石器・石製品》

Fig.－遺物No. No.	出土地点遺構／層	種　類	法　量				特　　徴	その他
			全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		
78－91	SR3-2/ⅢA	石鏃	2.6	1.7	0.5	2.2	凹基。側辺は膨らみを持つ。	サヌカイト
78－92	SR3-2/ⅢA	石鏃	〔3.3〕	1.3	0.5	2.4	側辺は膨らみ気味。基部は舌状をなす?	サヌカイト
78－93	SR3-1/埋Ⅱ	石鏃	3.5	1.8	0.5	2.7	平基。側辺は直線的。下位で最大径を持ち基部でやや狭くなる。	サヌカイト
78－94	SR2/ⅢA	管玉	3.1	0.6	0.2～0.3	2.4	穿孔径2.3～3$^{3}/_{10}$。片側端部には1$^{3}/_{10}$幅の摺り切り部が存在。断面楕円～円形。	碧玉？
78－95	SR2/ⅢA	管玉	2.4	0.7	0.3	2.1	円柱または角柱状の原材に直径2.5$^{3}/_{10}$の円孔を穿つ。外面を丁寧に研摩し、断面楕円～円形に仕上げる。	碧玉？
78－96	SR4/ⅢA	石包丁	10.9	5.0	0.9	78.0	刃部、背部共に緩やかに彎曲する。紐穴は1孔。一部に敲打痕を残す。表面に研摩痕を残す。刃部は両刃で横位の研摩痕を残す。	
78－97	SR2/ⅢA	石包丁	10.6	4.5	1.0	64.3	刃部は弱く彎曲。背部は緩やかに彎曲する。紐穴は1孔で表裏面より敲打の後穿つ。刃部は両刃で横位の研摩痕。	粘板岩 紐穴横に穿孔途中の窪み。
78－98	SR3-2/ⅢA	石包丁	8.9	4.5	0.6	45.9	長軸方向の左右両端部を表裏面から打ち欠き紐掛け部を作る。刃部は両刃で表裏面からの打ち欠きを認める。背部は片面から打ち欠く。	打製 チャート
78－99	Ⅳ	石包丁	8.5	3.8	0.6	32.4	直刃。背部は直線的で平らな面をなす。紐穴2孔は表裏面からの穿孔。両刃。表面に擦痕。刃部に磨痕を残す。軟質。	砂質泥岩
78－100	SR2/ⅢA	石斧	6.0	3.6	0.9	29.3	扁平片刃。刃部はやや弧状をなす。丁寧な研摩を全面に施す。	頁岩
78－101	SR4/埋Ⅱ	石錘	4.5	4.1	1.2	37.9	扁平、楕円形の河原石を用い、長軸端を大きく打割する。	砂泥岩
79－102	SR4/埋Ⅱ	叩石	13.0	10.8	6.0	1254.0	一側面と一端部に敲打痕を残す。	
79－103	SR4/ⅢA	叩石	10.8	8.3	4.9	726.0	側面は稠密な敲打痕により平らな面となる。端面は敲打痕がやや密。表裏面は希薄な敲打痕を残す。	砂質泥岩
79－104	SR4/ⅢA	叩石	9.1	6.7	4.4	379.9	やや小型の叩石で側面、端面の中央部分を中心に敲打痕を残す。	
79－105	ⅢA	叩石	12.8	7.7	3.3	434.3	両側辺の中央と一端部に敲打痕を残す。	

2A区出土遺物観察表7

《木器・木製品》

Fig.－遺物No. No.	出土地点遺構／層	種　類	遺物名・用途	法　量（cm）			特　　徴	その他
				全長	全幅	全厚		
80－106	SR 4／ⅢA	祭祀具？		38.2	6.5	1.1	表面には工具痕を残し、やや凹凸が残る。中央部分では細く幅広と尖った端部を持つ。	
80－107	SR 4	食事具	しゃもじ状木製品	14.2	8.0	2.7	柄部に向かって緩い傾斜を有す。	
80－108	SR 4／ⅢA	部材	―	78.7	6.1	7.1	丸太材に部分的な調整痕を留める。側面から約1／3周する幅で、断面“V”字状の深い抉りが加えられる。	
80－109	ⅢA	武具？		76.9	28.9	2.5	端部は平らな面をなし、側面は丸く修める。平面長方形を呈していたものか。	
80－110	ⅢA	雑具	角棒状木製品	18.8	1.0	0.9	端部を四方から削り出す。	
80－111	ⅢA	部材	―	40.2	3.7	1.4	一端部には側辺から抉りが入る。また、他端中央には楕円孔を穿つ。	
81－112	SR 3／ⅢA	食事具？	箆状木製品	25.7	3.6	0.7	やや規模が大きく、端部は細く仕上げられる。	
81－113	SR 3／ⅢA	工具	木錘	15.6	6.0	6.1	輪切りにした丸太材を用い、中央部分を浅く抉る。	
81－114	SR 3／ⅢA	農工具	縦杵	53.1	9.0	7.6	端部は摩滅して、丸味を持った凸面をなす。中央部は緩い傾斜を持って細く削り出される。	
81－115	SR 3 -2	部材？	板状木製品	11.4	7.5	2.7	建築部材の板端部か。節穴部分が突起として残る。	
81－116	SR 3 -2	部材	角棒状木製品	13.7 24.9	0.9 1.3	0.6 0.9	中位で段を有し、下位は断面方形に、上位は断面円形に削り出す。	
81－117	SR 3 -2/埋Ⅱ	部材	板状木製品	30.5	9.0	1.1	断面楔形。細く仕上げた側辺に一ケ所紐孔か切り欠きを有する。	
82－118	SR 2／ⅢA	容器	注口	24.6	6.5	1.1	削出した厚い注口部から離れて、左右対称に2個の紐穴を持つ。また、紐穴下には紐による磨滅痕を残す。	
82－119	SR 2／ⅢA	農工具	鍬	18.7	19.3	3.1	平面はほぼ方形。基は肥厚、刃部で細くなる。面に横方向の加工痕を残す。	
82－120	SR 2／ⅢA	部材	機具支持部？	26.1	5.4	2.4	左右2列の枘状孔。	
82－121	SR 2／ⅢA	農工具？	横槌／木錘？	10.5	7.7	7.0	端部を尖り気味に丁寧に加工する。機具部品？	
82－122	ⅢA	食事具	擂り粉木？	36.6	3.3	3.1	残存端部は良く摩滅する。	
83－123	SR 3／ⅢA	農工具	縦杵	96.6	8.2	6.6	一端部は丸く滑らかな凸面をなす。他端はやや凹凸のある面で、工具痕を残す。中央部はやや急な傾斜を持ち細く削り出される。	
83－124	SR 3 -2	農工具	縦杵	104.0	8.4	7.6	一端部はやや尖った面をなす。他端は緩やかな凸面をなす。中央部は上下から緩やかな傾斜を持ち細く削り込まれる。	
84－125	SR 2	部材？	―	69.2	2.6	2.6	一端部に二方向から大きく削りを加え、断面長方形に加工する。	
84－126	SR 2／ⅢA	部材	―	86.0	12.9	3.3	やや厚めの板状木製品で緩く内湾する。容器部材か。	
84－127	SR 2／ⅢA		杭？	75.1	7.1	2.5	薄い板状木製品で杭として使用か。	
85－128	ⅢA		―	101.3	15.4	2.5	板状木製品で板杭として使用か。側面は平らな面をなす。一部被熱炭化。	
85－129	ⅢA		板状木製品	60.3	6.6	1.8	一端部は隅角を丸く加工する。	
85－130	ⅢB		杭	83.5	10.3	7.0	端部は工具痕を残して細く尖らせる。一辺25㌢前後の平面方形を呈した枘穴状の抉りが1ケ所入る。建築部材の転用？	
86－131	ⅢB	容器	蓋？	56.6	7.4	1.1	端部は緩やかに彎曲する。φ3㌢の円孔が6ケ所存在し、内2孔には木皮が通されて残る。組合せ蓋か。刃物痕が多く、俎としても使用。	
86－132	ⅢB	農工具	大足	62.9	14.3	1.3	端部は隅角を切り取り片方は台形状に、他方は丸味を持って加工する。側面に“V”字状の切り欠きが4ケ所（2対）、φ6～7㌢の穿孔部が5ケ所存在する。	
87－133	ⅢB	農工具	大足？	52.2	9.7	1.6	両端部は隅角部を大きく斜めに切り取り、丸味を持って仕上げる。一辺4～10㌢の平面方形または不正方形に穿たれた孔が4ケ所存在する。	
87－134	ⅢB	農工具	大足	46.4	10.5	1.2	端部を工具で斜めに加工し舳先状に整える。2ケ所にφ4～6㌢の円孔を穿つ。	
87－135	ⅢD	農工具	大足	46.4	12.3	1.5	一端部は工具痕を残し緩い山形に加工する。他端は平らで隅角を丸く仕上げる。φ約7㌢の不整円形孔を7ケ所に穿つ。	
88－136	ⅢB		杭	93.4	4.6	3.4	枝の端部に粗い加工を加える。	
88－137	ⅢB	部材	―	98.6	9.7	6.5	一端部には工具痕を残し、細く削出す。建築部材？	
88－138	ⅢD	部材	―	82.6	12.1	2.1	両側面は丸く修める。表面に調整痕を多く留める。一部が被熱炭化する。	
88－139	Ⅱ		杭	89.9	9.3	3.3	枝の端部に加工を加えたもので、樹皮を部分的に残す。	
88－140	Ⅱ	部材	―	72.3	7.4	1.4	やや薄い板状木製品で、一側面は細く丸く仕上げる。また、浅い抉りが入る。側面際にφ1㌢の小円孔が存在する。	

2A区出土遺物観察表8

《木器・木製品》

Fig.－遺物 No. No.	出土地点 遺構／層	種　類	遺物名・用途	法　量（cm）			特　　徴	その他
				全長	全幅	全厚		
89－141	Ⅱ	農工具	大足	57.2	16.0	2.0	端部は不均等な山形をなす。中央部に12㌢大の規模を持つ不整方形孔が３ケ所、φ５～３㌢の規模を持つ円形孔が８～11ケ所存在する。	
89－142	Ⅱ	農工具	大足？	57.6	14.0	2.4	両端部は隅角を大きく斜めに切り取る。一辺７～10㌢の平面方形に穿たれた孔が６ケ所存在する。	
90－143	Ⅱ	農工具	大足	60.9	13.8	1.2	一端部の表面には溝状の浅い切り欠きが残る。容器蓋の転用か。両端部は隅角を切り取り、やや膨らんだ山形をなす。６～７ケ所にφ７㌢の円孔を穿つ。	
90－144	Ⅱ	農工具	大足	56.1	9.4	1.2	鑿状工具を用い一端部は山形にやや鋭く、他端は台形に成形する。φ５～６㌢の円孔を４ケ所に穿つ。	
90－145	Ⅱ	農工具	大足	43.0	8.2	1.2	斜位の切断端部に工具痕。３箇所にφ４～10㌢の円孔を穿つ。	
91－146	Ⅱ	容器	蓋	58.5	10.5	1.2	外周に段が部分的に残る。端部を中心として４ケ所にφ５～３㌢の円孔を穿つ。	
91－147	Ⅱ	農工具	大足	64.1	12.2	1.2	両端部は隅角を切り取り台形に仕上げる。φ３～２㌢の円孔が11個存在し、内８個は側面際で２孔１対をなす。	
91－148	Ⅱ	農工具	大足？	64.2	11.5	1.2	表面には縦横に刃物痕が残る。端部は斜位に切り出され、尖り気味に加工。φ３～５㌢の紐穴が4個穿たれる。	
92－149	Ⅱ	部材	篦状木製品	20.9	5.8	0.6	端部は丁寧な面取りを行う。端部にφ４㌢の円孔。	
92－150	Ⅱ	部材	板状木製品	28.3	5.1	9.0	φ７㌢の円孔が２ケ所。片側辺の一部に浅く幅広の抉り。端部は面取り。	
92－151	Ⅱ	工具？	木錘	15.8	5.9	4.8	φ６㌍丸太材を用い、端部を面取り、中央部をやや細く抉り出す。	
92－152	Ⅱ	祭祀具？	篦状木製品？	38.3	4.2	1.3	１端部には抉りを入れる。また、片側辺は刃状にやや細く仕上げる。	
92－153	Ⅱ		杭	61.3	4.5	2.9	荒割り角材の端部に工具痕を残して尖らせる。	
93－154	Ⅱ	農工具	大足	69.9	14.4	1.7	一端部は丸く半円形に、他端は平形に加工される。φ13～20㌢の規模を持つ平面不整円形から方形の穿孔部が３ケ所存在する。両側面を対称に浅く抉り、紐取り付け部とする。	
93－155	Ⅱ	農工具	大足	68.4	12.0	1.6	一端部は隅角を切り欠き、山形に整える。他端は緩く突出する。工具による抉りを両側辺対称に入れる。３～４ケ所に10～12㌢規模の孔を穿つ。	
93－156	Ⅱ	農工具	大足	68.3	12.8	1.2	一端部は山形、他端は平形をなす。　側面に１ケ所Ｖ字の切り欠き部分が存在する。側辺際にφ２㌢の小円孔が２ケ所、他にφ６㌢の穿孔部が２ケ所存在する。	
93－157	Ⅱ	容器	蓋	54.3	14.0	1.4	一端部に溝状の切り欠きが存在する。側面際を中心にφ７～９㌢の円孔が12ケ所存在する。組合せ式の蓋、又は転用品。	
94－158	Ⅱ	容器	蓋（大足）	71.7	15.9	1.4	端部は緩く彎曲し、内側に浅い段部を有する。側面際と中央部に一辺７～18㌢の方形から長方形の穿孔部が７ケ所存在する。表裏面に刃物痕を多く残す（組使用）。組合せ蓋か転用された大足。	
94－159	Ⅱ	部材	―	70.9	9.5	4.7	側面の片側は平らな面をなし、他面は丸く修める。工具痕を多く残す。柱材か。	
94－160	Ⅱ	部材	―	70.8	5.5	2.7	断面不整長方形を呈し、側面と裏面に工具痕を残す。建築部材？	
94－161	Ⅱ		杭	105.2	9.0	4.9	基部は全面に調整痕を残し、断面長方形に成形する。端部は工具痕を残し尖らせる。	
95－162	Ⅱ	部材	―	84.8	20.2	8.2	分厚い板状木製品で、両端部をコの字形に加工する？	
95－163	Ⅰ		杭	85.7	7.7	4.0	粗割の角材を用いて身部では２方向、先端部では４～５方向から調整を加える。	
95－164	Ⅰ	容器	板状木製品／蓋	7.8	6.5	0.6	端部は工具により丁寧に仕上げる。４箇所にφ２～３㌢の円孔が存在する。	
付図－165	SR２／ⅢA	部材	―	156.3	12.5	5.6	各面に工具痕を良く残す。長辺が３～６㌢の規模を持つ枘穴（貫通２・未貫通２）が存在する。端部は片側の一部を突出させる？	
付図－166	SR２／ⅢA	部材	―	181.4	8.8	10.4	一端部は台形状に肥厚し、他端は隅角を切り取り平面台形をなす。建築材？	
付図－167	ⅢD	部材	―	174.7	14.2	6.4	両端はφ3㌍で支軸に突出する。建築材？	
付図－168	SR３-1／ⅢD	部材	―	251.6	25.4	7.8	丸太材を用い、一端部は約15㌍に渡って半截状態に加工。直下に枝を約18㌍の長さで残す。他端は杭状に細く尖らせる。	
付図－169	Ⅰ	部材	―	281.2	7.8	5.8	断面は方形で３ケ所に平面方形の深さ１㌍を測る抉り部分が存在する。柱材？	

（５） ３B区

１． 調査区の概要

本調査区は２Ａ区に北接し、３Ａ区との境界である市道・水路の南側に設定した調査区である。調査前の状況は水田であり、耕作土下にはシルト層や粘質土層が厚く堆積する。平成８年度の第１次確認調査においては古墳時代の遺物包含層の存在や、植物遺体（木片等）の良好な遺存状態が確認されている。今次本調査では、２面の遺構検出面が確認された。調査区北東部においては、埋没低丘陵の緩傾斜基底部の存在と、縄文時代の遺物、弥生時代の遺構（溝）・遺物が確認され、調査区南西部の水平堆積部においては、縄文時代から弥生時代にかけての所産とみられる遺構（溝）及び、弥生時代～古墳時代の遺構（自然流路群）・遺物が確認された。このうち、南西部の遺構については南接する２Ａ区までの接続も確認され、これら遺構上面の包含層他の部分でも、良好な状態で遺物の出土が確認された。

２． 調査の方法

（１）耕作土及び、遺物包含層上層までは重機を用いて掘削する。

（２）国土座標第Ⅳ系に則り、遺物包含層の掘削、遺構の検出・掘削を人力で行う。

（３）遺物包含層・遺構の掘削と並行して、土層観察・各図面の作成・状況に応じた写真撮影等を行い、記録をする。

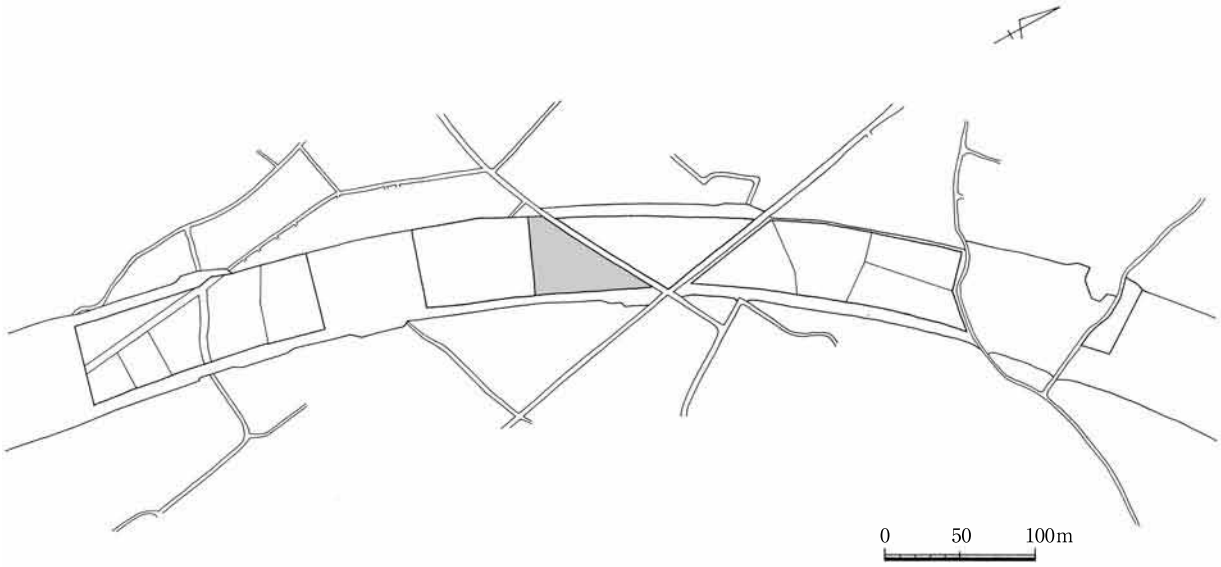


Fig.96　3B区の位置（S:1/5,000）

3. 層序（Fig.97～99）

調査区の南西端に位置する西壁と、北東端に位置する北壁の土層断面を図示した。

西壁（Fig.97・98）

第１層：表土、第２層：暗赤灰色（2.5YR　3／1）シルト層、第３層：黒褐色（10YR　2／2）シルト層、第４層：黄灰色（2.5Y　4／1）粘質土層、第５層：黄灰色（2.5Y　5／1）粘質土層、第６層：灰黄褐色（10YR　4／2）粘質土層、第７層：灰黄褐色（10YR　4／2）粘質土層、第８層：黒褐色（10YR　3／2）粘質土層、第９層：黒褐色（10YR　2／2）粘質土層、第10層：灰色（N　5／0）粘質土層、第11層：黒褐色（5YR　3／1）粘質土層、第12層：黒褐色（2.5Y　3／2）粘質土層、第13層：灰色（7.5Y　5／1）粘質土層、第14層：灰色（10Y　4／0）粘質土層、第15層：黒褐色（10YR　3／2）粘質土層、第16層：灰色（10Y　6／1）粘質土層、第17層：灰色（N　4／0）粘質土層、第18層：黒褐色（10YR　3／1）粘質土層、第19層：灰色（10Y　5／1）粘質土層である。第１層の表土層は、現在の耕作土であり、第２層以下は自然堆積層である。上層部はシルト質であるが、下層になるにつれて粘土質が強まる。遺物包含層を構成するのは第４層・第９層・第15層・第16層であり、それぞれ調査段階で便宜上付した第ⅢA層・第ⅢB層・第ⅢD層・第ⅢE層である。第７層・第８層・第15層掘削後それぞれの遺構を検出した。

北壁（Fig.97・99）

第１層～４層までは客土である。第５層：灰黄褐色（10YR　5／2）シルト層、第６層（ⅣA層）：黒褐色（7.5YR　3／1）シルト層、第７層（ⅣC層）：黒褐色（10YR　3／1）シルト層、第８層（ⅣB層）：黒褐色（2.5Y　3／1）シルト層、第９層（ⅣC層）：黒褐色（7.5YR　3／1）シルト層、第10層（ⅣB層）：黒褐色（10YR　2／2）シルト層、第11層：灰黄褐色（10YR　4／2）シルト層、第12層：黒褐色（2.5Y　3／2）シルト層、第13層：黒褐色（10YR　3／1）シルト層、第14層（ⅣD層）：黒褐色（10YR　2／2）粘質土層、第15層（ⅣE層）：黄灰色（2.5Y　4／1）粘質土層、第16層：黒色（5YR　1.7／1）粘質土層、第17層：灰色（5YR　4／1）粘質土層、第18層：暗灰黄色（2.5Y　4／2）粘質土層、第19層：黒褐色（10YR　3／1）粘質土層、第20層：黒褐色（7.5YR　3／1）粘質土層、第21層：黒褐色（10YR　3／1）粘質土層、第22層：暗赤灰色（2.5YR　3／1）粘質土層、第23層：黒褐色（2.5Y　3／2）粘質土層である。上層部はシルト質であるが、下層になるにつれて粘土質が強まる。

調査区北東部における第２面の遺物包含層を構成するのは、第６層～第10層・第14層・第15層であり、調査段階で便宜上付した第ⅣA層（第６層）：黒褐色（7.5YR　3／1）シルト層、第ⅣB層（第８・10層）：黒褐色（2.5Y　3／1・10YR　2／2）シルト層、第ⅣC層（第７・９層）：黒褐色（10YR　3／1・7.5YR　3／1）シルト層、第ⅣD層（第14層）：黒褐色（10YR　2／2）粘質土層、第ⅣE層（第15層）：黄灰色（2.5Y　4／1）粘質土層である。第ⅣA層は、古代の遺物包含層とみられるが、縄文時代晩期・弥生時代前期・古墳時代の遺物も包含する。第ⅣB層～第ⅣD層は縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層であり、第ⅣE層は縄文時代晩期の遺物包含層である。第ⅣC層において遺構を検出した。

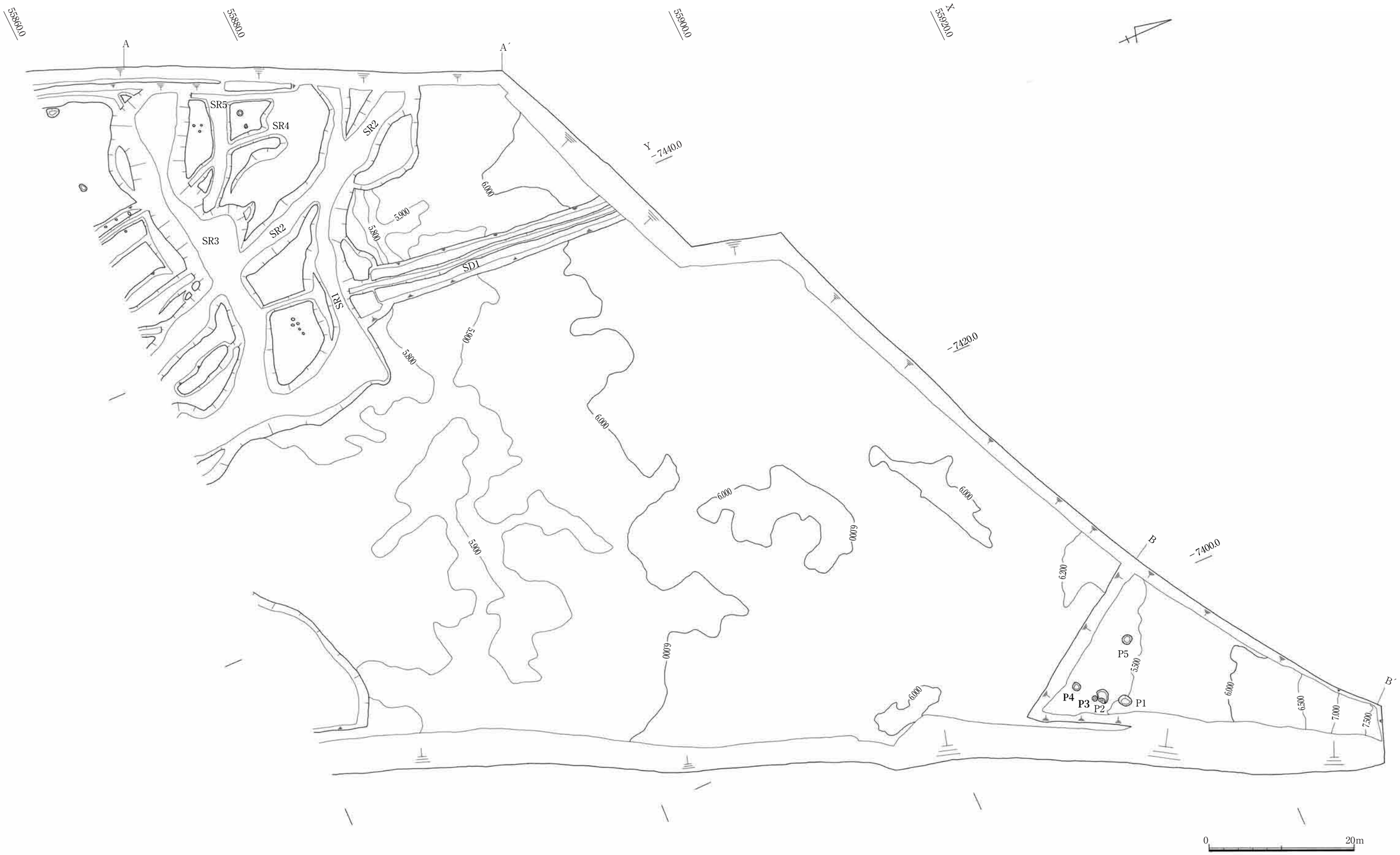
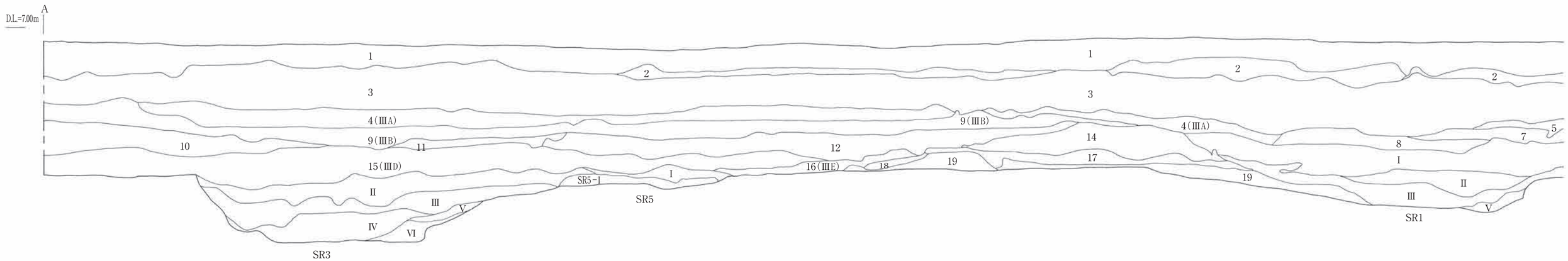
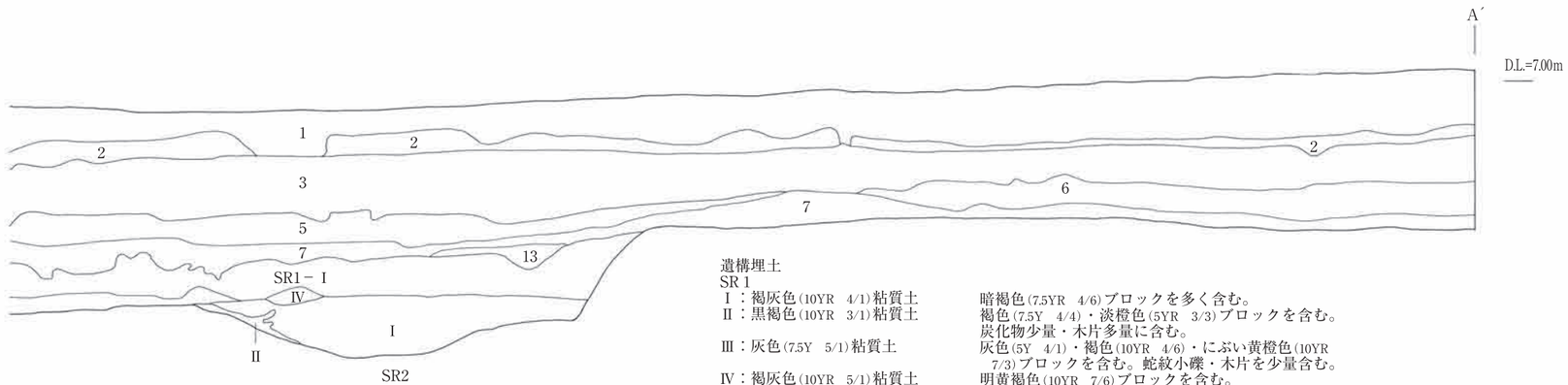


Fig.97　3B区全体図 (S:1/250)





層序
1：表土
2：暗赤灰色(2.5YR　3/1)シルト　明赤褐色(5YR　5/8)ブロックを含む。
3：黒褐色(10YR　2/2)シルト　黒褐色(2.5Y　3/2)・明赤褐色(5YR　5/8)ブロックを含む。
4：黄灰色(2.5Y　4/1)粘質土　灰黄褐色(10YR　4/2)ブロックを多く含む。
5：黄灰色(2.5Y　5/1)粘質土　黄褐色(10YR　5/6)ブロックを少量含む。
6：灰黄褐色(10YR　4/2)粘質土　明黄褐色(10YR　6/6)ブロックを含む。
7：灰黄褐色(10YR　4/2)粘質土　褐色(7.5YR　4/6)ブロックを含む。
8：黒褐色(10YR　3/2)粘質土　木片を微量に含む。
9：黒褐色(10YR　2/2)粘質土　褐色ブロックを多く含む。
10：灰色(N　5/0)粘質土　含有物なし。
11：黒褐色(5YR　3/1)粘質土　灰色粘土塊を多く含む。
12：黒褐色(2.5Y　3/2)粘質土　灰黄褐色(10YR　4/2)粘土塊を多く含む。
13：灰色(7.5Y　5/1)粘質土　黄褐色(10YR　5/6)ブロックを含む。炭化物を少量含む。
14：灰色(10Y　4/0)粘質土　褐色(10YR　4/6)ブロックを多く含む。
15：黒褐色(10YR　3/2)粘質土　炭化物・木片等を微量に含む。
16：灰色(10Y　6/1)粘質土　含有物なし。
17：灰色(N　4/0)粘質土　黄褐色(2.5Y　5/6)ブロックを含む。
18：黒褐色(10YR　3/1)粘質土　黄褐色(2.5Y　5/6)ブロックを含む。
19：灰色(10Y　5/1)粘質土　黄褐色(2.5Y　5/6)ブロックを含む。

遺構埋土
SR 1
Ⅰ：褐灰色(10YR　4/1)粘質土　暗褐色(7.5YR　4/6)ブロックを多く含む。
Ⅱ：黒褐色(10YR　3/1)粘質土　褐色(7.5Y　4/4)・淡橙色(5YR　3/3)ブロックを含む。炭化物少量・木片多量に含む。
Ⅲ：灰色(7.5Y　5/1)粘質土　灰色(5Y　4/1)・褐色(10YR　4/6)・にぶい黄橙色(10YR　7/3)ブロックを含む。蛇紋小礫・木片を少量含む。
Ⅳ：褐灰色(10YR　5/1)粘質土　明黄褐色(10YR　7/6)ブロックを含む。
Ⅴ：灰色(N　5/0)粘質土　オリーブ褐色(2.5Y　4/4)ブロックを含む。

SR 2
Ⅰ：黒褐色(10YR　3/2)粘質土　黄褐色(10YR　5/8)ブロックを少量含む。
Ⅱ：灰色(N　5/0)粘質土　含有物なし。

SR 3
Ⅰ：黒褐色(10YR　3/2)粘質土　褐色(7.5YR　4/6)ブロック・木片少量を含む。
Ⅱ：黒褐色(7.5YR　3/2)粘質土　褐色のブロックを少量含む。
Ⅲ：灰色(N　6/0)粘質土　炭化物・木片等の有機物を多く含む。褐色(10YR　4/4)・にぶい黄色(2.5Y　6/3)の粘土塊を多く含む。
Ⅳ：灰色(7.5Y　4/1)粘質土　褐色(10YR　4/4)・にぶい黄色(2.5Y　6/3)の粘土塊、木片を含む。
Ⅴ：灰色(N　4/0)粘質土　褐色(10YR　4/4)ブロック・木片を含む。
Ⅵ：灰色(10Y　5/1)粘質土　黄灰色(2.5Y　4/1)ブロック・木片を含む。

SR 5
Ⅰ：灰色(5Y　4/1)粘質土　暗灰黄色(2.5Y　4/2)ブロックを少量含む。

0　2m

Fig.98　3B区西壁土層断面図(S:1/40)

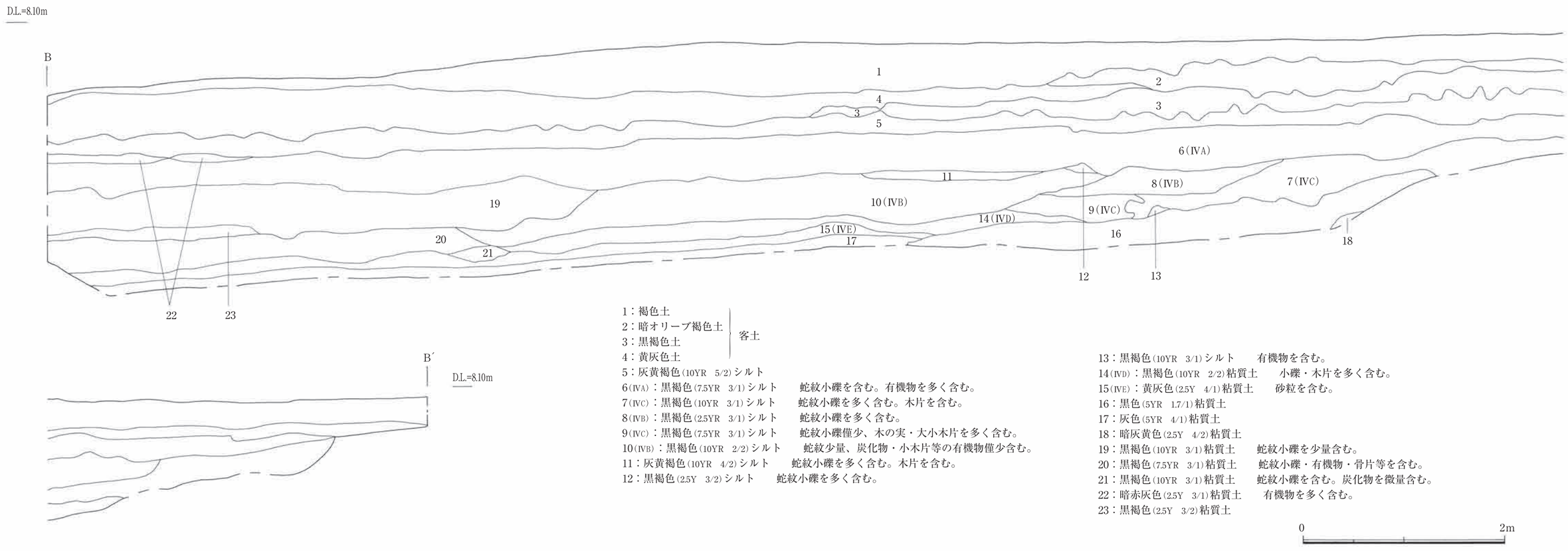


Fig.99　3B区北壁土層断面図(S:1/40)

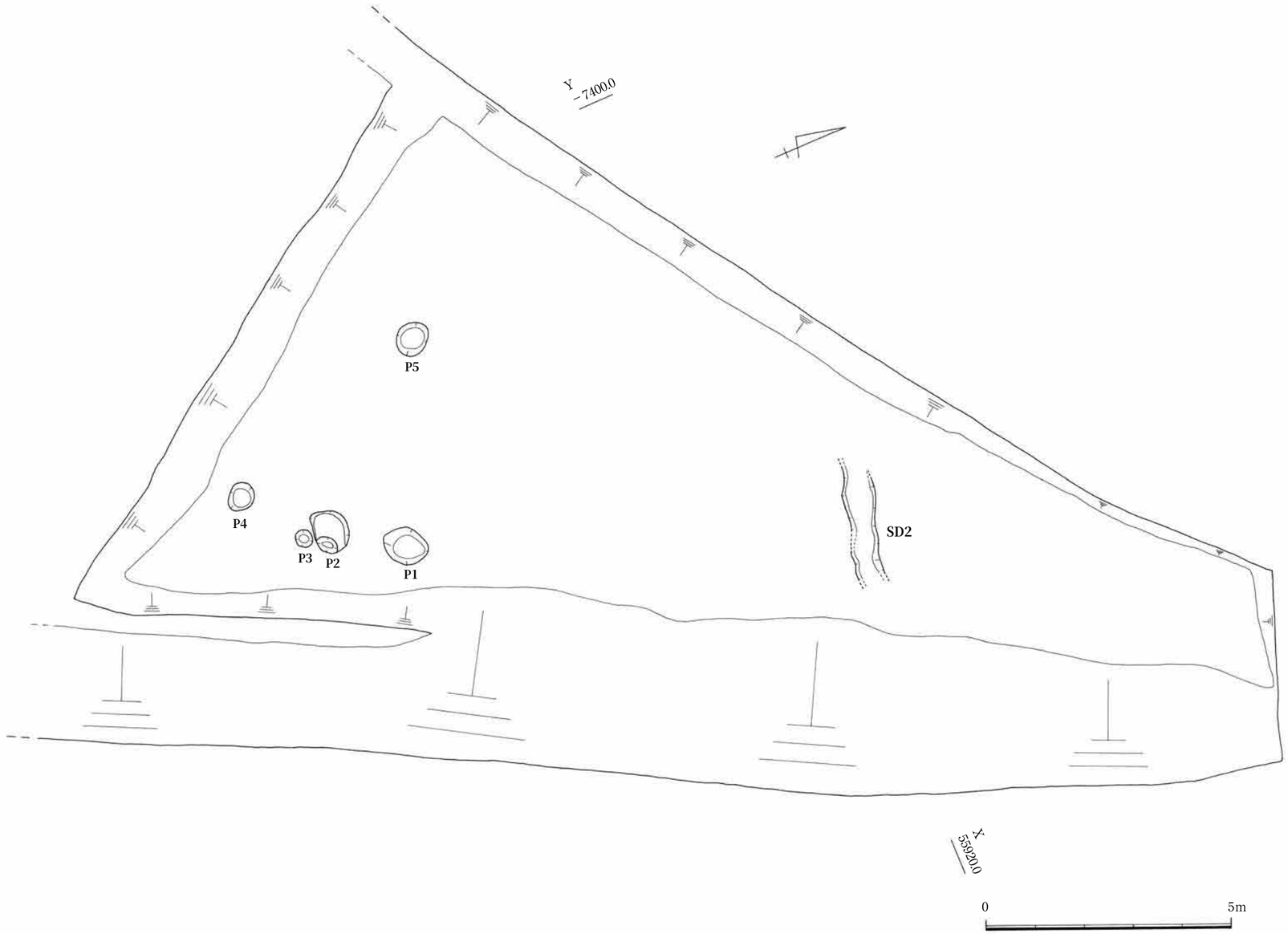


Fig.100　3B区遺構平面図 (S:1/100)

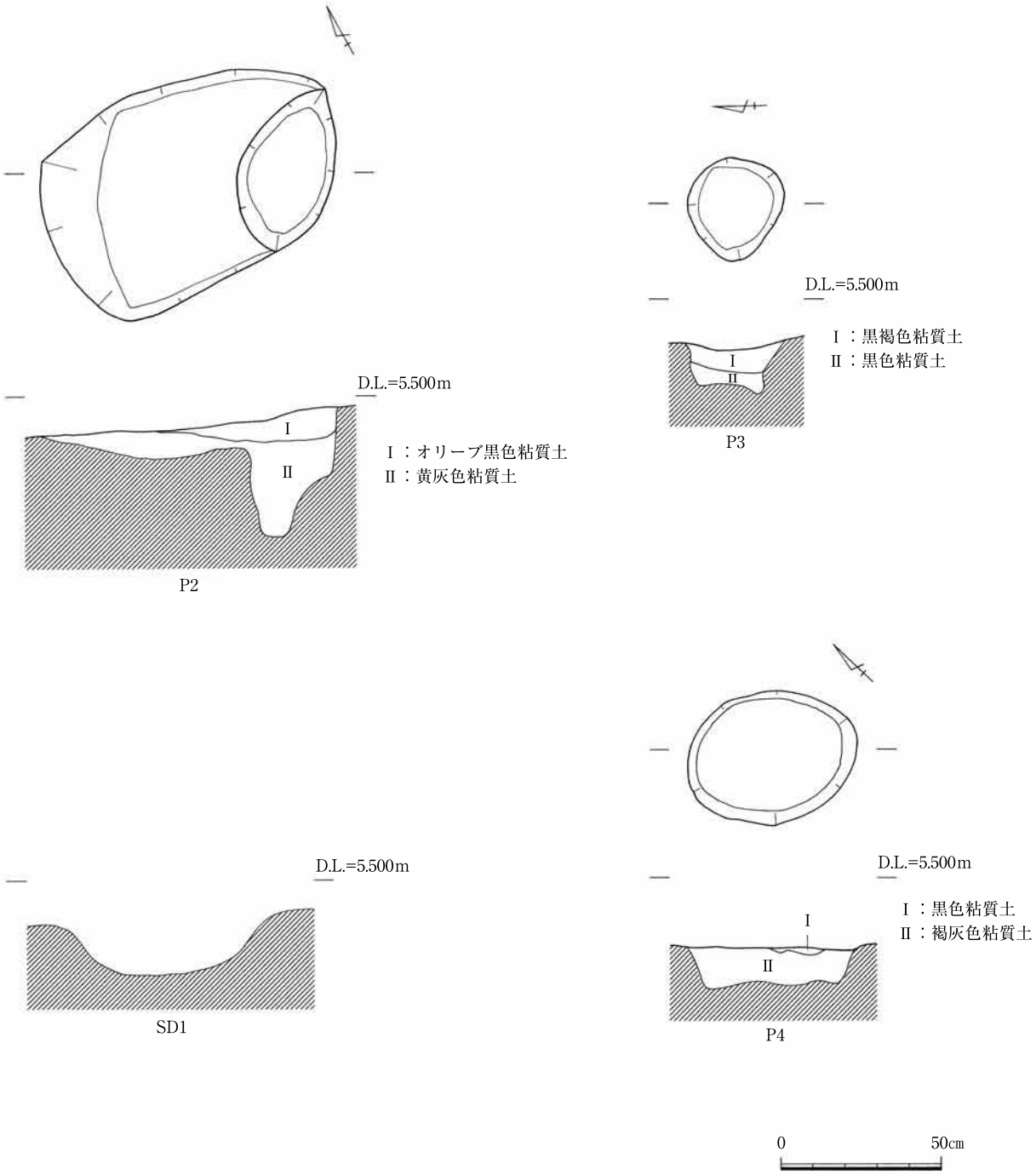


Fig.101　3B区遺構平面図・セクション図、エレベーション図（S:1/20）

４．遺構

遺構は、調査区北東部において第２面に相当する縄文時代晩期とみられるピット５個と、弥生時代前期とみられる溝（杭列）１条を確認した。調査区南西部においては、第１面遺物包含層である第ⅢD層掘削後、弥生時代後期から古墳時代中期にかけてとみられる自然流路群を確認した。また、第２面の遺構である縄文時代から弥生時代にかけての所産とみられる溝１条を確認した。

(1) 縄文時代の遺構

当該期の検出遺構は、ピット５個である。調査区北東部において、埋没低丘陵の裾部に形成された第２面遺物包含層の第ⅣE層掘削後検出されたものである。

Ｐ１（Fig.100）

平面楕円形、深さ33～35㎝を測る。埋土は黒褐色（5YR　3／1）粘質土で、オリーブ黒色（5Y　3／1）ブロックが入り、炭化物や木片などの有機物を多く含む。出土遺物は縄文土器19点であり、１点を図示した。（Fig.104）

Ｐ２（Fig.100・101）

平面不整楕円形。西側は３～10㎝と浅いが、東側は30～34㎝の落ち込みを有する。埋土は第Ⅰ層：オリーブ黒色（5Y　3／1）粘質土、第Ⅱ層：黄灰色（2.5Y　4／1）粘質土である。出土遺物は縄文土器２点であるが、図示できるものはない。

Ｐ３（Fig.100・101）

平面円形、深さ11～14㎝を測る。埋土は第Ⅰ層：炭化物を多く含む黒褐色（2.5Y　3／1）粘質土、第Ⅱ層：黒色（2.5Y　2／1）粘質土である。出土遺物は縄文土器４点であるが、図示できるものはない。

Ｐ４（Fig.100・101）

平面楕円形、深さ10～12㎝を測る。埋土は第Ⅰ層：黒色（10YR　2／1）粘質土、第Ⅱ層：褐灰色（10YR　4／1）粘質土である。出土遺物は皆無である。

Ｐ５（Fig.100）

平面円形、深さ２～４㎝を測る。埋土は炭化物を含むオリーブ黒色（5Y　3／1）粘質土である。出土遺物は皆無である。

(2) 縄文時代～弥生時代の遺構

当該期の検出遺構は、溝１条であり、調査区南西部で検出された自然流路群の調査中に確認されたものである。

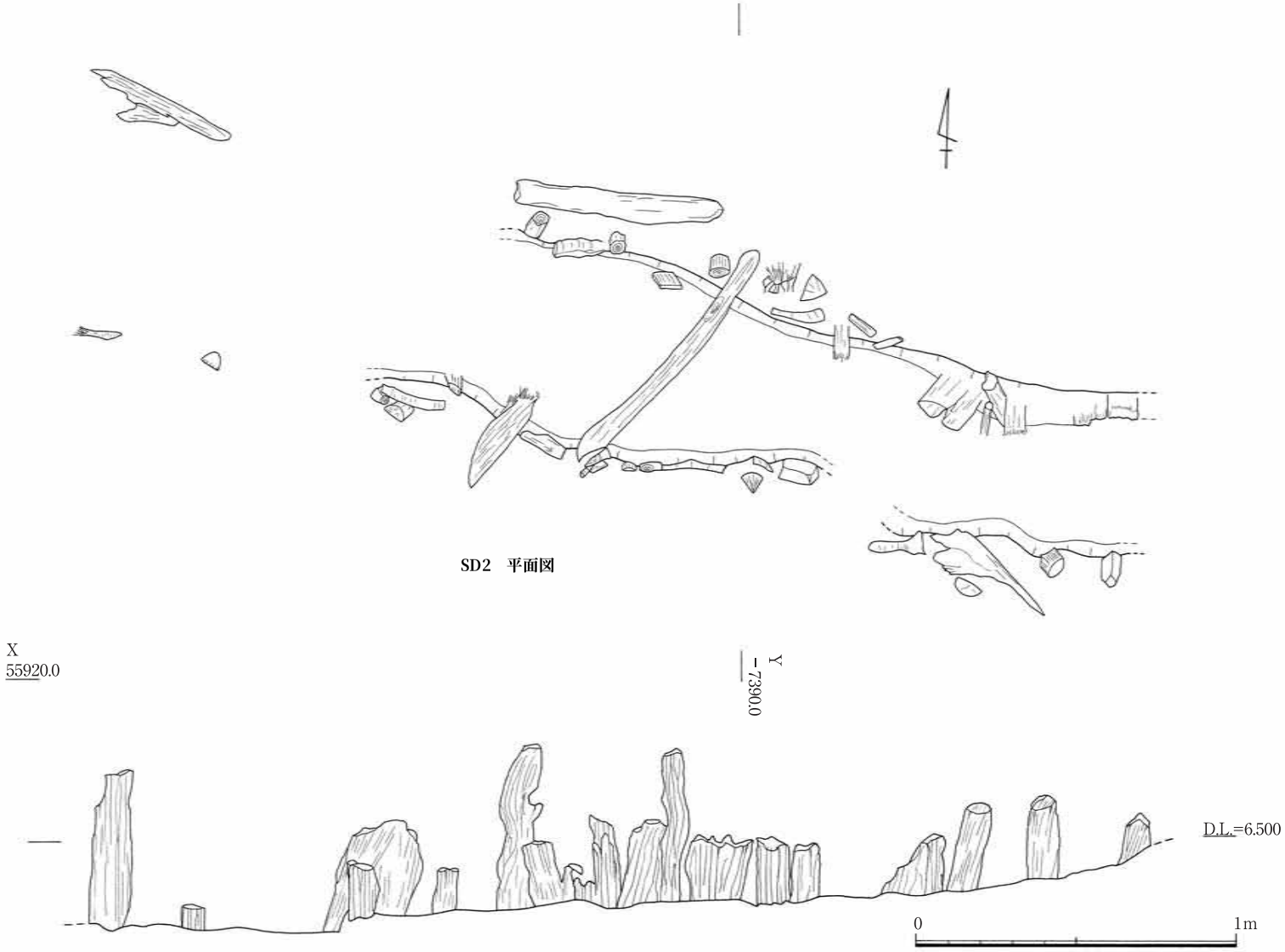


Fig.102　3B区SD2(杭列)平面図・立面図 (S:1/20)

SD 1（Fig.101・103）

検出面は、調査区北東部において検出された第ⅣD層に対応する。北から南に向けて直線的に調査区を横断し、２Ａ区のSD１に接続することから灌漑を目的とした人工的な溝とみられる。規模は幅60㎝、深さ約30㎝であり、埋土は含有物のない黄灰色（2.5Y　4／1）シルトである。出土遺物は皆無である。

(3) 弥生時代の遺構

当該期の検出遺構は、溝（杭列）１条である。調査区北東部において、埋没低丘陵の裾部に形成された第２面遺物包含層の掘削中に第ⅣC層において検出されたものである。

SD 2（杭列）（Fig.100・102）

延長３～3.5m、幅約0.9～1.3mを測り、深さは推定10～30㎝とみられる。丸杭・角杭・半截杭・矢板を使用し、北列は22本、南列は21本、東西にほぼ平行に２列で構成されており、列の中央部には１本の杭が横たわる。埋土は、木片・堅果類等が混入する褐灰色腐植土が主体とみられる。溝としての機能を果たしていたものとみられるが、全体は検出されず、断片的な検出・調査であることと、トレンチ及び東西壁においても断面は確認されなかったこと等から、全容は明確ではない。出土遺物は弥生土器22点であるが、何れも細片であるため図示できるものはない。弥生時代前期の所産とみられる。

(4) 弥生時代～古墳時代の遺構

当該期の検出遺構は、第７層・第８層・第15層（ⅢD層）掘削後検出された自然流路群である。この流路群は、性格不明の小ピットが点在する中州状地形部と、大小５条の切り合い関係にある自然流路から構成されており、このうちの３条の流路は南接する２Ａ区の自然流路に接続する。これらの自然流路からは、搬入土器や古式土師器を含む土器のほかに、木製品等も良好な状態で出土している。出土遺物や出土量等から、弥生時代後期末から古墳時代中期にかけて東南流していたものとみられ、主な機能時期は古墳時代としてとらえることができよう。

SR 1（Fig.97・103）

流路群西壁から東流する。SR２を切り、流路群東端から南流してSR３に合流後２Ａ区SR２に接続する。規模は延長25m、幅1.3～４m、深さ30～90㎝を測る。埋土は、炭化物・木片等を含む黒褐色（10YR　3／1）粘質土と、木片を少量含む灰色（7.5Y　5／1）粘質土が主体である。出土遺物は、弥生土器15点、土師器105点、須恵器12点、木製品９点であり、土師器７点、須恵器１点、木製品６点を図示した。（Fig.105・106）

SR 2（Fig.97・103）

流路群北西部西壁から直線的に南東流し、SR３を切った後２Ａ区SR４に接続する。規模は延長16m、幅２～2.5m、深さ25～67㎝を測る。埋土は、褐灰色（10YR　4／1）粘質土と黒褐色（10YR　3／2）粘質土が主体である。出土遺物は、弥生土器157点、土師器97点、木製品７点であり、弥生土器５点、土師器６点、木製品５点を図示した。（Fig.107・108）

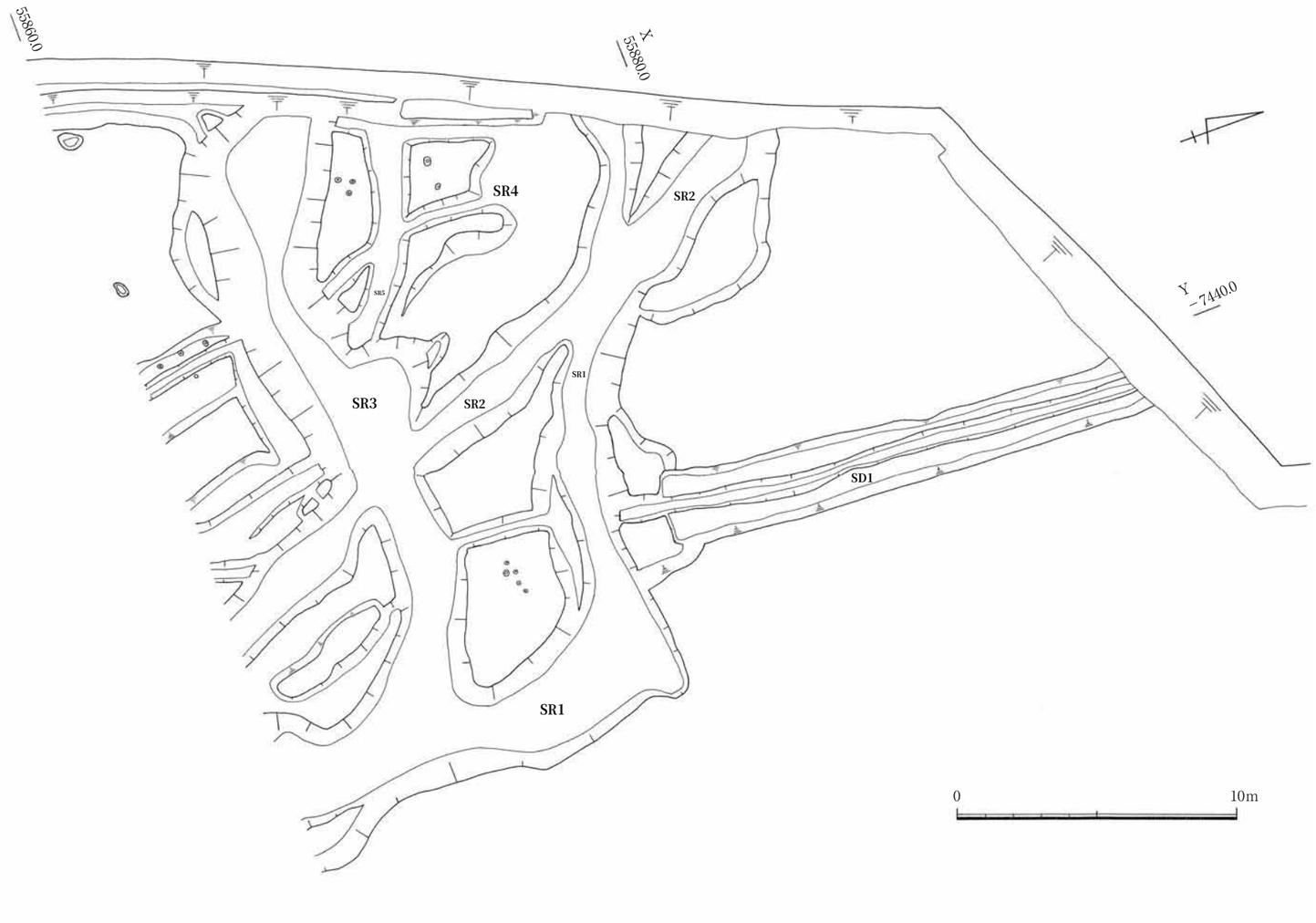


Fig.103　3B区遺構平面図2（S：1/200）

SR 3（Fig.97・103）

流路群西壁から、途中SR 2 に切られて流路群東端まで東流後、南流して 2 A区SR 2 に接続する。規模は延長25m、幅2.5～ 6 m、深さ0.4～ 1 mを測る。埋土は、炭化物・木片を含む黒褐色（7.5YR　3／2）粘質土と、炭化物・木片等を多く含む灰色（N　6／0）粘質土、木片を含む灰色（7.5Y　4／1）粘質土が主体である。出土遺物は、混入の縄文土器 4 点、弥生土器19点、搬入土器を含む土師器52点、木製品 4 点であり、縄文土器 2 点、弥生土器 2 点、土師器 2 点、木製品 3 点を図示した。（Fig.108・109・110）

SR 4（Fig.97・103）

流路群西方部、中州状地形部において検出されたもので、SR 5 と「X」字状に切り合う。南流してSR 3 に注ぎ、 2 A区SD 2 に接続する。規模は延長6.5m、幅70～90㎝、深さ10～22㎝を測る。埋土は灰色（5Y　4／1）粘質土である。出土遺物は弥生土器16点、土師器23点であり、土師器 3 点を図示した。（Fig.111）

SR 5（Fig.97・103）

流路群西方部、中州状地形部において検出されたもので、SR 4 と「X」字状に切り合う。南東流してSR 3 に注ぎ、 2 A区SR 4 － 1 に接続するものとみられる。規模は延長7.5m、幅1.1～1.5m、深さ10～14㎝を測る。埋土は灰色（5Y　4／1）粘質土である。出土遺物は皆無である。

5．遺物

遺物は、第 2 面及び第 1 面で確認された各遺構と、第Ⅳ E層・Ⅳ D層・Ⅳ C層・Ⅳ B層・Ⅳ A層・Ⅲ E層・Ⅲ D層・Ⅲ B層・Ⅲ A層の各層から出土した。

(1) 遺構出土遺物

①P 1 出土遺物（Fig.104）

1 は縄文土器・深鉢口縁部である。口唇外端部に刻目を施し、外面に条痕調整を施す。

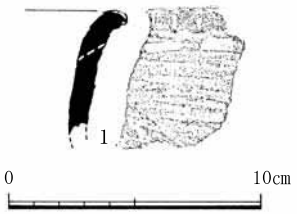


Fig.104　3B区P 1 出土遺物（土器）

②SR 1 出土遺物（Fig.105・106）

2 ～ 8 は土師器である。 2 ～ 4 は土師器・甕であり、 2 ・ 4 は古式土師器である。 5 は手捏ね土器である。 6 ・ 7 は高杯である。 8 は壺である。 9 は須恵器・壺であり、胴部外面には細かい櫛目状原体によるカキ目調整を施す。10～15は木製品である。10は舟形であり、表面に刳り抜き加工の痕跡が残る。11は棒材であり、片面に加工痕が残る。12は板材である。 2 箇所に方形の切り欠きが入るが、用途不明である。13・14は枠型田下駄の枠材であり、側辺隆起部に方形孔を有する。15は竪杵であり、握部を極端に細める。

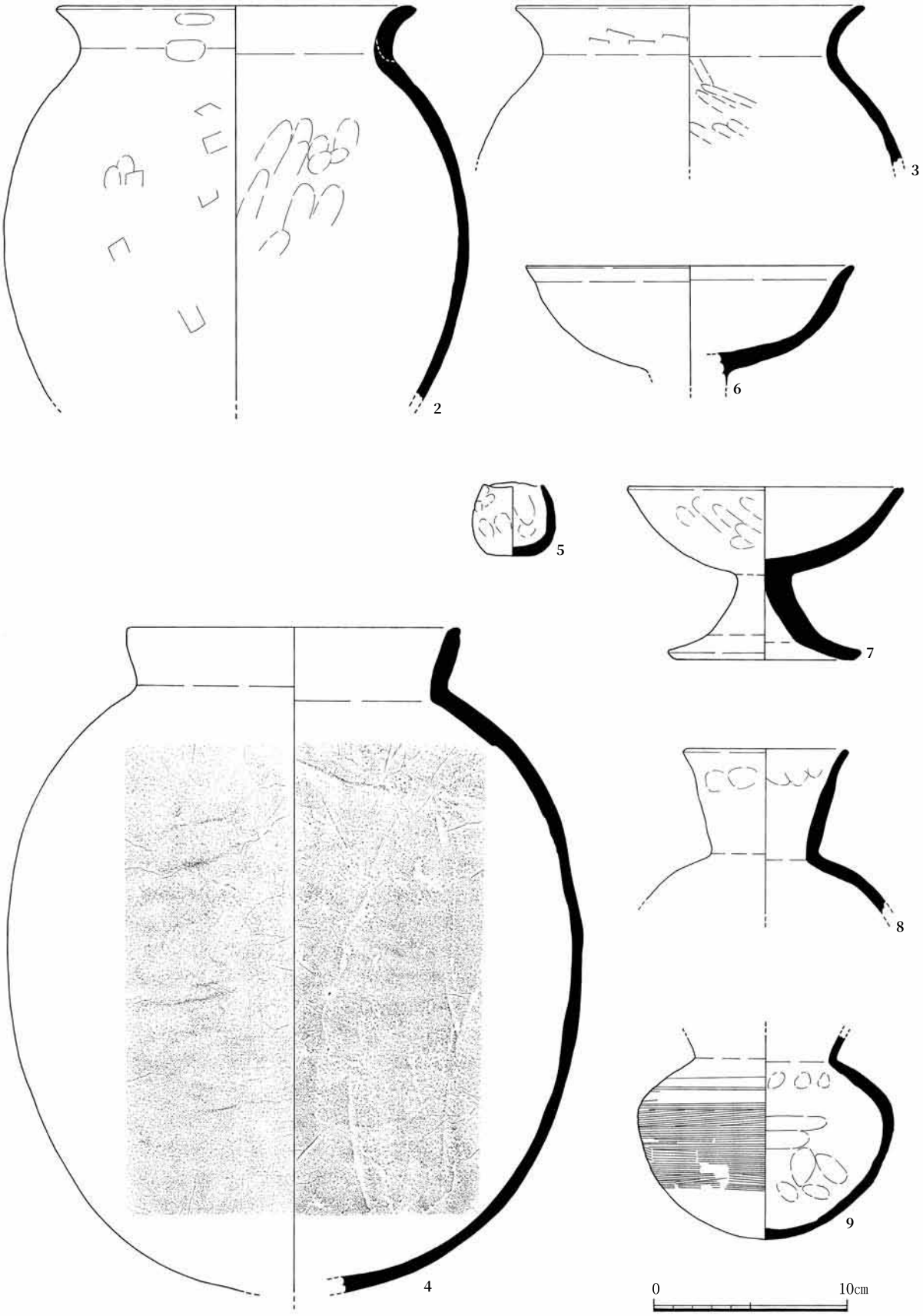


Fig.105　3B区SR1出土遺物 (土器)

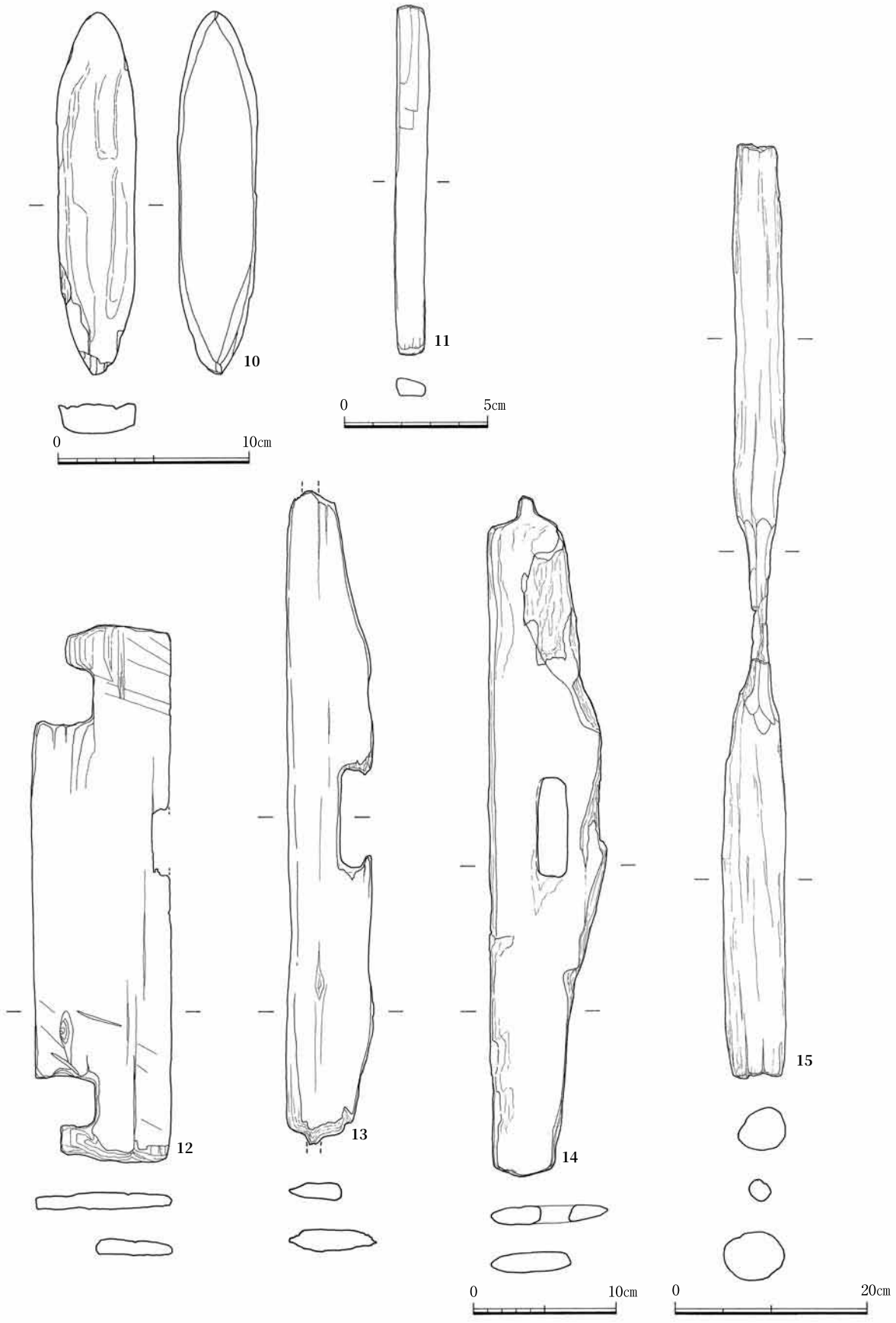


Fig.106　3B区SR１出土遺物（木製品）

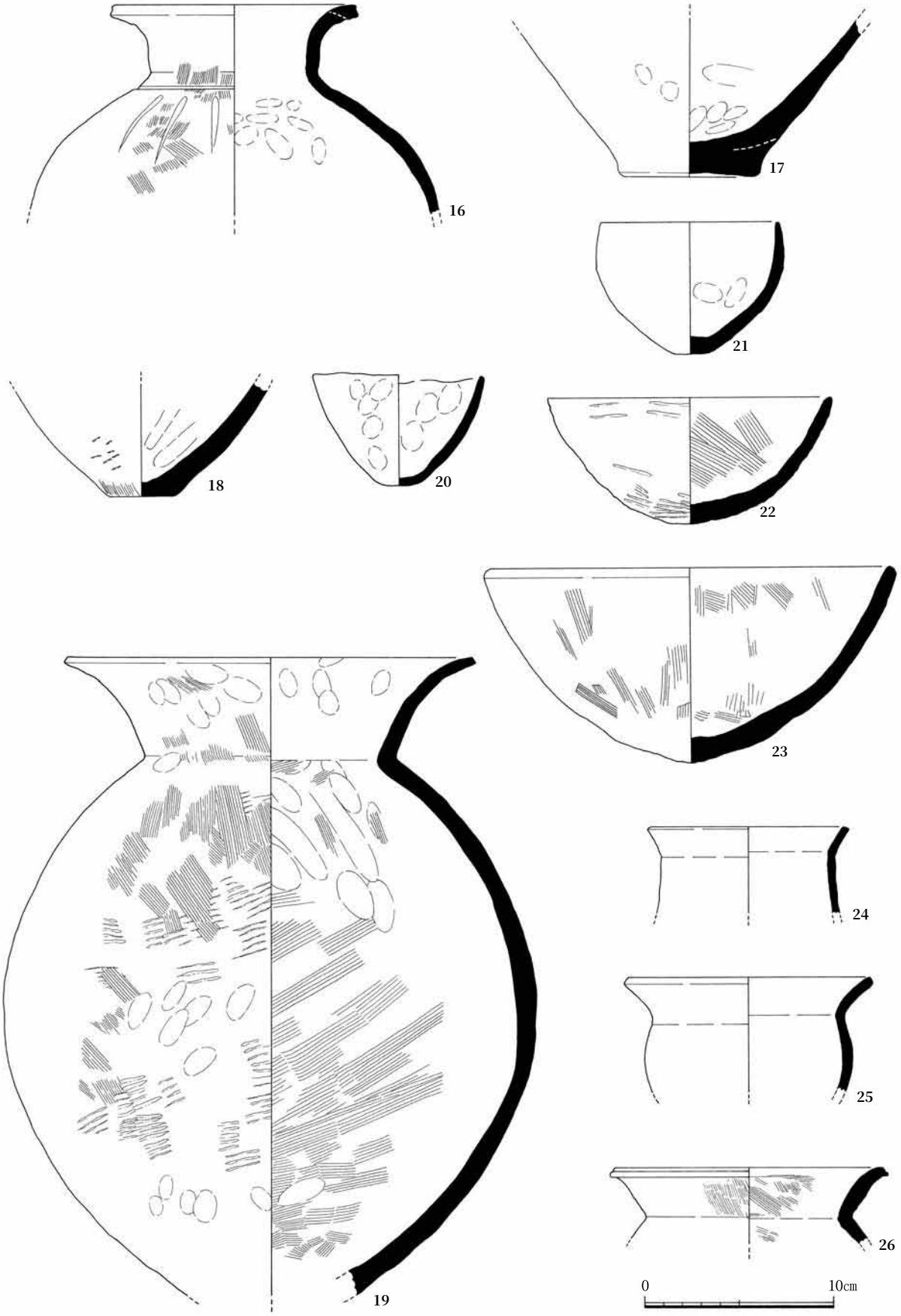


Fig.107　3B区SR２出土遺物（土器）

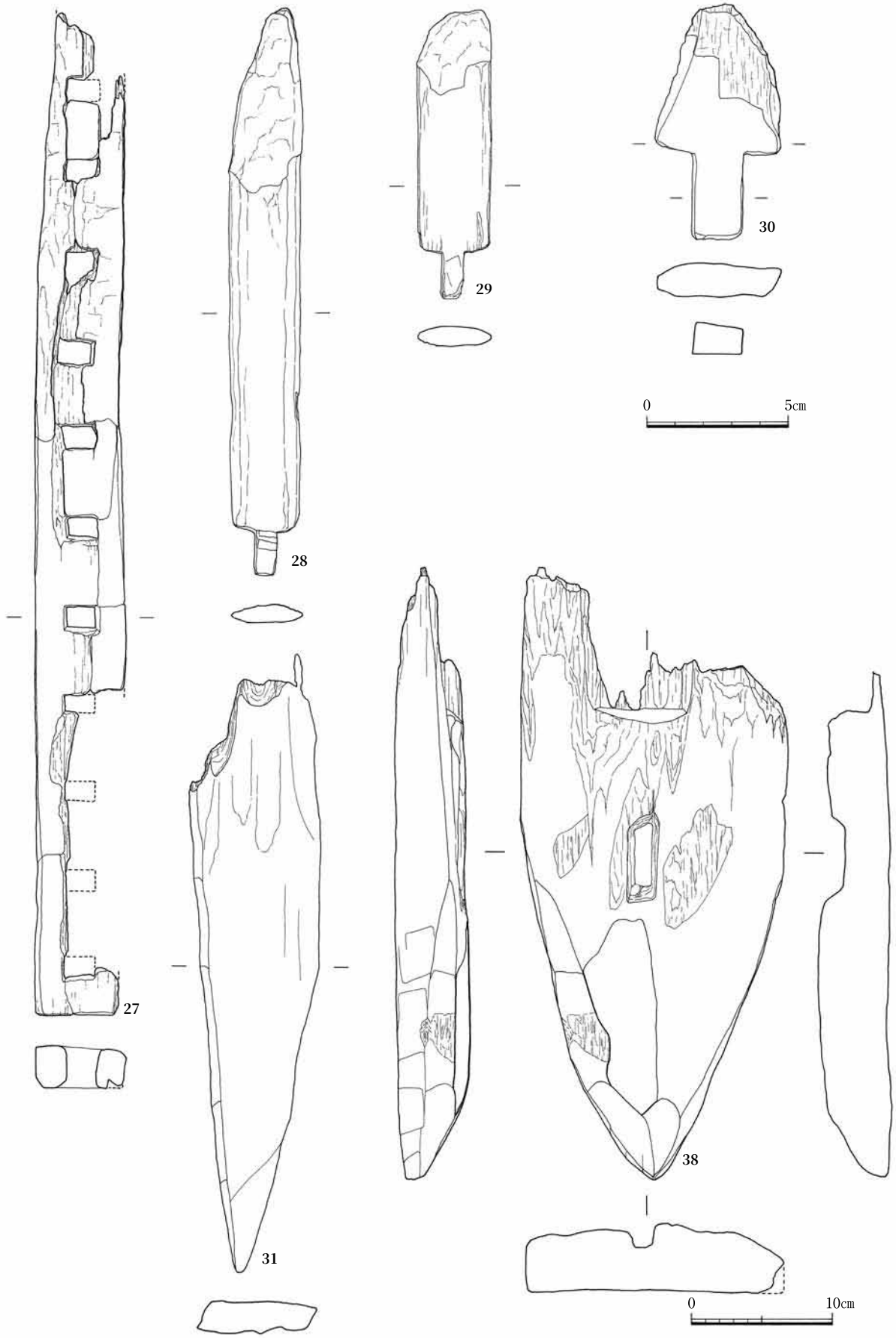


Fig.108　3B区SR2・SR３出土遺物（木製品）

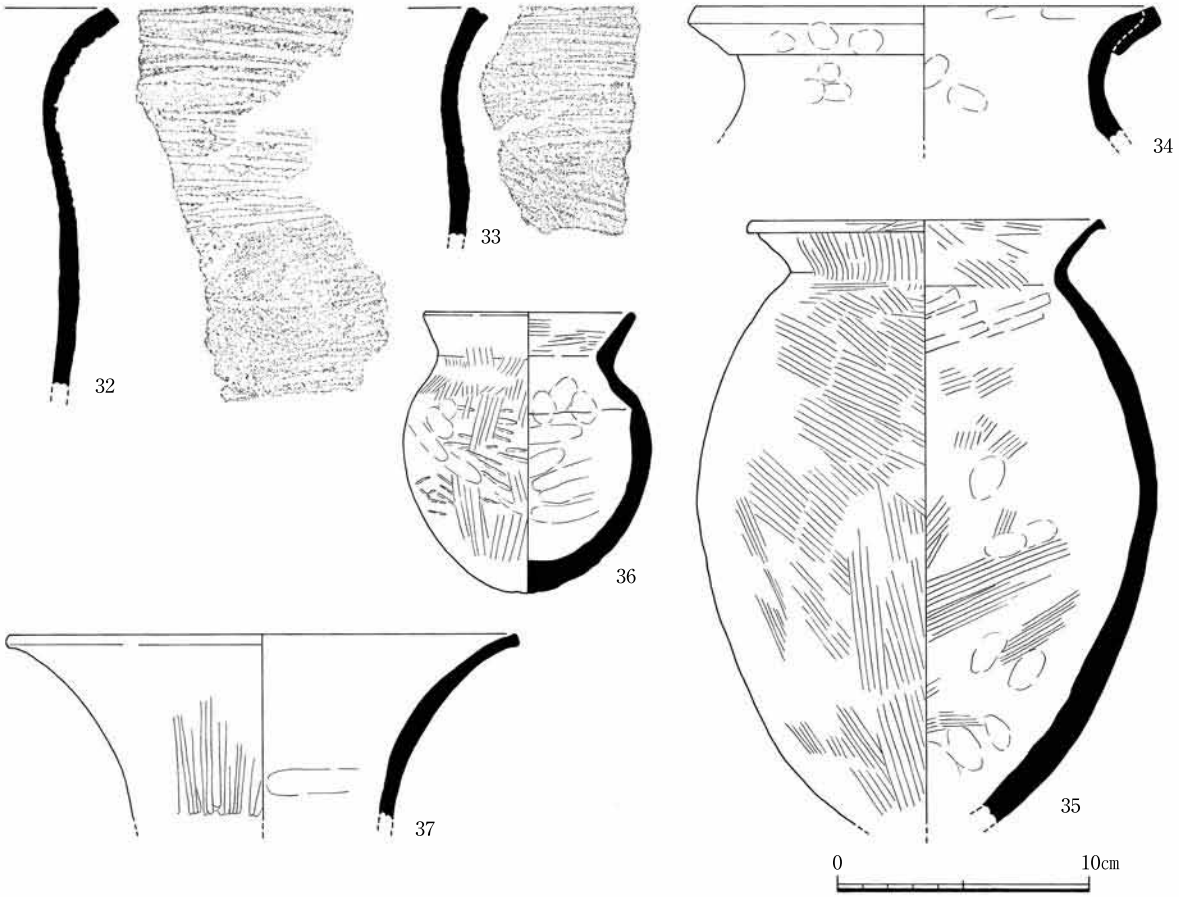


Fig.109　3B区SR 3 出土遺物（土器）

③SR 2 出土遺物（Fig.107・108）

16・17は弥生土器・壺である。18・19は弥生土器・甕である。20は弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけてのものとみられる鉢である。21～23は古墳時代前期の鉢である。24～26は土師器・甕である。27は枠型田下駄の枠材であり、ほぞ孔 6 孔が残存する。28・29は枠型田下駄の枠材とみられるものであるが、焼失部が多い。30は突起部を有するが、部分的に炭化する。31は杭であり、両側辺から削り込み先端部とする。

④SR 3 出土遺物（Fig.108・109・110）

32・33は縄文土器・深鉢であり、外面に条痕調整を施す。34・35は弥生土器である。34は壺であり、口縁部に粘土帯を貼り付け、肥厚させる。35は甕であり、口唇部は強くナデ過ぎたため、下垂する。36は土師器・小型甕であり、内面に焦げ付き状態の炭化物が付着する。37は土師器・壺であり、搬入の布留式である。38～40は木製品である。38は舟形を呈するが、用途は不明である。39は枠型田下駄の枠材とみられ、約 3 ㎝間隔のほぞ孔 8 孔が残存する。40は舟である。原木を縦に分割後刳り抜いたものとみられる。荒く断ち切られて、表面が平滑に仕上げられた舳先部と、右舷の一部が残存し、右舷縁部分は丁寧に仕上げる。

Fig.110　3B区SR3出土遺物（木製品）

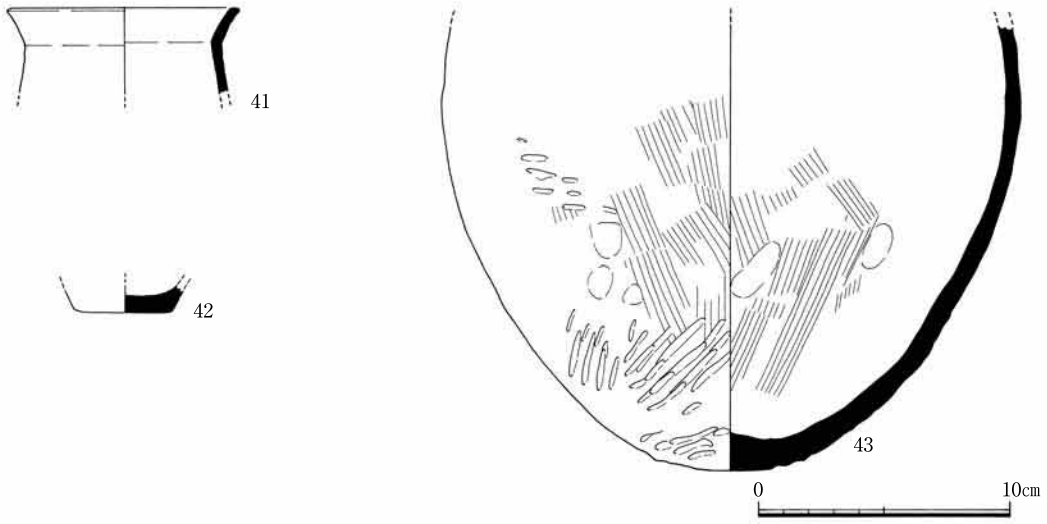


Fig.111　3B区SR 4 出土遺物（土器）

⑤SR 4 出土遺物（Fig.111）

41～43は土師器・甕である。41・42は内外面ナデ調整を施し、外面には煤が付着する。43は内面に荒い原体のハケ調整、外面にハケ後タタキ成形を施す。

(2) 包含層他出土遺物

①土器

ⅣE層出土土器（Fig.112）

44は縄文土器・深鉢である。口唇部に刻目を施し、外面は条痕調整を施す。

ⅣD層出土土器（Fig.112・113）

45～93は縄文土器である。45は壺口縁か。46は鉢であり、外面に 3 条の沈線を施す。47は粗製の浅鉢である。48～55は黒色磨研の浅鉢であり、52は内面に赤彩を施し、54は外面に赤漆を塗布する。56～92は深鉢である。56～62は口縁外面に刻目突帯を持つものであり、57は突帯直下に 2 孔穿つ。63は口縁外面に円形刺突文を施す。64は口縁外面に 2 条単位の山形文を描く。65は波状口縁の口唇外端部に貝殻圧痕文を施し、内面に 1 条、外面に 2 条の沈線を描く。66・67は口唇外端部に刺突状刻目を施す。68～74は口唇部に刻目を施す。75・76は口唇内端部に刻目を施す。77～81は口唇外端部に刻目を施す。82～84は口縁端部内面に 1 条の沈線を施す。85は口縁端部外面に 1 条の沈線を施す。87・88は内外面ナデ調整である。89は内外面に赤彩を施す。90は胴部外面に刻目突帯 1 条を持ち、突帯以上には縦位の 4 条単位の沈線を施す。91・92は深鉢である。93は高杯脚部とみられる。94は弥生土器・壺であり、外面に重弧文 3 条を描く。

IVC層出土土器（Fig.113～118）

96～182は縄文土器である。96は鉢であり、口唇部に刻目を施す。97は粗製の浅鉢である。98～110は黒色磨研の浅鉢である。111・112は粗製の浅鉢である。113～182は深鉢であり、113～140は口縁外面に刻目突帯を持つ。113は山形波状口縁を呈し、140は口縁と胴部の突帯間に縦位の4本単位の沈線を施す。141～145は無刻みであり、外面は条痕調整を施す。146～154は口唇部に刻目を施し、外面は条痕調整を施す。155～173は口唇部に刻目を施す。174は無刻みの突帯を持つ。175は内外面に1条の沈線を施す。176は口縁端部をやや肥厚させる。177は口縁外面に突帯を持ち、端部内面に1条の沈線を施す。179は内外面に赤彩を施す。180～182は底部であり、182は内面に焦げ付き状態の炭化物が付着する。183～237は弥生前期土器である。183・184は鉢であり、185～193は壺である。185は口縁内面に横位の3条ヘラ描沈線を施し、頸部外面には4条単位のヘラ描斜沈線を描く。187は頸部外面の三角突帯に刻目を施す。188は胴部外面に斜位沈線6条を描く。189は胴部外面に2条単位の山形文を描く。190は胴部外面に3条の沈線を巡らせる。191は胴部外面に3条沈線を施す。192は胴部外面の横位の6条単位沈線間に6条単位の山形文を描く。193は胴部外面に刻目突帯を持ち、突帯下位には斜位の多条沈線を施す。194～227は甕である。194は口縁端部外面に刻目を施す。195は口唇外端部に刻目を施し、胴部外面は段部を持つ2重沈線を施す。196は口唇部に刻目を施す。197は口唇外端部に刻目を施し、頸部直下の2条沈線間に列点文を施す。198は口唇部に刻目を施し、頸部直下に2条沈線を施す。199は口唇に刻目を施し、頸部直下の3条沈線間に列点文を施す。200は口唇部に刻目を施し、頸部外面直下に2条のヘラ描沈線を施す。201～210は口唇部に刻目を施す。211は内外面に赤彩を施す。212～214は口唇部に刻目、外面に2条のヘラ描沈線を施す。外面は赤彩を施す。215は胴部外面に2条沈線を施す。216は口縁端部内面に1条沈線を施す。217は口縁外面に1条のヘラ描沈線を施す。219は口縁外面に粘土帯を貼付する。220は外面に指頭圧痕が残る。225は胴部外面に重弧文3条を描く。226は胴部外面の重弧文3条の下に横位の1条沈線を描き、斜沈線を交わす。227は胴部外面に1条沈線を描き、その上下段に楕円形刺突列を施す。228～237は底部である。228～242は弥生中期土器である。238は透入り壺脚部とみられる。239～241は甕である。239は口縁端部に粘土帯を貼付し、口唇部は面を成す。240は口唇部に2条沈線を巡らせる。241は胴部外面に連続浮文・連続刻目を施す。242は高杯口縁部であり、外面に凹線文を施す。243は弥生後期甕である。胴部外面の櫛描直線文の下に列点文を施す。244は高杯とみられ、接合部には断面三角形の突帯が付く。

IVB層出土土器（Fig.121）

256～268は縄文土器である。256～259は黒色磨研の浅鉢であり、260～268は深鉢である。260は口唇部に刻目を施し、外面に突帯を持つ。261は口唇部に刻目を施し、尖頭状工具による円孔を内外面から穿つ。262～264は口唇部に刻目を施す。269～280は弥生前期土器である。269は波状口縁を持つ鉢とみられる。270・271は壺である。270は外面に2条沈線を

施し、271は胴部外面に木葉文を描く。272は甕であり、口唇部に刻目を施す。275は甕であり、口唇部に刻目を施し、頸部直下に2条沈線を施す。276～280は壺・甕の底部であり、276は内面に焦げ付き状態の炭化物が付着する。

ⅣA層出土土器(Fig.122)

281～284は縄文土器である。281は浅鉢であり、282～284は深鉢である。285～291は弥生土器であり、285～288は前期土器である。289は中期の器台であり、脚端部外面に凹線文、裾部外面には竹管状文及びヘラ描沈線を施す。292～295は土師器である。292～294は甕であり、295は壺である。296は須恵器杯である。297は土製品の模造鏡である。298・299は古代の土師器皿である。

ⅢE層出土土器(Fig.124)

307は弥生前期土器甕である。308～310は土師器高杯である。

ⅢD層出土土器(Fig.124)

312～316は土師器である。312～314は甕であり、315・316は高杯である。317は須恵器蓋である。

ⅢB層出土土器(Fig.125・126)

321～325は土師器甕である。326～330は須恵器である。328は327で蓋をされた状態での出土である。329・330は古代の焼成不良の須恵器である。329は杯であり、330は皿である。331は土師質土器杯である。

②石器

ⅣD層出土石器(Fig.119)

95は砂岩製石皿である。

ⅣC層出土石器(Fig.119・120)

245は結晶片岩製磨製石斧である。246は砂岩製叩石である。247～249は両刃磨製石斧であり、247・249は蛇紋岩製、248は砂岩製である。250は頁岩製磨製石鏃である。251はサヌカイト製打製石鏃である。252～254は叩石であり、252・254は花崗岩製、253は石英安山岩製である。

ⅣA層出土石器(Fig.123)

300は結晶片岩製打製石斧である。301は結晶片岩製両刃磨製石斧である。

302・304は花崗岩製磨石である。303は花崗岩製叩石である。

ⅢE層出土石器(Fig.127)

311は凝灰質頁岩製石包丁である。

ⅢB層出土石器(Fig.127)

332は結晶片岩製磨製石斧である。333・334は砂岩製叩石である。

ⅢA層出土石器(Fig.127)

384・385は叩石である。384は花崗岩製、385は砂岩製である。

Fig.112　3B区ⅣE層・ⅣD層出土遺物（土器）

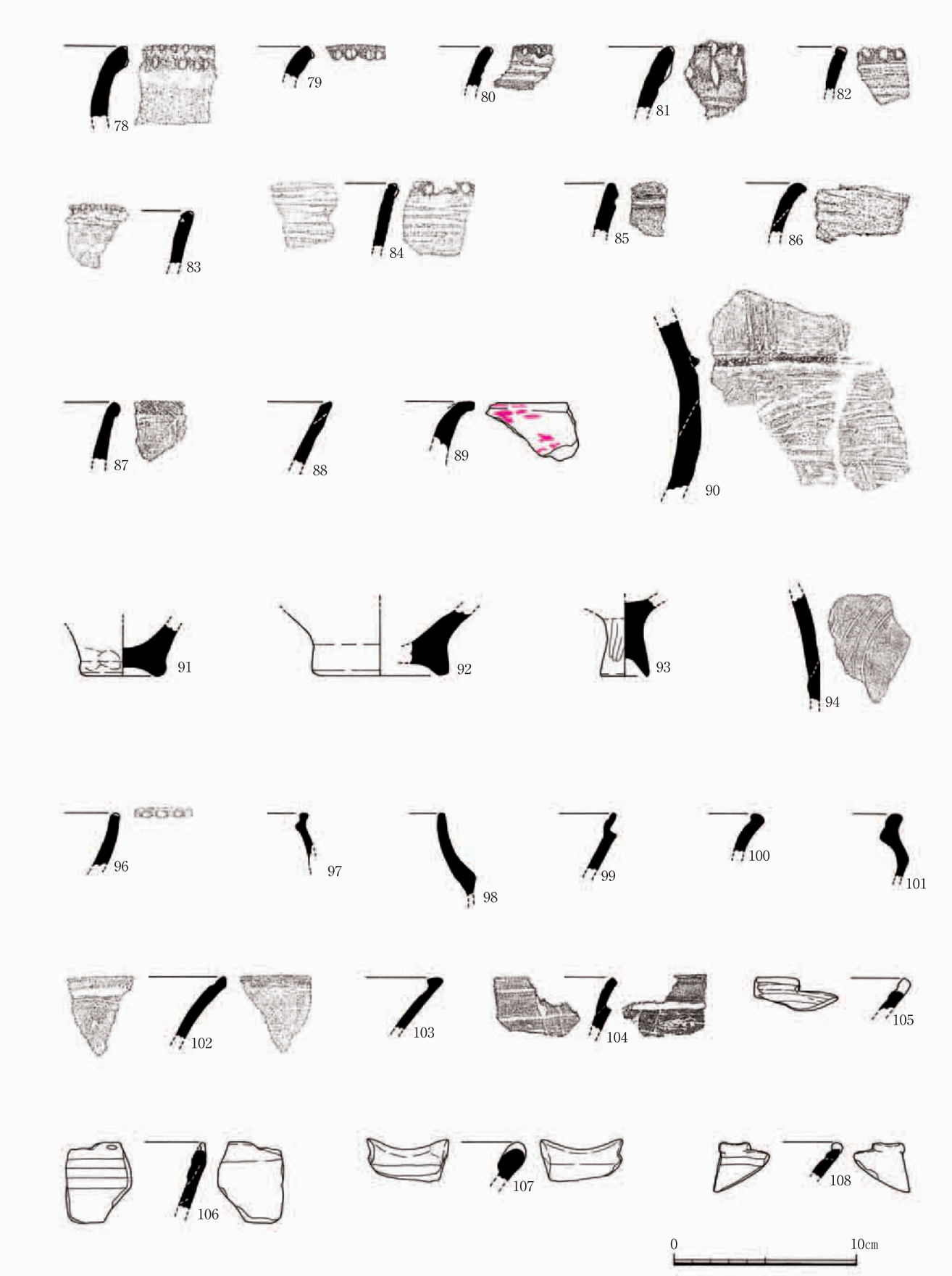


Fig.113　3B区ⅣD層・ⅣC層出土遺物（土器）

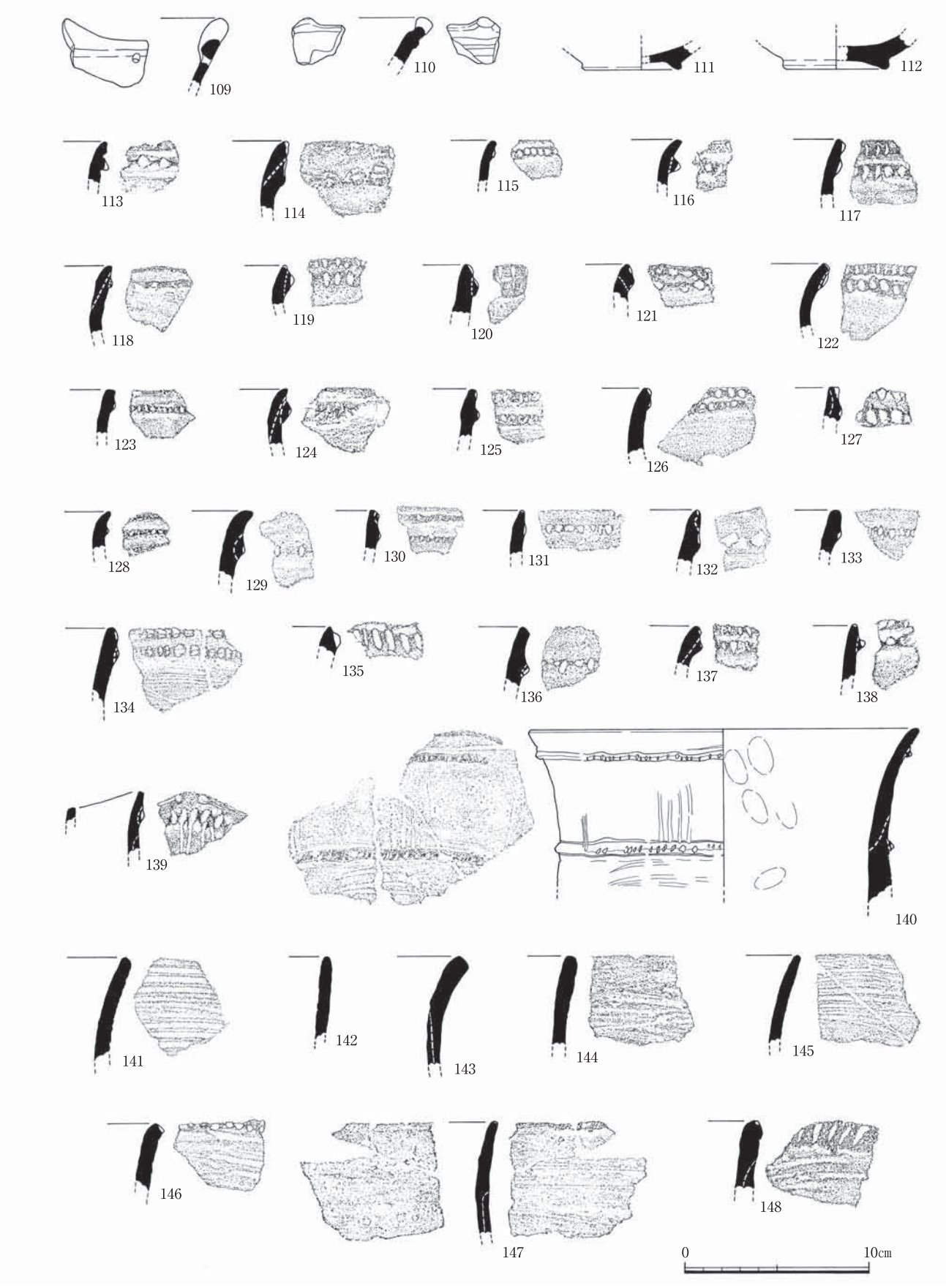


Fig.114　3B区Ⅳ C層出土遺物（土器）

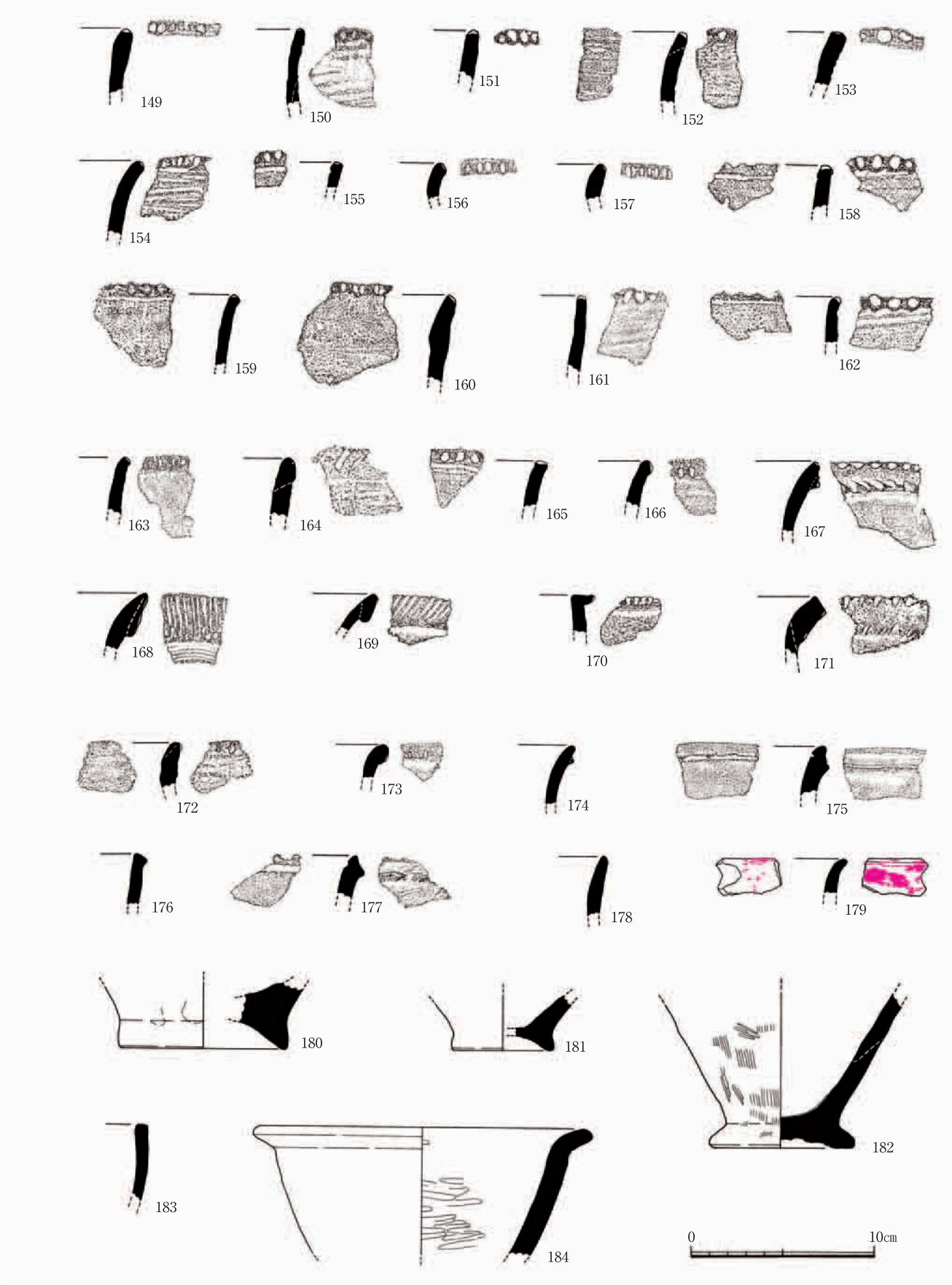


Fig.115　3B区Ⅳ C層出土遺物（土器）

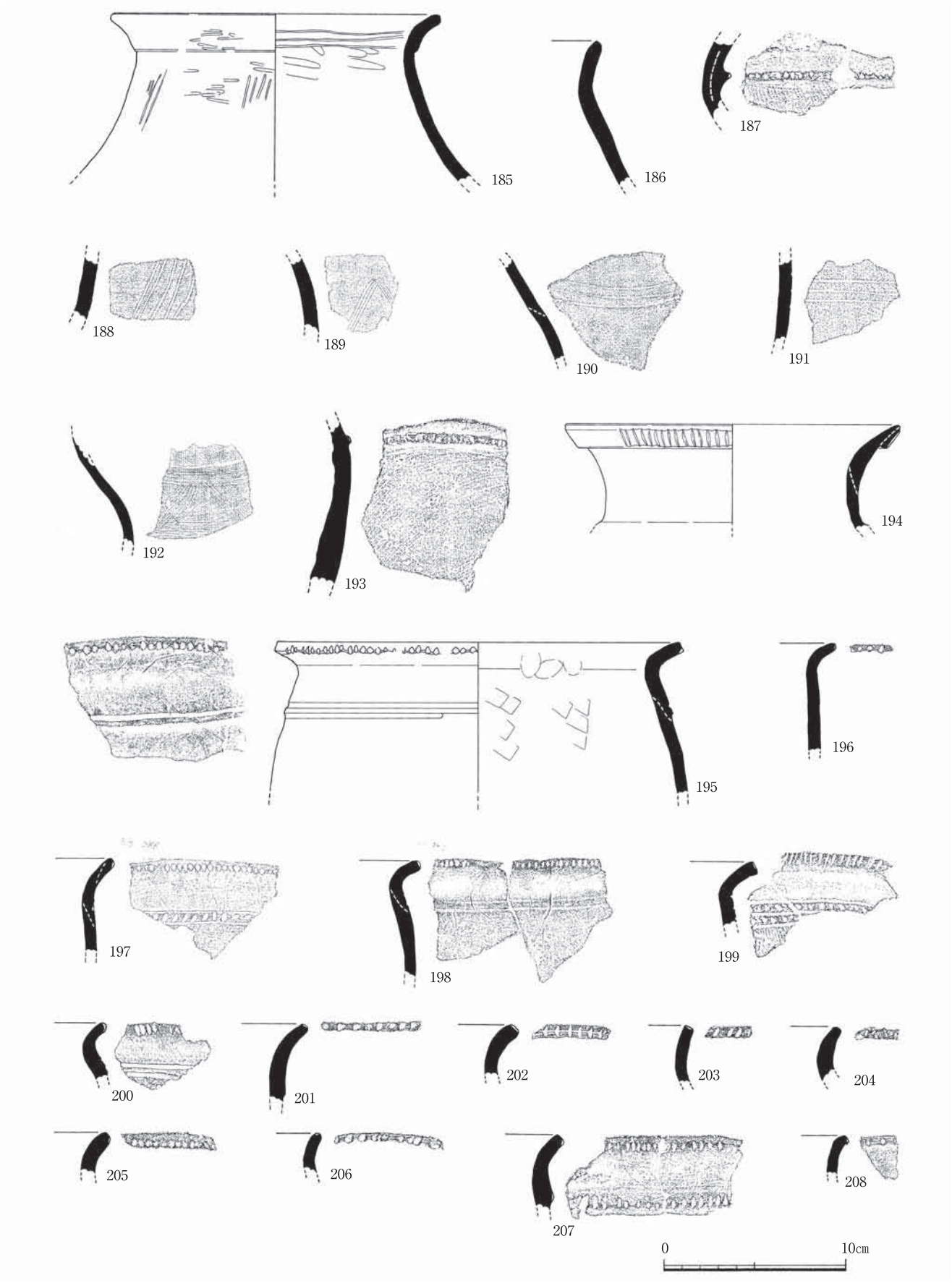


Fig.116　3B区Ⅳ C層出土遺物（土器）

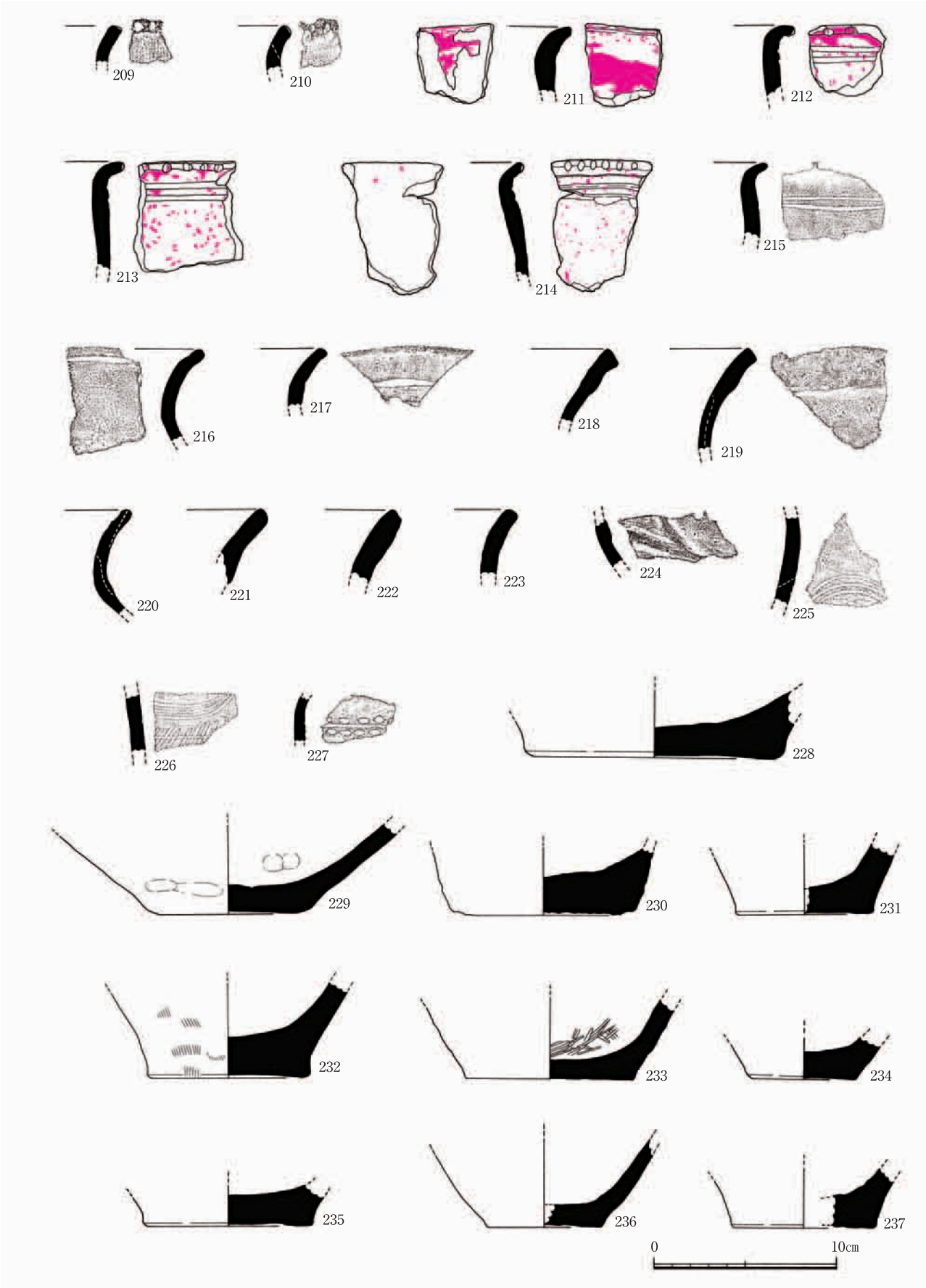


Fig.117　3B区Ⅳ C層出土遺物（土器）

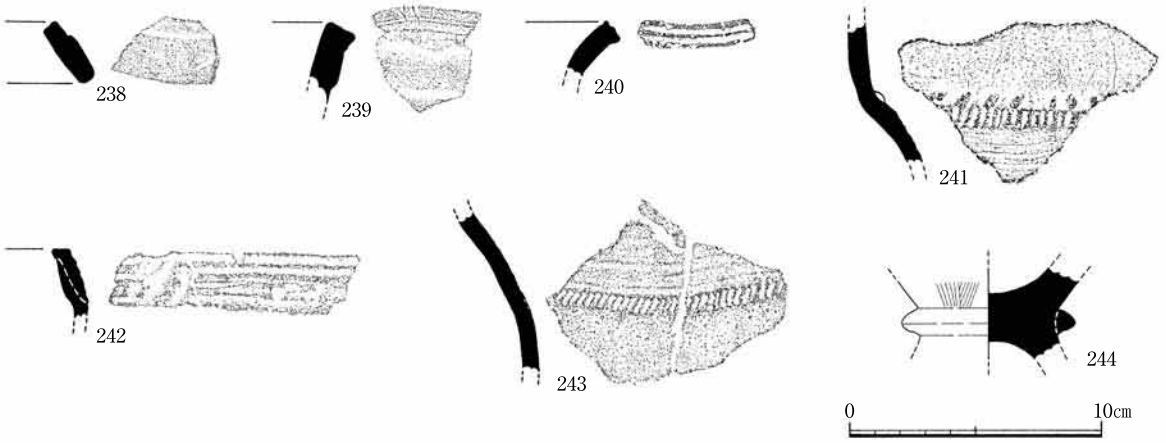


Fig.118　3B区ⅣC層出土遺物（土器）

③木製品

ⅣC層出土木製品（Fig.128）

255は鍬であり、柄孔隆起部である。紡錘形の隆起部に楕円孔を穿つ。

ⅣA層出土木製品（Fig.128）

305は曲物である。周縁部には段部を巡らせ、結合孔２箇所に緊縛状態の樹皮が残存する。306は舟形を呈する。磨滅・欠損のため残存状態は良好ではないが、田下駄足板の未製品か。

ⅢD層出土木製品（Fig.129）

318・319は田下駄足板である。318は両端部両側端から三角形の切り欠きを入れ、５孔が残存する。319は両端隅部を切り取り、舟形状に加工する。緒孔・紐孔計７孔を穿つ。320は切り欠きを有する板材である。両端部側辺に「V」字状の切り欠きを入れ、他側辺にも同様の痕跡が残る。田下駄関連の部材か。

ⅢB層出土木製品（Fig.129～142）

335～338は端部両側辺に切り欠きを有する板材であり、祭祀に関連するものか。335は上方側端部に２箇所ずつの切り欠きを有する。336・337は端部両側端に切り欠きを有する。338は両側辺に切り欠きを有し、端部を圭頭状に加工したものである。339～341は斎串状品であり、薄板の一方を両側面から削り尖らせる。342～347は棒状品である。342は多面体で、両端近くに相がきつぎの片かきを「コ」字状に切り込む。343・345は断面四面体・五面体であり、両端近くに紐かけ部を削り出す。344は断面多面体で先端部を削り尖らせる。346は多面体で、端部に向けて徐々に削り細め、先端部は丸みを帯びる。一方の端部は欠損する。347は断面楕円形で、一端を削り細め、方形の差込み状に加工し、他端は丸味を帯びる。348は裾広がりの厚手の板材であり、端部にはほぞ状の突起が付く。349は用途不明の板材である。両面・周縁部とも丁寧に加工する。350は曲物であり、周縁部に浅

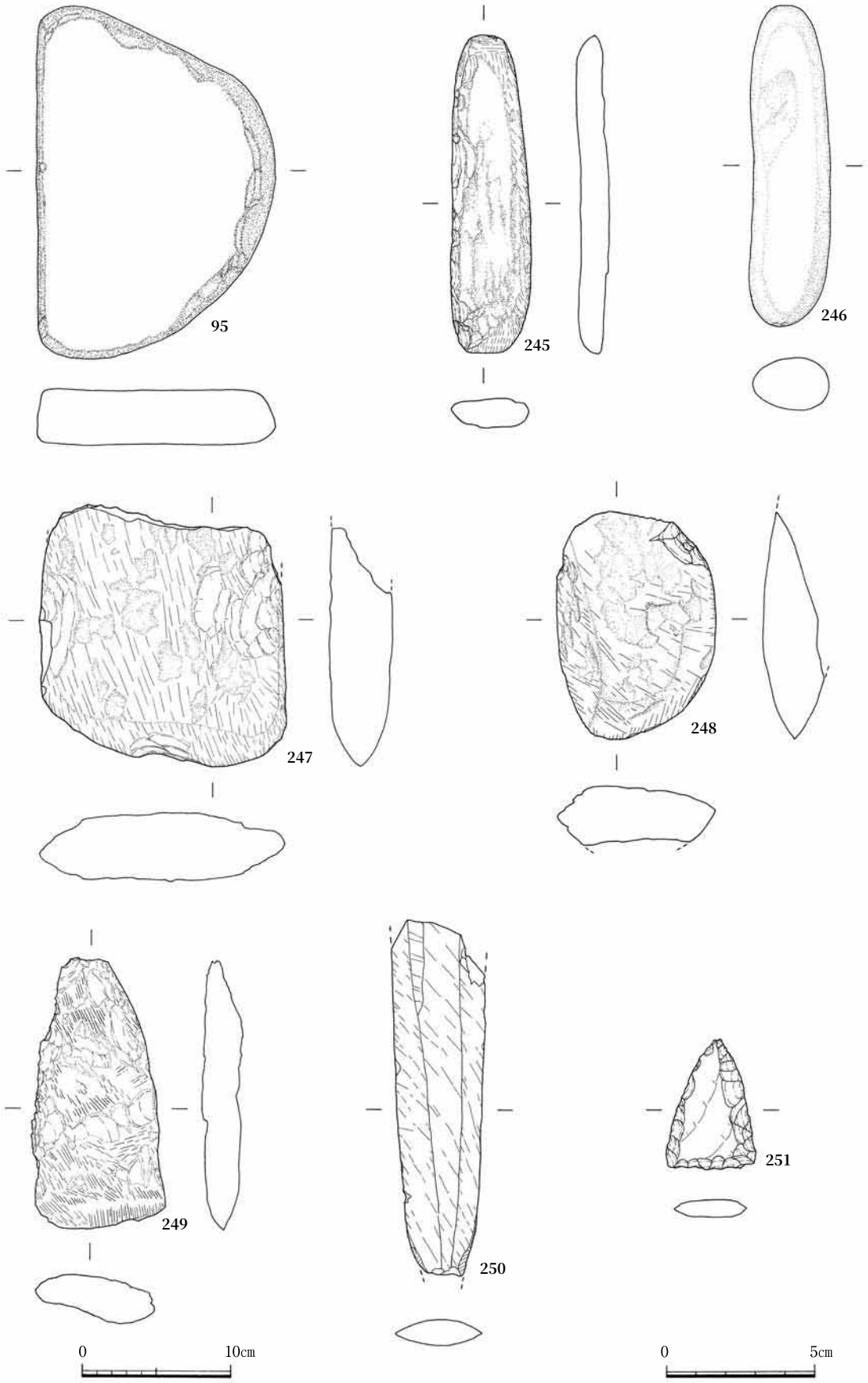


Fig.119　IVD層・IVC層出土遺物 (石器)

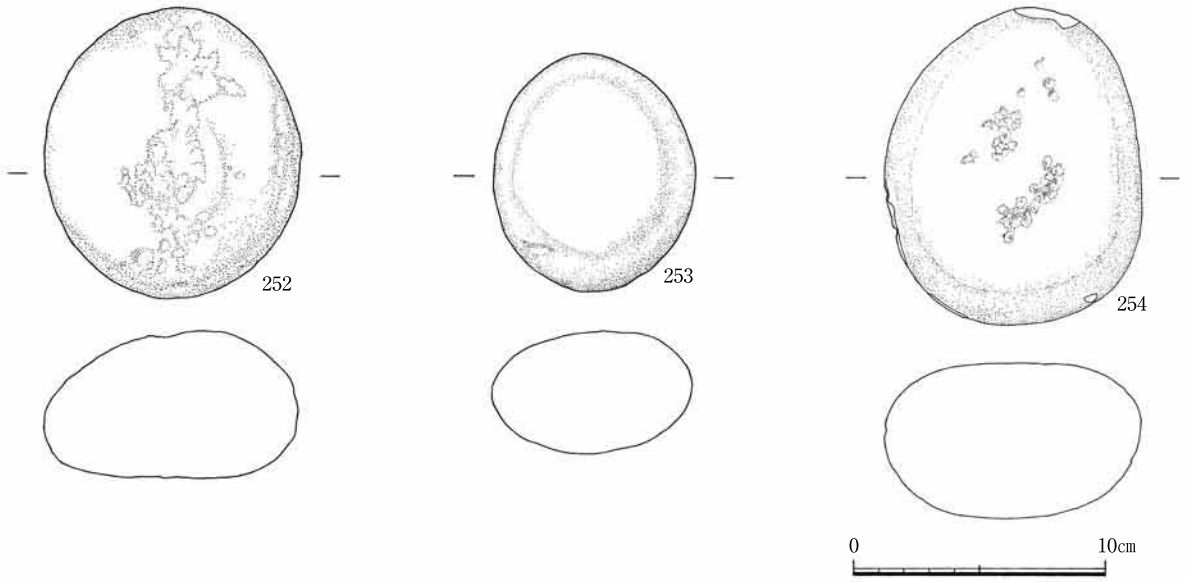


Fig.120　3B区Ⅳ C層出土遺物（石器）

溝を巡らせる。結合孔３孔が残存し、１孔には樹皮が残存する。351・352は用途不明の板材である。351は側辺の隆起部分に「コ」字状の切り欠きが入る。352は両端部に突起部を持つ。353～366は田下駄足板若くは田下駄を構成するものとみられる部材である。353・354は輪樏型とみられる。353は方形を呈する。前後共用とみられ、緒孔・紐孔計14孔を穿つが、うち５孔は未貫通孔である。上端右孔と下端中央の貫通孔にはダボを埋め込む。354は一方の両端隅部を切り取り、緒孔・紐孔計11孔が残存する。緒孔前壷を正中線より右にずらせて穿孔していることから左足用とみられる。355は舟形を呈する。先端部に切り込みを入れ、紐かけ部を作り出す。５孔が残存する。356は箱型の未製品とみられ、正中線に沿って折損する。両端隅部は丸みを持つ。両端近くの両側端に切り欠きを入れ、緒孔２孔を穿つ。357～359は輪樏型とみられる。357は方形を呈し、一方の両端隅部は丸みを持つ。他方は欠損する。輪樏型とみられ、緒孔・紐孔計５孔が残存する。358・359は対を成すものとみられ、紐孔外側には横桟のものとみられる緊縛痕が明瞭に残る。緒孔・紐孔計８孔が残存する。360は箱型とみられ、一方の両端隅部を切り取り、舟形状に加工する。緒孔３孔を穿つが、後壷で折損する。361は輪樏型の未製品とみられ、一方の端部は丸みを持つ。紐孔５孔を穿ち、正中線に沿って折損する。362・363は舟形を呈する。先端部近くに両側端から切り込みを入れ、下方部は欠損する。362は緒孔１孔を穿ち、正中線より折損する。364～366は田下駄を構成する部材とみられる。両端部近くの幅を徐々に減じ、364は切り欠き状に、365・366は突起状に加工する。367は正中線沿いに４孔残存するが用途不明である。368～378は田下駄足板と、田下駄を構成する部材及びそれらの破損品とみられる。368・369は輪樏型とみられる。368は両端隅部を切り取り、正中線より欠損する。３孔が残存する。369は一方隅部に丸みを持つ。正中線より欠損し、緒孔・紐孔計３孔が

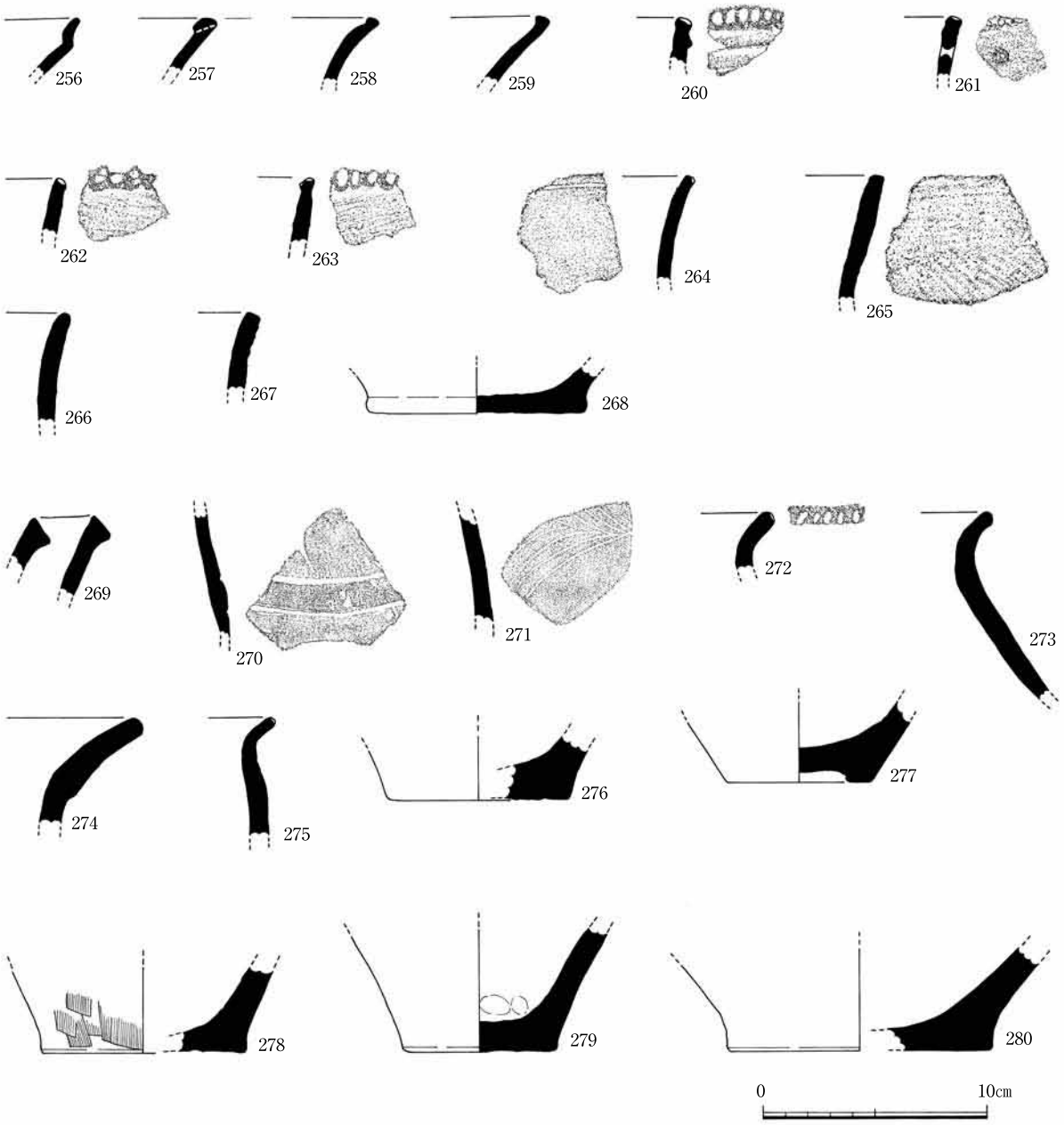


Fig.121　3B区ⅣB層出土遺物（土器）

残存する。370は両端部が欠損し、緒孔・紐孔計５孔が残存する。371は隅部を切り落とし、正中線より欠損する。緒孔２孔が破損して残存する。372は端部に丸みを持ち、方孔２孔が残存する。３孔めの方孔より欠損する。４孔めは未貫通である。373は曲材を加工するが、両端部は欠損する。緒孔・紐孔計６孔が残存し、７孔めは破損する。374の端部は丸みを持つ。円孔１孔と、方孔２孔が残存し、他の部分は欠損する。375は一方の端部及び側辺部は欠損する。緒孔・紐孔計５孔が残存し、６孔めは破損する。376は輪樏型の折損材を転用したものか。丸みを持つ両端部の片面は削り薄め、調整痕が顕著に残る。４孔が残存する。377は一方の端部隅を切り取り、他端は欠損する。正中線より欠損し、３孔が

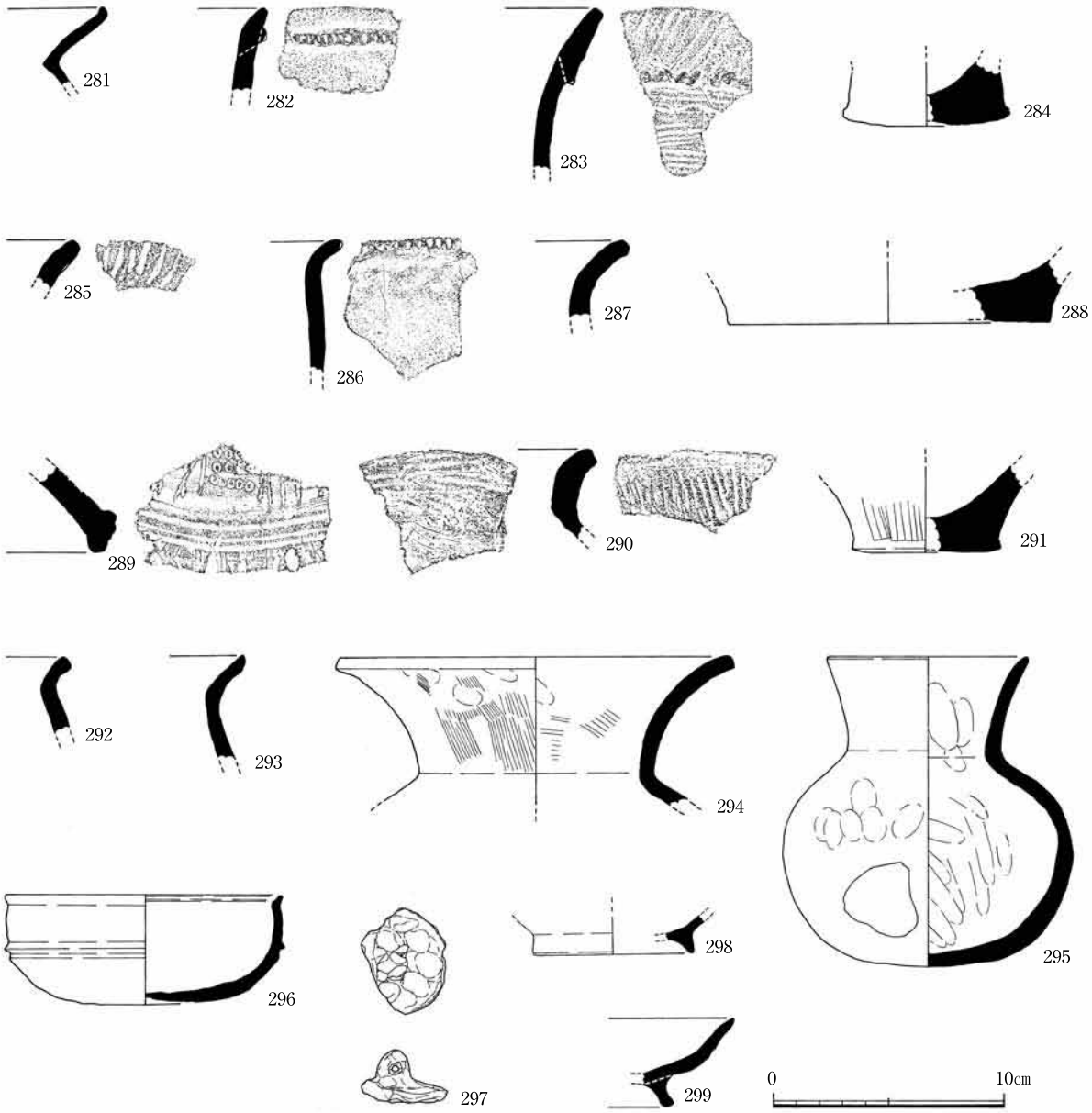


Fig.122　3B区ⅣA層出土遺物（土器・土製品）

残存する。378は正中線に沿って欠損するが、両端部は丸みを持つものとみられる。緒孔とみられる２孔が残存する。379・380は用途不明の板材である。379は一方の端部は丸みを持ち、３孔が残存する。380は方形のほぞ孔２孔を穿ち、全体的に丁寧な加工・調整を施す。381・382は建築部材とみられる。381は片面のみ削り尖らせた先端部近くと、末端部近くの箇所に「コ」字状の切り込みを持つ。382は約19㎝の円柱状の削り出しを持ち、先端部は尖らせる。先端部から約70㎝の箇所に方孔を穿ち、約40㎝おきに同様の方孔を計３孔穿つ。383は一木梯子であり、全体的に荒い作りで足掛け４段を作り出す。摩耗が著しい。

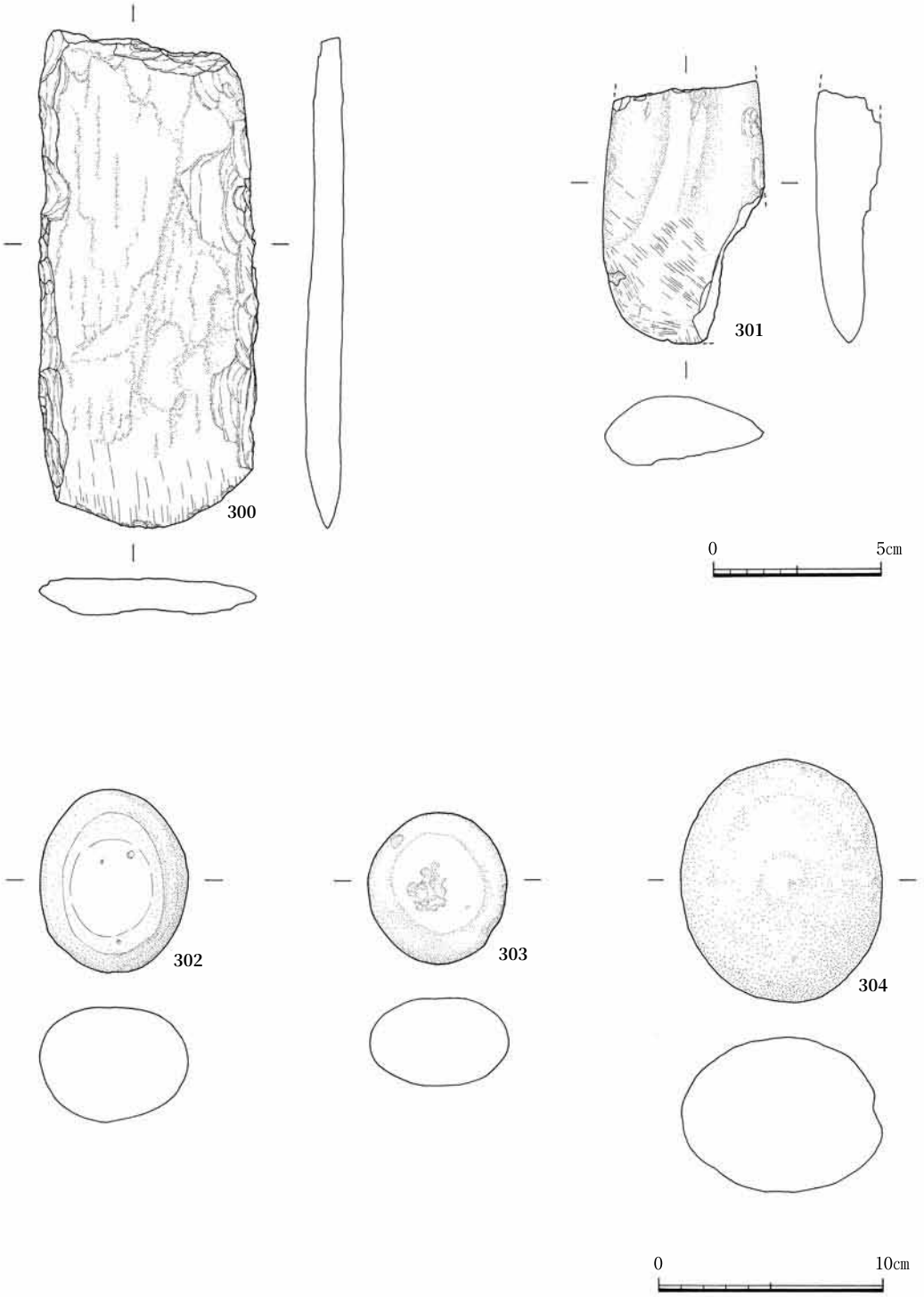


Fig.123　3B区IVA層出土遺物 (石器)

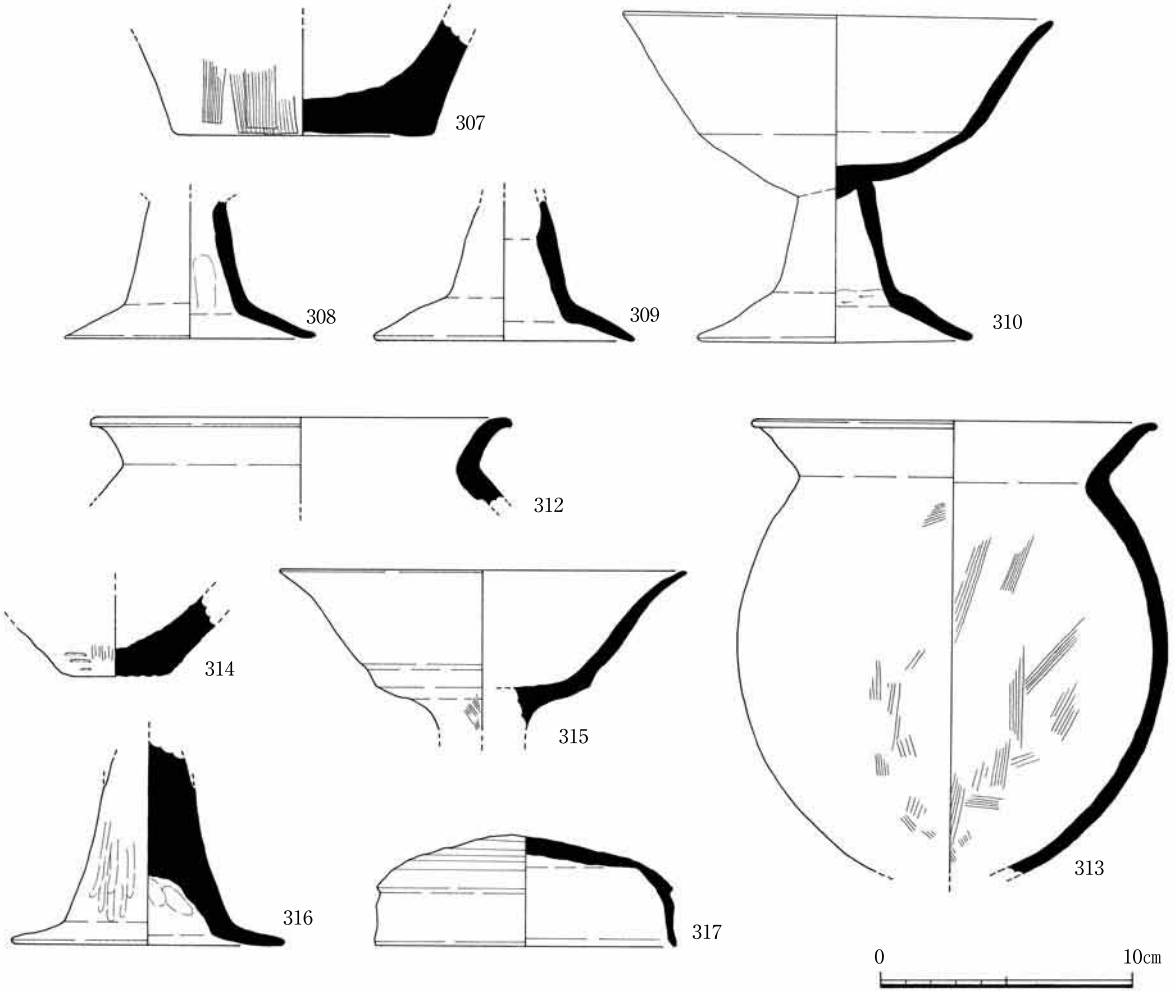


Fig.124　3B区ⅢE層・ⅢD層出土遺物（土器）

ⅢA層出土木製品（Fig.143～145）

386～391は田下駄足板である。386は枠型とみられる。両端部に丸みを持ち、７孔が残存する。387は箱型とみられる。両端部は欠損するが、丸みを持つものとみられ、緒孔３孔が残存する。388は輪樏型とみられる。一方の端部は丸みを帯びる。緒孔・紐孔計８孔が残存する。389は両端部近くの両側辺から切り欠きを入れ、緒孔３孔を穿つ。390・391は枠型とみられる。両端部は舟形を呈し、緒孔３孔を穿つ。

④トレンチ・バンク出土、表採遺物（Fig.146）

392は縄文土器深鉢であり、外面に浮文を配す。393は弥生土器壺であり、胴部外面に多条の櫛描文を巡らせ、下端には刺突文を巡らせる。394～396は土師器である。394は甕である。内面及び口縁部外面はナデ調整、胴部はタタキ成形を施す。395は、小型丸底壺である。口縁部はやや扁平な胴部から大きく屈曲し、短く内湾気味に上がる。端部は細く仕

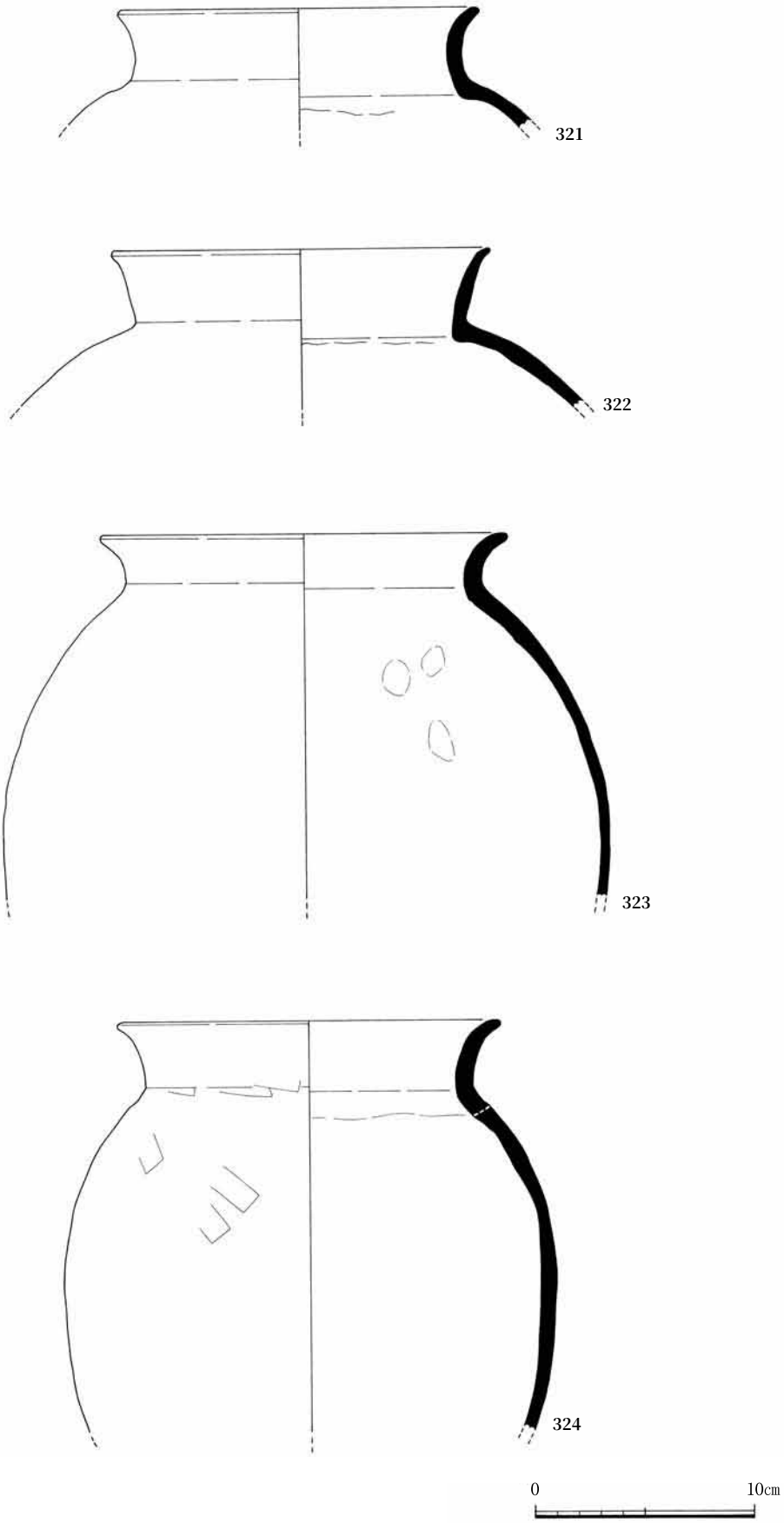


Fig.125　3B区IIIB層出土遺物 (土器)

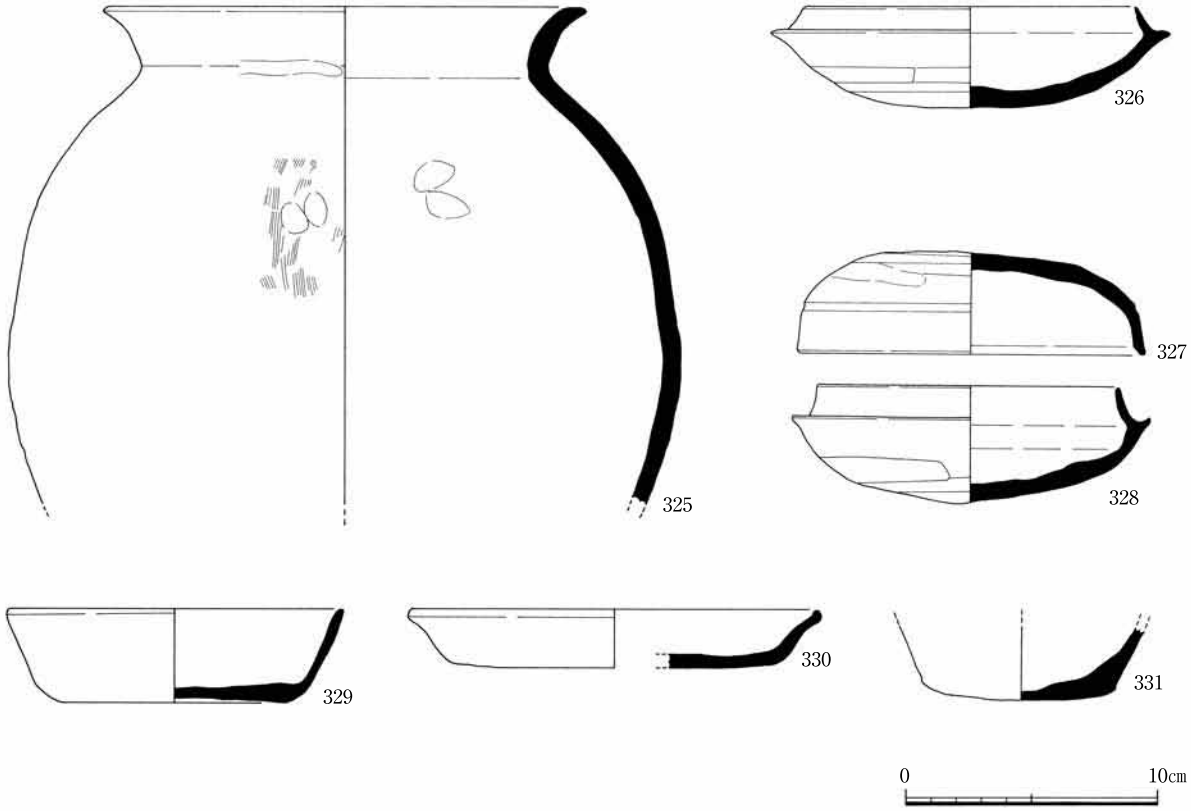


Fig.126　3B区ⅢB層出土遺物（土器）

上げる。396は甕である。内外面ヘラナデ調整を施すが、全体的に調整が粗雑である。

引用・参考文献

曽我貴行他『居徳遺跡群Ⅰ』㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター　2001

藤方正治・曽我貴行『居徳遺跡群Ⅲ』㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター　2002

廣田佳久他『具同中山遺跡群Ⅲ－2』高知県教育委員会・㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター　2001

松田直則他『具同中山遺跡群Ⅳ』㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター　2001

出原恵三他『北高田遺跡』㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター　2000

橋口達也他『石崎曲り田遺跡Ⅲ』福岡県教育委員会　1985

奈良国立文化財研究所　史料第27冊　『木器集成図録　近畿古代篇』1985

奈良国立文化財研究所　史料第36冊　『木器集成図録　近畿原始篇』1993

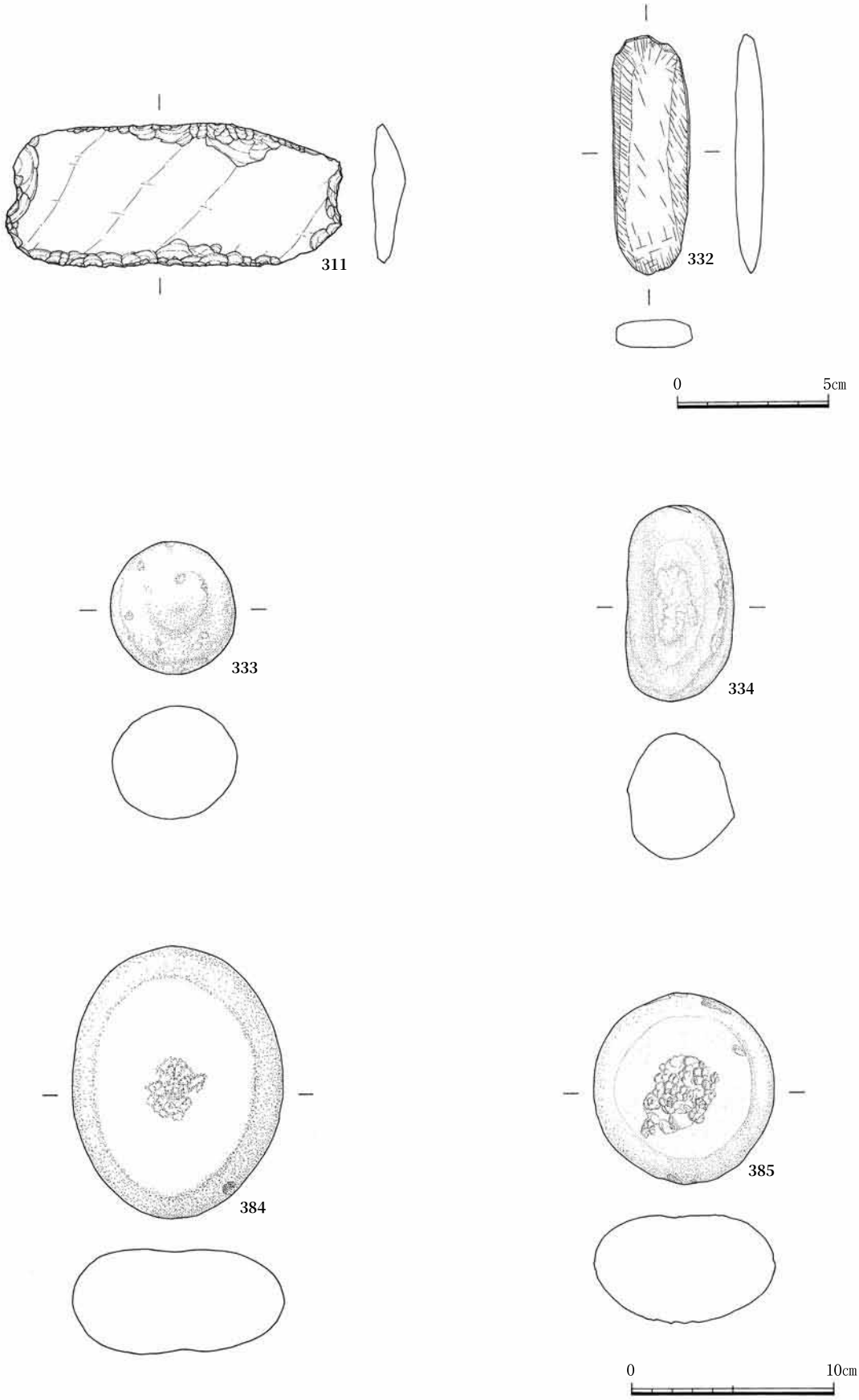


Fig.127　3B区IIIE層・IIIB層・IIIA層出土遺物（石器）

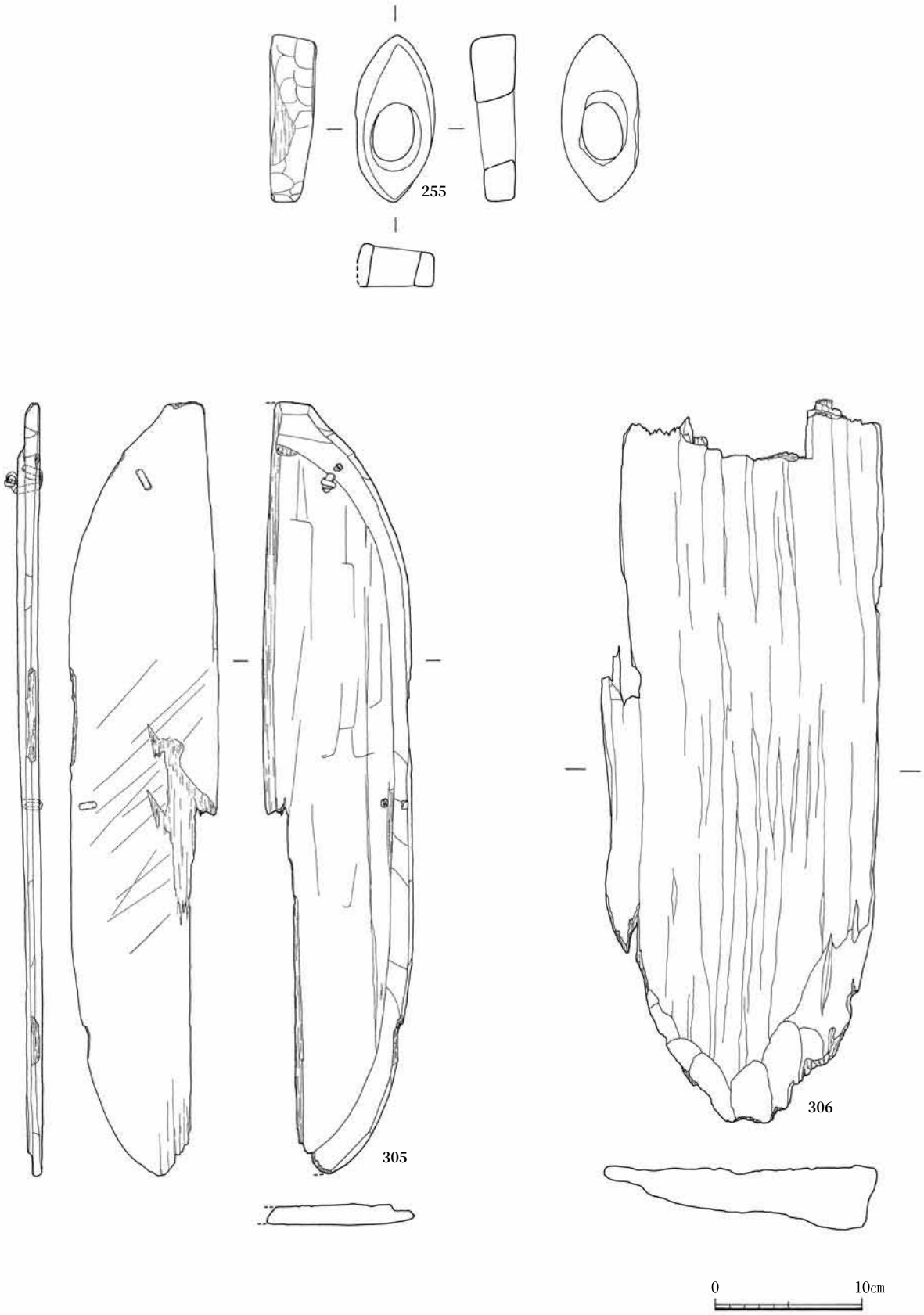


Fig.128　3B区IVC層・IVA層出土遺物（木製品）

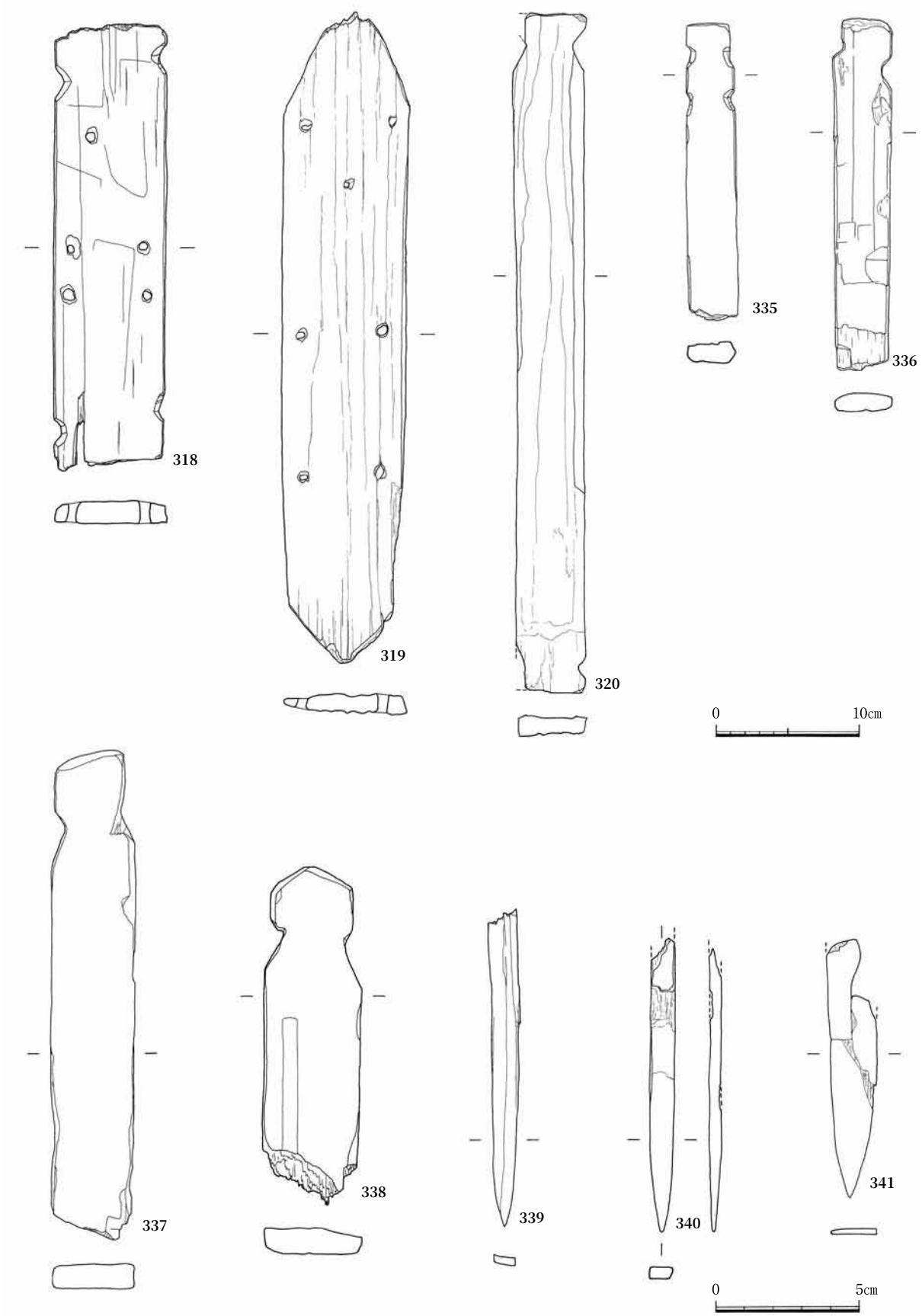


Fig.129　3B区IIID層・IIIB層出土遺物 (木製品)

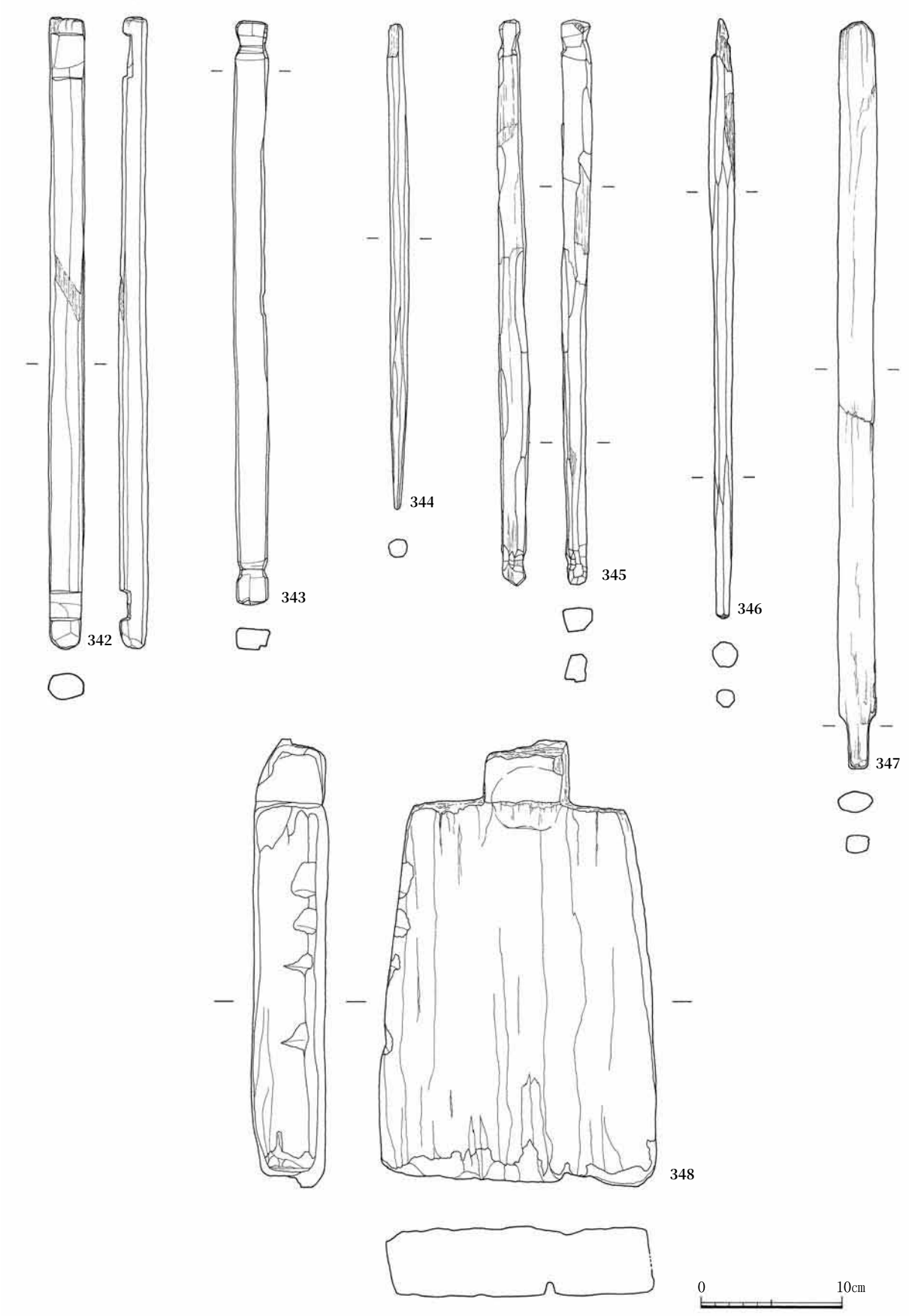


Fig.130　3B区IIIB層出土遺物 (木製品)

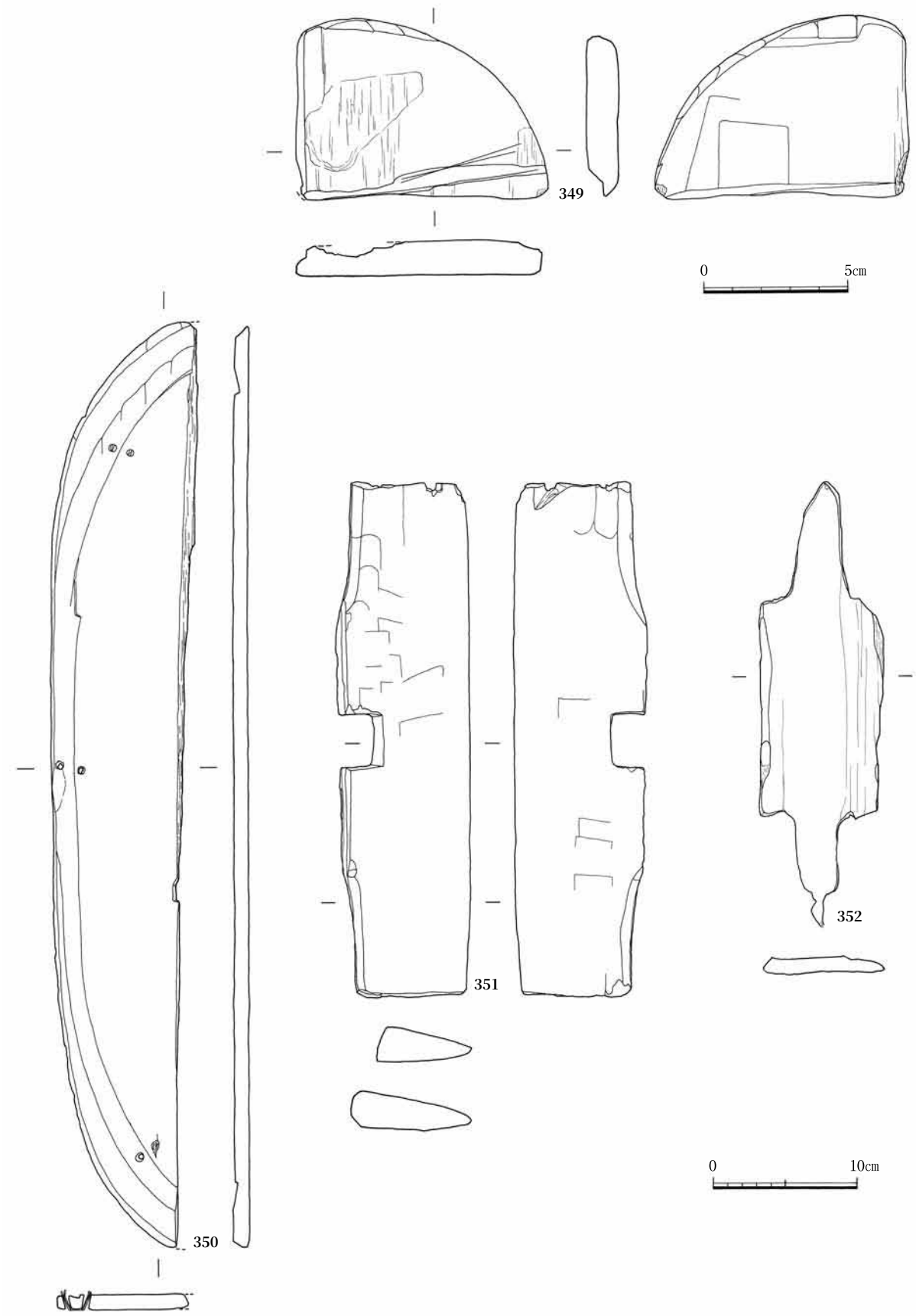


Fig.131　3B区IIIB層出土遺物 (木製品)

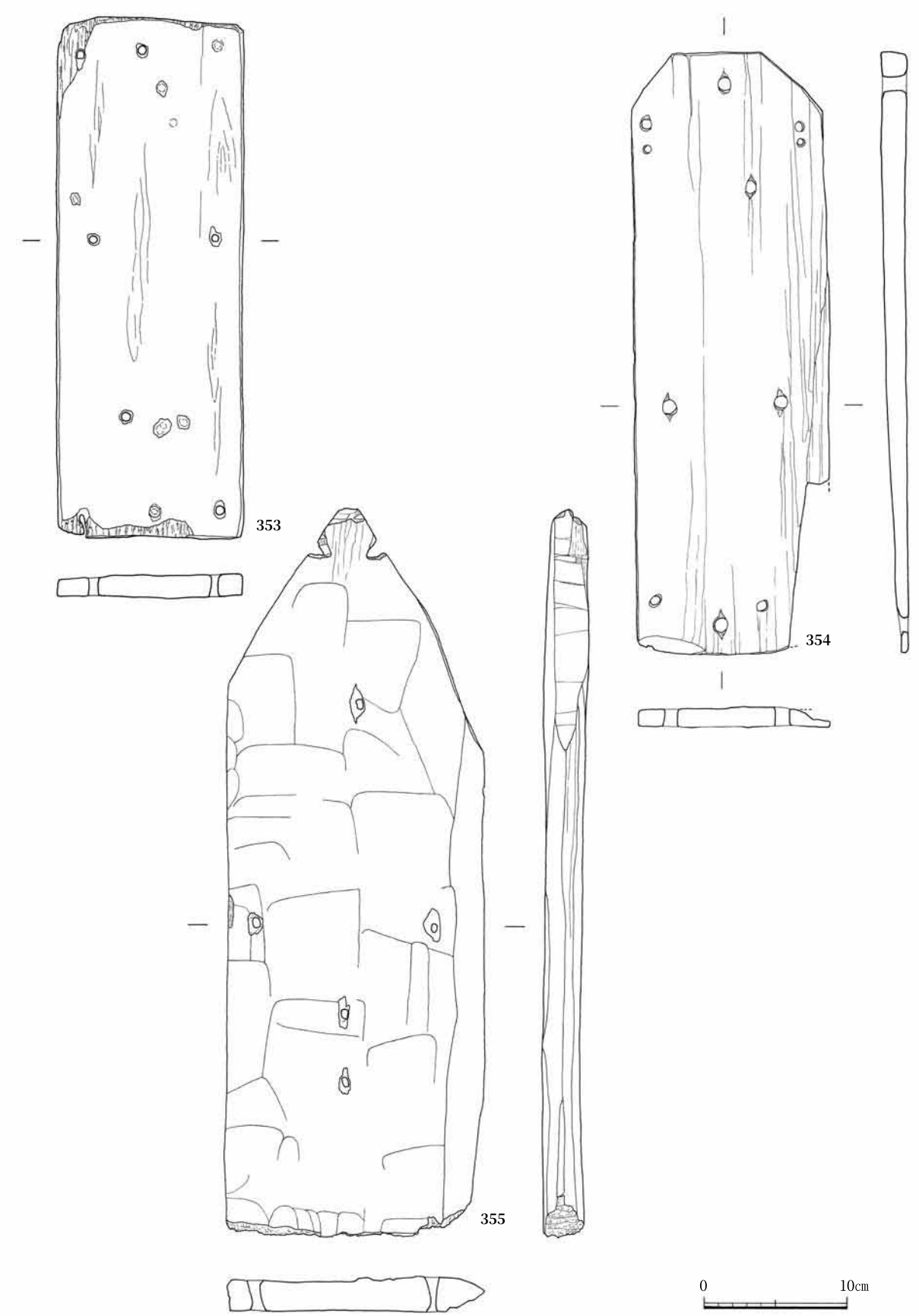


Fig.132　3B区IIIB層出土遺物 (木製品)

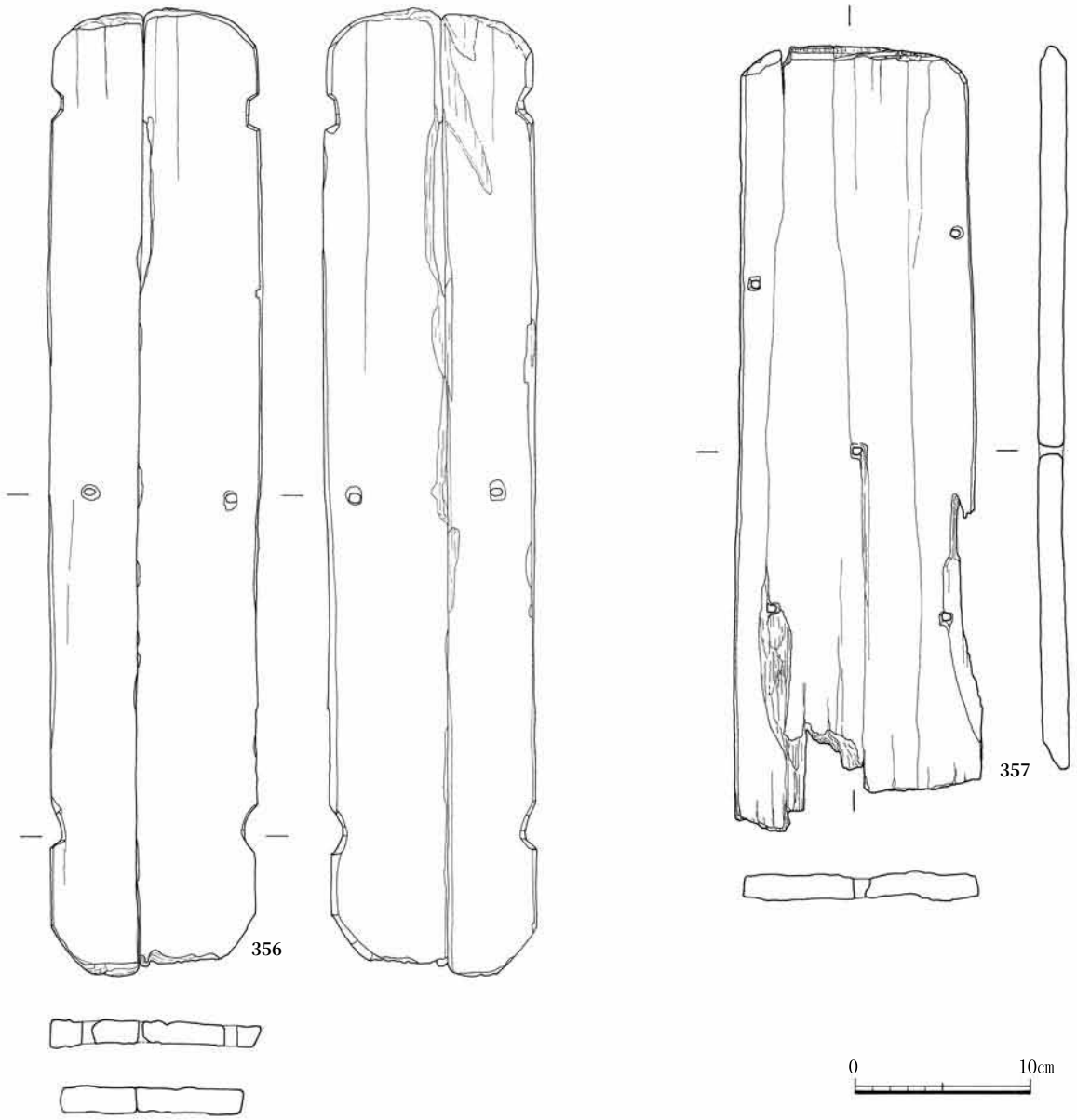


Fig.133　3B区IIIB層出土遺物 (木製品)

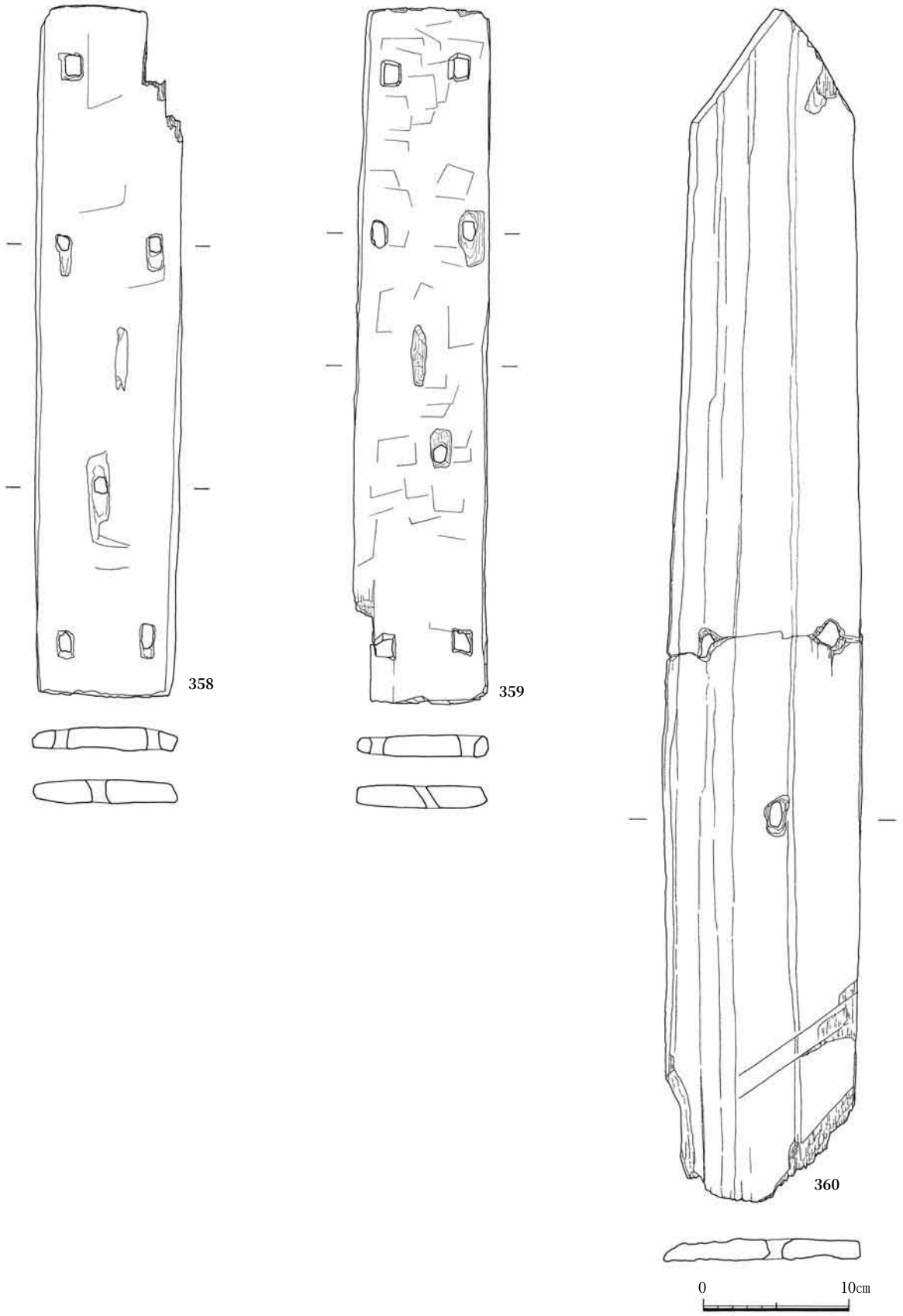


Fig.134　3B区IIIB層出土遺物 (木製品)

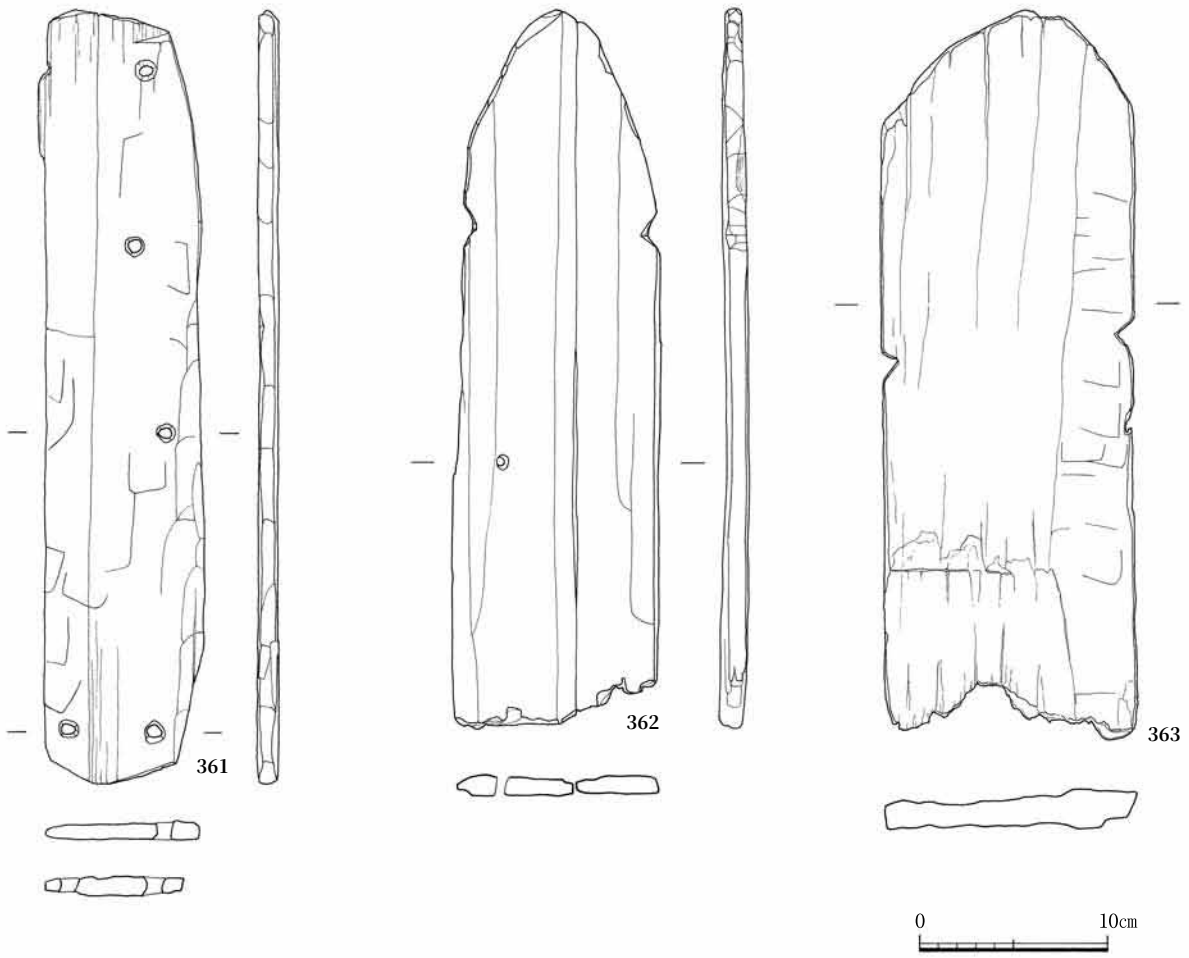


Fig.135　3B区IIIB層出土遺物 (木製品)

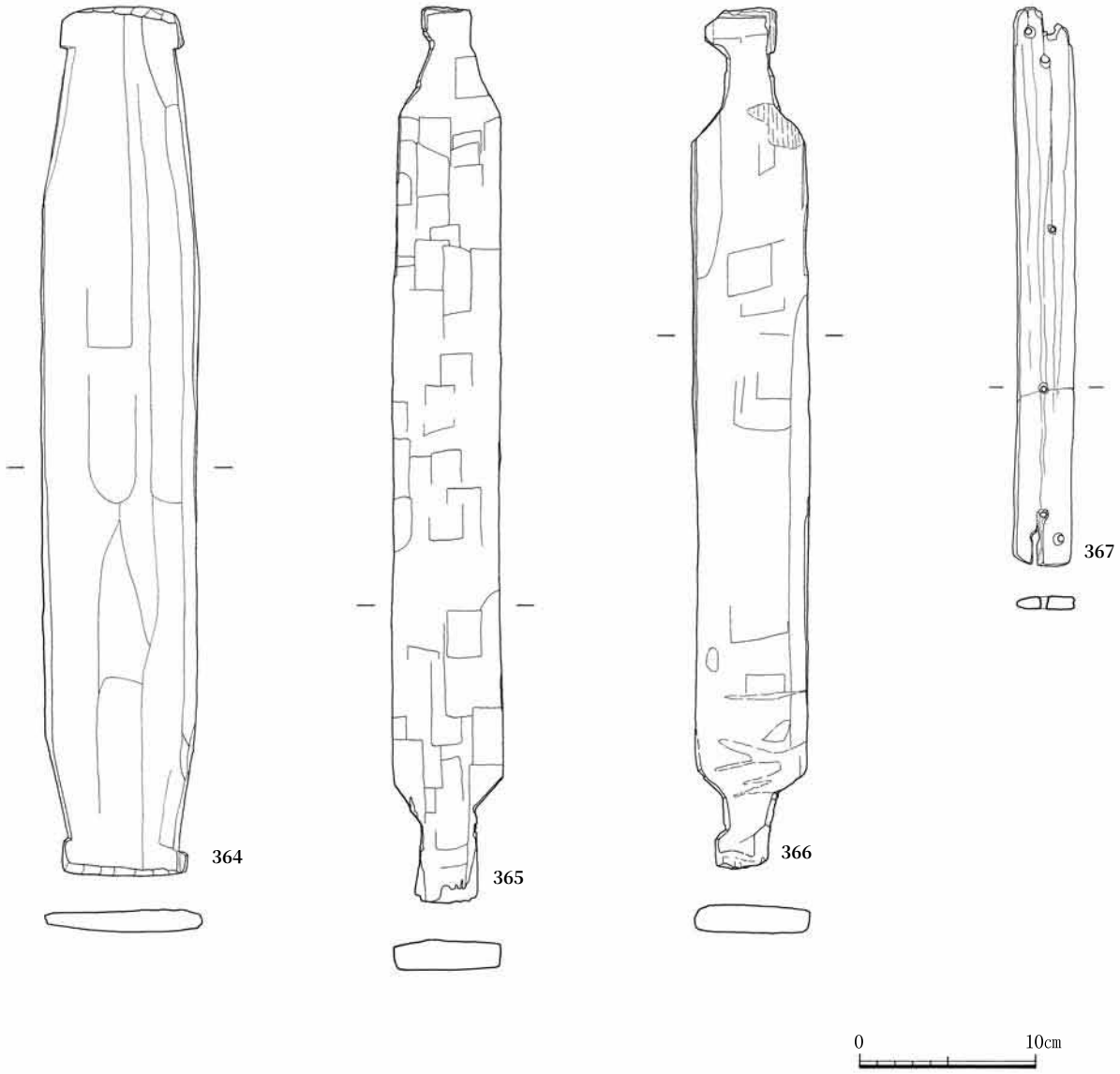


Fig.136　3B区IIIB層出土遺物（木製品）

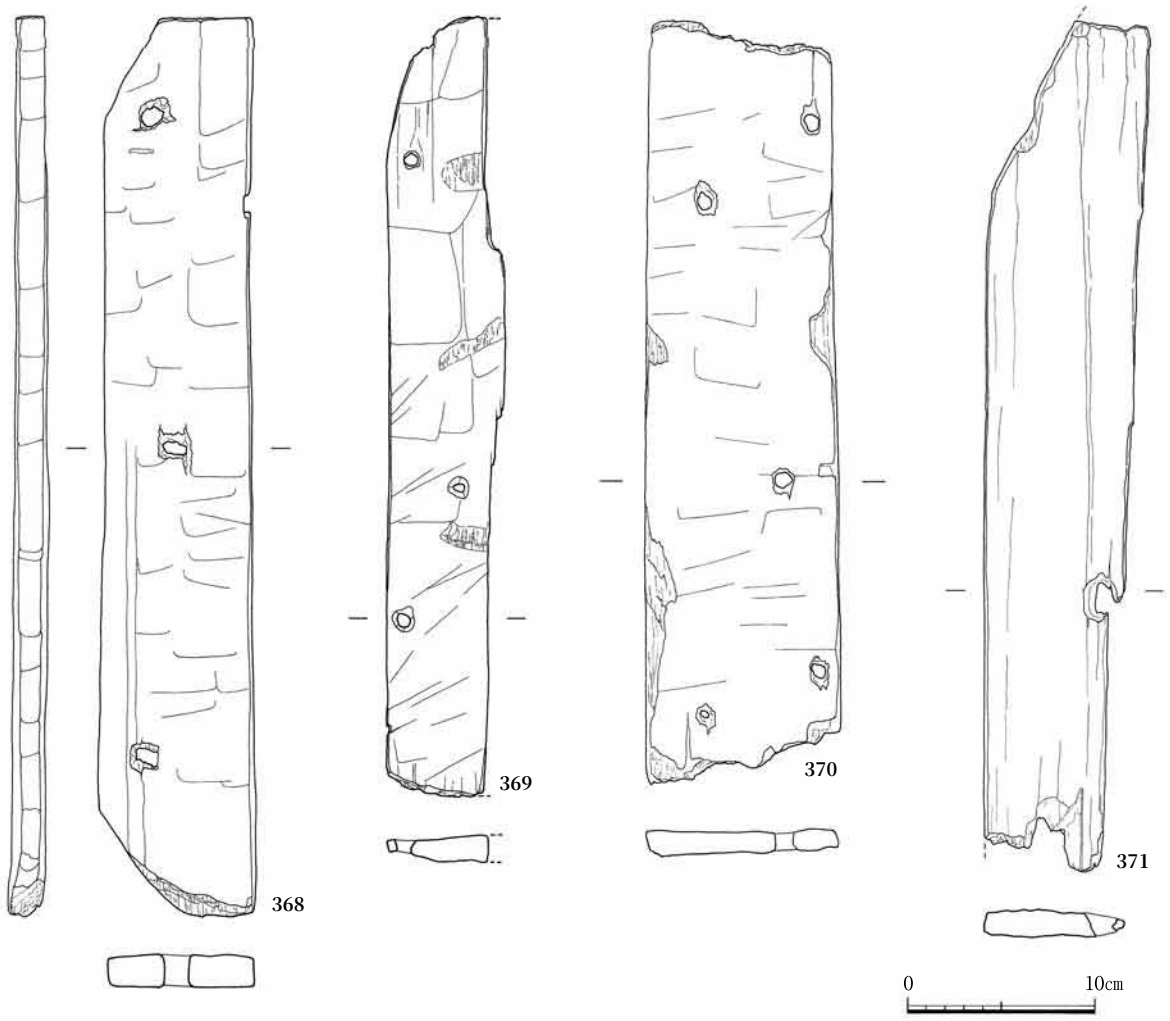


Fig.137　3B区IIIB層出土遺物 (木製品)

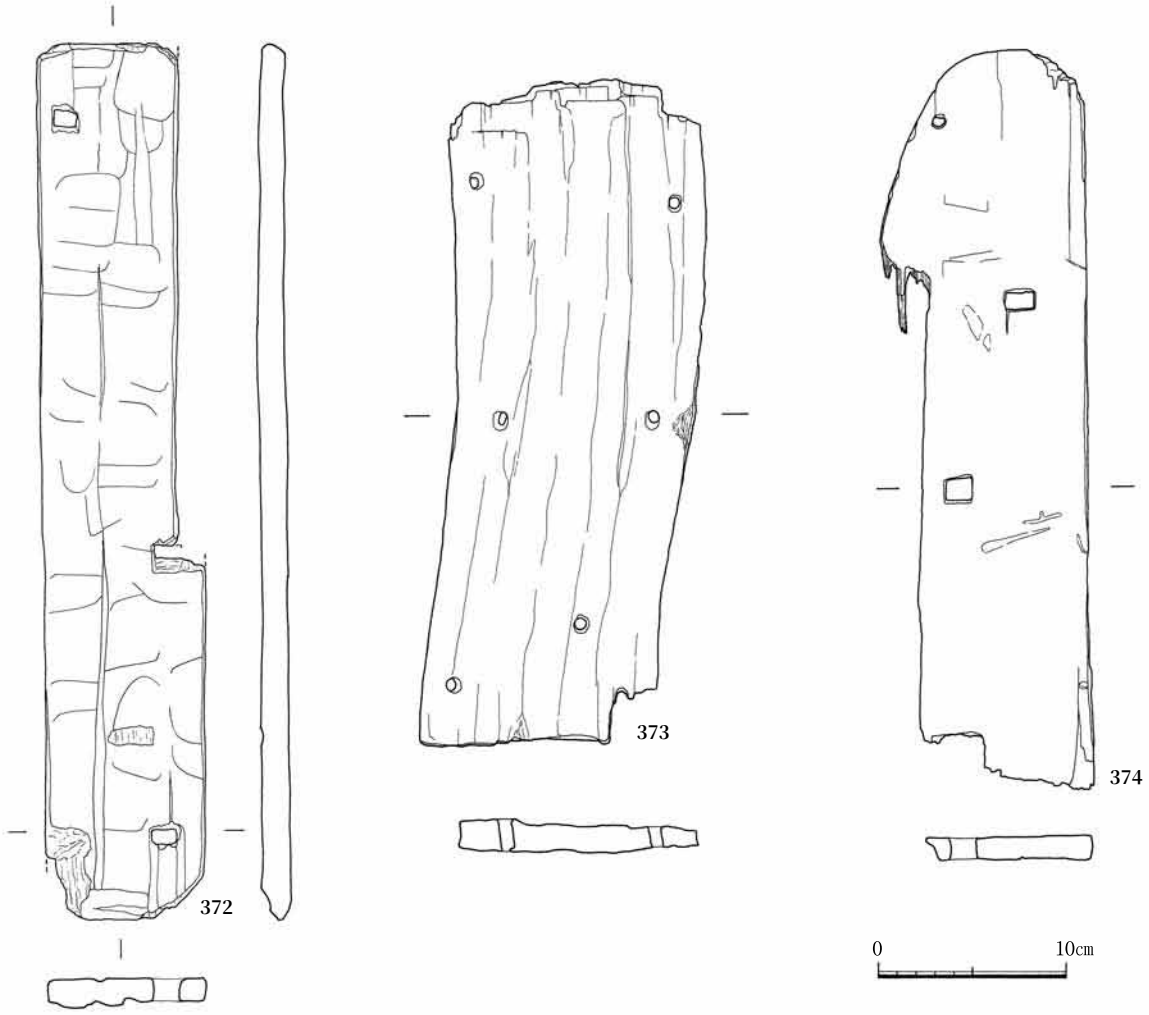


Fig.138　3B区IIIB層出土遺物（木製品）

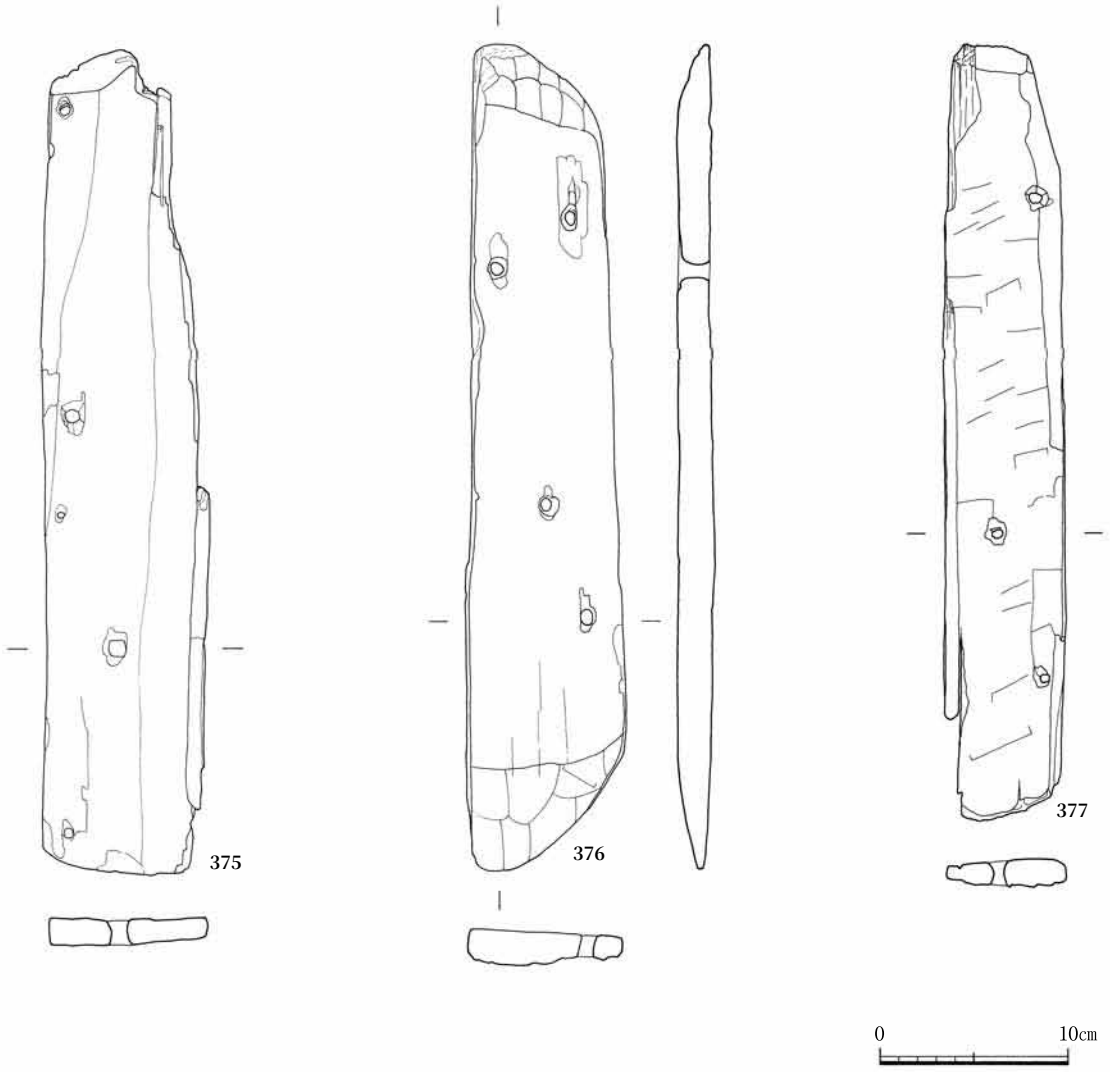


Fig.139　3B区IIIB層出土遺物（木製品）

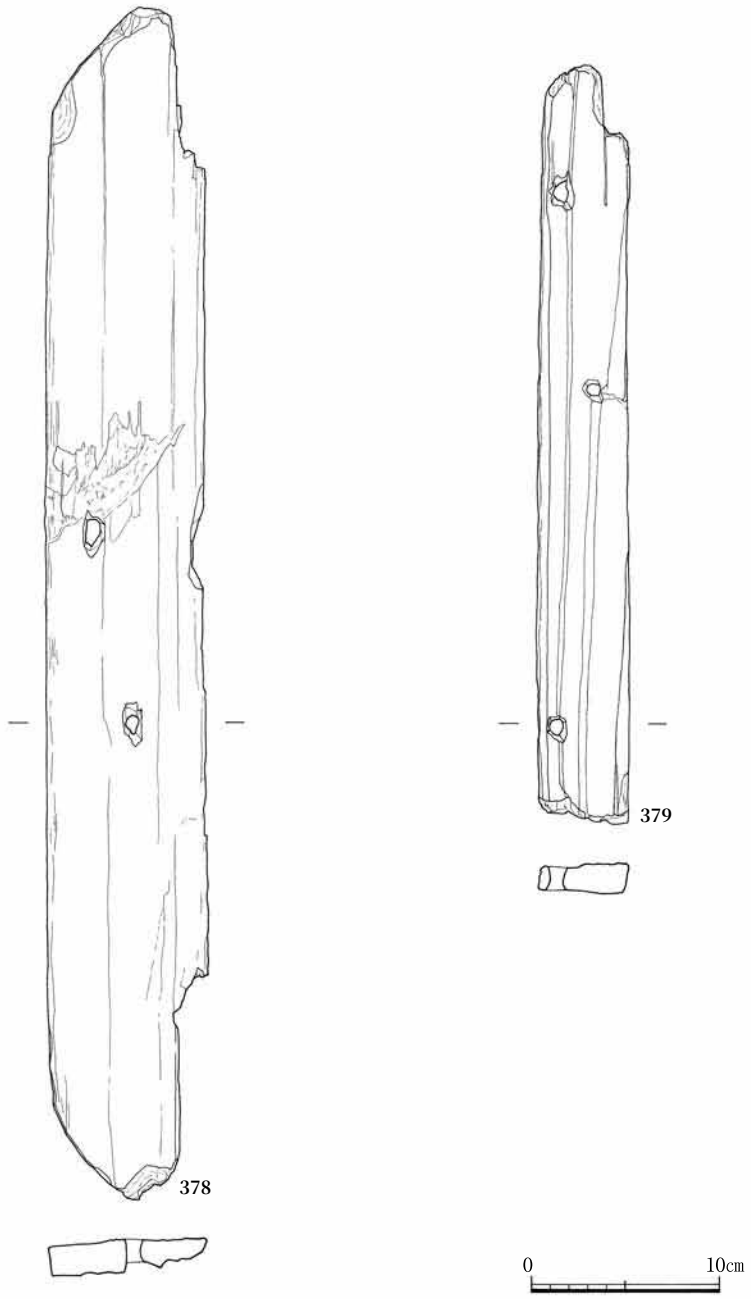


Fig.140　3B区IIIB層出土遺物（木製品）

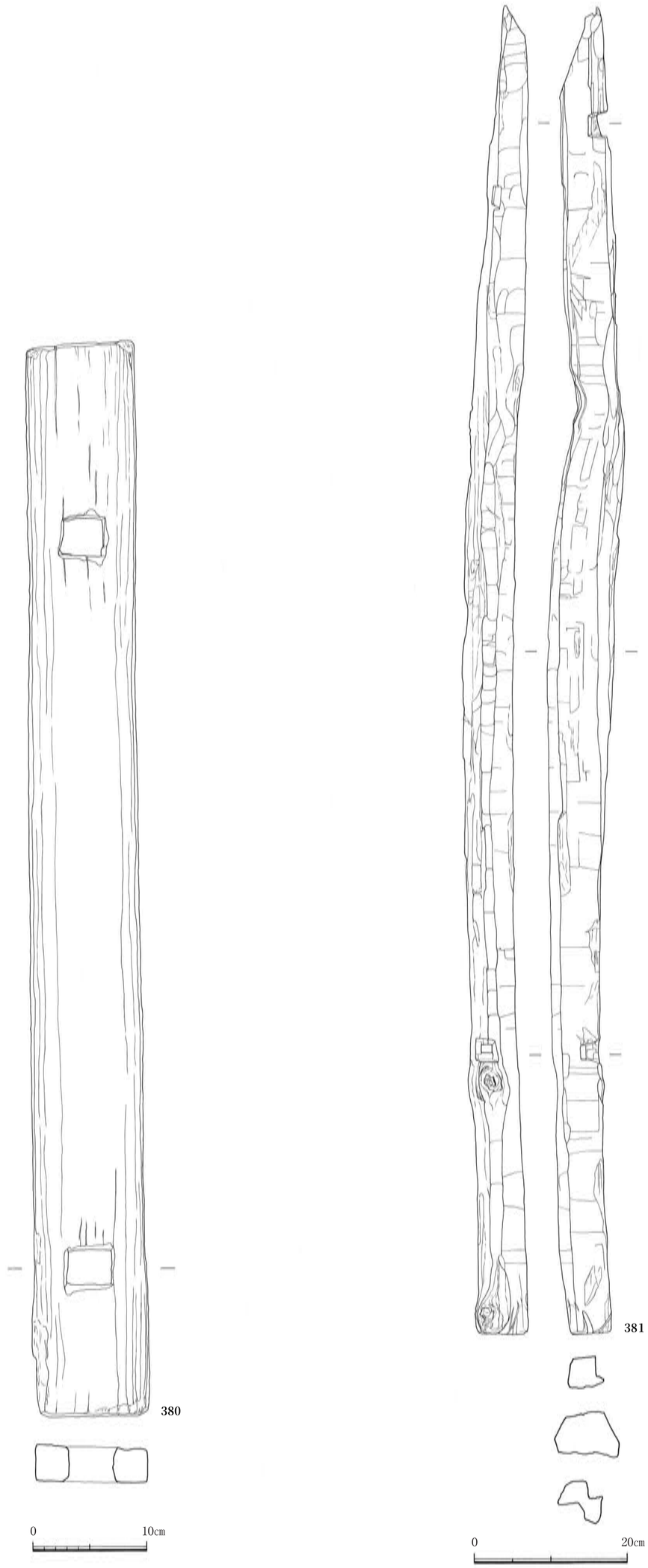


Fig.141　3B区IIIB層出土遺物(木製品)

Fig.142　3B区IIIB層出土遺物(木製品)

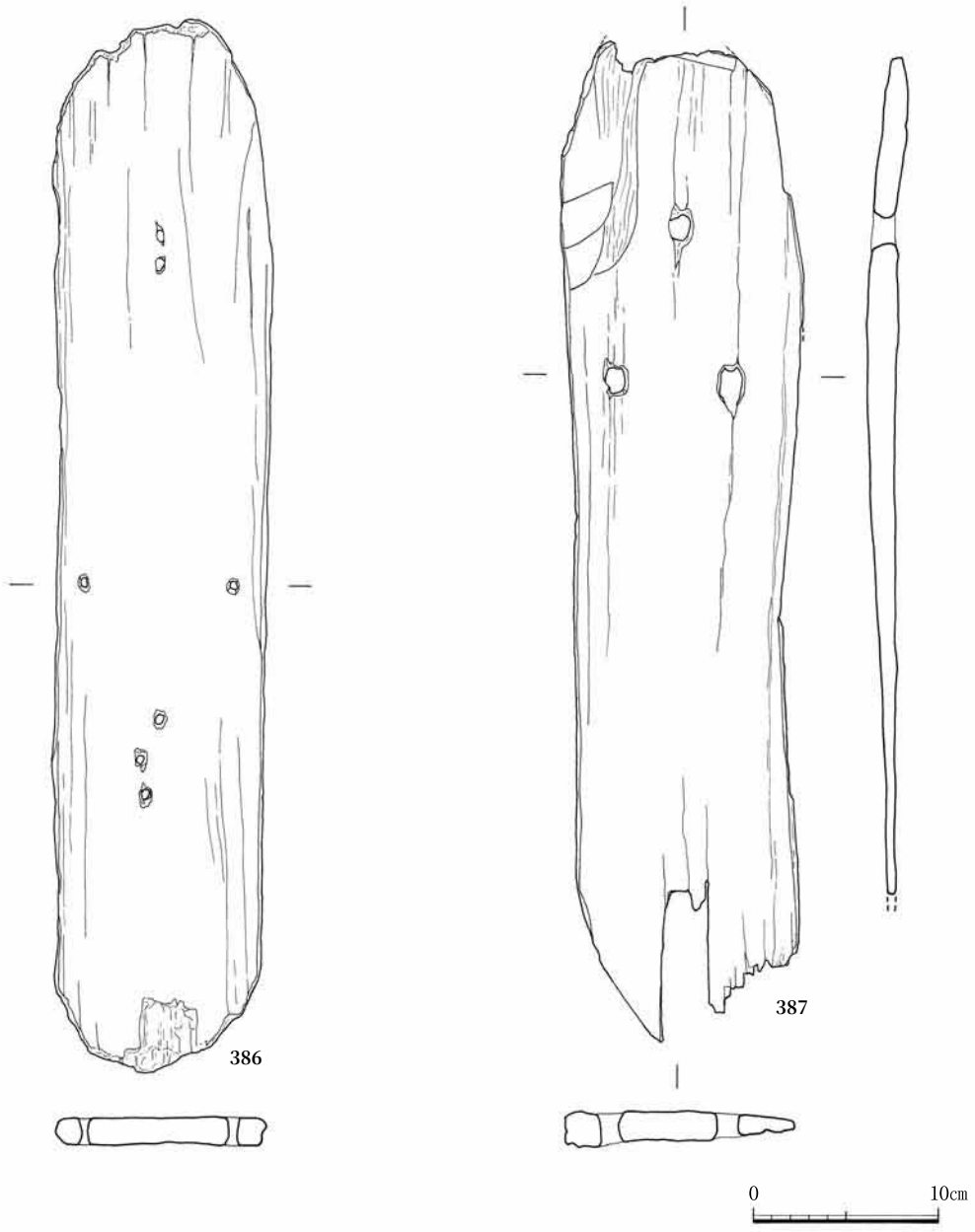


Fig.143　3B区IIIA層出土遺物 (木製品)

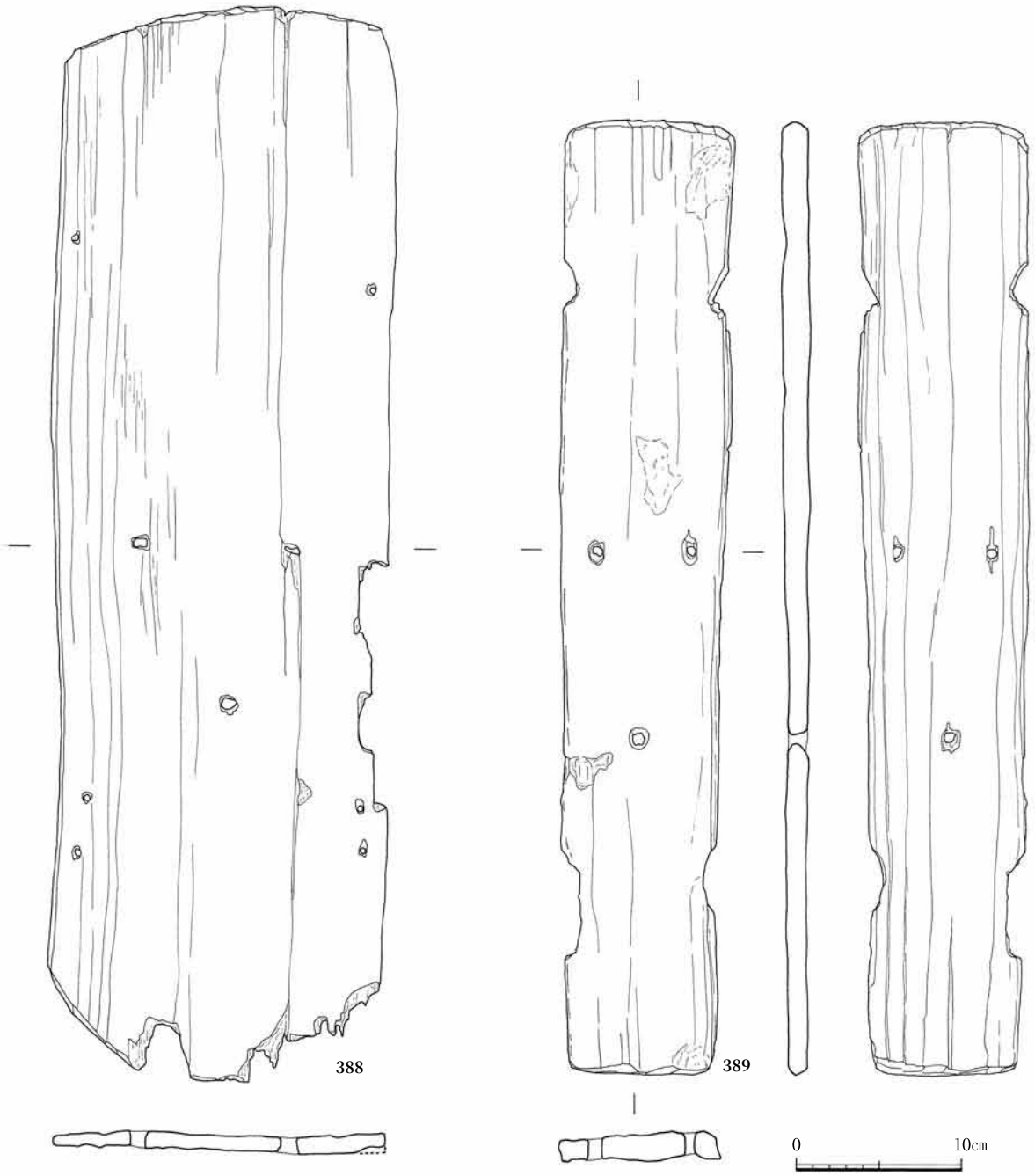


Fig.144　3B区IIIA層出土遺物（木製品）

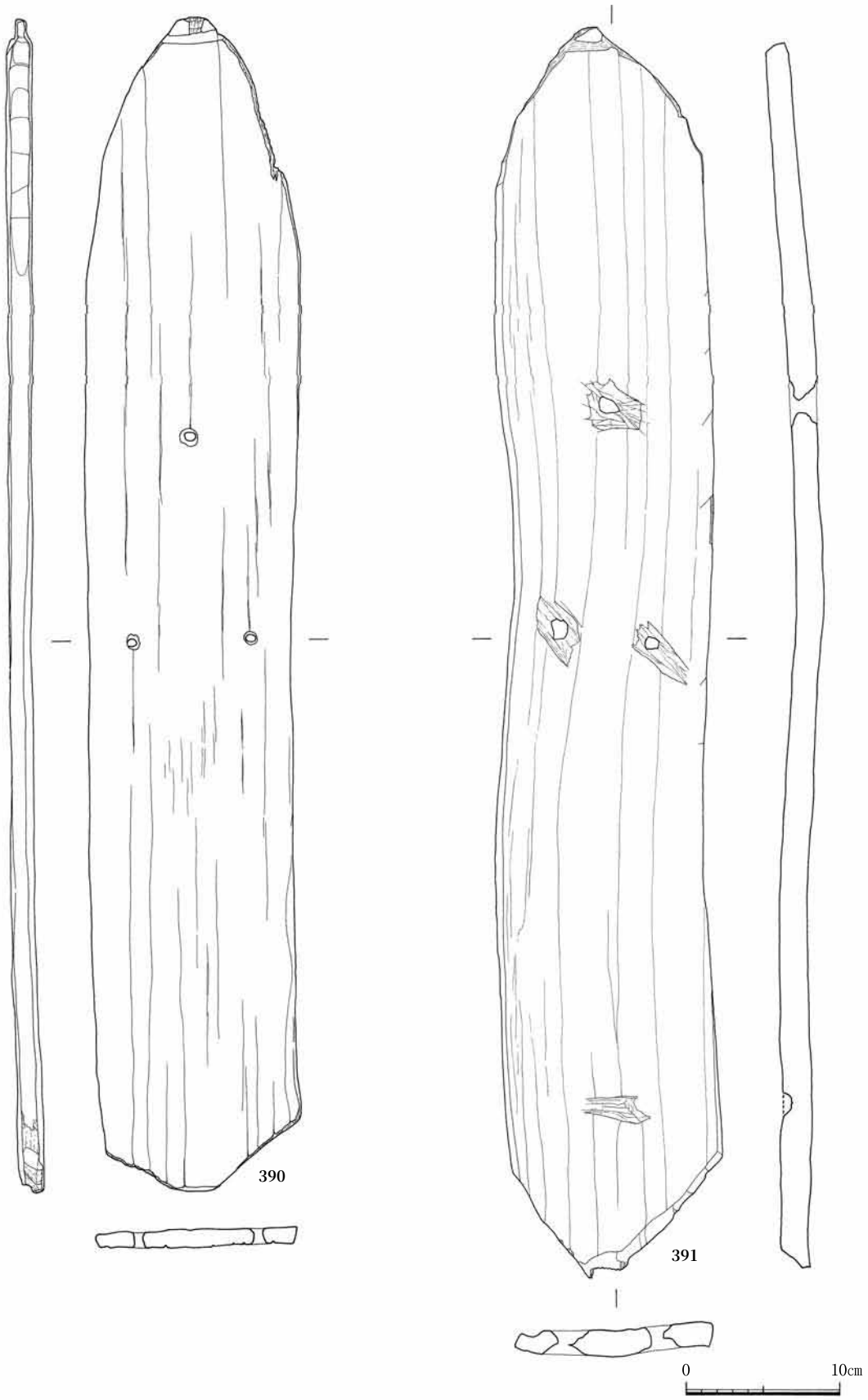


Fig.145　3B区IIIA層出土遺物 (木製品)

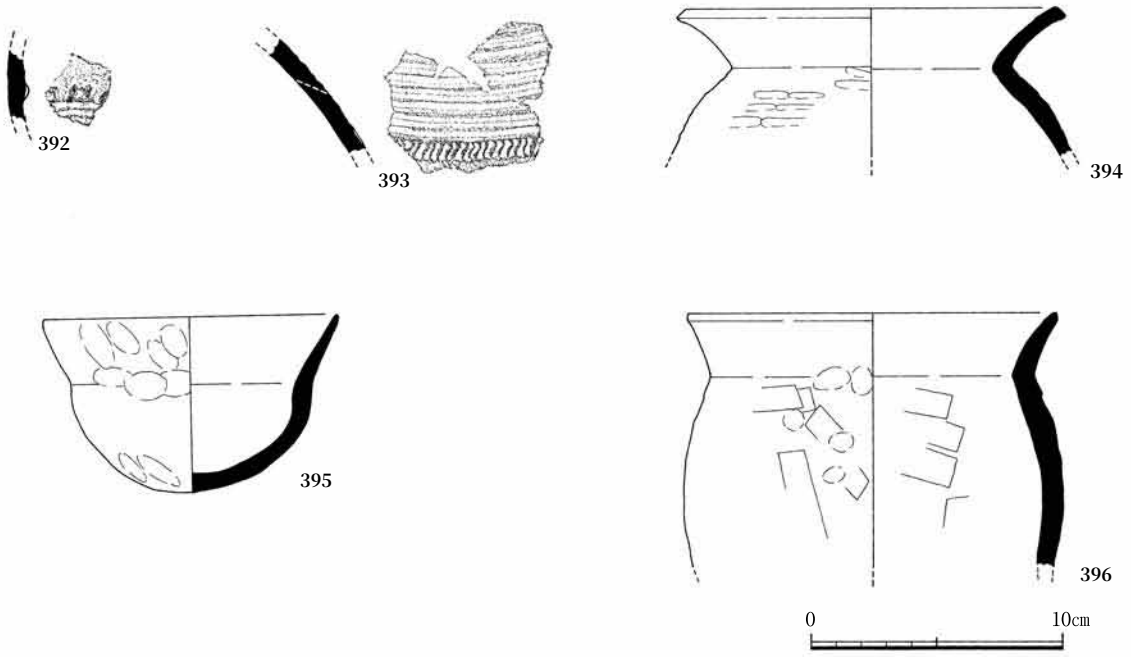


Fig.146　3B区トレンチ・バンク出土、表採遺物 (土器)

表25　3B区出土遺物観察表（土器1）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.104-1	P1	縄文土器	深鉢		(4.9)			微～粗粒砂を含む。内面ナデ、外面条痕。
Fig.105-2	SR1	古式 土師器	甕	17.8	(20.3)	24.0		細粒砂を多く含む。内面指頭・ナデ。外面ナデ・ヘラナデ。 外面煤の付着が激しい。
Fig.105-3	SR1	土師器	甕	17.8	(8.3)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。口縁外面ヘラナデ。 外面煤の付着が激しい。
Fig.105-4	SR1	古式 土師器	甕	16.8	(34.2)	29.5		内面はヘラケズリをナデ消し。外面はナデ、口縁部は強いナデ。
Fig.105-5	SR1	手捏ね 土器		3.1	3.8	4.3	2.7	細粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.105-6	SR1	土師器	高杯	16.95	(6.15)			砂粒を含む。内外面ナデ。
Fig.105-7	SR1	土師器	高杯	14.2	8.9		10.0	細粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.105-8	SR1	土師器	壺	8.2	(8.5)			微粒砂を多く含む。内外面ナデ。
Fig.105-9	SR1	須恵器	壺		(10.5)	13.3		胴部外面は細かい櫛目状原体によるカキ目。底部外面は手持ちヘラ削り後ナデ。
Fig.107-16	SR2	弥生土器	壷	12.6	(11.0)			細～粗粒砂を多く含む。内外面摩耗が著しい。口縁部外面は口唇部の横ナデ時に生じたとみられる沈線状の傷が巡る。頸部外面に１条沈線を巡らせ、下位には放射状に沈線を巡らせる。タタキ後ハケ。
Fig.107-17	SR2	弥生土器	壺		(6.3)		6.9	粗粒砂を多く含む。内外面ヘラミガキ（単位は確認できない）。
Fig.107-18	SR2	弥生土器	甕		(5.9)		3.4	細～粗粒砂を含む。内面ナデ、外面は底部に至るまでハケ。
Fig.107-19	SR2	弥生土器	甕	21.2	(33.5)	28.0		粗粒砂～小礫を多く含む。内面ハケ・ナデ、外面タタキ・ハケ。
Fig.107-20	SR2	弥生土器	鉢	8.9	5.8			粗粒砂～小礫を含む。内外面ナデ。指頭圧痕が残る。
Fig.107-21	SR2	土師器	鉢	9.25	6.9			粗粒砂を含む。内外面とも荒い原体のハケ。黒斑有り。
Fig.107-22	SR2	土師器	鉢	14.8	6.7			細粒砂・砂粒を含む。内面ナデ・ハケ、外面タタキ・ナデ。
Fig.107-23	SR2	土師器	鉢	21.0	10.2			粗粒砂を含む。内外面ハケ。
Fig.107-24	SR2	土師器	甕	10.2	(4.6)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。外面煤の付着が激しい。
Fig.107-25	SR2	土師器	甕	12.8	(6.0)	11.0		微粒砂を少量含む。内外面ナデ。外面に煤付着。
Fig.107-26	SR2	土師器	甕	14.0	(4.0)			粗粒砂を含む。内外面ハケ。
Fig.109-32	SR3	縄文土器	深鉢		(14.85)			砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕。
Fig.109-33	SR3	縄文土器	深鉢		(8.95)			砂粒を含む。口縁内面及び外面は条痕。胴部内面ナデ。 外面一部に煤付着。
Fig.109-34	SR3	弥生土器	壺	18.2	(5.3)			微粒砂～小礫を多く含む。内面ナデ。外面粗いナデ。 口縁部は指頭による粘土帯を貼り付け、肥厚させる。
Fig.109-35	SR3	弥生土器	甕	13.7	(23.8)	18.1		細～粗粒砂を含む。内面ナデ・ハケ、外面タタキ後荒い原体のハケ。口唇部は強くナデ過ぎのためか下垂する。
Fig.109-36	SR3	土師器	甕	8.2	11.0	9.0		微粒砂を含む。内面ナデ。外面頸部～上胴部ハケ、以下ナデ・タタキ。内面に焦げ付き状態の付着物。
Fig.109-37	SR3	土師器	壺	20.0	(7.3)			少量の微～細粒砂を含む。内面ナデ。外面ナデ後縦方向のヘラミガキ。口唇部に形骸化した沈線が残る。布留式。
Fig.111-41	SR4	土師器	甕	8.7	(3.4)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。外面煤付着。
Fig.111-42	SR4	土師器			(1.0)		3.9	細粒砂を多く含む。内外面ナデ。外面煤付着。
Fig.111-43	SR4	土師器	甕		(17.5)	23.0		微～細粒砂を含む。内面荒い原体のハケ、外面ハケ・タタキ。
Fig.112-44	IVE層	縄文土器	深鉢		(3.8)			砂粒・小礫を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇弱い刻目。
Fig.112-45	IVD層	縄文土器	壺?		(2.25)			微粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.112-46	IVD層	縄文土器	鉢		(3.0)			微～細粒砂を含む。内外面摩耗のため不明。外面3条沈線。
Fig.112-47	IVD層	縄文土器	浅鉢		(2.35)			微～細粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.112-48	IVD層	縄文土器	浅鉢		(3.4)			微粒砂を多く含む。内面ナデ。外面ヘラミガキ。黒色磨研。
Fig.112-49	IVD層	縄文土器	浅鉢		(3.9)			細粒砂を多く含む。内外面ヘラミガキ。黒色磨研。
Fig.112-50	IVD層	縄文土器	浅鉢		(2.8)			砂粒をほとんど含まない精選された胎土。内外面丁寧なナデ。 黒色磨研。
Fig.112-51	IVD層	縄文土器	浅鉢		(2.6)			微粒砂を多く含む。内面ナデ。外面頸部ヘラミガキ。他は摩耗のため不明。黒色磨研。
Fig.112-52	IVD層	縄文土器	浅鉢		(3.4)			微～細粒砂を含む。内面ヘラミガキ。外面ナデ・ヘラケズリ。端部内面に朱が残る。黒色磨研。
Fig.112-53	IVD層	縄文土器	浅鉢		(3.3)			微～細粒砂を含む。内外面ヘラミガキとみられるが摩耗する。
Fig.112-54	IVD層	縄文土器	浅鉢		(4.3)			微粒砂を含む。漆塗布。上下逆？
Fig.112-55	IVD層	縄文土器	浅鉢		(1.2)		7.1	微粒砂を含む。内面丁寧なナデ。外面ヘラミガキ。底部外面ナデ。 黒色磨研。
Fig.112-56	IVD層	縄文土器	深鉢		(3.2)			細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇外面刻み。刻目突帯文。
Fig.112-57	IVD層	縄文土器	深鉢		(6.0)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。口縁外面に刺突状刻目突帯を有し、その直下に2孔を穿つ。
Fig.112-58	IVD層	縄文土器	深鉢		(3.0)			粗粒砂を含む。内外面ナデ。内外面煤付着。刻目突帯文。
Fig.112-59	IVD層	縄文土器	深鉢		(2.9)			粗粒砂を含む。内面ヘラナデ。口唇外端部刺突状刻目。端部外面刺突状刻目突帯文。
Fig.112-60	IVD層	縄文土器	深鉢		(2.2)			砂粒を含む。内外面ナデ。外面刻目突帯剥離痕。
Fig.112-61	IVD層	縄文土器	深鉢		(2.9)			微粒砂を含む。内面ナデ。外面荒いナデ。口唇刻目。
Fig.112-62	IVD層	縄文土器	深鉢		(3.0)			砂粒を含む。内外面ナデ。外面刻目突帯剥離痕。

表26　3B区出土遺物観察表（土器2）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.112-63	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(4.1)			微粒砂を多く含む。内外面ナデ。外面円形刺突文。
Fig.112-64	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.1)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇部刻目。外面に2条単位の沈線による山形文。
Fig.112-65	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(5.1)			微～細粒砂を多く含む。内面ナデ。口唇外面に貝殻圧痕文による刻。端部内面1条沈線。端部外面ナデ。胴部上位に横位の2条沈線、以下条痕。
Fig.112-66	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.7)			細粒砂を多く含む。内面ナデ。外面条痕。口唇外面刺突状刻目。
Fig.112-67	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.7)			微～粗粒砂を含む。内外面ナデ。口唇に半截竹管による刺突状刻目。
Fig.112-68	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.0)			砂粒を含む。内面ナデ。外面摩耗のため不明。口唇刻目。
Fig.112-69	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.1)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.112-70	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.4)			砂粒・小礫を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.112-71	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.2)			微～細粒砂を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.112-72	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.45)			少量の細粒砂を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.112-73	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.6)			微粒砂を多く含む。内面ナデ。外面摩耗のため不明。
Fig.112-74	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(1.9)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面煤の付着が激しい。
Fig.112-75	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.0)			砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇内端部刻目。
Fig.112-76	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.1)			微～細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇内端部刻目。
Fig.112-77	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.1)			微～細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。
Fig.113-78	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.9)			微～細粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。口唇～外端部刻目。
Fig.113-79	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(1.5)			微～細粒砂・小礫を含む。内面ナデ。口唇外端部刻目。外面煤付着。
Fig.113-80	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.2)			微～細粒砂を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇外端部刻目。
Fig.113-81	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.4)			細～粗粒砂を含む。内面摩耗のため不明。外面摩耗するが、条痕が残る。口唇外端部刺突状刻目。
Fig.113-82	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.3)			微～細粒砂を含む。内外面条痕。口唇刻目。内端部1条沈線。
Fig.113-83	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.9)			砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。端部内面に1条沈線を施し、その中に刺突。
Fig.113-84	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.5)			微～細粒砂を含む。内外面条痕。口唇刻目。端部内面1条沈線。
Fig.113-85	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.6)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。端部外面1条沈線。
Fig.113-86	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.8)			粗粒砂・小礫を含む。内面ナデ。外面条痕。
Fig.113-87	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.1)			微粒砂・粗粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.113-88	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.4)			微～砂粒を含む。内外面ナデ。外面煤付着。
Fig.113-89	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.3)			細粒砂を多く含む。内面ナデ。外面ヘラミガキ。内外面に赤彩が残る。
Fig.113-90	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(9.3)			砂粒・粗粒砂を含む。内面ナデ。外面ナデ・条痕。外面に刻目突帯1条を貼付け、上部は縦位の4条沈線、下部は条痕。
Fig.113-91	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(2.8)		4.4	微～細粒砂・砂粒を含む。内外面ナデ。
Fig.113-92	Ⅳ D層	縄文土器	深鉢		(3.6)		(6.5)	砂粒を含む。内面摩耗のため不明。外面条痕。
Fig.113-93	Ⅳ D層	縄文土器	高杯		(4.2)		2.5	微粒砂を僅に含む。脚部内面ナデ、外面ヘラミガキ。
Fig.113-94	Ⅳ D層	弥生土器	壺		(5.9)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面3条重弧文。
Fig.113-96	Ⅳ C層	縄文土器	鉢		(2.9)			砂粒・小礫を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.113-97	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(2.9)			微粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.113-98	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(4.5)			砂粒を含む。内外面ナデ。摩耗が激しい。黒色磨研。
Fig.113-99	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(3.1)			微～細粒砂を多く含む。内外面ヘラミガキか、摩耗する。黒色磨研。
Fig.113-100	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(2.1)			微粒砂を多く含む。内外面ナデ。黒色磨研。
Fig.113-101	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(3.4)			微粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。黒色磨研。
Fig.113-102	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(3.4)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。摩耗が激しい。端部内面に1条沈線。黒色磨研。
Fig.113-103	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(2.7)			微粒砂を含む。内外面丁寧なヘラミガキ。黒色磨研。
Fig.113-104	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(2.95)			微粒砂を含む。内面ナデ。外面ナデ、段部ヘラケズリ。黒色磨研。
Fig.113-105	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(1.7)			微～細粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。黒色磨研か。
Fig.113-106	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(3.50)			微粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。黒色磨研か。
Fig.113-107	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(2.3)			微～細粒砂を含む。内外面摩耗のため不明。黒色磨研か。
Fig.113-108	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(2.7)			微～細粒砂を含む。内外面摩耗のため不明。黒色磨研か。
Fig.114-109	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(3.7)			微～細粒砂を含む。内外面丁寧なヘラミガキ。穿孔1孔を有する。
Fig.114-110	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(2.5)			微～細粒砂を多く含む。内外面摩耗が著しい。黒色磨研か。
Fig.114-111	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(1.3)		(6.1)	細粒砂～小礫を含む。内外面ナデ。
Fig.114-112	Ⅳ C層	縄文土器	浅鉢		(1.85)		(5.35)	細粒砂を含む。内面ヘラミガキ。外面条痕。
Fig.114-113	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(2.25)			細粒砂～小礫を含む。内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-114	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(3.8)			細粒砂・小礫を含む。内外面ナデ。刺突状刻目突帯文。
Fig.114-115	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(2.25)			砂粒を含む。内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-116	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(2.5)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-117	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(3.05)			細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。刻目突帯文。
Fig.114-118	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(3.6)			砂粒を含む。内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-119	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(2.05)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。口唇刻目。刻目突帯文。
Fig.114-120	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(2.55)			砂粒・小礫を含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。刻目突帯文。
Fig.114-121	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(2.0)			砂粒を含む。内外面ナデ。端部外面刺突状刻目。
Fig.114-122	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(3.5)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。刺突状刻目突帯文。
Fig.114-123	Ⅳ C層	縄文土器	深鉢		(2.35)			砂粒を含む。内外面丁寧なナデ。刻目突帯文。

表27　3B区出土遺物観察表（土器3）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.114-124	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.0)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-125	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.6)			砂粒を含む。内外面ナデ。外端部刺突状刻目。刻目突帯文。
Fig.114-126	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.5)			微粒砂を多く含む。内面ナデ。外面摩耗のため不明。 口唇外端部刻目。刻目突帯文。
Fig.114-127	IVC層	縄文土器	深鉢		(1.45)			内面ナデ。口唇外端部刻目。刻目突帯文。
Fig.114-128	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.05)			砂粒を多く含む。内外面摩耗のため不明。刻目突帯文。
Fig.114-129	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.65)			内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-130	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.1)			細粒砂を含む。内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-131	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.45)			砂粒を多く含む。内外面摩耗のため不明。刺突状刻目突帯文。
Fig.114-132	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.9)			微粒砂・砂粒を含む。内外面ナデ。刺突状刻目突帯文。
Fig.114-133	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.4)			砂粒を含む。内外面ナデ。刻目突帯文。
Fig.114-134	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.25)			砂粒を含む。内面ナデ。外端部刺突状刻目・条痕。刺突状刻目突帯文。
Fig.114-135	IVC層	縄文土器	深鉢		(1.5)			微粒砂を含む。内面ナデ。外端部刻目突帯。刻目突帯文。
Fig.114-136	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.2)			砂粒を含む。刻目突帯文。
Fig.114-137	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.2)			砂粒を多く含む。内外面ナデか。著しく摩耗する。
Fig.114-138	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.0)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇刻目。刻目突帯文。
Fig.114-139	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.15)			細粒砂を含む。内面ナデ。外端部刻目突帯。突帯部下位に沈線。山形波状口縁。
Fig.114-140	IVC層	縄文土器	深鉢	(20.8)	(9.5)			細粒砂～小礫を含む。内面ナデ。口縁・胴部外面に刻目突帯を貼り付け、突帯間には縦位の4本単位沈線。
Fig.114-141	IVC層	縄文土器	深鉢		(5.6)			微粒砂・砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕。
Fig.114-142	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.45)			微粒砂・砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕をナデ消す。
Fig.114-143	IVC層	縄文土器	深鉢		(5.85)			粗粒砂・小礫を多く含む。内面ナデ。外面条痕。
Fig.114-144	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.7)			砂粒を多く含む。内面ナデ。外面条痕。
Fig.114-145	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.7)			砂粒を多く含む。内面ナデ。外面条痕。
Fig.114-146	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.6)			細粒砂を多く含む。内面ナデ。外面条痕。肥厚させた口唇部に刻目。
Fig.114-147	IVC層	縄文土器	深鉢		(6.0)			少量の粗粒砂を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.114-148	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.6)			微粒砂・砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇外端部刺突状刻目。
Fig.115-149	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.5)			粗粒砂を含む。内外面条痕とみられるが、摩耗する。口唇刻目。
Fig.115-150	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.1)			砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.115-151	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.65)			砂粒を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.115-152	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.75)			微粒砂・小礫を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.115-153	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.8)			細粒砂・小礫を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.115-154	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.0)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.115-155	IVC層	縄文土器	深鉢		(1.40)			砂粒を含む。内外面ナデ。端部内面1条沈線。口唇押圧刻。
Fig.115-156	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.0)			砂粒・小礫を含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。
Fig.115-157	IVC層	縄文土器	深鉢		(1.95)			砂粒を含む。内外面ナデ。外端部刻目。
Fig.115-158	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.4)			砂粒を含む。内面ナデ。外面荒いナデ。端部内面1条沈線。口唇刻目。
Fig.115-159	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.85)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。内端部1条沈線。口唇刻目。
Fig.115-160	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.75)			微粒砂・粗粒砂を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.115-161	IVC層	縄文土器	深鉢		(4.1)			細～粗粒砂を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.115-162	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.45)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。口唇刻目。内外面端部に1条沈線。
Fig.115-163	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.1)			砂粒・小礫を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.115-164	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.2)			粗粒砂を多く含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。
Fig.115-165	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.5)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。内端部1条沈線。口唇刻目。
Fig.115-166	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.2)			微～細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。
Fig.115-167	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.75)			微粒砂を多く含む。内外面ナデ。口唇刻目。肥厚部外面刻目。外面煤付着。
Fig.115-168	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.1)			砂粒を多く含む。内面ナデ。肥厚部外面刻目。以下条痕。
Fig.115-169	IVC層	縄文土器	深鉢		(1.8)			砂粒を含む。内外面ナデ。肥厚部外面刻目。
Fig.115-170	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.6)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。端部を直角に外反させ、口唇刻目。
Fig.115-171	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.4)			細～粗粒砂を多く含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。外面刻目。
Fig.115-172	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.5)			砂粒を多く含む。内面ナデ。外面摩耗のため不明。口唇外端部刻目。
Fig.115-173	IVC層	縄文土器	深鉢		(1.8)			砂粒を含む。内外面摩耗のため不明。外端部刻目。
Fig.115-174	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.2)			微粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.115-175	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.65)			微粒砂を多く含む。内外面ナデ。内端部1条沈線。外面に突帯を有し、上部に1条沈線。
Fig.115-176	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.7)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。
Fig.115-177	IVC層	縄文土器	深鉢		(2.35)			微～細粒砂を多く含む。内外面ナデ。内端部1条沈線。外端部突帯。
Fig.115-178	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.2)			砂粒を含む。内外面ナデ後部分的にヘラミガキ。
Fig.115-179	IVC層	縄文土器	深鉢		(1.8)			微～細粒砂を多く含む。内外面ナデ。内外面赤色塗彩。
Fig.115-180	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.6)		(8.8)	細粒砂～小礫を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ナデ。
Fig.115-181	IVC層	縄文土器	深鉢		(3.0)		(5.3)	砂粒を多く含む。内外面ナデ。
Fig.115-182	IVC層	縄文土器	深鉢		(8.4)		7.6	砂粒を多く含む。内面付着物のため不明。外面ハケ。内面炭化物付着。外面煤付着。
Fig.115-183	IVC層	弥生土器	鉢		(4.1)			粗粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.115-184	IVC層	弥生土器	鉢	17.8	(6.85)			粗粒砂を多く含む。内面ヘラミガキ。外面ナデ。口縁外面煤付着。

表28　3B区出土遺物観察表（土器4）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.116-185	Ⅳc層	弥生土器	壺	17.5	(9.1)			微粒砂を含む。口縁内外面ナデ。頚部内面ヘラミガキ。 頚部外面ナデ・ヘラミガキ。口縁内面3条のヘラ描沈線。 頚部外面4条単位のヘラ描斜沈線。外面一部黒斑。
Fig.116-186	Ⅳc層	弥生土器	壺		(7.85)			砂粒を含む。内面ナデ。外面丁寧なヘラミガキ。
Fig.116-187	Ⅳc層	弥生土器	壺		(4.25)			砂粒を含む。内面ナデ。外面三角突帯に刻目。突帯上部はナデ、下部はハケ。
Fig.116-188	Ⅳc層	弥生土器	壺		(3.4)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。外面に6条の斜位沈線。
Fig.116-189	Ⅳc層	弥生土器	壺		(4.1)			微～細粒砂を含む。内面ナデ。外面丁寧なヘラミガキ。 外面2条単位の山形文。
Fig.116-190	Ⅳc層	弥生土器	壺		(5.5)			微～細粒砂を多く含む。内外面ナデ。 外面に3条沈線、他は無文。
Fig.116-191	Ⅳc層	弥生土器	壺		(4.2)			細粒砂を含む。内外面ナデ。外面に3条の斜沈線。
Fig.116-192	Ⅳc層	弥生土器	壺		(6.8)			細粒砂を少量含む。内面ナデ。外面ヘラミガキ。上部外面に横位の6条単位の沈線を描き、下部の横位の6条単位とみられる沈線との間に6条単位の山形文。
Fig.116-193	Ⅳc層	弥生土器	壺		(8.8)			砂粒を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ナデ。 外面上部に刻目突帯を有し、突帯下部には多条沈線。
Fig.116-194	Ⅳc層	弥生土器	甕	18.3	(5.6)			砂粒を含む。内外面ナデ。口縁粘土帯外面に刻目。
Fig.116-195	Ⅳc層	弥生土器	甕	22.0	(8.3)			微～細粒砂・砂粒を含む。内面ナデ・ヘラナデ。外面ナデ。 口唇外端部刻目。上胴部外面は、段部を有し、2条沈線。 外面煤付着。
Fig.116-196	Ⅳc層	弥生土器	甕		(5.8)			砂粒を含む。内面ナデ。外面ナデ・ハケ。口唇外端部刻目。 頚部外面直下の2条沈線間に列点文。外面煤付着。
Fig.116-197	Ⅳc層	弥生土器	甕		(5.0)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面煤付着激しく不明。 口唇刻目。頚部下外面2条沈線。
Fig.116-198	Ⅳc層	弥生土器	甕		(6.35)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面煤付着のため不明。 外面頚部直下の3条沈線間に列点文。3条め沈線下部ハケ。
Fig.116-199	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.5)			砂粒を含む。内外面ナデ。外面頚部下に2条ヘラ描沈線。 口唇外端部刻目。
Fig.116-200	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.05)			細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.116-201	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.2)			細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.116-202	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.65)			砂粒を含む。内面ナデ。口唇刻目。外面煤付着激しい。
Fig.116-203	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.0)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.116-204	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.95)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.116-205	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.2)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.116-206	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.1)			微粒砂を含む。内外面ナデ。口唇内面端部刺突状刻目。 外面煤付着。
Fig.116-207	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.1)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇外端部及び頚部直下に刻目。 外面煤・炭化物付着。
Fig.116-208	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.0)			細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇外端部刻目。
Fig.117-209	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.0)			砂粒を含む。内外面ハケ。口唇刻目。
Fig.117-210	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.45)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.117-211	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.6)			少量の砂粒を含む。内外面ナデ。内外面赤色塗彩。
Fig.117-212	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.80)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。口唇刻目。外面2条のヘラ描沈線と赤色塗彩。
Fig.117-213	Ⅳc層	弥生土器	甕		(5.85)			細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇刻目。外面2条のヘラ描沈線と赤色塗彩。
Fig.117-214	Ⅳc層	弥生土器	甕		(6.3)			微～細粒砂を含む。内外面ナデ。口唇刻目。外面2条のヘラ描沈線と赤色塗彩。
Fig.117-215	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.1)			粗粒砂を含む。内面ヘラミガキ。外面煤付着のため不明。 外面2条ヘラ描沈線。
Fig.117-216	Ⅳc層	弥生土器	甕		(5.0)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面ヘラミガキ。内端部1条沈線。
Fig.117-217	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.15)			微～小礫を含む。内外面ナデ。外面1条ヘラ描沈線。
Fig.117-218	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.0)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。
Fig.117-219	Ⅳc層	弥生土器	甕		(5.5)			微粒砂・砂粒を含む。内外面ナデ。
Fig.117-220	Ⅳc層	弥生土器	甕		(5.7)			砂粒を多く含む。内外面摩耗のため不明。外面指頭圧痕。
Fig.117-221	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.1)			微粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.117-222	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.0)			砂粒を含む。内面ナデ。外面ハケ。
Fig.117-223	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.55)			砂粒を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.117-224	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.65)			砂粒を含む。内面ナデ。
Fig.117-225	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.75)			砂粒を含む。内面ナデ。外面ヘラミガキ。3条の重弧文。
Fig.117-226	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.1)			砂粒を含む。内外面ナデ。3条の放射状沈線下に横位の1条沈線を描き、斜沈線を交わす。
Fig.117-227	Ⅳc層	弥生土器	甕		(2.4)			砂粒を含む。内外面ナデ。1条沈線の上下段に楕円形刺突列を施す。
Fig.117-228	Ⅳc層	弥生土器	壺?		(3.7)			微～細粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.117-229	Ⅳc層	弥生土器	壺		(4.9)		7.5	砂粒を多く含む。内面ナデ。外面丁寧なナデ。
Fig.117-230	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.65)		9.9	砂粒を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.117-231	Ⅳc層	弥生土器	甕		(3.8)		(7.4)	砂粒を多く含む。内外面ナデ。
Fig.117-232	Ⅳc層	弥生土器	甕		(5.2)		8.7	砂粒を多く含む。内面ナデ。外面ハケ後ナデ。
Fig.117-233	Ⅳc層	弥生土器	甕		(4.4)		9.2	砂粒を多く含む。内面丁寧なヘラミガキ。外面ナデ。

表29　3B区出土遺物観察表（土器5）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.117-234	Ⅳ C層	弥生土器	甕		(2.3)		5.6	粗粒砂を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ハケ。一部黒斑。
Fig.117-235	Ⅳ C層	弥生土器	甕?		(2.2)		8.9	砂粒を多く含む。内外面ナデ。
Fig.117-236	Ⅳ C層	弥生土器	甕		(4.8)		(6.3)	粗粒砂を多く含む。内外面ナデ。
Fig.117-237	Ⅳ C層	弥生土器	甕		(3.3)		(7.6)	砂粒を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ナデ。
Fig.118-238	Ⅳ C層	弥生土器	壺?		2.45			台付壺の脚部か？
Fig.118-239	Ⅳ C層	弥生土器	甕?		(3.3)			砂粒を含む。内外面ナデ。外端部に粘土帯貼付け、口唇は面を成す。
Fig.118-240	Ⅳ C層	弥生土器	甕		(2.2)			砂粒を含む。内外面ナデ。口唇2条凹線。外面煤付着。
Fig.118-241	Ⅳ C層	弥生土器	甕		(5.65)			砂粒を多く含む。内面ナデ。外面は楕円形の連続浮文を配し、直下に連続刻目。浮文上部はナデ、刻目下部は条痕。
Fig.118-242	Ⅳ C層	弥生土器	高杯		(2.75)			粗粒砂を多く含む。外面凹線文。
Fig.118-243	Ⅳ C層	弥生土器	甕		(6.3)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。櫛描直線文下に列点文。
Fig.118-244	Ⅳ C層	弥生土器	高杯		(3.6)			粗粒砂～小礫を含む。接合部に突帯が付く。
Fig.121-256	Ⅳ B層	縄文土器	浅鉢		(2.45)			内外面摩耗のため不明。黒色磨研。
Fig.121-257	Ⅳ B層	縄文土器	浅鉢		(2.3)			微粒砂を含む。内外面摩耗のため不明。黒色磨研。
Fig.121-258	Ⅳ B層	縄文土器	浅鉢		(2.75)			内外面摩耗のため不明。黒色磨研。
Fig.121-259	Ⅳ B層	縄文土器	浅鉢		(2.9)			内外面摩耗のため不明。
Fig.121-260	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(2.05)			微粒砂・砂粒を含む。内外面ナデ。口唇刻目。外面突帯。
Fig.121-261	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(2.6)			細粒砂を含む。内外面摩耗のため不明。口唇刻目。尖頭状工具による穿孔1。
Fig.121-262	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(2.45)			小礫を含む。内面ナデ。外面条痕。口唇刻目。
Fig.121-263	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(2.9)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面摩耗のため不明。口唇刻目。
Fig.121-264	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(4.5)			細粒砂を含む。内外面ナデ。内端部1状沈線。
Fig.121-265	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(5.45)			微～粗粒砂を多く含む。内外面条痕。
Fig.121-266	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(4.8)			砂粒を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.121-267	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(3.4)			細粒砂を含む。内面ナデ。外面条痕。
Fig.121-268	Ⅳ B層	縄文土器	深鉢		(2.1)			砂粒を多く含む。内面丁寧なナデ。外面荒いナデ。
Fig.121-269	Ⅳ B層	弥生土器	鉢		(3.6)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。
Fig.121-270	Ⅳ B層	弥生土器	壺		(5.5)			砂粒を含む。内面ナデ。外面2条沈線。
Fig.121-271	Ⅳ B層	弥生土器	壺		(4.8)			微～細粒砂を含む。内面ナデ。外面丁寧なナデ。外面木葉文。
Fig.121-272	Ⅳ B層	弥生土器	甕		(2.5)			細粒砂を多く含む。内外面ナデ。口唇外端刻目。
Fig.121-273	Ⅳ B層	弥生土器	壺		(8.3)			細粒砂を多く含む。口縁内面丁寧なナデ。外面丁寧なヘラミガキ。
Fig.121-274	Ⅳ B層	弥生土器	甕		(4.6)			微～細粒砂を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.121-275	Ⅳ B層	弥生土器	甕		(5.2)			細粒砂を含む。内面丁寧なナデ。口唇刻目。外面2条沈線。煤付着。
Fig.121-276	Ⅳ B層	弥生土器	甕		(2.8)		(8.0)	砂粒・小礫を含む。内面付着物（おこげ）のため不明。外面ナデ。
Fig.121-277	Ⅳ B層	弥生土器	甕		(3.6)		6.4	砂粒を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ナデ。
Fig.121-278	Ⅳ B層	弥生土器	甕		(3.8)		(9.0)	粗粒砂を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ハケ。
Fig.121-279	Ⅳ B層	弥生土器	甕		(5.45)		6.9	砂粒を多く含む。内外面ナデ。
Fig.121-280	Ⅳ B層	弥生土器	壺?		(4.6)		(11.5)	砂粒を多く含む。内面ナデ。外面摩耗のため不明。
Fig.122-281	Ⅳ A層	縄文土器	浅鉢		3.3			砂粒を含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.122-282	Ⅳ A層	縄文土器	深鉢		(3.5)			細粒砂～小礫を多く含む。内外面ナデ。刻目突帯。
Fig.122-283	Ⅳ A層	縄文土器	深鉢		(6.9)			砂粒を含む。内面ナデ。口縁端部外面貼付部は斜位の刻目を施し、刻目下位には楕円形の連続浮文を巡らせる。以下条痕調整。
Fig.122-284	Ⅳ A層	縄文土器	深鉢		(2.7)		(7.3)	砂粒・礫を多く含む。内外面摩耗のため不明。
Fig.122-285	Ⅳ A層	弥生土器	甕		(2.1)			砂粒を含む。内面摩耗のため不明。外面刻目。
Fig.122-286	Ⅳ A層	弥生土器	甕		(5.6)			微粒砂を多く含む。内外面ナデ。口唇刻目。
Fig.122-287	Ⅳ A層	弥生土器	甕		(3.3)			粗粒砂～小礫を含む。内面摩耗のため不明。外面荒い原体のハケ。
Fig.122-288	Ⅳ A層	弥生土器	甕?		(2.7)		(14.0)	細粒砂を多く含む。調整不明。
Fig.122-289	Ⅳ A層	弥生土器	器台		(3.65)			細粒砂を多く含む。脚端部外面には凹線文3条が巡る。裾部外面は5個単位か、竹管状文が下位より3段まで残存し、その両脇には縦位のヘラ描沈線6条を施す。
Fig.122-290	Ⅳ A層	弥生土器	甕		(3.7)			砂粒を多く含む。内面荒い原体のハケ。外面ハケ。煤付着。
Fig.122-291	Ⅳ A層	弥生土器	甕		(3.7)		(6.5)	微～砂粒を多く含む。内面ナデ。外面荒い原体のハケ。
Fig.122-292	Ⅳ A層	土師器	甕		(3.3)			砂粒を含む。内外面ナデ。
Fig.122-293	Ⅳ A層	土師器	甕		(4.4)			砂粒を含む。内外面ナデ。
Fig.122-294	Ⅳ A層	土師器		16.8	(6.4)			粗粒砂を含む。内外面ハケ。
Fig.122-295	Ⅳ A層	土師器	壺	8.6	13.3	12.4		微～細粒砂を多く含む。内外面ナデ。胴部内面指ナデ痕顕著。
Fig.122-296	Ⅳ A層	須恵器	杯	12.05	4.75			内面ナデ。外面底部付近はナデ後回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。
				全　長	全　幅	全　厚	重量(g)	
Fig.122-297	Ⅳ A層	土製品	模造鏡	4.6	3.7	2.3	14.5	砂粒を含む。両面ナデ。摘部には孔径0.4㎜の穿孔を有す。
Fig.122-298	Ⅳ A層	土師器	皿		(1.6)		(6.9)	砂粒を僅かに含む。内外面丁寧なヨコナデ。
Fig.122-299	Ⅳ A層	土師器	皿		3.8			砂粒をほとんど含まない精選された胎土。内外面丁寧なヨコナデ。
Fig.124-307	Ⅲ E層	弥生土器	甕		(4.3)		10.35	粗粒砂～小礫を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ハケ。内面付着物（おこげ）。
Fig.124-308	Ⅲ E層	土師器	高杯		(5.4)		10.0	細粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.124-309	Ⅲ E層	土師器	高杯		(5.5)		10.2	細粒砂を含む。内面ナデ。外面ハケ後ナデ？
Fig.124-310	Ⅲ E層	土師器	高杯	16.4	12.9		10.6	微～細粒砂を含む。杯部上半部内外面ナデ、底部内面ヘラナデ。脚部内面ヘラケズリ。杯部下半部外面ナデ。脚部外面ハケ後ナデ。

表30　3B区出土遺物観察表（土器6）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm）				特　　徴
				口　径	器　高	胴　径	底　径	
Fig.124-312	ⅢD層	土師器	甕	16.2	(3.5)			砂粒を多く含む。内外面ナデ。外面煤付着。
Fig.124-313	ⅢD層	土師器	甕	15.5	(17.8)	17.0		粗粒砂を含む。口縁内外面ナデ。胴部内外面ハケ。胴部外面黒斑。
Fig.124-314	ⅢD層	土師器	甕		(3.2)		3.5	粗粒砂を含む。内面摩耗のため不明。外面タタキ・ハケ。
Fig.124-315	ⅢD層	土師器	高杯	16.2	(6.3)			細粒砂を多く含む。内面摩耗のため不明。外面ナデ。杯部外面から脚部接合部にかけてハケ。
Fig.124-316	ⅢD層	土師器	高杯		(6.25)		10.4	砂粒を多く含む。内外面摩耗のため不明。外面ヘラミガキ。
Fig.124-317	ⅢD層	須恵器	杯蓋	12.0	4.4			天井部外面回転ヘラケズリ。天井部中心付近にナデ。他は回転ナデ。
Fig.125-321	ⅢB層	土師器	甕	16.1	(5.5)			細粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.125-322	ⅢB層	土師器	甕	17.0	(7.3)			細粒砂を含む。内外面ナデ。
Fig.125-323	ⅢB層	土師器	甕	18.2	(16.55)	27.6		細粒砂を含む。口縁内外面ナデ。胴部外面摩耗のため不明。胴部内面ヘラケズリ後ナデ。
Fig.125-324	ⅢB層	土師器	甕	17.0	(18.7)	22.3		粗粒砂を含む。口縁内面ナデ。胴部内面ヘラケズリ。外面下半部煤付着が激しい。
Fig.126-325	ⅢB層	土師器	甕	19.0	(19.7)	26.5		粗粒砂を多く含む。内面ヘラケズリ。外面ナデ・ハケ。胴部外面煤付着。
Fig.126-326	ⅢB層	須恵器	杯身	13.1	4.0			底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。
Fig.126-327	ⅢB層	須恵器	杯蓋	13.6	4.1			天井部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。
Fig.126-328	ⅢB層	須恵器	杯身	11.95	4.65			底部外面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。
Fig.126-329	ⅢB層	須恵器	杯身	13.35	3.7		8.9	内外面ナデ。底部外面回転ヘラ切り後ナデ。内外面火襷痕。焼成不良。
Fig.126-330	ⅢB層	須恵器	皿	16.0	2.3		(12.3)	内外面ナデ。焼成不良。
Fig.126-331	ⅢB層	土師質土器	杯		(2.9)		7.7	内外面ナデ。底部外面回転ヘラ切り後ナデ？

表31　3B区出土遺物観察表（石器）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	法　量				特　　徴
			全長（cm）	全幅（cm）	全厚（cm）	重量（g）	
Fig.119-95	ⅣD層	石皿	11.8	7.95	1.9	308.6	完存。偏平礫であり、両面とも平滑であるが、僅に凹面を成す。砂岩製。
Fig.119-245	ⅣC層	磨製石斧	1065	2.7	1.1	49.6	刃部の片面を欠損する。表面の刃部・基部・右側縁に擦痕、調整剥離は左側縁に多い。裏面の刃部一部・基部を研磨する。 結晶片岩製。
Fig.119-246	ⅣC層	叩石	16.0	4.0	2.6	313.6	両端部及び周縁部に敲打痕を有する。砂岩製。
Fig.119-247	ⅣC層	両刃磨製石斧	(8.8)	8.25	2.2	254.7	伐採斧。基部の左側縁は欠損する。全面に擦痕が多い。刃部は使用痕か。蛇紋岩製。
Fig.119-248	ⅣC層	両刃磨製石斧	(7.65)	5.3	2.1	98.7	基部は欠損し、刃部は不整である。敲打整形痕が多い。砂岩製。
Fig.119-249	ⅣC層	両刃磨製石斧	9.05	4.5	1.6	83.5	完存。擦痕が多い。調整剥離が多く残る。蛇紋岩製。
Fig.119-250	ⅣC層	磨製石鏃	(5.95)	1.60	0.45	5.80	基部・尖端部は欠損する。柳葉形を呈し、側縁は両刃に仕上げる。稜線が明瞭であり、擦痕が多い。頁岩製。
Fig.119-251	ⅣC層	打製石鏃	2.2	1.5	0.3	1.1	完存。素材背面側であり、片面は主剥離面側である。平基。 サヌカイト製。
Fig.120-252	ⅣC層	叩石	11.4	10.1	5.85	9.2	表裏面に敲打による凹み。周縁部にタール付着。花崗岩製。
Fig.120-253	ⅣC層	叩石	9.35	7.9	4.85	508.1	長軸両端部及び周縁部の一部に僅に敲打痕。石英安山岩製。
Fig.120-254	ⅣC層	叩石	12.0	10.2	6.2	1150	表面と長軸両端部及び周縁部に敲打痕。花崗岩製。
Fig.123-300	ⅣA層	打製石斧	14.7	6.5	1.1	199.2	完存。縦位の擦痕がある磨製状の刃部は使用に伴い鈍化する？ 全面的に観察される段・稜線は、使用に伴い鈍化する。 結晶片岩製。
Fig.123-301	ⅣA層	両刃磨製石斧	(7.85)	(4.75)	2.05	99.0	基部及び刃部の一部は欠損する。円礫皮面が残り、擦痕が多い。片面は打割面であり、刃部側付近のみ研磨する。刃部は鋭く、小面を形成する。結晶片岩製。
Fig.123-302	ⅣA層	磨石	8.1	6.6	5.1	370.9	片面が滑面になる。花崗岩製。
Fig.123-303	ⅣA層	叩石	6.7	6.2	6.9	825	片面及び周縁部に敲打痕。花崗岩製。
Fig.123-304	ⅣA層	磨石	10.8	8.9	6.9	825	片面が滑面になる。花崗岩製。
Fig.127-311	ⅢE層	石包丁	11.05	4.7	1.2	83.9	完存。両端部を打欠く。主剥離面側には調整痕が顕著にみられ、片面の円礫素材面は背部調整なし。殆ど片面調整。 凝灰質頁岩製。
Fig.127-332	ⅢB層	磨製石斧	7.9	2.6	0.9	34.4	完存？偏平円礫素材。擦痕が多く、多面構成。基部には研磨した凹部が2箇所。結晶片岩製。
Fig.127-333	ⅢB層	叩石	6.6	6.1	5.55	272.1	一端部に僅に敲打痕。砂岩製。
Fig.127-334	ⅢB層	叩石	9.7	5.3	6.2	448.8	長軸一端部及び短軸両端部に敲打痕。砂岩製。
Fig.127-384	ⅢA層	叩石	13.4	10.4	5.2	1350	両面中央部に敲打による凹み。タール付着。花崗岩製。
Fig.127-385	ⅢA層	叩石	7.4	8.9	5.4	610	両面及び周縁部に敲打痕。砂岩製。

表32　3B区出土遺物観察表（木製品1）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	樹　種	木取り他	法量（cm） 全　長	全　幅	全　厚	特　　徴
Fig.106-10	SR1	舟　形	スギ科 スギ	柾　目	18.8	4.1	1.5	表面は刳り抜き加工の痕跡が残り、裏面は船底状に仕上げる。
Fig.106-11	SR1	棒　材	コウヤマキ	柾　目	12.2	1.2	0.6	片面端部に加工途中の痕跡が残るが、用途不明。
Fig.106-12	SR1	板　材	スギ科スギ	板　目	37.2	9.7	1.2	2箇所に方形の切り欠きを入れるが用途不明。
Fig.106-13	SR1	田下駄	コウヤマキ科 コウヤマキ	板　目	45.7	5.1	1.5	枠型。側辺中央部の隆起部に長方形孔を有するが破損する。両端部のほぞ状突起部は欠損する。
Fig.106-14	SR1	田下駄	コウヤマキ科 コウヤマキ	板　目	47.1	8.2	1.5	枠型。側辺中央部の隆起部に長方形孔を有する。両端部にほぞ状突起を有したとみられるが、片方の一部のみ残存する。
Fig.106-15	SR1	竪　杵	ブナ科シイ属	心持ち	96.6	6.5	5.1	円柱状の両端部は荒く、握部に近づくにつれて径を減じ、握部を極端に細める。
Fig.108-27	SR2	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	柾　目	70.5	6.3	3.0	約4.5cm間隔のほぞ孔6個が残存する。それ以外にも有するものとみられるが欠損・焼失するため確認できない。枠型の枠木か。
Fig.108-28	SR2	田下駄?	ヒノキ属	板　目	39.9	5.0	1.3	ほぞ状の突起が付くが一方は焼失する。枠型の枠材か。
Fig.108-29	SR2	田下駄?	ヒノキ属	板　目	20.4	5.2	1.4	ほぞ状の突起が付くが一方は焼失する。枠型の枠材か。
Fig.108-30	SR2	板　材	ヒノキ属	柾　目	8.3	4.4	1.2	突起部を呈するが、部分的に炭化する。
Fig.108-31	SR2	杭	ヒノキ属	板　目	43.5	9.2	2.3	両側辺から削り込み先端部とする。他は欠損する。
Fig.108-38	SR3	舟　形	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	42.9	18.7	5.3	先端部から20cmの箇所に方形未貫通孔。他にも孔が存在したかもしれないが、欠損するため不明。
Fig.110-39	SR3	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	56.0	5.4	2.9	約3cm間隔のほぞ孔8孔が残存する。他は欠損するため不明。枠型の枠材か。
Fig.110-40	SR3	舟	スギ科 スギ	心持ち	(131.4)	(32.1)	27	原木を縦に分割後刳り抜いたものか。舳先は平滑に仕上げ、舟首部から丁寧に加工・調整が施された右舷の一部にかけて残存する。荒く断ち切られる。
Fig.128-255	ⅣC層	鍬	アカガシ亜属	柾　目	11.3	5.3	2.9	柄孔隆起部。紡錘形の隆起部に楕円孔を穿つ。
Fig.128-305	ⅣA層	曲　物	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	52.2	(10.0)	2.6	周縁部に段部を巡らせ、結合孔2箇所に緊縛状態の樹皮が残存する。
Fig.128-306	ⅣA層	田下駄?	ヒノキ科 アスナロ属	板　目	43.8	18.7	4.3	摩滅・欠損のため残存状態は良くなく、原形の想定も困難。田下駄の未製品か。
Fig.129-318	ⅢD層	田下駄	ヒノキ科クロベ	板　目	31.0	7.7	1.6	両端部両側端から三角形の切り欠きを入れ、5孔が残存する。
Fig.129-319	ⅢD層	田下駄	スギ属スギ	板　目	45.0	8.7	1.5	両端隅部を切り取り、緒孔・紐孔計7孔を穿つ。
Fig.129-320	ⅢD層	板　材	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	47.2	4.9	1.5	両端部片側にV字状の切り欠きが残存する。左側面にも同様の痕跡が残る。田下駄関連の部材か。
Fig.129-335	ⅢB層	板　材	ヒノキ科 アスナロ属	板　目	25.0	3.5	1.5	上方部側端部に2箇所ずつの切り欠き。下方は欠損する。 祭祀関連か。
Fig.129-336	ⅢB層	板　材	ヒノキ属	柾　目	24.4	4.1	1.3	両側端に切り欠き。下方は欠損。祭祀関連か。
Fig.129-337	ⅢB層	板　材	ヒノキ属	柾　目	17.0	3.0	0.9	上方部両側端に切り欠き。下方は欠損。祭祀関連か。
Fig.129-338	ⅢB層	板　材	ヒノキ科 ヒノキ属	柾　目	11.8	3.5	0.9	上方部両端に切り欠きを入れ、端部は圭頭状に加工する。下方は欠損する。祭祀関連か。
Fig.129-339	ⅢB層	斎串状	クロベ属クロベ	板　目	11.1	1.0	0.3	薄板の一方を両側面から削り尖らせ、他方は欠損する。
Fig.129-340	ⅢB層	斎串状	ヒノキ属	柾　目	10.2	0.9	0.4	薄板の一方を両側面から削り尖らせ、他方は欠損する。
Fig.129-341	ⅢB層	斎串状	ヒノキ属	柾　目	9.0	1.6	0.2	薄板の一方を両側面から削り尖らせ、他方は欠損する。
Fig.130-342	ⅢB層	棒　材	コウヤマキ科 コウヤマキ	心去り	44.3	2.5	1.8	多面体であり、両端近くに相がきつぎの片かきをコ字状に切り込む。
Fig.130-343	ⅢB層	棒　材	ヒノキ属	心去り	40.9	2.4	1.5	断面4面体で、両端部に紐かけ部を削り出す。
Fig.130-344	ⅢB層	棒　材	アスナロ属	心去り	35.1	1.6	1.3	断面多面体で先端部を削り尖らせる。
Fig.130-345	ⅢB層	棒　材	ヒノキ属	心去り	39.7	2.2	1.9	断面五角形。両端近くに紐かけ部を削り出す。
Fig.130-346	ⅢB層	棒　材	ヒノキ科 ヒノキ属	心去り	42.2	1.8	1.7	多面体。端部に向けて徐々に削り細め、先端部は丸みを帯びる。
Fig.130-347	ⅢB層	棒　材	コウヤマキ科 コウヤマキ	板　目	52.4	2.8	1.5	断面楕円形で一端を4cmほど削り細め、方形の差し込み状に加工する。他端は丸みを帯びる。
Fig.130-348	ⅢB層	板　材	ヒノキ科 ヒノキ属	柾　目	31.4	19.4	5.0	他の部材と結合させるとみられるほぞ状の凸部を有する。裾広がりの厚手の板材。
Fig.131-349	ⅢB層	板　材	ヒノキ属	柾　目	6.3	8.7	1.2	両面・周縁部とも丁寧に加工するが、用途不明。
Fig.131-350	ⅢB層	曲　物	ヒノキ属	板　目	64.0	10.3	1.1	周縁部には浅溝を巡らせる。結合孔3孔が残存し、1孔には樹皮が残存する。
Fig.131-351	ⅢB層	板　材	ヒノキ属	板　目	35.6	9.2	2.8	側辺の隆起部分にコ字状の切り欠きが入るが用途不明。
Fig.131-352	ⅢB層	板　材	コウヤマキ	板　目	30.8	8.6	1.3	両端部に突起を有するが用途不明。
Fig.132-353	ⅢB層	田下駄	アスナロ属	板　目	36.3	13.0	1.6	輪樏型の前後共用とみられる。緒孔・紐孔他計14孔を穿つが、うち5孔は未貫通である。上端右孔と下端中央の貫通孔にはダボを埋め込む。
Fig.132-354	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	追　柾	41.8	13.7	1.9	輪樏型とみられ、一方の両端隅部を切り取る。緒孔・紐孔計11孔が残存する。紐孔前壷を正中線より右にずらせてあることから左足用とみられる。
Fig.132-355	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	50.6	18.0	2.4	舟形の先端部に切り込みを入れ、紐かけ部を作り出す。 5孔が残存する。

表33　3B区出土遺物観察表（木製品2）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	樹　種	木取り他	法量（cm） 全　長	全　幅	全　厚	特　　徴
Fig.133-356	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	54.9	12.1	1.6	箱型の未製品とみられ、正中線に沿って折損する。両端隅部は丸みを帯びる。両端近くの両側端に切り欠きを入れ、緒孔2孔を穿つ。
Fig.133-357	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	44.5	14.0	1.7	輪樏型か。緒孔・紐孔計5孔が残存する。後方部は欠損する。
Fig.134-358	ⅢB層	田下駄	スギ科スギ	板　目	47.1	9.9	1.6	輪樏型か。緒孔・紐孔計7孔が残存する。8孔めの有孔部は欠損し、裏面の紐孔外側には外枠の緊縛痕が明瞭に残る。359と対か。
Fig.134-359	ⅢB層	田下駄	スギ科スギ	追　柾	47.4	9.1	1.6	輪樏型か。緒孔・紐孔計8孔が残存する。裏面の緒孔外側には外枠の緊縛痕が明瞭に残る。358と対か。
Fig.134-360	ⅢB層	田下駄	マツ科 モミ属	板　目	81.2	13.5	1.5	箱型か。両端隅部を切り取り、舟形状に加工するが後壷で折損する。
Fig.135-361	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 アスナロ属	柾　目	40.7	8.8	1.1	輪樏型未製品か。緒孔・紐孔計5孔を穿つ。端部及び側辺部はやや丸みを持つ。
Fig.135-362	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	柾　目	37.9	10.9	1.1	舟形を呈し、両側端部に切り欠きを入れる。正中線に沿って折損し、後方部は欠損する。
Fig.135-363	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	38.5	13.3	2.1	舟形を呈し、両側端部に切り欠きを入れる。後方は中央部より欠損する。
Fig.136-364	ⅢB層	田下駄	コウヤマキ科 コウヤマキ	柾　目	48.8	8.8	1.3	箱型か。両端部を両側面から僅に削り細め、掛り状に加工する。
Fig.136-365	ⅢB層	田下駄?	スギ科 スギ	板　目	50.4	6.2	1.7	両端部を両側面から切り取り凸状に加工するが、用途不明。
Fig.136-366	ⅢB層	田下駄?	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	48.4	6.6	1.6	両端部を両側面から切り取り凸状に加工するが、用途不明。
Fig.136-367	ⅢB層	板材	ヒノキ属	板　目	31.4	3.5	0.7	有孔板材で6孔を穿ち、7・8孔めは破損する。用途不明。
Fig.137-368	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	柾　目	47.3	8.3	1.7	輪樏型か。両端隅部を切り取り、緒孔・紐孔計3孔が残存する。正中線に沿って欠損する。
Fig.137-369	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	41.1	6.2	1.4	輪樏型か。一方の端部に丸みを付け、緒孔・紐孔計3孔が残存する。正中線に沿って欠損する。
Fig.137-370	ⅢB層	田下駄	ヒノキ属	板　目	40.2	10.3	1.4	両端部は欠損し、緒孔・紐孔計5孔が残存する。
Fig.137-371	ⅢB層	田下駄	クロベ属 クロベ	板　目	44.8	(8.6)	1.5	前方隅部を切り取り、緒孔2孔が破損して残存する。正中線より欠損する。
Fig.138-372	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 アスナロ属	柾　目	46.2	8.6	1.6	輪樏型か。一方の端部は丸みを持ち、方孔2孔が残存する。3孔めは破損し、4孔めは未貫通である。
Fig.138-373	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	35.2	15.3	1.8	曲材を使用するが、両端部は欠損する。緒孔・紐孔計6孔が残存するが、7孔めは破損する。
Fig.138-374	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	39.1	10.1	1.3	一方の端部は丸みを持ち、方孔2、円孔1孔が残存する。 3個めの方孔から後方部にかけては欠損する。
Fig.139-375	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	43.5	8.9	1.4	一方の端部及び側辺部は欠損する。緒孔・紐孔計5孔が残存するが、6孔めは破損する。
Fig.139-376	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	43.5	8.4	1.9	輪樏型の折損材を転用したものか。片面の丸みを持つ両端部は表面を削り薄め、調整痕が顕著に残る。
Fig.139-377	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	40.9	6.4	1.5	一方の端部隅を切り取り、他端は欠損する。正中線より欠損し、3孔が残存する。
Fig.140-378	ⅢB層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	62.9	8.5	2.0	正中線に沿って欠損するが、両端部は丸みを持つとみられる。緒孔2孔が残存する。
Fig.140-379	ⅢB層	板　材	ヒノキ科 アスナロ属	板　目	40.0	4.9	1.7	一方の端部は丸みを持ち、3孔が残存するが用途不明である。他端は欠損する。
Fig.141-380	ⅢB層	板　材	コウヤマキ科 コウヤマキ	板　目	93.9	10.4	3.4	両端部近くに方形のほぞ孔2孔を穿つ。全体的に丁寧な加工・調整を施す。
Fig.141-381	ⅢB層	垂木?	イチイ科 カヤ属	柾　目	173.2	10.0	5.8	建築部材か。片面のみ削り尖らせた先端部から15cm、末端部から37cmの箇所にコ字状の切り込みを持つ。
Fig.142-382	ⅢB層	垂木?	ヒノキ科 アスナロ属	心持ち	250.3	14.0	8.4	約19cmの円柱状の削り出しを持ち、先端部は尖らせる。 先端部から約70cmの箇所に方孔を穿ち、約40cmおきに同様の方孔計3孔を穿つ。
Fig.142-383	ⅢB層	梯　子	ヒノキ科 ヒノキ属	心持ち	(194.0)	19.0	11.6	一木梯子。全体的に荒い作りで、足掛け4段を作り出す。 摩耗が著しい。
Fig.143-386	ⅢA層	田下駄	ヒノキ属	板　目	56.5	11.8	1.5	枠型か。両端部は丸みを持ち、7孔を穿つ。
Fig.143-387	ⅢA層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	53.5	13.0	2.1	箱型か。両端部は丸みを持つものとみられる。3孔が残存する。
Fig.144-388	ⅢA層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	柾　目	65.6	20.6	1.3	輪樏型か。一方の端部は丸みを帯び、他端部は欠損するが、丸みを持つものとみられる。緒孔・紐孔計8孔が残存する。
Fig.144-389	ⅢA層	田下駄	ヒノキ属	板　目	57.3	10.2	1.9	両端近くの両側辺から切り欠きを入れ、緒孔3孔を穿つ。
Fig.145-390	ⅢA層	田下駄	ヒノキ科 ヒノキ属	板　目	75.9	14.0	1.3	枠型か。前方部は舟形に加工し、後方端部は両隅を切り取る。緒孔3孔を穿つ。
Fig.145-391	ⅢA層	田下駄	コウヤマキ	板　目	80.7	14.5	2.2	枠型か。両端部は舟形を呈し、緒孔3孔を穿つ。4孔めは未貫通である。

表34　3B区出土遺物観察表（土器7）

挿図番号	出土地点 層　位	器　種	器　形	法量（cm） 口　径	器　高	胴　径	底　径	特　　徴
Fig.146-392	T　R	縄文土器	深　鉢		(2.7)			内面ナデ。外面に楕円・不整形の浮文を配す。
Fig.146-393	T　R	弥生土器	壺		(4.0)			砂粒を含む。内面ナデ。胴部外面に多条の櫛描文、下端には刺突文を巡らせる。
Fig.146-394	表採	土師器	甕	14.6	(5.9)			砂粒を含む。内面ナデ。口縁部外面ナデ、胴部はタタキ。
Fig.146-395	バンク	土師器	小型丸底土器	11.6	7.0			微～砂粒を含む。内外面ナデ。口縁部は、やや扁平な胴部から大きく屈曲し、短く内湾気味に上がる。端部は細く仕上げる。外面に指頭圧痕が残る。
Fig.146-396	表採	土師器	甕	14.6	(10.1)			細～粗粒砂を含む。内外面ヘラナデ。全体的に調整が粗雑。

（6） 4C区

1. 調査の概要

本調査区は居徳遺跡群第4調査区の中央部に位置する調査地区で，調査前の状態は水田であった。本調査地区の両側には清滝山系からのびた埋没小丘陵が存在し，本調査区はそれらの小丘陵に挟まれた谷地形を呈しており，堆積土層も粘土質シルトが主体である。遺物包含層は2層確認されたが，全体的に遺物の量は少ない。遺構は調査区の中央部付近で，古墳時代とみられる遺構検出面と縄文時代晩期の遺構検出面が確認されたが，遺構数は少なく，古墳時代とみられる遺構検出面では溝跡・ピット，縄文時代晩期の遺構検出面では土坑，自然流路が検出された。

2. 調査の方法

本調査区では遺構検出面が2面存在しており，第1遺構検出面，第2遺構検出面とも耕作土及び遺物包含層の上層までを重機掘削を行った。その後，公共座標に則った4m四方のグリッドを設定し，遺物包含層の人力掘削を行った。検出された遺構は人力で掘削し，状況に応じて断面図，平面図を作成した。

3. 層序

4C区で認められた層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　褐灰色（10YR4/1）シルト層

第Ⅱ層　黒褐色（2.5YR3/2）シルト層

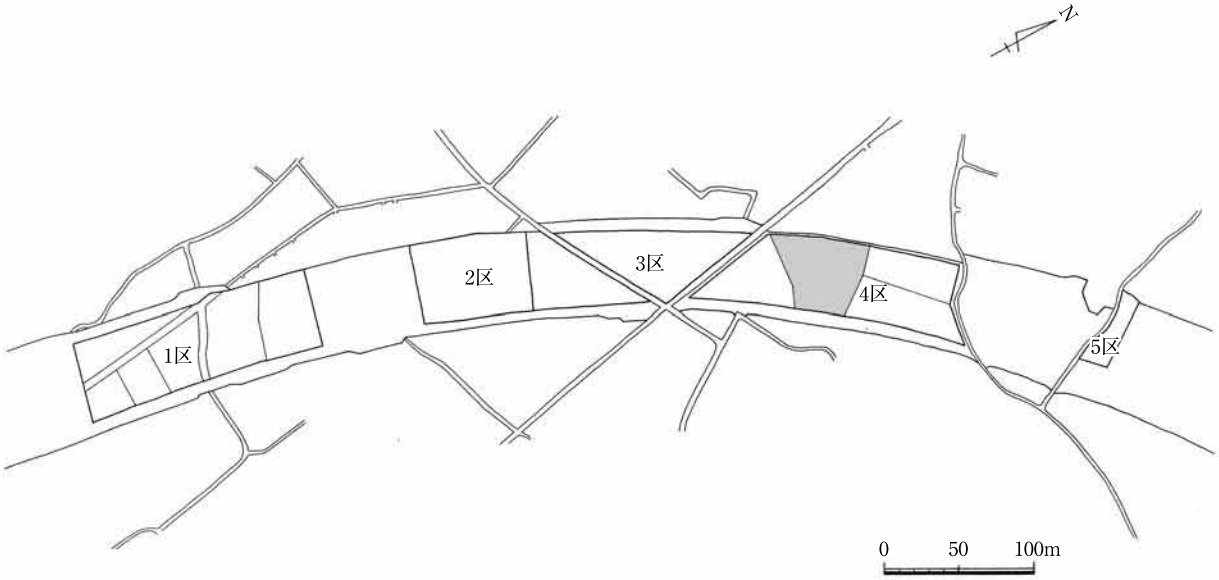
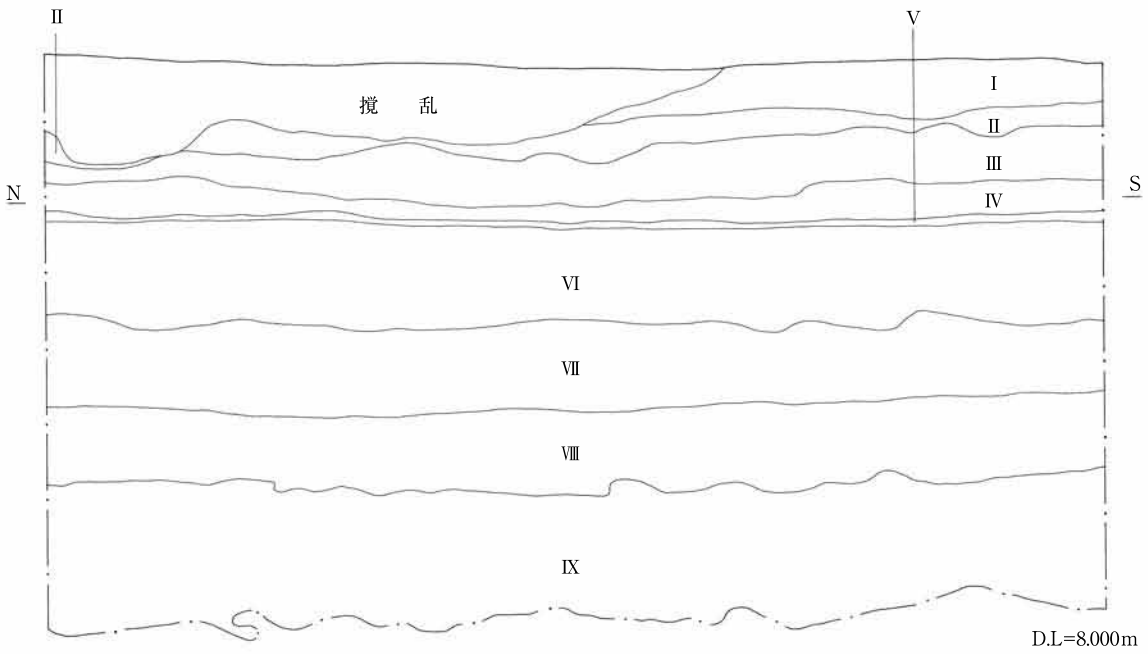


Fig.147　4C区の位置（S:1/5,000）



第Ⅰ層　褐灰色(10YR4/1)シルト層
第Ⅱ層　黒褐色(2.5YR3/2)シルト層
第Ⅲ層　黒褐色(10YR2/2)シルト層
第Ⅳ層　黒色(5YR1.7/1)粘土質シルト層で有機物を多量に含む
第Ⅴ層　黒褐色(7.5YR2/2)シルト層
第Ⅵ層　暗赤褐色(5YR3/2)シルト層
第Ⅶ層　黒色(7.5YR1/2)粘土質シルト層
第Ⅷ層　黄灰色(2.5Y/4/1)シルト層
第Ⅸ層　灰色(5Y5/1)シルト層
第Ⅹ層　灰色(10Y5/1)シルト層

0　1m

Fig.148　東壁セクション図

第Ⅲ層　黒褐色(10YR2/2)シルト層

第Ⅳ層　黒色(5YR1.7/1)粘土質シルト層で有機物を多量に含む

第Ⅴ層　黒褐色(7.5YR2/2)シルト層

第Ⅵ層　暗赤褐色(5YR3/2)シルト層

第Ⅶ層　黒色(7.5YR1/2)粘土質シルト層

第Ⅷ層　黄灰色(2.5Y/4/1)シルト層

第Ⅸ層　灰色(5Y5/1)シルト層

第Ⅹ層　灰色(10Y5/1)シルト層

層位中遺物包含層は第Ⅷ層と第Ⅸ層であり，遺構が検出されたのは第Ⅸ層上面と第Ⅹ層上面であった。

第Ⅰ層は現在の床土であり，鉄分の沈着がみられた。

第Ⅱ層から第Ⅶ層までは自然堆積層であり，第Ⅳ層は有機物を多量に含んでおり，第Ⅳ層堆積時には湿地であったと考えられる。

第Ⅷ層は古墳時代と考えられる遺物包含層であるが，遺物量は少なく，第Ⅸ層上面で当該期とみられる遺構を検出した。

第Ⅸ層は縄文時代晩期の遺物包含層であるが，遺物量は古墳時代遺物包含層と同様少なく，当該期の遺構を第Ⅹ層上面で検出した。

4. 堆積層出土遺物

第Ⅰ層出土遺物

縄文土器(Fig.149−1〜5)

1〜4は深鉢の口縁部破片である。1は緩やかに外反して立ち上がり，外面には煤が付着する。2も緩やかに外反して立ち上がり，口縁部端面に刻目，口縁端部外面には雑な刻目突帯を施す。3はほぼ直線的に立ち上がる。4は頚部から口縁部にかけて大きく外反して立ち上がり，口縁部端面に刻目，口縁部外面には雑な刻目突帯を施す。

5は浅鉢とみられる口縁部破片で，口縁端部がやや内傾して立ち上がる。

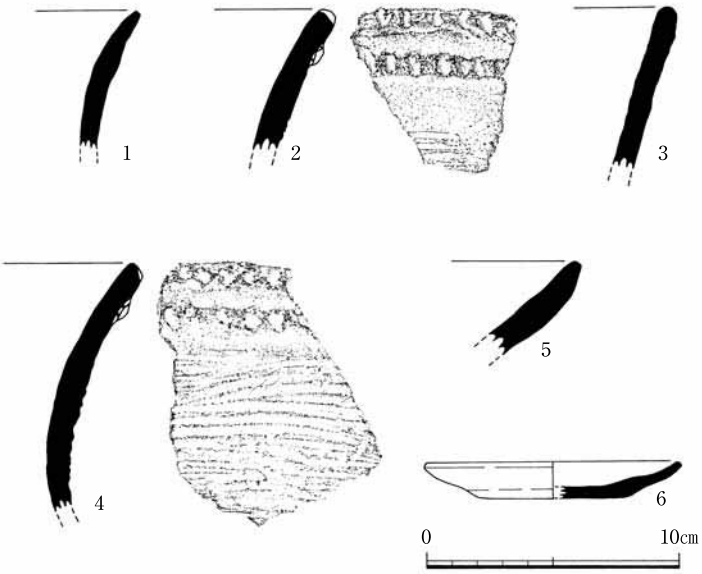


Fig.149　第Ⅰ・Ⅳ層出土遺物(縄文土器・土師質土器)

第Ⅳ層出土遺物

土師質土器(Fig.149−6)

6は小皿で，口縁部はやや内傾する。調整は摩耗が著しく不明である。

第Ⅷ層出土遺物

縄文後期土器(Fig.150−7)

7は縄文時代後期の浅鉢とみられ，外面に長楕円形，円形とみられる区画文を描き，区画内には縄文を充填している。

縄文晩期土器(Fig.150−8〜14)

8〜11は深鉢である。8〜10は口縁部破片で，8はやや外反して立ち上がり，口縁部端面には刻目を施す。9は頚部から口縁部にかけて大きく屈曲して立ち上がり，調整は内外面とも摩耗が著しく不明である。10は直線的に立ち上がり，調整は内外面とも摩耗が著しく不明である。11は底部破片で胴部は殆ど残存せず，煤が付着している。

12・13は浅鉢であるが，同一個体の可能性も考えられる。12・13は口縁端部を肥厚させ，鰭状突起を有する。

14は鉢で，外底面が大きく凹み，胴部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる。

弥生土器(Fig.150−15・16)

15は壺の胴部破片で，外面には木葉文を描く。

16は甕の底部破片で，胴部は殆ど残存していない。

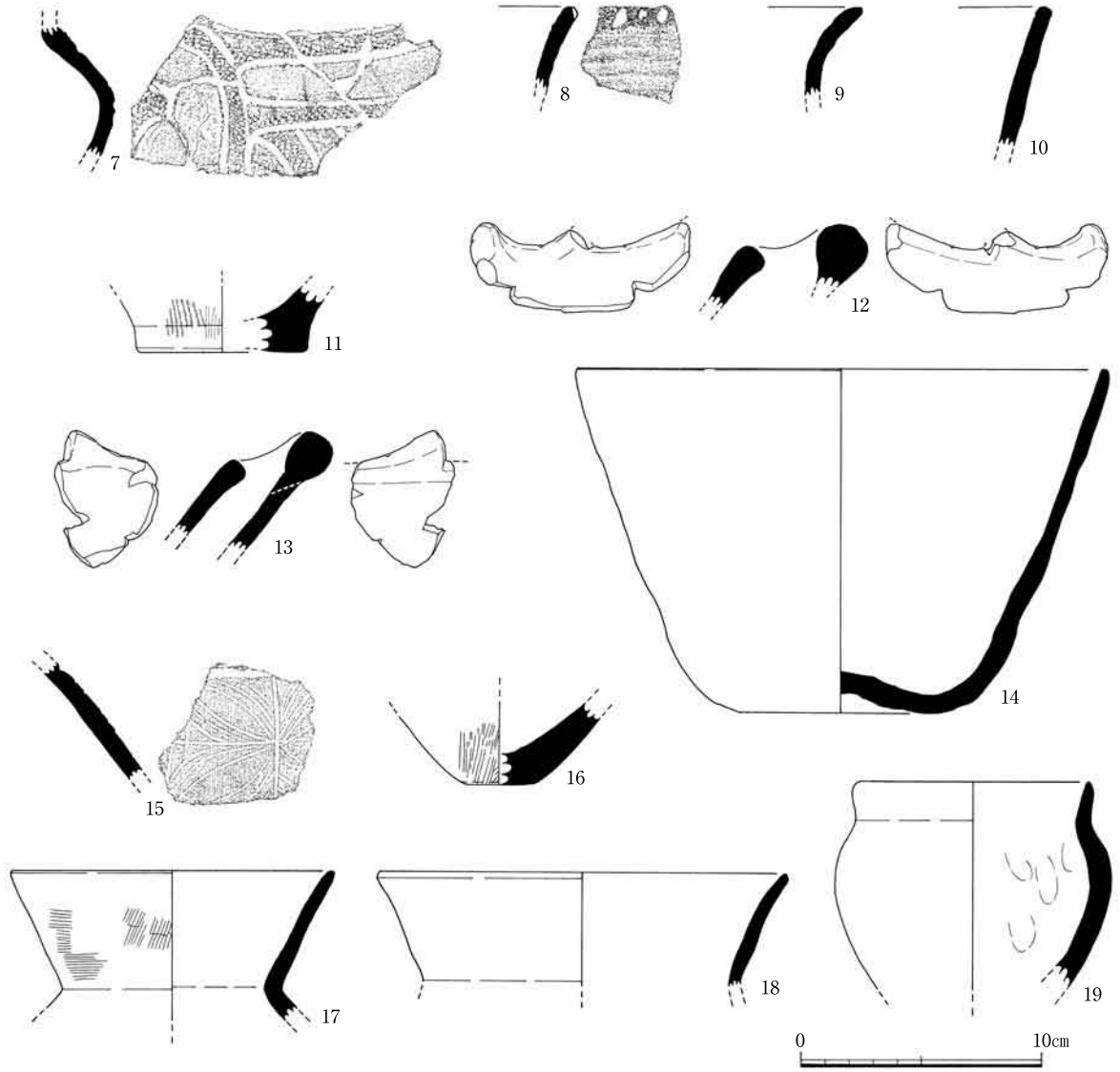


Fig.150　第Ⅷ層出土遺物1（縄文土器・弥生土器・土師器）

土師器（Fig.150−17〜19）

17・18は壺の口縁部破片である。17は頚部が「く」字状に屈曲し，口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。18は口縁部がやや外反して立ち上がる。

19は鉢で，口縁部が斜め上方に短く立ち上がる。

土製品（Fig.151−20）

20は土鈴とみられ，下端は欠損する。上端は拡張されており孔を穿つ。

石製品（Fig.151−21〜29）

21は凹基式の打製石鏃で，側辺に細かな調整を加える。

22〜25は磨製石斧で，刃部のみ残存する。22は表面には研磨痕が明瞭に残り，23は研磨痕が一部に残る。24は刃部の先端のみ研磨を施し，25は側辺部を打ち欠き刃部の一部のみ研磨を施す。

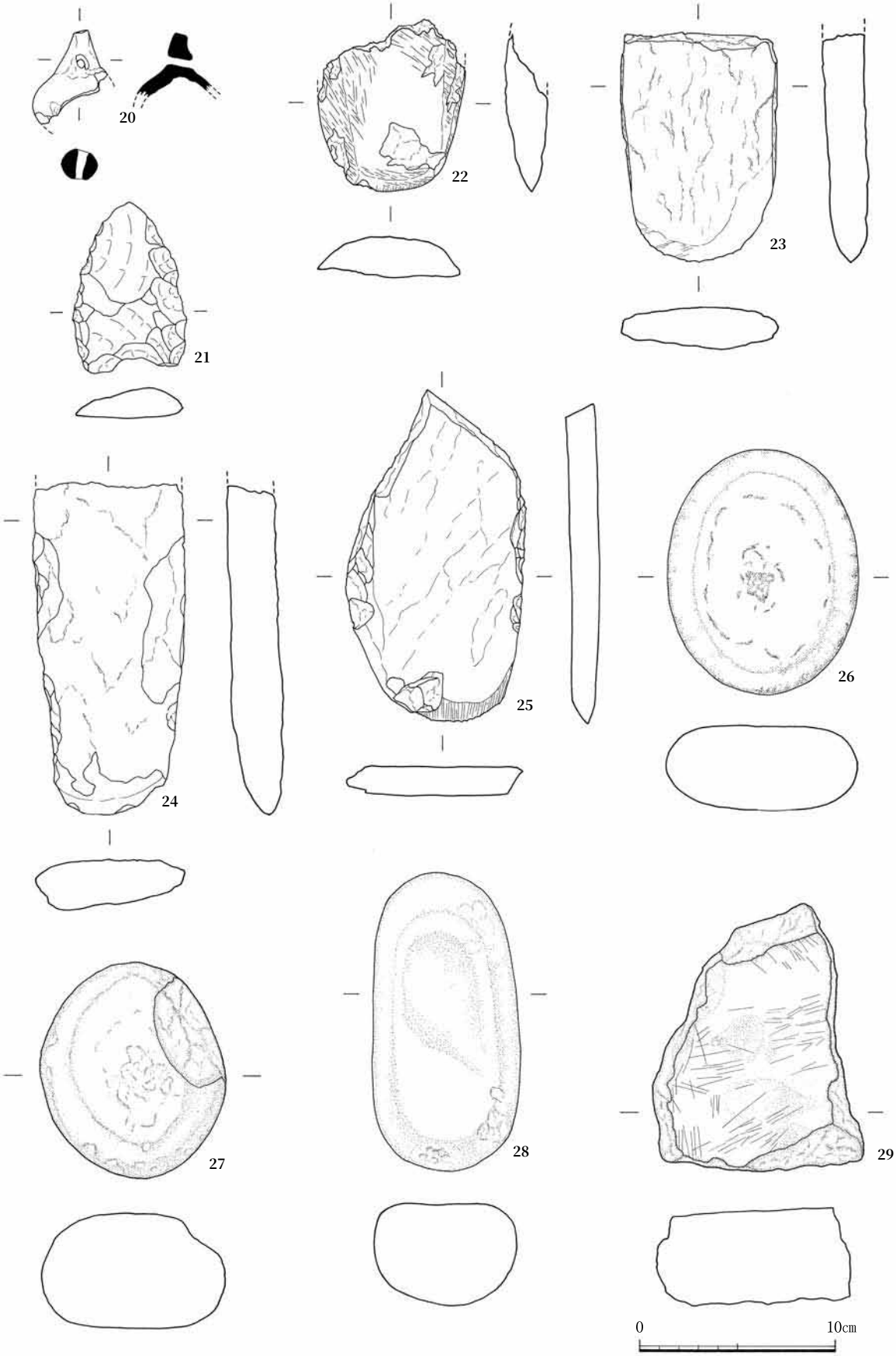


Fig.151　第Ⅷ層出土遺物2（土製品・石製品　20・22～25=1/2，21=1/1）

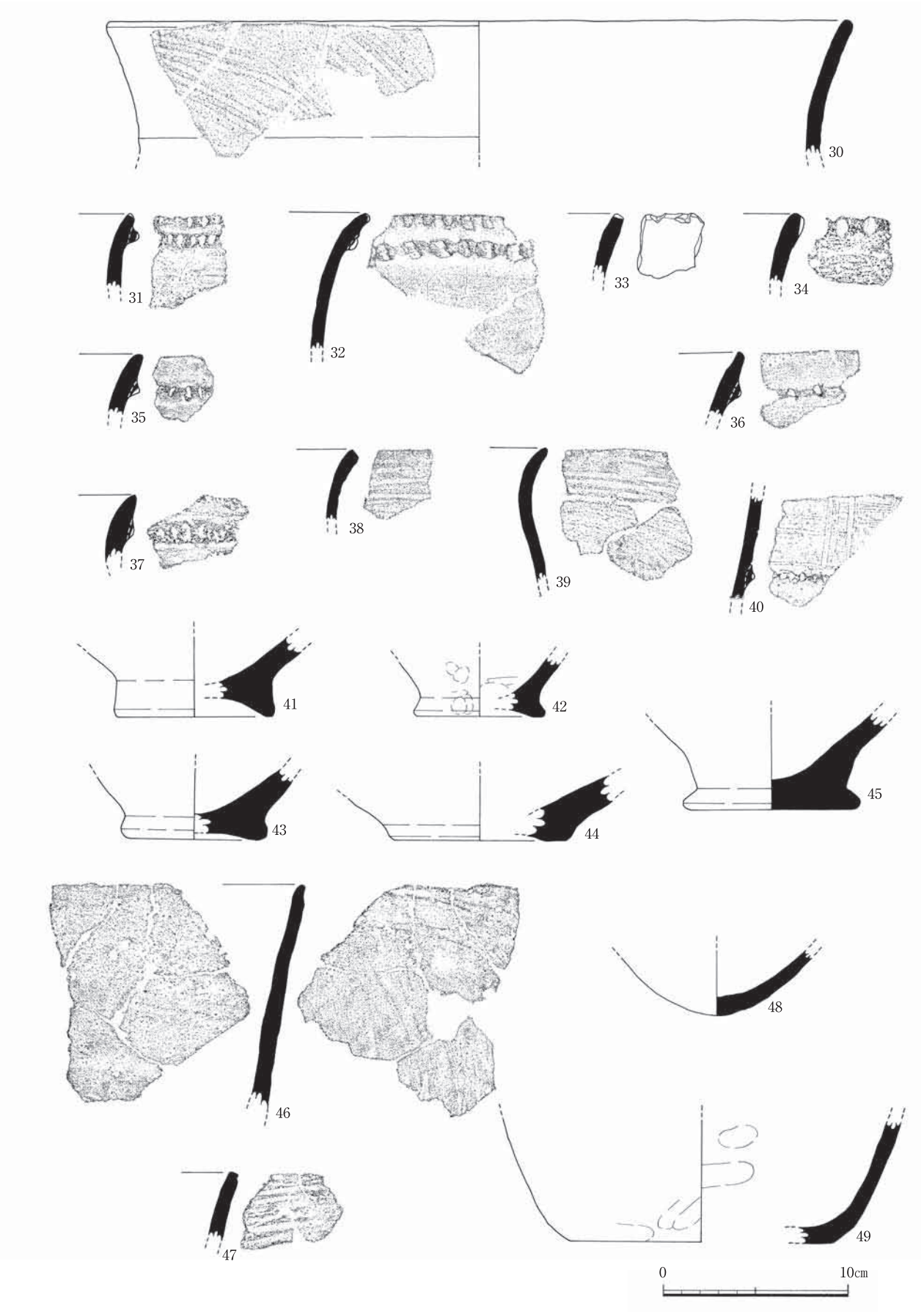


Fig.152　第IX層出土遺物1（縄文土器）

26～28は叩石である。26・27は片面，側面に敲打痕が残り，28は片面のみに敲打痕が残る。

29は砥石で，片面のみに使用痕が残り，他の部分は欠損する。

Ⅸ層出土遺物

縄文土器（Fig.152-30～49）

30～39は深鉢の口縁部破片である。30～32は口縁部端面に刻目，口縁端部外面に刻目突帯を施すもので，口縁部がやや外反して立ち上がる。33・34は口縁端部に刻目を施すもので，33は口縁部端面に粗い刻目を施す。34は口縁部がやや外反して立ち上がり，口縁端部外面に刻目を施す。35～37は口縁端部外面に刻目突帯を貼付するもので，35・36は雑な刻目突帯を貼付し，37は口縁部が大きく外反すると考えられるもので，調整は摩耗が著しく不明である。38・39は口縁部に刻目，刻目突帯を施さないものである。38・39はやや外反して立ち上がる。40は胴部破片とみられ，外面には1条の突帯を貼付し，突帯上方には2条の沈線を施す。また，ハケ状原体による縦方向の擦痕が残る。41～45は底部破片である。41は底部外面が高台状を呈し，ほぼ直立気味に立ち上がるもので，胴部は殆ど残存しない。42・43は高台が「ハ」字状に開くもので，胴部は殆ど残存しない。44は外底面がやや凹むもので，胴部は殆ど残存していない。45は平底状を呈するもので，調整は内外面とも摩耗が著しく不明である。

46～49は鉢と考えられるもので，46・47は口縁部破片である。46は口縁部が直線的に立ち上がり，47も胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。48・49は底部破片で，48は丸底状，49は平底状を呈するものである。

石製品（Fig.153-50～53）

50は平基式の打製石鏃で，側辺には細かい調整がみられる。

51・52は磨製石斧である。51は刃部のみ研磨痕が残る。52は基部のみ残存するもので，表面には研磨痕が残る。

53は石錘と考えられるもので，両端に加工痕がみられる。

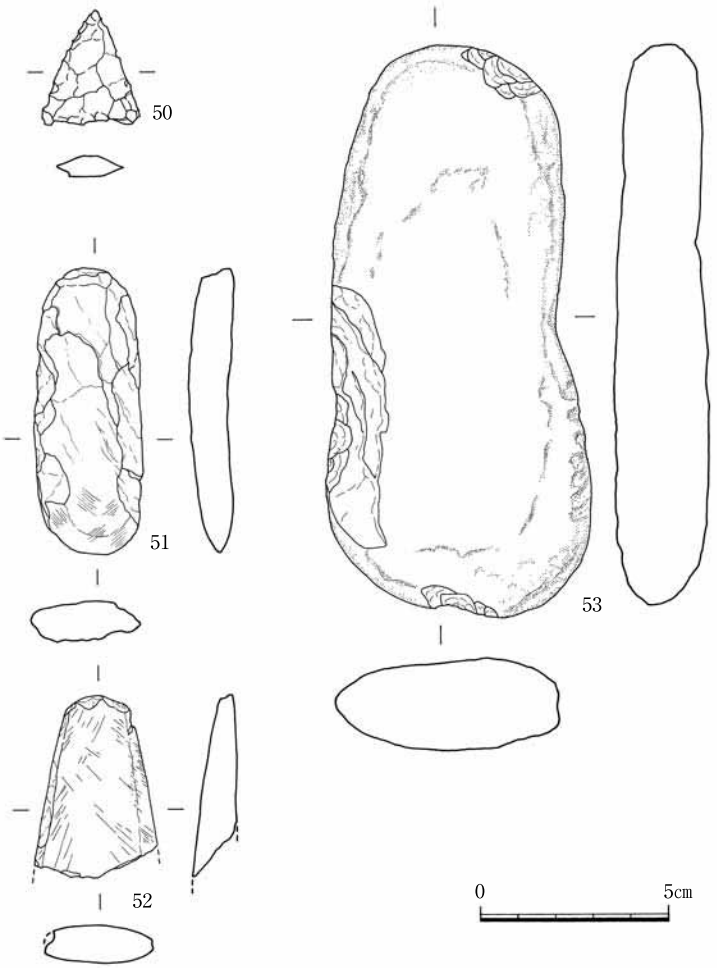


Fig.153　第Ⅸ層出土遺物2（石製品　50=1/1）

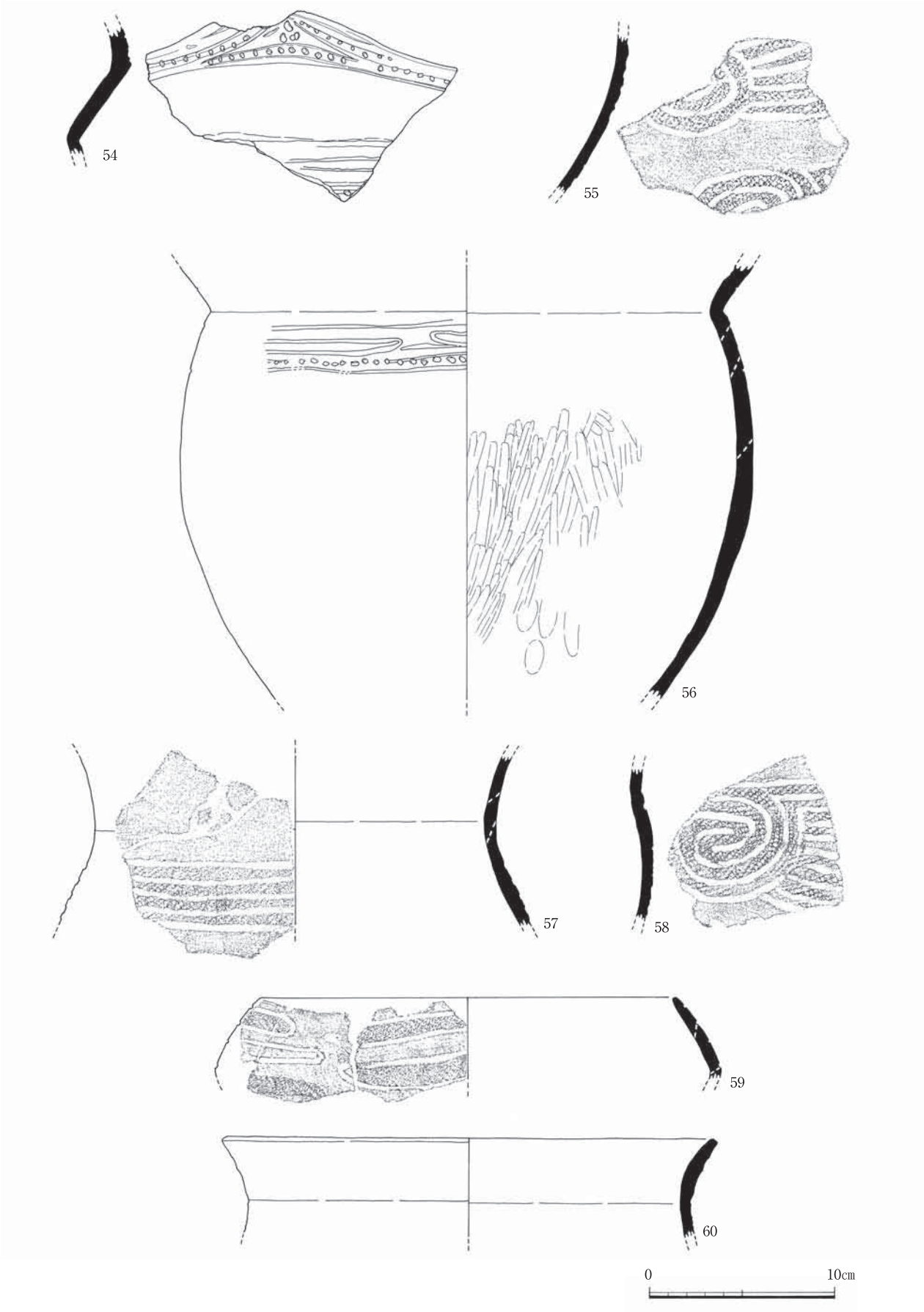


Fig.154　第Ⅹ層出土遺物1（縄文土器）

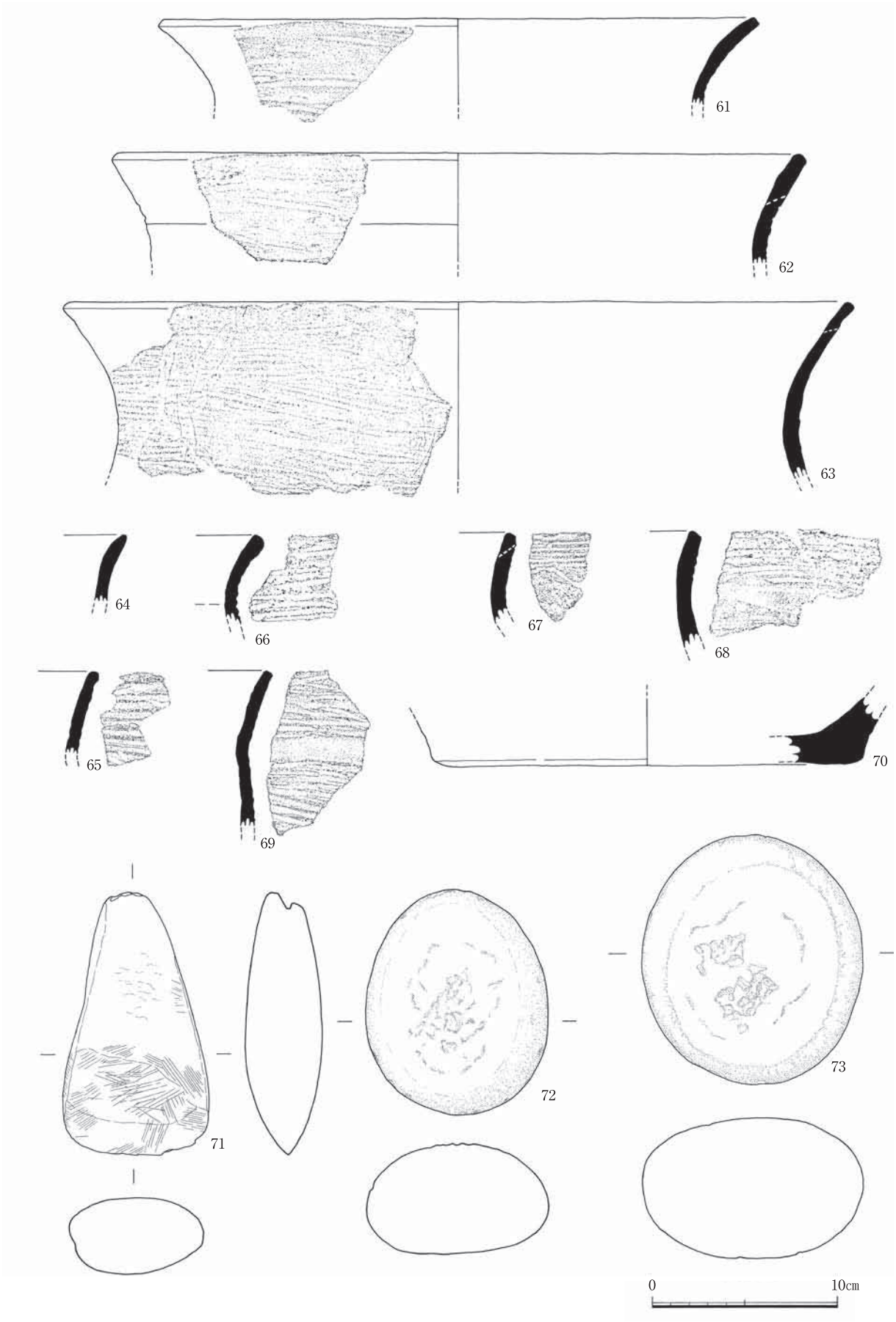


Fig.155　第Ⅹ層出土遺物2（縄文土器・石製品　71=1/2）

Ｘ層出土遺物

縄文後期土器（Fig.154−54〜59）

54〜59は縄文時代後期土器と考えられるものである。54は口縁の波状部が残存するもので，口縁部外面と胴部上端に2条を単位とする沈線を描き，沈線内には刺突文を施す。55は口縁部破片と考えられるもので，上下に渦巻き文を配し，横には2条の沈線で区画された磨消縄文を施す。56は胴部から口縁部の一部が残存するもので，頚部は「く」字状に屈曲する。肩部に5条の沈線を施し，下端の沈線間のみ刺突文を施す。57は胴部破片で，胴部上半に5条の沈線を配し，磨消縄文を施す。調整は内外面とも摩耗が著しく不明である。58も胴部破片で，外面には2条の沈線で入組渦文を描いているとみられ，沈線間には縄文を充填している。

59は浅鉢で，胴部中程で内傾して立ち上がる。口縁部外面には長楕円形の区画文を配し，文様内には磨消縄文を施す。

縄文晩期土器（Fig.154・155−60〜70）

60〜69は深鉢の口縁部破片である。60〜65は口縁部がやや外反するものである。66・67は大きく外反するもので，66の外面には煤が付着する。68は口縁部が外反し，69は胴部から口縁部にかけて残存するものである。70は底部破片で，胴部は殆ど残存していない。

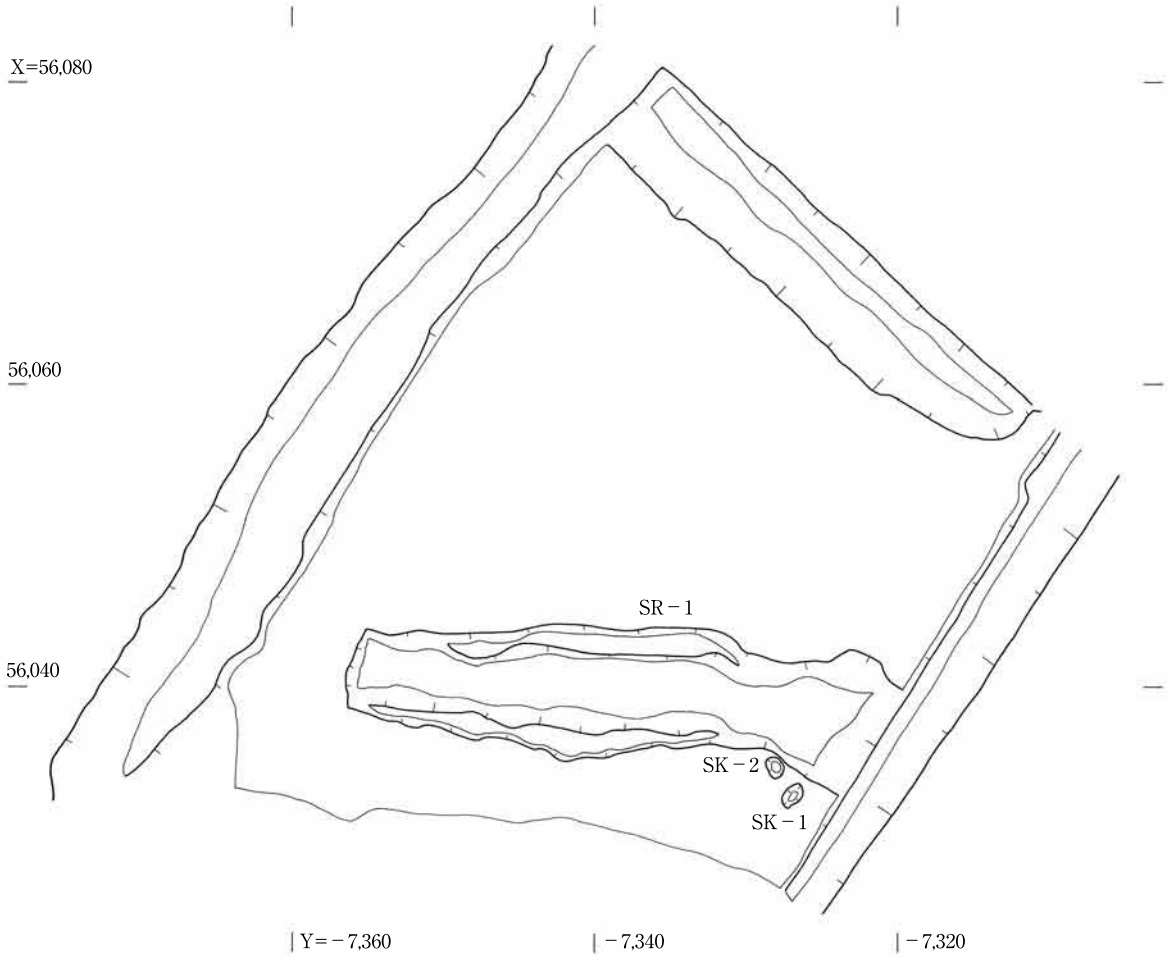


Fig.156　縄文時代遺構平面図（S:1/500）

石製品(Fig.155−71〜73)

71は磨製石斧で，ほぼ完存する。刃部は使用に伴い摩滅，欠損する。

72・73は叩石で，片面に敲打痕が残る。73は片面に弱い敲打痕が残る。

5.遺構と遺物

⑴縄文時代

①土坑

SK－1(Fig.157)

調査区南西部で検出された不整楕円形の土坑である。長径1.70m，短径1.12m深さ44cmを測り，長軸方向はN－38°－Eで，断面は不整の舟底形を呈する。埋土は6層に分層され，1層が褐灰色(10YR6/1)粘土，2層が灰色(5Y6/1)シルト質粘土，3層が黄灰色(2.5Y5/1)粘土，4層が灰色(5Y5/1)粘土，5層が灰色(5Y5/1)粘土，6層が灰色(N4/)粘土であった。出土遺物には縄文晩期土器片がみられ，縄文晩期土器(74〜76)2点が図示できた。

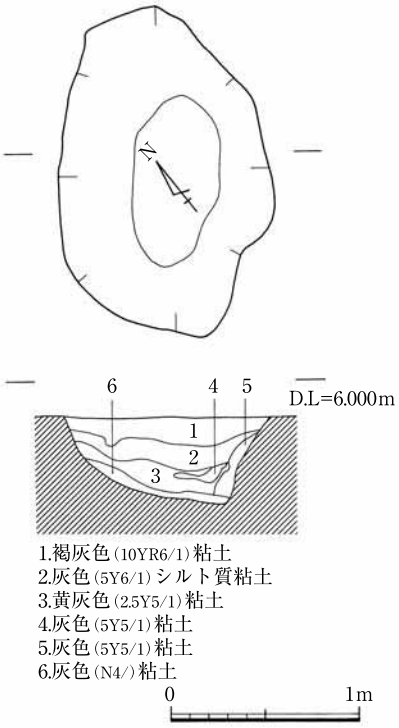


Fig.157　SK−1

出土遺物

縄文晩期土器(Fig.158・159−74〜76)

74は深鉢で，底部を欠損する。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，口縁端部には押圧痕状の刻目を施す。

75・76は浅鉢である。75は体部中程で屈曲し，口縁部は大きく外反しながら立ち上がる。口縁端部は若干肥厚し，鰭状の突起を有する。76は口縁部破片で，口縁は短く立ち上がる。

SK－2(Fig.160)

調査区南部で検出された不整楕円形の土坑である。長径1.60m，短径1.38m，深さ61cmを測り，長軸方向はN－28°－Eで，断面は不整舟底形を呈する。埋土は7層に分層され，1層が黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト，2層が灰色(5Y4/1)シルト，3層が灰色(7.5Y4/1)シルト，4層が灰色(7.5Y5/1)粘土，5層が灰色(7.5Y4/1)粘土，6層が灰色(10YR4/1)砂質シルト，7層がオリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土であった。出土遺物には縄文晩期土器片，石製品がみられ，縄文晩期土器(77〜81)5点，磨製石斧(82)1点，叩石(83)1点が図示できた。

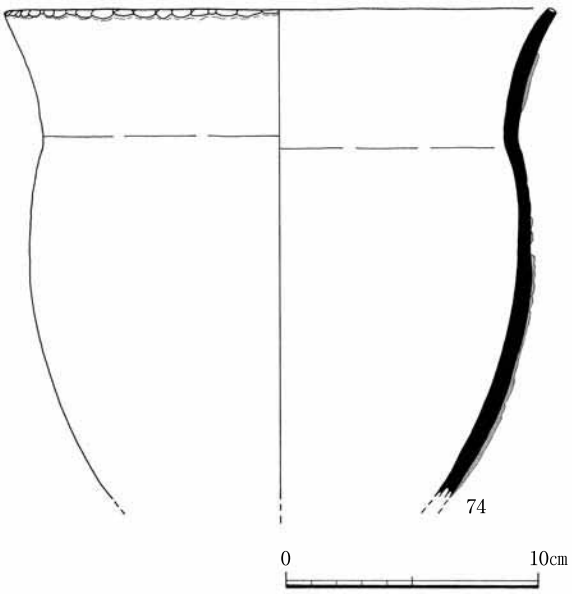


Fig.158　SK−1出土遺物1(縄文土器)

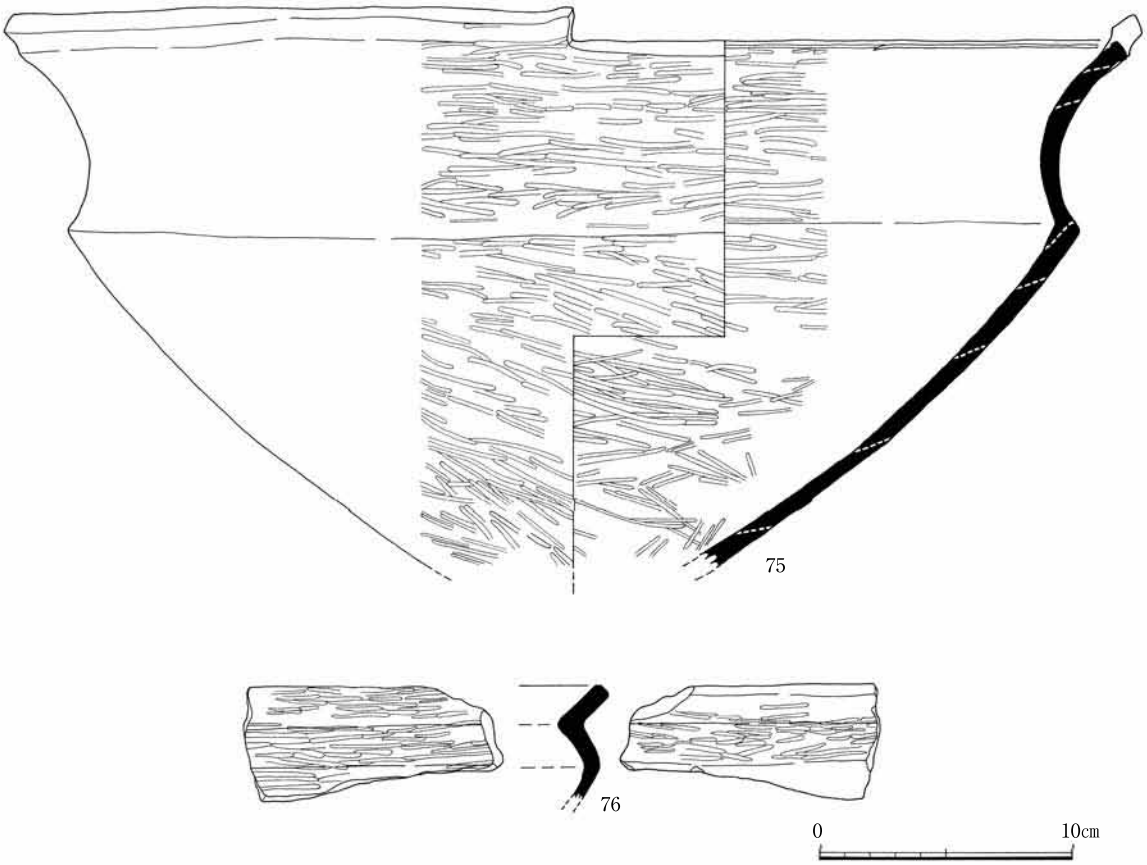


Fig.159　SK－1出土遺物2（縄文土器）

出土遺物

縄文晩期土器（Fig.161−77～81）

77～81は深鉢である。77は胴部から口縁部にかけての破片で，口縁部は大きく外反する。78・79は口縁部破片である。78は口縁部が緩やかに外反するもので，口縁部端面には刻目を施す。79は口縁部が大きく外反する。80は底部破片で，胴部が殆ど残存しない。81は底部から胴部にかけての破片で，胴部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。

石製品（Fig.161−82・83）

82は磨製石斧で，基部の一部が欠損する。刃部には研磨痕が明瞭に残る。

83は叩石で，片面中央に敲打痕がみられる。

②自然流路

SR－1（Fig.162）

調査区南部の第Ⅹ層上面で検出した自然流路で

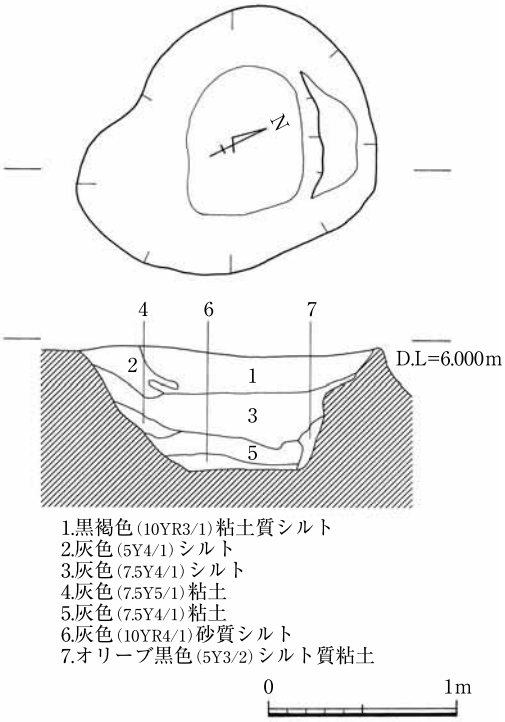


Fig.160　SK－2

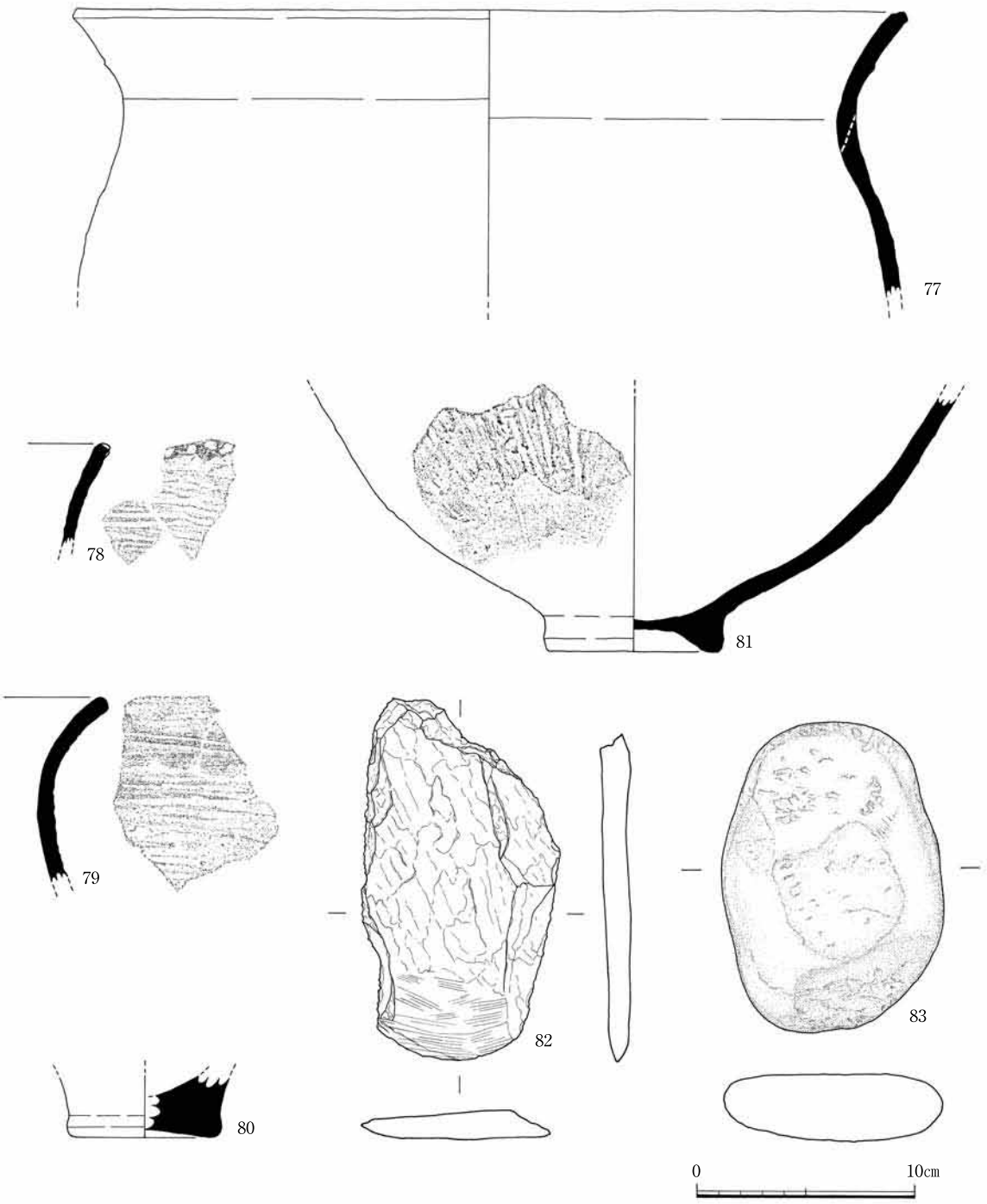


Fig.161　SK－2出土遺物（縄文土器・石製品　82=1/2）

ある。幅約6～9m，深さは1.6m前後を測り，延長約35mを検出した。断面は不整の舟底状を呈し，埋土は1層が木片などの有機物を多く含む灰色（7.5Y4/1）シルト，2層が木片などの有機物を多量に含む黒褐色（10YR3/1）粘土質シルト，3層が木片などの有機物を多量に含む黒褐色（10YR2/2）粘土質シルトであった。出土遺物には縄文後期土器片，縄文晩期土器片，石製品，木製品がみられ，縄文後期土器（84）1点，縄文後期土器（84～158，167～313，340～373）256点，打製石鏃（159）1点，剥片（334～336，374）4点，磨製石斧（160～164，314～322，375）15点，叩石（165，166，323～330，376）11点，台石（331～333，377）4点，鍬（337・338）2点，木胎漆器（339）1点が図示できた。

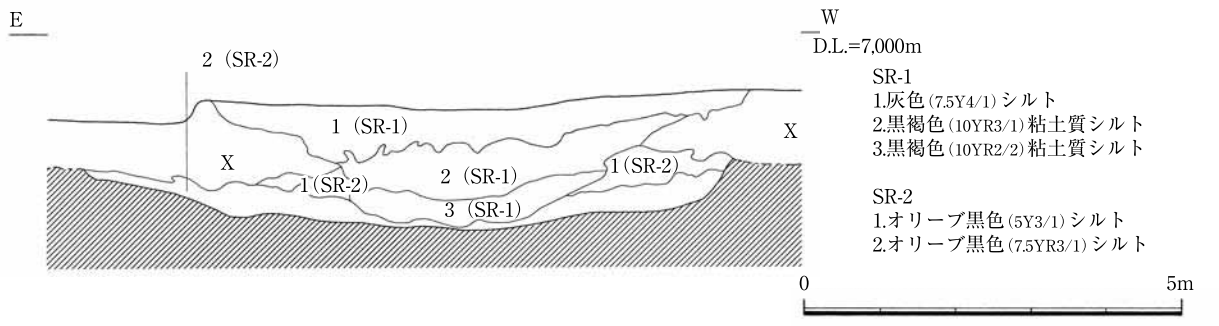


Fig.162　SR－1・2

また，SR－1の南東部では径約1.5mを測る大きな自然木が流路に直交する形で横たわって出土している。

1層出土遺物

縄文後期土器（Fig.164−84）

84は口縁部破片で，口縁部は直立気味に立ち上がり，端部はやや外反する。口縁部外面には縄文を施す。

縄文晩期土器（Fig.164～170−85～158）

85～137は深鉢である。85は口縁端部に刻目，口縁部外面に突帯を貼付し，竹管状の施文具で刻みを施す。また，頚部外面には3条を単位とする複線山形文を描き，胴部上端にも竹管状の施

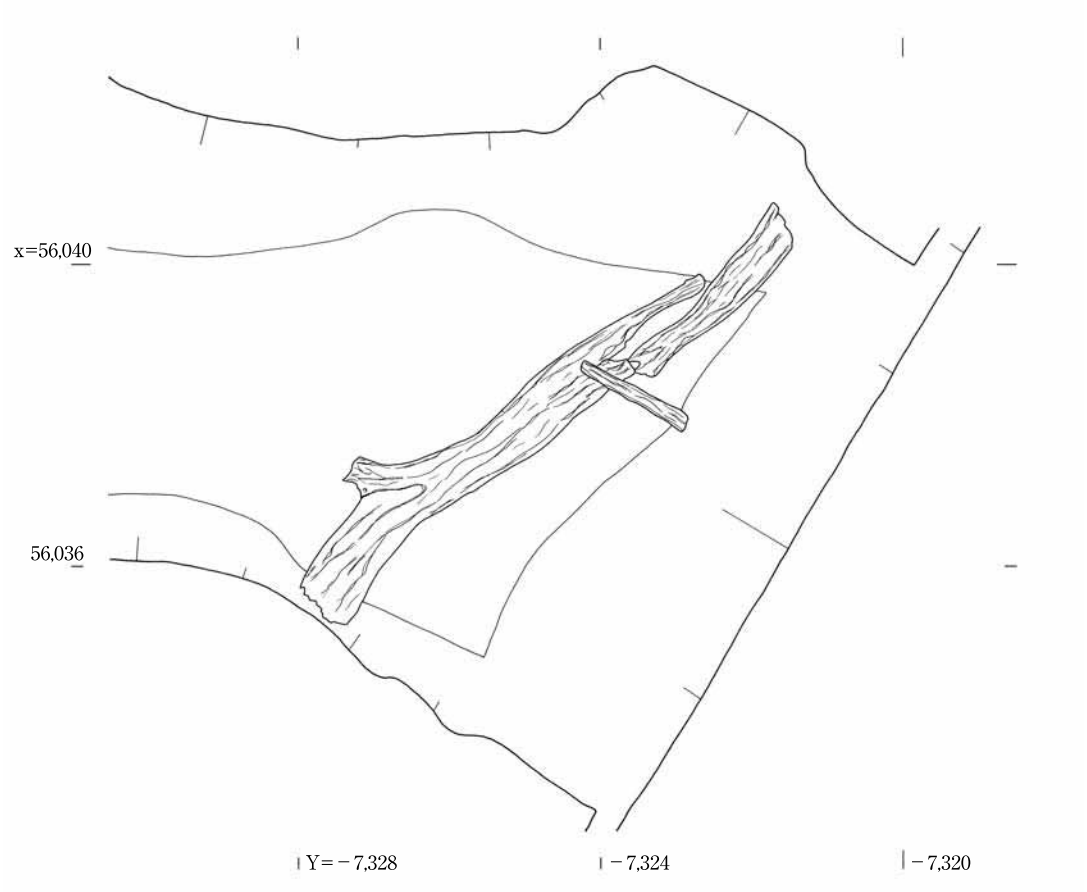


Fig.163　自然木出土状況（S=1/100）

文具により，半截竹管文を施す。86は口縁部が大きく外反し，口縁端部に刻目を施す。87は口縁部から胴部にかけての破片で，頸部は屈曲せず，口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がり，口縁端部には刻目を施す。88は頸部の屈曲は緩く，口縁部は直立気味に立ち上がる。89は口縁部が緩やかに外反し，外面には煤が付着する。90～92は口縁部が大きく外反するものである。90は口縁部がやや肥厚し，91は口縁端部がやや先細りになっている。92は口縁端部がやや肥厚する。93は口縁部から胴部にかけての破片で，胴部中程から上方にほぼ直線的に立ち上がり，口縁部は緩やかに外反する。94～122は口縁部破片で，94・95は口縁部端面に刻目，口縁部外面に刻目突帯を貼付するものである。96～101は口縁部端面に刻目を施すもので，99の外面には2条を単位とする複線山形文を描く。102～122は刻目・刻目突帯を施さないものである。102～105は口縁部が直線気味に立ち上がり，106～114は口縁部がやや外反して立ち上がるものである。115～119は直線的な胴部から口縁部が大きく外反するもので，120～122は口縁部が屈曲気味に立ち上がるものである。123～137は底部破片で，123・124は底部が高台状を呈し，外面が直線的に立ち上がり，124の胴部外面には被熱痕がみられる。125～137は高台状の底部が「ハ」字状に開くもので，125・128・131の外面には被熱痕がみられる。また，126の内面全体は黒褐色に変色し，部分的には厚さ7㎜ほどのお焦げが残存し，135～137の内面にもお焦げが残る。

138～155は浅鉢である。138は胴部から口縁部にかけての破片で，口縁部は屈曲して立ち上がり，端部をやや上方へ折り曲げる。また，口縁端部外面には1条の沈線を施す。139は口縁部破片で，口縁部は屈曲して立ち上がり，端部を上方へ摘み出す。140は口縁部が「く」字状に丸みを帯びて屈曲するものである。141は口縁部が外反して立ち上がり，端部は肥厚する。また，胴部外面，口縁端部内面に1条の沈線を施し，外面には煤が付着する。143～149は口縁部に沈線を施すものである。143は口縁端部がやや外反し，内外面に幅広い沈線を施す。144は口縁端部がやや内傾して立ち上がり，内外面に幅広い沈線を施す。145は口縁部が外反しながら立ち上がり，端部を上方へ摘み出す。また，端部外面には1条の沈線を施す。146・147は口縁部が大きく外反して立ち上がり，端部内面には1条の沈線を施す。148は口縁端部外面を外方向に摘み出すものである。149は波状口縁を呈すると考えられる口縁部破片で，波状口縁の頂部から2条の突帯が下方に延びる。また，口縁端部は上下方に摘み出される。150・151は端部外面に1条の突帯を有するもので，151は端部内面と外面の突帯上方に1条の幅広い沈線を施す。152・153は口縁端部に特徴が無いもので，152は口縁部がやや内傾して立ち上がる。153は胴部が斜め上方に直線的に立ち上がり，口縁部は「S」字状に屈曲する。154は胴部破片で，穿孔される。155は底部破片と考えられるもので，胴部は殆ど残存しない。外底面と胴部の境には1条の沈線を施す。

156～158は鉢と考えられるもので，156は口縁部から胴部にかけての破片である。157は口縁部破片で，外面には煤が付着している。158は底部破片で，丸底状を呈する。

石製品（Fig.170−159～166）

159は平基式の打製石鏃で，側辺に細かな調整がみられる。

160～163は磨製石斧で，全て基部を欠損する。160は片面に研磨痕が残る。161は刃部の一部のみ残存し，先端部には明瞭な研磨痕が残る。162・163は両面に研磨痕が残る。164は磨製石斧の

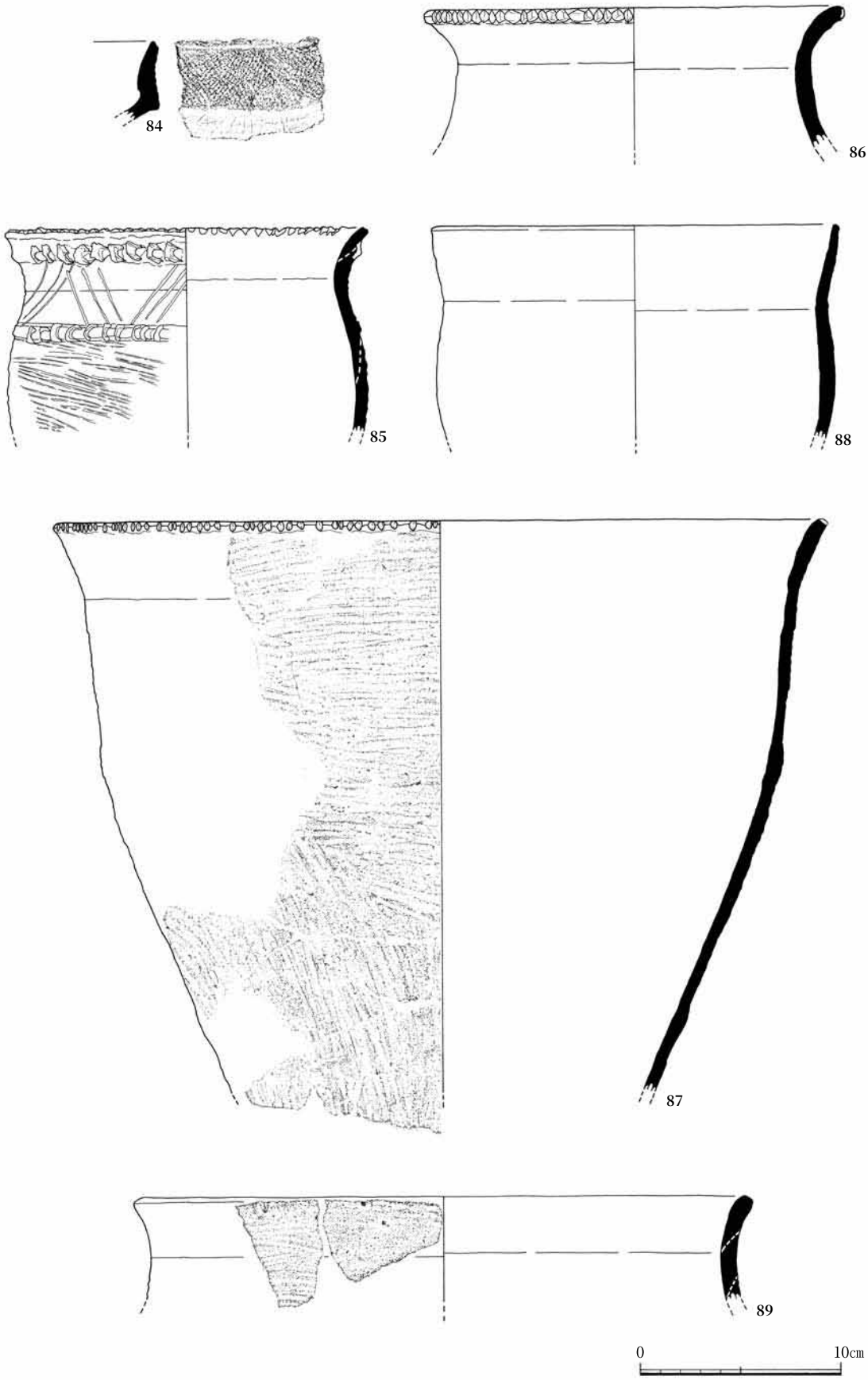


Fig.164　SR－1　1層出土遺物1 (縄文土器)

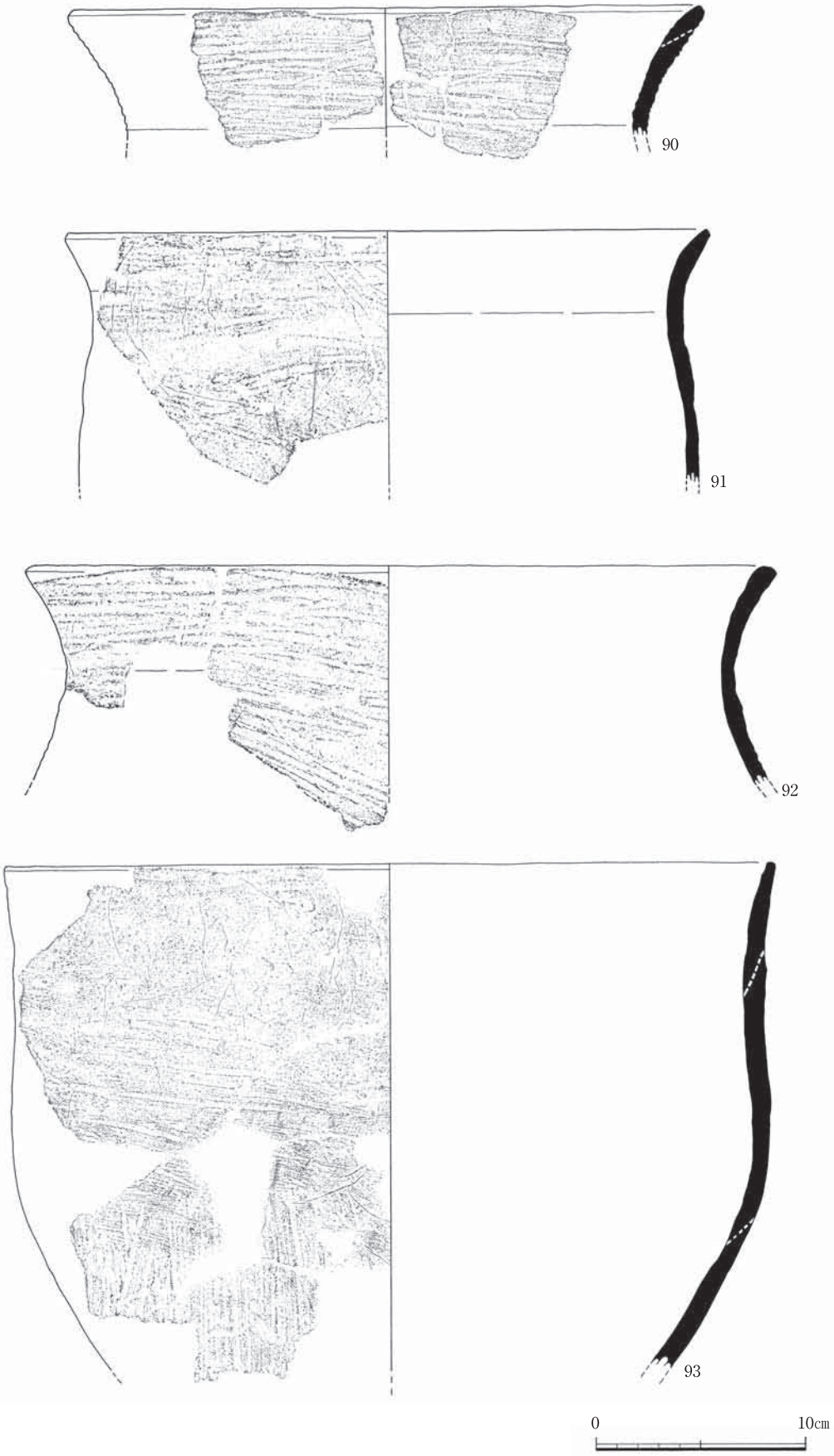


Fig.165　SK－1　1層出土遺物2（縄文土器）

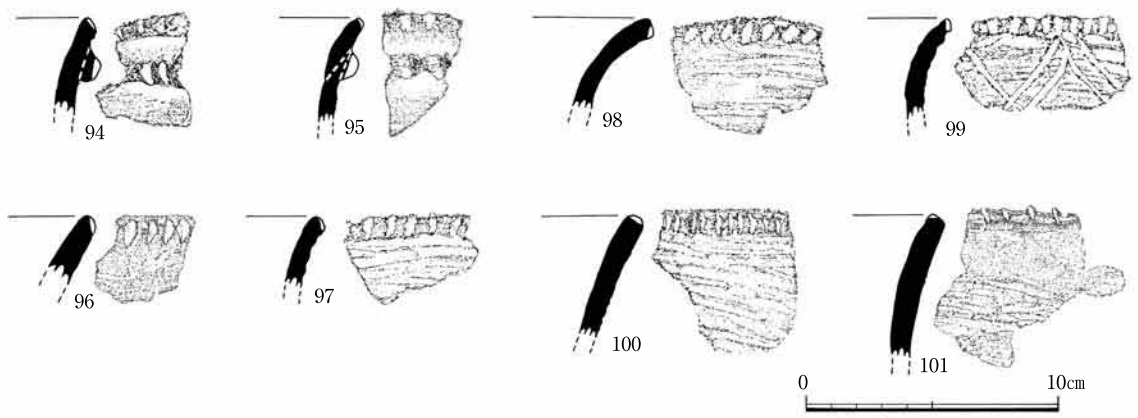


Fig.166　SR－1　1層出土遺物3（縄文土器）

一部と考えられるもので，片面に明瞭な研磨痕が残る。

165・166は叩石で，165は両面と側面の一部に敲打痕が残り，166は側面の一部に敲打痕が残る。

2層出土遺物

縄文後期土器（Fig.171−167～169）

167は深鉢と考えられる破片で，外面には間隔の狭い2本の沈線で区画文を描き，区画内には斜行する刻みを施す。

168・169は浅鉢と考えられるもので，168は外面上方に3条の沈線を施し，上方の沈線間には縄文を充填している。また，沈線内には刺突文を施す。169は胴部破片と考えられ，外面には2条の直線的な沈線を描き，結束点には円形の刺突文を2点施す。また，曲線的な沈線間には縄文が残る。

縄文晩期土器（Fig.171～181−170～313）

170～272は深鉢である。170は口縁部が緩やかに外反し，口縁部端面には刻目を施す。171は長胴を呈する胴部から口縁部が緩やかに外反して立ち上がる。外面には被熱痕が残り，内面の一部にはお焦げが付着する。172・173は口縁部破片で，口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，172は外面に煤が付着する。174は口縁部が丸みを帯びて外反し，175は長胴を呈する胴部から口縁部が緩やかに外反する。175の内面にはお焦げが残り，外面には煤が付着する。176～187は口縁部が大きく外反するもので，176・178は直立気味の胴部から口縁部が大きく外反し，178の外面には煤が付着する。179は口縁部内面に縦方向に延びる1条の線刻がみられる。180は口縁部が水平近くまで外反するものである。181は胴部が開き気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反し，外面には煤が付着する。183～185は口縁部が「く」字状に外反して立ち上がり，183・185の外面には煤，お焦げが付着する。186・187は直立気味の胴部から口縁部が大きく外反して立ち上がるもので，ともに外面には煤が付着する。188～190は口縁部が直立気味に立ち上がるもので，189は大きく張る胴部から口縁部が直線的に短く立ち上がる。190は口縁部の屈曲が弱く，直線気味に立ち上がるものである。191～197は口縁部端面に刻目，口縁端部外面に刻目突帯を貼付するもので，194は粗雑な刻目突帯を貼付しており，192・193・195の外面には煤が付着する。198～212は

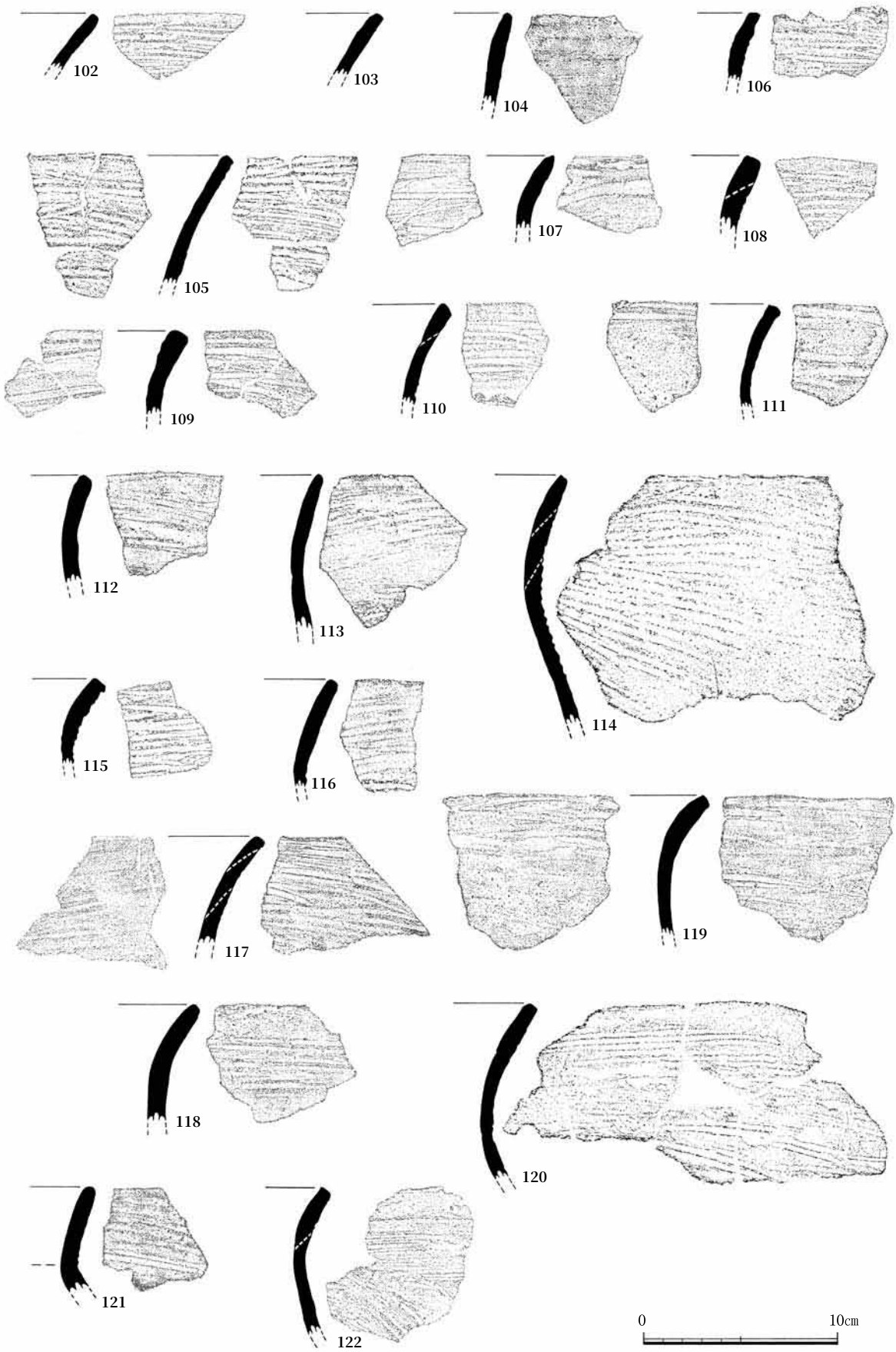


Fig.167　SR－1　1層出土遺物4（縄文土器）

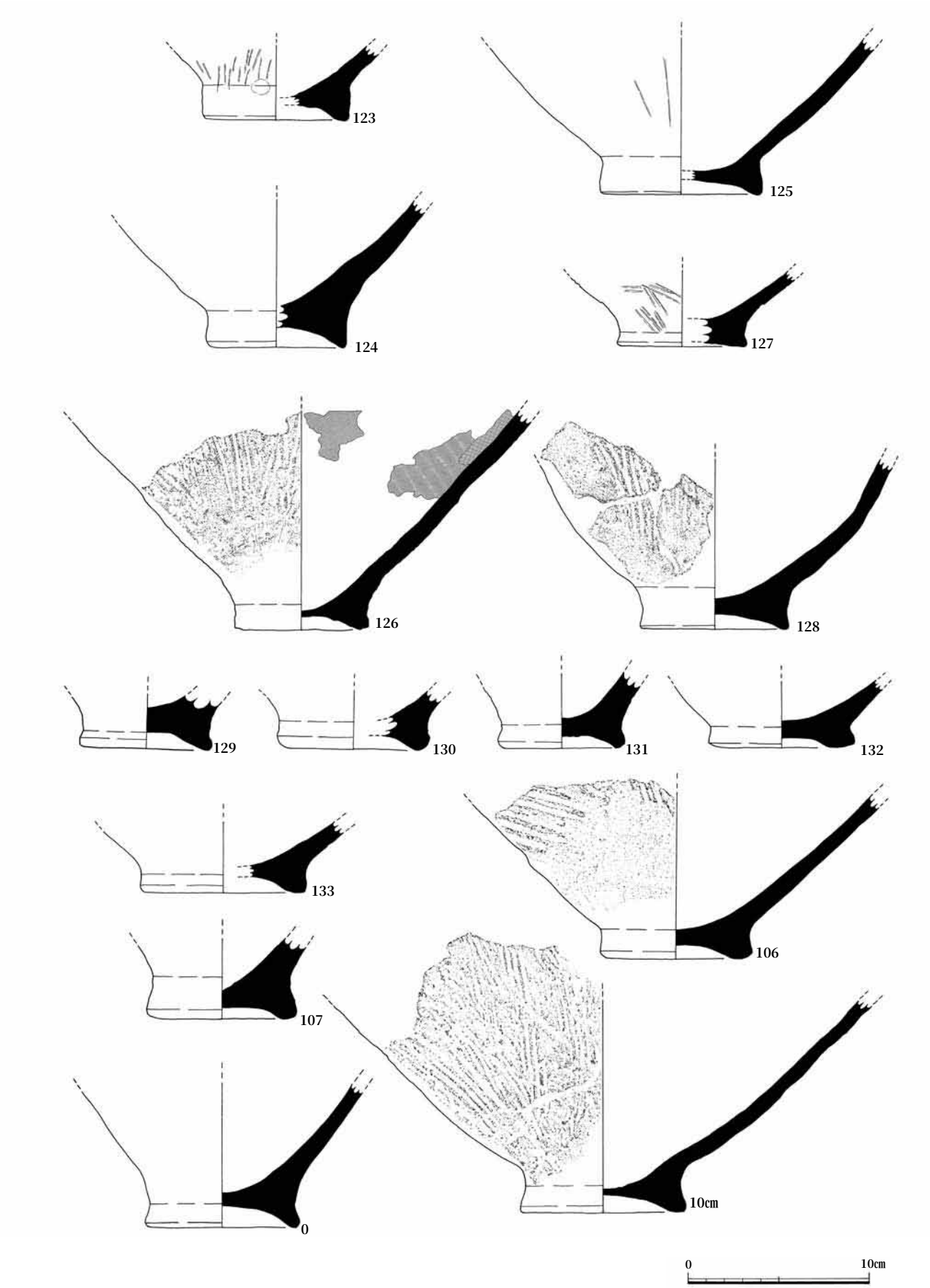


Fig.168　SR－1　1層出土遺物5 (縄文土器)

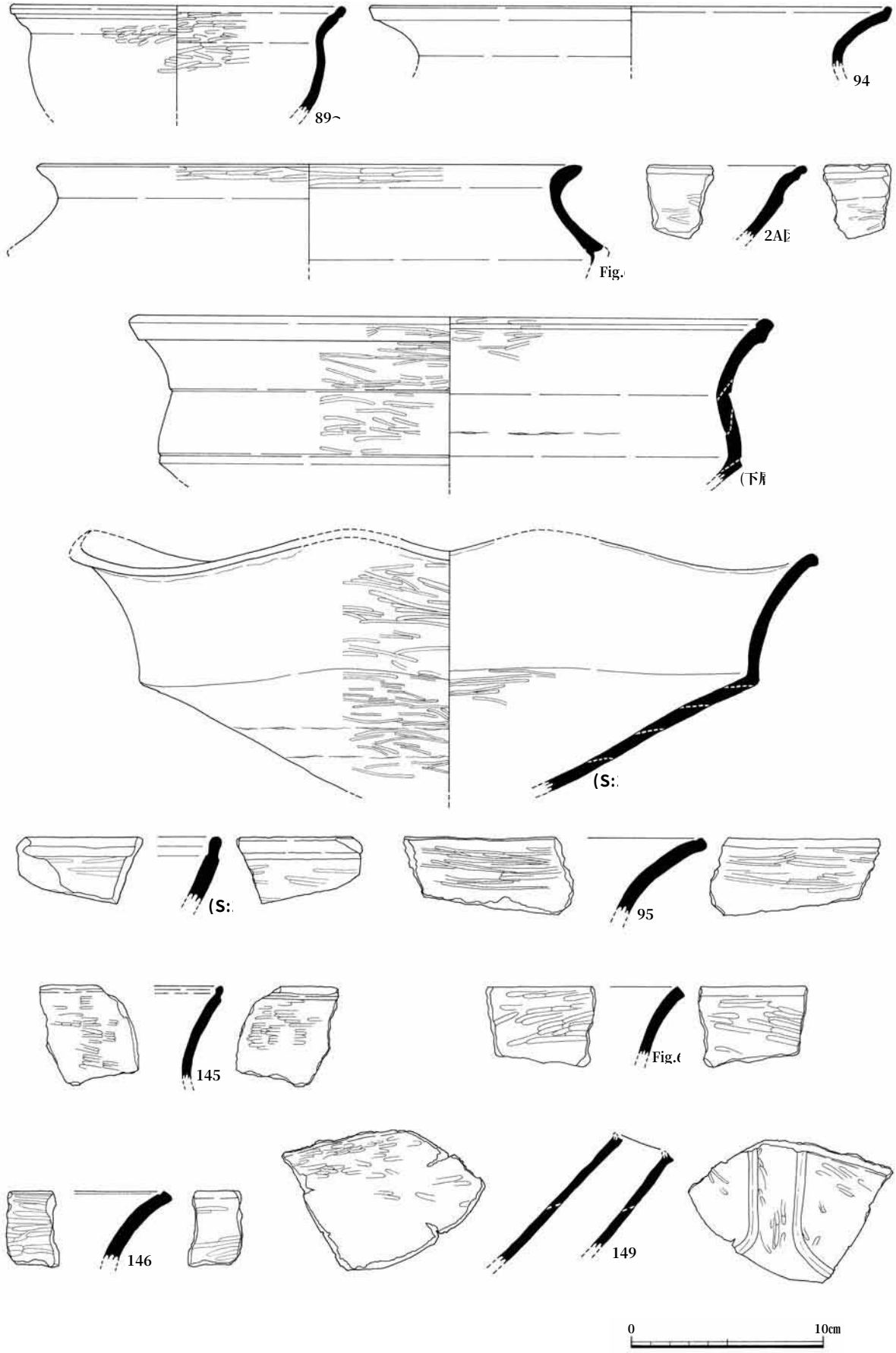


Fig.169　SR－1　1層出土遺物6 (縄文土器)

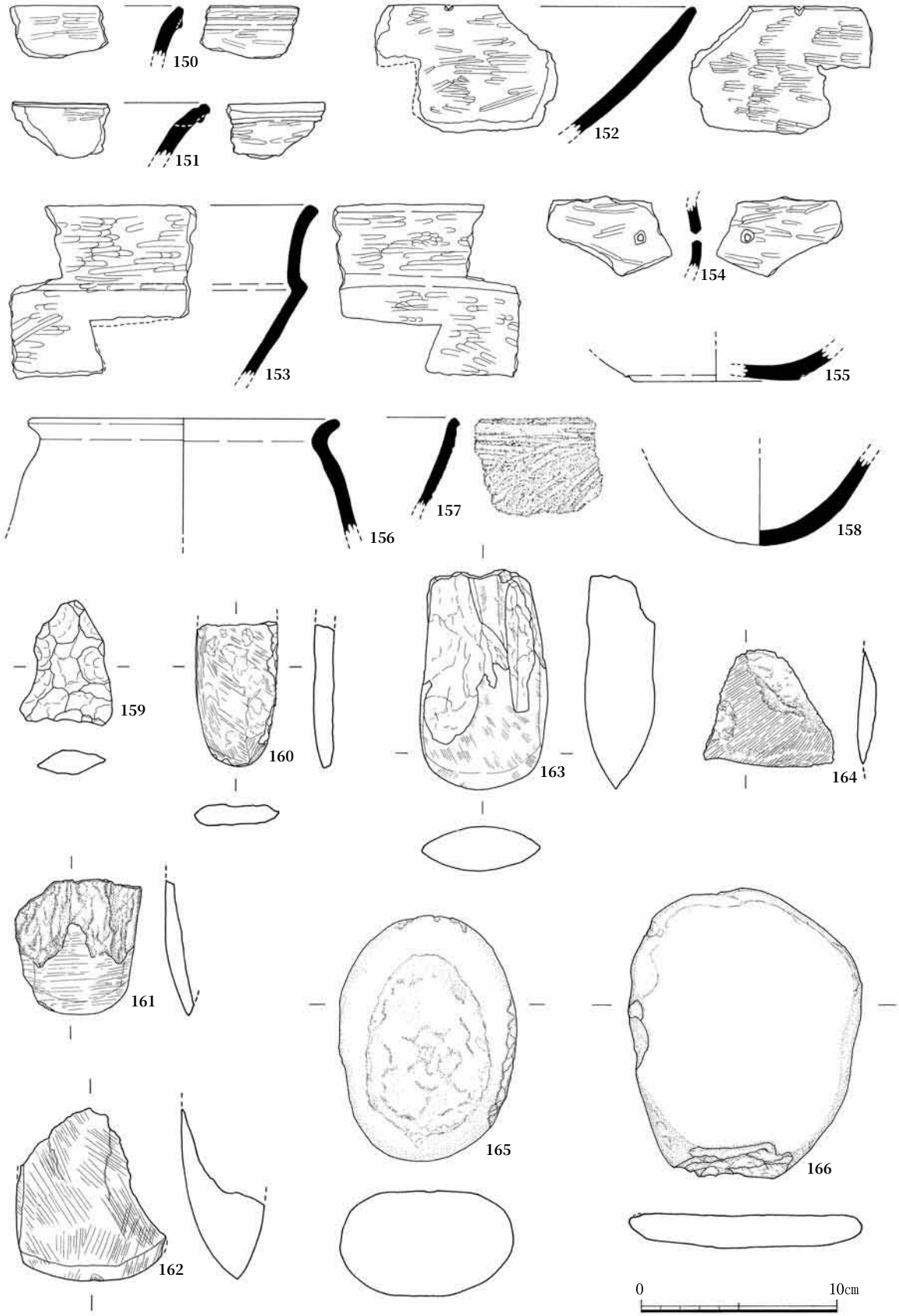


Fig.170　SR－1　1層出土遺物7 (縄文土器・石製品　159=1/1、160～164=1/2)

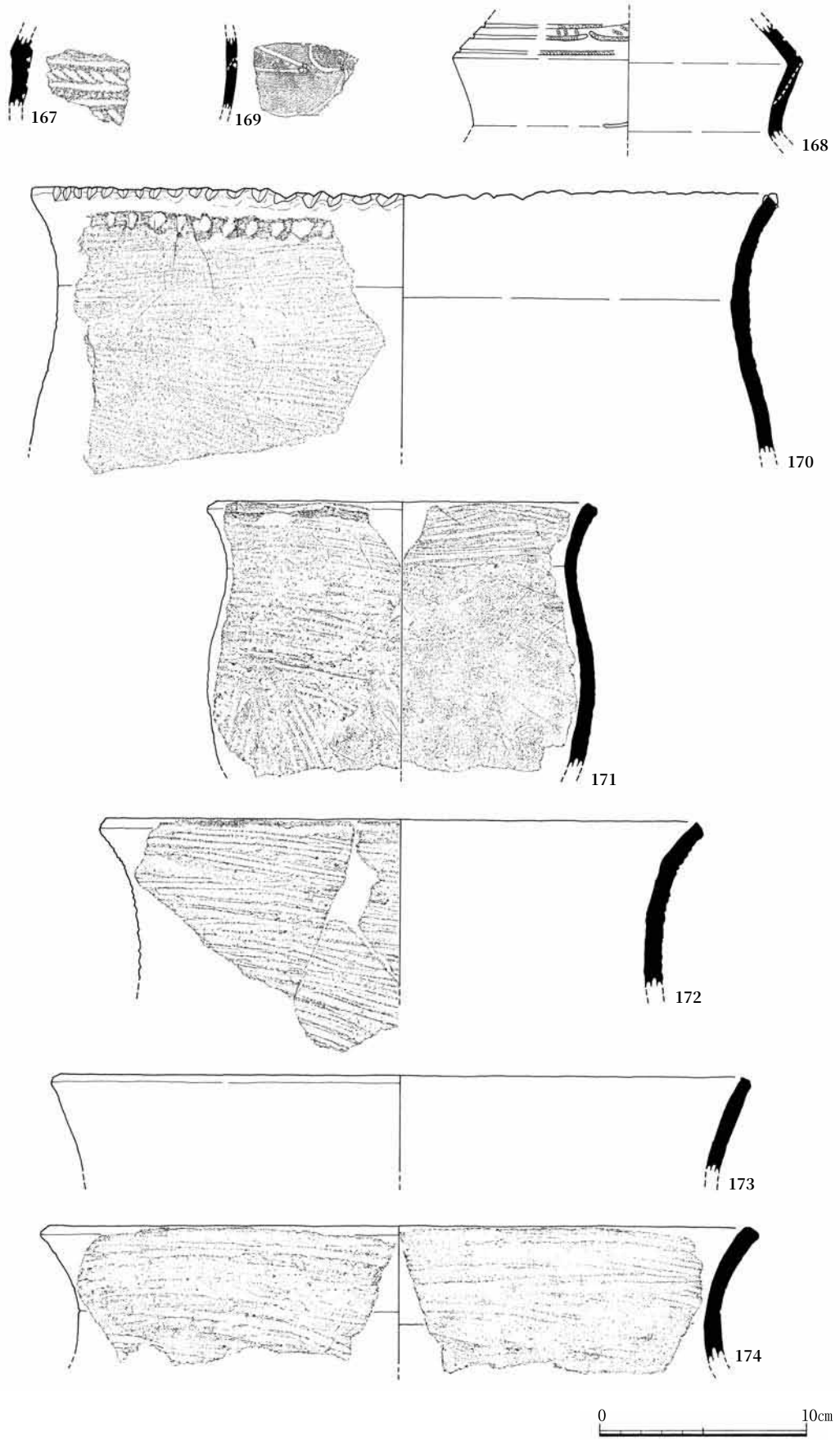


Fig.171　SR－1　2層出土遺物1(縄文土器)

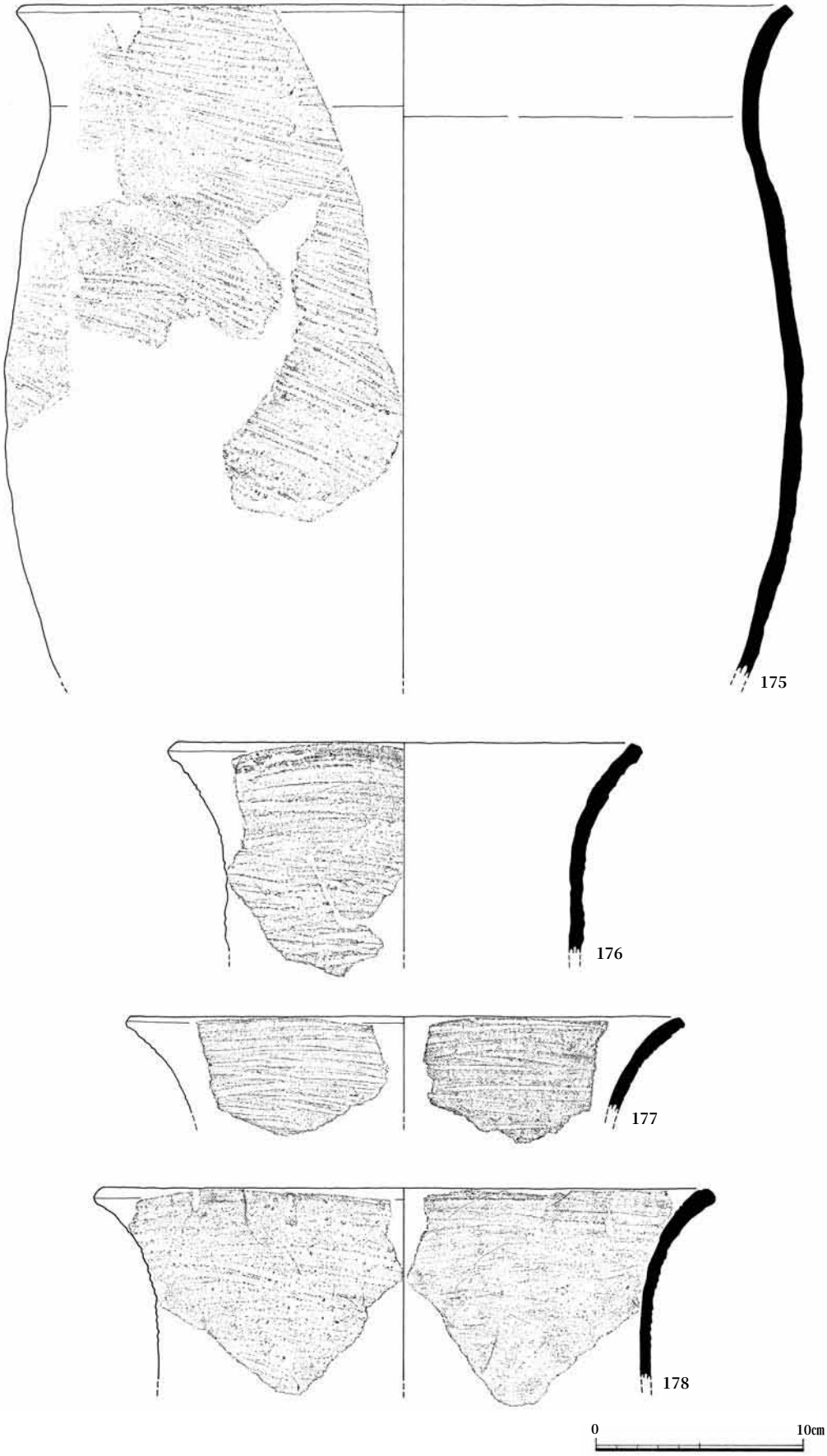


Fig.172　SR－1　2層出土遺物2 (縄文土器)

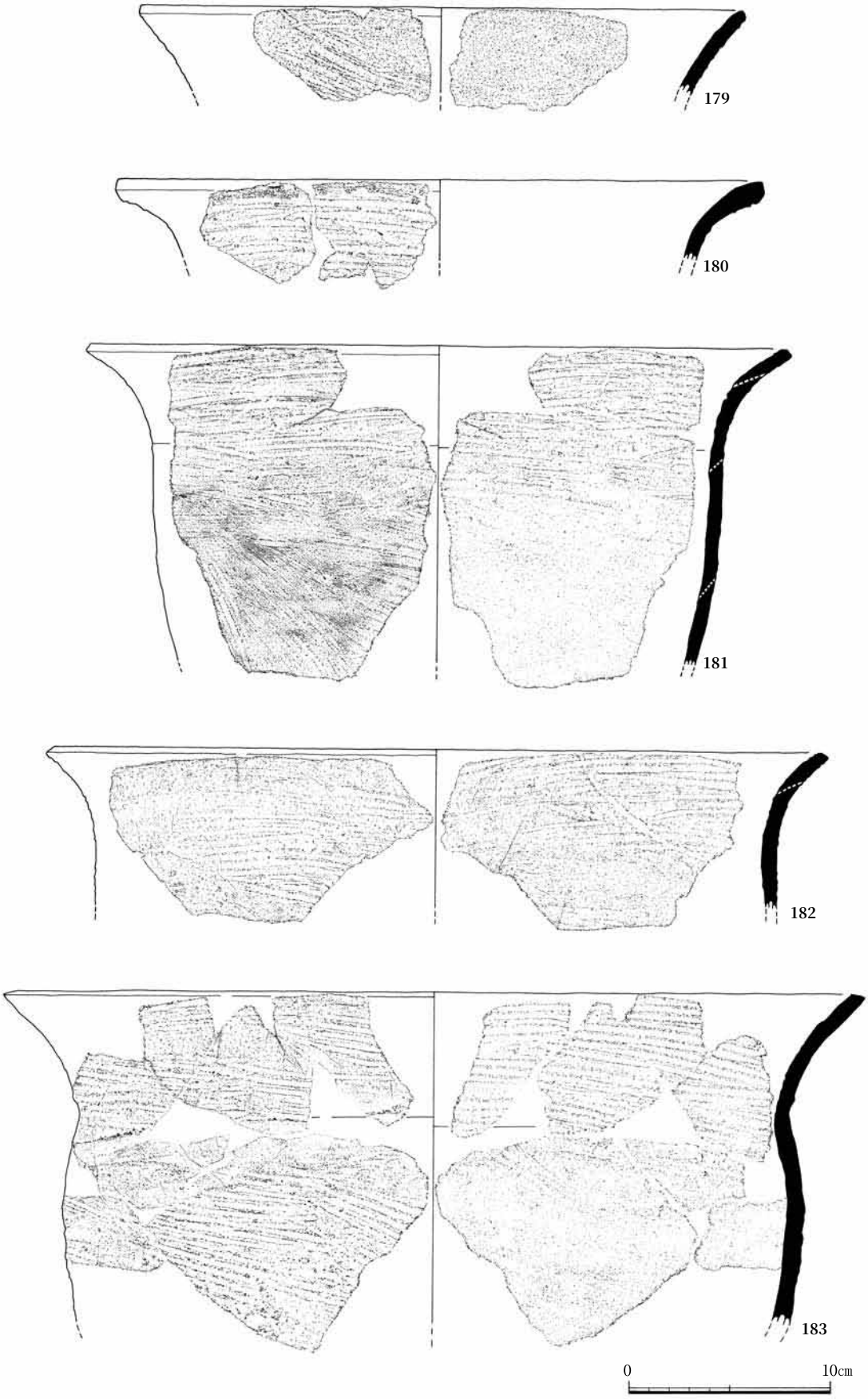


Fig.173　SR－1　2層出土遺物3 (縄文土器)

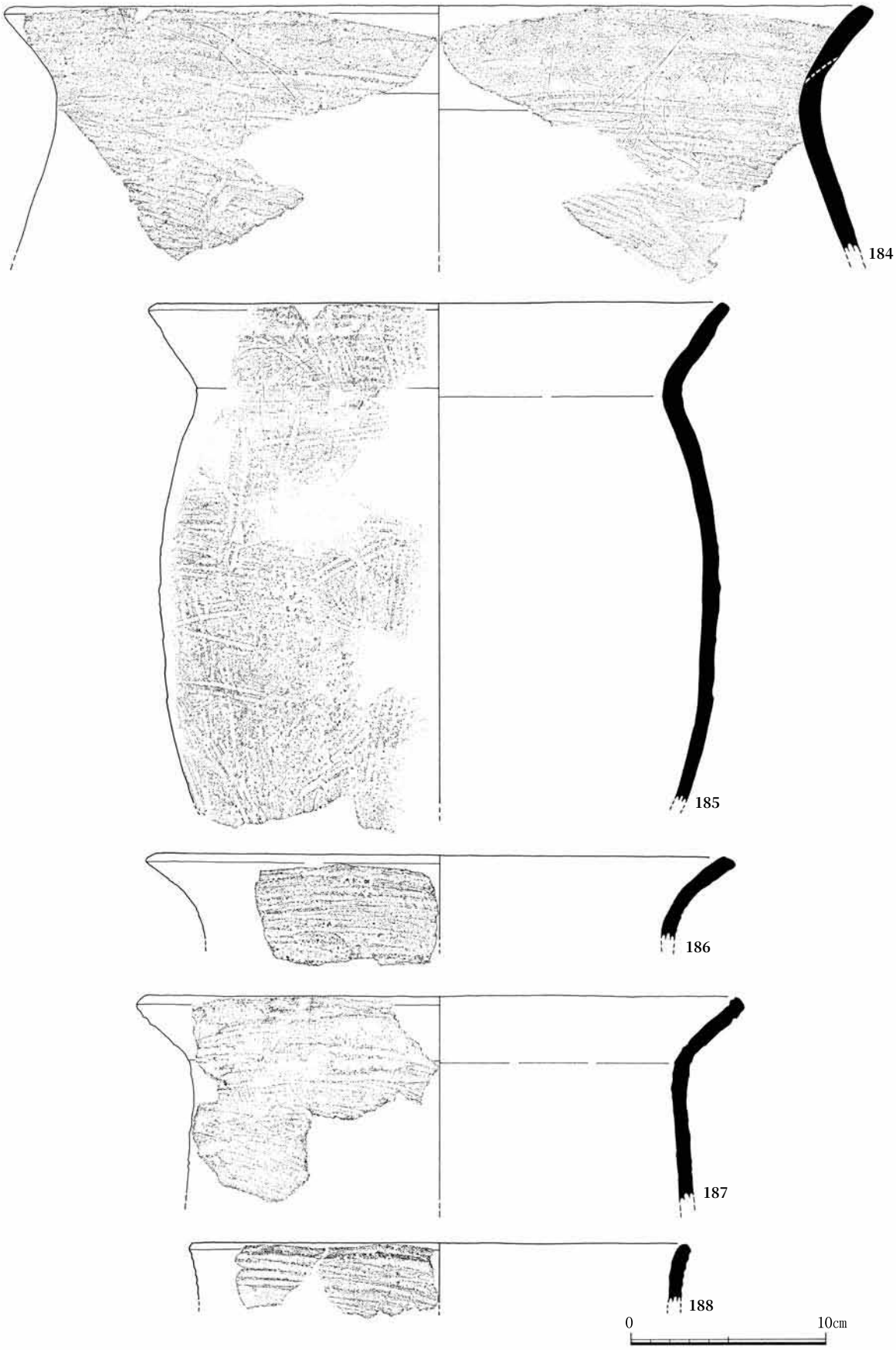


Fig.174　SR－1　2層出土遺物4（縄文土器）

Fig.175　SR－1　2層出土遺物5（縄文土器）

Fig.176　SR－1　2層出土遺物6（縄文土器）

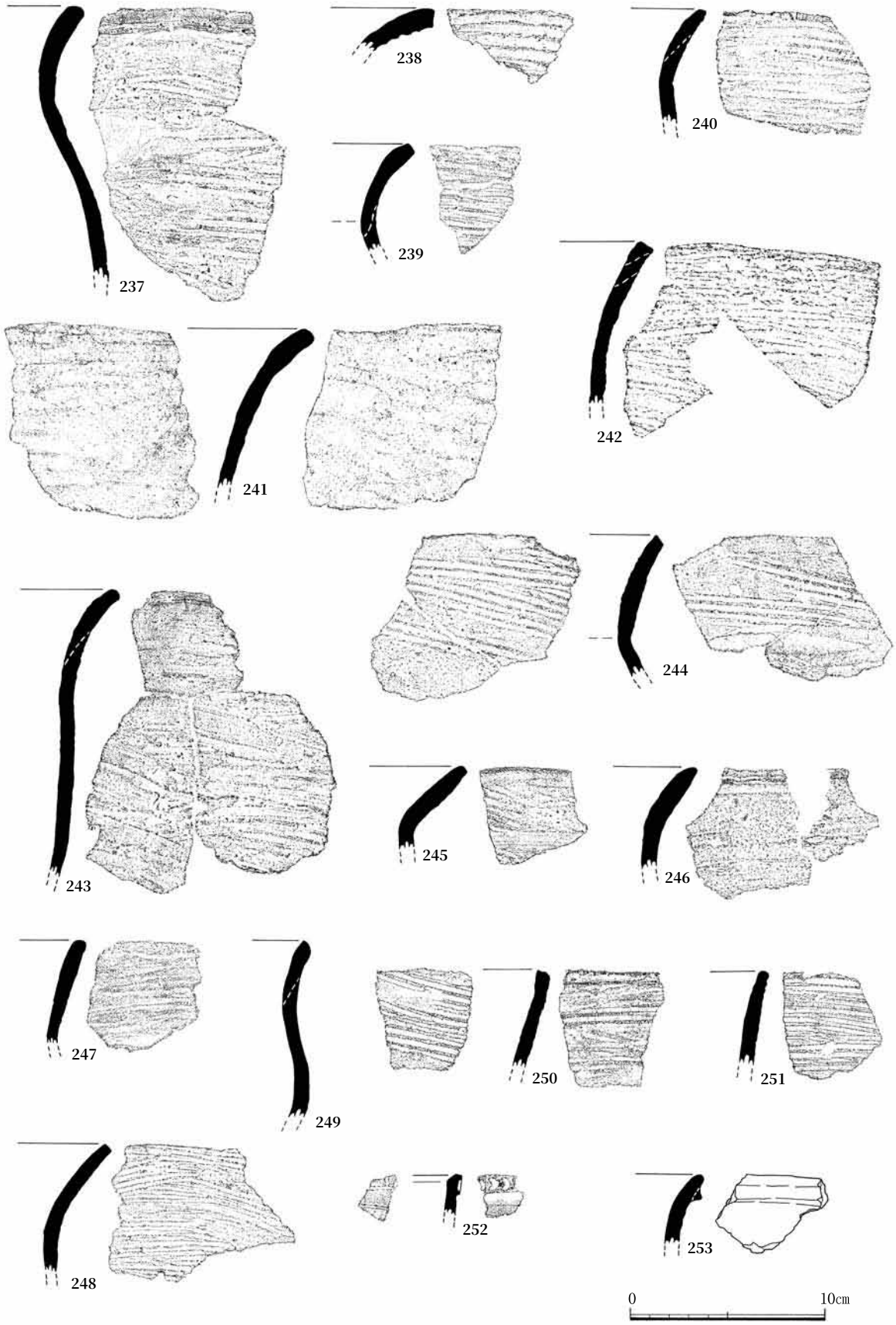


Fig.177　SR－1　2層出土遺物7 (縄文土器)

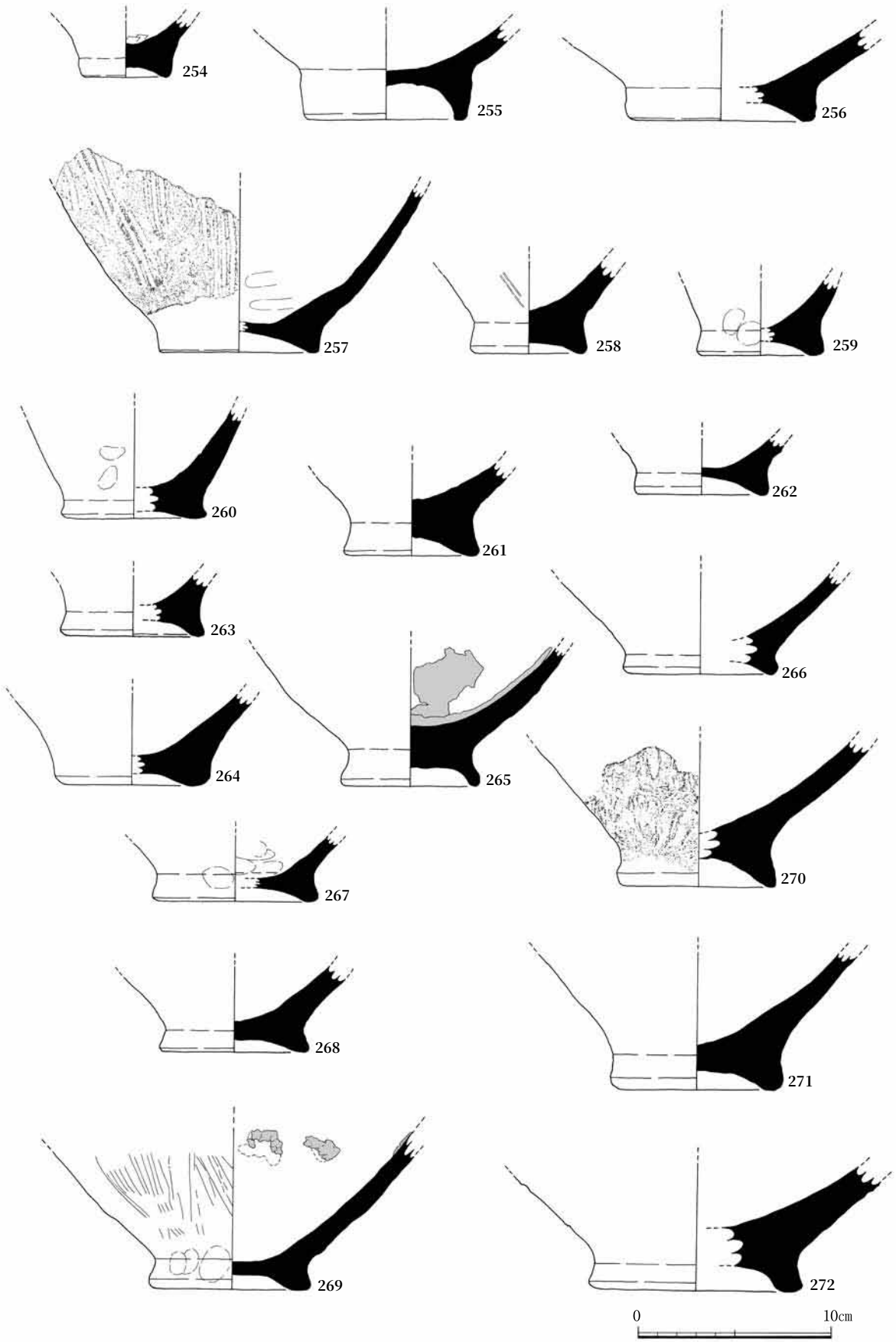


Fig.178　SR－1　2層出土遺物8 (縄文土器)

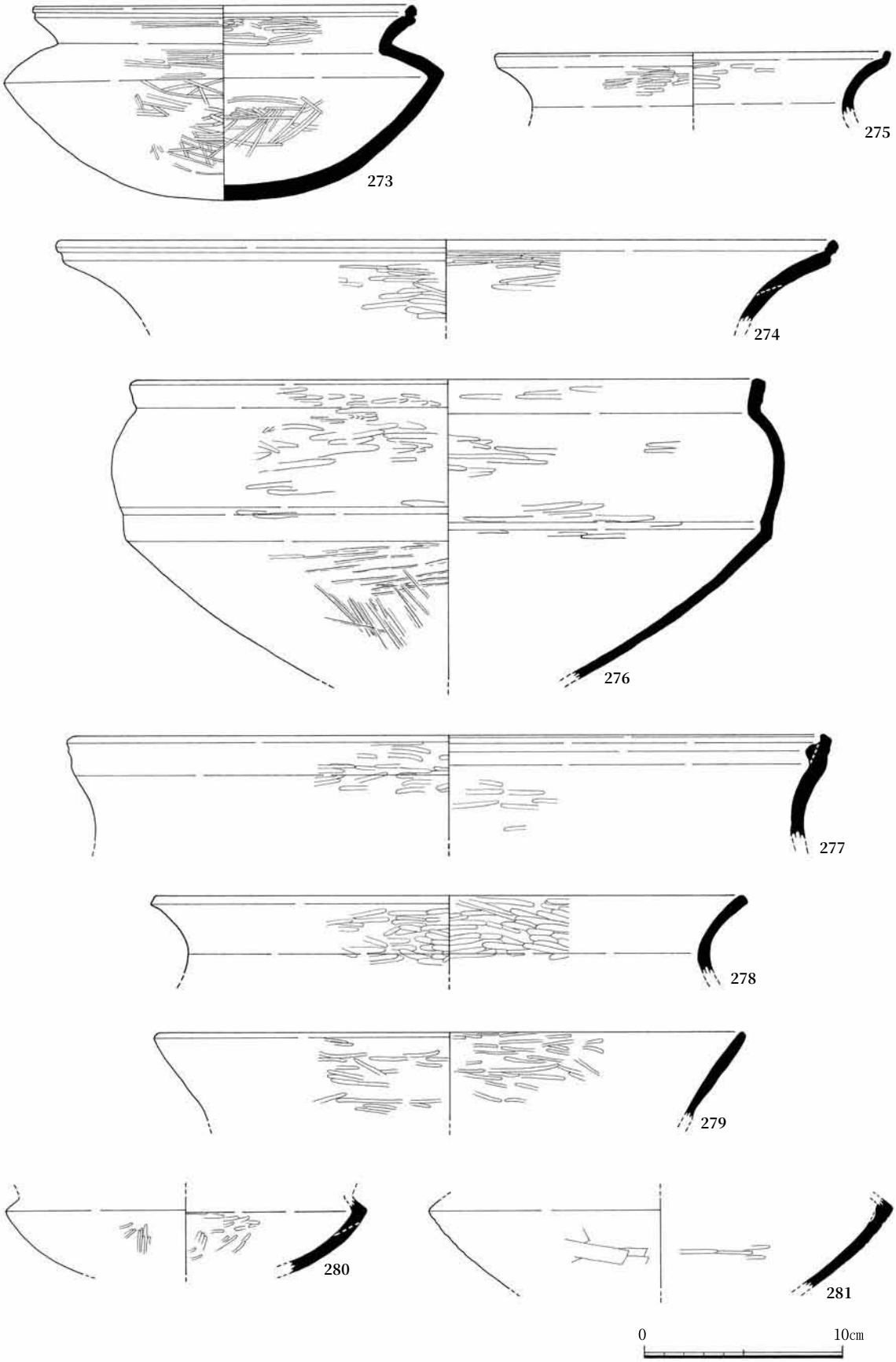


Fig.179　SR－1　2層出土遺物9（縄文土器）

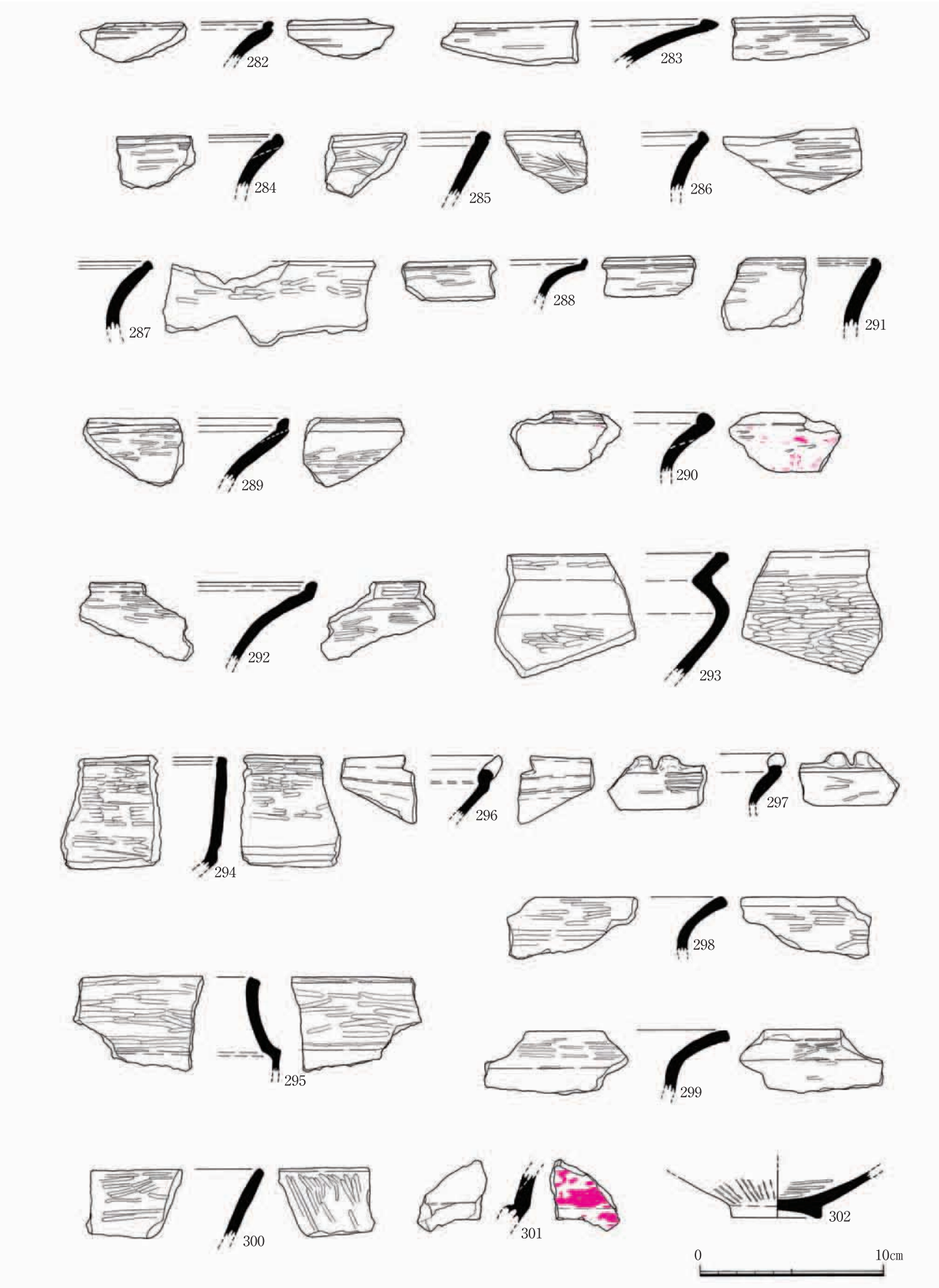


Fig.180　SR－1　2層出土遺物10（縄文土器）

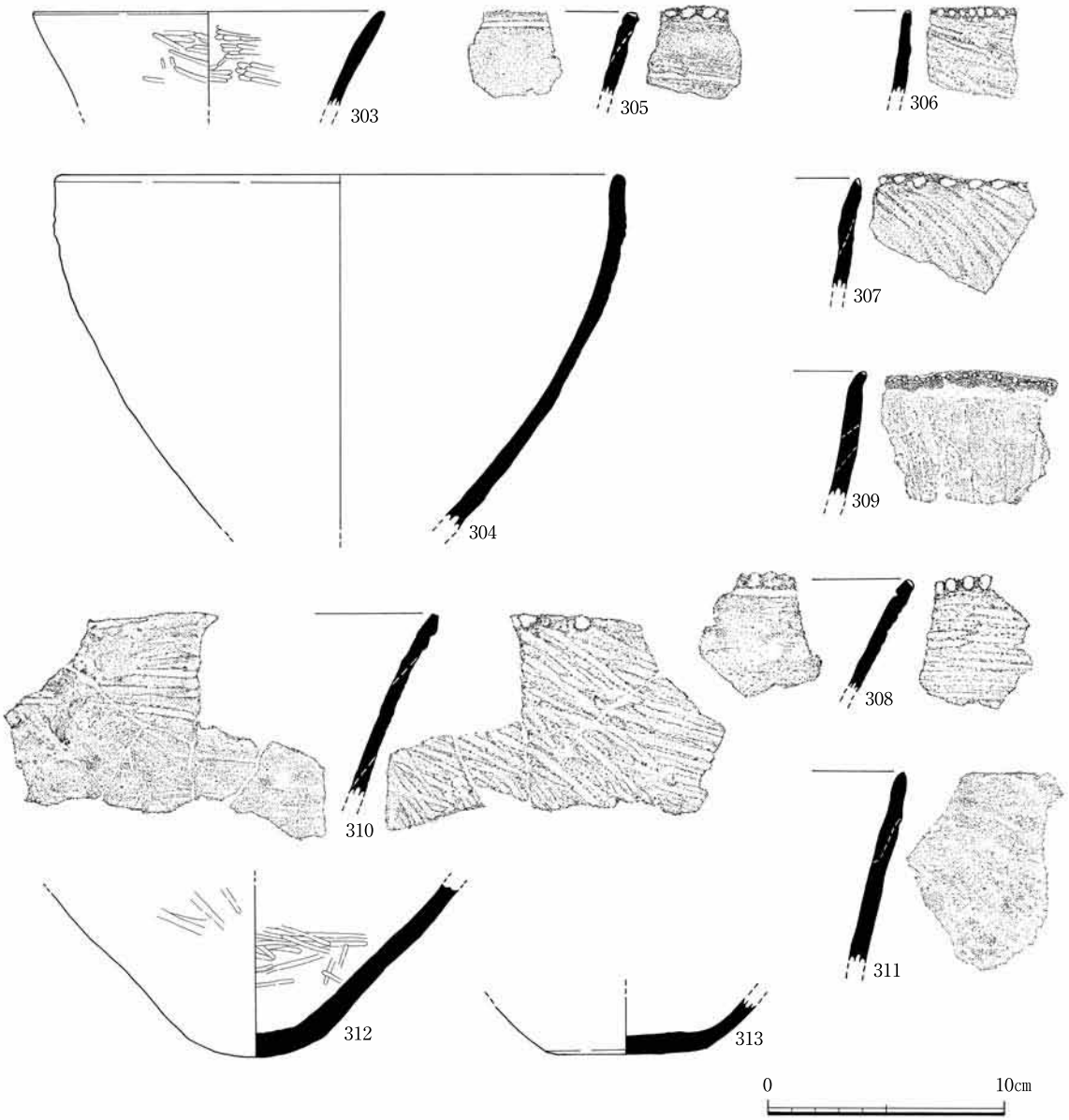


Fig.181　SR－1　2層出土遺物11（縄文土器）

口縁部端面に刻目を施すものである。202・205・207・209・210・212の外面には煤が付着し，204・207・209の口縁端部内面には1条の沈線を施す。また，211の外面には線刻を施す。213～251は刻目，刻目突帯を施さないものである。213～237は口縁部が緩やかに外反すると考えられるもので，214・215・217～222・224・225・227・229・231～233の外面には煤が付着する。238～249は口縁部が大きく外反すると考えられるもので，243～246・248・249の外面には煤が付着する。250・251は口縁部が直線気味に立ち上がると考えられるもので，250の外面全体にはお焦げが付着する。250は口縁端部外面に断面四角形の突帯を有し，逆「C」字形の刺突文を配す。また，内面には斜行の線刻を施す。253は口縁部外面に1条の突帯を貼付するもので，外面には煤が付着する。254～272は深鉢の底部破片である。254～257は底部が高台状を呈し，外面が直線的に立ち上がり，255・257の内面にはお焦げが付着する。258～272は高台状の底部が「ハ」字状に開くもので，262・265・269の内面にはお焦げが付着する。

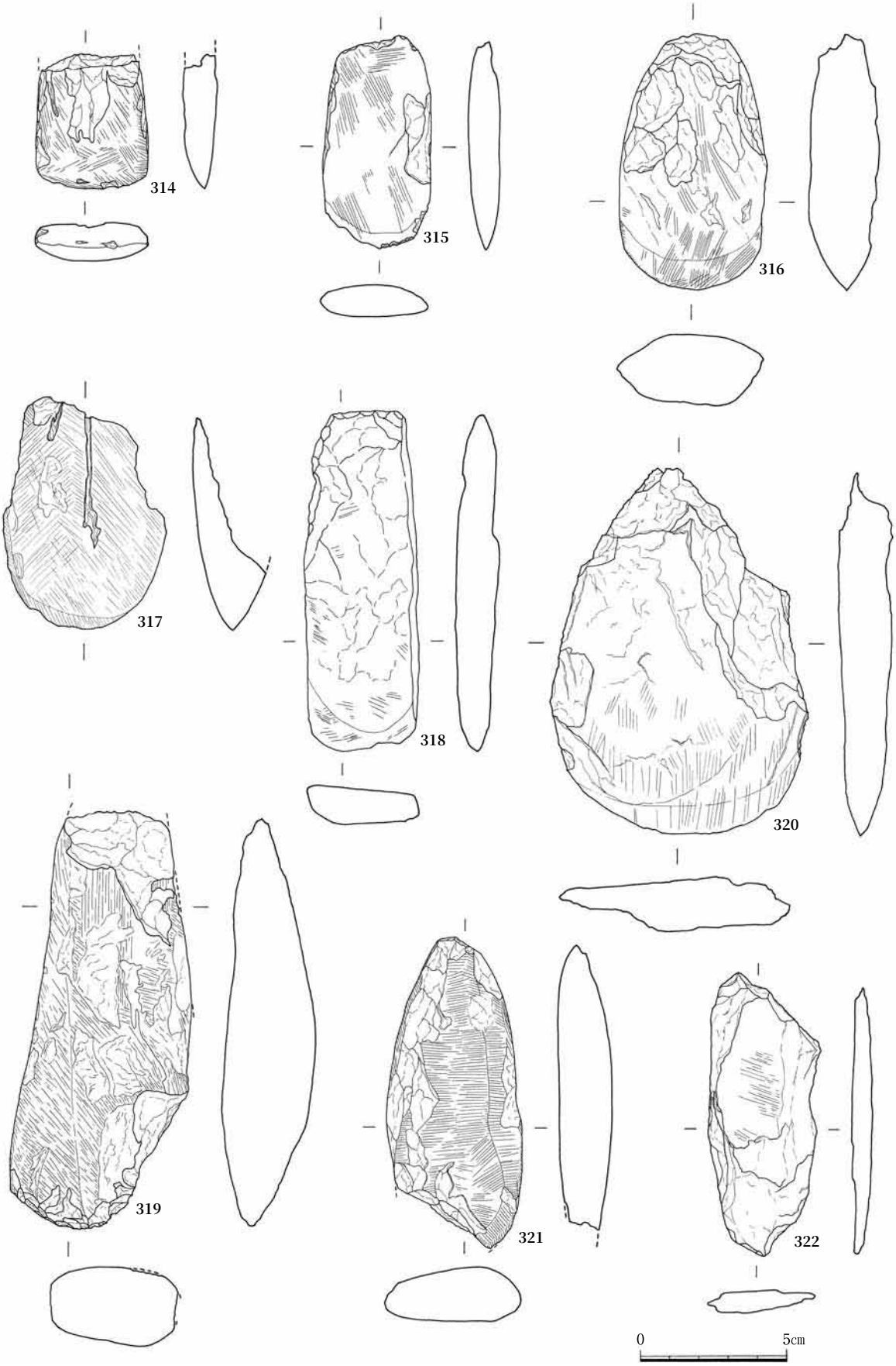


Fig.182　SR－1　2層出土遺物 12 (石製品)

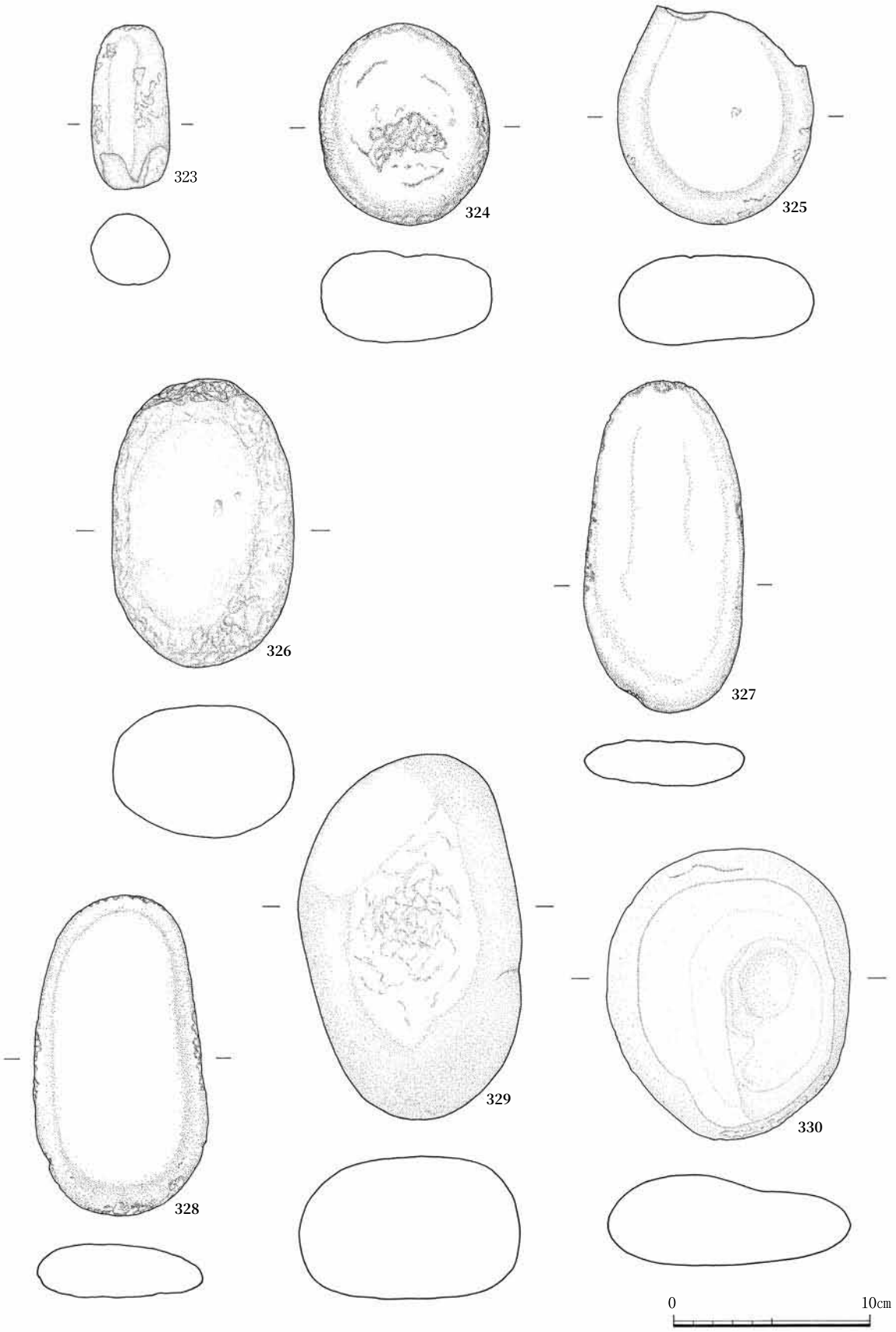


Fig.183　SR－1　2層出土遺物13 (石製品)

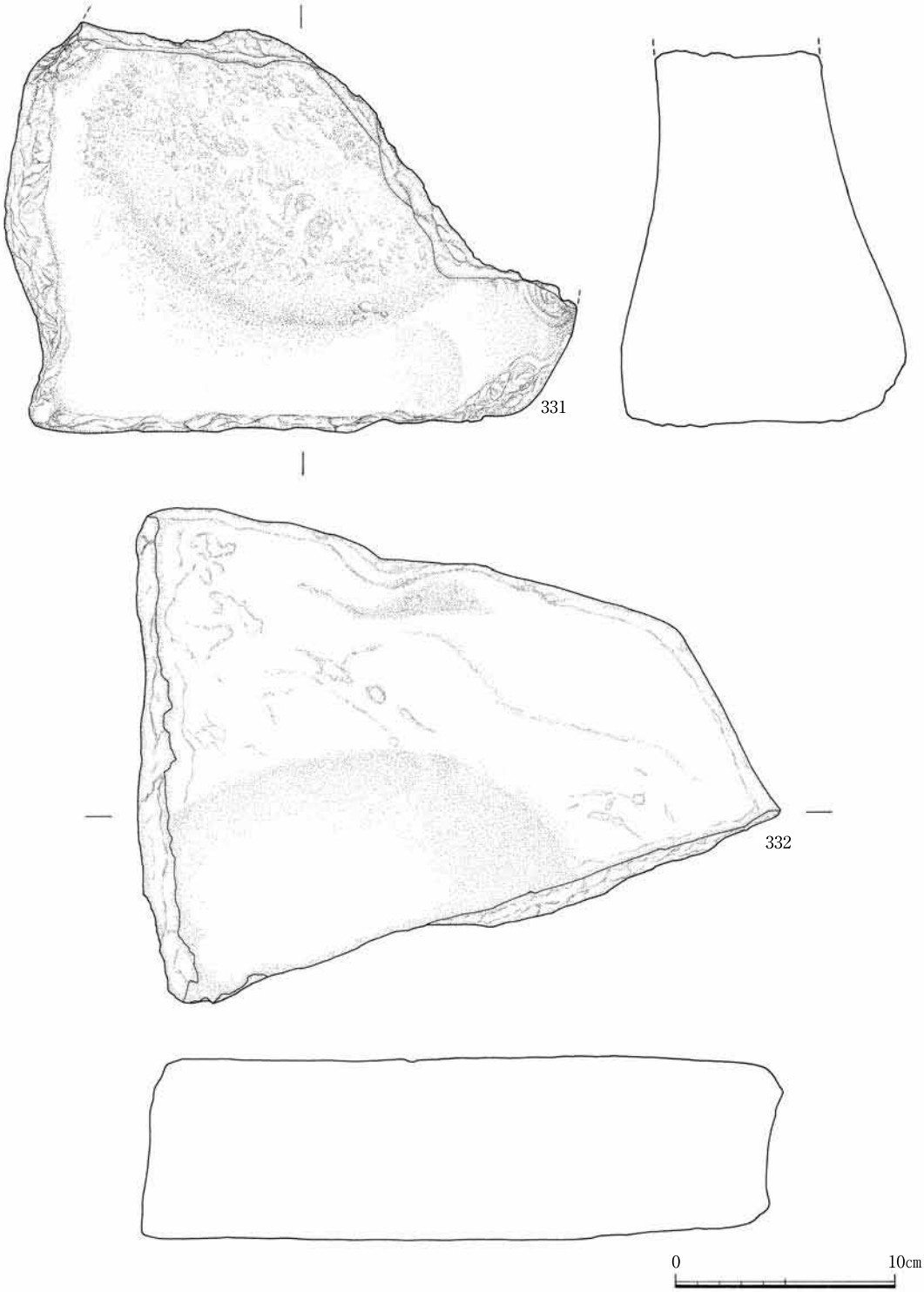


Fig.184　SR－1　2層出土遺物14（石製品）

273～302は浅鉢である。273・274は口縁端部に沈線または幅広い沈線を施すものである。273は最大径を胴部に有し，口縁部は鋭く屈曲して立ち上がる。また，口縁端部を上方へ摘み出し，内外面に1条の沈線を施す。274は口縁端部を斜め上方に摘み出し，外面に幅広い沈線を施す。275は口縁端部を斜め上方に摘み出すものである。276は口縁部が短く立ち上がるもので，胴部内面下端にはお焦げが付着する。277は口縁端部内面に1条の突帯を有するもので，口縁部はやや内

傾して立ち上がり，口縁部端面は内傾する面をなす。278・279は口縁部に特徴を持たないものである。280・281は胴部破片で，280は調整が非常に丁寧である。282～289は口縁部に沈線を施すもので，282～287は口縁端部を上方へ摘み出し，端部外面に1条の沈線を施すものある。282～284は外面に1条の沈線，285・286の内面には1条の沈線を施し，287の端部内外面には1条の幅広い沈線を施す。また，288の端部内面に1条の幅広い沈線を施し，289の端部内面に幅広い1条の沈線，端部外面に1条の沈線を施す。290～292は口縁端部を上方へ摘み出すもので，290の内外面には朱が残る。293は口縁部が短く立ち上がるもので，294・295は胴部から口縁部にかけて内傾して立ち上がるものである。294は口縁端部内面に細い沈線，口縁端部と胴部外面に幅広い沈線を施す。296・297は口縁端部に瘤または鰭状の突起を有するもので，297は端部を上方へ屈曲させ，

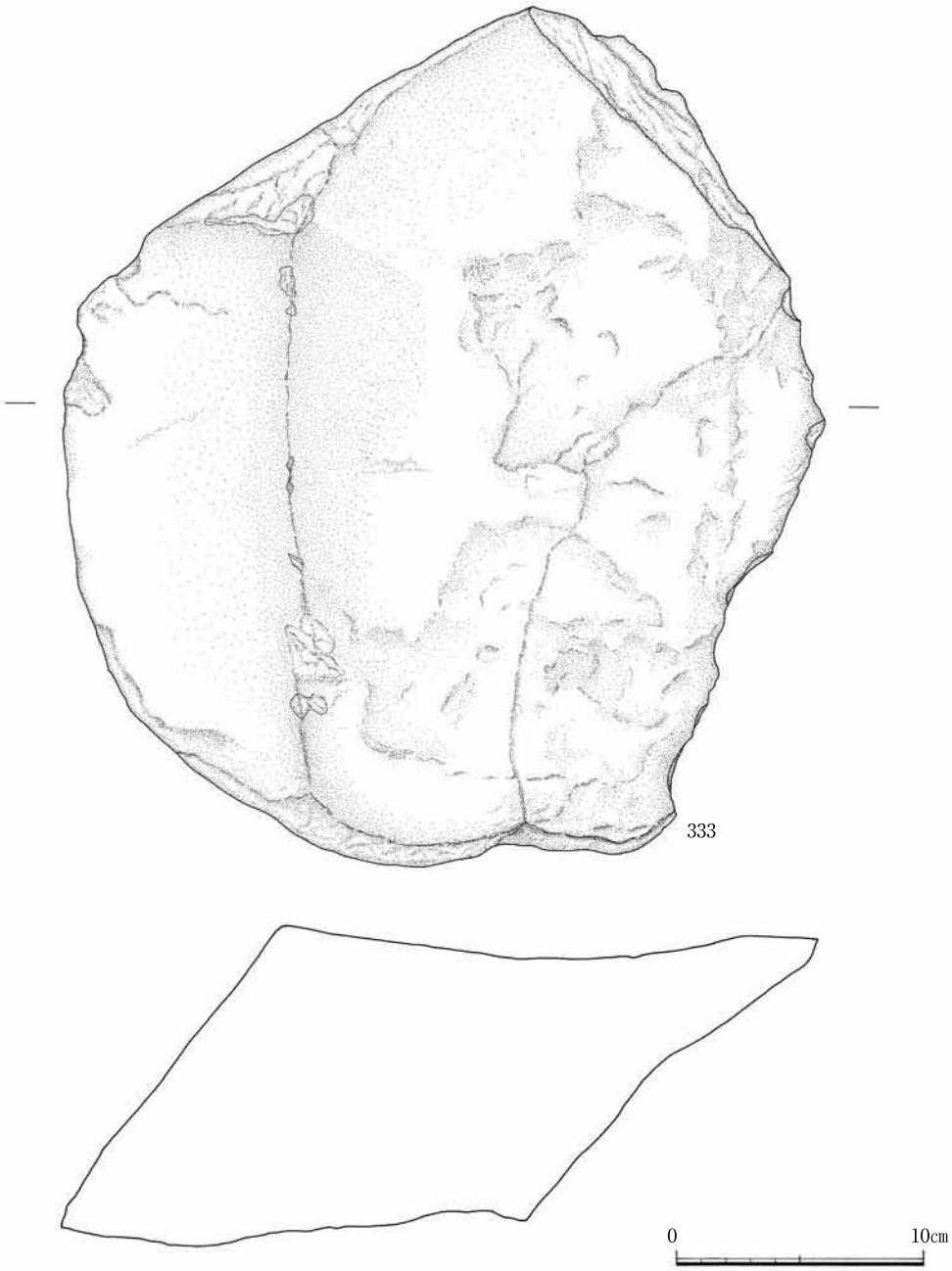


Fig.185　SR－1　2層出土遺物15（石製品）

2個の瘤状突起を配する。また，端部外面には1条の沈線を施す。298～300は口縁部に特徴がみられないものである。301は胴部破片で，屈曲部が残存し，内面には朱が残る。302は底部破片である。外底面は凹み，高台状を呈し，内面にはお焦げが付着する。

303～313は鉢と考えられるものである。303は浅鉢の可能性も考えられるもので，口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。304は口縁部から胴部にかけての破片で，胴部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。305～311は口縁部破片で，305～308は深鉢の可能性も考えられる。305～309は口縁部端面に刻目を施すもので，305・306の外面には煤が付着し，308の口縁端部内面には1条の沈線を施す。310・311は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので，310の外面全体には煤が付着する。312・313は底部破片で，312は丸底状，313は平底状を呈する。また，313の内面にはお焦げが付着する。

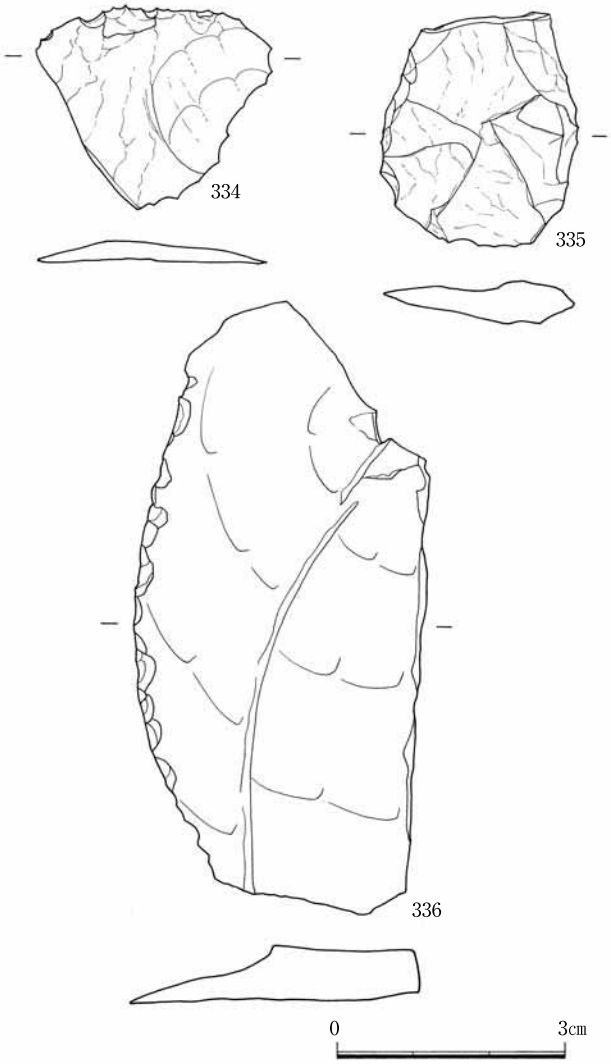


Fig.186　SR－1　2層出土遺物16（石製品）

石製品（Fig.182～186-314～336）

314～322は磨製石斧で，314～320は刃部のみ残存するものである。すべて研磨痕が明瞭に残り，315・317・319の刃部には使用痕が残る。321は刃部を欠損するもので，両面とも研磨痕が明瞭に残る。322は磨製石斧の一部と考えられ，表面の一部に研磨痕が残る。

323～330は叩石で，323は両端に敲打痕が残る。324は両面と側面に敲打痕，325～328は側面に敲打痕，329は片面の一部，330は側面の一部に敲打痕が残る。

331～333は台石である。331・332は両面に使用痕，333は片面に使用痕が残る。

334～336は剥片で，334は側辺を打ち欠き，335・336は側辺に調整を施す。

木製品（Fig.187・188-337～339）

337・338は鍬である。337の身は紡錘形を呈し，1/3ほど欠損する。上部から次第に厚さを減じ刃部を作り出し，中軸線のほぼ中央部に径3.4㎝の柄挿入孔を設ける。身はクヌギ材で板目状の片材を利用しており，断面形は舟形をなし，上面は僅かに凹状となる。調整は剥片石器によって行われ，器面には細かな鱗状の調整痕が残る。338も身は紡錘形をなし，中軸線からやや偏った

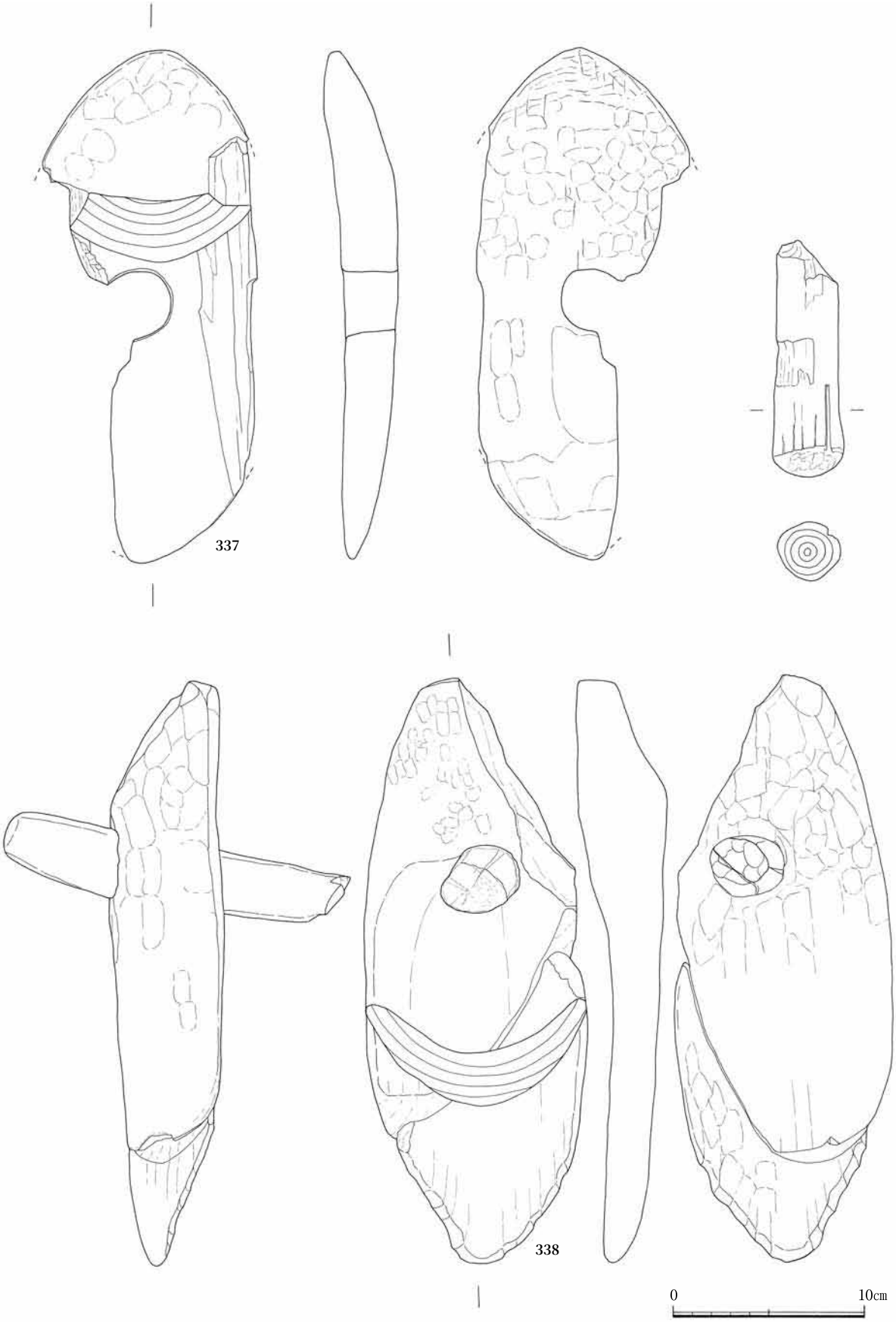


Fig.187　SR－1　2層出土遺物17 (木製品)

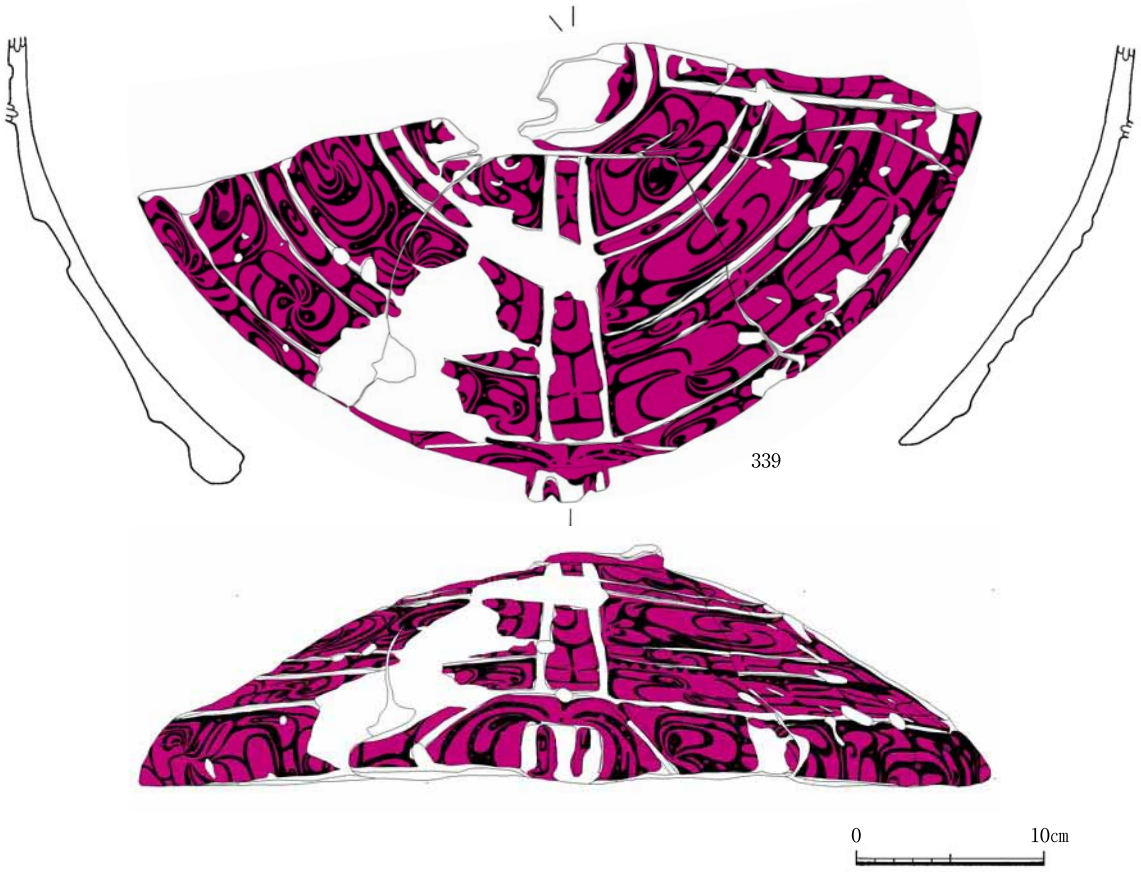


Fig.188　SR－1　2層出土遺物18（木製品）

位置に径3.6㎝の柄孔を設け，約70°の角度で柄が装着される。柄孔を境に下部は大きくU字状に抉られ刃部を形成し，上部は平らな面を保つ。刃部は使用に伴う摩耗が残り，身はカシ材であり，木取りは337と同様で，器面には剥片石器による細かな鱗状の調整痕が残る。

339は木胎漆器である。器形は蓋と考えられ，樹種はクスノキである。1/2ほどが欠損するが，平面形は隅丸方形を呈すると考えられ，外面は口縁部，体部，頂部から構成される。隅丸方形を呈する口縁部のコーナー部には豚鼻状の突起が設けられ，体部は口縁部の突起に対応するかたちで，匙面隆帯が縦に延び，外面全体を大きく分割し，各区画はさらに2帯のやや小さい横位の匙面隆帯により3面に区画される。この区画内には赤漆で繊細且つ複雑な文様が描かれており，これらの文様は下地に黒漆を塗り，黒漆の上には器面を平滑にするため生漆を重ね塗りし，その上に朱漆で文様を描く。この文様は花弁をモチーフにしたものを主体として，一部には点文も認められる。また，頂部は高台状の摘みを設け，径約7㎝，残存高1㎝を測る。また，口縁部に3個，体部上位に1個の補修孔が存在し，このうち口縁部の2孔には補修紐が残存する。

3層出土遺物

縄文晩期土器（Fig.189・190−340～373）

340～359は深鉢である。340は口縁部が「く」字状に屈曲して立ち上がり，内面にお焦げが残り，外面には煤が付着する。341～346は口縁部が緩やかに外反するもので，341・342の外面には

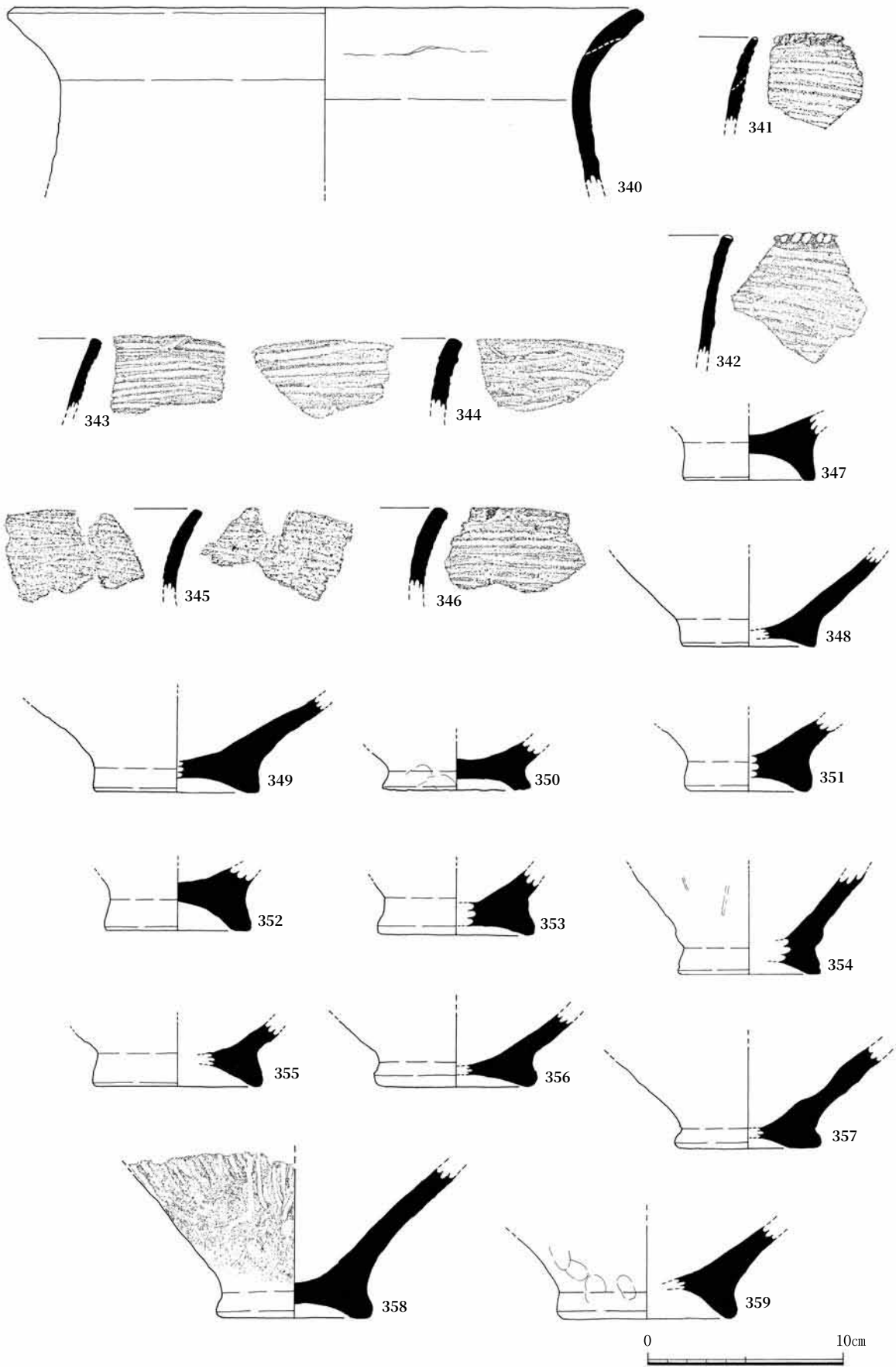


Fig.189 SR－1　3層出土遺物1 (縄文土器)

煤が付着する。347～359は底部破片で，347・348は底部が高台状を呈し，外面が直線気味に立ち上がるもので，348の内面にはお焦げが残り，外面には煤が付着する。349～359は高台状の底部が「ハ」字状に開くもので，349・353・358の内面にはお焦げが残る。

360～371は浅鉢である。360は口縁部が大きく外反し，端部を上方へ摘み出す。また，端部内面には1条の沈線を施す。361は口縁部が大きく外反しており，端部を上方へ拡張し，拡張部は水平な面をなす。362は口縁部が短く立ち上がるもので，胴部外面上半には1条の沈線を施す。363～365は口縁端部に沈線を施すもので，363は端部を上方へ摘み出し，端部内面には幅広い1条の沈線，外面には1条の沈線を施す。364は端部を外方向に摘み出し，外面に1条の沈線を施す。また，外面全体には煤が付着する。365は胴部から口縁部にかけて「S」字状に屈曲し，端部内面に1条の沈線を施す。366～368は端部を上方へ摘み出すもので，368は口縁部を上方へ屈曲させ，

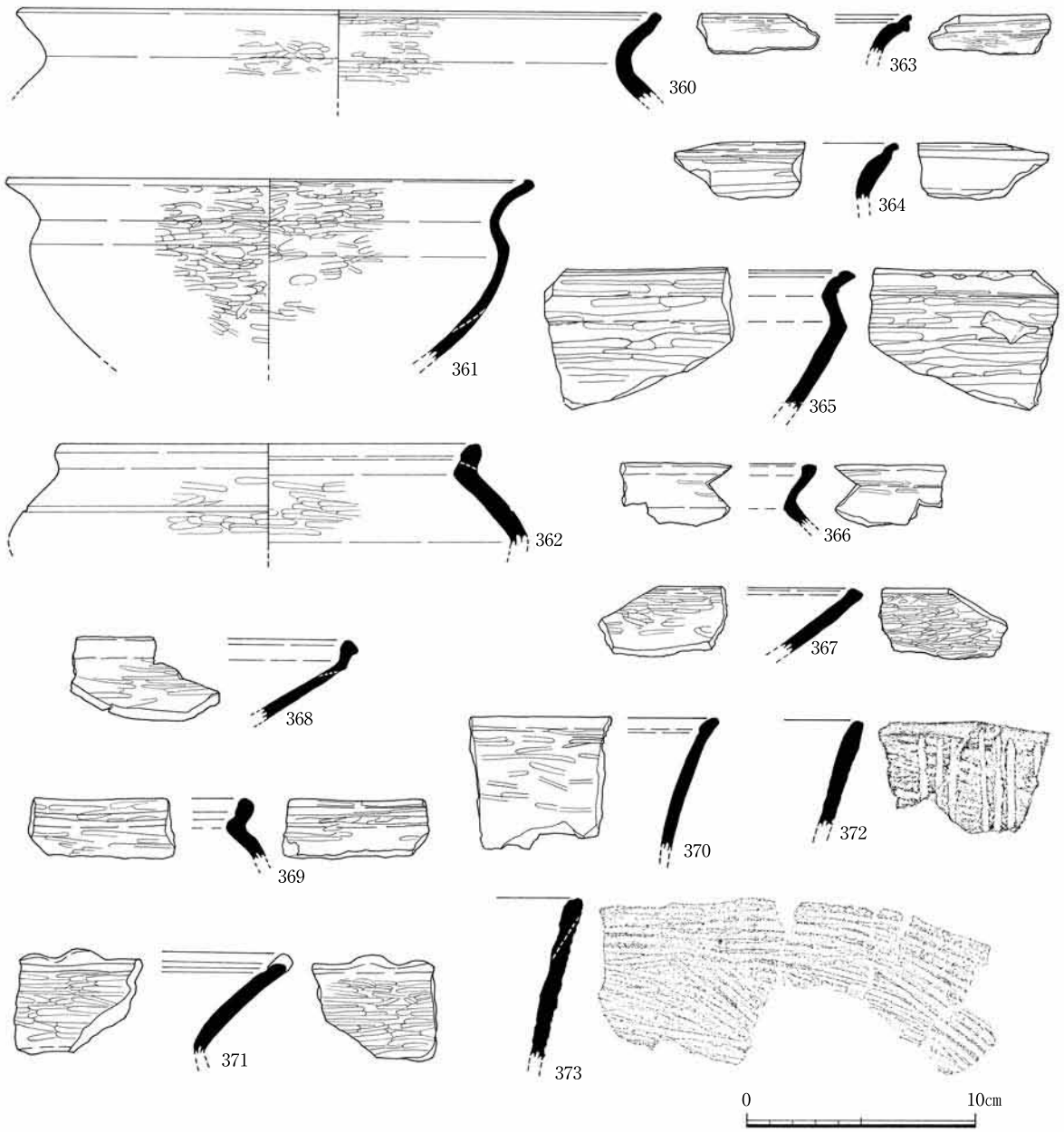


Fig.190　SR－1　3層出土遺物2（縄文土器）

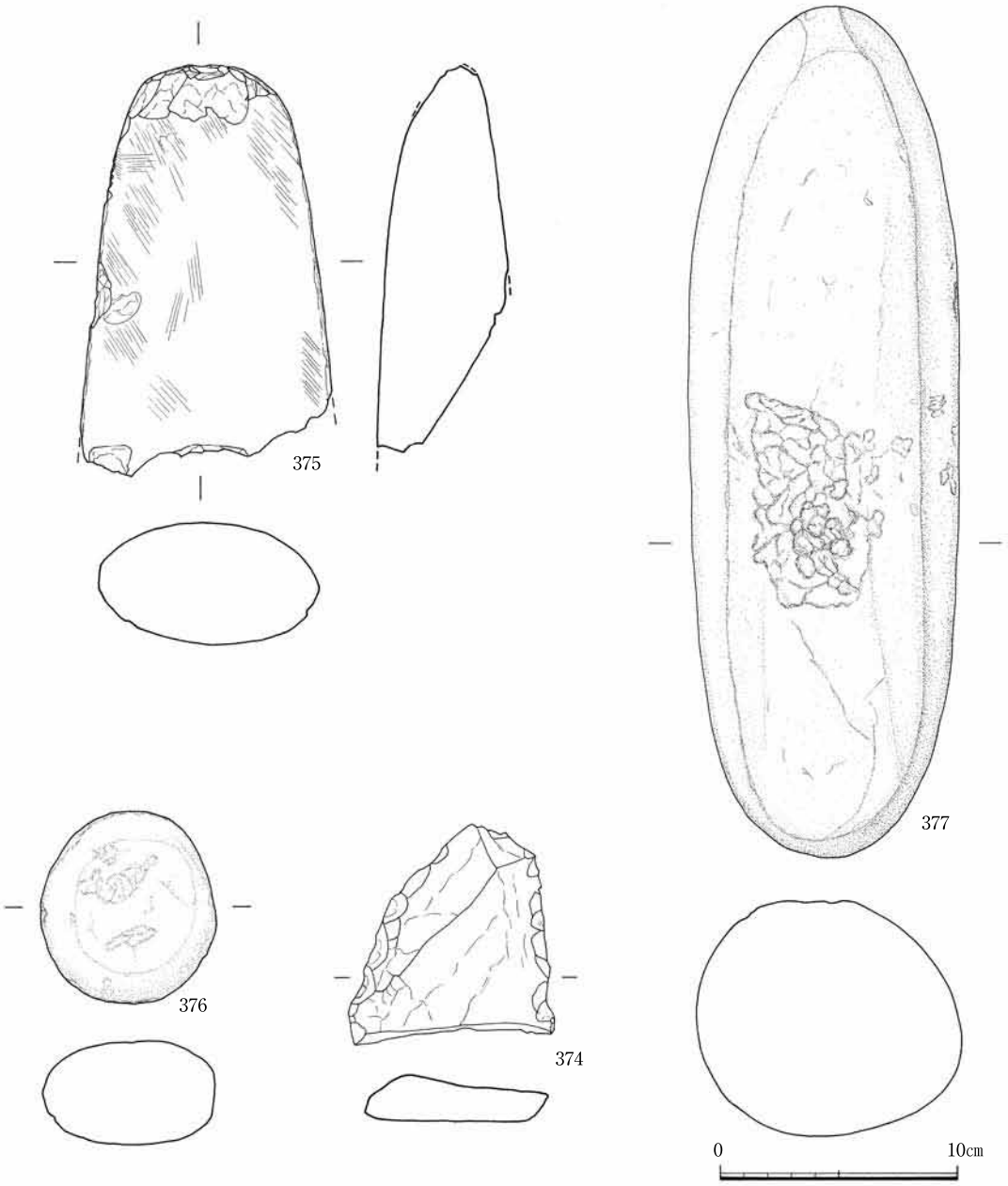


Fig.191　SR－1　3層出土遺物3（石製品）

端部を外方向へ摘み出す。また，外面には煤が付着する。369は口縁部が短く立ち上がるもので，370は口縁部が外反しながら立ち上がり，端部をやや肥厚させている。371は口縁端部に瘤状の突起を有するもので，端部内面には1条の幅広い沈線を施す。

372・373は鉢と考えられるもので，ともに外面には煤が付着する。

石製品（Fig.191−374～377）

374は磨製石斧で，基部のみ残存し，表面には研磨痕が明瞭に残る。

375は叩石で，片面と側面の一部に敲打痕が残る。

376は台石と考えられるもので，両面に使用痕が残る。

377は剥片で，側辺部には細かな調整を施す。

SR－2

SR－1の下層で検出した自然流路である。幅約6～10m，深さは0.7～0.8m前後を測り，延長約36mを検出した。断面は不整の舟底状を呈し，埋土はSR－1によって掘り込まれている。埋土は1層が木片などの有機物を多く含むオリーブ黒色(5Y3/1)シルト，2層が木片などの有機物や炭化物を多量に含むオリーブ黒色(7.5YR3/1)シルトであった。出土遺物には縄文後期土器片，縄文晩期土器片，石製品がみられ，縄文後期土器(389～392)4点，縄文後期土器(378～388，393～425)44点，打製石鏃(426)1点，打製石斧(427)1点，叩石(428)1点，台石(429)1点が図示できた。

1層出土遺物

縄文晩期土器(Fig.193-378～388)

378～383は深鉢である。378は口縁部が大きく外反しながら立ち上がり，外面には煤，お焦げが付着する。379～382は口縁部が緩やかに外反しながら立ち上がるもので，382の口縁部端面には1条の沈線，379の外面には煤が付着する。383は波状口縁を呈すると考えられるもので，外面には煤が付着する。

384～386は浅鉢である。384は胴部中程で「S」字状に屈曲し，口縁部は大きく外反して立ち

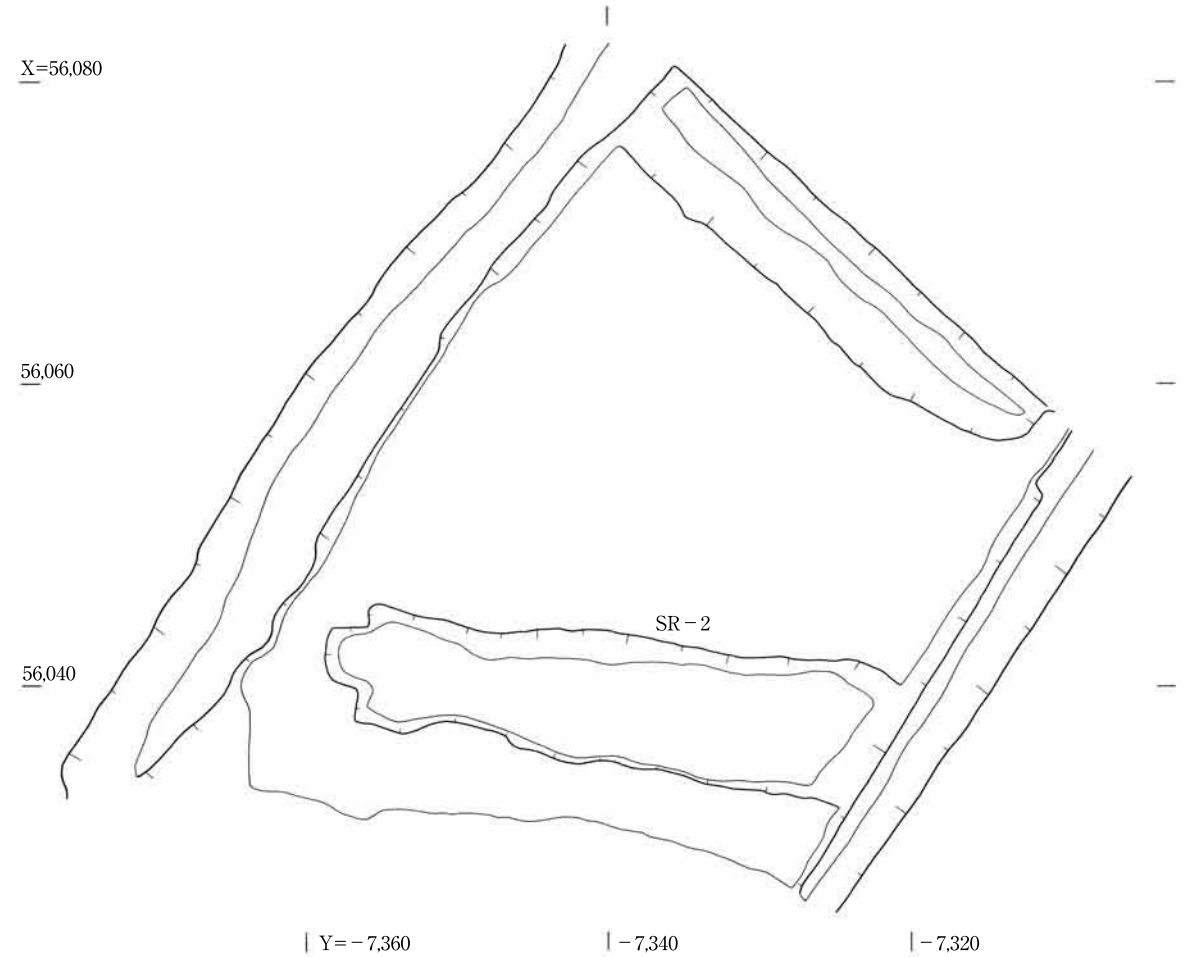


Fig.192　縄文時代遺構平面図(S:1/500)

上がる。端部は肥厚しており，外面には1条の沈線を施す。また，内面には朱が残存する。385も胴部中程で，「S」字状に弱く屈曲し，口縁部が大きく外反する。また，端部は上方へ拡張される。386は口縁端部内外面に1条の沈線を施す。

387・388は鉢と考えられるもので，387は外面全体にお焦げが付着しており，調整は不明である。388は外面に煤が付着する。

2層出土遺物

縄文後期土器（Fig.194-389～392）

389～392は縄文後期土器で，389～391は深鉢と考えられる。389は口縁部外面に縄文を施している。390は口縁端部を部分的に斜め上方へ拡張しており，拡張部には1本の沈線で区画し，その区画内に1条の沈線を施す。また，区画された沈線の端には刺突文，沈線間には縄文を施す。

391・392は浅鉢と考えられるものである。391は口縁部破片で，口縁部が大きく内傾しながら立ち上がり，外面には2条を単位とする沈線を描き，一部の沈線内には刺突文を施す。また，沈線間には縄文を充填する。392は2条の沈線で区画し，磨消縄文を施す。

縄文晩期土器（Fig.194～196-393～425）

393～417は深鉢である。393は口縁部が緩やかに外反するもので，内面にはお焦げが付着する。394は口縁部が緩やかに屈曲し外反するもので，外面には煤が付着する。395は直立気味の胴部上端から口縁部が大きく外反する。396～410は口縁部破片で，396～405は口縁部が緩やかに外反すると考えられるものである。397・399・400・402・404・405の外面には煤が付着する。406～408は口縁部が比較的大きく外反するもので，406・407の外面には煤が付着する。409・410は口縁部が屈曲して立ち上がるものである。411～417は底部破片で，411は底部が高台状を呈し，外面が直線気味に立ち上がるものである。412～417は高台状の底部が「ハ」字状に開くもので，412・417の内面にはお焦げが残る。

418～424は浅鉢で，418は口縁部が大きく外反して立ち上がり，端部を斜め上方へ屈曲させる。また，端部内外面には1条の沈線を施す。419・420は口縁部が短く立ち上がるもので，419は端部がやや肥厚する。421は口縁端部を斜め上方へ折り曲げ，外面に1条の沈線を施す。422は口縁端部内外面に1条の沈線を施し，外面にはお焦げが付着する。423は胴部破片で，内面には朱が残存する。424は底部破片と考えられ，内面にはお焦げが残る。

425は鉢と考えられるもので，口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。内面には接合痕が明瞭に残り，外面には煤が付着する。

石製品（Fig.196-426～429）

426は凹基式の打製石鏃で，側辺部には細かな調整を施す。

427は打製石斧と考えられるもので，基部のみ残存する。

428は叩石で，両面と側面に敲打痕が残る。

429は台石と考えられるもので，両面に使用痕が残る。

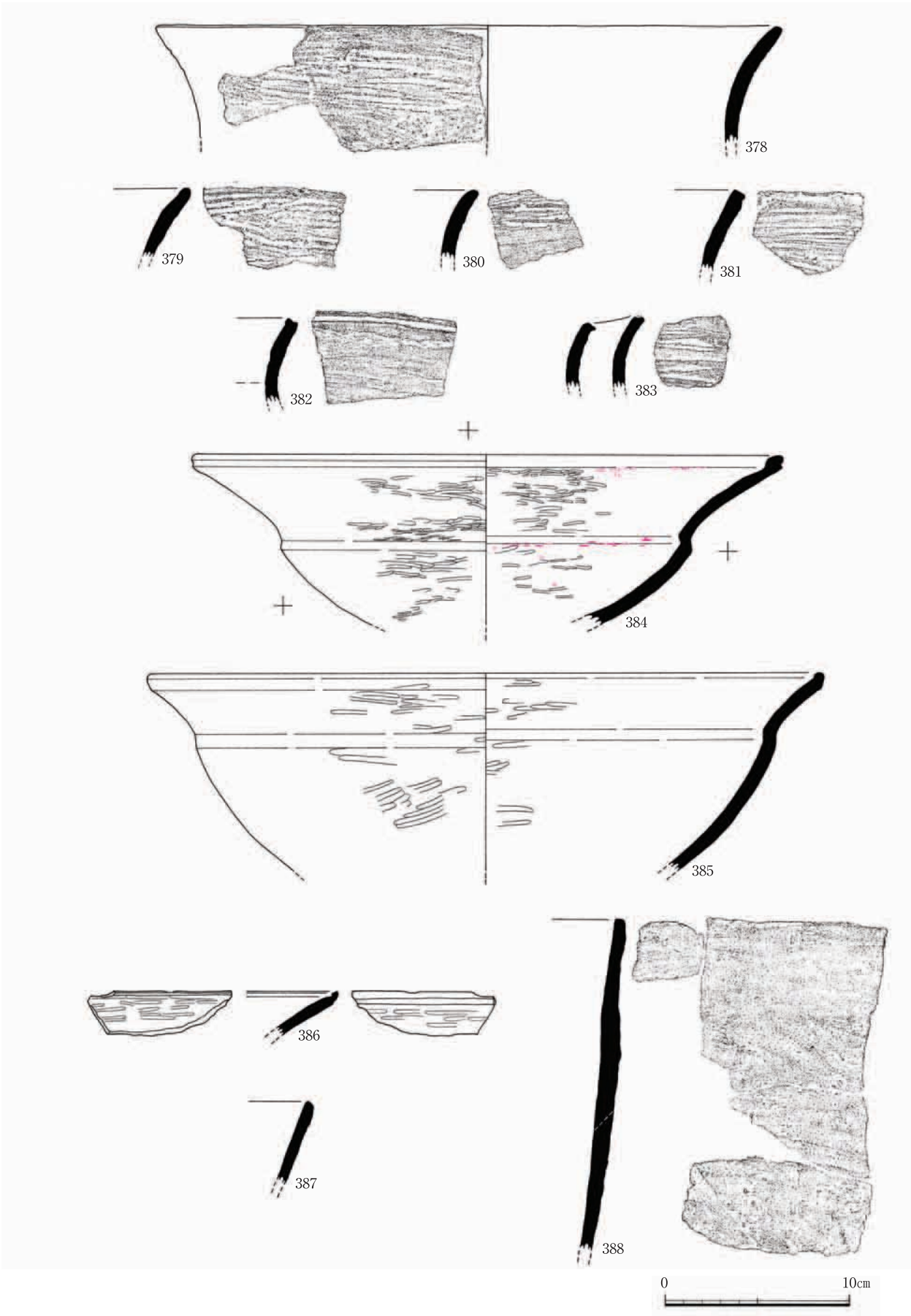


Fig.193　SR－2　1層出土遺物（縄文土器）

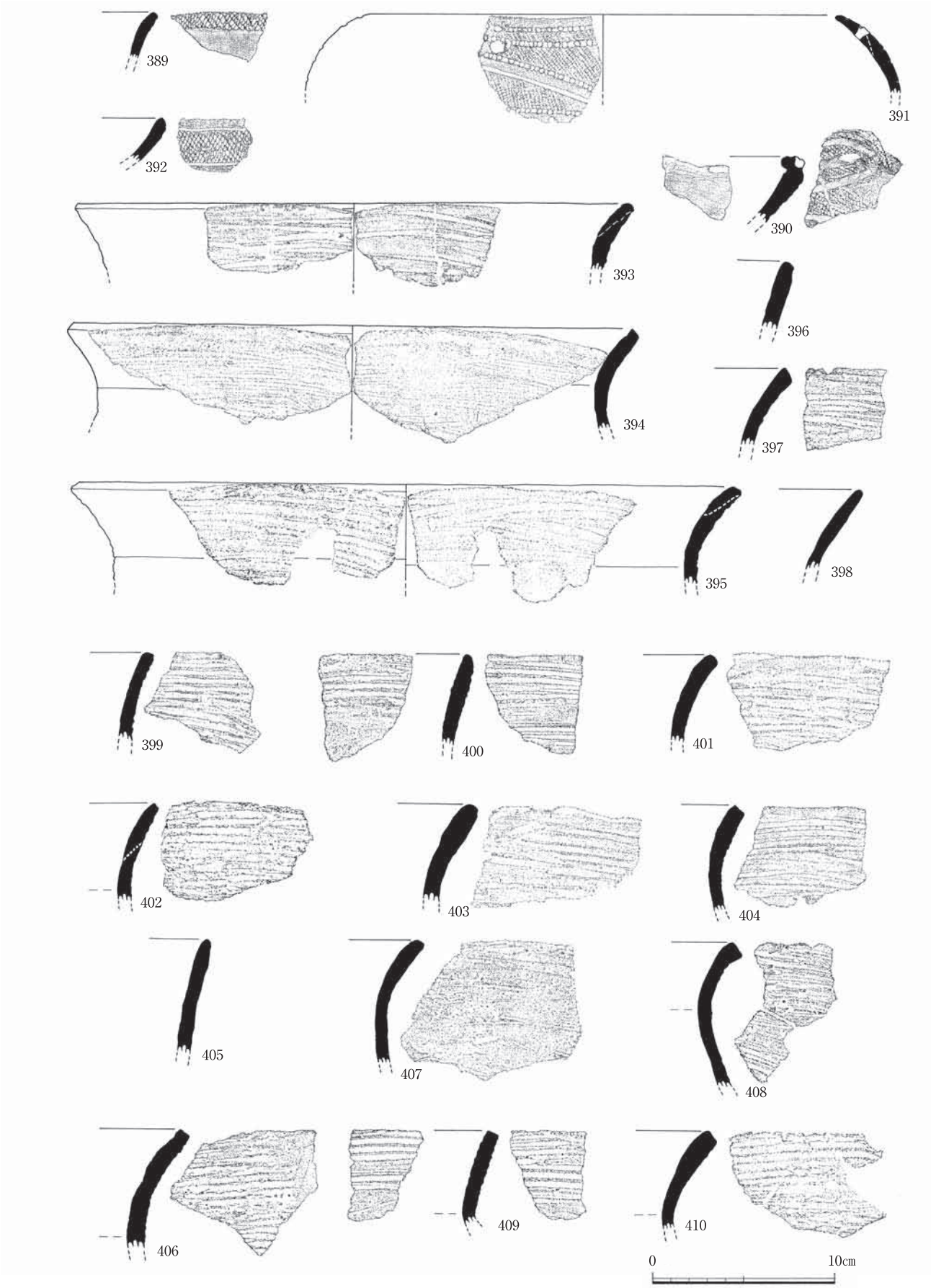


Fig.194　SR－2　2層出土遺物1（縄文土器）

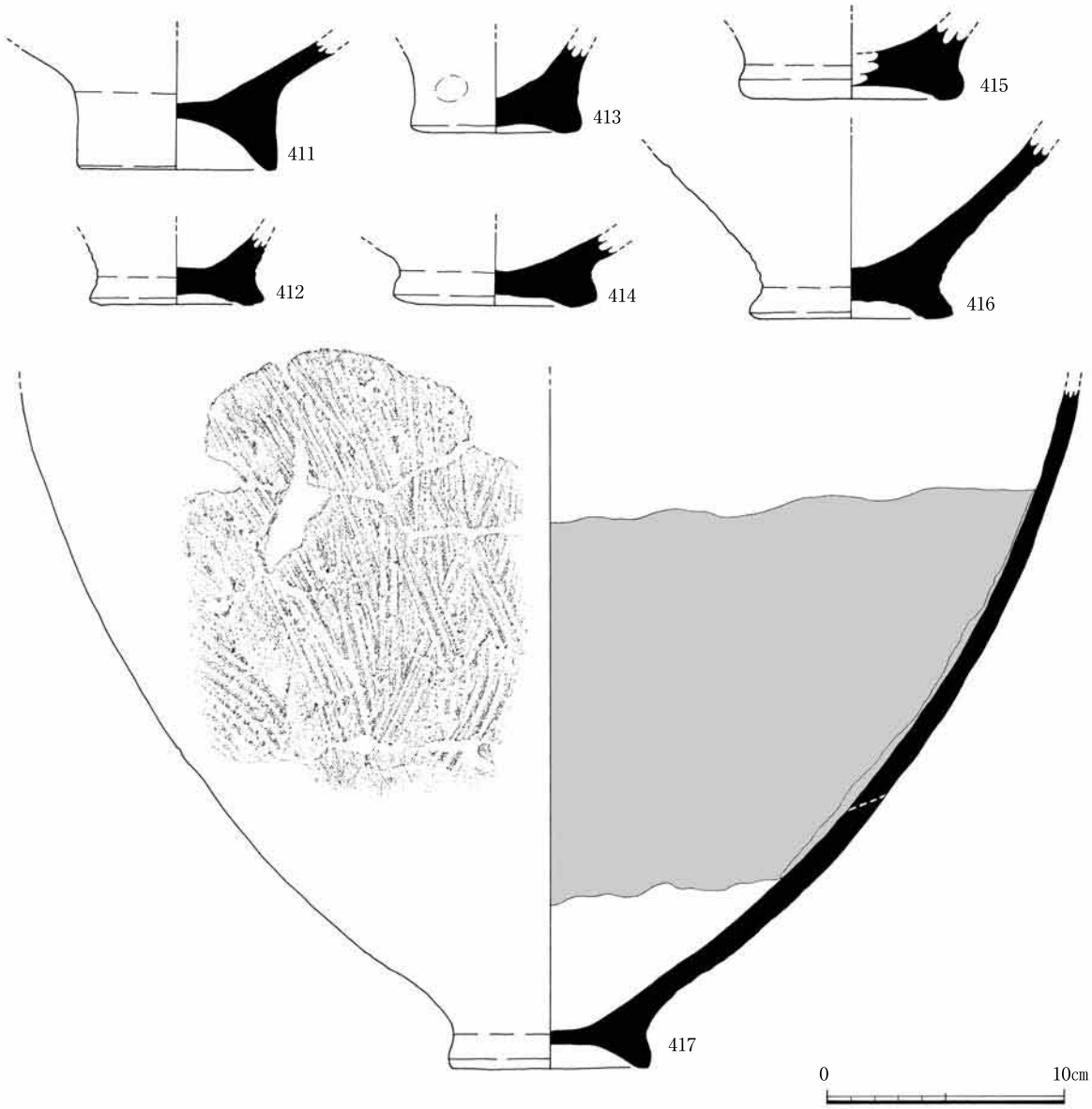


Fig.195　SR－2　2層出土遺物2（縄文土器）

木製品（Fig.196−430）

430は用途不明の木製品で，樹皮をゼンマイ状に束ねるものである。

⑵古墳時代

調査区北西部のⅨ層上面で古墳時代を考えられる土坑，溝跡，ピットが検出されているが，遺物が出土しておらず，時期は明確ではない。

①土坑

SK－1

調査区北西部で検出された不整円形の土坑である。長径約2.9m，短径約2.7m，深さ20㎝前後を測り，長軸方向はN－16°－Wで，断面は不整の舟底形を呈する。埋土は黄灰色（2.5Y/4/1）シルトで，出土遺物は皆無であった。

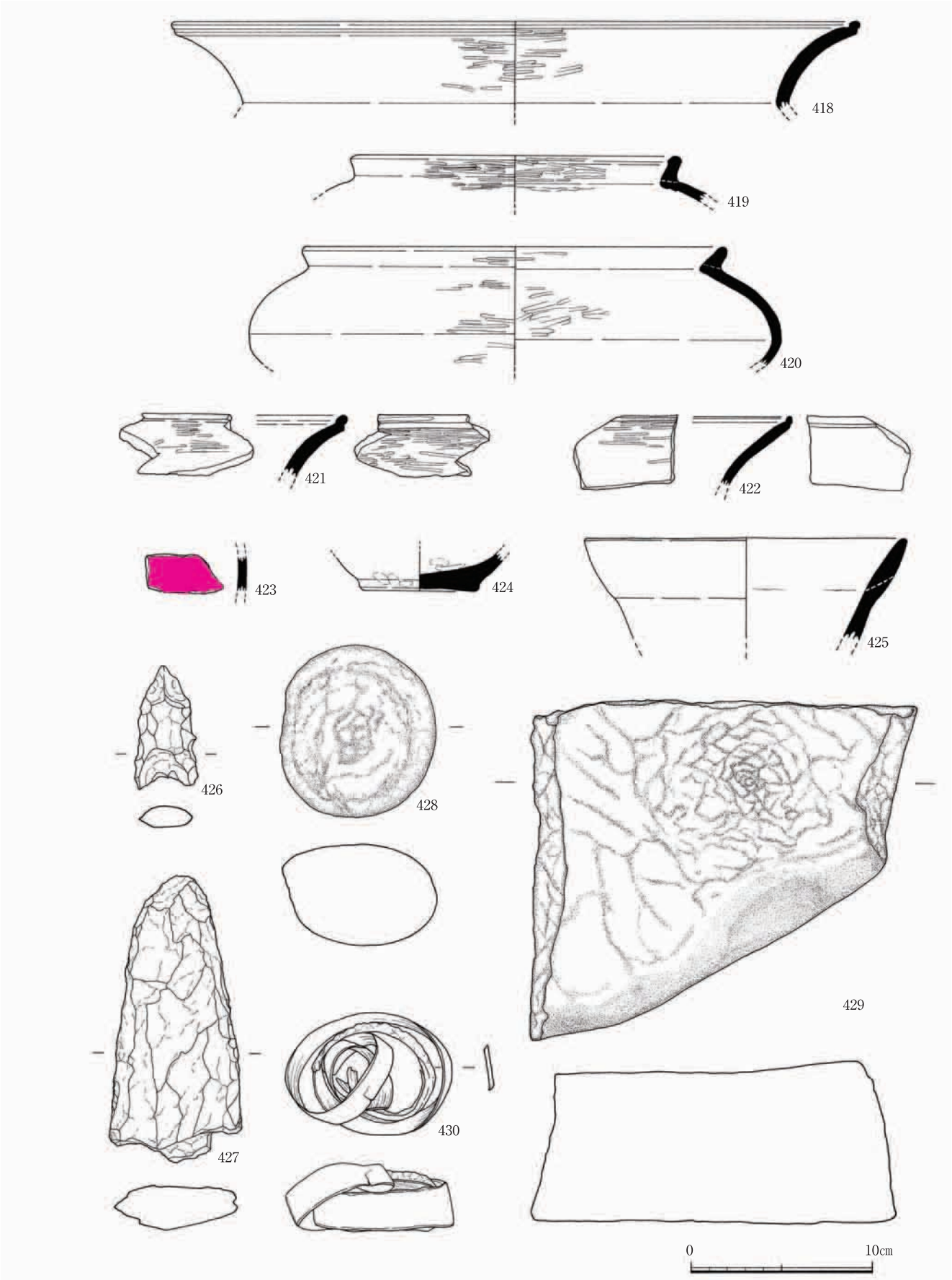


Fig.196　SR－2　2層出土遺物3（縄文土器・石製品・木製品　426=1/1，427・430=1/2）

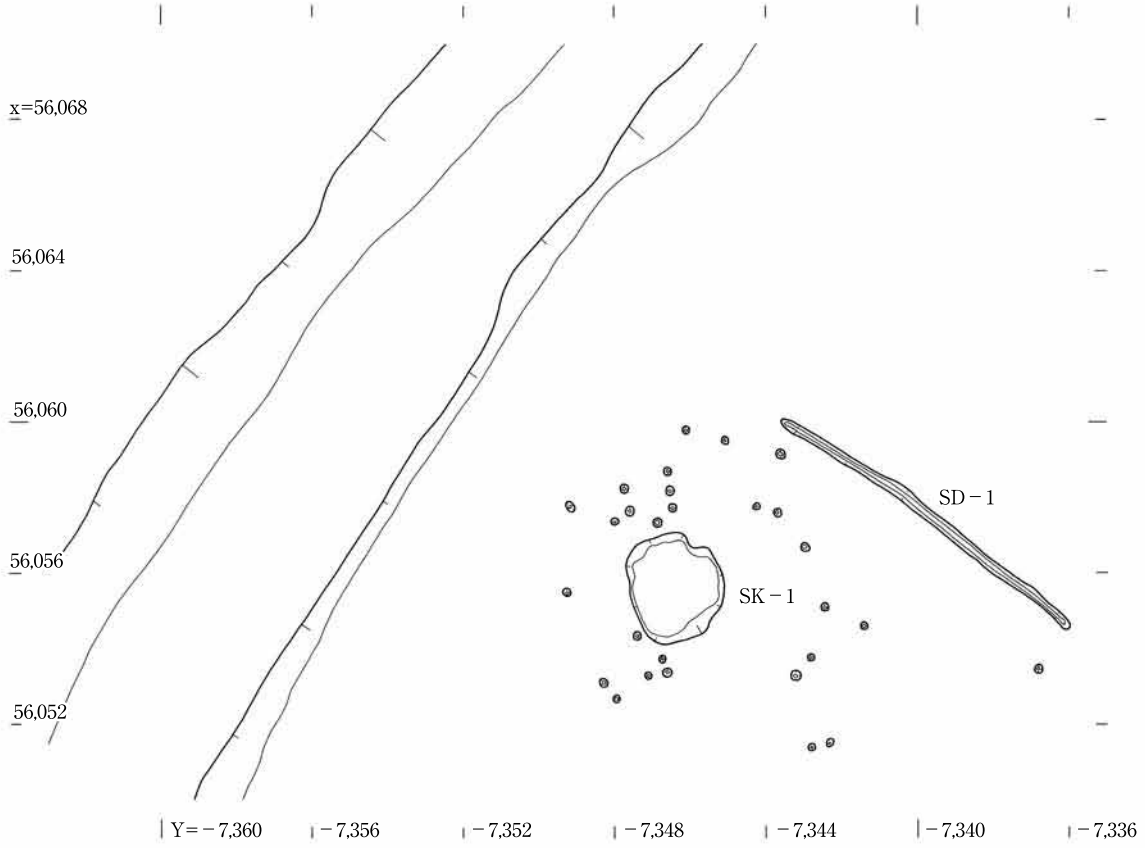


Fig.197　古墳時代遺構平面図（S:1/200）

SD－1（Fig.198）

調査区北西部で検出された東西溝跡（N−55°－W）である。幅26～32㎝，深さ20㎝前後で，基底面は東が6.899m，西が6.874mとほぼ平坦で，検出長は9.35mを測る。埋土は黄灰色（2.5Y/4/1）シルトで，出土遺物は皆無であった。

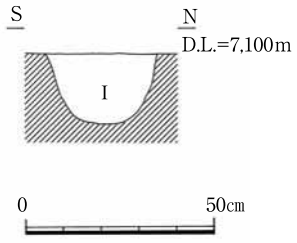


Fig.198　SD−1 バンクセクション図

土器観察表1

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
149	1	Ⅰ層		縄文土器	深鉢		(5.4)			内外面ともナデ調整。	黒色	オリーブ黒色	
149	2	Ⅰ層		縄文土器	深鉢		(5.5)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	灰褐色	黒褐色	
149	3	Ⅰ層		縄文土器	深鉢		(6.4)			内外面ともナデ調整。	黄灰色	にぶい黄橙色	
149	4	Ⅰ層		縄文土器	深鉢		(9.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
149	5	Ⅰ層		縄文土器	浅鉢		(3.7)			内外面ともナデ調整。	黄灰色	黒色	
149	6	Ⅳ層		土師質土器	小皿	10.0	1.5		5.2	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	橙色	
150	7	Ⅷ層		縄文土器	浅鉢		(6.2)			内面はナデ調整。	黄灰色	褐灰色	縄文後期
150	8	Ⅷ層		縄文土器	深鉢		(3.7)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	灰白色	
150	9	Ⅷ層		縄文土器	深鉢		(3.7)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	黄橙色	
150	10	Ⅷ層		縄文土器	深鉢		(5.7)			摩耗が著しく調整は不明。	黄灰色	暗灰黄色	
150	11	Ⅷ層		縄文土器	深鉢		(2.7)		6.9	内面は摩耗が著しいが、外面は縦方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	黄褐色	
150	12	Ⅷ層		縄文土器	浅鉢		(3.7)			摩耗が著しく調整は不明。	灰黄褐色	灰黄褐色	
150	13	Ⅷ層		縄文土器	浅鉢		(5.6)			摩耗が著しく調整は不明。	灰黄褐色	灰褐色	
150	14	Ⅷ層		縄文土器	鉢	22.0	(14.2)		8.4	内面は横方向の条痕調整とナデ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	暗灰色	橙色	
150	15	Ⅷ層		弥生土器	壷		(4.8)			内外面ともナデ調整。	灰黄褐色	灰白色	
150	16	Ⅷ層		弥生土器	甕		(3.5)		3.2	内面はナデ調整で、外面は縦方向のハケ調整。	灰黄色	灰黄色	
150	17	Ⅷ層		土師器	壷	13.2	(6.2)			内面はヨコナデ調整で、外面は縦方向の粗いハケと横方向の細かなハケを施す。	浅赤橙色	浅黄橙色	

土器観察表2

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
150	18	Ⅷ層		土師器	壷	17.2	(4.7)			内外面とも横ナデ調整。	にぶい橙色	にぶい橙色	
150	19	Ⅷ層		土師器	鉢	9.7	(8.6)	11.6		摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
152	30	Ⅸ層		縄文土器	深鉢	39.6	(7.1)			内面は摩耗が著しいが、外面は斜め方向の条痕調整。	灰黄色	にぶい黄橙色	
152	31	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(4.0)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	灰白色	浅黄橙色	
152	32	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(7.3)			内外面ともナデ調整。	灰黄色	にぶい黄橙色	
152	33	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.5)			内外面とも粗いナデ調整。	黄灰色	暗灰黄色	
152	34	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.7)			摩耗が著しく調整は不明。	暗灰色	暗灰色	
152	35	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.3)			内面は摩耗が著しいが、外面はナデ調整。	黄灰色	黒色	
152	36	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.4)			内外面ともナデ調整。	灰色	灰黄色	
152	37	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.6)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
152	38	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.8)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	褐灰色	
152	39	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(7.2)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
152	40	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(5.6)			内外面ともナデ調整。	暗灰色	褐灰色	
152	41	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(4.3)		8.4	内面は摩耗が著しいが、外面はナデ調整。	にぶい橙色	灰黄褐色	
152	42	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.2)		6.8	内面にはナデとケズリを施し、外面にはナデを施す。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
152	43	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.9)		7.0	摩耗が著しく調整は不明。	灰オリーブ色	灰色	
152	44	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.5)		9.2	内面は摩耗が著しいが、外面はナデ調整。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	

土器観察表3

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
152	45	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(5.1)		8.8	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
152	46	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(3.7)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	暗灰色	にぶい黄橙色	
152	47	Ⅸ層		縄文土器	深鉢		(12.2)			内外面とも粗いナデ調整。	褐灰色	にぶい黄橙色	
152	48	Ⅸ層		縄文土器	鉢		(3.5)			摩耗が著しく調整は不明。	浅黄色	にぶい黄橙色	
152	49	Ⅸ層		縄文土器	鉢		(6.6)		14.2	内外面とも粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
154	54	Ⅹ層		縄文土器	深鉢		(10.3)			内外面ともナデ調整。	にぶい赤褐色	暗褐色	縄文後期
154	55	Ⅹ層		縄文土器	深鉢		(8.4)			内外面ともナデ調整。	灰黄色	灰黄褐色	縄文後期
154	56	Ⅹ層		縄文土器	深鉢		(23.3)			胴部内面のみヘラ磨きを施し、他の部位はナデを施す。	暗褐色	黒褐色	縄文後期
154	57	Ⅹ層		縄文土器	深鉢		(9.1)			摩耗が著しく調整は不明。	浅黄色	にぶい黄褐色	縄文後期
154	58	Ⅹ層		縄文土器	深鉢		(8.2)			摩耗が著しく調整は不明。	黄灰色	にぶい赤褐色	縄文後期
154	59	Ⅹ層		縄文土器	浅鉢	22.6	(4.4)	27.4		摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	にぶい褐色	縄文後期
154	60	Ⅹ層		縄文土器	深鉢	26.2	(5.3)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
155	61	Ⅹ層		縄文土器	深鉢	31.8	(4.2)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
155	62	Ⅹ層		縄文土器	深鉢	36.8	(5.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
155	63	Ⅹ層		縄文土器	深鉢	41.6	(9.5)	(9.5)		内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	黒褐色	
155	64	Ⅹ層		縄文土器	深鉢		(3.6)			内外面ともナデ調整。	灰黄褐色	褐灰色	
155	65	Ⅹ層		縄文土器	深鉢		(4.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰白色	にぶい黄橙色	

土器観察表4

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
155	66	X層		縄文土器	深鉢		(4.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黄灰色	黒色	
155	67	X層		縄文土器	深鉢		(4.9)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	灰黄色	にぶい褐色	
155	68	X層		縄文土器	深鉢		(6.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰白色	にぶい黄橙色	
155	69	X層		縄文土器	深鉢		(8.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	暗灰色	褐灰色	
155	70	X層		縄文土器	深鉢		(3.6)		21.2	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい赤褐色	
158	74	SK-1		縄文土器	深鉢	21.4	(19.2)			内面はナデ調整で、外面は全体的にお焦げが付着しており、調整不明。	黒色	黒色	
159	75	SK-1		縄文土器	浅鉢	44.2	(22.1)	39.9		内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
159	76	SK-1		縄文土器	浅鉢		(4.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	黄灰色	暗灰色	
161	77	SK-2		縄文土器	深鉢	37.8	(13.0)			内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	灰黄色	灰黄色	
161	78	SK-2		縄文土器	深鉢		(4.7)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	暗灰色	にぶい黄橙色	
161	79	SK-2		縄文土器	深鉢		(8.4)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
161	80	SK-2		縄文土器	深鉢		(2.8)		6.8	内外面ともナデ調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
161	81	SK-2		縄文土器	深鉢		(11.7)		7.8	内面は摩耗が著しいが、胴部外面は縦方向の条痕調整で、底部外面は粗いナデ調整。	灰色	灰色	
164	84	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.9)			内外面ともナデ調整。	黄灰色	暗灰黄色	縄文後期
164	85	SR-1	1	縄文土器	深鉢	17.8	(10.1)			口縁部内外面と胴部内面はナデ調整で、胴部外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄褐色	黒褐色	
164	86	SR-1	1	縄文土器	深鉢	20.4	(7.0)			内面はナデ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	にぶい褐色	にぶい褐色	
164	87	SR-1	1	縄文土器	深鉢	37.8	28.3			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	暗灰色	褐色	

土器観察表5

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
164	88	SR-1	1	縄文土器	深鉢	19.8	(10.6)			内外面ともナデ調整。	灰色	黄灰色	
164	89	SR-1	1	縄文土器	深鉢	29.8	(5.2)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
165	90	SR-1	1	縄文土器	深鉢	29.8	(6.2)			内外面とも横方向の条痕調整。	黒褐色	黒褐色	
165	91	SR-1	1	縄文土器	深鉢	30.4	(12.1)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
165	92	SR-1	1	縄文土器	深鉢	34.9	(10.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
165	93	SR-1	1	縄文土器	深鉢	36.4	(23.9)	36.1		内面はナデ調整で、口縁部から胴部上半にかけては横方向の条痕調整、胴部下半は縦方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	橙色	
166	94	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.8)			内外面ともナデ調整。	褐灰色	にぶい黄褐色	
166	95	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.1)			内外面ともナデ調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
166	96	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(2.7)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	黄灰色	黒色	
166	97	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(2.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	褐灰色	
166	98	SR-1	1	縄文土器	深鉢	22.0	(3.6)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	にぶい黄橙色	
166	99	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.0)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
166	100	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.7)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄色	にぶい黄橙色	
166	101	SR-1	1	縄文土器	深鉢	13.2	(5.5)			内面と端部外面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
167	102	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(2.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
167	103	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.2)			内外面ともナデ調整。	黄灰色	黒色	
167	104	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	にぶい褐色	にぶい褐色	

土器観察表6

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
167	105	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(6.5)			内外面とも横方向の条痕調整。	灰色	にぶい黄橙色	
167	106	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.6)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	暗灰黄色	にぶい黄褐色	
167	107	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.7)			内外面とも横方向の条痕調整。	褐灰色	褐灰色	
167	108	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.0)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
167	109	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.3)			内外面とも横方向の条痕調整。	にぶい橙色	にぶい橙色	
167	110	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(5.2)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
167	111	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(5.3)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
167	112	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(5.5)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	オリーブ黒色	黄灰色	
167	113	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(7.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
167	114	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(12.7)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰色	灰色	
167	115	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	にぶい赤褐色	
167	116	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(5.5)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
167	117	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(5.5)			内外面とも横方向の条痕調整。	灰褐色	灰黄褐色	
167	118	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(5.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
167	119	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(7.3)			内外面とも横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
167	120	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(9.0)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄色	にぶい黄橙色	
167	121	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(5.4)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	にぶい橙色	灰褐色	

土器観察表7

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
167	122	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(7.5)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄色	灰色白	
168	123	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.1)		7.8	内面は摩耗が著しいが、胴部外面には縦方向の条痕調整が残る。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
168	124	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(8.1)		7.2	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	黒色	灰白色	
168	125	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(8.6)		8.4	内面はナデ調整、外面は粗いナデ調整で、外面の一部には条痕調整が残る。	灰黄色	灰黄褐色	
168	126	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(12.1)		6.5	内面はナデ調整で、外面は縦方向の条痕調整。	灰白色	褐灰色	分析
168	127	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.2)		7.0	内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	黄灰色	灰黄色	
168	128	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(9.4)		8.0	内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整と縦方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
168	129	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.0)		7.0	内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	灰色	にぶい黄橙色	
168	130	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.3)		7.4	摩耗が著しく調整は不明。	浅黄橙色	橙色	
168	131	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.2)		6.4	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	灰黄色	
168	132	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.7)		6.8	内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
168	133	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(3.9)		8.8	摩耗が著しく調整は不明。	灰黄褐色	灰黄褐色	
168	134	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.4)		7.0	内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	灰黄色	
168	135	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(7.8)		8.0	内外面とも粗いナデ調整。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
168	136	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(9.1)		7.5	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
168	137	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(11.6)		8.9	内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整と縦方向の条痕調整。	にぶい黄褐色	にぶい赤褐色	分析
169	138	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(4.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黒褐色	

土器観察表8

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
169	139	SR-1	1	縄文土器	浅鉢	27.0	(3.1)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
169	140	SR-1	1	縄文土器	浅鉢	28.0	(5.2)			内外面ともヘラミガキ調整。	灰白色	灰白色	
169	141	SR-1	1	縄文土器	浅鉢	32.8	(8.5)	30.4		胴部内面は摩耗が著しいが、他の部位にはヘラミガキを施す。	黒褐色	黒色	
169	142	SR-1	1	縄文土器	浅鉢					内外面ともヘラミガキ調整。			波状口縁
169	143	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(3.8)			内外面ともヘラミガキ調整。	褐灰色	黒褐色	
169	144	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(3.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	褐灰色	褐灰色	
169	145	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(4.8)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	灰黄褐色	
169	146	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(3.6)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黄灰色	
169	147	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(3.7)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	灰黄褐色	
169	148	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(3.6)			内外面ともヘラミガキ調整。	オリーブ黒色	オリーブ黒色	
169	149	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(6.7)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	にぶい黄橙色	
170	150	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(2.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	オリーブ黒色	オリーブ黒色	
170	151	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(2.7)			内外面ともヘラミガキ調整。	暗灰黄色	黄灰色	
170	152	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(6.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
170	153	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(8.6)			内外面ともヘラミガキ調整。	褐灰色	灰黄褐色	
170	154	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(3.4)			内外面ともヘラミガキ調整。	暗灰色	褐灰色	穿孔
170	155	SR-1	1	縄文土器	浅鉢		(1.6)		8.2	内面はナデ調整で、外面はやや粗いナデ調整。	黒色	灰黄色	

土器観察表9

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	器形	法量（cm） 口径	器高	胴径	底径	調整・特徴	色調 内面	外面	備考
170	156	SR-1	1	縄文土器	鉢	15.6	(5.9)			内外面ともナデ調整。	暗灰色	灰黄色	
170	157	SR-1	1	縄文土器	深鉢		(4.5)			内面は摩耗が著しいが、外面は条痕調整。	灰黄褐色	褐灰色	
170	158	SR-1	1	縄文土器	鉢		(4.5)			内面はナデ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	黄灰色	にぶい黄橙色	
171	167	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.4)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄褐色	灰褐色	縄文後期
171	168	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(5.6)			内面はナデ調整で、外面はヘラミガキ調整。	黒褐色	黒褐色	縄文後期
171	169	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.4)			内外面ともナデ調整。	褐灰色	黒褐色	縄文後期
171	170	SR-1	2	縄文土器	深鉢	35.2	(12.4)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	灰黄色	にぶい黄橙色	
171	171	SR-1	2	縄文土器	深鉢	18.0	(12.7)			胴部内面はナデ調整で、口縁部内外面と胴部外面上半は横方向の条痕調整、胴部下半は縦・斜め方向の条痕調整。	黒色	灰黄褐色	
171	172	SR-1	2	縄文土器	深鉢	28.6	(7.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	暗灰色	
171	173	SR-1	2	縄文土器	深鉢	33.0	(4.7)			摩耗が著しく調整は不明。	黒褐色	黄灰色	
171	174	SR-1	2	縄文土器	深鉢	33.8	(6.6)			内外面とも横方向の条痕調整。	暗灰黄色	暗灰黄色	
172	175	SR-1	2	縄文土器	深鉢	36.6	(32.4)	38.4		内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄色	黄褐色	
172	176	SR-1	2	縄文土器	深鉢	22.0	(10.0)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい橙色	灰色	
172	177	SR-1	2	縄文土器	深鉢	26.4	(4.6)			内外面とも横方向の条痕調整。	にぶい褐色	にぶい黄褐色	
172	178	SR-1	2	縄文土器	深鉢	29.2	(9.3)			内面は横方向の条痕調整とナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	褐灰色	
173	179	SR-1	2	縄文土器	深鉢	29.8	(4.2)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	黒褐色	
173	180	SR-1	2	縄文土器	深鉢	32.0	(3.9)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰白色	灰白色	

土器観察表10

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
173	181	SR-1	2	縄文土器	深鉢	34.2	(15.6)			胴部内面はナデ調整、口縁部内外面は横方向の条痕調整で、胴部下半は斜め方向の条痕調整。	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
173	182	SR-1	2	縄文土器	深鉢	38.0	(7.8)			内外面とも横方向の条痕調整。	にぶい褐色	にぶい褐色	
173	183	SR-1	2	縄文土器	深鉢	41.2	(16.3)	36.6		胴部内面はナデ調整で、他の部位は横方向の条痕調整。	オリーブ黒色	暗灰黄色	
174	184	SR-1	2	縄文土器	深鉢	43.2	(12.6)			口縁部内面はナデ調整で、他の部位は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
174	185	SR-1	2	縄文土器	深鉢	29.0	(25.5)	28.7		内面全体はナデ調整、口縁部外面は条痕調整とナデ調整で、胴部外面は縦方向の条痕調整。	暗灰黄色	暗灰黄色	
174	186	SR-1	2	縄文土器	深鉢	29.0	(4.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	黒色	
174	187	SR-1	2	縄文土器	深鉢	30.4	(10.5)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄色	浅黄色	
174	188	SR-1	2	縄文土器	深鉢	25.4	(3.0)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒色	黄灰色	
175	189	SR-1	2	縄文土器	深鉢	33.6	(9.8)			胴部内面はナデ調整で、他の部位は横方向の条痕調整。	暗灰色	灰色	
175	190	SR-1	2	縄文土器	深鉢	35.2	(7.4)			内外面ともナデ調整。	にぶい褐色	黄灰色	
175	191	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(2.5)			内外面ともナデ調整。	黒色	灰黄褐色	
175	192	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.1)			内外面とも粗いナデ調整。	暗灰色	暗灰色	
175	193	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.1)			内外面ともナデ調整。	黒色	黄灰色	
175	194	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.7)			内面は条痕調整で、外面はナデ調整。	暗灰色	黒褐色	
175	195	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.4)			内外面ともナデ調整。	黄褐色	黒褐色	
175	196	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(6.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	オリーブ黒色	黄褐色	
175	197	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.4)			内外面とも粗いナデ調整。	黒色	黒色	

土器観察表11

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
175	198	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(2.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒褐色	灰黄褐色	
175	199	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.1)			内外面とも粗いナデ調整。	暗灰色	灰白色	
175	200	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.2)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒褐色	黒色	
175	201	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.6)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	黒色	
175	202	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.8)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	オリーブ黒色	黄灰色	
175	203	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	
175	204	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.9)			内外面ともナデ調整。	暗灰黄色	灰黄色	
175	205	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.1)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	黒色	黒褐色	
175	206	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.2)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	黄灰色	灰色	
175	207	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.7)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	灰黄色	灰黄色	
175	208	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.6)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	暗灰色	灰白色	
175	209	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.5)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒褐色	黒褐色	
175	210	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.7)			内面はナデ調整、口縁部外面は横方向の条痕調整で、頚部外面はナデ調整。	黄灰色	黒褐色	
175	211	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(7.2)			内面は摩耗が著しいが、外面はナデ調整。	褐色灰	灰黄色	
175	212	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(11.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒色	暗灰黄色	
176	213	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.5)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
176	214	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.6)			内面はナデ調整、外面は横方向の条痕調整のあとナデを施す。	暗灰黄色	黄灰色	

土器観察表12

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
176	215	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.6)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄色	灰色	
176	216	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.1)			内面は粗いナデ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
176	217	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい褐色	褐灰色	
176	218	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.3)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
176	219	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.3)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
176	220	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.5)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒色	黒色	
176	221	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.5)			内外面とも横方向の条痕調整。	褐灰色	褐灰色	
176	222	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.6)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	灰色	灰黄色	
176	223	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.6)			内外面とも横方向の条痕調整。	暗灰色	黄灰色	
176	224	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内外面とも横方向の条痕調整。	黒色	黒色	
176	225	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒色	黒色	
176	226	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内外面とも粗いナデ調整。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
176	227	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.0)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整のあとナデを施す。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
176	228	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.1)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰白色	暗灰色	
176	229	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.1)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	オリーブ黒色	オリーブ黒色	
176	230	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.2)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
176	231	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.2)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	暗灰色	暗灰色	

土器観察表13

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
176	232	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	黒色	
176	233	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.9)			内外面とも粗いナデ調整。	オリーブ黒色	暗灰黄色	
176	234	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(7.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黄灰色	黄灰色	
176	235	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(11.6)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
176	236	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(12.8)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	褐灰色	灰褐色	
177	237	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(14.2)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい褐色	灰色	
177	238	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(2.2)			内外面ともナデ調整。	橙色	灰黄色	
177	239	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.5)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	灰白色	灰黄色	
177	240	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.9)			内面は摩耗が著しいが、外面は横方向の条痕調整。	黄灰色	黄灰色	
177	241	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(8.2)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	にぶい黄褐色	黒色	
177	242	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(8.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	にぶい橙色	
177	243	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(14.7)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい褐色	黒褐色	
177	244	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(7.3)			内面はナデ調整、口縁部外面は横方向の条痕調整で、頚部外面はナデ調整。	灰色	にぶい黄橙色	
177	245	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.3)			内面は摩耗が著しいが、外面はナデ調整。	黒褐色	黒褐色	
177	246	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	灰白色	
177	247	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
177	248	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(6.5)			内面はナデ調整、外面は横方向の条痕調整のあとナデを施す。	黄灰色	暗灰黄色	

土器観察表14

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
177	249	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(8.9)			内外面ともナデ調整。	黒色	黒色	
177	250	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.0)			内外面とも横方向の条痕調整。	暗黄灰色	オリーブ黒色	
177	251	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒褐色	にぶい褐色	
177	252	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(2.1)			内面はナデ調整で、外面にはケズリを施す。	黒色	黒色	
177	253	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.6)			内外面ともナデ調整。	灰黄色	オリーブ黒色	
178	254	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.0)			内面にはケズリを施し、外面はナデ調整。	黒褐色	黄灰色	
178	255	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.9)			内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	灰黄色	
178	256	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内外面とも粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	灰黄色	
178	257	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(8.4)			内面はナデ調整、胴部外面は斜め方向の条痕調整のあとナデを施し、底部外面は粗いナデ調整。	黒褐色	黄灰色	
178	258	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面はナデ調整、外面は縦方向の条痕調整で、底部外面下端にはヨコナデを施す。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
178	259	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.9)			摩耗が著しく調整は不明。	褐灰色	にぶい橙色	
178	260	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.7)			摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
178	261	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
178	262	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(2.9)			内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	暗灰色	にぶい黄橙色	
178	263	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.2)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	浅黄橙色	
178	264	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	黒色	灰白色	
178	265	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(7.2)			内面にはお焦げが付着しており調整不明で、外面は粗いナデ調整。	黒色	にぶい黄橙色	

土器観察表15

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
178	266	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(5.3)		7.3	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄褐色	灰黄褐色	
178	267	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.5)		7.8	内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ調整。	浅黄橙色	にぶい黄橙色	
178	268	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.4)		7.4	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
178	269	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(8.3)		7.8	内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	灰黄褐色	灰色	分析
178	270	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(7.6)		7.9	内面は摩耗が著しいが、外面は粗いナデ、ケズリ、縦方向の条痕調整を施す。また、底部外面には粗いナデを施す。	暗灰黄色	黄灰色	
178	271	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(7.1)		8.1	内外面とも粗いナデ調整。	にぶい褐色	にぶい黄橙色	分析
178	272	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(6.6)		9.8	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	灰白色	灰黄褐色	
179	273	SR-1	2	縄文土器	浅鉢	18.9	9.7	22.1		内外面ともヘラミガキ調整。	暗灰色	暗灰色	
179	274	SR-1	2	縄文土器	浅鉢	38.8	(4.2)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	オリーブ黒色	
179	275	SR-1	2	縄文土器	浅鉢	19.6	(3.4)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
179	276	SR-1	2	縄文土器	浅鉢	31.1	(15.0)	33.8		胴部内面下半は摩耗が著しく調整不明で、口縁部内外面はヘラミガキ、胴部内外面には条痕調整を施す。	黒褐色	黒褐色	
179	277	SR-1	2	縄文土器	浅鉢	37.6	(5.2)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒褐色	
179	278	SR-1	2	縄文土器	浅鉢	29.6	(3.9)			内外面とも粗いヘラミガキ調整。	褐灰色	褐灰色	
179	279	SR-1	2	縄文土器	浅鉢	29.4	(4.4)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黒色	
179	280	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.9)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
179	281	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(4.5)			内面はヘラミガキ調整で、外面にはケズリを施す。	灰白色	灰白色	
180	282	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.0)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	褐色	

土器観察表16

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
180	283	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.0)			内外面ともヘラミガキ調整。	暗灰色	灰色	
180	284	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.8)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	褐灰色	
180	285	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.4)			内面は摩耗が著しいが、外面はヘラミガキ調整。	黒色	オリーブ黒色	
180	286	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.2)			内面は摩耗が著しいが、外面はヘラミガキ調整。	黒褐色	黒色	
180	287	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.7)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黒色	
180	288	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.1)			内面はヘラミガキ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	暗灰色	黄灰色	
180	289	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(4.4)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黄灰色	
180	290	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.3)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒褐色	朱有り
180	291	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.7)			内面はヘラミガキ調整で、外面は摩耗が著しく調整不明。	黒色	黒色	
180	292	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(4.1)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黄灰色	
180	293	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(6.4)			内外面ともヘラミガキ調整。	褐灰色	褐灰色	
180	294	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(5.8)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
180	295	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(5.1)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
180	296	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.4)			内外面ともナデ調整。	黄灰色	褐灰色	
180	297	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.9)			内外面ともヘラミガキ調整。	明黄褐色	明黄褐色	
180	298	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.9)			内外面ともヘラミガキ調整。	にぶい橙色	にぶい褐色	
180	299	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.2)			内外面ともヘラミガキ調整。	にぶい褐色	にぶい褐色	

土器観察表17

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
180	300	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.7)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
180	301	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.6)			内外面ともナデ調整。	黒色	黒褐色	朱有り
180	302	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(2.6)		4.7	内面はヘラミガキ調整で、外面は縦方向の条痕調整。	黒色	黒褐色	
181	303	SR-1	2	縄文土器	鉢	14.8	(4.0)			内外面ともヘラミガキ調整。	暗灰色	暗灰色	
181	304	SR-1	2	縄文土器	鉢	23.4	(15.0)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	黒褐色	黒褐色	
181	305	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.6)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒色	黄灰色	
181	306	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(3.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒褐色	黒色	
181	307	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.7)			内面はナデ調整で、外面は斜め方向の条痕調整。	灰黄褐色	褐灰色	
181	308	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面は粗いナデ調整で、外面は条痕調整。	黒褐色	黒褐色	
181	309	SR-1	2	縄文土器	浅鉢		(3.7)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	灰オリーブ色	オリーブ黒色	
181	310	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(7.7)			内面は粗いナデ調整で、外面は条痕調整。	灰黄褐色	黒色	
181	311	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(8.1)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	褐灰色	褐灰色	
181	312	SR-1	2	縄文土器	鉢		(7.3)			内外面とも粗いナデ調整。	黒褐色	灰黄色	分析
181	313	SR-1	2	縄文土器	鉢		(2.4)		6.8	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	黒褐色	黄灰色	
189	340	SR-1	2	縄文土器	深鉢	31.8				内外面ともナデ調整。	褐灰色	にぶい黄橙色	
189	341	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(4.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒色	黒褐色	
189	342	SR-1	2	縄文土器	深鉢		(6.1)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	黒褐色	

土器観察表18

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
189	343	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.7)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黄灰色	にぶい黄橙色	
189	344	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.7)			内外面とも横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	黒色	
189	345	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(4.3)			内外面とも横方向の条痕調整。	灰白色	灰白色	
189	346	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(4.3)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
189	347	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.4)		6.4	内面は摩耗が著しく調整不明で、外面は粗いナデ調整。	灰黄色	にぶい黄色	
189	348	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(4.7)		6.6	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	褐灰色	褐灰色	
189	349	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(4.9)		8.0	内面は摩耗が著しく調整不明で、外面は粗いナデ調整。	灰白色	褐灰色	
189	350	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(2.5)		6.0	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
189	351	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.7)		6.2	内外面とも粗いナデ調整。	黒色	にぶい黄橙色	分析
189	352	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.3)		7.3	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	褐灰色	暗灰黄色	
189	353	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.4)		7.4	内面はナデ調整で、外面は未調整。	オリーブ黒色	浅黄色	
189	354	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(5.3)		7.3	内面は粗いナデ調整で、外面は条痕調整。	黒色	灰黄褐色	分析
189	355	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.4)		8.0	摩耗が著しく調整は不明。	灰白色	灰黄色	
189	356	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(3.8)		7.4	内面は摩耗が著しく調整不明で、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
189	357	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(5.2)		6.8	摩耗が著しく調整は不明。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
189	358	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(7.6)		7.6	内面はナデ調整で、外面は縦方向の条痕調整と粗いナデ調整。	褐灰色	褐灰色	
189	359	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(4.7)		8.6	内面は摩耗が著しく調整不明で、外面は粗いナデ調整。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	

土器観察表19

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
190	360	SR-1	3	縄文土器	浅鉢	27.6	(3.9)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	灰白色	
190	361	SR-1	3	縄文土器	浅鉢	23.0	(7.9)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	オリーブ黒色	
190	362	SR-1	3	縄文土器	浅鉢	18.2	(4.6)			内外面ともヘラミガキ調整。	灰黄色	灰褐色	
190	363	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(1.7)			内外面ともヘラミガキ調整。	灰黄色	灰黄色	
190	364	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(2.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	オリーブ黒色	
190	365	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(6.1)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黄灰色	
190	366	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(2.6)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
190	367	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(2.8)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
190	368	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(3.6)			内外面はヘラミガキ調整で、外面はナデ調整。	褐灰色	暗灰黄色	
190	369	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(2.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
190	370	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(5.8)			内外面ともヘラミガキ調整。	灰黄褐色	褐灰色	
190	371	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(4.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	暗灰色	褐灰色	
190	372	SR-1	3	縄文土器	浅鉢		(4.6)			内外面ともナデ調整。	灰黄褐色	黒褐色	
190	373	SR-1	3	縄文土器	深鉢		(7.1)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	にぶい褐色	黒褐色	
193	378	SR-2	1	縄文土器	深鉢	33.2	(6.3)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	褐灰色	
193	379	SR-2	1	縄文土器	深鉢		(3.7)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	黒褐色	
193	380	SR-2	1	縄文土器	深鉢		(3.8)			口縁部外面は横方向の条痕調整で、他の部位にはナデを施す。	灰黄褐色	褐灰色	

土器観察表20

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
193	381	SR-2	1	縄文土器	深鉢		(4.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
193	382	SR-2	1	縄文土器	深鉢		(4.5)			内外面ともナデ調整。	灰黄色	黄灰色	
193	383	SR-2	1	縄文土器	深鉢		(3.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰黄褐色	橙色	
193	384	SR-2	1	縄文土器	浅鉢	31.6	(9.2)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
193	385	SR-2	1	縄文土器	浅鉢	36.2	(10.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
193	386	SR-2	1	縄文土器	浅鉢		(2.4)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒褐色	
193	387	SR-2	1	縄文土器	深鉢		(4.4)			内面はナデ調整で、外面には全体的にお焦げが付着しており調整は不明。	黒褐色	黒色	
193	388	SR-2	1	縄文土器	深鉢		(18.0)			内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	にぶい褐色	灰黄褐色	
194	389	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(2.5)			内外面ともナデ調整。	黒褐色	黒褐色	縄文後期
194	390	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(3.6)			内面の調整はヘラミガキ。	にぶい黄褐色	灰黄褐色	縄文後期
194	391	SR-2	2	縄文土器	浅鉢	25.6	(4.2)			内面の調整はナデ。	黒褐色	暗黄灰色	縄文後期
194	392	SR-2	2	縄文土器	浅鉢		(2.4)			内面はヘラミガキ調整で、外面はナデ調整。	黄灰色	黒褐色	縄文後期
194	393	SR-2	2	縄文土器	深鉢	30.2	(3.7)			内外面とも横方向の条痕調整。	黒色	灰黄色	
194	394	SR-2	2	縄文土器	深鉢	30.6	(5.5)			口縁端部内外面はナデ調整で、他の部位には横方向の条痕調整を施す。	黄灰色	黒褐色	
194	395	SR-2	2	縄文土器	深鉢	35.8	(5.3)			内外面とも横方向の条痕調整。	灰黄褐色	灰黄褐色	
194	396	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(3.7)			内外面ともナデ調整。	灰黄褐色	灰白色	
194	397	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(4.2)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒褐色	黒色	

土器観察表21

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
194	398	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(4.4)			内外面ともナデ調整。	にぶい黄橙色	灰白色	
194	399	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黒色	黒色	
194	400	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(4.9)			口縁部下端はナデ調整で、他の部位には横方向の条痕調整を施す。	灰黄褐色	浅黄橙色	
194	401	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(4.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	灰黄褐色	
194	402	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(5.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	灰白色	灰黄色	
194	403	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(5.4)			内面はナデ調整で、外面は条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
194	404	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(5.8)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	褐灰色	褐灰色	
194	405	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(6.3)			内外面ともナデ調整。	にぶい黄橙色	黒色	
194	406	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(6.5)			内面は粗いナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	黄灰色	暗灰色	
194	407	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(6.7)			内面はナデ調整で、外面は縦方向の条痕調整のあとナデを施す。	灰黄色	にぶい黄橙色	
194	408	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(7.9)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい橙色	褐灰色	
194	409	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(5.3)			口縁部上端の内外面は横方向の条痕調整で、他の部位にはナデを施す。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
194	410	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(5.4)			内面はナデ調整で、外面は横方向の条痕調整。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
195	411	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(5.5)		8.0	内外面ともナデ調整。	黒色	灰黄褐色	
195	412	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(3.0)		6.3	内面にはお焦げが付着しており調整不明で、外面は粗いナデ調整。	黒色	灰黄褐色	
195	413	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(3.9)		7.2	内面は未調整で、外面は粗いナデ調整。内面にはお焦げが付着。	灰黄褐色	灰黄褐色	分析
195	414	SR-2	2	縄文土器	深鉢		(3.1)		6.4	内面は摩耗が著しく調整不明で、外面は粗いナデ調整。	黄灰色	灰白色	

土器観察表22

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量（cm）				調整・特徴	色調		備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
195	415	SR-2	2	縄文土器			(3.2)		8.0	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	黄灰色	にぶい黄橙色	
195	416	SR-2	2	縄文土器			(7.7)		7.6	内面はナデ調整で、外面は粗いナデ調整。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
195	417	SR-2	2	縄文土器			(28.5)		8.2	内面はナデ調整で、外面は縦方向の条痕調整。	暗灰黄色	暗灰黄色	分析
196	418	SR-2	2	縄文土器		37.4	(4.7)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	オリーブ黒色	
196	419	SR-2	2	縄文土器		17.4	(2.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒色	黒色	
196	420	SR-2	2	縄文土器		23.0	(6.5)			内外面ともヘラミガキ調整。	暗灰色	黒色	
196	421	SR-2	2	縄文土器			(3.0)			内外面ともヘラミガキ調整。	黒褐色	黒色	
196	422	SR-2	2	縄文土器			(3.8)			内面はヘラミガキ調整で、外面にはお焦げが付着しており調整は不明。	黒色	黒色	
196	423	SR-2	2	縄文土器			(2.0)			内外面ともナデ調整。	黒褐色	黒色	朱有り
196	424	SR-2	2	縄文土器			(2.2)		6.1	内面にはお焦げが付着しており調整不明で、外面はナデ調整。	黒褐色	灰黄色	
196	425	SR-2	2	縄文土器		17.4	(5.4)			内外面ともナデ調整。	灰黄褐色	黒色	

土製品計測表

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	器形	法量				色調		備考
						全長	全幅	全厚	重量（g）	内面	外面	
151	20	Ⅷ層		土製品	土鈴	(3.2)	(2.5)	(2.5)	(5.5)	明黄褐色	にぶい黄橙色	

石製品計測表1

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	法量				石材	備考
					全長	全幅	全厚	重量(g)		
151	21	Ⅷ層		打製石鐵	2.7	1.9	0.5	2.6	サヌカイト	
151	22	Ⅷ層		磨製石斧	(5.8)	(5.1)	(1.4)	49.5	結晶片岩	
151	23	Ⅷ層		磨製石斧	(7.8)	(5.3)	(1.6)	(92.9)	蛇紋岩	
151	24	Ⅷ層		磨製石斧	(11.3)	(5.2)	(1.8)	(152.1)	蛇紋岩	
151	25	Ⅷ層		磨製石斧	(11.2)	(6.1)	(1.0)	(108.6)	結晶片岩	
151	26	Ⅷ層		叩石	12.5	9.7	4.3	835.0	砂岩	
151	27	Ⅷ層		叩石	11.0	9.4	5.9	840.0	砂岩	
151	28	Ⅷ層		磨石	15.1	7.6	5.2	950.0	砂岩	
151	29	Ⅷ層		砥石	13.6	10.4	5.0	900.0	砂岩	
153	50	Ⅸ層		打製石鐵	1.5	1.3	0.3	0.4	サヌカイト	
153	51	Ⅸ層		磨製石斧	7.5	2.9	1.2	41.8	蛇紋岩	
153	52	Ⅸ層		磨製石斧	(4.8)	(3.3)	(1.0)	(20.1)	蛇紋岩	
153	53	Ⅸ層		石錘	15.2	7.0	2.5	395.0	蛇紋岩	
155	71	Ⅹ層		磨製石斧	9.4	5.2	2.8	186.6	蛇紋岩	
155	72	Ⅹ層		叩石	12.0	9.9	6.0	980.0	砂岩	
155	73	Ⅹ層		叩石	13.4	11.9	7.6	1,625.0	砂岩	
161	82	SK-2		磨製石斧	(11.0)	(6.1)	(1.0)	(83.5)	緑色片岩	

石製品計測表2

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	法量				石材	備考
					全長	全幅	全厚	重量(g)		
161	83	SK-2		叩石	14.2	10.2	3.2	720.0	結晶片岩	
170	159	SR-1	1	打製石鏃	2.0	1.6	0.4	1.2	サヌカイト	
170	160	SR-1	1	磨製石斧	(4.9)	(2.8)	(0.7)	(17.5)	蛇紋岩	
170	161	SR-1	1	磨製石斧	(4.6)	(4.3)	(1.0)	(17.1)	砂岩	
170	162	SR-1	1	磨製石斧	(5.7)	(5.1)	(2.8)	(65.3)	結晶片岩	
170	163	SR-1	1	磨製石斧	(7.3)	(4.3)	(1.5)	(117.7)	蛇紋岩	
170	164	SR-1	1	磨製石斧	(4.0)	(4.5)	(0.7)	(12.7)	結晶片岩	
170	165	SR-1	1	叩石	12.5	9.0	5.4	825.0	砂岩	
170	166	SR-1	1	叩石	14.6	11.9	1.8	463.5	砂岩	
182	314	SR-1	2	磨製石斧	(4.6)	(4.9)	(1.3)	(38.7)	蛇紋岩	
182	315	SR-1	2	磨製石斧	7.2	3.7	1.1	46.8	蛇紋岩	
182	316	SR-1	2	磨製石斧	(8.7)	(5.1)	(2.5)	(156.5)	蛇紋岩	
182	317	SR-1	2	磨製石斧	(7.9)	(5.6)	(2.6)	(80.9)	蛇紋岩	
182	318	SR-1	2	磨製石斧	(11.4)	(3.9)	(1.5)	(109.6)	結晶片岩	
182	319	SR-1	2	磨製石斧	(14.3)	(5.2)	(2.7)	(327.0)	結晶片岩	
182	320	SR-1	2	磨製石斧	(12.4)	(8.9)	(1.9)	(245.0)	緑色片岩	
182	321	SR-1	2	磨製石斧	(10.6)	(4.7)	(1.9)	(134.5)	蛇紋岩	

石製品計測表3

Fig. No.	挿図番号	出土地点 層位	埋土	器種	法量				石材	備考
					全長	全幅	全厚	重量(g)		
182	322	SR-1	2	磨製石斧	(9.2)	(3.7)	(0.8)	(32.5)	結晶片岩	
183	323	SR-1	2	叩石	8.3	4.0	3.7	169.0	砂岩	
183	324	SR-1	2	叩石	10.2	8.7	4.7	594.2	砂岩	
183	325	SR-1	2	叩石	(11.1)	10.0	4.6	700.0	砂岩	
183	326	SR-1	2	叩石	14.5	9.2	6.8	1,405.0	砂岩	
183	327	SR-1	2	叩石	16.8	8.2	2.3	486.2	蛇紋岩	
183	328	SR-1	2	叩石	16.2	8.9	2.7	585.0	砂岩	
183	329	SR-1	2	叩石	18.6	11.4	7.3	2,200.0	結晶片岩	
183	330	SR-1	2	叩石	14.8	12.3	4.6	1,170.0	砂岩	
184	331	SR-1	2	台石	(26.0)	(18.7)	(12.9)	(7,500.0)	砂岩	
184	332	SR-1	2	台石	29.1	22.5	8.3	8,000.0	砂岩	
185	333	SR-1	2	台石	34.7	30.7	12.8	15,000.0	砂岩	
186	334	SR-1	2	剥片	2.8	3.1	0.3	2.1	サヌカイト	
186	335	SR-1	2	剥片	3.1	2.6	0.6	4.4	サヌカイト	
186	336	SR-1	2	剥片	3.9	8.1	0.8	23.6	剥片	
191	374	SR-1	3	磨製石斧	(11.5)	(7.1)	(3.7)	(404.2)	蛇紋岩	
191	375	SR-1	3	叩石	8.1	7.4	4.4	365.0	砂岩	

石製品計測表4

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	法量				石材	備考
					全長	全幅	全厚	重量(g)		
191	376	SR-1	3	台石	35.7	11.3	10.9	6,400.0	砂岩	
191	377	SR-1	3	剥片	2.9	2.9	0.7	6.5	サヌカイト	
196	426	SR-2	2	打製石鏃	2.6	1.2	0.4	0.9	サヌカイト	
196	427	SR-2	2	打製石鏃	(10.5)	(4.9)	(1.7)	(86.2)	サヌカイト	
196	428	SR-2	2	叩石	9.5	8.6	5.5	640.0	砂岩	
196	429	SR-2	2	台石	21.2	18.8	9.0	5,400.0	砂岩	

木製品計測表

Fig. No.	挿図番号	出土地点層位	埋土	器種	法量（cm）			樹種	備考
					全長	全幅	全厚		
187	337	SR-1	2	鍬	26.6	11.2	3.8	クヌギ	柄はアカガシ
187	338	SR-1	2	鍬	30.2	11.6	6.0	アカガシ	柄はサカキ
188	339	SR-1	2	木胎漆器	(24.0)	44.9	12.7	クスノキ	
196	430	SR-2	2	不明	4.5	6.1	2.5		

第Ⅱ章　考察

２Ａ区検出の流路群について

２Ａ区と北隣の３Ｂ区では縄文晩期から古墳時代にかけての水路・流路群が検出されている。これらは水田の開発に係わるものと考えられ、明確な水田址の検出に至らなかった今回の調査でも水路・流路の変遷を捉えることで調査区周辺の開発過程を知る手掛かりになるものと考える。２Ａ区の堆積状態から推して、調査区の西側（現在、清滝川が流れている付近）には嘗ての流路（以下旧清滝川とする）が存在していたものと考えられる。また、調査区中央部に設定した水路・流路に係わる東西の断面からは旧清滝川の影響による河道の東遷が確認でき、検出された各々の水路・流路の新旧関係も明らかである。ここでは、これらを基に便宜上水路・流路群を時期的な３つのグループ（Ⅰ期～Ⅲ期）に分けて考えをまとめたい。

〈Ⅰ期〉

先ず、最も古いと考えられるⅠ期の水路・流路群はＳＤ１とＳＤ２である。ＳＤ１の主な埋積土は同一谷南側に位置する１Ａ区や１Ｂ区において検出された縄文晩期末から弥生前期の遺物包

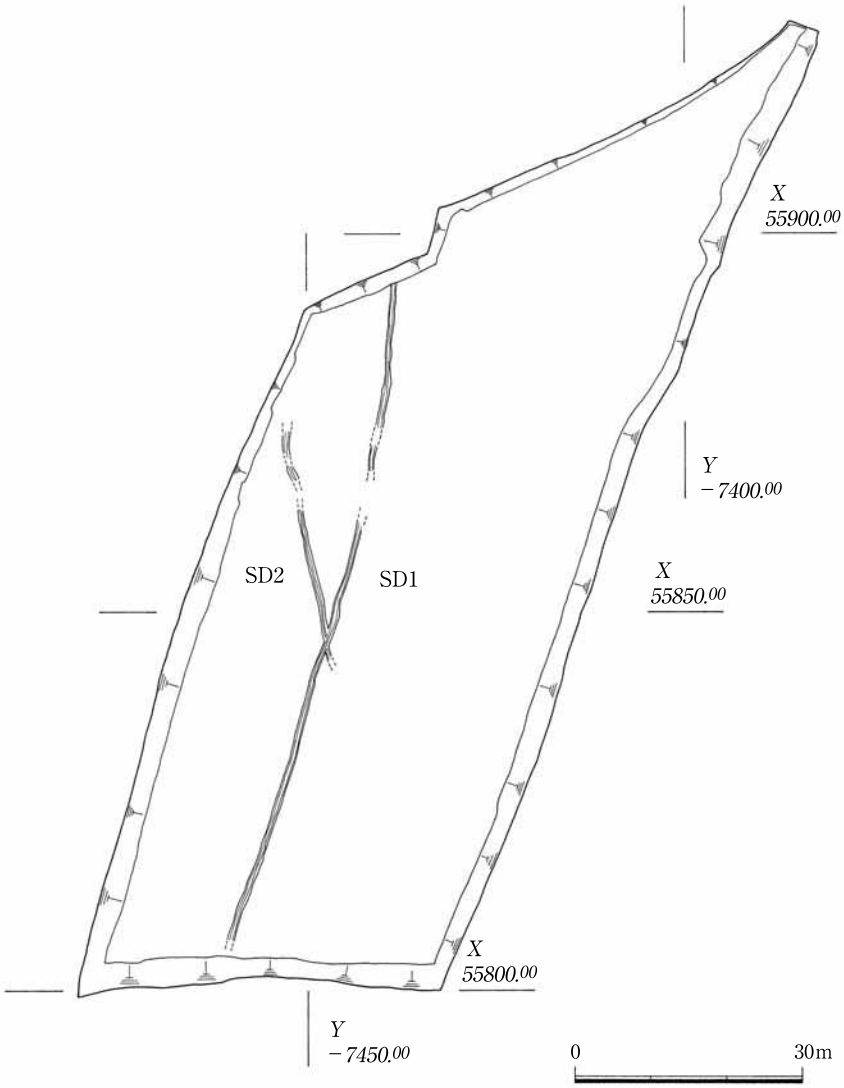


Fig.199　Ⅰ期の流路（S:1/1,000）

含層であるⅢc層に対応するものと考えられる。検出されたＳＤ１の直線的な方向性と断面形態から人為的な施行と管理が行われたものであろう。ＳＤ１は３B区から更に北に向かって延びているものと考えられ、旧清滝川の上流から導水を行い、西側から緩く南東方向へ調査区を迂回する様に流れる下流部で再び繋がるものと考えられる。谷の開口部に相当する２A区付近では周辺の水田に給水を行うと考えるよりは、排水路としての機能が主であった可能性が高い。ＳＤ２はＳＤ１よりやや遅れて敷設される水路であるが、直線的な方向性から人為的なものであろう。その水路方向は後の水路・流路群に近いものであり、ＳＤ１とは異なるものである。これはＳＤ１の廃絶が旧清滝川周縁の自然堤防発達による給・排水機能の不良にあった可能性が考えられ、水路方向を下流側に変更させることで水路機能を再生させたものであろう。ＳＤ１とＳＤ２は弥生前期前半にはその機能を終えたものと考えられる。

〈Ⅱ期〉

この期に属する水路・流路はＳＲ４とＳＲ４－1、ＳＲ５である。 ＳＲ４はＳＲ４－1に先行し、ＳＲ５はＳＤ２の直上に存在する。ＳＲ４－1とＳＲ５は埋土が近似することから同時期の

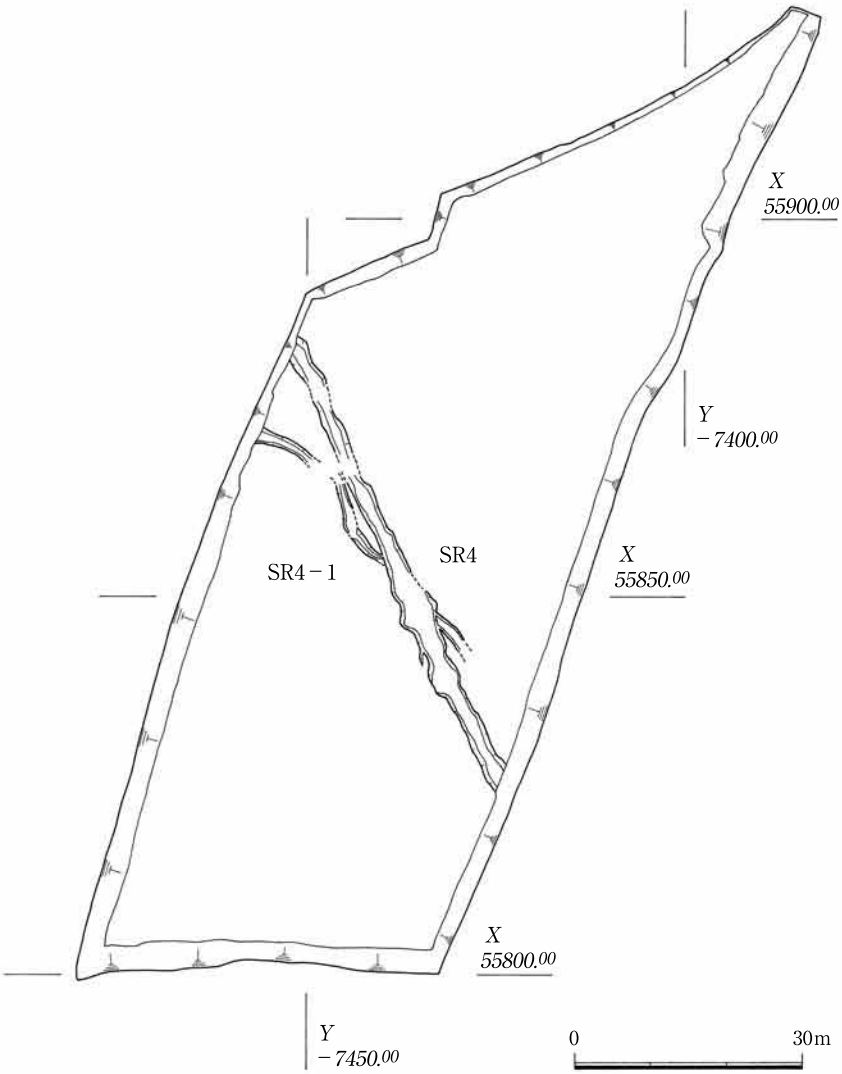


Fig.200　Ⅱ期の流路（S:1/1,000）

河道と考えられる。また、ＳＲ４－1とＳＲ５は自然流路的な性格が強いが、ＳＲ４は規模がほぼ一定で直線的な水路方向と概ね平らな底面の形態から人工的な水路と考えられる。これらの遺構周辺には杭が打たれて存在するが水口、堰等を構成するものではない。規模はＳＤ１に比較すると大きくなり、水田域の拡大と充実が窺える。水路方向はＳＤ２によりも東に寄り旧清滝川の更に下流側で繋がるものか、南東側に残された低地（後背湿地？）を排水池として利用したものであろう。旧清滝川の左岸に発達した自然堤防上や谷東側の緩斜面に設けられた水田への灌漑を目的として敷設されたものと考えられ、主な出土遺物からＳＤ１からそれ程時を置かず弥生前期に機能していたのものであろう。

〈Ⅲ期〉

Ⅲ期はＳＲ３－2とＳＲ１、ＳＲ２からＳＲ３、ＳＲ３－1で構成される。このうち時期的に先行するＳＲ３－2は流路の一部が取り残された形で存在していたもので、当時の河道形態はその多くを後出する流路に取込まれていて知る事はできない。但し、後出する流路群の河道から大きく離れることはないであろう。ＳＲ３－2の出土遺物には搬入品の土器片が多く含まれているこ

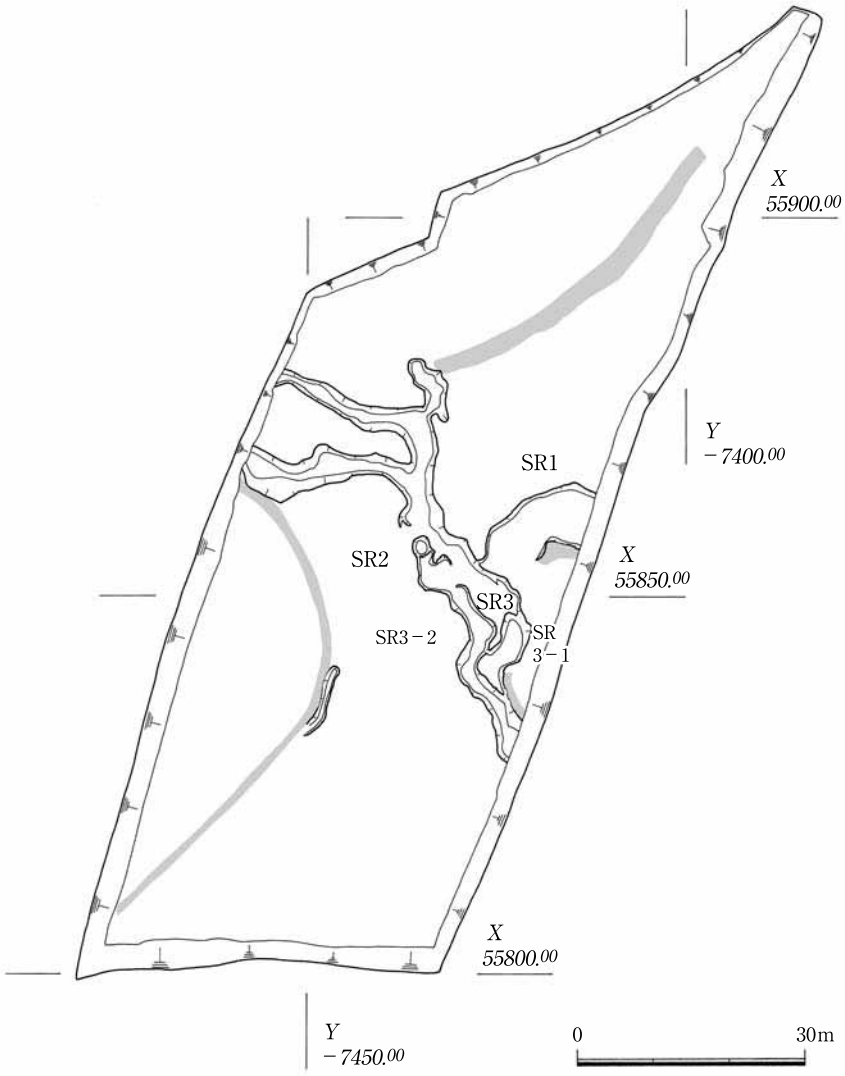


Fig.201　Ⅲ期の流路（S:1/1,000）

とから古墳時代初頭から前期には機能を終えたものと考えられる。ＳＲ２・ＳＲ３・ＳＲ３－1は一定しない川幅やその蛇行する河道形態から自然流路的な性格が強い。検出面で確認された粘土の盛り上がり（図中の網掛け部分）は畦畔であり、これは流路群の肩部にも存在していた。流路群に向かっての開口部（水口、水尻）等が存在した可能性は高く、畦畔とそれで囲まれる水田、そして蛇行する河道を含んだ流路域は概ね生産環境を構成した要素と考えられる。ＳＲ２とＳＲ３の河床からは古墳時代前期から中期の遺物と共に祭祀遺物である管玉やミニチュア土器が出土しており、河川または水田祭祀などが流域で行われていたものであろう。Ⅲ期の流路は重複する河道痕跡を残して存在していたが、古墳時代後期以降の明確な水路・流路跡は見い出せない。

ここまで、Ⅰ期からⅢ期までの水路・流路について概観した。Ⅰ期は調査区周辺で未だ発達段階にあった自然堤防等の微高地を線的に狙ったものであり、開発の中心は谷の開口部北側にあったと考えられる。次のⅡ期では成長する微高地に合わせた対応が認められ、Ⅰ期よりも積極的で規模の大きな開発が行われたものと考えられる。最後のⅢ期に調査区では流路域を残して大部分が水田として利用された様子が窺われる。そして、調査区から水路・流路が姿を消す次の段階には旧清滝川に対する管理と改変が始められたのであろう。流路を含めて調査区全体を覆う形で上位に堆積する古代の遺物包含層からは大型の木製品や植物遺体が出土するものの、再び恒常的な流路と成った形跡はない。また、調査区南端で検出された中世の所産と考えられる杭列は水口（水尻）の補強を目的として打たれたものであり、調査区は耕作面であったと思われる。このことから、調査区域は少なくとも古墳時代後期以降比較的安定した水田域として利用されたものと考えられる。

参考文献

土地利用の変遷について

『池島・福万寺遺跡　発掘調査概要ＸＸⅥ』財団法人　大阪府文化財調査研究センター　2002年

『池島・福万寺遺跡　発掘調査概要ＸＸⅧ』財団法人　大阪府文化財調査研究センター　2002年

水路・流路群の形態等について

山崎純男「北部九州における初期弥生水田」『日本における初期弥生文化の成立』　文献出版　1991年

水路・流路群の出土遺物等について

『四村日本遺跡発掘調査報告書』財団法人　愛媛県埋蔵文化財調査センター　1998年

『上清水遺跡Ⅱ区』財団法人　北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室　1991年

付編１　居徳遺跡から出土した大型植物化石

新山雅広（パレオ・ラボ）

１．はじめに

居徳遺跡は、高知県土佐市高岡町乙居徳ほかに所在する。本遺跡は、縄文時代から室町時代にかけての遺跡であり、集落跡、小川の跡、祭祀跡などの遺構が確認されている。ここでは、遺跡周辺の古植生および栽培･利用状況を推定する目的で大型植物化石の検討を行った。

２．出土した大型植物化石

大型植物化石の検討は、合計14試料について行った。これら、各試料中の大型植物化石の一覧を表１に示す。なお、大型植物化石と同定し得るものを全く含んでいなかったNo８、９、10の3試料は一覧表から省いた。以下に、各試料の大型植物化石を記載する。

No.１-①（98-8IT/１F区B28-12/P223Ⅰ層/ No.１-②とあわせて容量約5.0リットル）：イチイガシが多く、シラカシ近似種も僅かに出土した。コナラ属は、大半がイチイガシと予想されるが、同定には至らなかった。

No.１-②（98-8IT/１F区B28-12/P233Ⅱ層）：イチイガシが多く、シラカシ近似種も僅かに出土した。コナラ属は、大半がイチイガシと予想されるが、同定には至らなかった。

No.６（97-8IT/１D/C30-18/Ⅲ）：モモ核の完形1個体と半分が2個体出土した。

No.７（97-8IT/１D/SR3/Ⅴ層/C30-18）：モモ核の完形1個体が出土した。この核は、げっ歯類による食害痕が認められた。

No.８（97-8IT/１D/SR1/Ⅰ層/C31-1）：不明1個であるが、酸化鉄の塊のようなものかと思われる。

No.９（97-8IT/１D/SR1/Ⅰ層/C30-13）：炭化した竹の稈の節部が3個出土した。

No.10：不明1個であるが、酸化鉄の塊のようなものかと思われる。No.８と同じものと思われる。

No.11（97-8IT/１E/Ⅰ層）：モモ核の完形1個体が出土した。

No.12（97-8IT/１E/Ⅲc/A28-9）：コナラ属炭化子葉の半分が2個体(完形1個分)出土した。

No.13（97-8IT/１E/A28-15/Ⅲa）：モモ核の完形1個体が出土した。

No.14（97-8IT/1E/A28-15/Ⅲa）：モモ核の完形1個体が出土した。

No.15（97-8IT/１E/Pit9）：イチイガシが出土した。コナラ属も大半はイチイガシと予想される。

No.16（98-8IT/４C/SK1/容量約0.5リットル）：イチイガシが多く、次いでアラカシが出土した。シラカシ近似種も僅かに出土した。コナラ属は、大半がイチイガシと予想されるが、同定には至らなかった。

No.17（98-8IT/４C/SK2/容量約1.0リットル）：イチイガシが多く、シラカシ近似種、アカガシ近似種、アラカシも僅かに出土した。コナラ属は、大半がイチイガシと予想されるが、同定には至らなかった。炭化子葉は、完形が2個体と半分が3個体で一覧表中には合計3.5個とした。

表１　大型植物化石一覧表（数字は出土個数を示す）

分類群	部位	1-①	1-②	6	7	11	12	13	14	15	16	17
イチイガシ	果実	396	489							20	59	107
アカガシ近似種	果実											4
アラカシ	果実										15	2
シラカシ近似種	果実	3	5								5	14
コナラ属	果実	107	227								58	114
	炭化子葉						1			7		3.5
モモ	核			2	1	1		1	1			

３．考察

出土したのは、イチイガシ、アカガシ近似種、アラカシ、シラカシ近似種、コナラ属（大半はイチイガシと思われる）、モモであった。出土個数からみると、周辺にはイチイガシを主としたアカガシ亜属からなる森林が成立していたと思われる。出土した果実は完形のものが大半であり、このような周辺に生育していたアカガシ亜属の果実が採集され、貯蔵などされていたものが出土したのであろう。栽培植物のモモは付近で栽培されていたのか、持ち込まれたのかは不明であるが、利用された後廃棄されたものの流入であろう。

４．大型植物化石の形態記載

イチイガシ　Quercus gilva Blume　果実

果実上部は、輪状紋があり、真っ直ぐ立ちあがって花柱につながる。柱頭は短く、傘状で外側を向く。

アカガシ近似種　Quercus cf. acuta Thunb.　果実

果実は楕円形で尻は突出する。輪状紋の部分は顕著に突出し、花柱は、太く短くゆるやかに開く。出土した果実は、花柱･柱頭が保存されたものは全くなく、シラカシと紛らわしいものもあったが、輪状紋の部分が顕著に突出し、尻も突出気味のものをアカガシ近似種とした。

アラカシ　Quercus glauca Thunb.　果実

輪状紋の部分は、突出せず薄く肩に広がる。花柱は太く短く、急に舌状に開く。出土した果実の中に、花柱･柱頭が保存されたものは全くなかったが、アラカシは輪状紋の部分が特徴的であり、花柱･柱頭がなくても同定可能である。

シラカシ近似種　Quercus cf. myrsinaefolia Blume　果実

輪状紋の部分は、円錐状に突出し、花柱は太く短く、急に舌状に開く。出土した果実は、花柱･

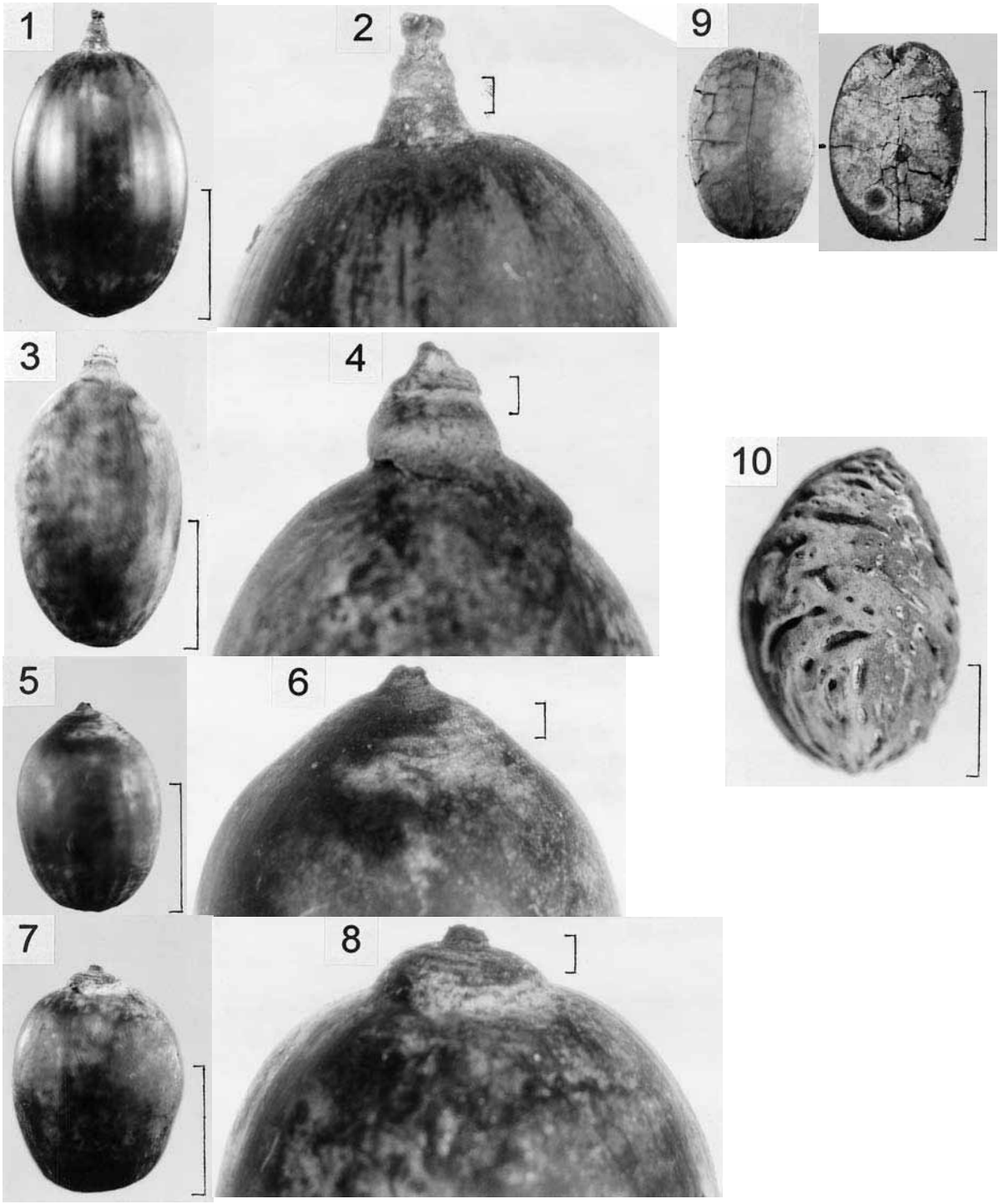
柱頭が保存されたものは全くなく、アカガシと紛らわしいものもあったが、輪状紋の部分(首)が太くて短く、尻が突出せず、ほぼ平らなものをシラカシ近似種とした。

コナラ属　Quercus　果実、炭化子葉

　同定は控えたが、大半はイチイガシの首の部分が破損したものと思われる。果実上部(肩)が破損したものも一部あったが、堆積ないし取り上げの過程で破損したものと思われる。炭化子葉は、子葉形態から種までの同定は困難であり、コナラ属にとどめた。

参考文献

　岡本素治(1973)「どんぐりの話」『Nature Study』　第19巻　pp.59－61,77－78,91－94　大阪市立自然史博物館



198
200
190
9　コナラ属、炭化子葉、試料12
193
9　コナラ属、炭化子葉、試料12
10　モモ、核、試料6

付編２　土器の内容物分析

藤根　久・ロムタティゼ･ザウリ（パレオ・ラボ）

１．はじめに

植物は光合成において炭素が固定される過程により、C3植物（Calvin回路）・C4植物（Hatch−Slack回路）・CAM植物（CAM回路；Classulation acid metabolism）に分類される。これらの植物は、その組織を構成する炭素12（^{12}C）と炭素13（^{13}C）の比（$^{13}C/^{12}C$）に違いがある。また、窒素15（^{15}N）においても違いが見られ、魚や肉は植物に比べて^{15}Nの値が高く、特に魚は^{15}Nを多く含んでいる（赤澤・南川、1989；第1図）。

C3植物には、コメやムギなどの主要穀類のほか、ドングリ、クリ、クルミ、イモ、ソバ、ホウレンソウなどがある。また、C4植物には、ヒエ、キビ、アワなどの雑穀類のほかトウモロコシ、モロコシなどがある。なお、CAM植物は、サボテン、パイナップルなど日常の食生活に係わるものは少ない（赤澤・南川、前出；田口・斎藤、1995）。

こうした原理を利用して、土器内の残渣（こげ）の炭素・窒素の安定同位体を測定すると、この残渣がどのような食物であるかを推定することが可能である。

ここでは、居徳遺跡から出土した土器内の黒色残渣（こげ）を対象として、炭素と窒素の安定同位体を測定し、これら土器で煮炊きされた材料が如何なるものの食物であるかを検討する。

２．試料と方法

試料は、残留物が処理量として十分に残存する挿図番号126，137，265，269，271，312，417の７試料である。これら試料は、残留物約10mg程度について酸・アルカリ・酸洗浄をした後、ＡＭＳ法による年代測定用の真空ラインを用いて二酸化炭素ガス（CO_2）と窒素ガス（N_2）に分離・精製した。分離した各ガスは、MICROMASS社製OPTIMAを用いて$^{13}C/^{12}C$比と$^{15}N/^{14}N$比を測定した。

３．結果および考察

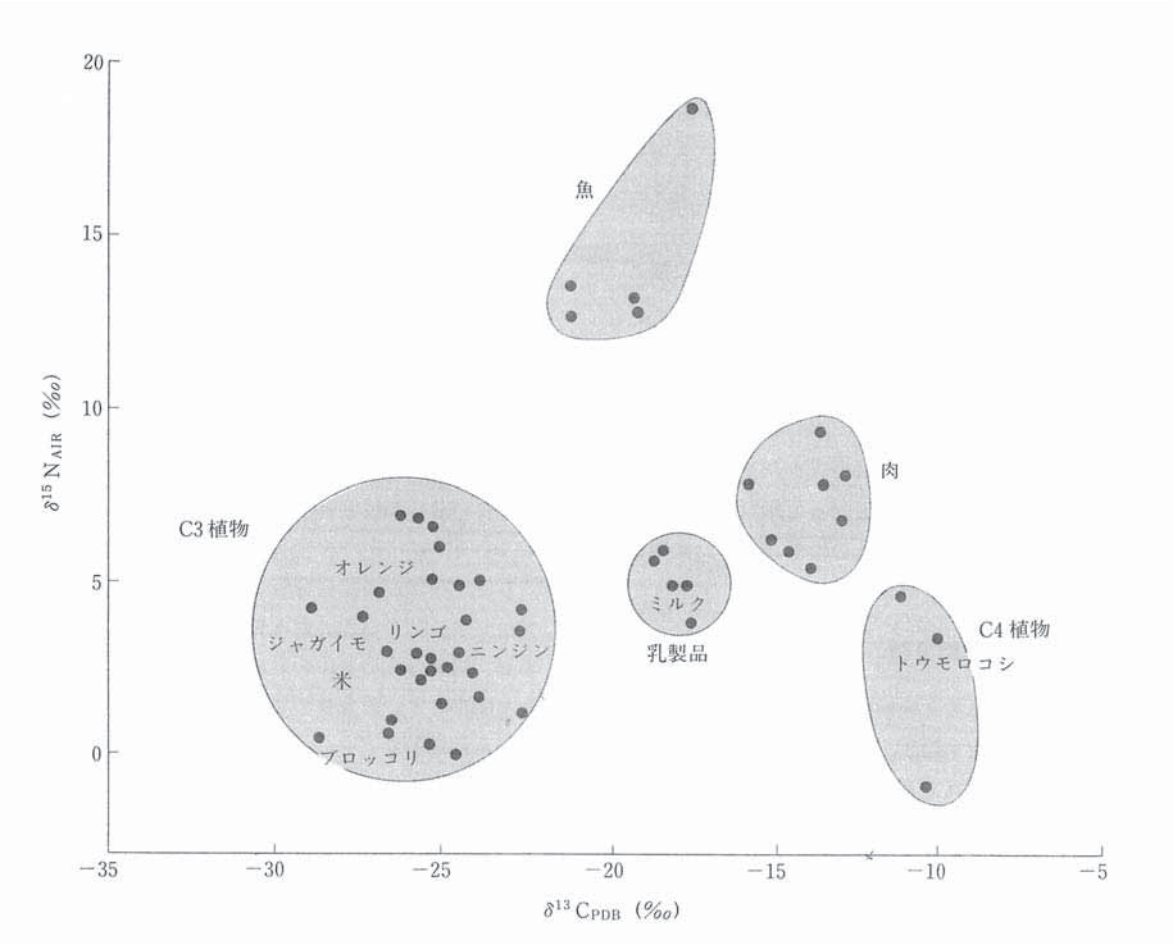
測定結果は、炭素がPDB標準体の$^{13}C/^{12}C$比からの差を$\delta^{13}C_{PDB}$（‰）値として、窒素が大気中の窒素の$^{15}N/^{14}N$比からの差を$\delta^{15}N_{AIR}$（‰）値として表示した（第1表）。

第1図に赤澤・南川（1989）が示した現代食品の炭素・窒素安定同位体比を示す。この図には、C3植物とC4植物のほか、魚や肉あるいは乳製品が示されている。

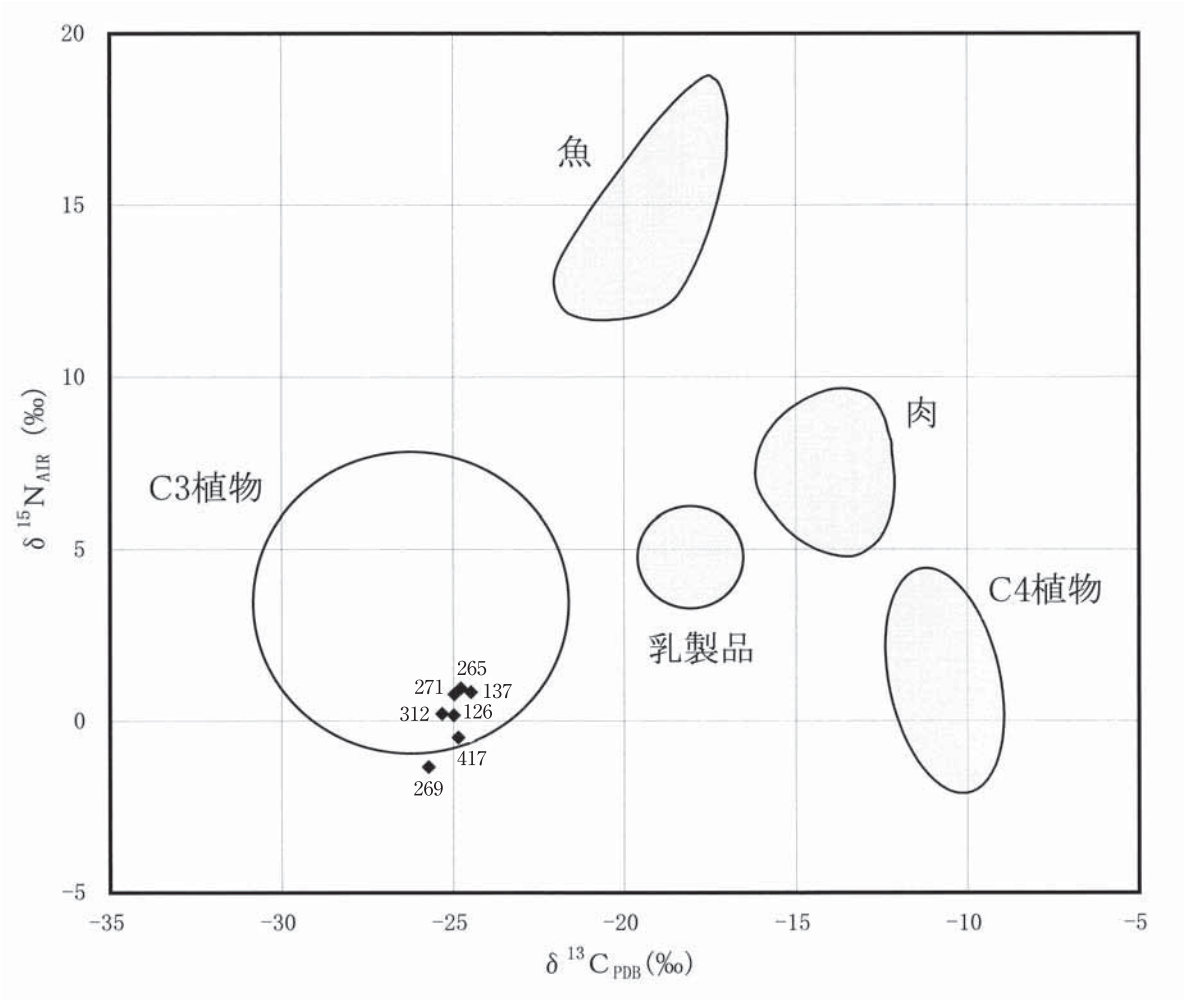
ここで測定した炭素・窒素安定同位体比の結果をこの図にプロットすると（第2図）、いずれもC3植物の範囲にプロットされた。このことから、これら土器内の残渣は、魚や肉類の可能性は極めて低く、ドングリやクリなどのC3植物であることが推定される。

引用文献

田口　勇・斎藤　努（1995）「44.軽元素食性分析法」．考古資料分析法、ニュー･サイエンス社、92−93.
赤澤　威・南川雅男（1989）炭素・窒素同位体に基づく古代人の食生活の復元．「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」、クバプロ、132－143.



第1図　現代食品の炭素・窒素安定同位体測定値（赤澤・南川、1985を修正）



第2図　土器内残渣（こげ）の炭素・窒素安定同位体測定値（赤澤・南川、1985に加筆）

付編３　高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果

（株）吉田生物研究所　汐見　真
京都造形芸術大学　岡田文男

１.試料

試料は高知県居徳遺跡群から出土した工具、農具、農工具、運搬具、祭祀具、建築部材、服飾具、容器、紡織具、雑具、用途不明品である。

２.観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３.結果

樹種同定（針葉樹3種、広葉樹4種）し、各種の解剖学的特徴を記す。

１）コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ（Sciadopitys verticillata S. etZ.）

（112、115、120、135）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州（福島以南）、四国、九州（宮崎まで）に分布する。

２）ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）

（106、116、122、133、146、148、149、150、155、157、164）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

３）ヒノキ科クロベ属クロベ（Thuja standishii Carr.）

（110、111、134、141、143、144、145、152）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で１分野に２～６個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝の様な構造（インデンチャー）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。

数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

４）ブナ科コナラ属アカガシ亜属（Quercus subgen. Cyclobalanopsis sp.）

（107、113、117、118、119）

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～200μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線に１～３細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

５）クワ科クワ属（Morus sp.）

（151）

環孔材である。木口は大道管（～280μm）が年輪界にそって１～５列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が２～６個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は１～６細胞列、高さ～1.1㎜からなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

６）ツバキ科ツバキ属（Camellia sp.）

（121、114）

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～40μm）が単独ないし２～３個接合して均等に分布する。放射組織は１～３細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁は極めて厚い。柾目では道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔（とくに直立細胞）は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は１～４細胞列、高さ～１㎜以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

７）ツバキ科サカキ属サカキ（Cleyera japonica Thunb. pro parte emend. S. et Z.）

（123）

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～50μm）が単独ないし２～４個複合して平等に分布

する。柾目では道管は階段穿孔と側壁に対列ないし階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、高さ～1.5㎜からなる。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが見られる。サカキは本州(茨城､石川以西南)、四国、九州に分布する。

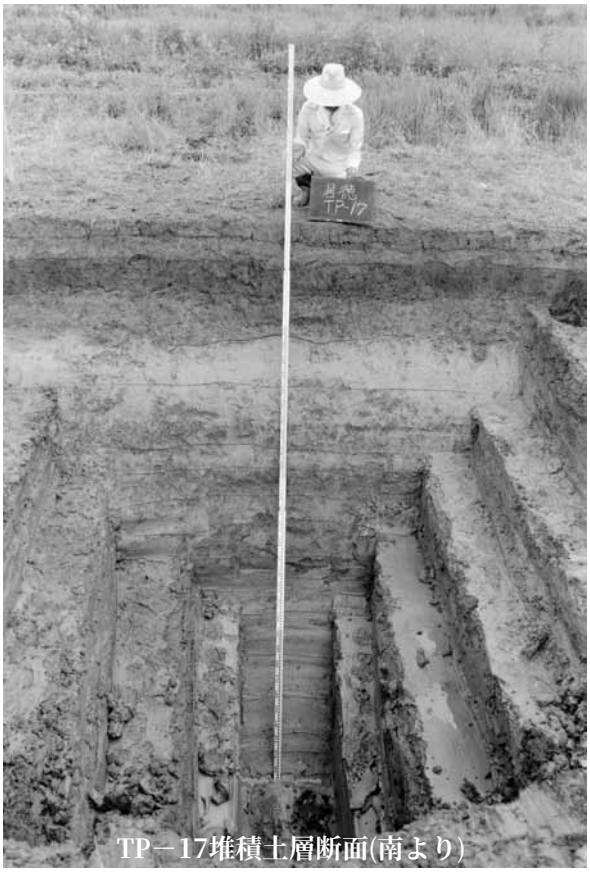
参考文献

島地　謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)
島地　謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社(1982)
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所(1999)
木村四郎・村田　源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社(1979)
深澤和三「樹体の解剖」海青社(1997)

使用顕微鏡

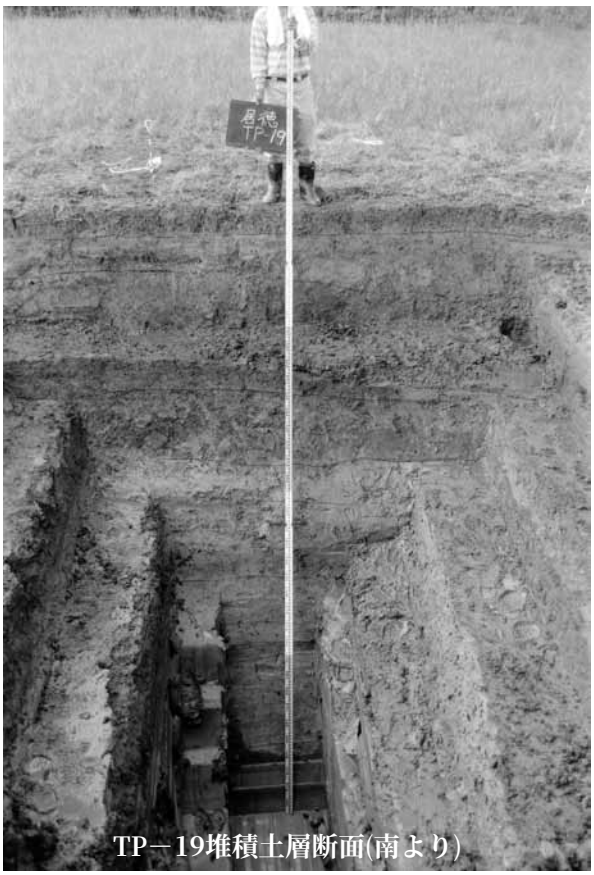
Nikon
MICROFLEX　UFX-DX　Type 115

写 真 図 版



TP－17堆積土層断面(南より)

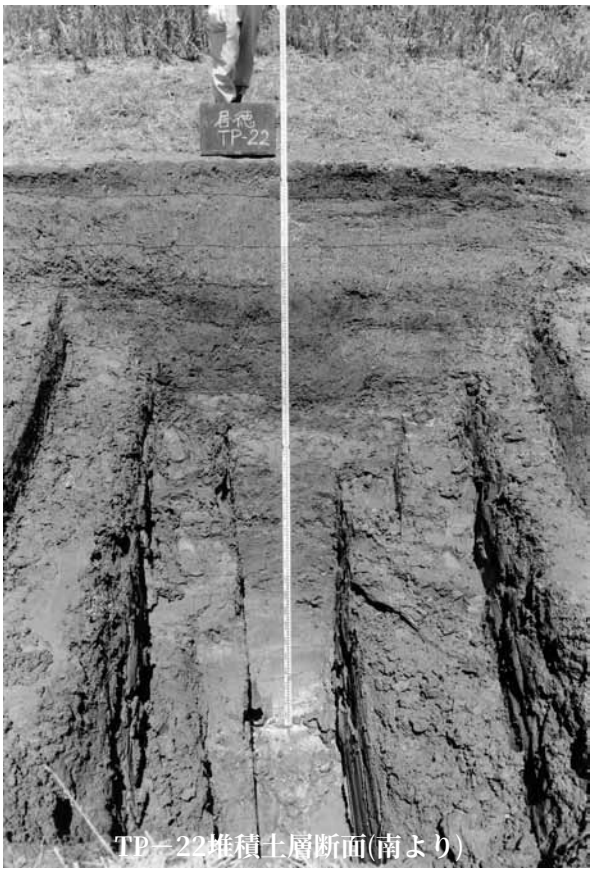
TP－18堆積土層断面(南より)



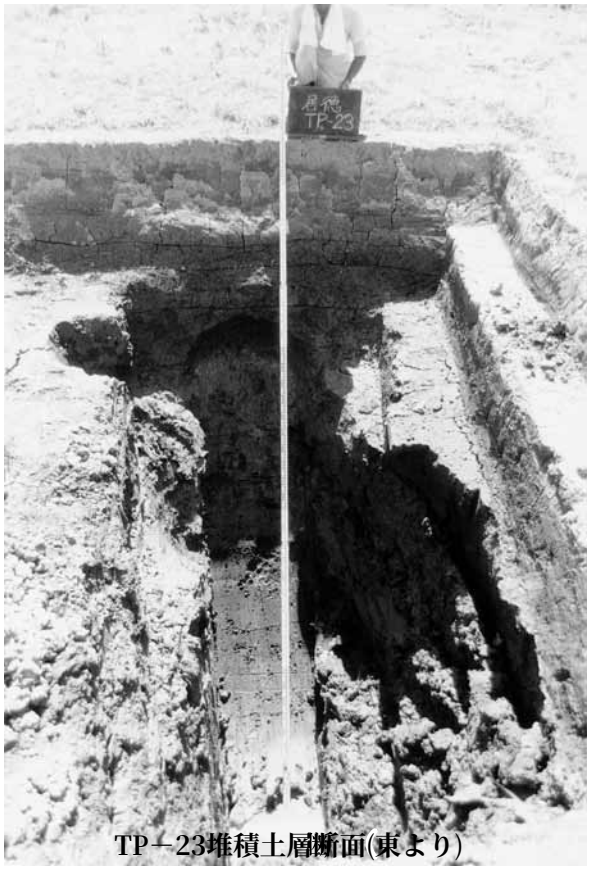
TP－19堆積土層断面(南より)

TP－21堆積土層断面(南より)

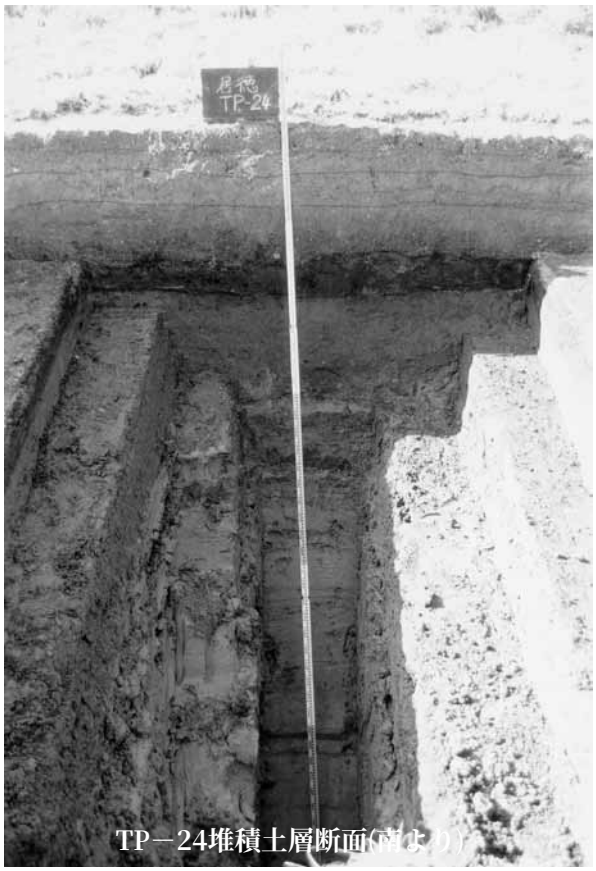
確認調査(2) TP－17～TP－19・TP－21



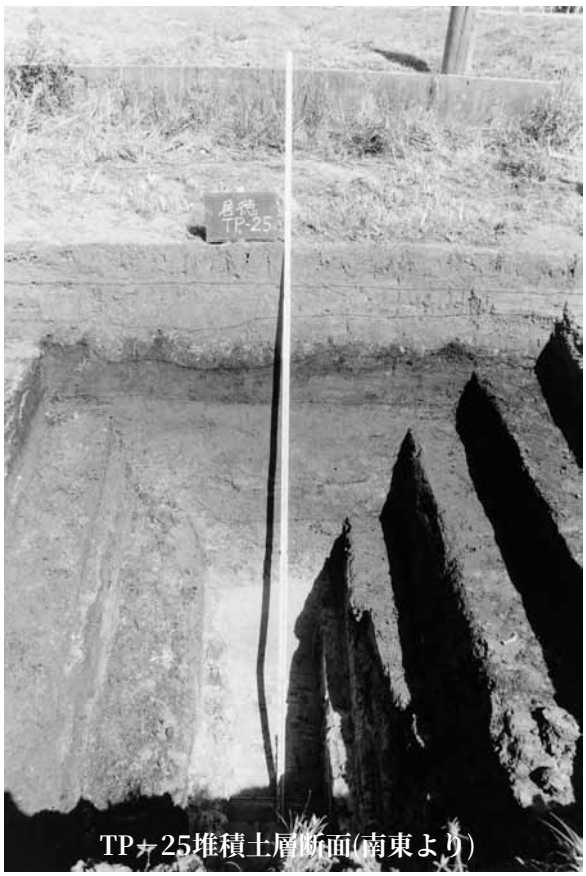
TP－22堆積土層断面(南より)



TP－23堆積土層断面(東より)



TP－24堆積土層断面(南より)



TP－25堆積土層断面(南東より)

確認調査 (2) TP－22～TP－25


TP－17調査前状況(南より)


TP－17調査状況(東より)


TP－17完掘状態(南より)


TP－18完掘状態(南より)


TP－19完掘状態(南より)

TP－20調査状況(東より)

TP－21調査状況(北東より)


TP－21完掘状態(南より)

確認調査 (2) TP－17～TP－21


TP－22調査状況(北東より)


TP－22完掘状態(南より)


TP－23調査前状況(東より)

TP－23調査状況(南より)


TP－23第Ⅴ層遺物出土状態(30)

TP－23第Ⅵ層遺物出土状態(北より)


TP－23第Ⅵ層遺物出土状態(26)

TP－23調査状況(西より)

確認調査 (2) TP－22・TP－23


TP－23第Ⅵ層遺物出土状態(25)


TP－23堆積土層断面(東より)


TP－23堆積土層断面(南より)


TP－23完掘状態(東より)

TP－24遺構検出状態(北より)

TP－24遺構完掘状態(北より)


TP－24遺構完掘状態(北より)


TP－24完掘状態(南より)

確認調査 (2) TP－23・TP－24


TP－25完掘状態(南東より)


TP－26調査前状況(北より)


TP－26第Ⅲ層遺物出土状態(48)


TP－26第Ⅱ層遺物出土状態(北西より)


TP－26第Ⅱ層遺物出土状態(北西より)


TP－26第Ⅱ層遺物出土状態(47)

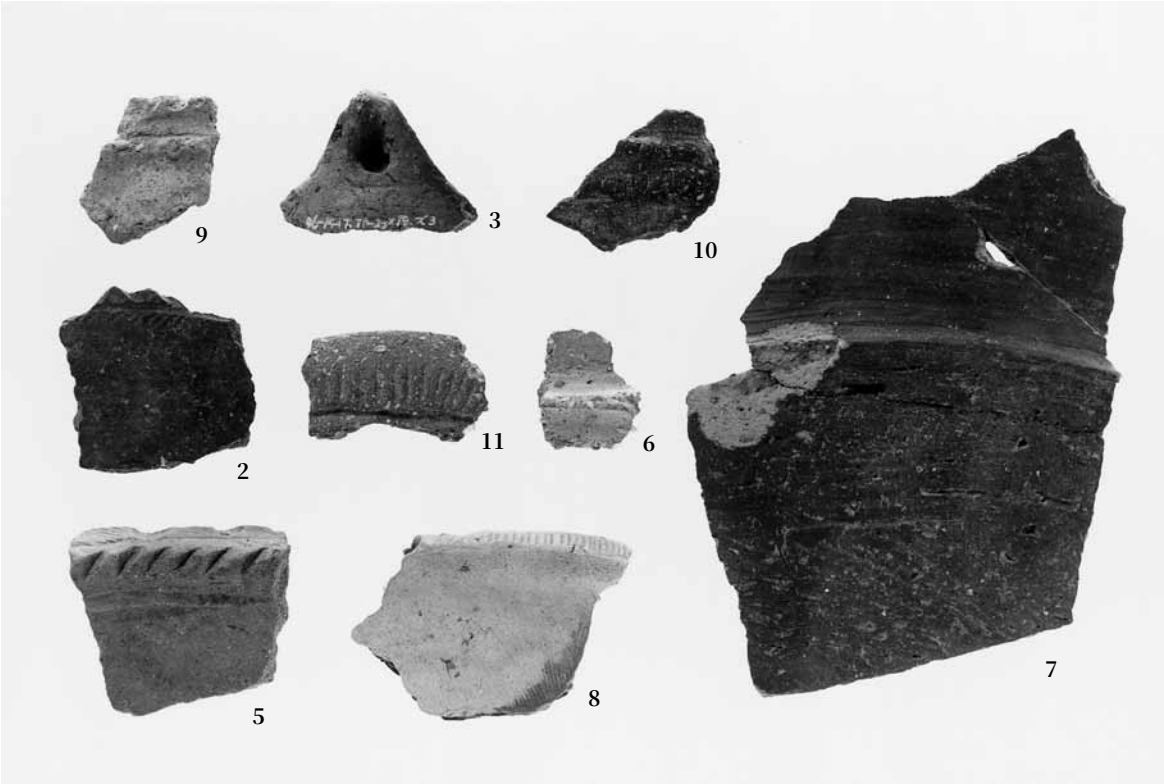

TP－26完掘状態(北より)

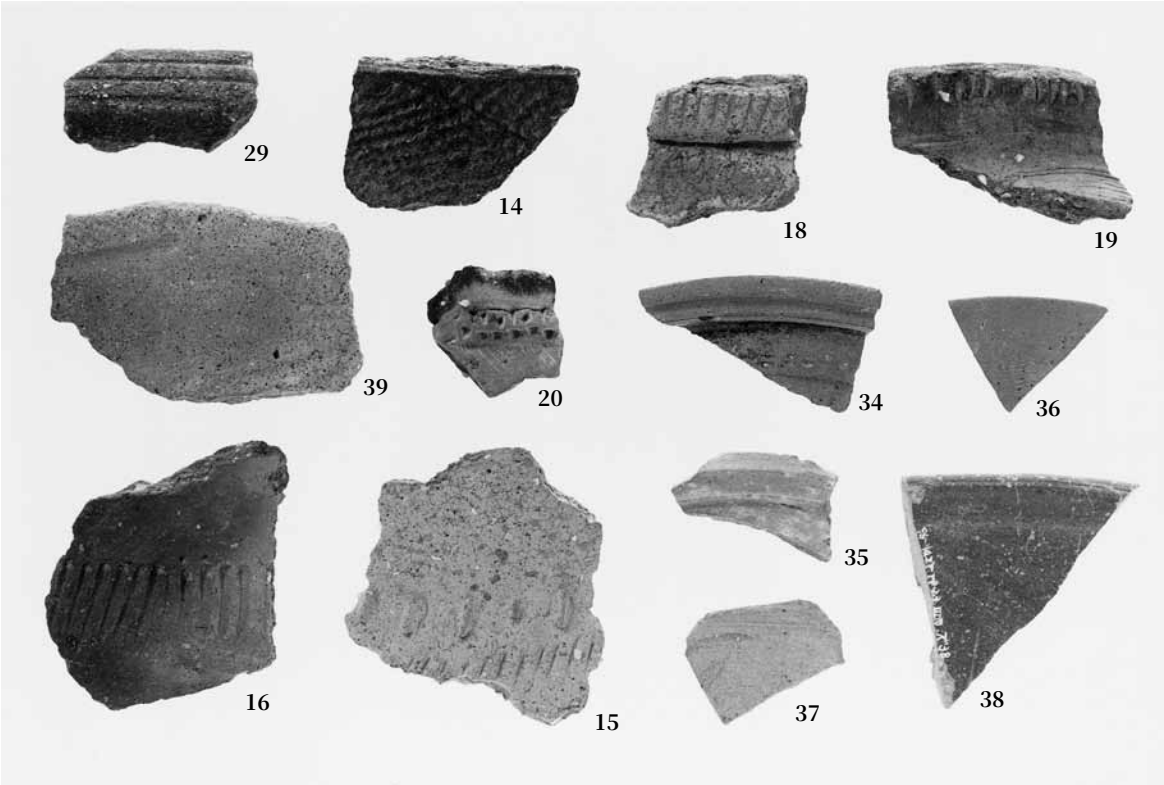

TP－26堆積土層断面(北西より)

確認調査 (2) TP－25・TP－26

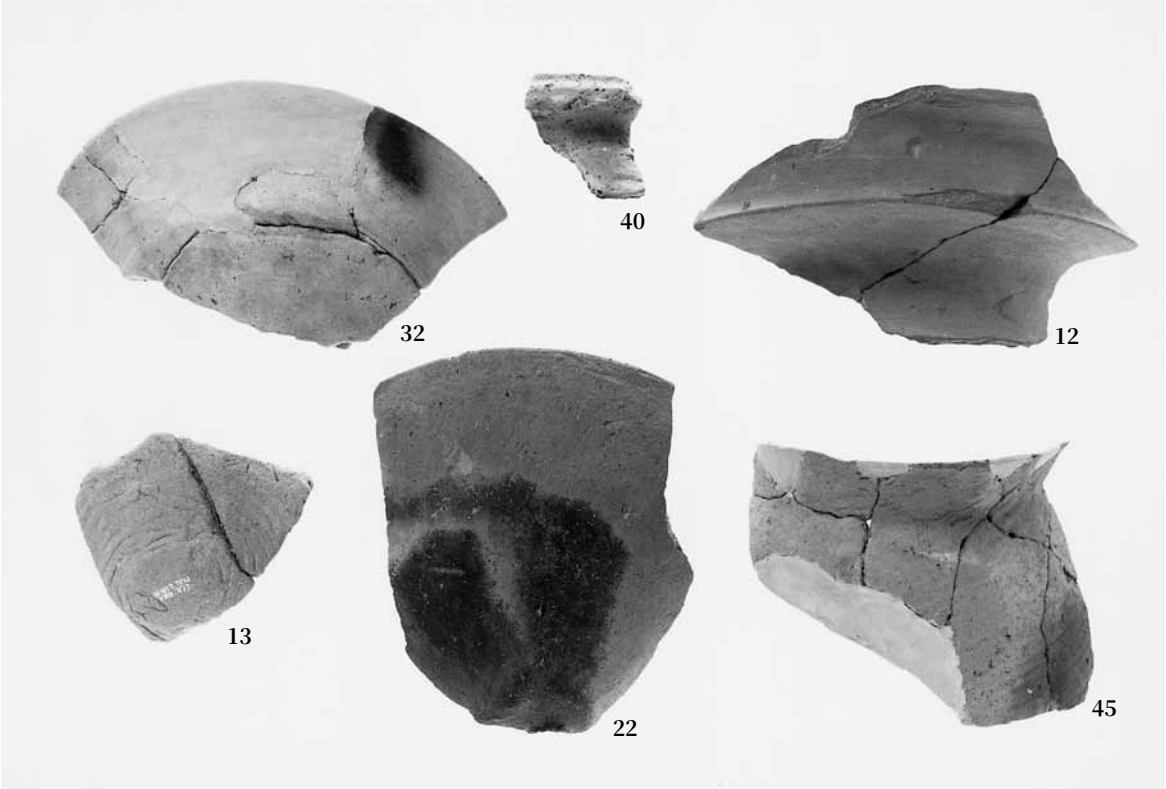
確認調査 (2) 出土遺物 1 (土器)

確認調査 (2) 出土遺物２(土器)

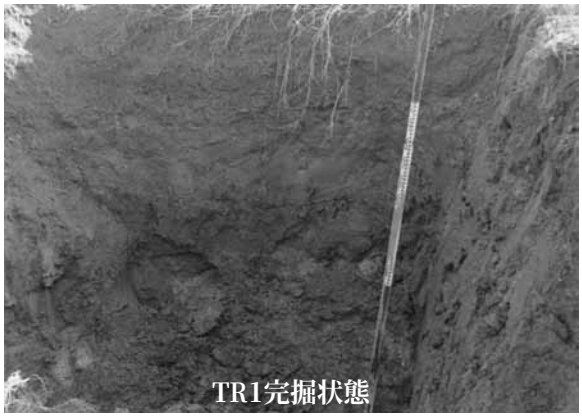




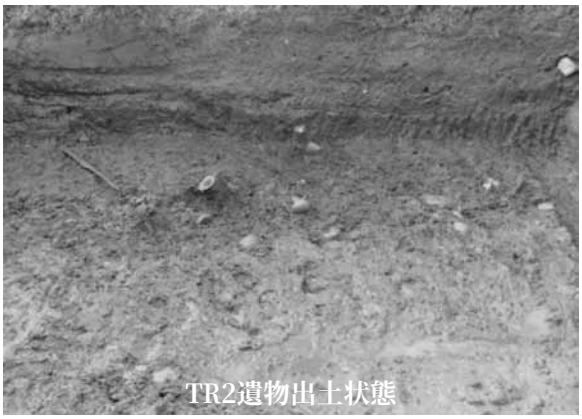
確認調査 (2) 出土遺物３ (土器)



確認調査 (2) 出土遺物４ (土器)

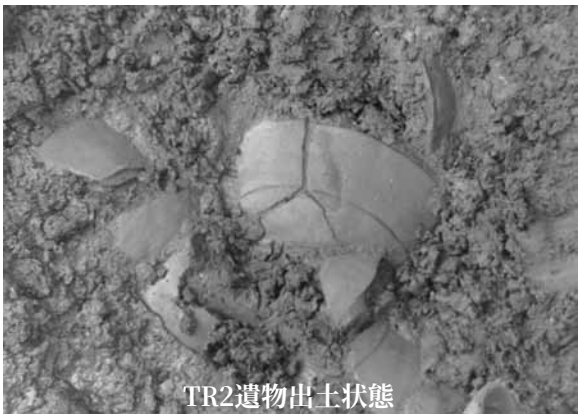

TR1完掘状態


TR2遺物出土状態


TR2遺物出土状態


TR2遺物出土状態

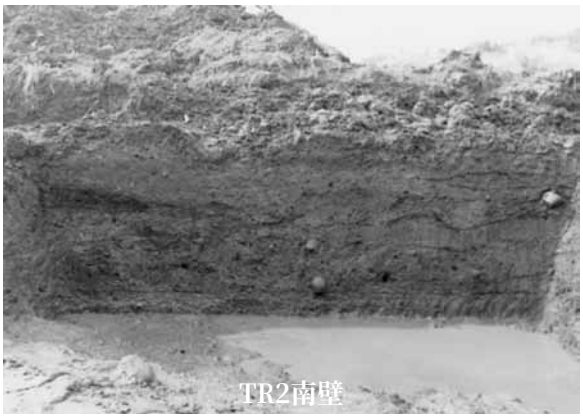

TR2遺物出土状態


TR2遺物出土状態

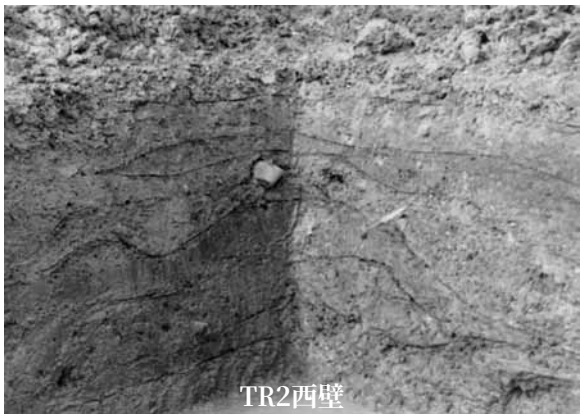

TR2遺物出土状態


TR2北壁


TR2北壁


TR2南壁


TR2南壁

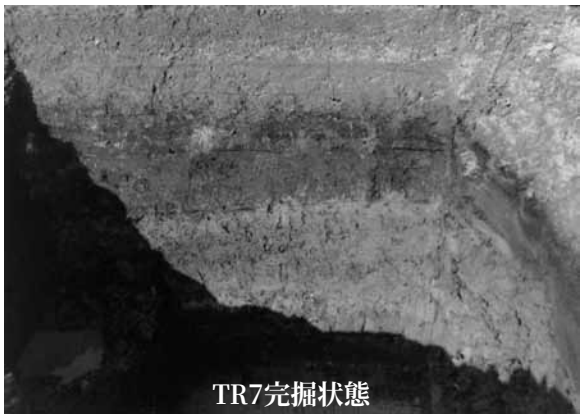

TR2西壁

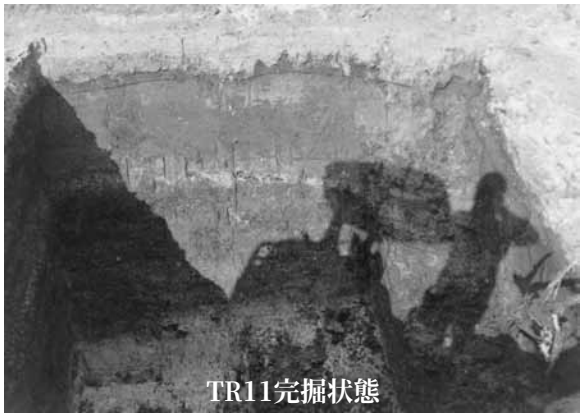

TR3完掘状態

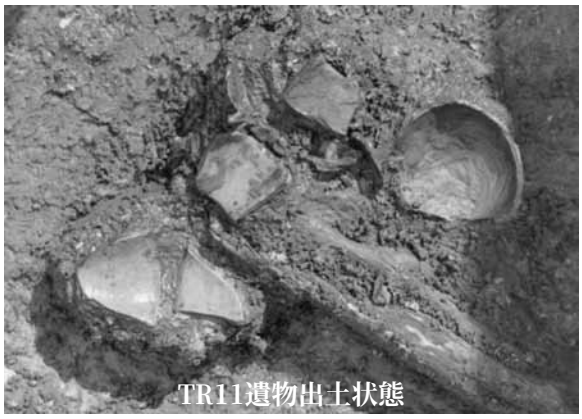

TR4完掘状態


TR5完掘状態


TR6完掘状態


TR7完掘状態


TR11完掘状態


TR11遺物出土状態


TR12セクション

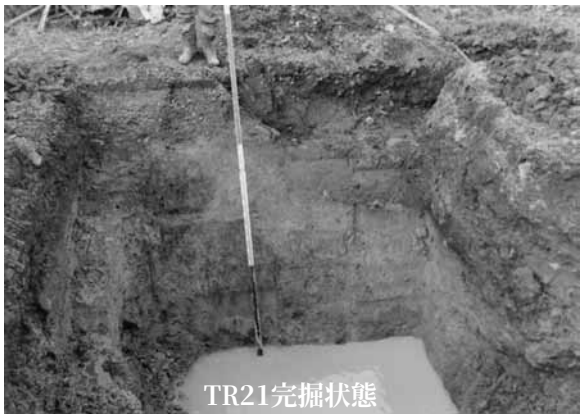

TR14完掘状態

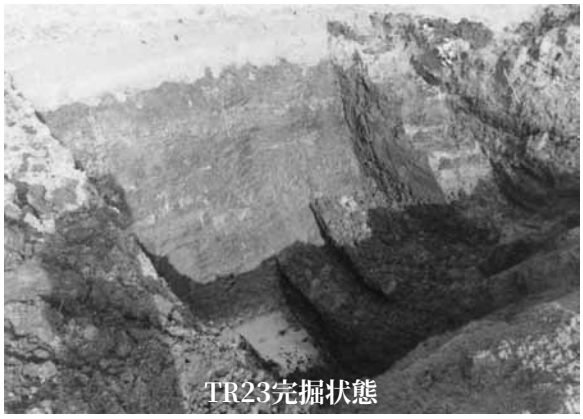

TR15完掘状態

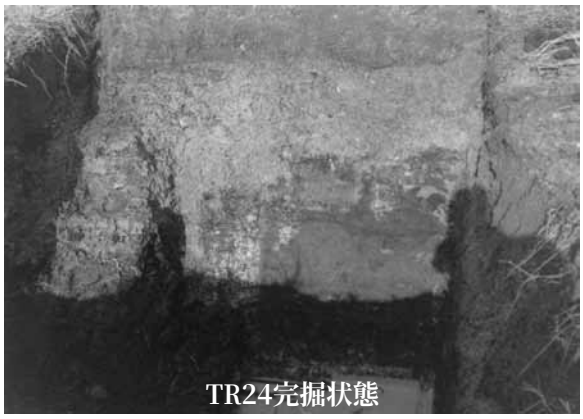

TR17完掘状態

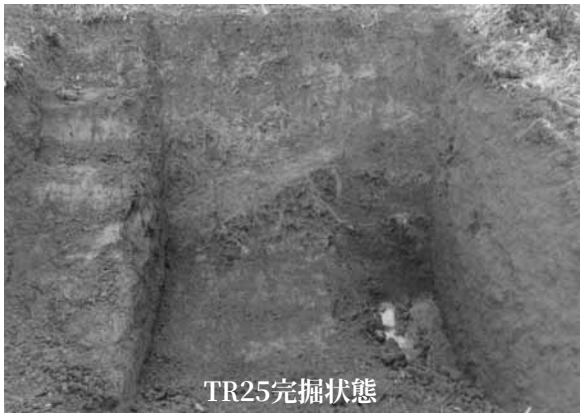

TR18完掘状態


TR19完掘状態


TR21完掘状態


TR23完掘状態


TR24完掘状態


TR25完掘状態


TR26完掘状態


TR30完掘状態


TR34完掘状態


12


13


16


19


20


21


23


24

確認調査（3）TR2出土遺物（土器）


25


38


41


42


43


47


53


54

確認調査（3）TR2出土遺物（土器）


55


56


105


109

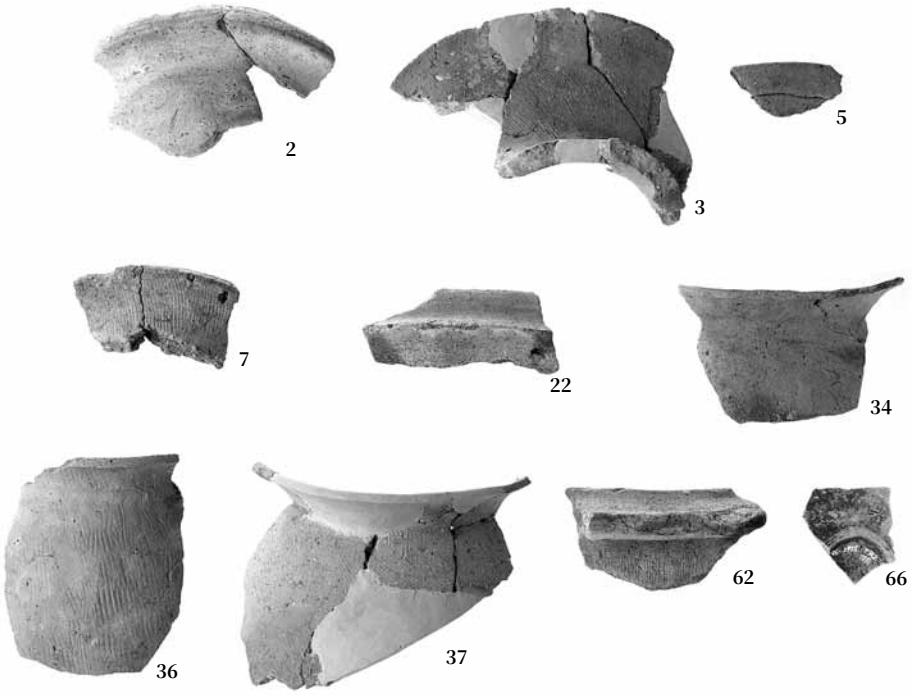

110


112

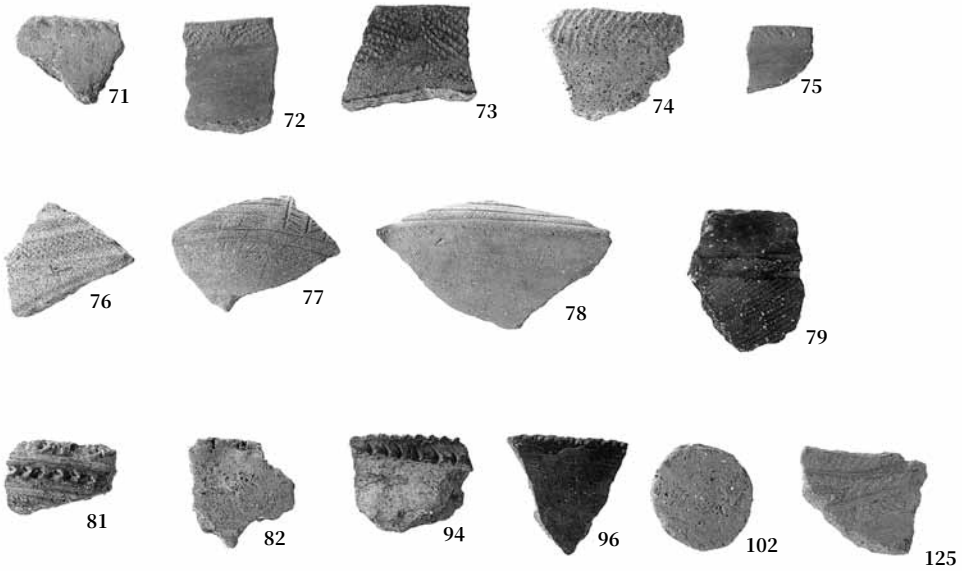

120


129

確認調査（3）TR2・7・11・12出土遺物（土器）



確認調査（3）TR2出土遺物 (土器)



確認調査（3）TR2・7・12出土遺物 (土器)

1E区縄文時代遺構検出状態（西より）

1E区縄文時代遺構完掘状態（西より）

１Ｅ区古墳時代遺構検出状態（南より）

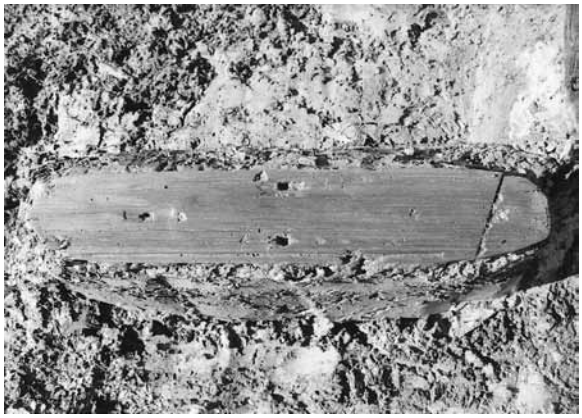
１Ｅ区古墳時代遺構検出状態（南より）

1E区完掘状態（南より）

1E区西壁セクション（東南より）

第Ⅴ層土師質土器(1)出土状態

第Ⅵ層木製品 (10) 出土状態



第Ⅵ層木製品(12)出土状態

第Ⅺ層弥生土器 (48) 出土状態

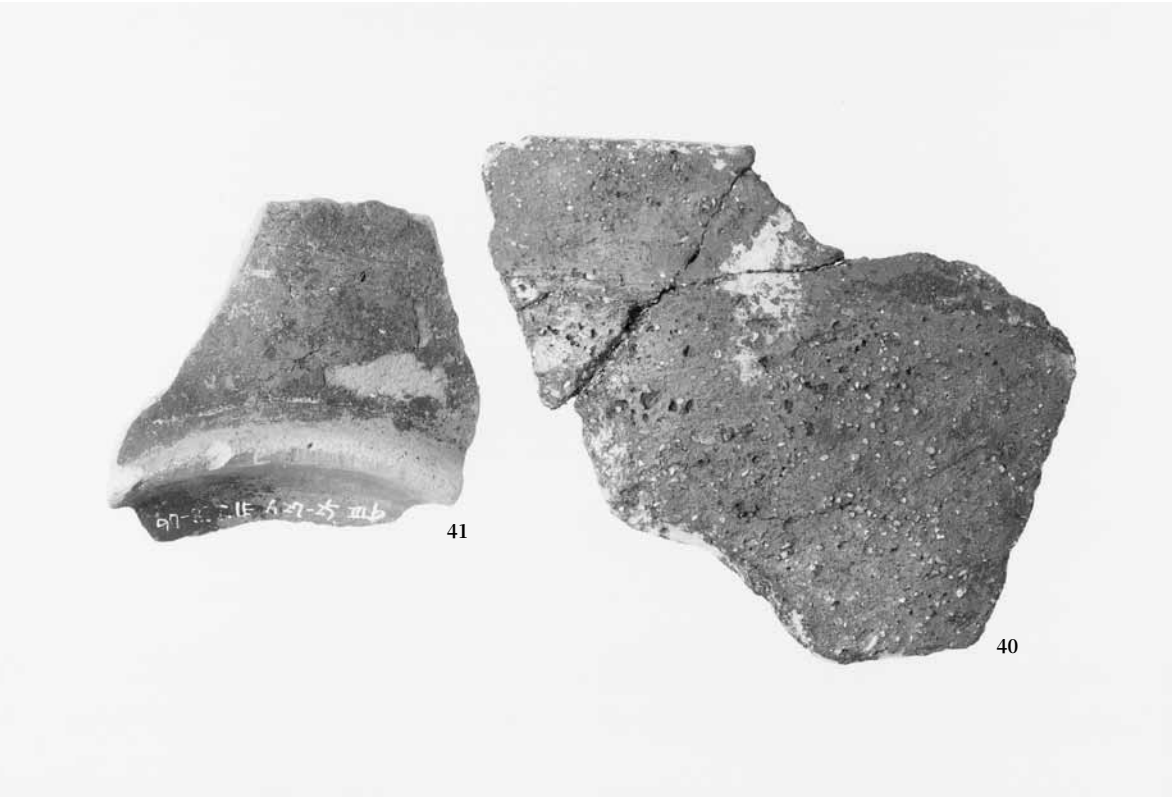
第Ⅺ層弥生土器(51)出土状態

SR-1バンクセクション（東より）

SR-1土師器(104)出土状態

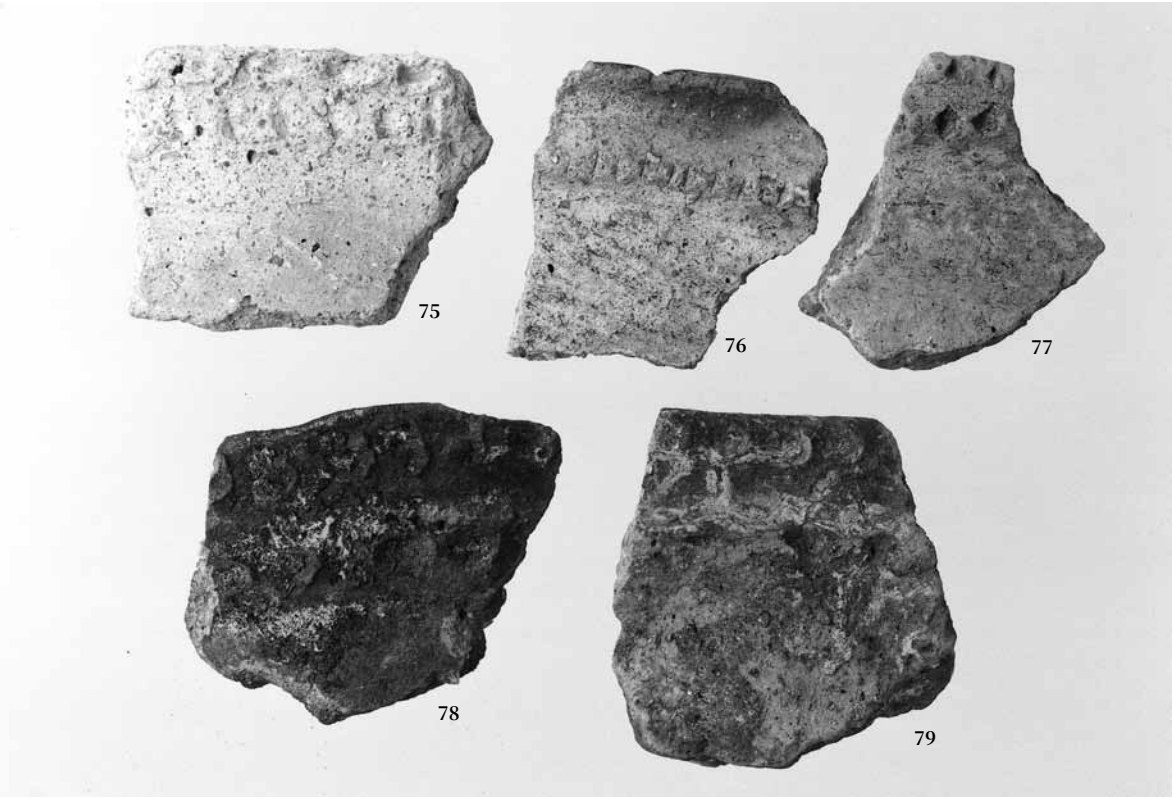
SR-1木製品(107)出土状態

縄文土器 (深鉢)

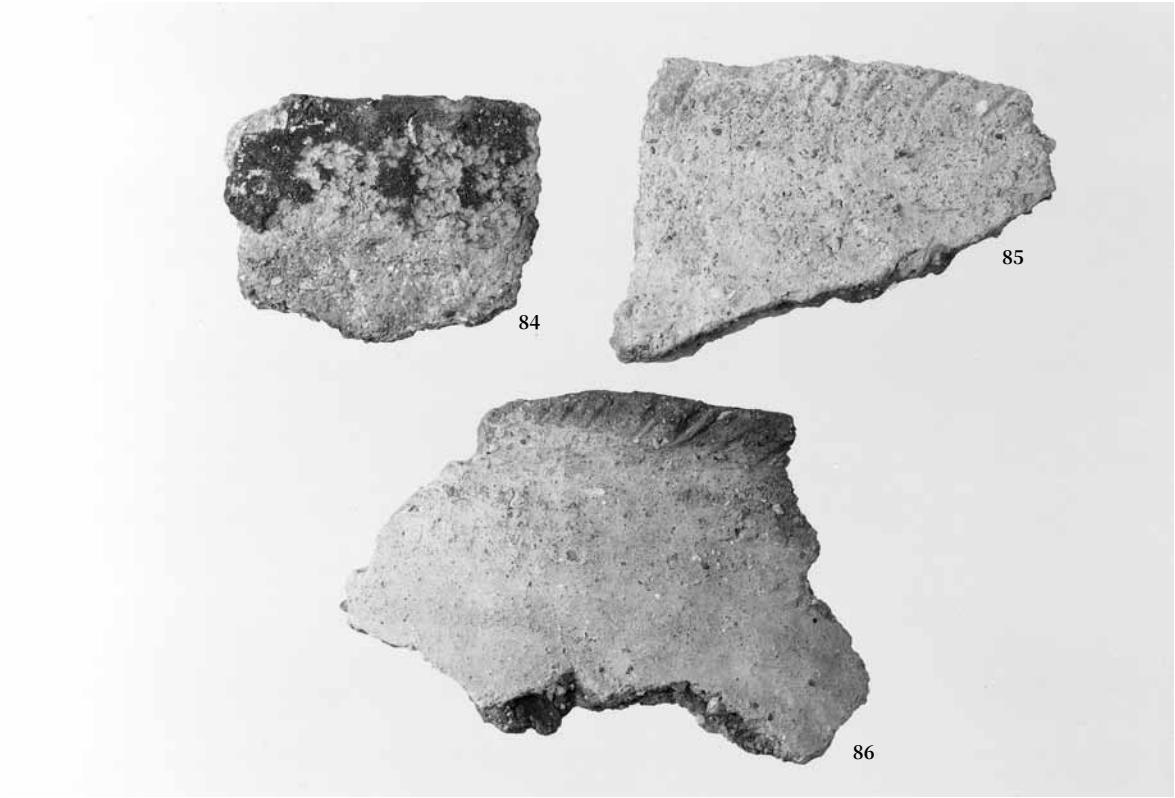


縄文土器 (浅鉢)

弥生土器 (甕)

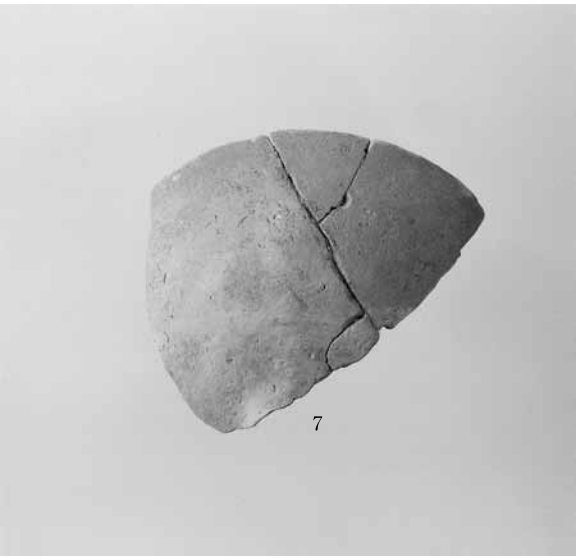


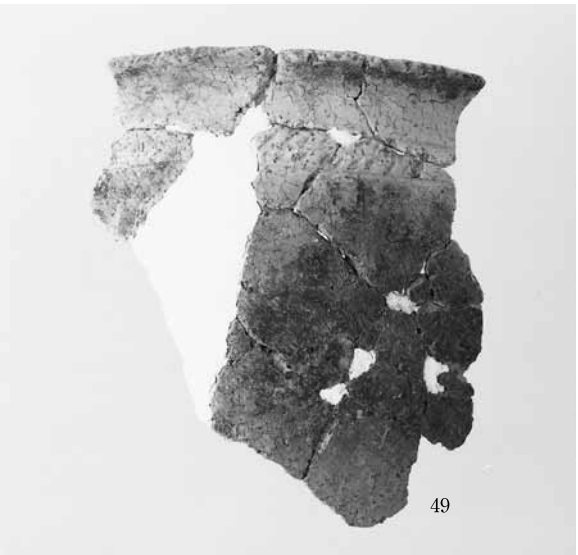
縄文土器 (深鉢)



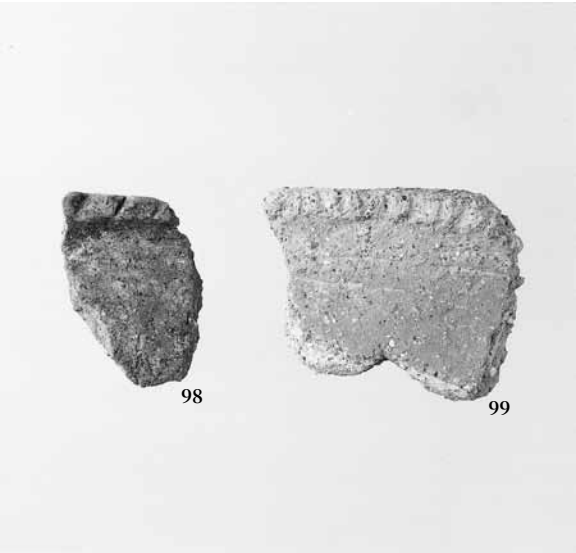
縄文土器 (深鉢)

土師器 (甕)



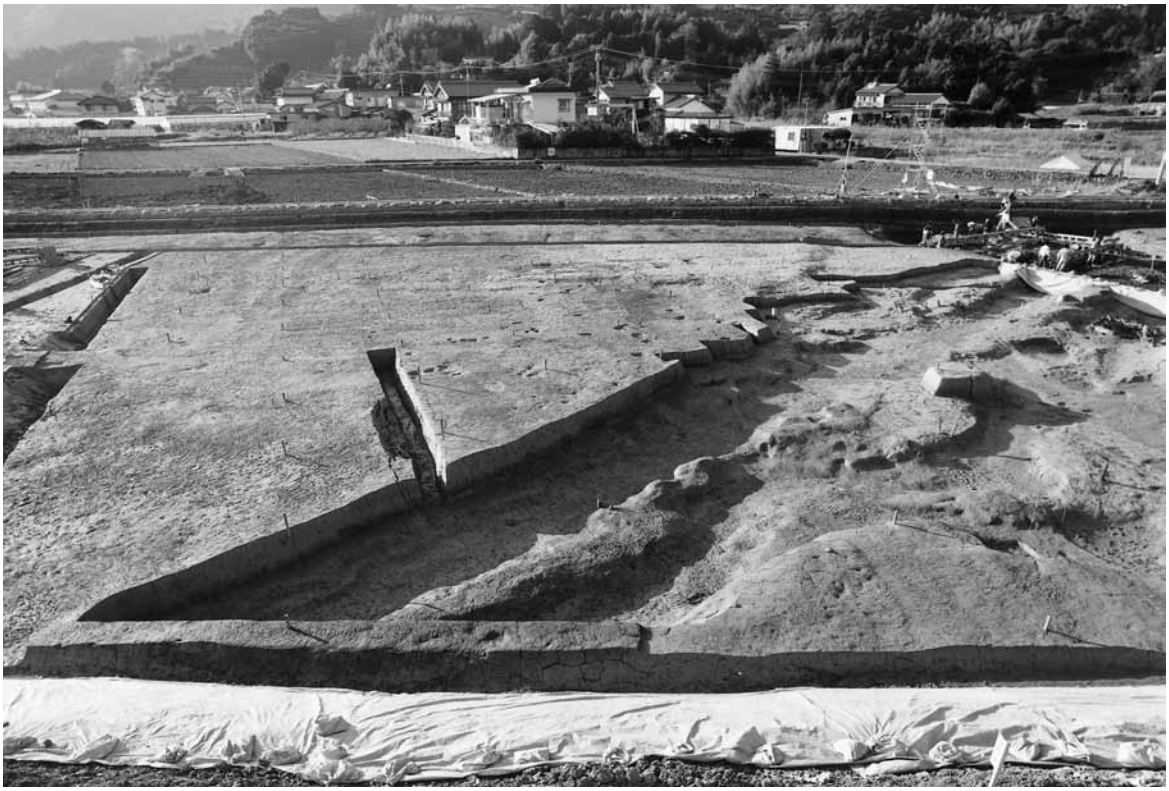


縄文土器(深鉢)，弥生土器(壺･甕)，土師器(高杯)，石製品(磨製石斧)



縄文土器 (深鉢)，弥生土器 (甕)

縄文土器(深鉢・鉢)，弥生土器(壷・甕)，土師質土器(坏)



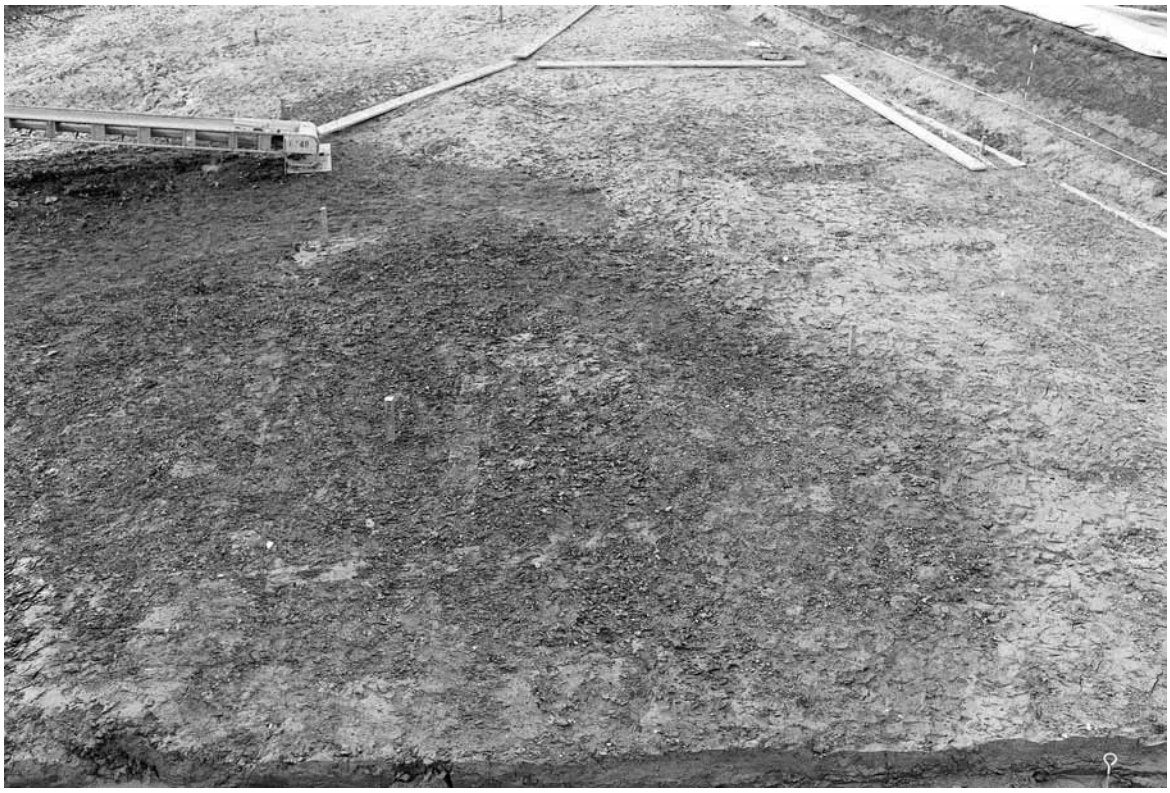
調査区南半 (東より)

調査区北半 (東より)

2A区遺構1

SD１完掘状態（北より）

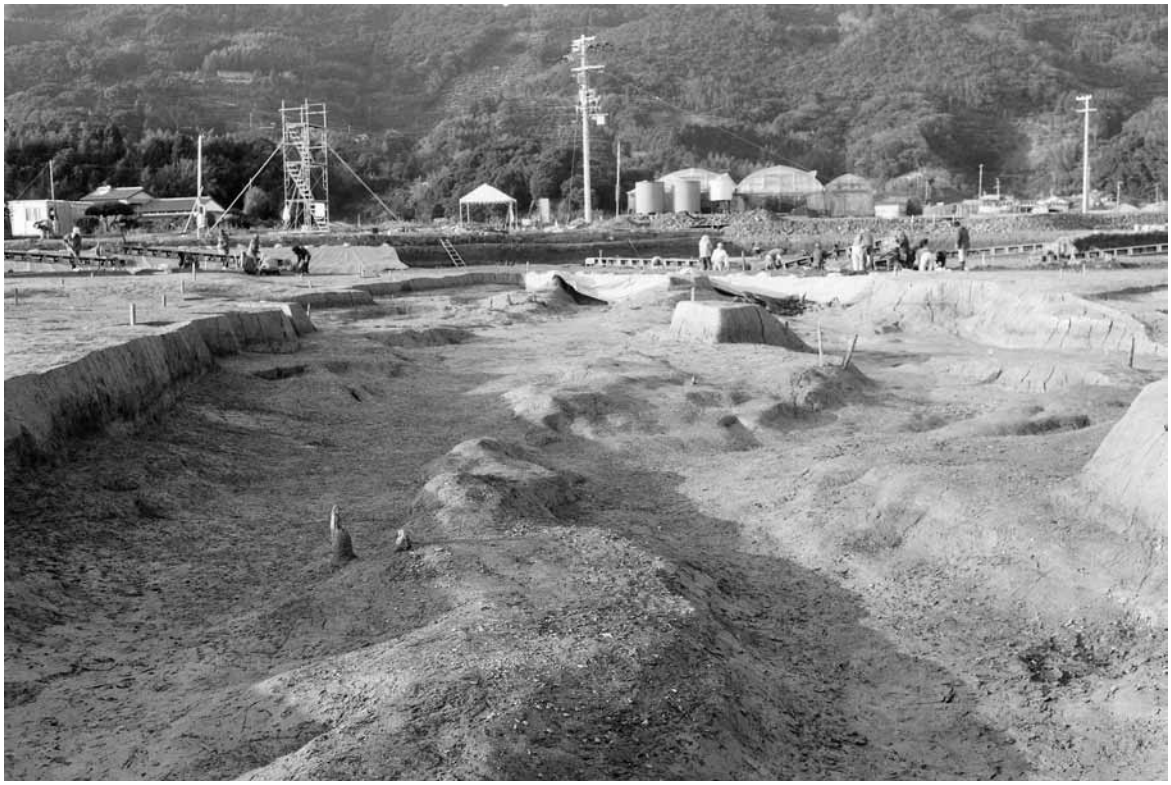
SD２完掘状態（南より）



SR１検出状態 (東より)

調査区北部完掘状態 (東より)

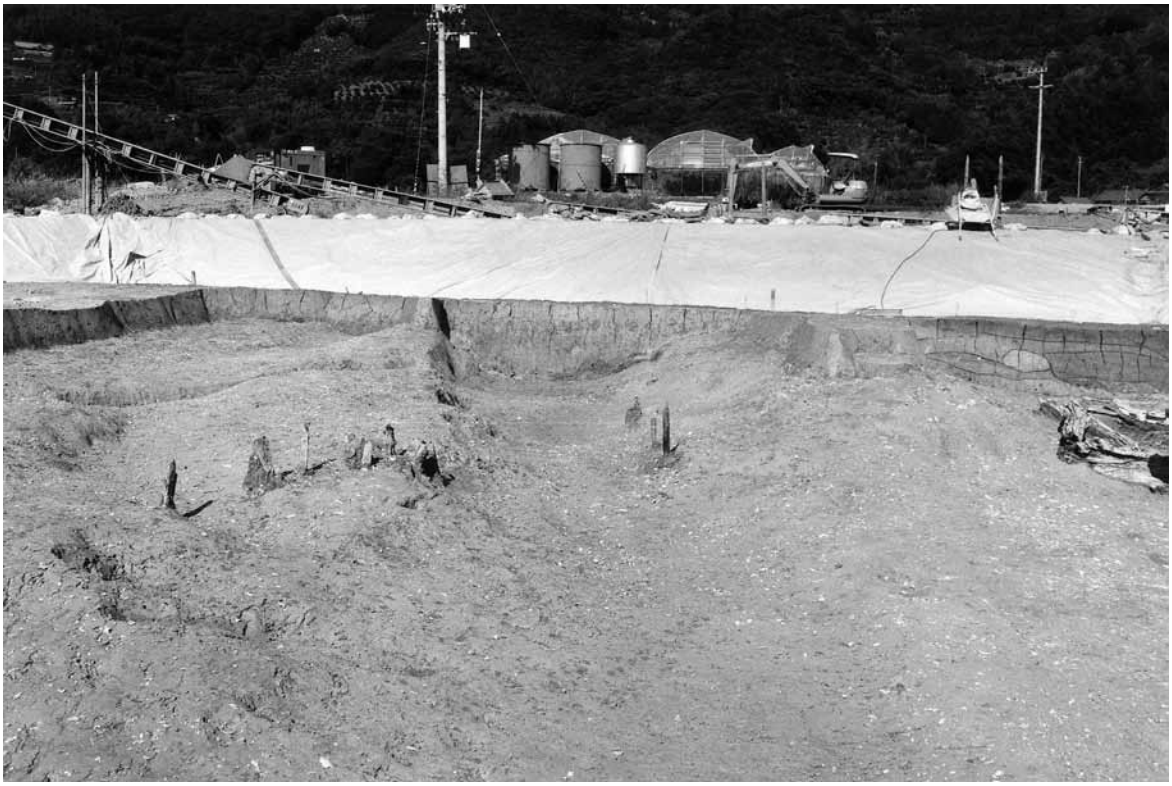
２A区遺構３



SR群完掘状態(南より)

SR群完掘状態(北より)

2A区遺構4



SR４完掘状態 (南より)

SR４完掘状態 (北より)

2A区遺構５

SR２流木出土状態 (北より)

SR２遺物出土状態

遺物出土状態 (123)

遺物出土状態 (132,133)

2A区遺構７

SR１・SR２セクション(西より)

SR２北壁セクション(南より)

SR群東西セクション (SR４)

SR群東西セクション (SR４－１)

２A区遺構９

SR群東西セクション(SR３－２)

SR群東西セクション(SR３－１)

２A区遺構10

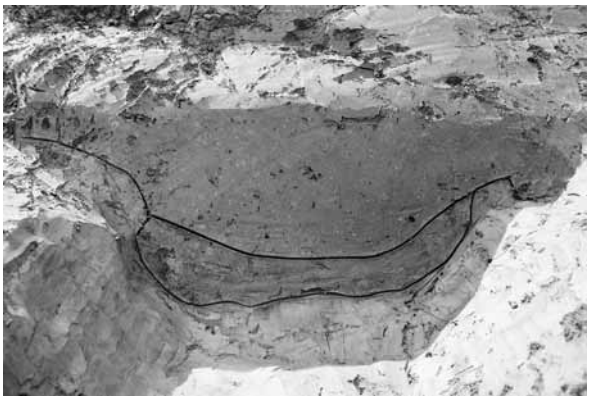
SR群東西セクション (東より)

SR群東壁セクション (西より)

2A区遺構11

SD１第Ｉベルト (北より)

SD１第２ベルト (南より)



SD１第４ベルト (南より)

SD１第７ベルト (南より)

SD１第８ベルト (南より)

SD１第９ベルト (南より)

SD１南壁セクション (北より)

SD２第２ベルト (北より)

2A区SD１・SD２ベルトセクション

60

67

61

31

71

68

47・48・58・63

63

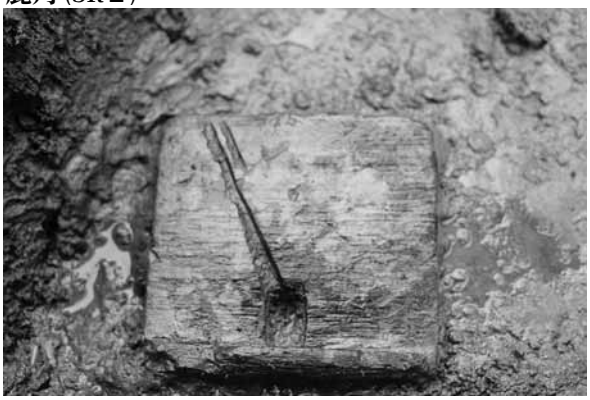
2A区遺物出土状態１

95

96

鹿角 (SR 2)

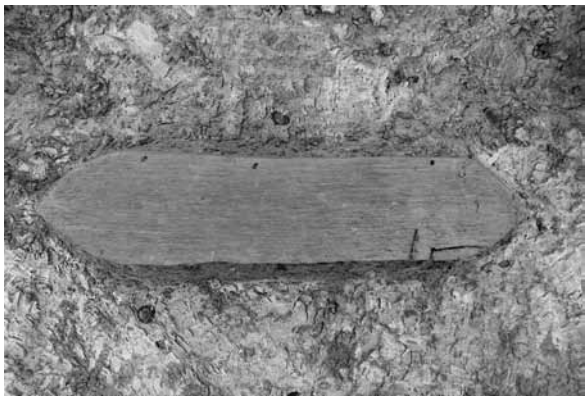
97



111

119

141



143

2A区遺物出土状態2

2 A 区出土遺物 1 (土器)

2A 区出土遺物２（土器）

107

121

113

151

120

118

119

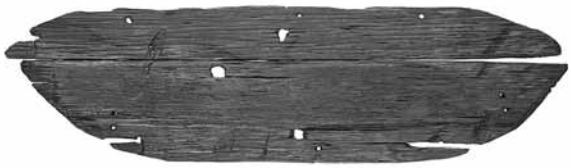
106

2A 区出土遺物３（木器・木製品）

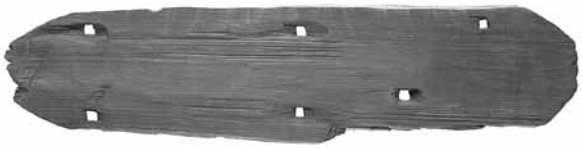
146

132

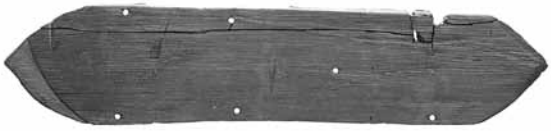
135



141



142

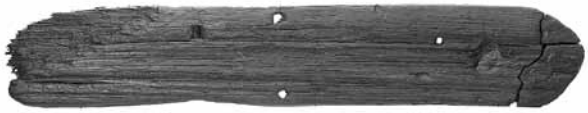


143

147

148

2A 区出土遺物４（木器・木製品）



152

154

157

158

123

124

161

162

2 A区出土遺物 5 (木器・木製品)

165

166

167

168

169

2A 区出土遺物 6（木器・木製品）

3B区　調査状況

3B区　遺物出土状態

3B区　遺物出土状態

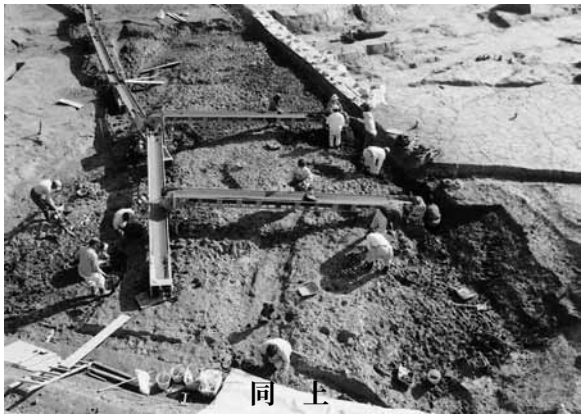
同　左

3B区　遺構検出状態 (西より)


3B区　調査状況


同　左

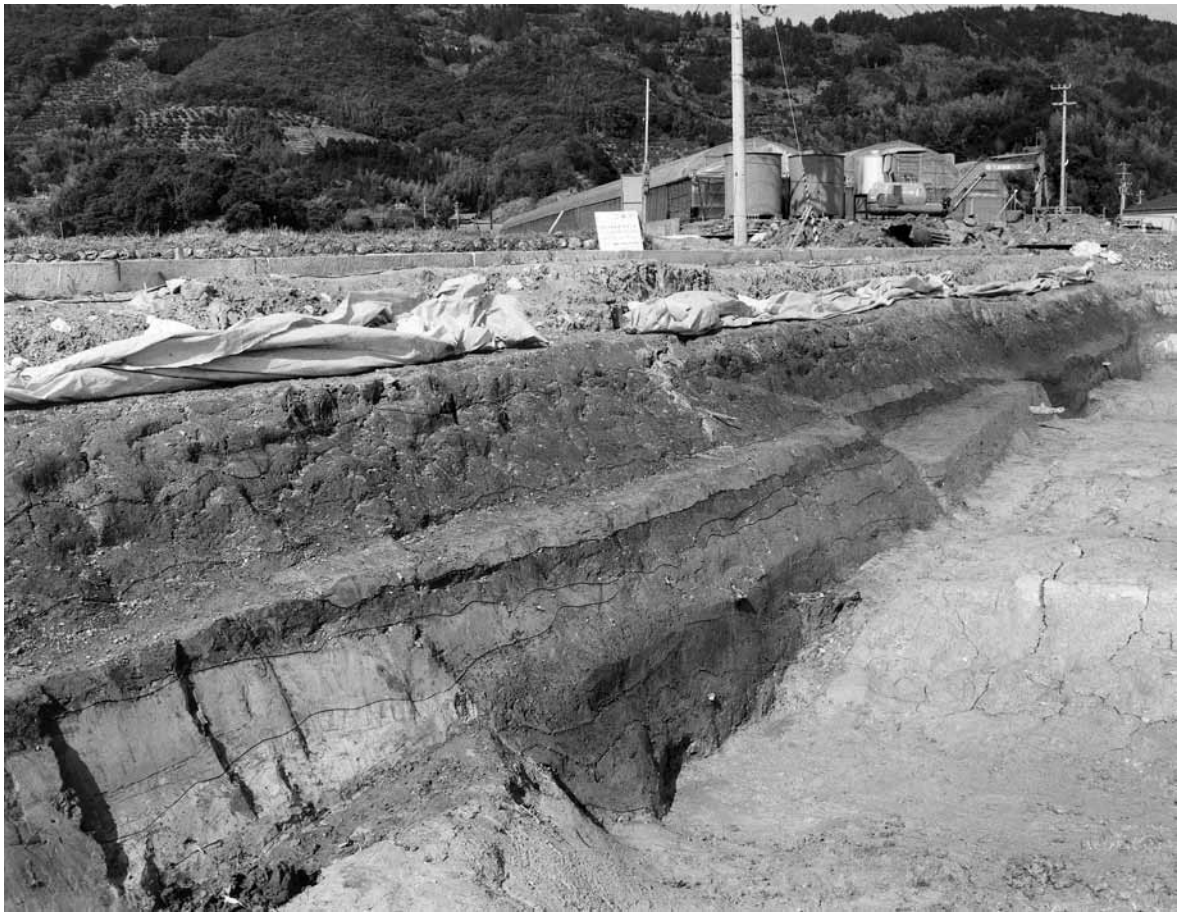

同　上


同　上

3B区　遺構検出・完掘状態 (東より)

3B区　遺物出土状態

同　左



3B区　西壁 (南東より)

3B区　流路群完掘状態(北より)

同　上(南より)

3B区　流路群バンク (北東より)

3B区　流路群完掘状態 (西より)

3B区　流路群完掘状態 (北西より)

同　上 (南東より)

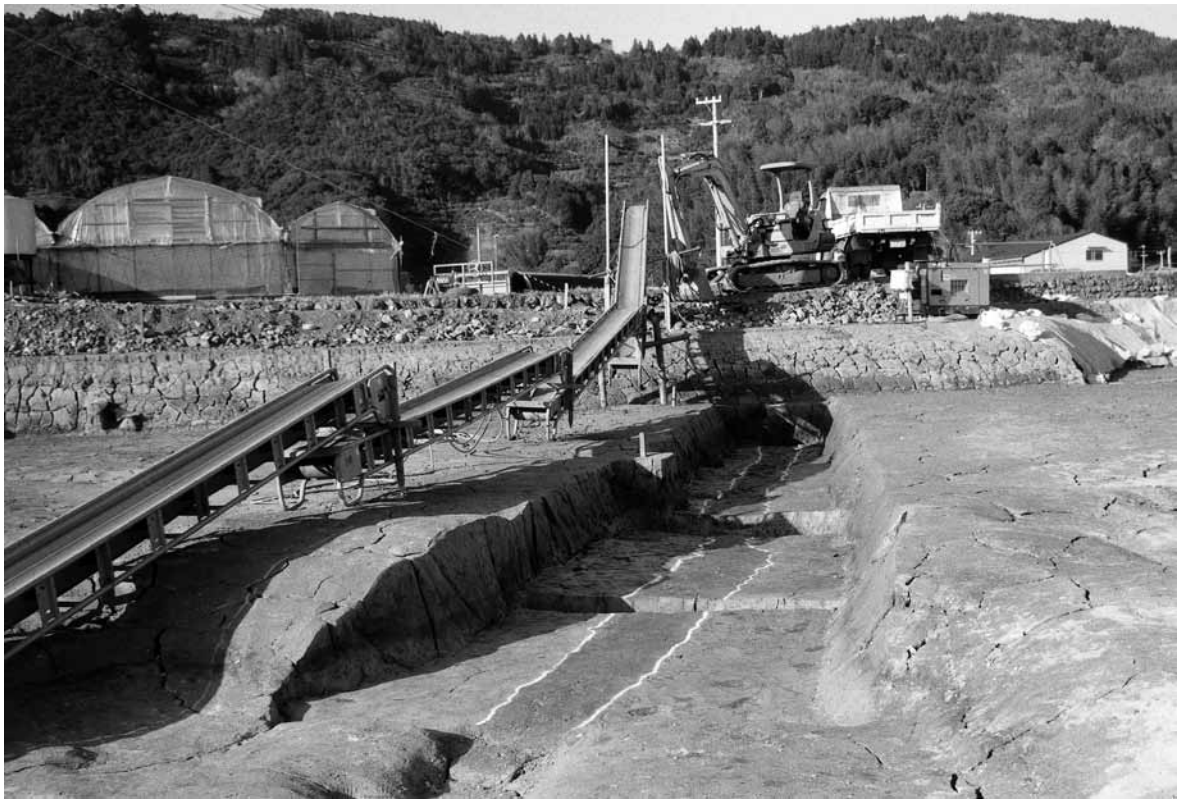
3B区　調査状況

同　左

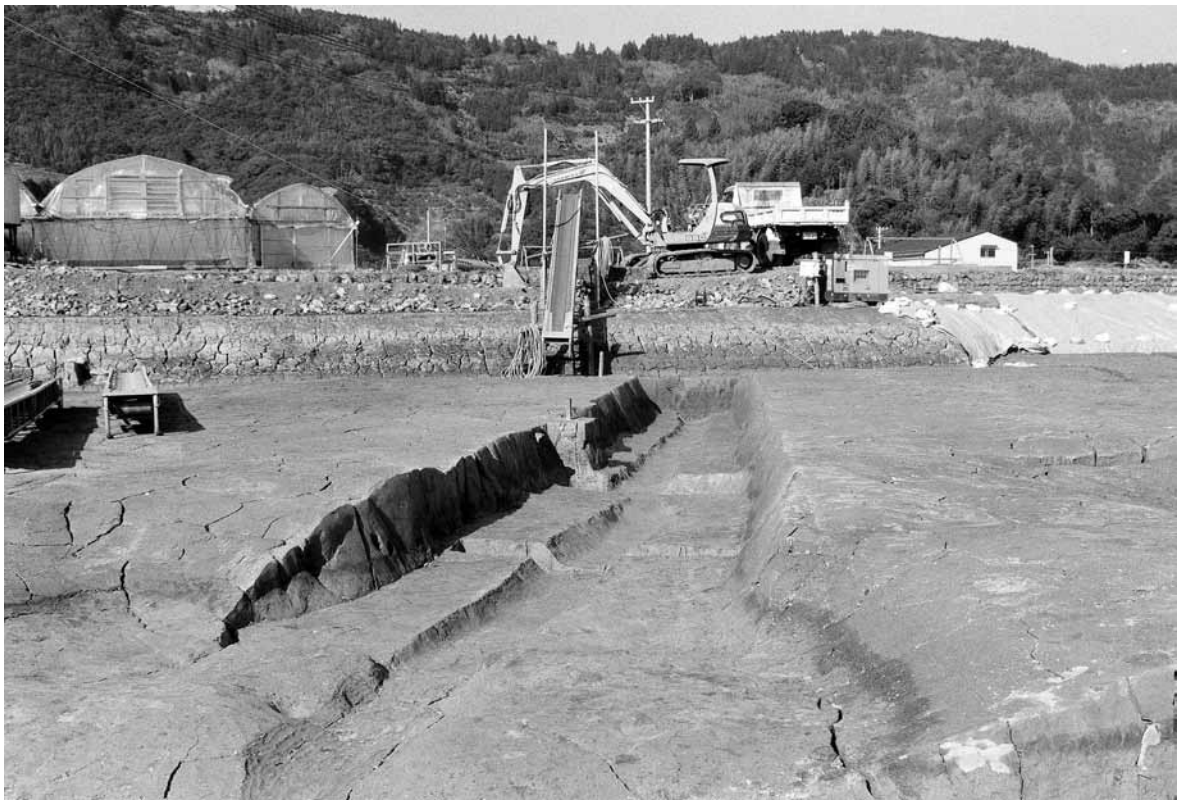
同　上

3B区　遺物出土状態

3B区　北壁



3B区　SD1検出状態(南より)



同　完掘状態 (南より)

3B区　SD2（杭列）検出状態（東より）

同　完掘状態（東より）

3B区　SD2（杭列）完掘状態（西より）

同　完掘状態（北より）

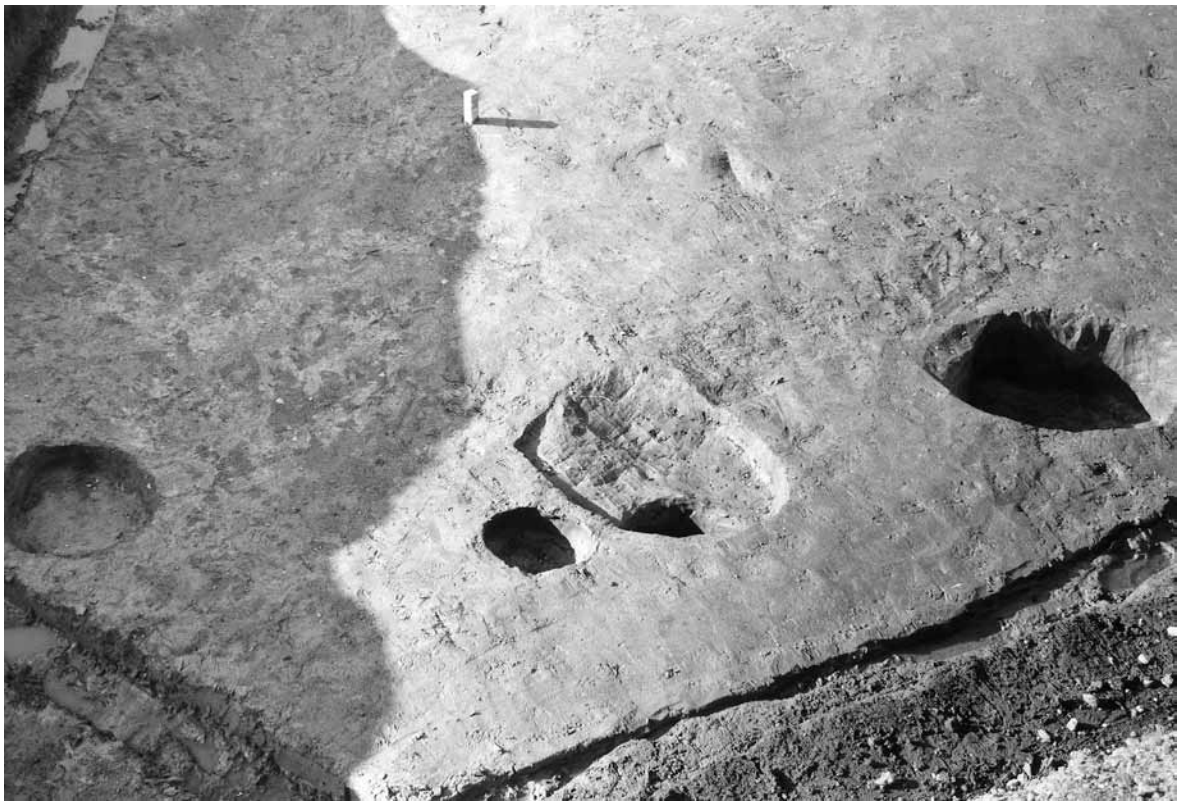
3B区　SD2（杭列）調査状況

3B区ピット検出状態（南東より）

3B区　第２面北壁

同　東壁

3B区　ピット完掘状態（南より）



同　上


2


3


4


6


7


8


9


16

3B区　SR1出土遺物 (土器)


17


18


19


20


21


22


23


25

3B区　SR2出土遺物 (土器)

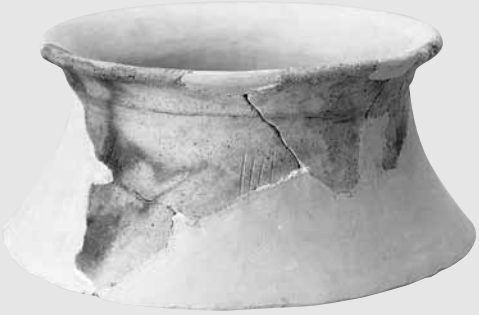

33


34


35


36


42


185


295


296

3B区　SR2・３・４、IVC層・IVA層出土遺物 (土器)


308


309


310


312


314


315


317


323

3B区　IVA層・IIIE層・IIID層出土遺物 (土器)


324


325

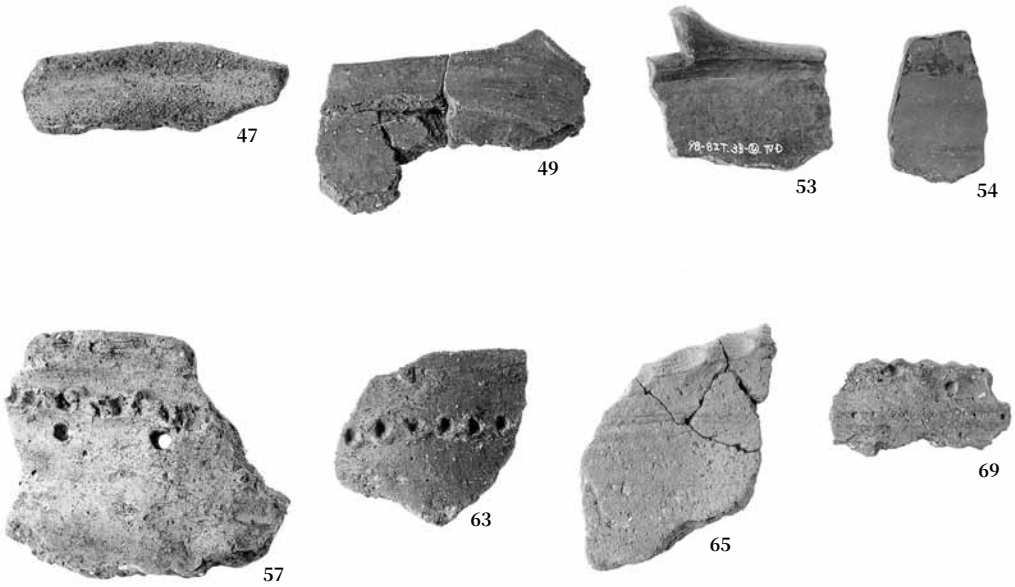

326


327

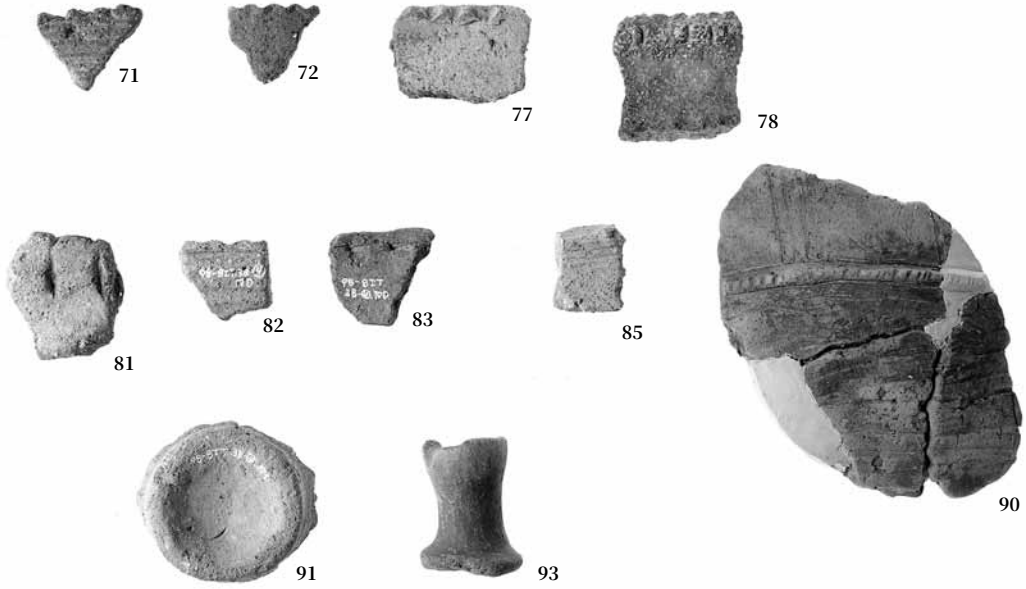

328


329

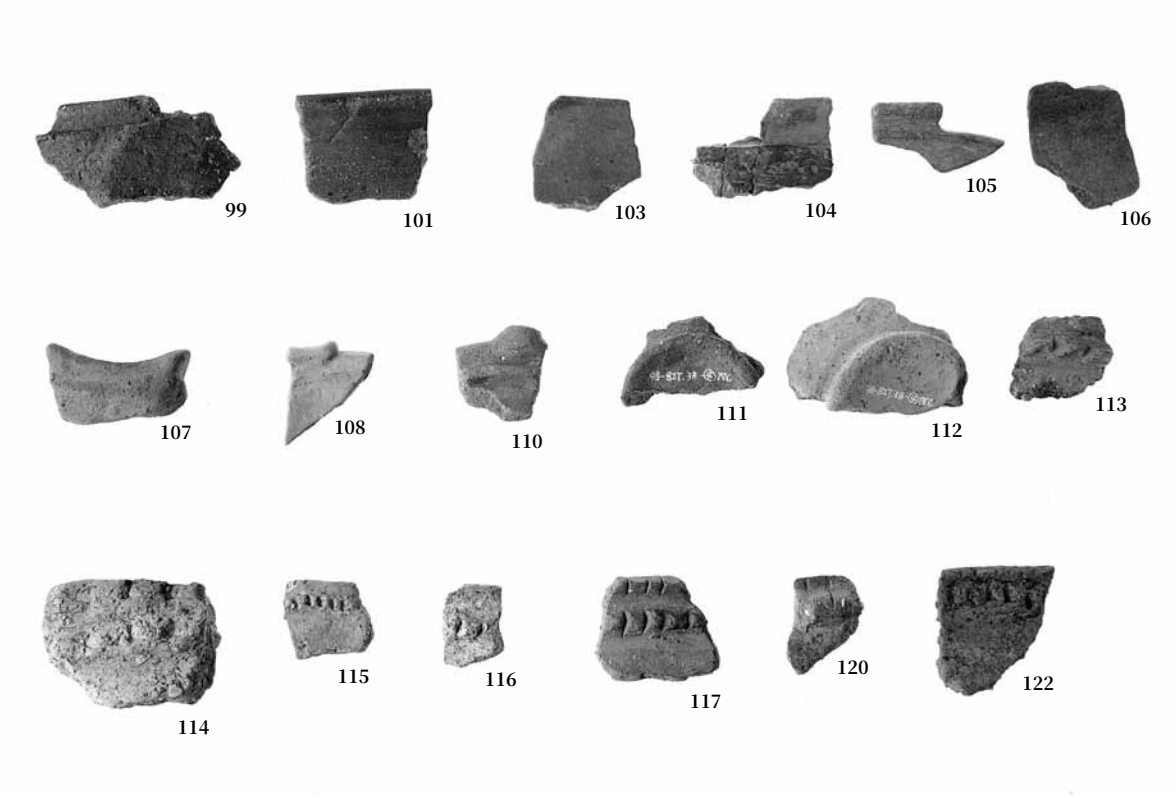
3B区　ⅢB層出土遺物（土器）



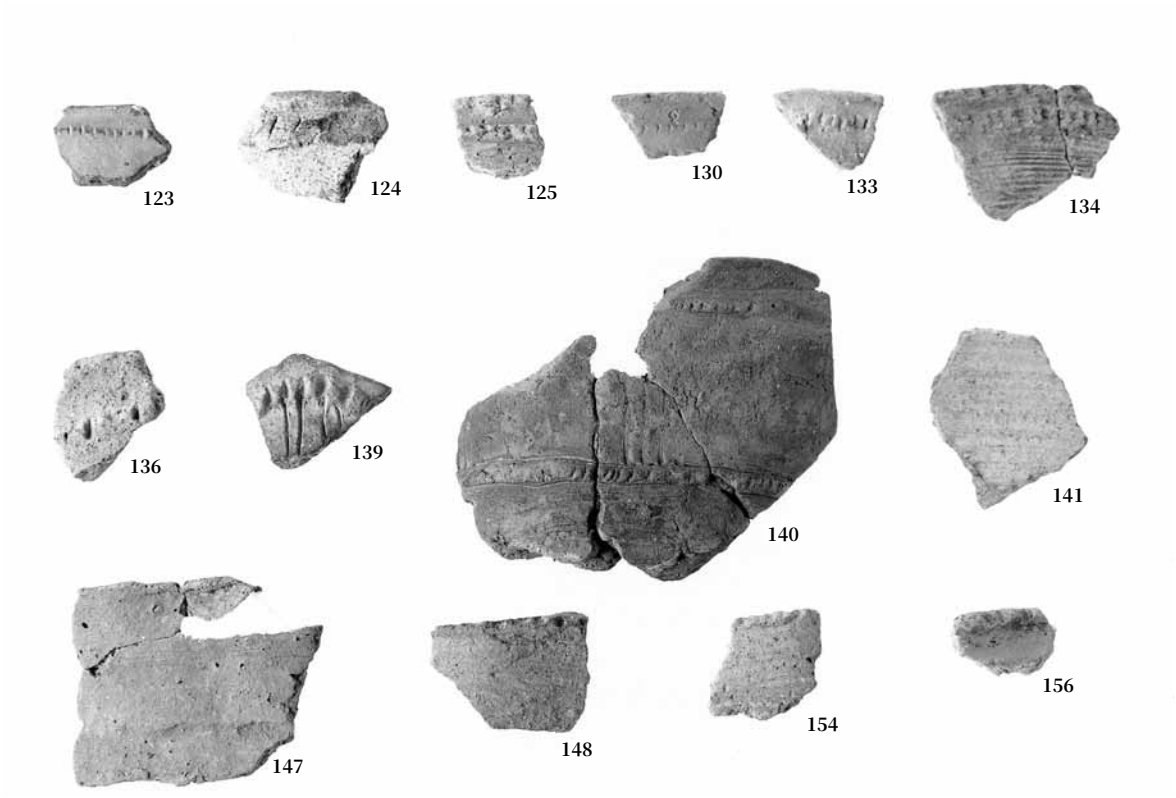
3B区　IVD層出土遺物 (土器)



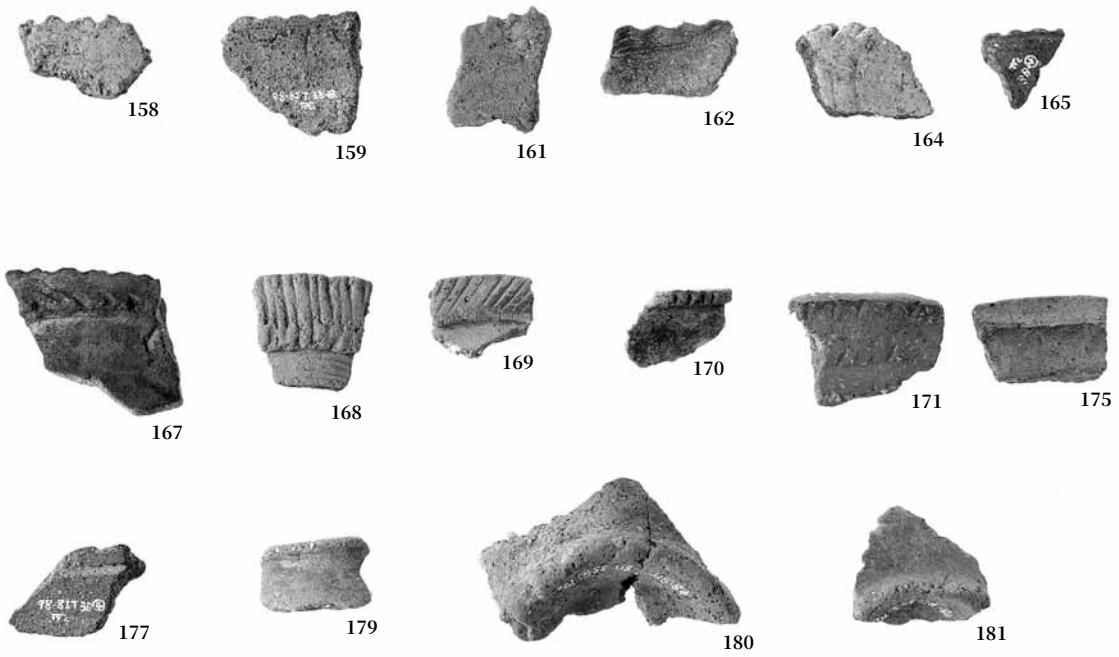
同　上



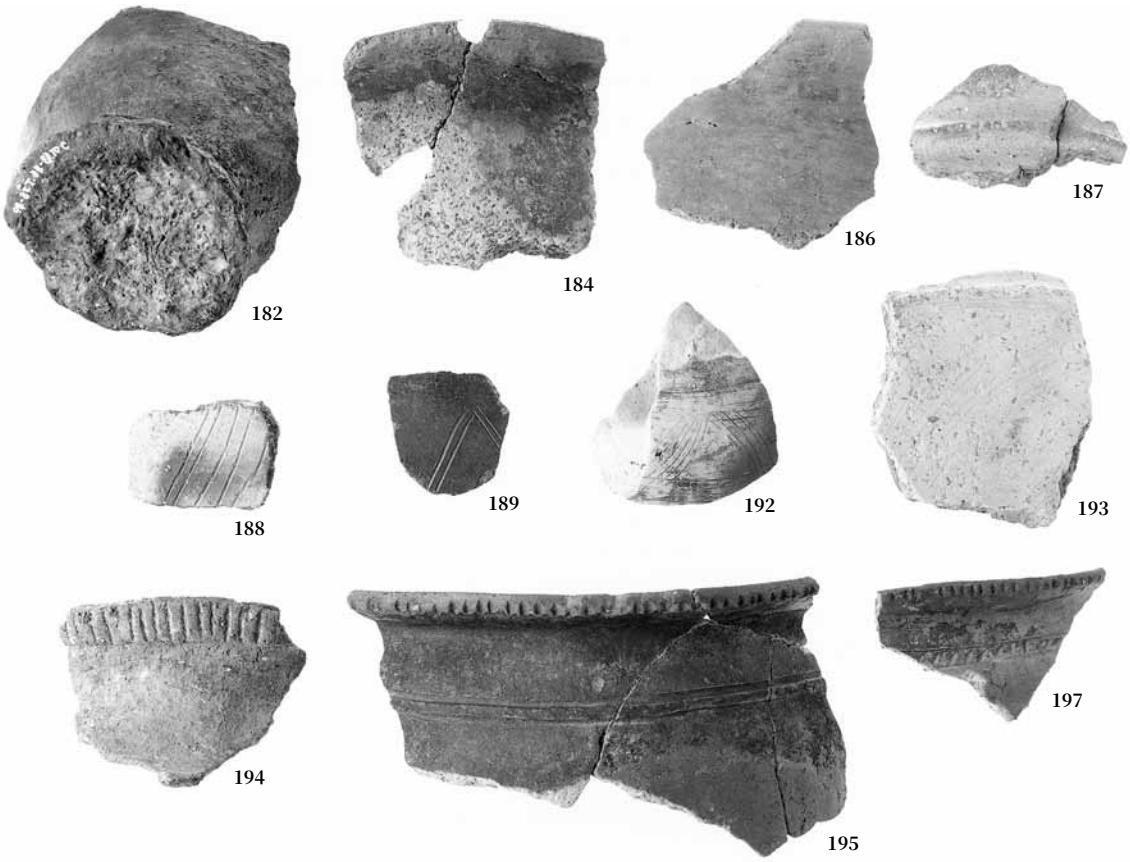
3B区　IVC層出土遺物 (土器)



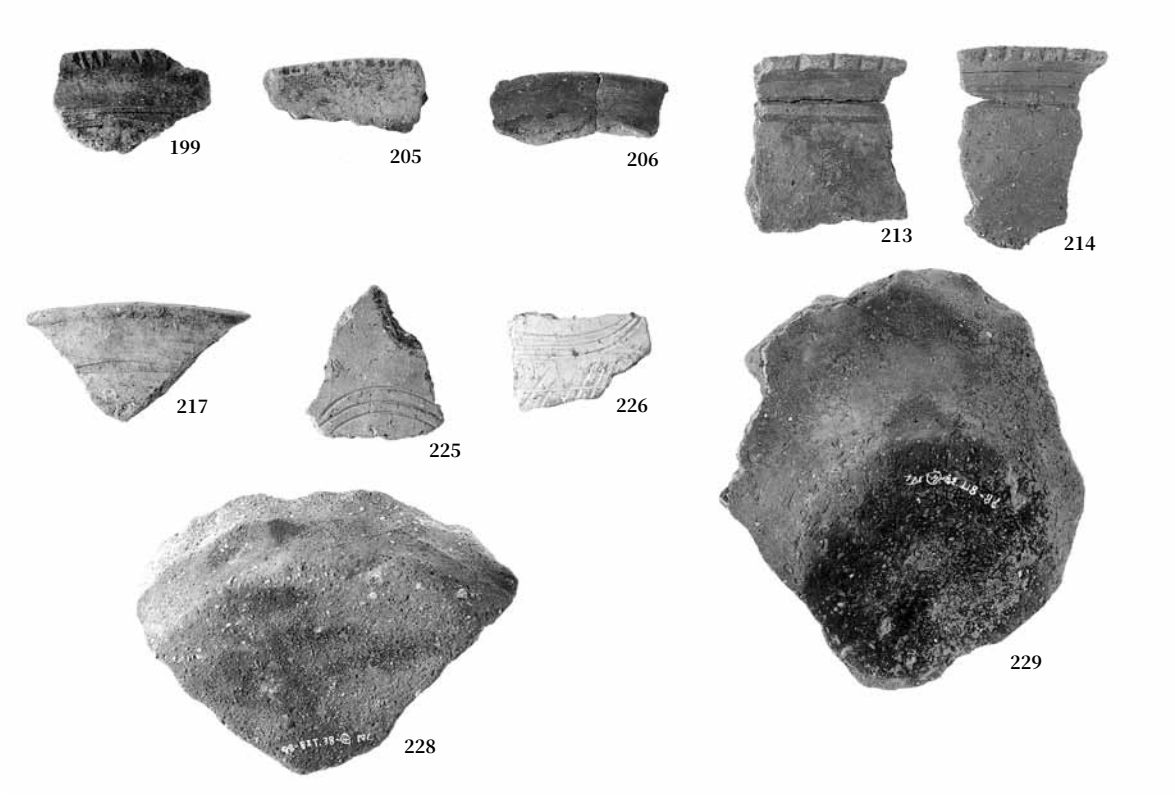
同　上



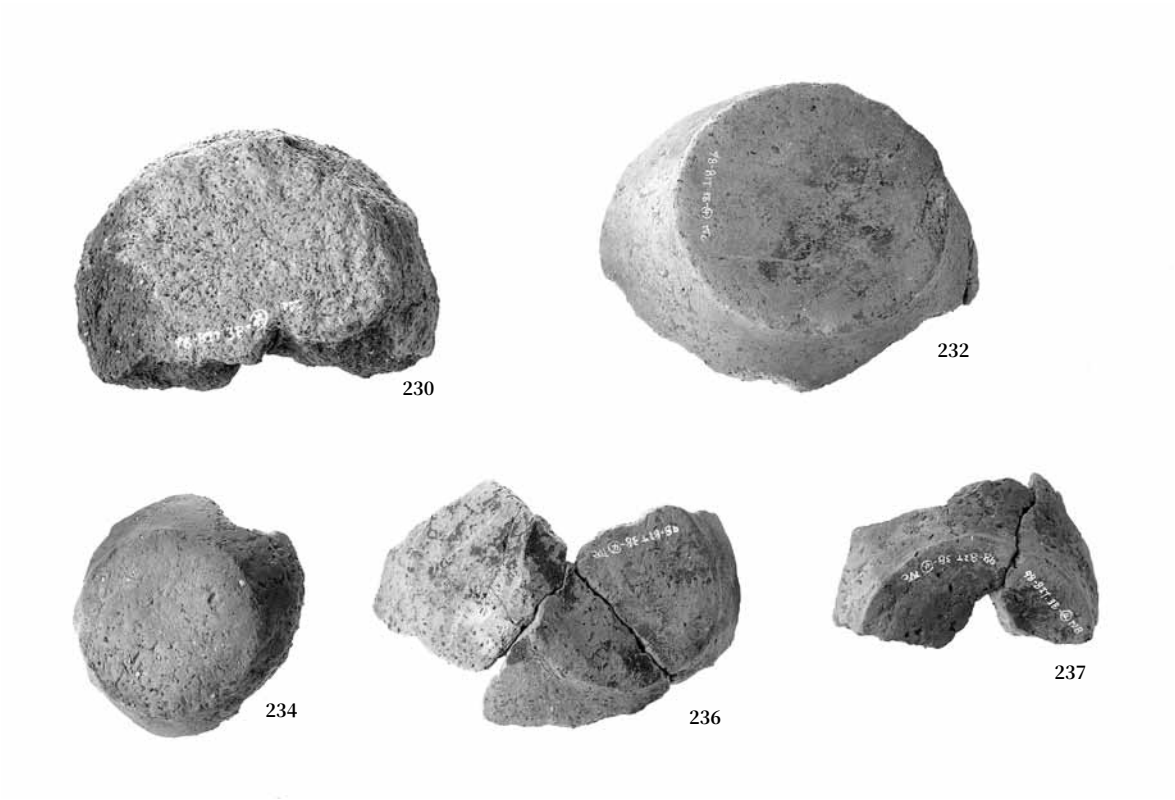
3B区　IVC 層出土遺物 (土器)



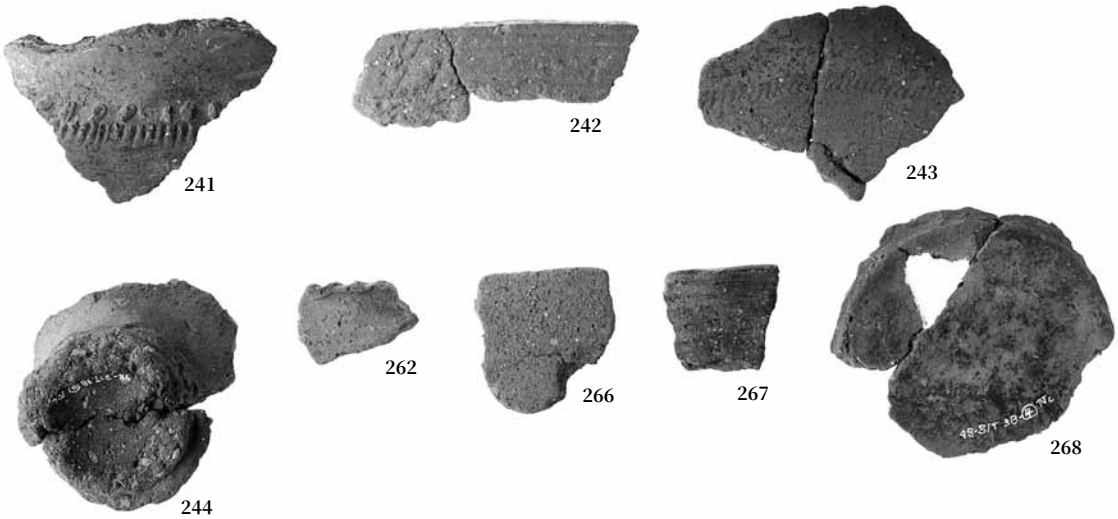
同　上



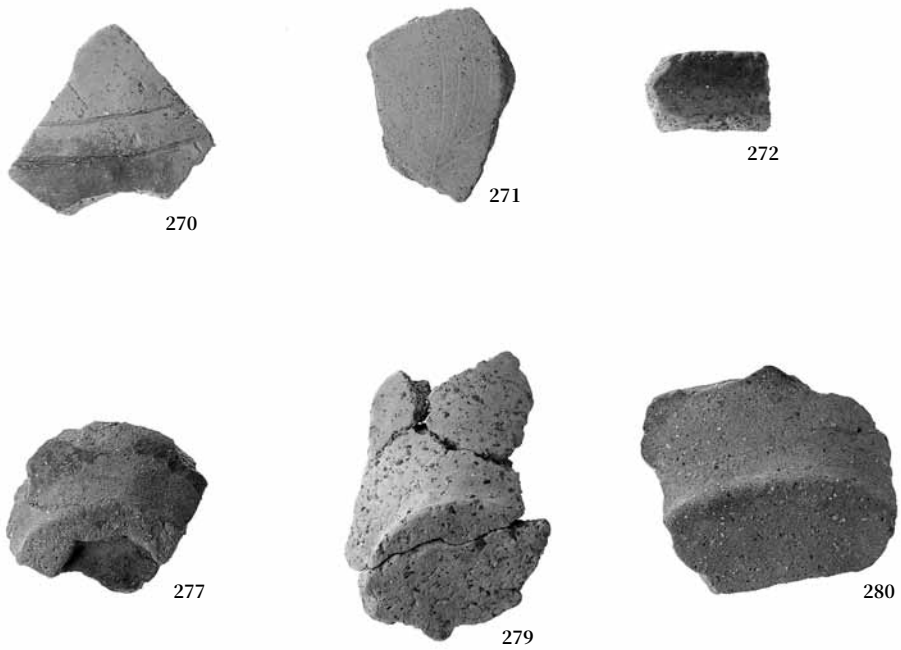
3B区　IVC層出土遺物 (土器)



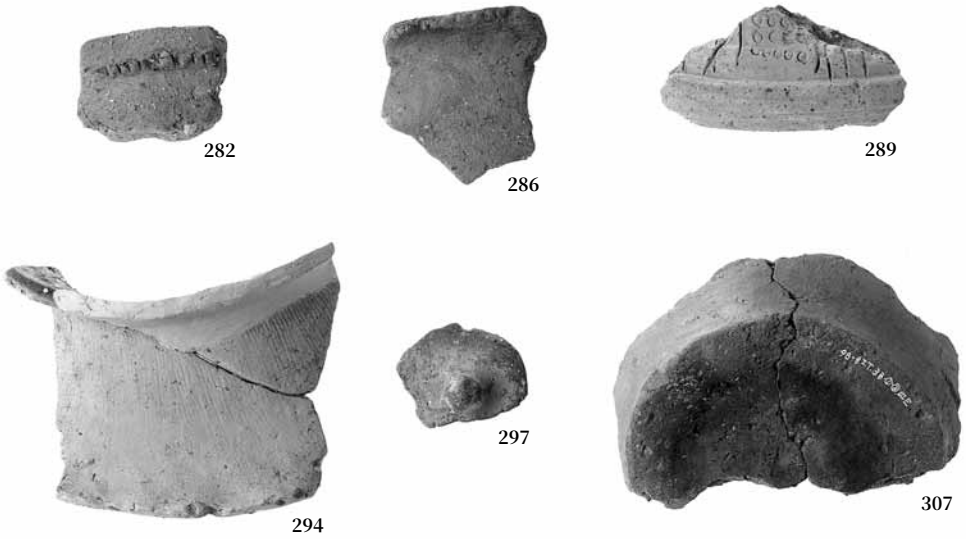
同　上



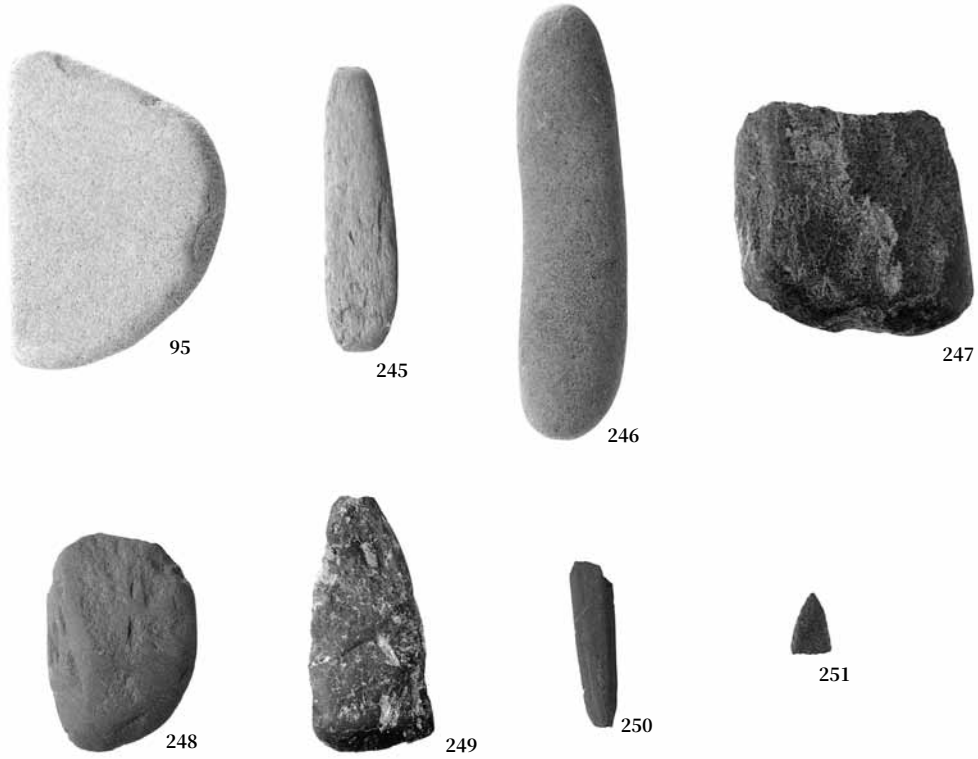
3B区　IVC層・IVB層出土遺物 (土器)



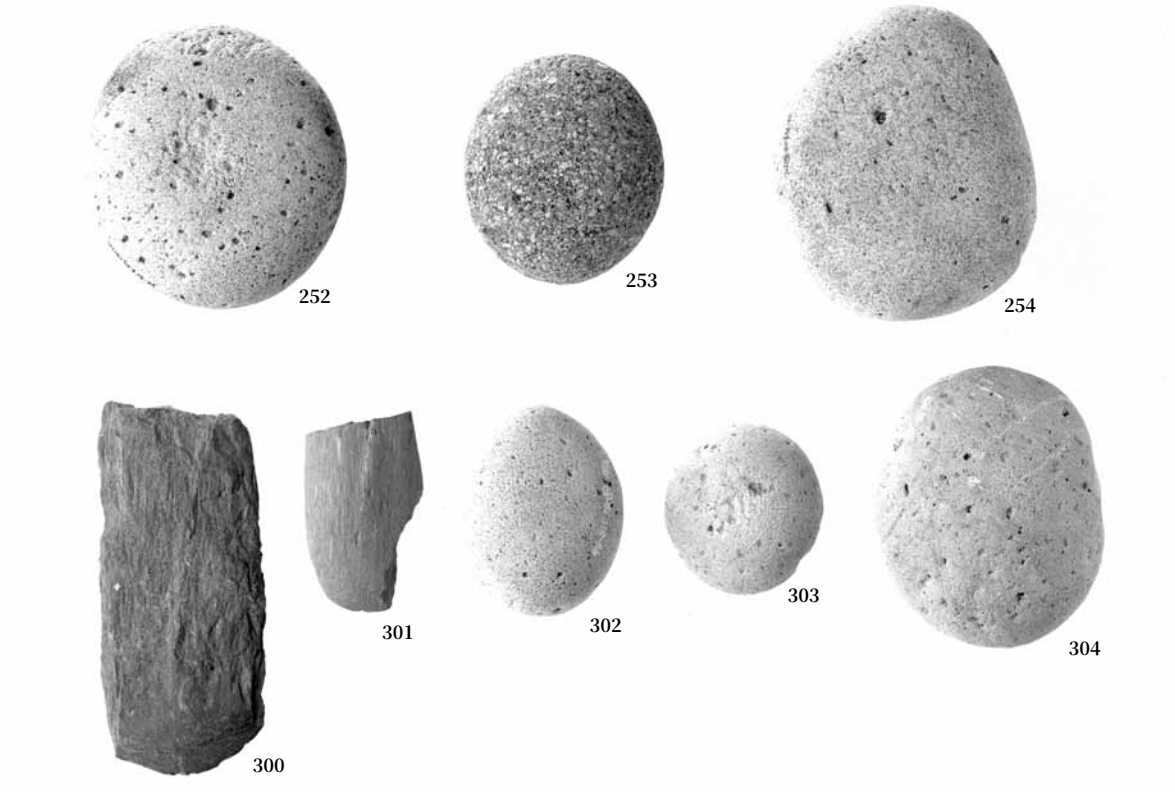
同　IVB層出土遺物 (土器)



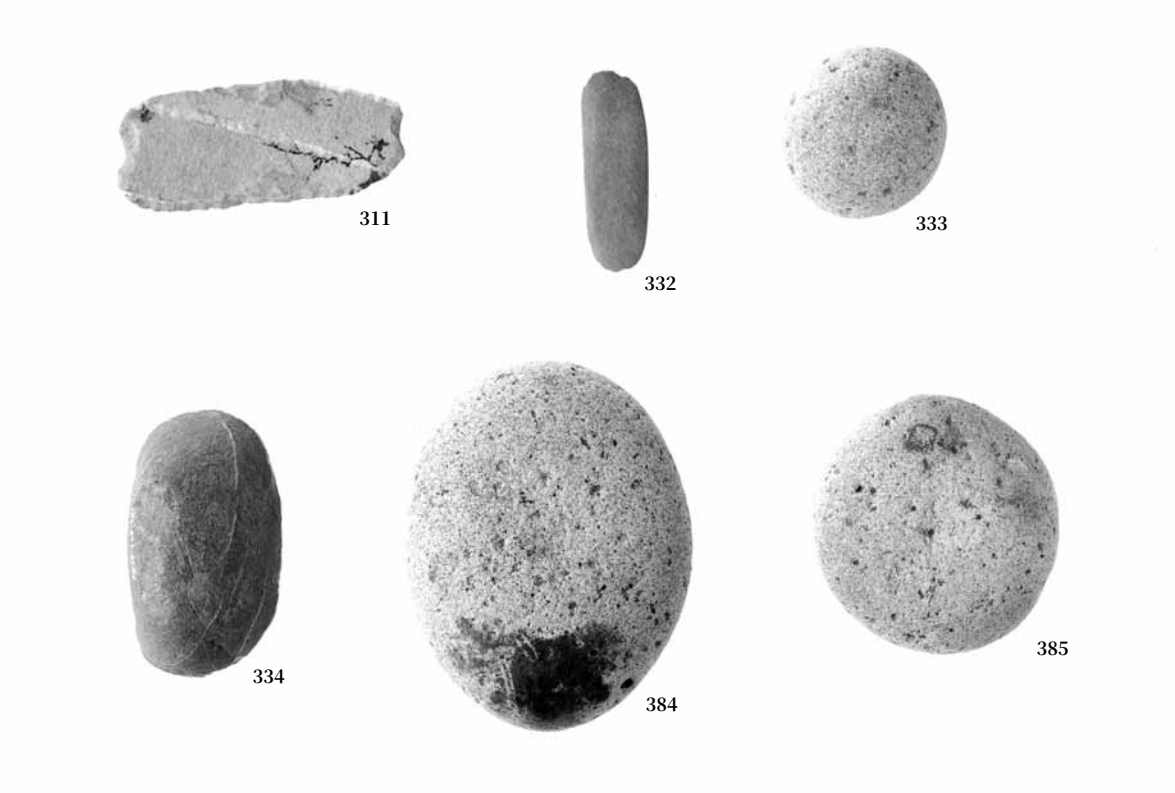
3B区　IVA層・IIIE層出土遺物 (土器)



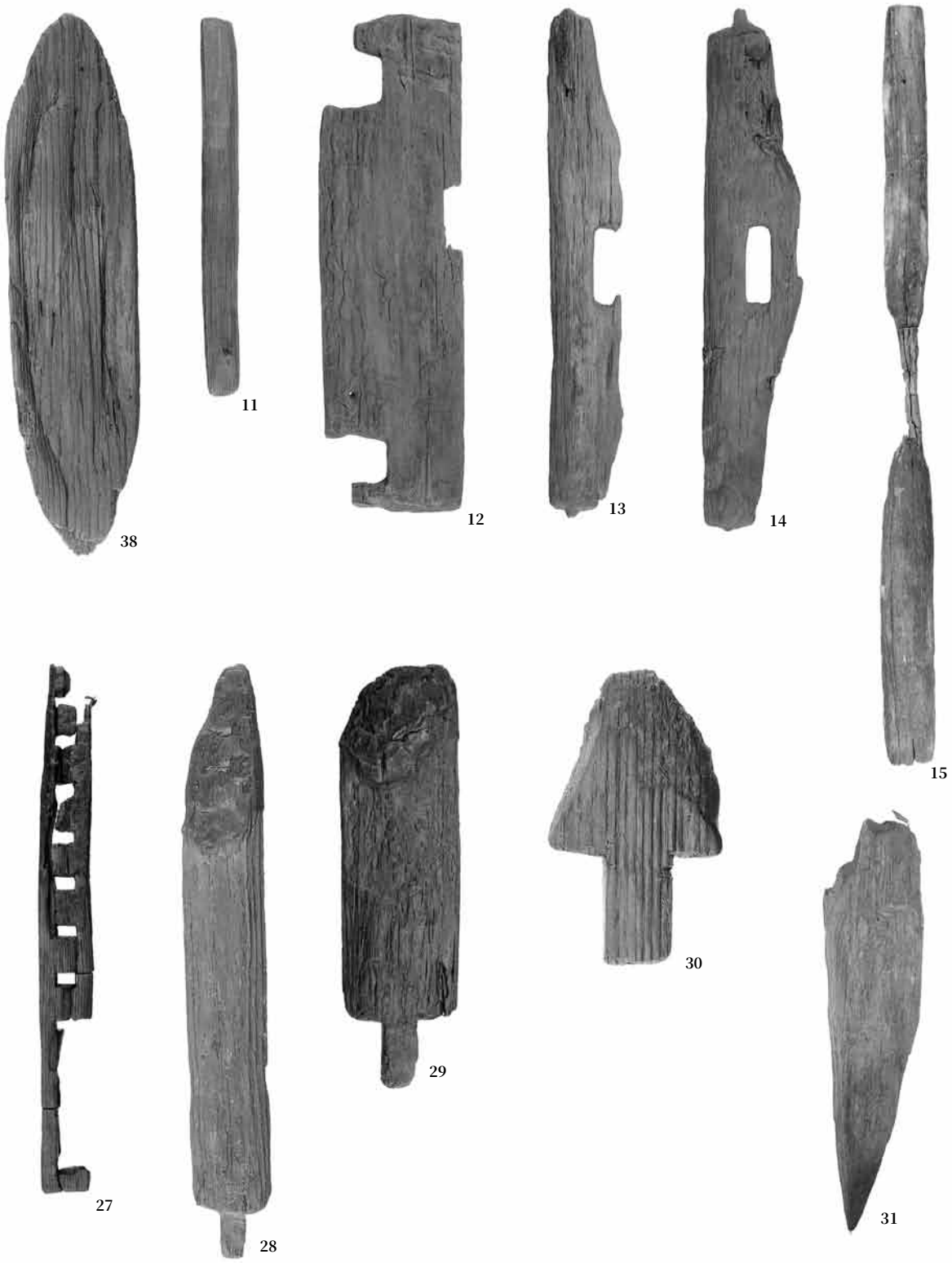
同　IVD層・IVC層出土遺物 (石器)



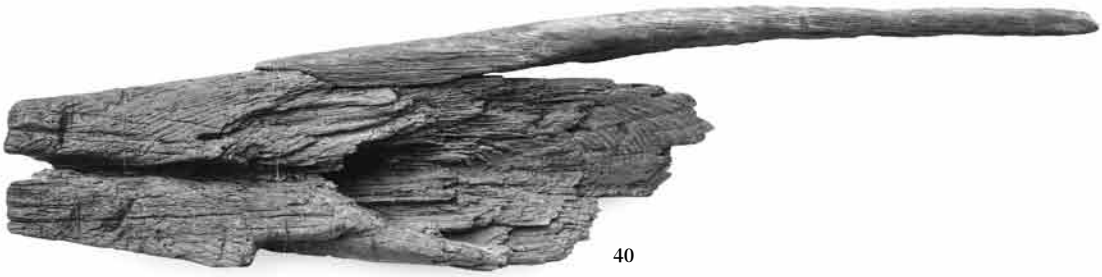
3B区　IVC層・IVA層出土遺物 (石器)



3B区　IIIE層・IIIB層・IIIA層出土遺物 (石器)



3B区　SR1・SR2出土遺物 (木製品)



40

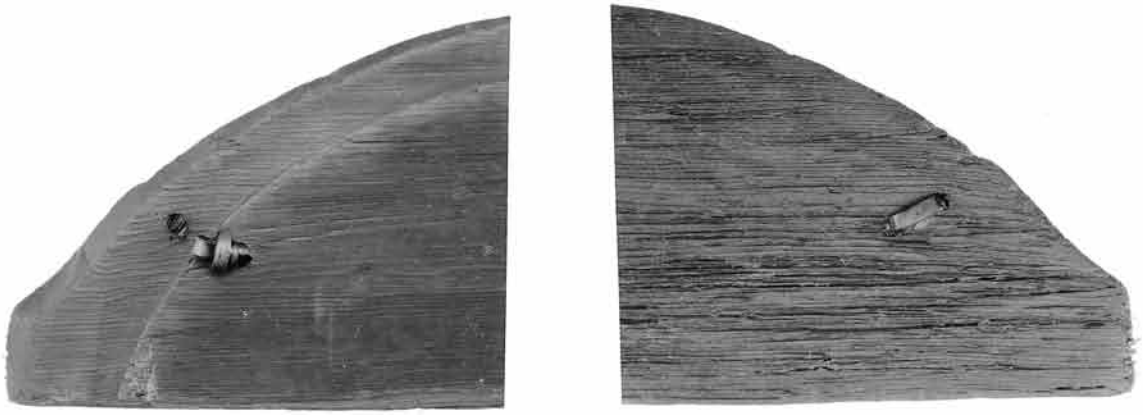
39

38

255

3B区　SR3・IVC層出土遺物 (木製品)

305



緊縛部拡大

306

318

319

320

3B区　IVA層・IIIB層出土遺物 (木製品)


335


336


337


338


339


340


341


342


343


344

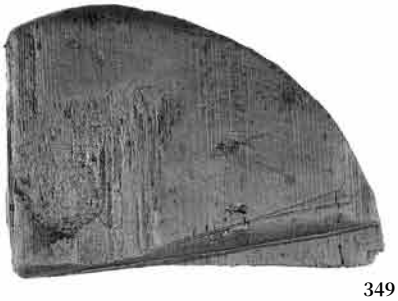

345


346


347

3B区　IIIB層出土遺物 (木製品)

348



349

350

351

352

3B区　IIIB層出土遺物 (木製品)


353


354


355


356


357


358


359


360

3B区　IIIB層出土遺物 (木製品)


361


362


363


364


365


366

3B区　IIIB層出土遺物 (木製品)


367


368


369


370


371


372


373


374

3B区　IIIB層出土遺物 (木製品)


375


376


377


378


379


380

3B区　IIIB層出土遺物 (木製品)

381

382

383

3B区　IIIB層出土遺物 (木製品)


386


387

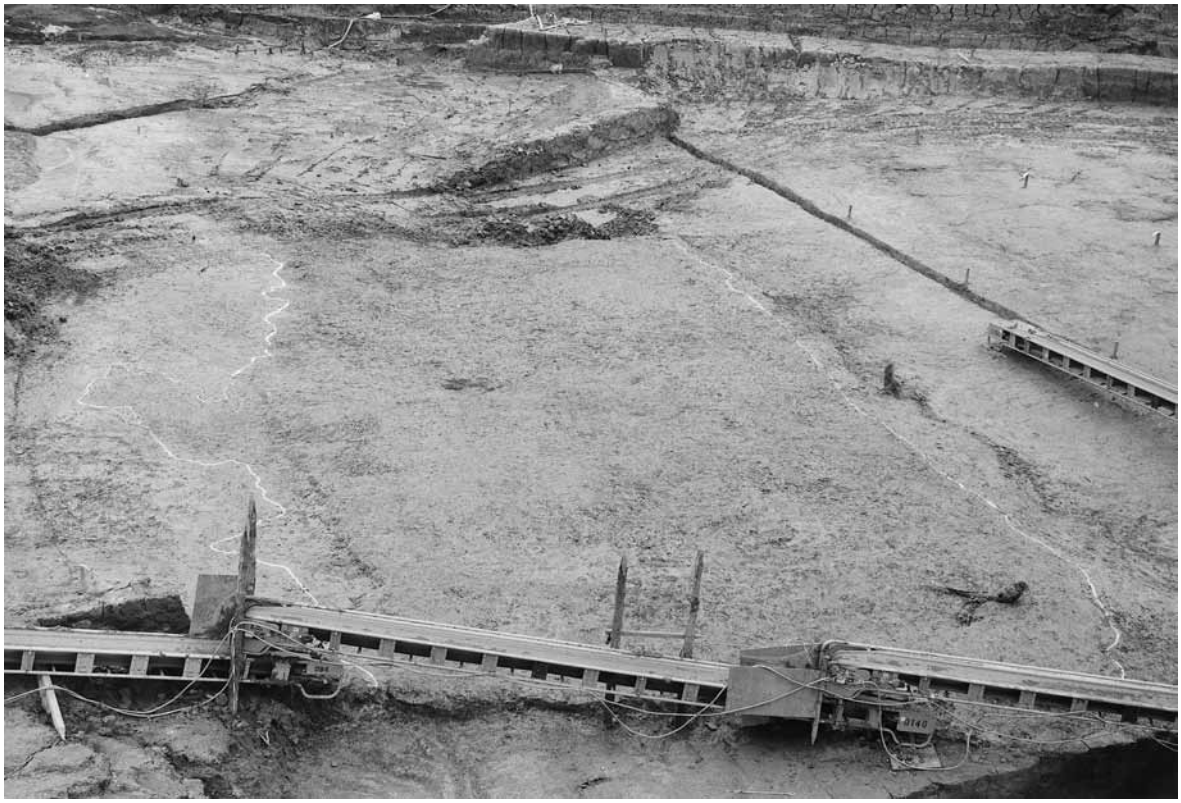

388


389


390


391

3B区　IIIA層出土遺物 (木製品)



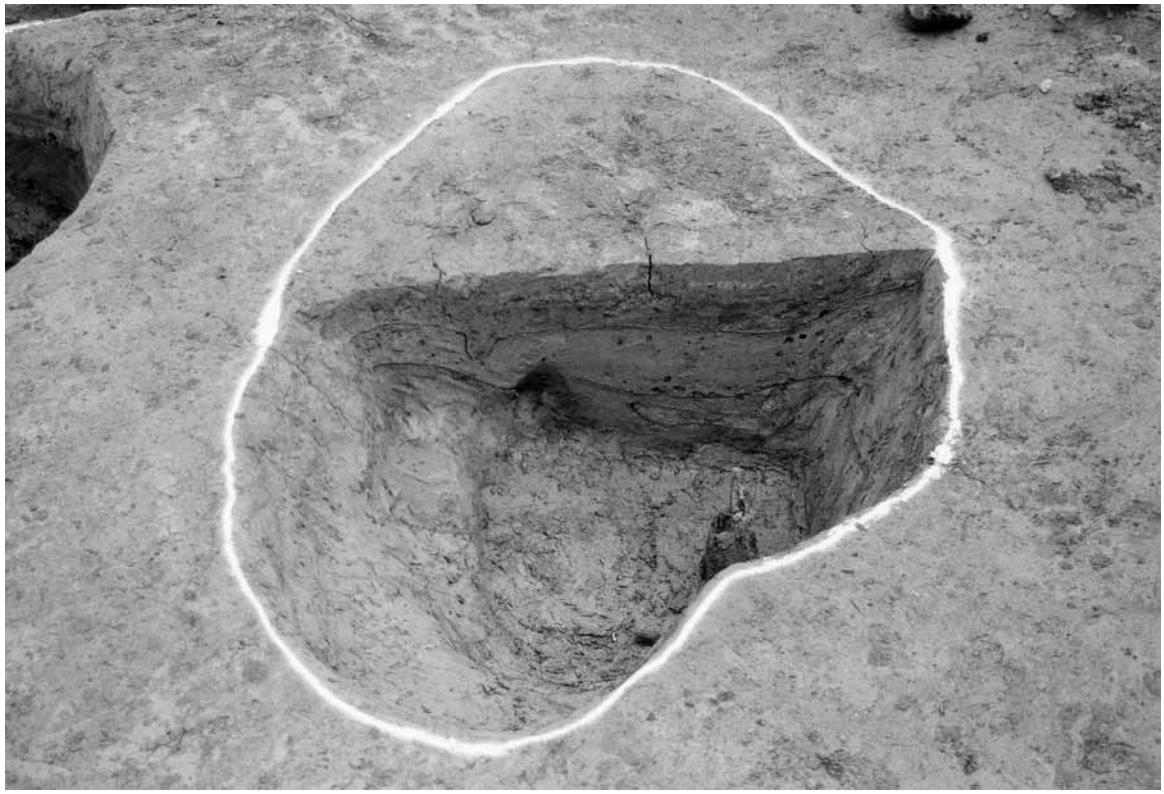
4C区　SR－1検出状態(東より)

4C区　SR－1完掘状態(東より)

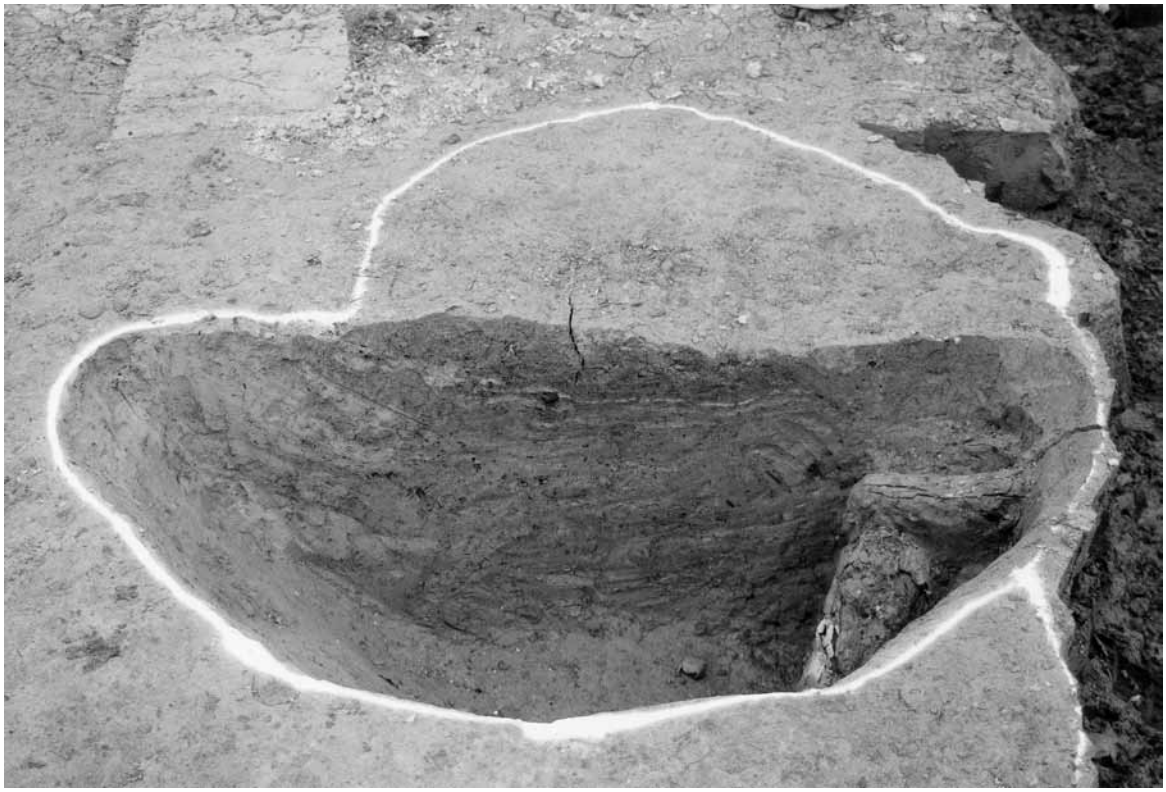
4C区　SR－2検出状態 (東より)

4C区　SR－2完掘状態 (東より)

4C区　東壁セクション (西より)



4C区　SK－1バンクセクション (南より)



4C区　SK－2バンクセクション (東より)

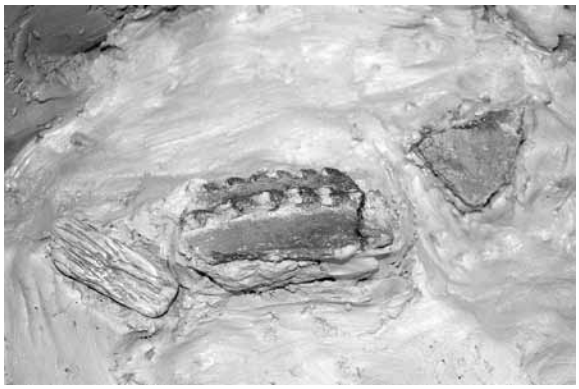
4C区　SR－1・2バンクセクション (東より)

4C区　自然木出土状態 (東より)

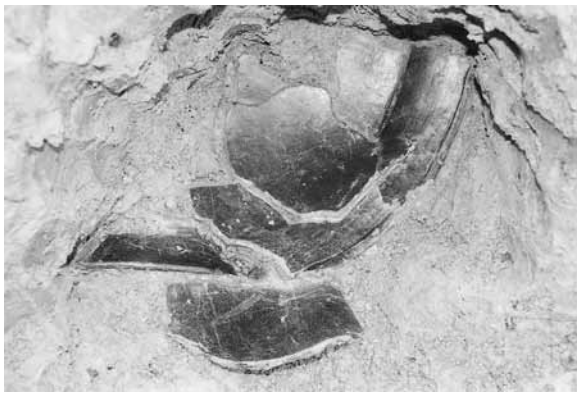
4C区　SR－1鍬 (337・338) 出土状態 (南より)

4C区　SR－1木胎漆器 (339) 出土状態1(北より)

4C区　SR－1木胎漆器 (339) 出土状態2(南より)



第IX層縄文後期土器 (32) 出土状態



SK－1縄文晩期土器 (75) 出土状態

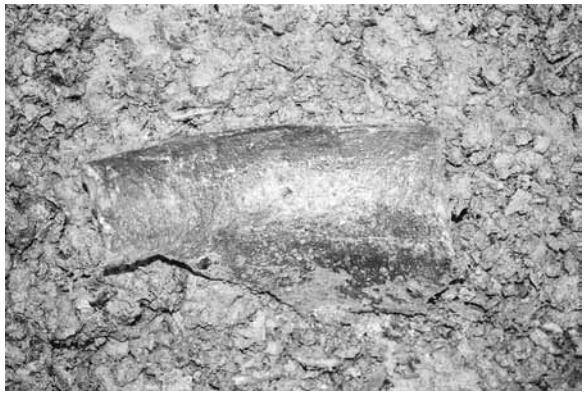
SR－1縄文後期土器 (84) 出土状態

SR－1縄文晩期土器 (126) 出土状態

SR－1縄文晩期土器 (132) 出土状態

SR－1叩石 (165) 出土状態

SR－1縄文晩期土器 (293) 出土状態



SR－1縄文晩期土器 (340) 出土状態

SR－1縄文晩期土器 (358) 出土状態

SR－1縄文晩期土器出土状態

SR－1縄文晩期土器出土状態

SR－1石製品出土状態

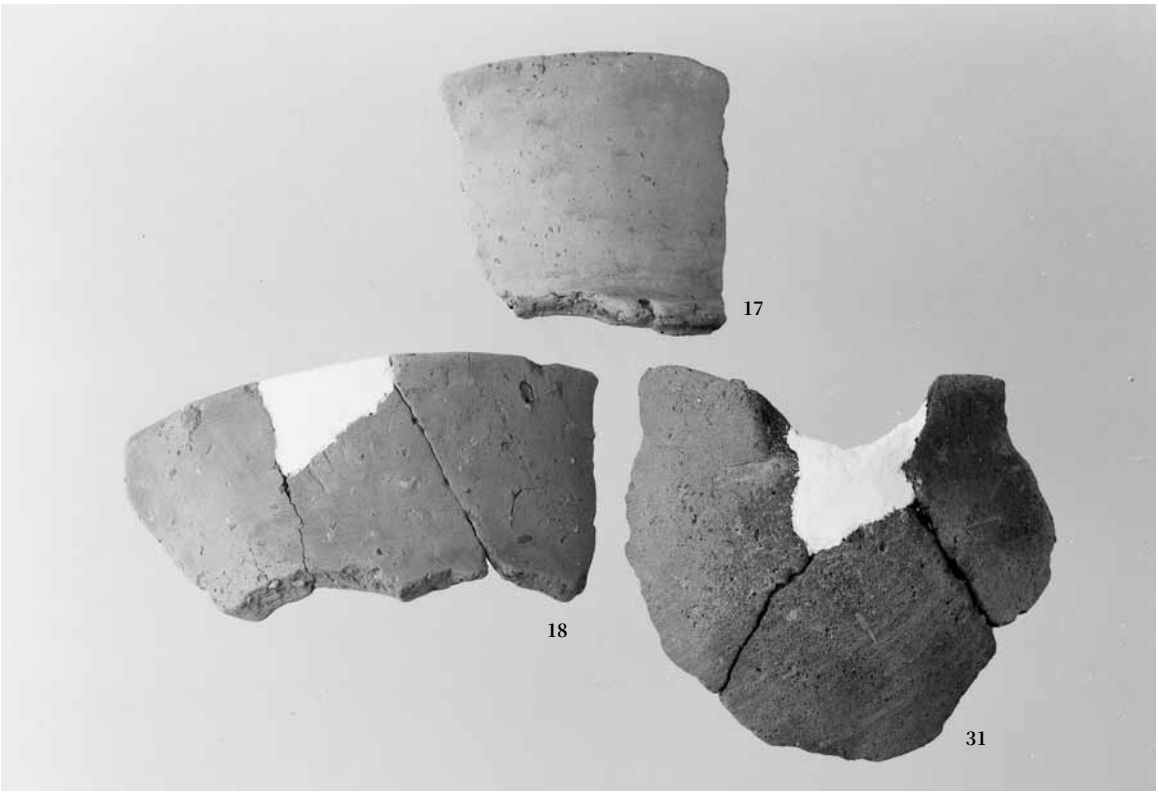
SR－1石製品出土状態

SR－2縄文晩期土器 (416) 出土状態

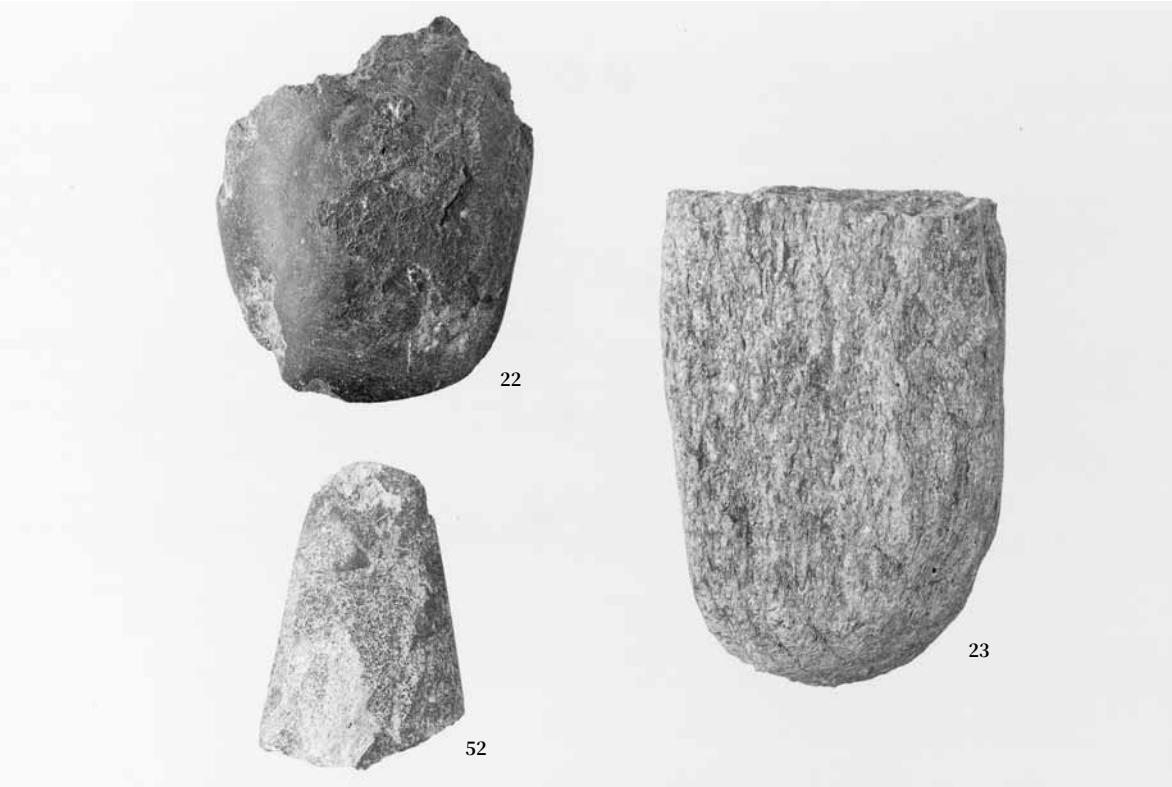
SR－2縄文晩期土器 (418) 出土状態

SR－2木製品 (430) 出土状態

縄文晩期土器 (深鉢)



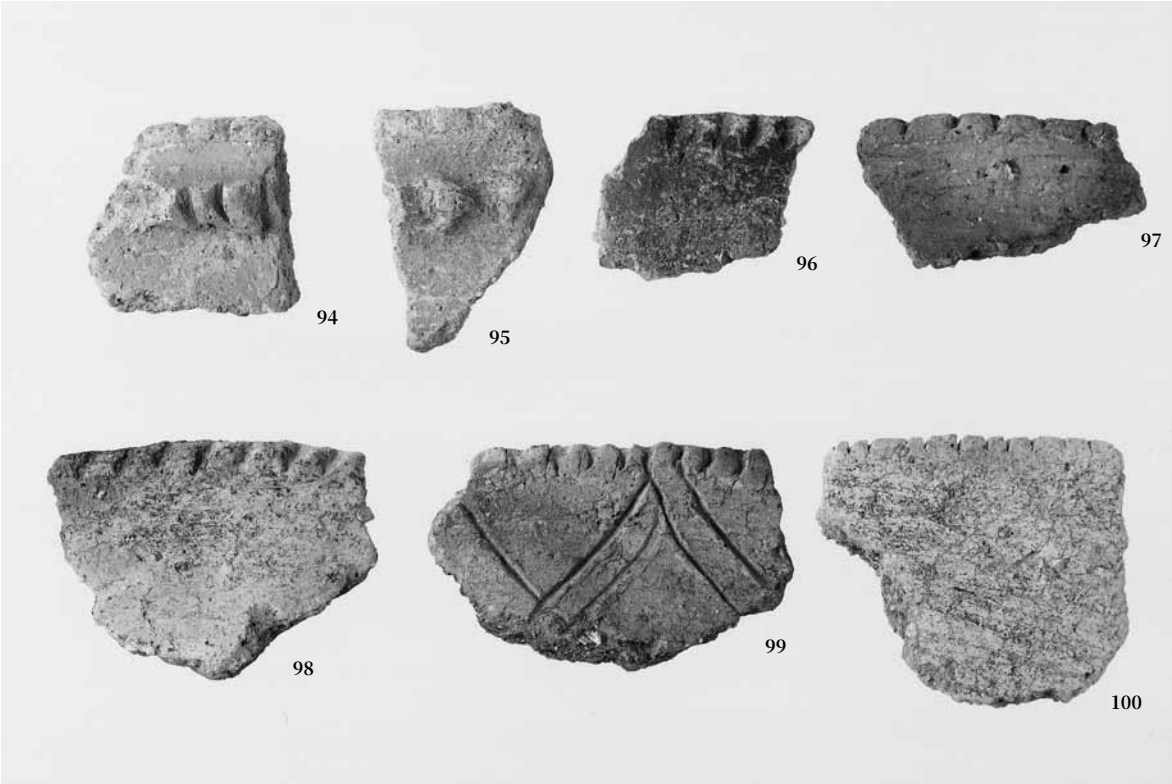
土師器 (壷・鉢)



石製品 (磨製石斧)

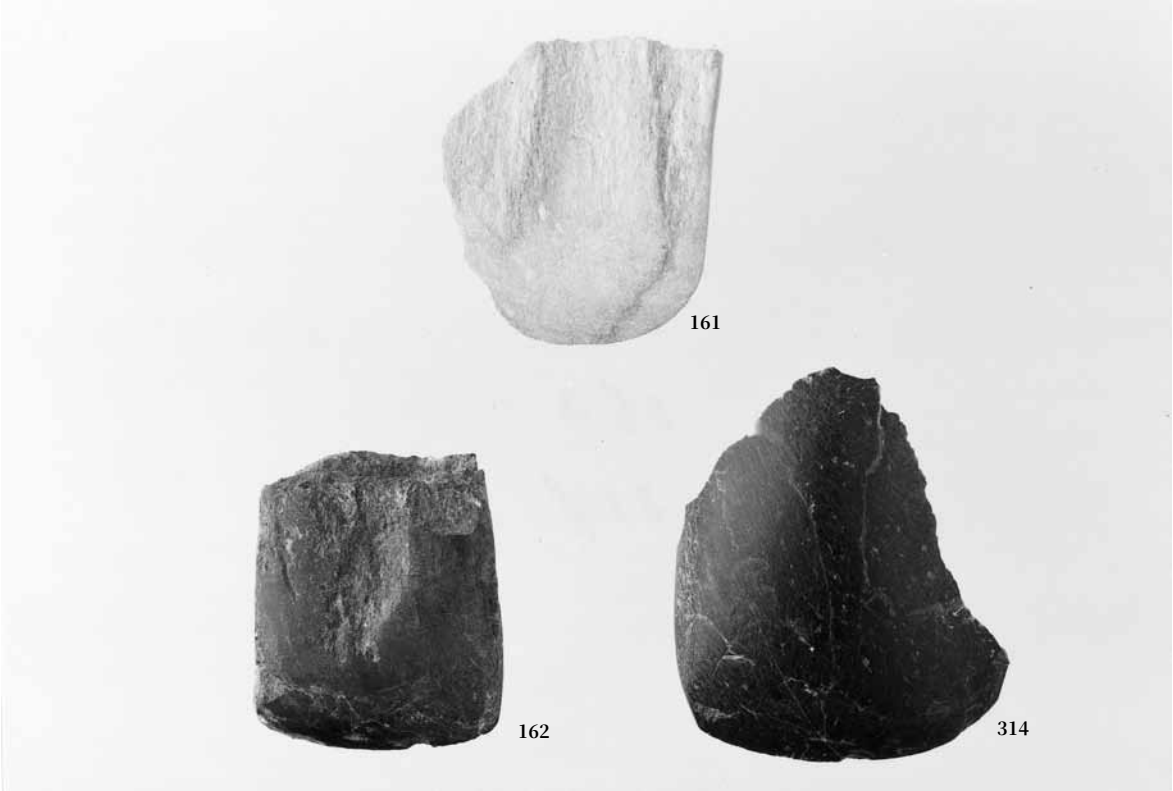
縄文晩期土器 (深鉢)

縄文晩期土器 (深鉢)



縄文晩期土器 (深鉢)

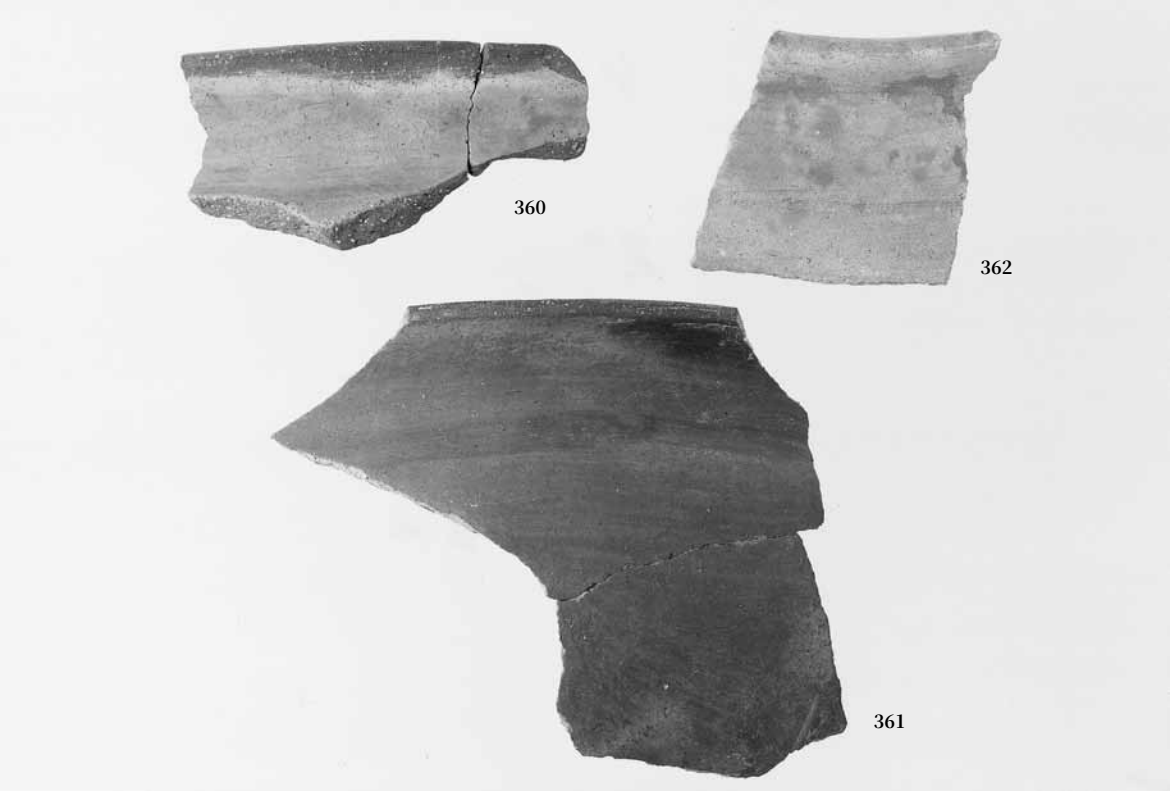
縄文晩期土器 (浅鉢)



石製品(磨製石斧)

縄文晩期土器 (浅鉢)

縄文晩期土器 (浅鉢)

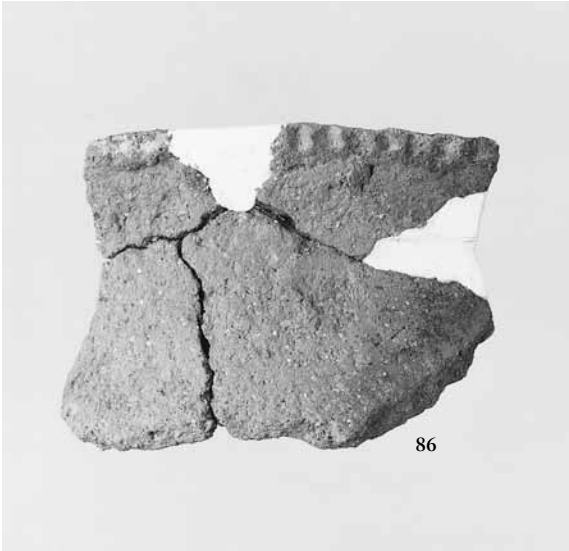


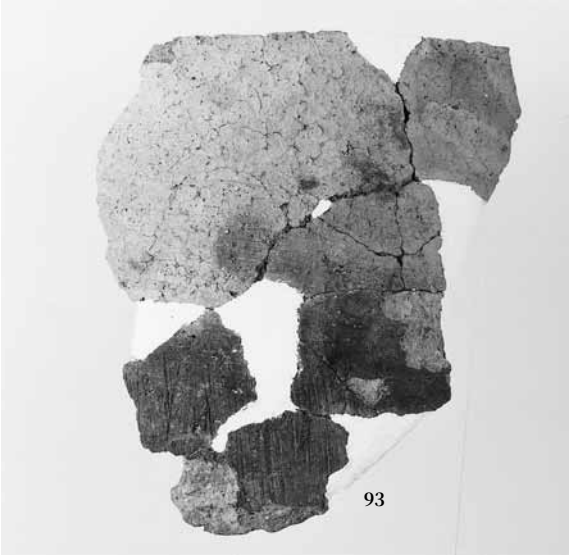
縄文晩期土器 (浅鉢)

縄文晩期土器 (浅鉢)

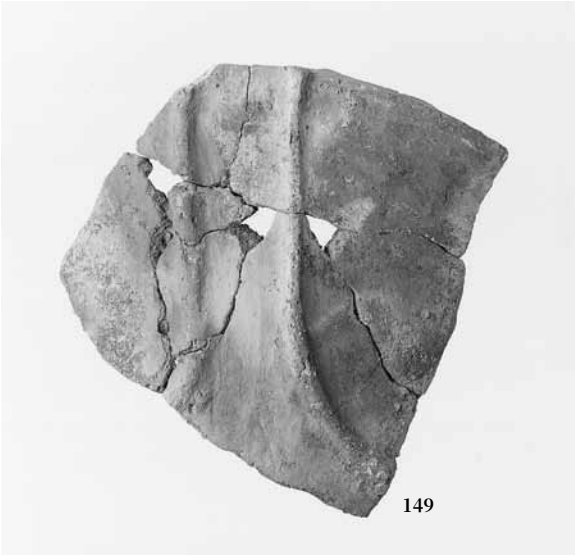
縄文後期土器 (深鉢)， 縄文晩期土器 (深鉢)
弥生土器 (壷)， 石製品 (叩石・台石)

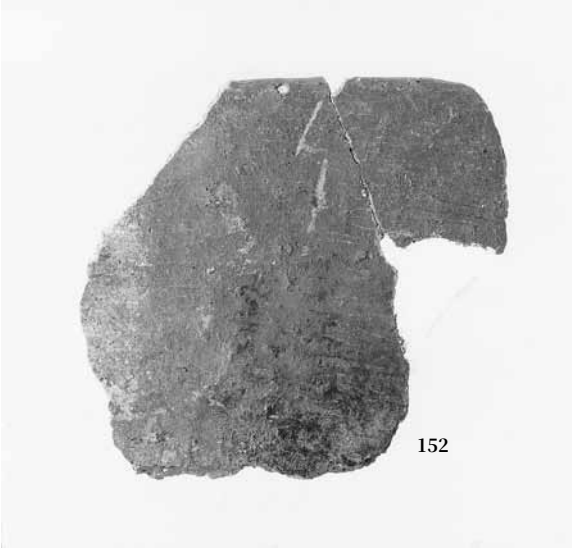
縄文後期土器 (深鉢), 石製品 (磨製石斧・叩石)





縄文後期土器 (深鉢), 縄文晩期土器 (深鉢)





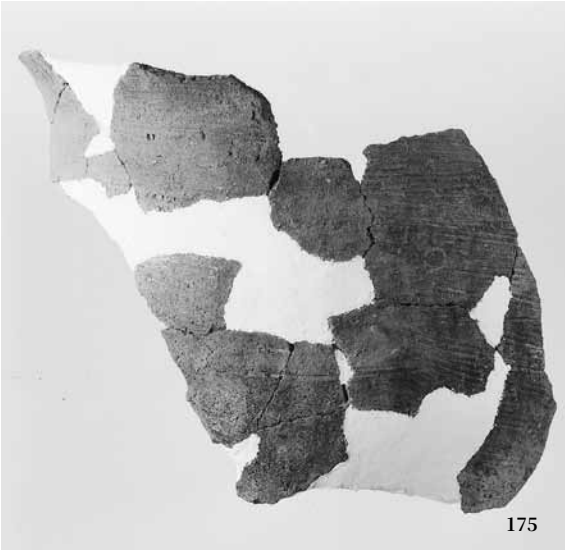
縄文晩期土器 (深鉢・浅鉢)


163


168


170


171


175

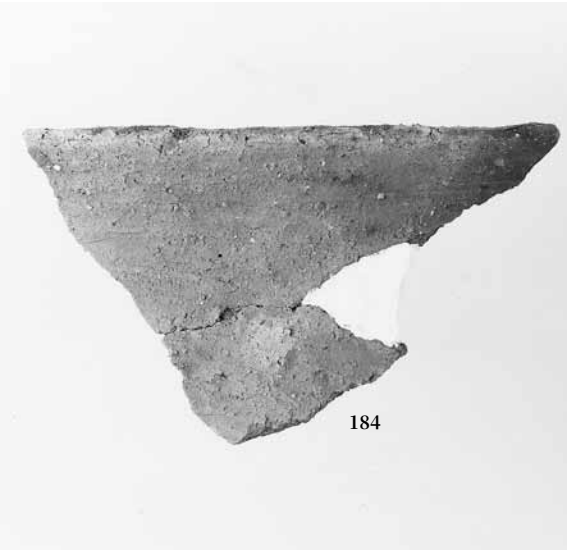

176

縄文後期土器 (浅鉢), 縄文晩期土器 (深鉢)
石製品 (磨製石斧)

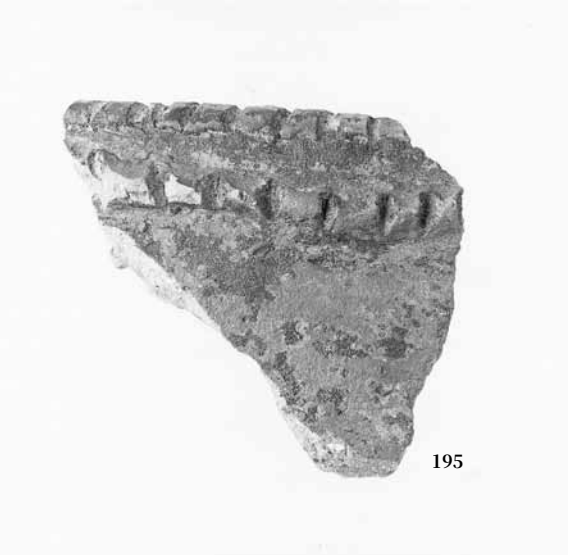

178


181

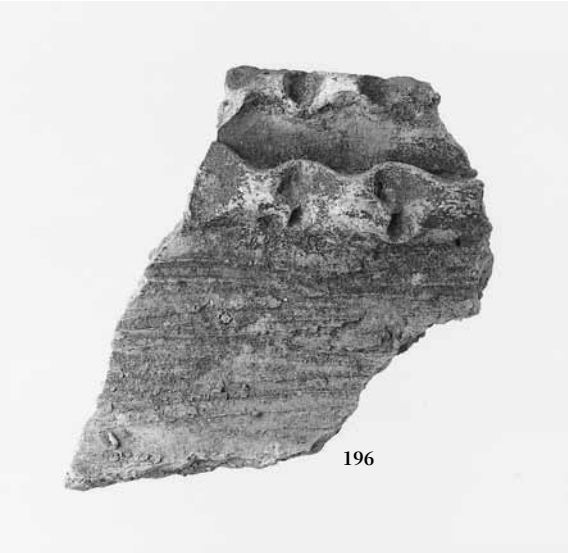

183


184


194


195

縄文晩期土器 (深鉢)


196


212

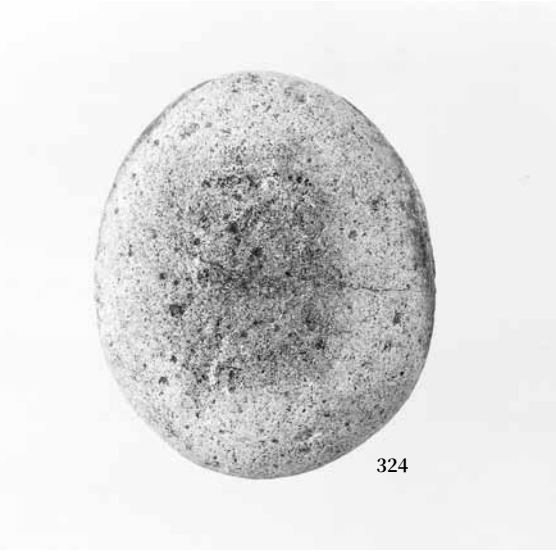

235


236


237

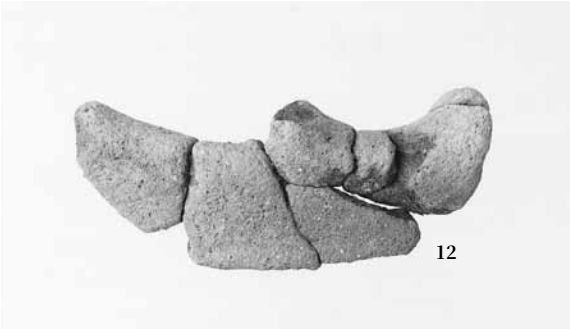

241

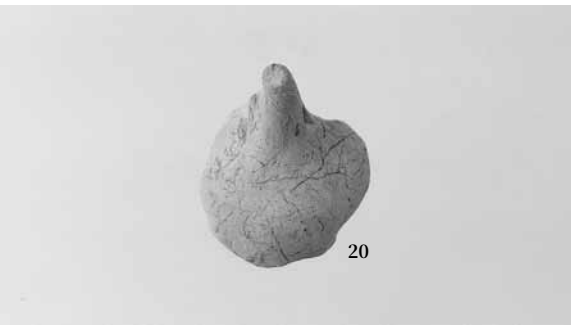
縄文晩期土器 (深鉢)

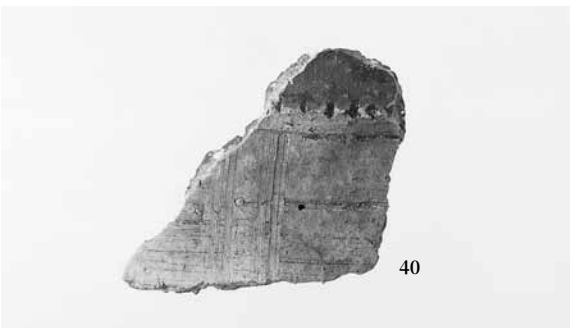


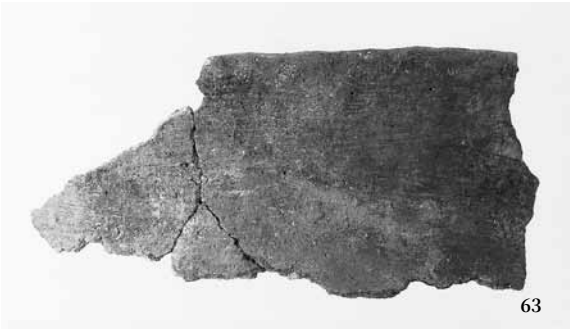
縄文晩期土器 (深鉢・鉢)，石製品 (磨製石斧・叩石)

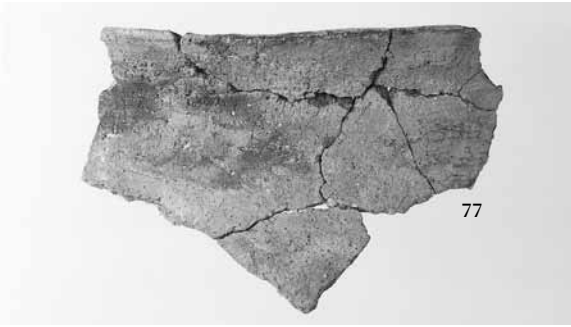
縄文晩期土器 (深鉢・浅鉢)，石製品 (台石)

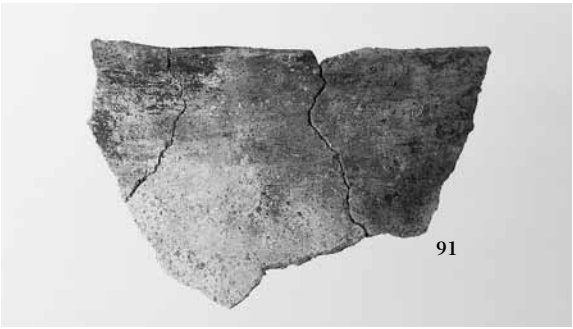




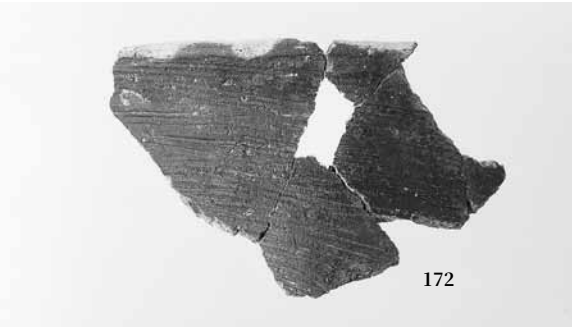


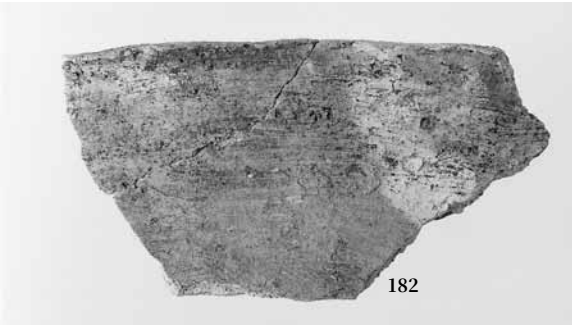


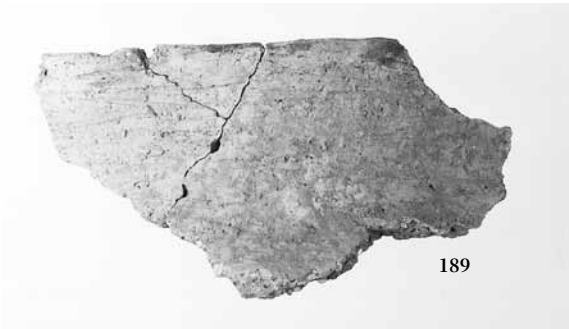


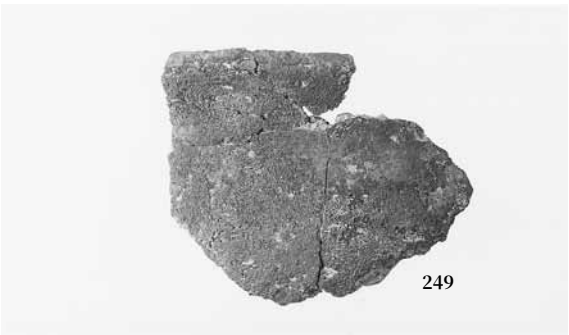


縄文後期土器 (浅鉢)，縄文晩期土器 (深鉢・浅鉢・鉢)，土製品 (土鈴)









縄文晩期土器 (深鉢)


255


265


268


270


274


302

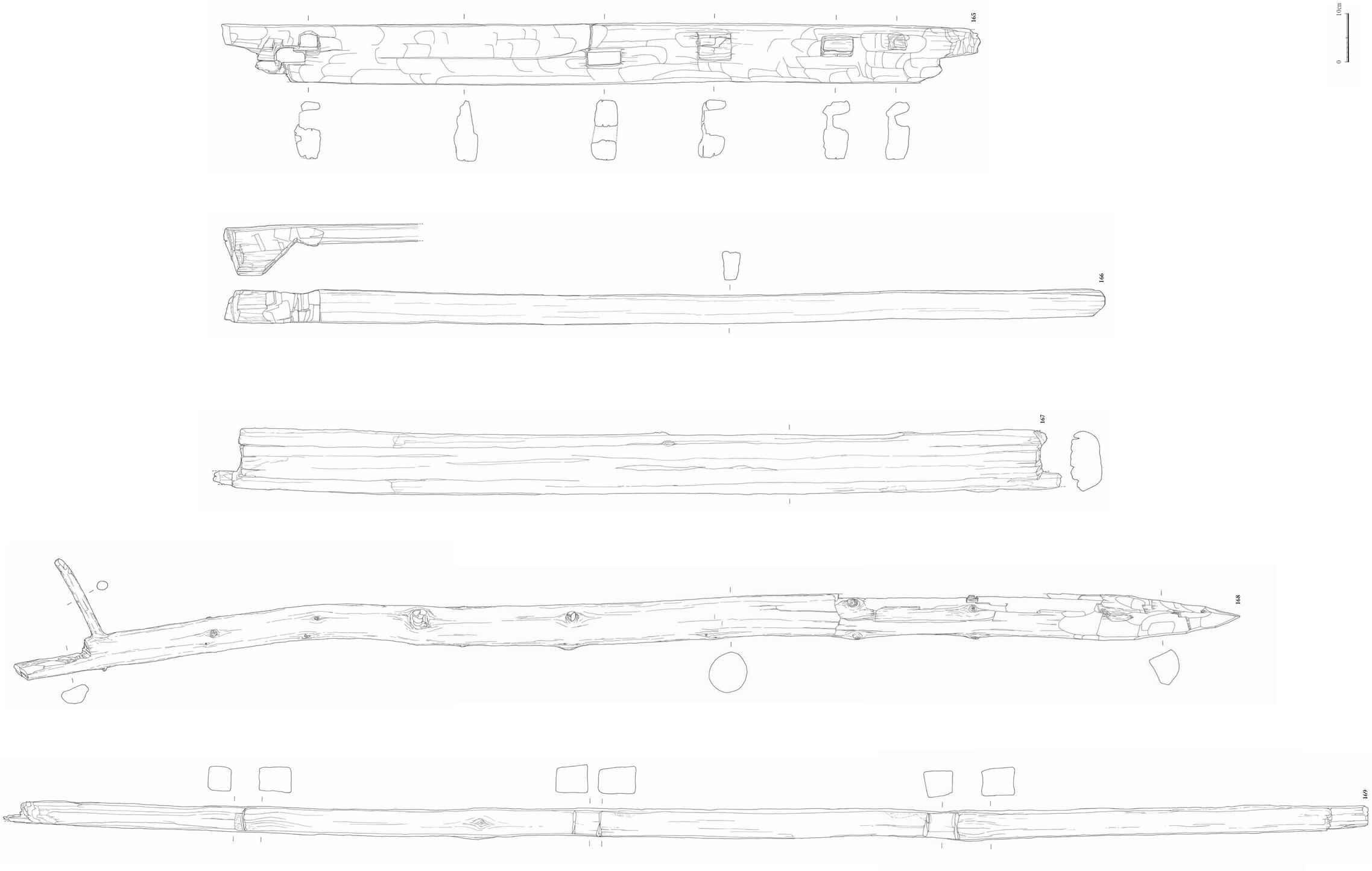

340


358


373


411

縄文晩期土器 (深鉢・浅鉢)



付図 2A区出土遺物27 (S:1/4)

報告書抄録

ふりがな	いとくいせきぐん
書名	居徳遺跡群Ⅳ
副書名	四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第78集
編著者名	佐竹寛・藤方正治・下村裕・曽我貴行
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター
所在地	〒783－0006　高知県南国市篠原1437－1　　TEL088－864－0671
発行年月日	2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いとくいせきぐん 居徳遺跡群	こうちけん 高知県 とさし 土佐市 たかおかちょうおつ 高岡町乙 いとく 居徳ほか	39205	050087	33度 30分 22秒	133度 24分 59秒	19971114 ～ 19990331	9,810	四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1E区	旧河道	縄文時代晩期 ～ 弥生時代前期 古墳時代	自然流路 ピット	縄文土器・弥生土器 土師器	
2A区	集落	縄文時代晩期 弥生時代 古墳時代 古代，中世	水路跡	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器 石器・石製品 木製品	
3B区	自然流路群	縄文時代晩期 弥生時代前期 古墳時代	自然流路	縄文土器・弥生土器 石器・土師器 須恵器・木製品	
4C区	旧河道	縄文時代晩期	自然流路	縄文土器 木製品（木胎漆器） 木製品（鍬）	縄文時代晩期の自然流路から木胎漆器、鍬が出土

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第78集

居 徳 遺 跡 群 Ⅳ

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003年3月31日

発行　高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437－1
Tel. 088-864-0671

印刷　弘文印刷株式会社